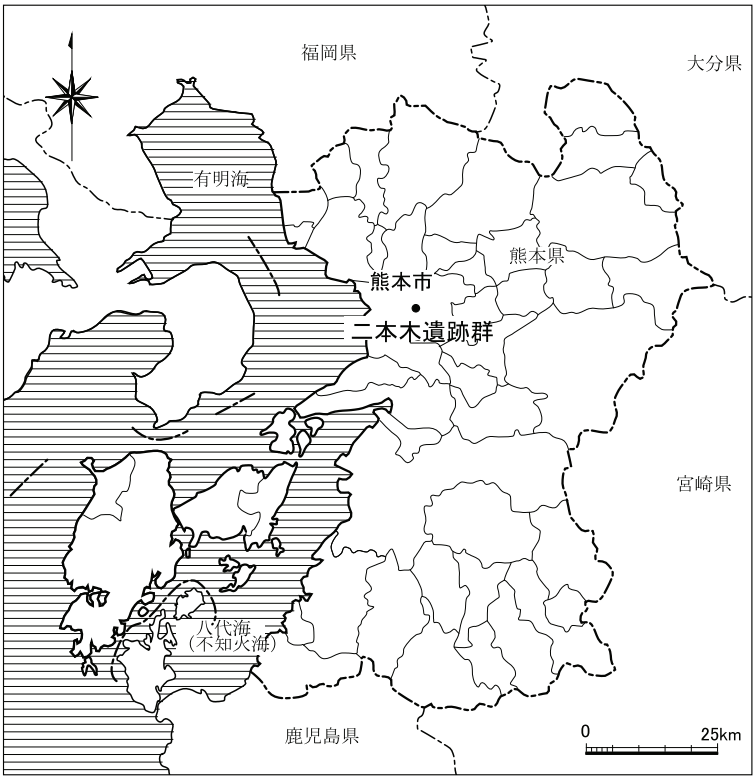
熊本県文化財調査報告第274集

二本木遺跡群 6

（春日地区第9・10次調査）



2012.3

熊本県教育委員会

空撮１　熊本市街地上空（北東）より二本木遺跡群を望む

〔平成20年７月24日撮影〕

空撮 2　白川上空（南東）より調査区を望む

〔平成20年 7 月24日撮影〕

空撮 3　遺跡上空より調査区全景（デジタルモザイク）上方北

（ベース写真は平成20年 7 月24日撮影）

空撮 4　昭和22年〔1947〕11月 1 日　極東米軍撮影空中写真　S＝1/15,960

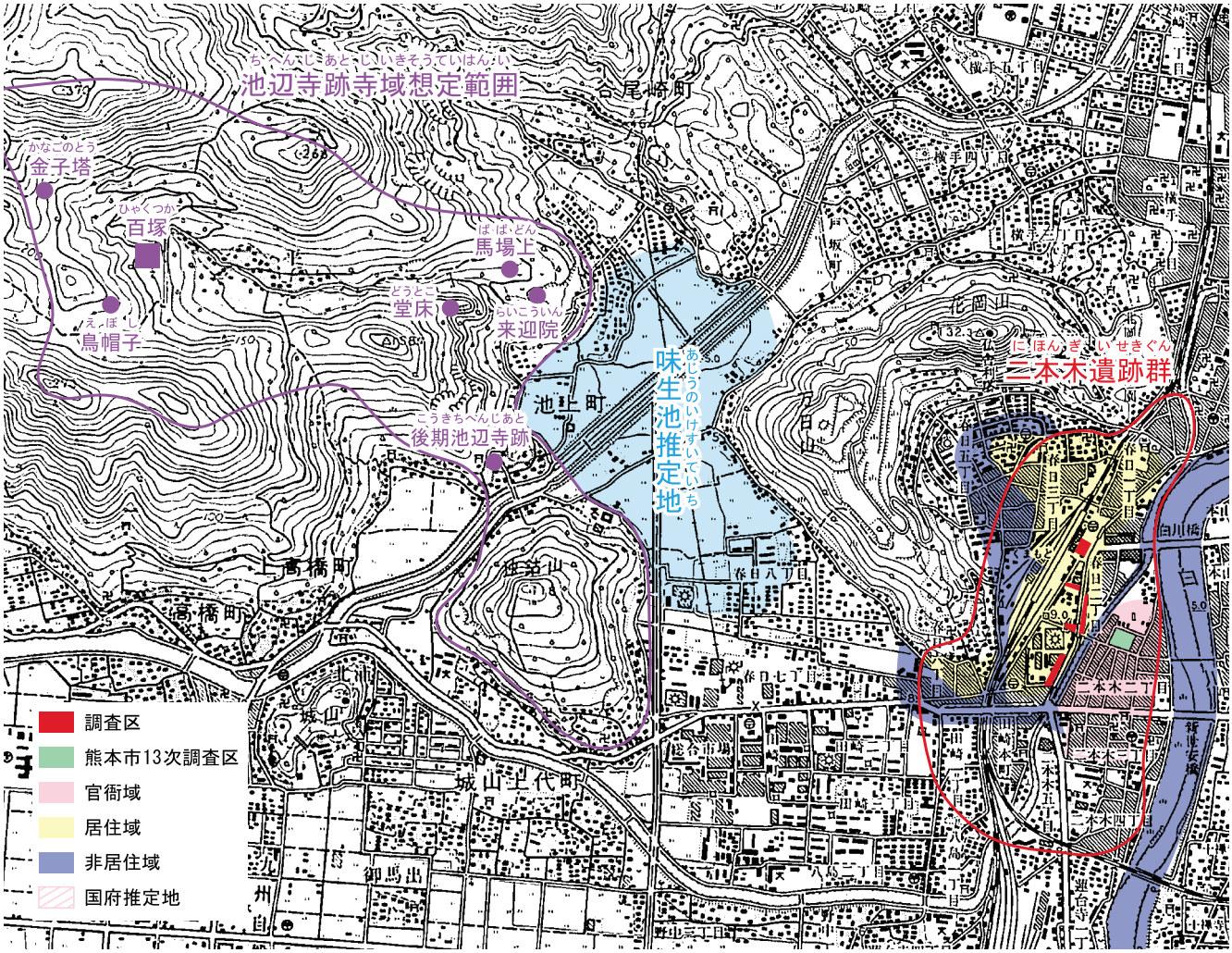
（熊本県教育委員会　2008より）

発掘調査でわかった二本木遺跡群の様子

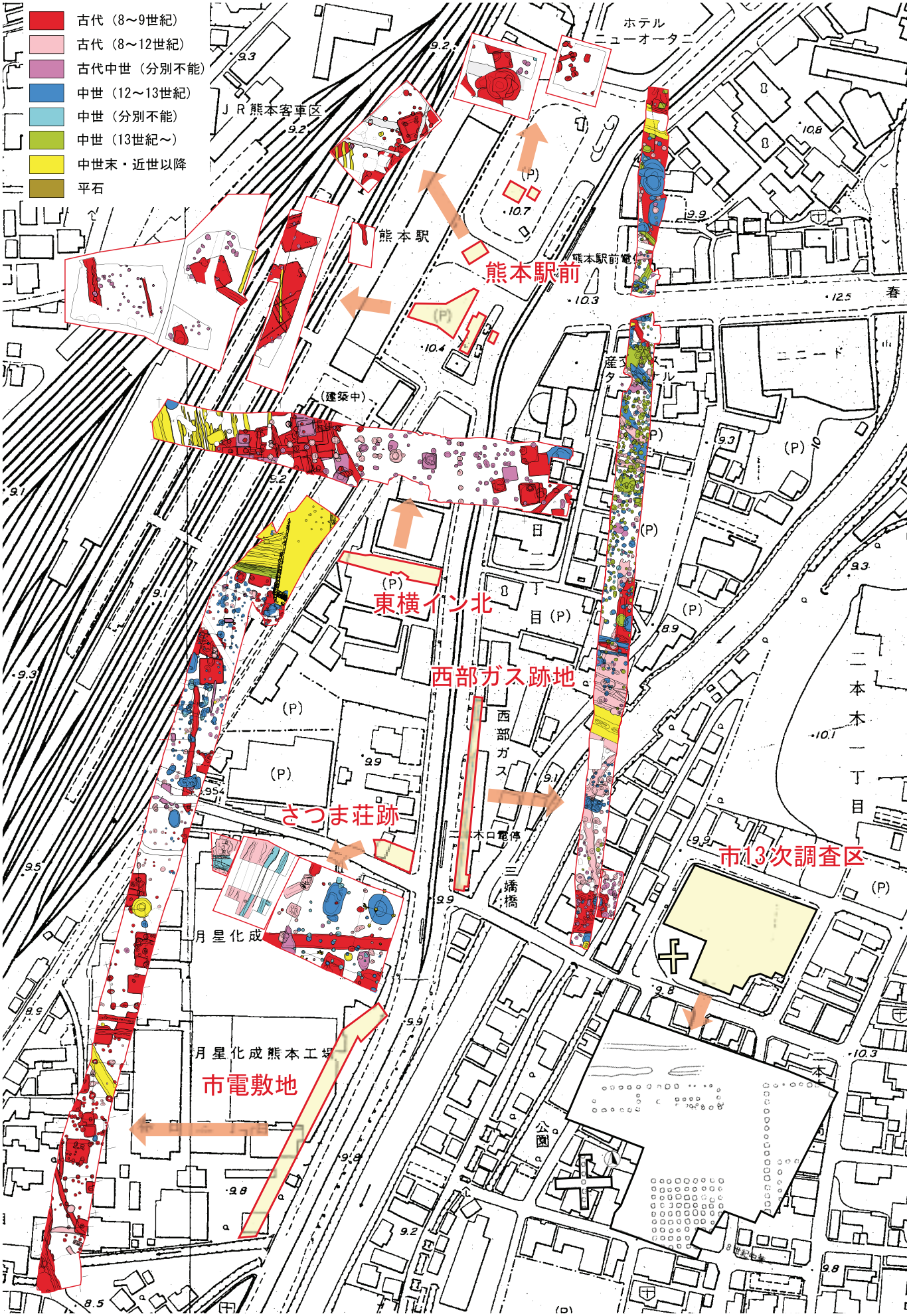
【二本木遺跡群の紹介】

二本木遺跡群は、白川下流の右岸、標高約8～10mの自然堤防上にあります。この周辺は以前から古代（奈良時代・平安時代）に国府（国ごとにおかれた役所）があった場所と推定されてきました。古代の書物に「飽田府」と記されていることや周辺に「古府中」「在庁屋敷」など国府に因む地名が残されていることがその大きな理由でした。

平成15年（2003）までに熊本市教育委員会により熊本朝日放送（KAB）社屋の建設に先立ち実施された二本木遺跡群第13次発掘調査で、8世紀半ばから9世紀の初めにかけての役所跡とみられる大規模な建物群が発見され、その信憑性が高まっています。



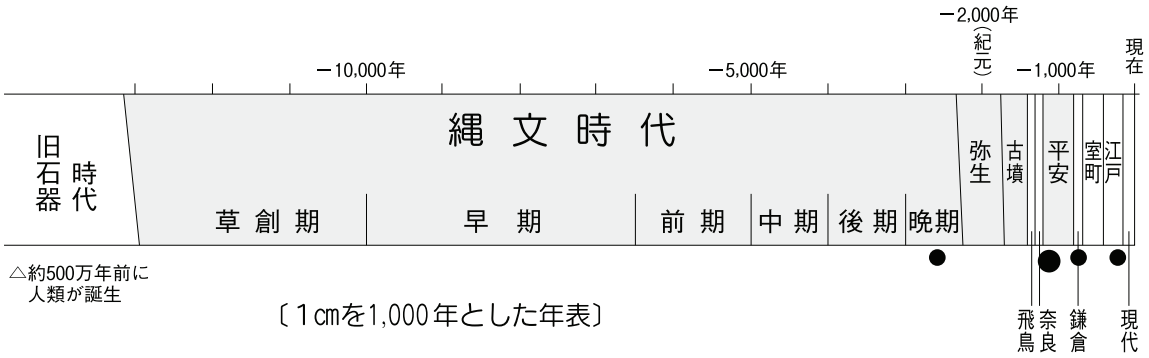
周辺遺跡図（S＝1/25,000）※池辺寺跡パンフレット（熊本市教育委員会）等を参考に作成。



※拡大図は縮尺不統一

遺構配置図（S＝1/25,000）

●は遺物や遺構が見つかった年代



Tab.1　遺跡年表（網田1995を改変）

【用語の説明】

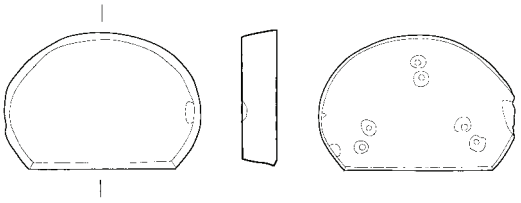
遺物・・・昔の人が使った石や焼き物などの道具のこと。

遺構・・・昔の人が残した生活痕跡。例えば家、井戸、柱穴、お墓など。

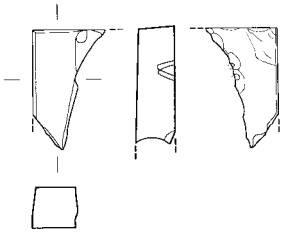
【発掘調査の理由と調査区】

今回の発掘調査は、熊本県教育庁文化課が主体となり、新幹線開通に向けて熊本駅周辺の整備事業（道路拡張、用水路掘削、市電の敷地建設、陸橋の基礎工事、駅前広場の整備）に伴い、主に5箇所の調査区（市電敷地、さつま荘跡地、西部ガス跡地、東横イン北側、熊本駅前）を設けて約3,000㎡の発掘調査を行いました。

【出土したベルトの飾り具】

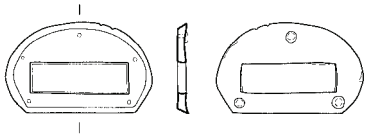


東横No.95　S=2/3

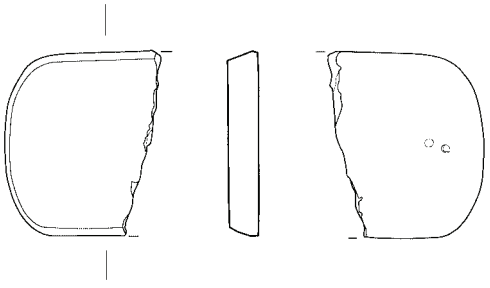


市電No.111　S=2/3

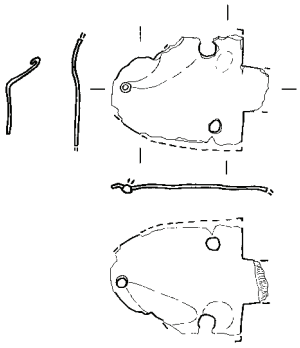
ベルトの複製（平城京展1989）より



市電No.108　S=2/3



市電No.110　S=2/3



さつまNo.106　S=2/3

出土遺物（1）

【発掘調査でわかったこと】

地表から1.5～2m下で奈良時代から平安時代の遺構（土を掘り込んで作った家の跡、柱で作った建物跡、お墓、井戸や溝など）や遺物（当時の焼き物や瓦、鉄器、中国大陸や朝鮮半島から伝わった焼き物など）を多く発見されました。

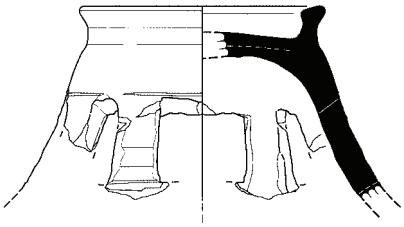
今回の調査で特筆すべき事は、熊本市13次調査区（役所跡）に近いためか、大きな柱で作った建物跡が確認され、当時の役人が使用したと考えられる「硯」や「ベルトの飾り具」などの道具が多く出土していることです。

次いで鎌倉時代の遺構（柱で作った建物跡、溝、井戸、お墓など）や遺物（当時の焼き物、鉄器、中国大陸から伝わった焼き物など）も発見されました。

その他、縄文時代の終わり頃の土器や石器、室町時代～江戸時代の溝、井戸などが確認され、焼き物なども出土しています。

【出土した硯】

円面硯

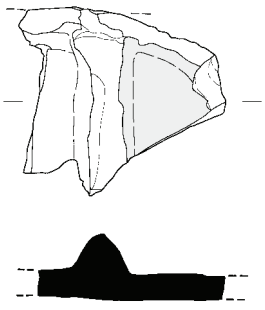


市電No.47　S＝1/3

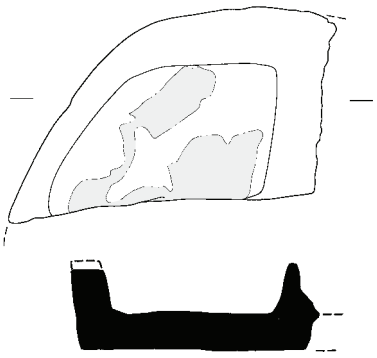
さつま荘No.38　S＝1/3

円面硯（平城京展1989）より

風字硯



市電No.120　S＝1/2



市電No.35　S＝1/2

風字硯（平城京展1989）より

序　　文

熊本県教育委員会では、熊本駅周辺地域整備事業及び熊本駅帯山線・熊本駅城山線緊急地方整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、平成20年（2008）４月から平成21年（2009）８月まで、熊本市春日に所在する二本木遺跡群の発掘調査を実施しました。

この遺跡群は、白川の下流、右岸の沖積地に広がる標高約８～10mに位置し、古くから飽田国府の推定地として知られてきました。

その信憑性が高まったのが、平成15年（2003）熊本市教育委員会により実施された二本木遺跡群第13次調査（熊本朝日放送【KAB】敷地内）結果です。そこには、南北に整然と並んだ１辺が約20m四方【８間×８間】で柱【掘り方1.2～1.5m、柱痕約40㎝前後】が81本と推定される６号建物（瓦葺きの並堂）をはじめ、大規模な建物群や塀が多量の瓦や遺物とともに確認されました。ただし、従来の説より古く、８世紀中葉から９世紀前葉にそのピークがあったとされています。

今回の調査報告は、二本木遺跡群第13次調査区から西方に約100～300m離れた５箇所（調査面積合計3,091㎡）と工事立会区から構成されています。

調査の結果、奈良時代から平安時代のはじめ（８世紀後半から９世紀）の遺構（竪穴式住居跡、掘立柱建物、井戸、溝など）や遺物（須恵器、土師器、緑釉陶器、布目瓦、硯、石帯、帯金具、越州窯系青磁、白磁、鉄器など)、平安時代の終わりから鎌倉時代（12世紀から13世紀）の遺構（掘立柱建物、井戸など）や遺物（龍泉窯系青磁、同安窯系青磁、滑石製石鍋、碁石など）を中心として、縄文時代晩期の遺物（土器、石器)、近世以降の遺構（井戸や溝）や遺物（陶磁器など）を確認しました。

８世紀後半から９世紀にかけての竪穴住居跡、９世紀以降の掘立柱建物など、当時の居住域の様相を示す遺構が多く検出されましたが、市電調査区で検出された ３間×７間の大型の掘立柱建物は官衙に関連する建物の可能性も考えられます。

また、遺跡周辺の上層で確認されている遺構として、畑址（畑畦の溝）があります。当初近世以降の時期と考えていましたが、出土した炭化種子（オオムギやコムギ）の放射性炭素年代測定による年代からはやや古い年代（12世紀後半から14世紀末）が出ており、中世まで遡るデータを示しています。

この報告書が県民の皆様を始め多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心と理解を深めて頂く一助となれば、喜びに堪えません。

なお、調査の円滑な実施に御理解と御協力をいただいた地元の方々、並びに関係機関、そして調査に対する指導、助言をいただいた諸先生方に対して厚くお礼申し上げます。

平成24年３月23日

熊本県教育長　　山　本　隆　生

例　　言

1．本書は、平成20年（2008）４月23日～平成21年（2009）８月７日にかけて実施した熊本市春日に所在する二本木遺跡群の発掘調査報告書であり、熊本県文化財調査報告 第274集である。
2．調査は、平成20～21年度熊本駅周辺整備事業及び平成21年度熊本駅帯山線・熊本駅城山線緊急地方道路整備事業に伴い実施した。
3．調査は、熊本県土木部の依頼を受け、熊本県教育庁文化課が実施し、遺物の整理・保管は熊本県文化財資料室で行った。
4．整理報告は平成22（2010）～23年度（2011）に行った。
5．国土座標軸による測量基準杭の設定は、（株）有明測量開発者に委託した。日本測地系で行っている。
6．本書で使用した航空写真は、九州航空株式会社及び熊本航空株式会社に委託撮影したものである。
7．一次整理（遺物の註記・接合・石膏による補強など）は（株）九州文化財研究所に委託した。
8．現場での遺構実測・写真撮影・遺物取り上げは、駅前3区を後藤克博、稲葉洋一、西部ガスの一部を福田匡朗、浦辻栄治、丸吉ゆかり、それ以外を布田智久、福田匡朗、多賀晴司、藤崎正人、桑島幸平、波多野芳郎、岡本真也が中心に行った。遺物実測は、宮崎典子、府内博子、鍋島　望、手嶋裕子、松本裕子、井島秀子、島川千秋、草野千鶴子、汐除あずさ、士野雄貴、多賀、岡本が行い、一部を（株）九州文化財研究所に委託した。遺構製図及び遺物製図は、佐藤淳子、江見恵留、加藤早織、師富成香、大森　紘、橋口冬美、藤崎、丸吉が行った。図版の作成にあたっては、佐藤、江見、加藤、松本、手嶋、宮崎、府内、鍋島が行った。鉄器処理は、今田里枝、大塚トシ子、小野美香、花田美佳が行い、透過X線撮影には福岡市埋蔵文化財センターの協力を得た。遺物写真撮影は、村田百合子、丸山勉、上田佳奈子が行い、松本、手嶋が補助した。
9．英文要約は、岡本が作成し、村田がこれを訂正した。
10．本文の執筆は、第４章を（株）パリノ・サーヴェイ、松下孝幸・沖田絵麻（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムに委託し、第２節及び第５節を多賀、それ以外を岡本が行った。
11．本書の編集は、岡本・多賀があたり、校正等に際しては佐藤、江見、加藤、松本、手嶋、宮崎、府内、鍋島がこれを補助した。
12．遺物は、熊本県文化財資料室に保管している。

凡　　例

1．本書で使用している方位は、座標軸を基準とした北を示している。
2．報告書に掲載した実測図の縮尺は不統一であるため、おのおのの頁に明記した。
3．出土遺物の観察表は、掲載分については各章末の遺物観察表に掲載している。
4．遺構平面図は、完掘図を基に作成しており、切り合いは破線で図示した。

本　文　目　次

空撮
発掘調査でわかった二本木遺跡群の様子
序文
例言･凡例
目次

第１章　調査の経過 ……1
　第1節　調査に至る経緯 ……1
　第2節　調査の組織 ……2
　第3節　調査の過程 ……3
第２章　位置と環境 ……4
　第1節　遺跡の位置と地理的環境 ……4
　第2節　遺跡の歴史的環境 ……4
第３章　調査の概要 ……12
　第1節　調査の方法……12
　第2節　東横イン北側の調査
　　1．遺構と観察表 ……19
　　2．遺物と観察表 ……49
　　3．小結 ……61
　　4．写真図版 ……65
　第3節　さつま荘跡地の調査
　　1．遺構と観察表 ……85
　　2．遺物と観察表 ……99
　　3．小結……112
　　4．写真図版……115
　第4節　市電敷地の調査
　　1．遺構と観察表……131
　　2．遺物と観察表……171
　　3．小結……183
　　4．写真図版……191
　第5節　西部ガス跡地の調査
　　1．遺構と観察表……219
　　2．遺物と観察表……260
　　3．小結……277
　　4．写真図版……281
　第6節　熊本駅前の調査
　　1．遺構と観察表……305
　　2．遺物と観察表……325
　　3．小結……339
　　4．写真図版……345
　第7節　立会の調査
　　1．立会調査区……363
　　2．遺物と観察表……365
　　3．小結……368
　　4．写真図版……369
第４章　自然科学分析 ……373
　二本木遺跡群　自然科学分析（パリノ･サーヴェイ） ……373
　二本木遺跡群　古代中世人骨･動物遺存体　松下孝幸･松下真美･沖田絵麻（人類学ミュージアム）……398
第５章　総括……447
　第1節　遺物 ……447
　第2節　遺構 ……452
　第3節　分析結果の評価 ……459
　第4節　まとめと今後の課題 ……459

引用･参考文献 ……462
Summary
あとがき
報告書抄録

挿　図　目　次

Fig. 1　熊本市周辺の地質図 ……5
Fig. 2　二本木遺跡群周辺遺跡分布図(S=1/25,000) ……6
Fig. 3　調査区周辺町字界図 ……10
Fig. 4　各調査区の土層図と地点 ……16

東横イン北側調査区

Fig. 1　東横イン北側調査区全体図及びS056･060･064･098配置図(S=1/250)……19
Fig. 2　時期別遺構配置図及びS002･084･087(溝)断面図 ……20
Fig. 3　調査区北壁断面図 ……21
Fig. 4　S060(掘立柱建物), S098(塀)実測図……22
Fig. 5　S056･064(掘立柱建物)実測図及びS060･056遺物出土状況 ……23
Fig. 6　S006･010･023･037･053(竪穴住居)実測図 ……24
Fig. 7　S027･068･086(竪穴住居)実測図 ……25
Fig. 8　S013･015～021(竪穴住居)実測図 ……26
Fig. 9　S050･052･078･080(上), S069～071･081･094(下)(竪穴住居)実測図 ……27
Fig.10　S005･007～009･011･012･014(竪穴住居)実測図 ……28
Fig.11　S004･046･049(竪穴住居), S097(土坑)実測図……29
Fig.12　S055･067･072～074･S093(竪穴住居)実測図 ……30
Fig.13　S047･048･058･083･099(竪穴住居), S079･088(土坑)実測図……31
Fig.14　S024～026･095･096(竪穴住居)実測図 ……32
Fig.15　S003･035･045･082･085(井戸)実測図 ……33
Fig.16　S032･033･044(土器埋納土坑), S036(井戸), S038(土坑), P57･175実測図……34
Fig.17　S001･002･003･007･008･009出土遺物実測図 ……49
Fig.18　S011･012･013･014･023(1)出土遺物実測図 ……49
Fig.19　S023(2)･025･026･027･032･033･035出土遺物実測図 ……50
Fig.20　S036･037･038･042･044出土遺物実測図 ……51
Fig.21　S045･046･056出土遺物実測図 ……52
Fig.22　S058･060･068･086･087･098･ピット(1)･包含層(1)出土遺物実測図 ……53
Fig.23　包含層(2)出土遺物実測図 ……54
Fig.24　ピット(2)･包含層(3)出土遺物実測図 ……55

さつま荘跡地調査区

Fig. 1　さつま荘跡地調査区時期別遺構配置図 ……85
Fig. 2　1区遺構配置図及び遺構断面図 ……86
Fig. 3　1区壁土層断面図 ……87
Fig. 4　S025･028(掘立柱建物)断面図及びS003･005(土壙墓)実測図 ……88
Fig. 5　S006実測図 ……89
Fig. 6　1区2層上～3層上(2層主体)出土遺物平面図 ……89
Fig. 7　S021･022(竪穴住居), P64実測図 ……90
Fig. 8　2～4区遺構配置図①(中世) ……91
Fig. 9　2～4区遺構配置図②(古代)及び遺構断面図 ……92
Fig.10　2～4区壁土層断面図(S＝1/60) ……93
Fig.11　S001･003･005･006(1)出土遺物実測図 ……99
Fig.12　S006(2)･007(1)出土遺物実測図 ……100
Fig.13　S007(2)･008(1)･009出土遺物実測図 ……101
Fig.14　S008(2)･011･019･021出土遺物実測図 ……102
Fig.15　ピット･包含層(1)出土遺物実測図 ……103
Fig.16　包含層(2)出土遺物実測図 ……104
Fig.17　包含層(3)出土遺物実測図 ……105
Fig.18　遺構変遷図 ……113

市電敷地調査区

Fig. 1　市電敷地調査区全体図(S=1/500) ……131
Fig. 2　市電敷地時期別遺構配置図(1)(S=1/200) ……132
Fig. 3　市電敷地時期別遺構配置図(2)(S=1/200) ……133
Fig. 4　遺構配置図【1】(S=1/100) ……134
Fig. 5　S076(井戸), S075･077･059･060(土坑), S019･020(溝), S082(柵列), S048･049(竪穴住居)実測図 …135
Fig. 6　S001(石垣)実測図及び矢穴拡大図 ……136
Fig. 7　S086(掘立柱建物), S021(土坑), S071(竪穴住居跡), S045･051(溝)実測図……137
Fig. 8　遺構配置図及び東西壁土層図【2】(S=1/100) ……138
Fig. 9　S080･081･087･088(掘立柱建物)実測図 ……139
Fig.10　S047･058(土壙墓)実測図 ……140
Fig.11　S002(畝状遺構)実測図 ……141
Fig.12　遺構配置図及び東西壁土層図【3】(S=1/100) ……142
Fig.13　S010･052･026･023･024･063･074(土坑), S083(掘立柱建物？), S084(柵列)実測図 ……143
Fig.14　遺構配置図及び東西壁土層図【4】(S=1/100) ……144
Fig.15　S083･033(掘立柱建物), S003(井戸)実測図 ……145
Fig.16　遺構配置図及び東西壁土層図【5】(S=1/100) ……146
Fig.17　S029･018(掘立柱建物), S016･017(竪穴住居)実測図 ……147
Fig.18　遺構配置図及び東西壁土層図【6】(S=1/100) ……148
Fig.19　S009(掘立柱建物), S006･007･012･013(竪穴住居), S014(土坑), S008･011･015(溝)実測図 ……149
Fig.20　S004･005(土壙墓)実測図 ……150
Fig.21　S001･002･003･005･006･008･009出土遺物実測図 ……171
Fig.22　S010･015･016･017･019･020･021出土遺物実測図 ……172
Fig.23　S024･026･028･030出土遺物実測図 ……173
Fig.24　S031･032･035出土遺物実測図 ……173
Fig.25　S038･039･040･042･044･045出土遺物実測図 ……174
Fig.26　S048･049･050出土遺物実測図 ……174
Fig.27　S058･059･060･075･076･080･081･087･ピット出土遺物実測図 ……175
Fig.28　ピット･包含層出土遺物実測図(1) ……176
Fig.29　ピット･包含層出土遺物実測図(2) ……177
Fig.30　遺構変遷図① ……184
Fig.31　遺構変遷図② ……184
Fig.32　遺構変遷図③ ……185
Fig.33　遺構変遷図④ ……185
Fig.34　掘立柱建物群の変遷 ……187

西部ガス跡地

Fig. 1　西部ガス跡地調査区時期別遺構配置図(S=1/200) ……219
Fig. 2　遺構配置図及び東西壁土層図【1】(S=1/80) ……220
Fig. 3　遺構配置図及び東西壁土層図【2】(S=1/80) ……221
Fig. 4　遺構配置図及び東西壁土層図【3】(S=1/80) ……222
Fig. 5　遺構配置図及び東西壁土層図【4】(S=1/80) ……223
Fig. 6　遺構配置図及び西壁土層図【5】(S=1/80) ……224
Fig. 7　Fig.6東壁及びN34土層図【6】(S=1/80) ……225
Fig. 8　S082･083(掘立柱建物)実測図 ……226
Fig. 9　S080(ピット列)及び礎石･根石のあるピット実測図 ……227
Fig.10　S002･009･050(井戸), S018･015･051･052･054(溝), S064･057･066(土坑), P328実測図……228
Fig.11　S001･011･020･010･007･023･053･062(土坑), S025(溝)実測図 ……229
Fig.12　S081(ピット列)及びS006･063･059･061･071･073･061･059(土坑), P691･697実測図 ……230
Fig.13　S037･067(落ち込み), S075(地業？), S069(溝)実測図 ……231
Fig.14　S001･002出土遺物実測図 ……260
Fig.15　S003･004･006(1)･007出土遺物実測図 ……261

Fig.16　S006(2)・008・009・011出土遺物実測図 ……262
Fig.17　S013・023・027・035・039・049・050・060・061・063出土遺物実測図 ……263
Fig.18　S062・063・064・065・067・069・073・080・ピット(1)出土遺物実測図 ……264
Fig.19　ピット(2)出土遺物実測図 ……265
Fig.20　ピット(3)・包含層(1)出土遺物実測図 ……266
Fig.21　包含層(2)出土遺物実測図 ……267
Fig.22　包含層(3)出土遺物実測図 ……268
Fig.23　包含層(4)出土遺物実測図 ……269

駅前調査区

Fig. 1　駅前調査区全体図(S=1/450) ……305
Fig. 2　時期別遺構配置図(S=1/200) ……306
Fig. 3　1区遺構配置図及びS002～004・007・008(竪穴住居), S001(溝群), P21実測図 ……307
Fig. 4　1区壁土層断面図(S=1/60) ……308
Fig. 5　S005・009(竪穴住居)実測図 ……309
Fig. 6　2区－1・2遺構配置図及びS010(溝), S013・014(竪穴住居), P44・47実測図 ……310
Fig. 7　2区－1・2壁土層断面図(S=1/60) ……311
Fig. 8　S012(井戸), S015・017(竪穴住居), S018(土坑)実測図 ……312
Fig. 9　3区－1遺構配置図及びS025・026・027(竪穴住居), S031(溝), ピット断面図 ……313
Fig.10　3区－1壁土層断面図(S=1/60) ……314
Fig.11　3区－2・3遺構配置図及びS021・022(溝)断面図 ……314
Fig.12　S020(溝), S029(井戸)実測図及び遺物出土状況 ……315
Fig.13　S028(竪穴住居), S030(溝)実測図及び3区－4S032(溝)実測図 ……316
Fig.14　S002・004・005・007・009出土遺物実測図 ……325
Fig.15　S010・011及びS012(1)出土遺物実測図 ……326
Fig.16　S012(2)出土遺物実測図 ……327
Fig.17　S012(3)・013・014出土遺物実測図 ……328
Fig.18　S020・023・024・026出土遺物実測図 ……329
Fig.19　S027・028・029出土遺物実測図 ……330
Fig.20　S030・ピット・包含層(1)出土遺物実測図 ……331
Fig.21　包含層(2)出土遺物実測図 ……332
Fig.22　遺構変遷図(1) ……340
Fig.23　遺構変遷図(2) ……341
Fig.24　遺構変遷図(3) ……342
Fig.25　S012平断面図 ……342

工事立会調査

Fig. 1　工事立会全体配置図 ……363
Fig. 2　立会調査区遺構実測図(S=1/60) ……364
Fig. 3　工事立会出土遺物実測図(1) ……365
Fig. 4　工事立会出土遺物実測図(2) ……366

総括

Fig. 1　硯出土地点と遺物番号 ……449
Fig. 2　腰帯具出土地点と遺物番号 ……449
Fig. 3　製塩土器実測図 ……450
Fig. 4　古代寺院・官衙配置図(網田龍生・美濃口雅朗・金田一精・林田和人・岩谷史記2007を引用) …453
Fig. 5　熊本県管轄肥後国飽田群春日村、田崎村、古町村、蓮台寺上立田村(熊本市1993)を合成して作図、改変、加筆 ……454
Fig. 6　二本木遺跡群調査地点図(S＝1/10,000) ……455
Fig. 7　遺構変遷図(1) ……456
Fig. 8　遺構変遷図(2) ……457
Fig. 9　周辺調査区と位置図(S=1/2,500) ……458
Fig.10　調査区周辺古代・中世墓分布図(S＝1/5,000)(山下宗親2011に加筆) ……460

表 目 次

Tab. 1　二本木遺跡群調査区、調査次数 ……1
Tab. 2　二本木遺跡群　作業工程表……3
Tab. 3　周辺遺跡一覧表……7

東横イン北側調査区

Tab. 1　遺構観察表(1)……35
Tab. 2　遺構観察表(2)……36
Tab. 3　遺構観察表(3)……37
Tab. 4　遺構観察表(4)……38
Tab. 5　土層注記表(1)……39
Tab. 6　土層注記表(2)……40
Tab. 7　土層注記表(3)……41
Tab. 8　土層注記表(4)……42
Tab. 9　土層注記表(5)……43
Tab.10　土層注記表(6)……44
Tab.11　ピット観察表(1)……45
Tab.12　ピット観察表(2)……46
Tab.13　ピット観察表(3)……47
Tab.14　ピット観察表(4)……48
Tab.15　土器･陶磁器類観察表(1) ……56
Tab.16　土器･陶磁器類観察表(2) ……57
Tab.17　土器･陶磁器類観察表(3) ……58
Tab.18　土器･陶磁器類観察表(4) ……59
Tab.19　瓦観察表 ……60
Tab.20　金属製品観察表 ……60
Tab.21　土製品観察表 ……60
Tab.22　石製品観察表 ……60
Tab.23　遺構の切り合い関係 ……62

さつま荘跡地調査区

Tab. 1　遺構観察表 ……94
Tab. 2　土層注記表 ……95
Tab. 3　ピット観察表(1)……96
Tab. 4　ピット観察表(2)……97
Tab. 5　ピット観察表(3)……98
Tab. 6　土器･陶磁器類観察表(1)……106
Tab. 7　土器･陶磁器類観察表(2)……107
Tab. 8　土器･陶磁器類観察表(3)……108
Tab. 9　土器･陶磁器類観察表(4)……109
Tab.10　古銭観察表……110
Tab.11　石製品観察表……110
Tab.12　土製品観察表……110
Tab.13　金属製品観察表……111
Tab.14　瓦観察表……111

市電敷地の調査区

Tab. 1　遺構観察表(1) ……151
Tab. 2　遺構観察表(2) ……152
Tab. 3　遺構観察表(3) ……153
Tab. 4　遺構観察表(4) ……154
Tab. 5　土層注記表(1) ……155
Tab. 6　土層注記表(2) ……156
Tab. 7　土層注記表(3) ……157
Tab. 8　土層注記表(4) ……158
Tab. 9　土層注記表(5) ……159
Tab.10　ピット観察表(1) ……160
Tab.11　ピット観察表(2) ……161
Tab.12　ピット観察表(3) ……162
Tab.13　ピット観察表(4) ……163
Tab.14　ピット観察表(5) ……164
Tab.15　ピット観察表(6) ……165
Tab.16　ピット観察表(7) ……166
Tab.17　ピット観察表(8) ……167
Tab.18　ピット観察表(9) ……168
Tab.19　ピット観察表(10)……169
Tab.20　ピット観察表(11)……170
Tab.21　土器･陶磁器類観察表(1)……178
Tab.22　土器･陶磁器類観察表(2)……179
Tab.23　土器･陶磁器類観察表(3)……180
Tab.24　土器･陶磁器類観察表(4)……181
Tab.25　瓦観察表……182
Tab.26　土製品観察表……182
Tab.27　石製品観察表……182
Tab.28　金属製品観察表……182
Tab.29　掘立柱建物比較表……187
Tab.30　S002畑畦遺構出土種子一覧表……188
Tab.31　S002(畝遺構)検出種子数と年代測定…189
Tab.32　明治7年度(1874年)肥後国飽田郡春日村　189

西部ガス跡地の調査区

Tab. 1　遺構観察表(1) ……232
Tab. 2　遺構観察表(2) ……233
Tab. 3　遺構観察表(3) ……234
Tab. 4　土層注記表(1) ……235
Tab. 5　土層注記表(2) ……236
Tab. 6　土層注記表(3) ……237
Tab. 7　土層注記表(4) ……238
Tab. 8　ピット観察表(1) ……239
Tab. 9　ピット観察表(2) ……240
Tab.10　ピット観察表(3) ……241
Tab.11　ピット観察表(4) ……242
Tab.12　ピット観察表(5) ……243
Tab.13　ピット観察表(6) ……244
Tab.14　ピット観察表(7) ……245
Tab.15　ピット観察表(8) ……246
Tab.16　ピット観察表(9) ……247
Tab.17　ピット観察表(10)……248
Tab.18　ピット観察表(11)……249
Tab.19　ピット観察表(12)……250
Tab.20　ピット観察表(13)……251

Tab.21　ピット観察表(14)……252
Tab.22　ピット観察表(15)……253
Tab.23　ピット観察表(16)……254
Tab.24　ピット観察表(17)……255
Tab.25　ピット観察表(18)……256
Tab.26　ピット観察表(19)……257
Tab.27　ピット観察表(20)……258
Tab.28　ピット観察表(21)……259
Tab.29　土器･陶磁器類観察表(1)……270
Tab.30　土器･陶磁器類観察表(2)……271
Tab.31　土器･陶磁器類観察表(3)……272
Tab.32　土器･陶磁器類観察表(4)……273
Tab.33　土器･陶磁器類観察表(5)……274
Tab.34　石器観察表……275
Tab.35　土製器観察表……275
Tab.36　金属製品観察表……276
Tab.37　瓦観察表……276

駅前調査区

Tab. 1　遺構観察表(1)……317
Tab. 2　遺構観察表(2)……318
Tab. 3　土層注記表(1)……319
Tab. 4　土層注記表(2)……320
Tab. 5　ピット観察表(1)……321
Tab. 6　ピット観察表(2)……322
Tab. 7　ピット観察表(3)……323
Tab. 8　ピット観察表(4)……324
Tab. 9　土器･陶磁器類観察表(1)……333
Tab.10　土器･陶磁器類観察表(2)……334
Tab.11　土器･陶磁器類観察表(3)……335
Tab.12　土器･陶磁器類観察表(4)……336
Tab.13　土器･陶磁器類観察表(5)……337
Tab.14　土製品観察表……338
Tab.15　金属製品観察表……338
Tab.16　石製品観察表……338
Tab.17　瓦観察表……338

立会調査区

Tab. 1　土製品観察表……366
Tab. 2　土器･陶磁器類観察表……367

総括

Tab. 1　硯･腰帯具出土数比較一覧……448
Tab. 2　貿易陶磁器出土一覧……451
Tab. 3　遺構出土炭化種子内訳表……461

写　真　図　版

空撮1　熊本市街地上空(北東)より二本木遺跡群を望む　［平成20年７月24日撮影］
空撮2　白川上空(南東)より調査区を望む　［平成20年７月24日撮影］
空撮3　遺跡上空より調査区全景【デジタルモザイク】上方が北　［ベースは平成20年７月24日撮影］
空撮4　昭和22年〔1947〕11月１日　極東米軍撮影空中写真　S=1/15,960

東横イン北側調査

PL. 1　東横イン北側空撮
PL. 2　S001･002検出状況(北から)
PL. 3　S001完掘状況(西から)
PL. 4　S002土層断面(南から)
PL. 5　S003掘削状況
PL. 6　S006埋土1層より上位D－1検出状況(南から)
PL. 7　S006D－1白粘土基部残存状況(南から)
PL. 8　S006土層断面(南西から)
PL. 9　S006完掘状況(南から)
PL.10　S007完掘状況(南から)
PL.11　S008･014完掘状況(南東から)
PL.12　S005埋土1層下面ピット1土層断面(南から)
PL.13　S010･005･004･009完掘状況(北から)
PL.14　S010埋土1層下面ピット1土層断面(南から)
PL.15　S010･005土層断面(西から)
PL.16　S010土層断面(西から)
PL.17　S010完掘状況(西から)
PL.18　S012完掘状況(南から)
PL.19　S002･008土層断面(東から)
PL.20　S020･019掘削状況(南から)
PL.21　S019･020完掘状況(南から)
PL.22　S023遺物出土状況(東から)
PL.23　S023土層断面(東から)
PL.24　S032遺物出土状況(東から)
PL.25　S033遺物出土状況(南から)
PL.26　S018･013完掘状況(南から)
PL.27　S025ピット1土層断面(南から)
PL.28　S025･042掘削状況(西から)
PL.29　S025･085･086土層断面(西から)
PL.30　S027ピット2土層断面(東から)
PL.31　S026･027掘削状況(北から)
PL.32　S035土層断面(北東から)
PL.33　S035完掘状況(南から)
PL.34　S036･038遺物出土状況(西から)
PL.35　S036土層断面(南から)
PL.36　S036完掘状況(南から)
PL.37　S036土層断面(南から)
PL.38　S045遺物出土状況(南西から)
PL.39　S045遺物出土状況(南東から)
PL.40　S045完掘状況(東から)
PL.41　S046完掘状況(北から)

PL.42　S044遺物出土状況(南西から)
PL.43　S044土層断面(南から)
PL.44　S049完掘状況(北から)
PL.45　S053･073完掘状況(南から)
PL.46　S055･083完掘状況(南から)
PL.47　S067完掘状況(南から)
PL.48　S068カマド掘削状況(南から)
PL.49　S068完掘状況(南から)
PL.50　S056ピット1土層断面(北から)
PL.51　S056ピット2遺物出土状況(北から)
PL.52　S056ピット4土層断面(北から)
PL.53　S056ピット10とS045の切りあい(南から)
PL.54　S064ピット1土層断面(南から)
PL.55　S064ピット4土層断面(南から)
PL.56　S074完掘状況(北から)
PL.57　S085･086完掘状況(南から)
PL.58　S060ピット1遺物出土状況(東から)
PL.59　S060ピット2遺物出土状況(南東から)
PL.60　S060ピット3土層断面(北西から)
PL.61　S060ピット2遺物出土状況(南から)
PL.62　S060ピット4土層断面(南から)
PL.63　S060ピット5遺物出土状況(南東から)
PL.64　ピット57遺物出土状況(北から)
PL.65　北壁土層断面(南西から)
PL.66　C1～D2遺構掘削状況(北から)
PL.67　C1～D2遺構掘削状況(北西から)
PL.68　E1～F2遺構掘削状況(北から)
PL.69　E1～F2遺構掘削状況(南東から)
PL.70　上位竪穴住居完掘状況全景(東から)
PL.71　上位竪穴住居完掘状況I2～K3(西から)
PL.72　上位竪穴住居完掘状況C1～F2(東から)
PL.73　上位竪穴住居完掘状況C1～F2(西から)
PL.74　完掘状況全景(東から)
PL.75　完掘状況H1～K3(北西から)
PL.76　完掘状況I2～K3(北から)
PL.77　完掘状況全景F1～H3(北から)
PL.78　完掘状況C1～F1(西から)
PL.79　完掘状況C1－G2(北東から)
PL.80　完掘状況E1～G2(北から)
PL.81　完掘状況E1～F2(南から)
PL.82　出土遺物
PL.83　出土遺物
PL.84　出土遺物
PL.85　出土遺物
PL.86　出土遺物
PL.87　出土遺物

さつま荘跡地調査

PL.1　さつま荘跡地空撮
PL.2　矢板前の敷石検出状況1(南東から)
PL.3　矢板前の敷石検出状況2(南西から)
PL.4　1区2層上遺物検出状況(南東から)
PL.5　1区2層上軒丸瓦出土状況(北から)
PL.6　1区2B中層鉄製釣針出土状況1
PL.7　1区2B中層鉄製釣針出土状況2(北から)
PL.8　S001礎石検出状況1
PL.9　S001礎石検出状況2
PL.10　S001礎石検出状況3
PL.11　S001礎石検出状況4
PL.12　S002土層断面(北から)
PL.13　S003人骨検出状況1(北西から)
PL.14　S003人骨検出状況2(北から)
PL.15　S005人骨検出状況(北西から)
PL.16　S005完掘状況
PL.17　S007･013完掘状況(北東から)
PL.18　S006土層断面(南東から)
PL.19　S006完掘状況(南西から)
PL.20　S007土層断面
PL.21　S014②土層断面(西から)
PL.22　S019検出状況(西から)
PL.23　S019検出状況(東から)
PL.24　S021検出状況(北西から)
PL.25　S0213層下遺物出土状況(北西から)
PL.26　S021焼土検出状況(北から)
PL.27　S021土層断面
PL.28　S021完掘状況(南東から)
PL.29　S014③完掘状況1区(南東から)
PL.30　ピット64遺物出土状況
PL.31　1区完掘状況1
PL.32　1区完掘状況2
PL.33　1区北壁土層断面
PL.34　S008遺物出土状況1(3区南西から)
PL.35　S008遺物出土状況2(北東から)
PL.36　S008･026遺物出土状況(南から)
PL.37　2区S008牛の下顎出土状況1(2区東から)
PL.38　2区S008牛の下顎出土状況2(南から)
PL.39　S008･009･026土層断面1(2区西から)
PL.40　2区S008土層断面(南から)
PL.41　S008･009･026土層断面2(南から)
PL.42　S008･009･026土層断面3(2区南から)
PL.43　S008･009･026土層断面4(4区西から)
PL.44　S008･009･026完掘状況1(3区北から)
PL.45　S008･009･026完掘状況2(3区東から)
PL.46　S008･009･026完掘状況3(3区北から)
PL.47　3区完掘状況(北から)
PL.48　S015完掘状況(西から)
PL.49　出土遺物
PL.50　出土遺物
PL.51　出土遺物
PL.52　出土遺物
PL.53　出土遺物
PL.54　出土遺物
PL.55　出土遺物

市電敷地調査区

PL. 1　市電敷地北側空撮
PL. 2　市電敷地南側空撮
PL. 3　完掘状況(南から)
PL. 4　調査区全景(南から)
PL. 5　市電全景
PL. 6　市電調査南側水路
PL. 7　S001石垣検出状況1(南東から)
PL. 8　S001石垣検出状況2
PL. 9　S001完掘状況(南西から)
PL.10　S001石垣裏込め石状況1(北から)
PL.11　S001石垣裏込め石状況2(北から)
PL.12　S001石垣裏込め石状況(断面)1(南から)
PL.13　S001石垣裏込め石状況(断面)2(北西から)
PL.14　S001船材とピット検出状況1
PL.15　S001船材とピット検出状況2
PL.16　S001船材とピット検出状況3
PL.17　S001石垣検出状況1
PL.18　S001石垣検出状況2
PL.19　S001石垣検出状況3
PL.20　S001石垣検出状況4
PL.21　S003井戸枠と半裁状況(南から)
PL.22　S003完掘状況
PL.23　S007半裁状況(南から)
PL.24　S007完掘状況(東から)
PL.25　S009掘立跡(南から)
PL.26　S009ピット10柱痕検出状況(南から)
PL.27　S009ピット12柱痕検出状況(南から)
PL.28　S010遺物出土状況(東から)
PL.29　S016･017遺構切り合い状況
PL.30　S018掘立柱完掘状況
PL.31　S019検出状況(東から)
PL.32　S019完掘土層断面1(南から)
PL.33　S019完掘土層断面2(南から)
PL.34　S019･020土層断面(西から)
PL.35　S020完掘状況(西から)
PL.36　S024遺物出土状況
PL.37　S026遺物出土状況(北から)
PL.38　S029掘立柱(東から)
PL.39　S029掘立柱検出状況1
PL.40　S029掘立柱検出状況2
PL.41　S029掘立柱検出状況3
PL.42　S029掘立柱検出状況4
PL.43　S029掘立柱検出状況5
PL.44　S029掘立柱検出状況6
PL.45　S032カマド断面状況(東から)
PL.46　S035カマド検出状況
PL.47　S034･035･036検出状況(南から)
PL.48　S034･035土層断面(南西から)
PL.49　S031･043土層断面
PL.50　S030･031･039土層断面(南から)
PL.51　S035完掘状況(東から)
PL.52　S040土層断面1
PL.53　S040土層断面2
PL.54　S041完掘状況と土層断面
PL.55　S044カマド検出状況
PL.56　S044カマド半裁状況(南から)
PL.57　ピット194遺物出土状況
PL.58　S047人骨検出状況(北から)
PL.59　S047完掘状況
PL.60　S048･049検出状況(東から)
PL.61　S054硬化面及び粘土検出状況(東から)
PL.62　S058人骨検出状況1(西から)
PL.63　S058人骨検出状況2(西から)
PL.64　S058完掘状況(東から)
PL.65　S059遺物出土状況(東から)
PL.66　S059土層断面
PL.67　S060遺物出土状況(西から)
PL.68　S060遺物出土状況と土層断面
PL.69　S080(ピット545)礎石検出状況
PL.70　S075完掘状況(東から)
PL.71　S076(井戸)検出状況(北西から)
PL.72　S076(井戸)完掘状況1(北西から)
PL.73　S076(井戸)完掘状況2(北西から)
PL.74　S0783層下面検出状況
PL.75　S078完掘状況(南から)
PL.76　3区ピット349柱痕検出状況(東から)
PL.77　S080･081礎石検出状況1
PL.78　S080･081礎石検出状況2
PL.79　S080･081礎石検出状況3
PL.80　S080･081礎石検出状況4
PL.81　S080･081礎石検出状況5
PL.82　ピット169遺物出土状況(西から)
PL.83　ピット342柱痕検出状況(東から)
PL.84　ピット352柱痕検出状況(西から)
PL.85　ピット371柱痕検出状況(北から)
PL.86　1区中Ａ－52遺物出土状況
PL.87　B･Cグリット石組検出状況と土層断面(西から)
PL.88　B･C－50グリット石組検出状況(東から)
PL.89　S029完掘状況(東南から)
PL.90　S033周辺完掘状況(東南から)
PL.91　S026周辺完掘状況(東から)
PL.92　S034･035･036完掘状況
PL.93　S003周辺完掘状況
PL.94　S032･033完掘状況
PL.95　S030･031周辺完掘状況
PL.96　S040周辺完掘状況
PL.97　S045(Y^{2}－55)完掘状況(東から)
PL.98　S045(Y^{2}－56)完掘状況
PL.99　S059･060周辺完掘状況(東から)
PL.100　S048･086完掘状況(東から)
PL.101　S086周辺完掘状況(東から)
PL.102　S048･049完掘状況(東から)
PL.103　S080･081･087周辺完掘状況(東から)

PL.104　S045·088周辺完掘状況(東から)
PL.105　市電調査区完掘状況(北から)
PL.106　S001完掘状況(南西から)
PL.107　S078完掘状況(西から)
PL.108　S001完掘状況(北から)
PL.109　S078周辺完掘状況(南から)
PL.110　S001·019完掘状況(東から)
PL.111　S019·020完掘状況(東から)
PL.112　S011·015遺構検出状況(東から)
PL.113　S007周辺遺構検出状況(東から)
PL.114　S006遺物出土状況(南東から)
PL.115　S016·017遺構検出状況(南東から)
PL.116　S007·011周辺完掘状況(北東から)
PL.117　S009周辺完掘状況(北西から)
PL.118　S008完掘状況(北東から)
PL.119　S007·009·011完掘状況(東から)
PL.120　S016·017完掘状況(南東から)
PL.121　S016·017周辺完掘状況(南西から)
PL.122　出土遺物
PL.123　出土遺物
PL.124　出土遺物
PL.125　出土遺物
PL.126　出土遺物
PL.127　出土遺物
PL.128　出土遺物
PL.129　出土遺物
PL.130　出土遺物

西部ガス跡地調査

PL. 1　西部ガス跡地1区空撮
PL. 2　西部ガス跡地2区空撮
PL. 3　S001遺物出土状況(東から)
PL. 4　S002掘削状況(東から)
PL. 5　S006遺物出土状況(東から)
PL. 6　S006遺物出土状況(北から)
PL. 7　S006埋土2層掘削(南から)
PL. 8　S006イヌ出土状況(北から)
PL. 9　S006イヌ出土状況(北東から)
PL.10　S006イヌ出土状況(南から)
PL.11　S003完掘状況(西から)
PL.12　S011遺物出土状況(北東から)
PL.13　S023埋土1層掘削状況(西から)
PL.14　S025完掘状況(南から)
PL.15　S049土層断面·完掘状況(東から)
PL.16　S053·060完掘状況(南西から)
PL.17　S064·057完掘状況(西から)
PL.18　S063遺物出土状況(北から)
PL.19　S062完掘状況(南東から)
PL.20　S067完掘状況(南西から)
PL.21　S070カマド検出状況(東から)
PL.22　S080ピット36掘削状況(西から)
PL.23　S080ピット129完掘状況(東から)
PL.24　S080ピット36(南東から)
PL.25　S080ピット131土層断面(南から)
PL.26　S080完掘状況(南から)
PL.27　S081ピット635土層断面(西から)
PL.28　S081ピット635礎石出土状況(西から)
PL.29　S081ピット612土層断面(西から)
PL.30　S081ピット630土層断面(西から)
PL.31　S082ピット99－3礎石出土状況(西から)
PL.32　S082ピット117－3礎石出土状況(西から)
PL.33　S082ピット105礎石出土状況(南西から)
PL.34　S082ピット252礎石出土状況(北から)
PL.35　S083ピット58礎石出土状況(西から)
PL.36　S083ピット120－1礎石出土状況(南から)
PL.37　S083ピット114断面(東から)
PL.38　S083ピット110礎石出土状況(南から)
PL.39　S083ピット487礎石出土状況(北東から)
PL.40　S083ピット291礎石出土状況(東から)
PL.41　礎石·根石ピット群S082·083周辺(南東から)
PL.42　礎石·根石ピット群S082·083周辺(北から)
PL.43　ピット43礎石·断面検出状況(東から)
PL.44　ピット115断面·根石検出状況(南から)
PL.45　ピット117－2断面·根石検出状況(南から)
PL.46　ピット135断面(東から)
PL.47　ピット222礎石出土状況(南西から)
PL.48　ピット247礎石·出土状況(南西から)
PL.49　ピット328遺物出土状況(南から)
PL.50　ピット697遺物出土状況(東から)
PL.51　ピット708遺物出土状況(南から)
PL.52　ピット724検出状況(北東から)
PL.53　ピット739礎石出土状況(西から)
PL.54　N34東壁断面(西から)
PL.55　N34調査区風景(北から)
PL.56　N34遺構検出状況(南から)
PL.57　N34完掘状況(南から)
PL.58　2層掘削後完掘状況O21～O22(南から)
PL.59　3層上掘削後完掘状況O28～O30(南から)
PL.60　3層上掘削後完掘状況O28～O29(北東から)
PL.61　3層上掘削後完掘状況O23～O24(北東から)
PL.62　3層上掘削後完掘状況O23～O24(南から)
PL.63　完掘状況全景(南から)
PL.64　完掘状況全景
PL.65　完掘状況O16～O20(北から)
PL.66　完掘状況O17～O19(南東から)
PL.67　完掘状況O19～O20(南東から)
PL.68　完掘状況O21～O22(北東から)
PL.69　完掘状況O23(東から)
PL.70　完掘状況O23～O24(東から)
PL.71　完掘状況O24～O25(東から)
PL.72　完掘状況O26～N27(東から)
PL.73　完掘状況O27～N28(東から)
PL.74　完掘状況O29～N30(東から)
PL.75　完掘状況N30～N31(東から)

PL.76　完掘状況N31～N32(東から)
PL.77　完掘状況N33～N34(東から)
PL.78　完掘状況(東から)
PL.79　完掘状況南拡張N34～N35(南から)
PL.80　完掘状況南拡張N34～N35(北から)
PL.81　出土遺物
PL.82　出土遺物
PL.83　出土遺物
PL.84　出土遺物
PL.85　出土遺物
PL.86　出土遺物
PL.87　出土遺物
PL.88　出土遺物
PL.89　出土遺物

駅前調査

PL. 1　駅前1区 完掘状況(空撮状況)
PL. 2　駅前2区－1 完掘状況(南東から)
PL. 3　駅前3区－2･3 完掘状況(南東から)
PL. 4　駅前3区－1 完掘状況(北東から)
PL. 5　1区 調査区全景(西から)
PL. 6　1区 S002遺物出土状況(北東から)
PL. 7　1区 S002完掘状況(北西から)
PL. 8　1区 S003検出状況(北東から)
PL. 9　1区 S003完掘状況(南西から)
PL.10　1区 S003完掘状況(南から)
PL.11　1区 S003完掘状況(南東から)
PL.12　1区 南西側土層断面(北東から)
PL.13　1区 S004完掘状況(北西から)
PL.14　1区 S004･007･008完掘状況(東から)
PL.15　1区 S005･009の切り合い状況
PL.16　1区 S005･009土層断面
PL.17　1区 S005上層遺物出土状況(南東から)
PL.18　1区 S009完掘状況(東から)
PL.19　1区 完掘状況1(南西から)
PL.20　1区 完掘状況2(北東から)
PL.21　2区－1･2 調査区全景(北東から)
PL.22　2区－1 遺構検出状況
PL.23　2区－1 S012検出状況(南西から)
PL.24　2区－1 S012掘り下げ状況1(南西から)
PL.25　2区－1 S012掘り下げ状況2(北西から)
PL.26　2区－1 S012最下層遺物出土状況(北から)
PL.27　2区－1 S013硬化面礫検出状況
PL.28　2区－1 S013完掘状況(北から)
PL.29　1区 ピット1遺物出土状況(西から)
PL.30　2区－1 北東側土層断面(南西から)
PL.31　2区－2 S010土層断面(北東から)
PL.32　2区－2 完掘状況1(南西から)
PL.33　2区－2 完掘状況2(北東から)
PL.34　2区－2 ピット44･47断面(東から)
PL.35　2区－2 南西壁基礎駅の遺構(北東から)
PL.36　2区－2 北東側土層断面
PL.37　2区－2 北西壁断面(南東から)
PL.38　3区－1 調査前(北東から)
PL.39　2区－2 遺構検出状況
PL.40　3区－1 S019検出(南から)
PL.41　3区－3 S021検出状況
PL.42　3区－2 S022検出状況(北東から)
PL.43　3区－4 S032掘削状況(北西から)
PL.44　3区－2 S022土層断面(南から)
PL.45　3区－1 S031完掘状況(北東から)
PL.46　3区－1 S031検出状況(北東から)
PL.47　3区－1 S023･024検出状況(南から)
PL.48　3区－1 S023･024検出状況
PL.49　3区－1 S025検出状況(南東から)
PL.50　3区－1 S025風字硯検出状況(南から)
PL.51　3区－1 S025南側完掘状況(東から)
PL.52　3区－1 S025完掘状況(南東から)
PL.53　3区－1 S026カマド検出状況(南から)
PL.54　3区－2 S028検出状況(北から)
PL.55　3区－2 S028遺物出土状況(南から)
PL.56　3区－2 S028完掘状況(北から)
PL.57　3区－2 S029上層遺物出土状況(東から)
PL.58　3区－2 S029掘り下げ状況(西から)
PL.59　3区－2 S030遺物出土状況(南西から)
PL.60　3区－1 実測状況(南西から)
PL.61　出土遺物
PL.62　出土遺物
PL.63　出土遺物
PL.64　出土遺物
PL.65　出土遺物
PL.66　出土遺物
PL.67　出土遺物

立会調査

PL. 1　西部ガスアクセス設備工事立会
PL. 2　西部ガス北側立会調査区遺構検出状況(東から)
PL. 3　西部ガス工事立会
PL. 4　西部ガス工事立会土層断面
PL. 5　さつま荘工事立会
PL. 6　さつま荘工事立会土層断面①
PL. 7　さつま荘工事立会土層断面②
PL. 8　出土遺物
PL. 9　出土遺物
PL.10　出土遺物

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

本遺跡の調査は、熊本駅周辺地域整備事業及び熊本駅帯山線・熊本駅城山線緊急道路整備事業（新幹線開通前に熊本駅周辺の道路の拡張、歩道橋の新設、駅前広場の整備、市電の付け替えなどの事業）に伴う事前の記録保存を目的とした二本木遺跡群春日地区第９次及び第10次発掘調査である。

事業の実施に先立ち予定地内が二本木遺跡群の中に含まれ、埋蔵文化財が存在する可能性が高いことから、確認調査を実施した。その結果、古代、中世の遺構や遺物が発見され、遺跡の存在が確認された。その後、埋蔵文化財の発掘調査が必要な範囲を確認し、熊本県土木部と協議を重ねた上で、調査を行う運びとなった。

Tab.1　二本木遺跡群調査区、調査次数【熊本県調査】

地区名	調査次数	事　業　名	調査年度	担当者
春日地区	1	熊本駅北部線街路改良事業	H12	坂口
春日地区	2	熊本駅北部線街路改良事業	H13	帆足
春日地区	3	熊本駅北部線街路改良事業	H14	河野
春日地区	4	熊本駅北部線街路改良事業	H15	宮崎
春日地区	5	熊本駅北部線街路改良事業	H16	松村
春日地区	6	九州新幹線建設事業	H17、18	長谷部、吉田
春日地区	7	熊本駅北部線街路改良事業	H18	岡本
春日地区	8	熊本地方合同庁舎新営工事	H18、19	坂田、亀田
春日地区	**9**	**熊本駅周辺整備事業**	**H20、21**	**岡本**
春日地区	**10**	**熊本駅帯山線・熊本駅城山線緊急地方整備事業**	**H21**	**後藤**
春日地区	11	熊本駅周辺立体交差事業	H21	岡本
春日地区	12	熊本地方合同庁舎A棟新営工事	H21	亀田
春日地区	13	熊本駅周辺立体交差事業	H22	岡本
春日地区	14	九州新幹線建設関連事業	H22	長谷部
春日地区	15	熊本駅周辺立体交差事業	H23	岡本

地区名	調査次数	事　業　名	調査年度	担当者
田崎地区	1	整備新幹線駅整備調整事業	H7	帆足
田崎地区	2	JR鹿児島本線・豊肥本線連続立体交差事業 九州新幹線建設工事	H15	宮崎
田崎地区	3	九州新幹線建設事業	H17、18	多賀
田崎地区	4	九州新幹線建設事業	H18	壇

地区名	調査次数	事　業　名	調査年度	担当者
二本木地区	―	―	―	―

第 2 節　調査の組織

確認調査は平成19年度、発掘調査は平成20、21年度、報告書作成及び印刷は平成22（遺物一次整理委託：㈱九州文化財研究所）、23年度に行った。

【平成19年度（2007）確認調査】

調査主体　　熊本県教育委員会
調査責任者　梶野英二（文化課長）
　　江本　直（課長補佐）
調査総括　　西住欣一郎（主幹兼調査第 2 係長）
調査事務局　宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）
　　高宮優美（主幹兼総務係長）
　　高松克行（主任主事）
調査担当　　廣田静学（参　事）、後藤克博（文化財保護主事）

【平成20年度（2008）発掘調査】

調査主体　　熊本県教育委員会
調査責任者　米岡正治（文化課長）
　　江本　直（課長補佐）
調査総括　　西住欣一郎（主幹兼調査第 2 係長）
調査事務局　宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）
　　川上勝美（主幹兼総務係長）
　　山田京子（参　事）
調査担当　　岡本真也（参　事）、布田智久（文化財保護主事）、福田匡朗（学芸員）
　　多賀晴司、藤崎正人、桑島幸平、波多野芳郎、浦辻栄治、丸吉ゆかり（非常勤職員）

【平成21年度（2009）発掘調査】

調査主体　　熊本県教育委員会
調査責任者　米岡正治（文化課長）
調査総括　　西住欣一郎（主幹兼調査第 2 係長）
調査事務局　宗村士郎（教育審議員）
　　辛川雅弘（主幹兼総務係長）
　　山田京子（参　事）
調査担当　　後藤克博（文化財保護主事）、岡本真也（参　事）
　　多賀晴司、藤崎正人、稲葉洋一（非常勤職員）

【平成22年度（2010）報告書作成】

調査主体　　熊本県教育委員会
調査責任者　小田信也（文化課長）
調査総括　　西住欣一郎（主幹兼調査第 2 係長）
調査事務局　宗村士郎（教育審議員）
　　元島　茂（高校教育課課長補佐兼総務係担当）
　　山田京子（参　事）
整理担当　　岡本真也（参　事）

【平成23年度（2011）報告書作成】

調査主体　　熊本県教育委員会

調査責任者　小田信也（文化課長）

調査総括　　西住欣一郎（主幹兼調査第２係長）

調査事務局　川上勝美（課長補佐）

水元敬浩（高校教育課主幹兼総務係長）

山田京子（参　事）

整理担当　　岡本真也（参　事）

佐藤淳子、加藤早織、江見恵留、多賀晴司（非常勤職員）

調査指導及び協力者（順不同・敬称略）

松下孝幸、松下真実、沖田絵麻（下関市人類学ミュージアム）、山本信夫（山本考古研究所・早稲田大学客員准教授）、亀井明徳（専修大学名誉教授）、下村　智（別府大学教授）、小畑弘己（熊本大学教授）、北村直司（熊本市立熊本博物館）、西川妙輝（清水寺住職）、美濃口雅朗、網田龍生、金田一精、岩谷史記、原田範昭、山下宗親、林田和人、中里伸明（熊本市教育委員会）、藤本貴仁（宇土市教育委員会）、荒木隆宏（玉名市教育委員会）、野田拓治、西住欣一郎、坂田和弘、廣田静学、木村元浩、山下義満、馬場正弘、長谷部善一、亀田　学、中村幸弘、藤崎正人（熊本県教育庁文化課）

第３節　調査の過程

本調査は平成20年（2008）４月23日から平成21年（2009）８月７日まで行った。

各調査区の作業工程はTab.2のとおりである。

Tab.2　二本木遺跡群　作業工程表

2008～2009年		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東横イン		21日～	8日（中断）	18日～				17日調査終了					
市電	北		7日～				中断	26日～			5日調査終了		
	南下		7日～			6日							
	南上				28日～		中断		12日～		5日調査終了		
さつま荘	1区				28日～				4日調査終了				
	2区				28日～				10日調査終了				
	3区				28日～				10日調査終了				
	4区				28日～				10日調査終了				
西部ガス	1区								11日～		16日		
	2区								11日～		16日		
	拡張区												2日～9日
駅前	1区										14日～	9日	
	2-1、2-2区												3日～25日
	立会い										27～28日		
	下水道掘削											2～12日	

2009年		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
市電	北拡張		2～12日							
駅前	3-1区		7日～	7日						
	3-2区			15日～	24日					
	3-3区			8日～	24日					
	3-4区					3、4、6、7日				

第２章　位置と環境

第１節　遺跡の位置と地理的環境

熊本平野は、熊本県の中央部に位置し、市域の西側は島原湾（有明海）、東方には阿蘇火山、北西部には金峰火山を望み、島原湾と内陸部とを隔てている。また、南部は低地で占められ、北部・東部一帯には台地（火砕流台地や河成段丘）が広がり、これらは東方へ高度を増し、阿蘇火山の西側外輪山斜面へと続いている。

二本木遺跡群は、白川下流右岸の沖積地に広がる標高約８～10mの微高地に立地し、南北約1.65㎞、東西約0.9㎞の範囲に広がっている。

本遺跡群は、旧来の遺跡名で二本木国府跡及び関連遺跡、春日町遺跡、田崎本町遺跡、古町小学校校庭遺跡、延命寺塔心礎などを含んだ遺跡群としての総称である。

今回の調査区は大きく５箇所（市電敷地、さつま荘跡地、西部ガス跡地、東横イン北側、駅前）と周辺の工事立会い区に分かれており、明治初期の春日村絵図と比較してみると、「前原」「新屋敷」「久末屋敷」「春日屋敷」という旧小字名内に位置すると考えられる。

第２節　遺跡の歴史的環境

ここでは二本木遺跡群が所在する熊本平野を中心に各時代の歴史的環境を概観してみたい。

【旧石器時代】（～約13,000年前）

現在、熊本県下には300を越える旧石器時代の遺跡が確認されている。河川流域に集中しており、その中でも白川を中心とする阿蘇外輪山一帯や球磨川上流域を中心とする球磨盆地一帯などが特に集中した地域である。

現在、熊本市（旧城南町、富合町、植木町を含めて）には17遺跡以上が確認されている。熊本平野を囲む託麻台地や金峰山系の丘陵地、その中でも石の本遺跡８区の後期旧石器初頭の石器群（刃部磨製石斧、台形様石器、鋸歯縁石器、ピックなど）は、日本でも最古級の石器群として位置付けられている。（包含層出土の木炭による放射性炭素年代で約32,000年前を示す。）

【縄文時代】（約13,000年前～2,300年前）

熊本平野周辺の縄文時代は、草創期を除き、各時代にわたる遺跡が存在している。

早期の押型文土器が出土する遺跡は、丘陵の裾や台地の縁辺に位置しているものが多い。竪穴住居跡が検出された庵ノ前遺跡がある。

前期になると中九州に広くみられる現象であるが、遺跡の数も少なく、規模も小さくなる。

縄文時代前期には気候の温暖化に伴い海水面が現在より３～５ｍ上昇（縄文海進）し、その後も気候の変動によりわずかな海進、海退を繰り返している。中期から後期はじめまでは縄文海進期の影響を受けて、熊本平野の奥地にまで貝塚が形成される。阿高貝塚、黒橋貝塚、御領貝塚、沼山津貝塚、カキワラ貝塚（嘉島町）、辺田見貝塚（御船町）などがその好例である。

後期になると中九州の縄文時代の遺跡は急激に増加する。その初頭には中期から継続して阿高式系の土器が作られていたが、新しい磨消縄文文化も伝来する。中葉になると磨消縄文文化が鐘ヶ崎式土器として定着する。それから中九州独特の北久根山式土器なども生み出され、太郎迫式まで磨消縄文文化が継続する。後葉になると、三万田式以降黒色磨研土器が作られ、晩期前半まで数多くの大規模集落を構成することとなり、

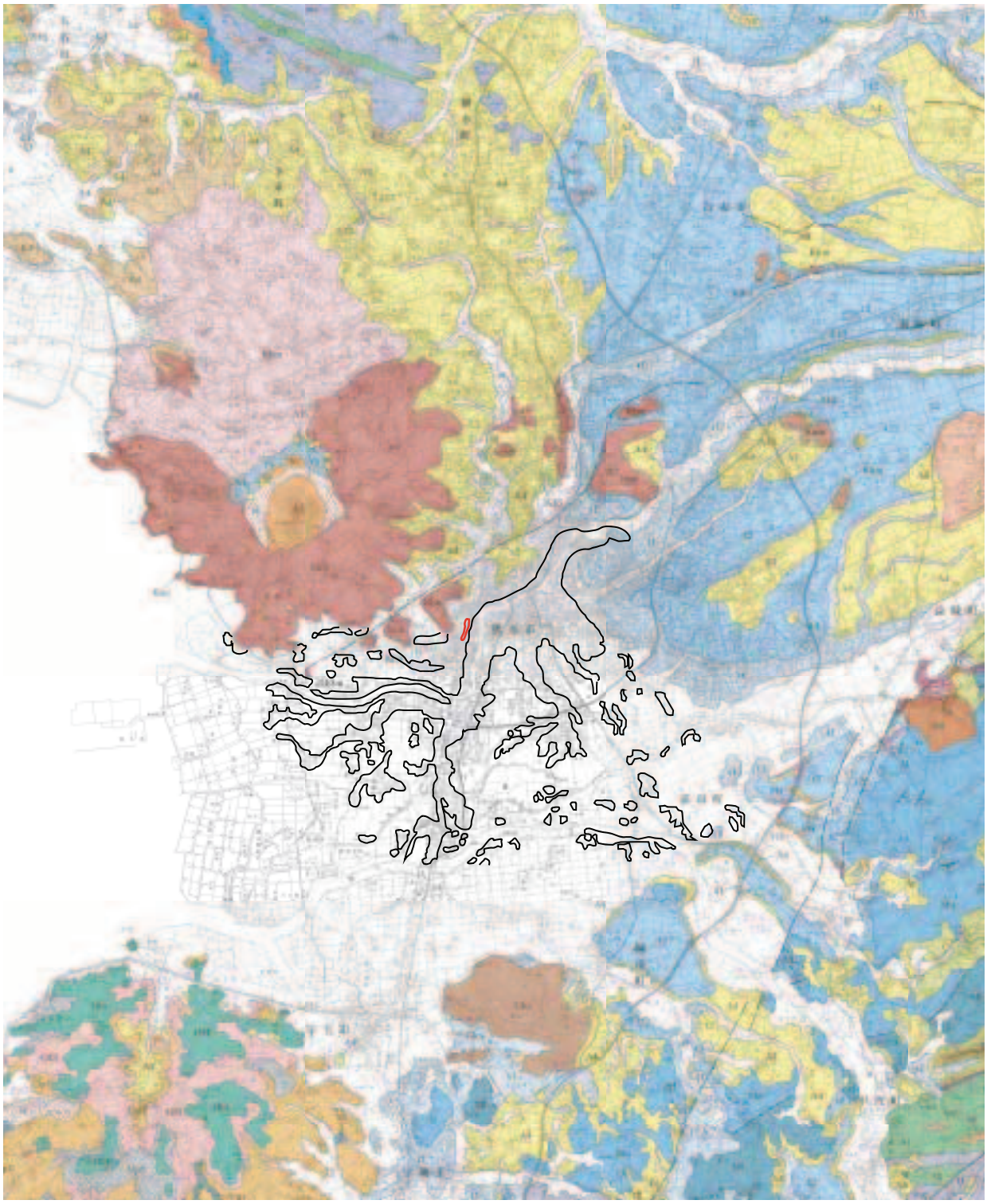


Fig.1　熊本市周辺の地質図　**熊本県地質図（10万分の1）説明書（2008）より加筆引用**

凡例

A4：阿蘇−４火砕流堆積物　Kbo：金峰火山古期噴出物　A13：阿蘇－1～3火砕流堆積物　t1：低位段丘堆積物　t2：中位段丘堆積物
Ki：金峰火山新期堆積物　Ys：芳野層　ta：崖錐堆積物　Kbm：金峰火山中期噴出物　Kum：熊本層群　Ai：赤井火山（砥川溶岩）
Mu：御船層群上部層　FH：布田層・花房層　MI：御船層群下部層　vg：苦鉄質火山岩類　cc：結晶質チャート　um：超苦鉄質岩類
Gks：雁回山層　Oll：大岳古期輝石安山岩溶岩　Ol3：大岳新期角閃石安山岩溶岩　Ol4：大岳新期輝石安山岩溶岩
Opl：大岳新期角閃石安山岩火砕岩　Op2：大岳新期輝石安山岩火砕岩

○の範囲は調査地、○の範囲は自然堤防の範囲を示す。

Fig.2　二本木遺跡群周辺遺跡分布図（S=1/25,000）　※今回の調査地点：

Tab.3　周辺遺跡一覧表
熊本県（43）熊本市（201）

番号（市）	番号（県）	遺跡名称	備考
9		柿原羽山尻遺跡	
10		経塚遺跡群	経塚古墳群・柿原美女尻甕棺遺跡
11		柿原宮ノ原廃寺	
12		池亀遺跡	
13		本妙寺Ａ箱式石棺群	
14		本妙寺Ｂ箱式石棺群	
15		本妙寺北遺跡	
16		井芹城跡	
17		井芹遺跡（井芹甕棺遺跡）	
18		中尾丸城跡	
19		牧崎遺跡（牧崎甕棺遺跡）	
20		島崎遺跡	
21		小山田遺跡	
22		釣耕園・叢桂園・百梅園跡	いずれも市指定史跡
23		石上原遺跡	
24		千原台遺跡群	千原台遺跡・城西小学校敷地内遺跡・消防学校遺跡
25		迎田遺跡	
26		野添平遺跡	
37		池田町遺跡（池田小学校遺跡）	
38		津浦一ノ谷横穴群	
39		一ノ谷遺跡	
40		稗田横穴群	
41		舟場遺跡	
42		舟場山古墳	
43		打越遺跡群	打越城跡・打越甕棺遺跡
44		打越貝塚	
45		京町台遺跡群	伝赤尾丸城跡・熊本営林局構内弥生式土器出土地
46		寺原横穴群	
47		京町２丁目遺跡	
48		伝大道寺跡遺跡群	伝大道寺跡を含む
49		内坪井遺跡	
51		夏目漱石内坪井旧居	市指定史跡
52		藤園中学校校庭遺跡	
53		熊本城跡遺跡群	熊本城跡・古城横穴群・千葉城横穴群・磐根橋際横穴群・茶臼山廃寺跡・藤崎宮跡・段山
54		熊本城跡	国指定重要文化財・国指定特別史跡
55		藤崎台のクスノキ群	国指定天然記念物
56		旧細川刑部邸	県指定重要文化財
57		新馬借遺跡	
58		船場町遺跡（新町２丁目甕棺遺跡）	
59		山崎古墳	
60		旧代継宮跡大クスノキ	市指定天然記念物
61		小泉八雲熊本旧居	市指定建造物
62		辛島町遺跡	
63		古町遺跡（中唐人町遺跡）	
64		戸坂遺跡	
66		吉祥寺横穴群	
67		花岡山・万日山遺跡群	花岡山箱式石棺群・万日古墳・万日山東古墳・万日山山頂古墳・万日山古墳参考地・妙解寺跡
68		花岡山陸軍埋葬地	市指定史跡
69		熊本藩主細川家墓所（妙解寺跡）	国指定史跡
70		熊本藩主細川家墓所（妙解寺跡）	国指定史跡
71		細川忠利公火葬の地	市指定史跡
72		北岡神社境内古墳	
73		北岡横穴群	
74		石塘遺跡（白川橋遺跡）	
75		**二本木遺跡群**	**二本木国府及び関連遺跡・春日町遺跡・田崎本町遺跡・古町小学校校庭遺跡・延命寺塔心礎**
76		八島町遺跡	
77		道城方遺跡	
78		南新宮遺跡	
92		新屋敷遺跡	
95		本庄遺跡（熊大病院敷地遺跡）	
96		不動院跡の六地蔵塔	県指定重要文化財（坪井に解体保存中）
97		本山城跡（本庄城跡）	
98		世安池田遺跡	
99		平田町遺跡	
105		花畑邸跡	
108		池田城跡	
111		水道町遺跡	
	548	熊本平野条里跡	
	549	熊本平野条里跡	
	550	熊本平野条里跡	

日本全体でみても人口密度の高い地域であったと考えられる。その代表的遺跡として、鶴羽田遺跡、四方寄遺跡、太郎迫遺跡、上南部遺跡、健軍上ノ原遺跡などが挙げられる。また、この時期には土偶や石棒など、祭祀に用いられたと考えられる遺物も数多く出土する様になる。

晩期前半は後期末葉から引き続き大規模遺跡がみられたが、中葉から後葉になると遺跡の数が激減し、その規模も小さくなる。黒川式土器以降みられるこの特徴は、次の新たな弥生文化の胎動期かとも考えられる（冨田　1996）。

熊本市城南町の浜戸川周辺には黒橋貝塚（縄文中期～後期）、阿高貝塚（縄文中期～後期）、御領貝塚（縄文後期）などが集中している。本遺跡群には部分的に縄文時代晩期の包含層があり、土器片や石器類が出土しているが、同時期の遺構は確認されていない。

【弥生時代】（約2,300年前～1,700年前）

弥生時代前期の遺跡は、近年熊本市立泉ヶ丘小学校のプール改修工事に先立ち調査がされ、報告書が刊行された江津湖遺跡群が、有名である。早期後半～前期初頭に位置付けられる墓地群で、土壙墓103基・甕棺・壺棺6基が確認された（金田　2005）。その他には黒髪町遺跡群、新屋敷遺跡群、御坊山遺跡などがあり、いずれも海や河川流域に位置している。このことは弥生文化が有明海を通して伝播した可能性が高いことを示唆するものと考える。

中期前半では、八ノ坪遺跡から熊本県内初となる青銅器の鋳型等、護藤遺跡群から朝鮮系無文土器等、白藤遺跡群から甕棺群が検出されている。前半期の中でも八ノ坪遺跡群→護藤遺跡群→白藤遺跡群という時期的変遷が捉えられる。(1)

中期後半～後期初頭は、甕棺墓を主体に展開する。黒髪町遺跡、大江白川遺跡群、神水遺跡、白藤遺跡群、八島遺跡などが挙げられる。

後期中葉～後葉は、本遺跡群の南側（田崎1丁目）、八島遺跡、石神原遺跡（島崎4丁目）、道城方遺跡（蓮台寺町、二本木4丁目）、上高橋高田遺跡などで遺物や遺構が確認されている。

【古墳時代】（約1,700年前～1,400年前）

古墳の原形といわれる周溝墓は、広木町・水源町一体に見られ、方形周溝墓と円形周溝墓が密集している。4世紀から7世紀頃にわたる高塚式古墳は西山に多く、その中には千金甲・稲荷山・富ノ尾のような装飾古墳も含まれている。いずれも幾何学文様の装飾を彩色しており、富ノ尾古墳にはかつて石人もたてられていた。古墳時代終末期の小円墳は立田山麓に多く分布し、横穴墓も立田山麓をはじめとする白川の崖線および京町台地の凝灰岩の崖面に多い（鈴木　1987）。つつじヶ丘横穴墓群や古城横穴墓群などが有名である。二本木遺跡群の隣接地には古墳時代終末期の万日山古墳（消滅）や北岡横穴墓群があり、万日山・花岡山周辺は、葬送の地と考えられる。

【歴史時代】（約1,400年前～　）

古代は、律令体制の導入に伴い、肥後国においても行政組織の整備、条里の施行が進められ、その影響が周囲に及んでくる。

7世紀後半～8世紀初頭には託麻郡家と推定される渡鹿A遺跡（大江遺跡群）、8世紀前半には渡鹿廃寺（大江遺跡群）が創建されている。

8世紀中葉～後半になると国分寺、国分尼寺が創建され、また託麻国府の設置や駅路の整備もその前後になされたと考えられる。大江遺跡群、黒髪町遺跡群においては南北に延びる西海道跡が検出されており、加えて黒髪町遺跡群は蚕養駅跡に推定されている（美濃口　2002）。現状では託麻郡内において官衙域として想定しえるのは神水遺跡第1次調査区である（原田・金田　2008）。

二本木遺跡群が所在する春日周辺は、「和名抄」による飽田郡の私部郷に比定される（鈴木　1987）。

当遺跡群は、以前から国府推定地として注目を集めてきた。その根拠として①『伊呂波字類抄』に「飽田府」と記されていること、②『拾芥抄』の「飽田」・「益城」2郡に「府」という記載があること、③「古府中」「在庁屋敷」「国造小路」「室小路」「車屋敷」など国府に関連する地名が集中することが挙げられる（原田・金田　2008）。

また、『続日本後紀』では承平4年（847）に肥後国飽田郡の建部一族が平安貴族と関係を持ったこと、『三代実録』では貞観3年（861）に飽田郡司建部公が11階昇進という異例の抜擢を受けたという功績が国府の移った後、祇園社・藤崎八幡宮の勧進を根拠に930年までには飽田に移ったと想定している。

国府の移転については5人の説がある。①平野流香氏は託麻から飽田への国府移転を述べ、「大同」（806～809）記年の瓦や延命寺の心礎の存在を根拠に「少なくとも平安朝前期には飽田の国府が存在した」とされる。②松本雅明氏は、考古学的資料は得られていないが、古代史の立場から9世紀中頃に詫麻国府から移転したとしている。③木下良氏は、歴史地理学の立場から9世紀中頃に詫麻国府からいったん益城郡に移り、その後11世紀初頭に飽田郡に移ったとした。④工藤敬一氏は中世史の立場から、貞観11年（869）の大水害によって詫麻国府は廃絶し、益城郡に飽田に移ったと想定している。⑤佐藤伸二氏は、益城国府と飽田国府の間に、二本木遺跡群と白川を挟んで対峙する熊本市十禅寺町に12世紀末から13世紀にかけての国府を想定している。

これらの諸説および市第13次調査区の発掘調査成果等の考察に基づき、8世紀前半：託麻？→8世紀中頃～9世紀：飽田（二本木）→9世紀後半？～10世紀初：益城（城南町新御堂遺跡？）→10世紀前半～：飽田（二本木遺跡群古府中〔こふちゅう〕〔二本木2丁目〕付近）という変遷が提示されている（原田・金田　2008）。

鎌倉期になると、飽田郡には飽田郷・立田郷・鹿子木荘・活亀荘・河尻荘、託麻郡には安富荘・神蔵荘・六箇荘などが現れてくる。託麻郡内の大荘園は神蔵荘で、江津湖以西の部分を占め、さらに同荘の西側には安富荘があり、安富本荘がその中心地で、現在の本荘町がその地にあたり、神蔵・安富両荘の地頭は詫摩氏であった（鈴木　1987）。当時の二本木遺跡群周辺は、この詫摩氏の支配下に置かれたものと考えられる。白川左岸には本山城跡（本山2丁目）があり、詫摩氏の居城と伝えられる中世城がある。

鎌倉期に入って建立された寺院には、川尻の大慈禅寺と大江の往生院がある。大慈禅寺は順徳天皇第3皇子の寒巌義尹が、河尻荘の地頭河尻泰明の外護によって弘安5年（1282）に建立した寺院で、義尹の頂相と文書は義尹文書として国重文に、石層塔・宝塔・宝篋印塔などは県重文に指定されている。

近世に入り、加藤清正は肥後入国後、豊臣秀吉の命によって検地を実施し、また、土木・治水工事に力を入れ、白川筋・緑川筋の改修を開始した。清正は慶長5年（1600）の関ヶ原の戦では東軍につき、西軍の中心となった小西行長の宇土城・八代城を攻略し、次いで小西領を合わせて領することとなった。

清正の茶臼山新城の築城開始時期は明らかではないが、同12年（1607）熊本城が完成している。

慶長16年清正の死後、子の忠広が相続したが、幼少のため幕府の厳しい介入のもとでの統治が行われた。寛永9年（1632）加藤家は取り潰され、豊前小倉から細川忠利が就封した。以後細川氏は明治維新まで12代240年余肥後を統治する（鈴木　1987）。

加藤清正による城下町整備に伴い、二本木遺跡群をはじめ周辺遺跡の状況は大きく変化する。16世紀末における古府中から古町への町屋移転によって、二本木遺跡群周辺（古府中）では急激に遺構・遺物が減少し、移転先の古町遺跡では近世前期以降の遺構・遺物が急増する。ただし、二本木遺跡群周辺での生活が途絶えるわけではなく、近世を通じて遺構・遺物は存在する。現在遺跡内を坪井川が南北に貫流しているが、中世末まで白川に合流していたものを加藤清正が熊本城下整備の一貫として治水のために石塘を築き、白川から分流させた人口流路であるとされる（原田・金田　2008）。

熊本城下は白川の右岸に構成され,城内の二の丸･三の丸は重臣の邸宅にあてられ、城の北側の京町台地か

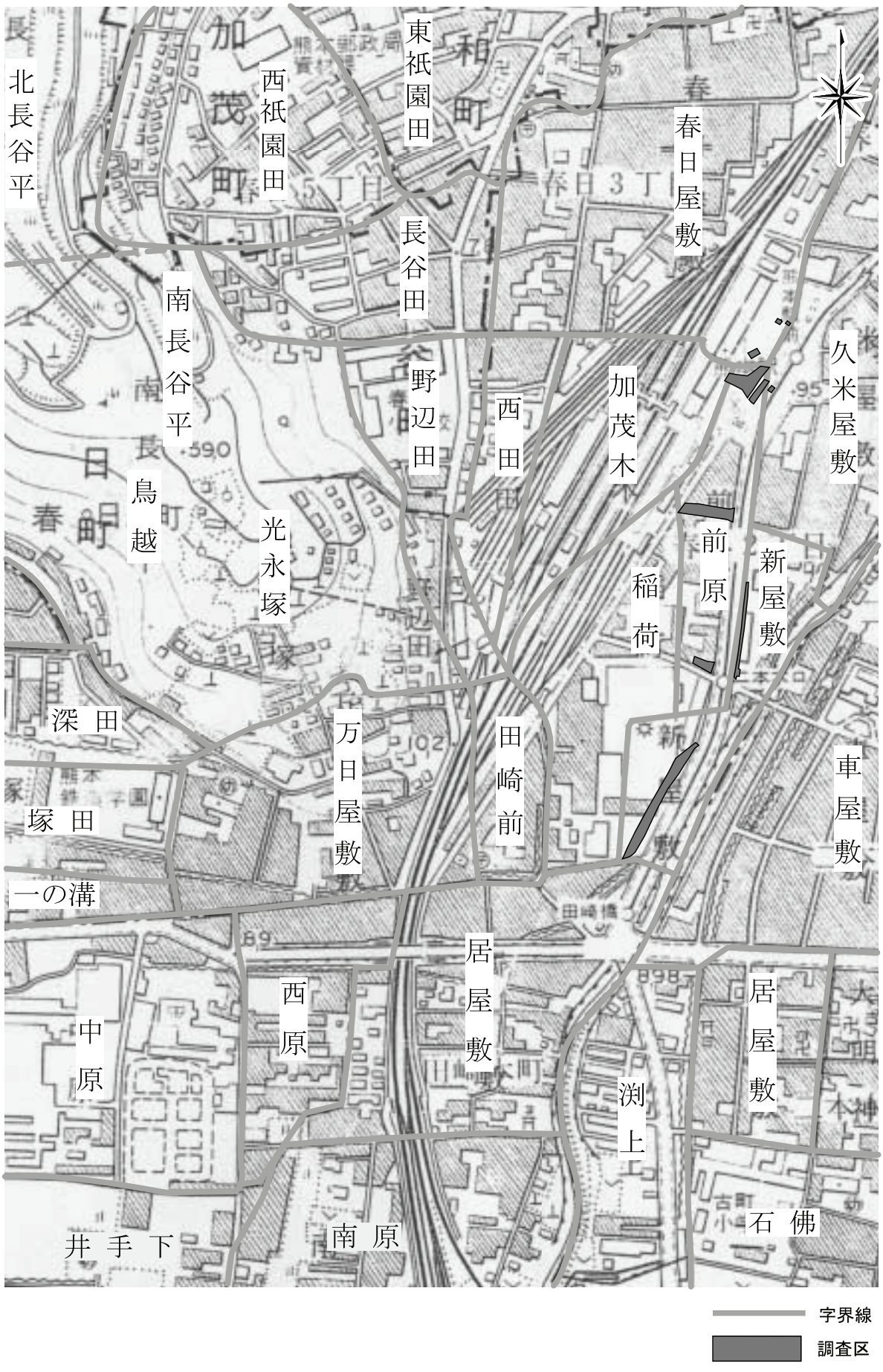


Fig.3　調査区周辺町字界図（『二本木Ⅴ』2008より加筆引用）

ら東面の坪井・子飼・千反畑・上林・手取・高田原一帯に侍屋敷が配置された。城の南手には古町と呼ばれる町屋、南西部には新町の町屋が並び、さらに坪井にも町屋が設けられた。城下の外郭は水濠と土居で囲まれ、城下から外への出口には番所が設けられ、夜間は門を閉じる決まりであった。城下町は、はじめその職種によって同業者を同じ地域に集めたため、古町には細工町・板屋町・鍛冶屋町・米屋町・魚屋町・紺屋町・大工町・呉服町・桶屋町・など、新町には塩屋町・檜物屋町・瓶屋町・鳥屋町・職人町・桶屋町・魚屋町など、坪井には米屋町・魚屋町・八百屋町・職人町・鳥町などがあったが、幕末になると本格的な職種に必ずしも拘束されなくなっている（鈴木　1987）。

熊本城下への日常生活必需品は主に海路で高橋港に運び込まれ、坪井川を経て輸送された。そのため高橋にも多くの運送業者や商店が軒を並べ、幕末にはさらに下手の小島が物資搬入保管の港町として栄えた。南の川尻も加藤氏の時代から藩の米倉庫が設けられ,緑川流域の年貢米が集積され、多くの労働者が集中し、そのにぎわいに拍車をかけた。年貢米を運んできた船は、帰りに農業および日常生活に必要な道具類を買い入れたため、川尻は刃物と木製品の製造ならびに木造船の製作が盛んで、高橋とともに五ヶ町のうちに加えられ商業の中心地ともなった。

肥後藩における地方行政単位として手永制度が用いられていた。手永は郡と村の中間にあって、数村あるいは数十村を一つの単位とする行政単位であった（池上　2004）。当時の二本木遺跡群周辺の春日村、田崎村、古町村は、飽田郡横手手永に属していた。

熊本市町字界図によれば、調査区は春日町に位置し、「春日屋敷」「加茂木」「久末屋敷」「前原」「車屋敷」「新屋敷」の一部に当たる。明治初期の熊本県管轄肥後国飽田郡春日村の図によれば調査区の土地利用は宅地や耕地であったと考えられ、少なくとも近世後期までは同じような土地利用状況であったと推定される。

明治時代になり二本木遺跡群周辺は、1891年（明治24年）７月１日に鉄道が開通し、1896年（明治29年）官営の熊本紡績会社熊本工場が誕生する（2010　坂田）。発掘調査中、部分的にレンガ造りの基礎や破片等が確認されたが、これらはこの明治期以降の一連の開発に伴う遺構・遺物と考えられる。

その後、官営の熊本紡績会社熊本工場は、1902年（明治35年）には、鐘淵紡績株式会社に統合され、1942年（昭和17年）には日華護謨工場株式会社が工場を借り受け、1950年（昭和25年）に買収し正式に月星化成株式会社（現ムーンスター）の工場となった。レンガ造りの建物群は明治から大正にかけての近代化の建物群として人々を魅了してきたが、熊本駅前再開発事業により、惜しまれながらも一部移築を残して2003年（平成15年）に解体された。熊本学園大学に移築された建物は、2004年（平成16年）国の登録有形文化財（第43－0072号）に登録された。

〔註〕

（1）熊本市文化財課の林田和人氏のご教示による。

第３章　調査の概要

第１節　調査の方法

本調査に先立ち平成19年度（2007）に事業予定地内において確認調査が可能な場所に任意に９箇所のトレンチを設定し、重機を用いて遺跡の確認調査を実施した。その結果古代～中世の遺物や遺構が確認され、事業予定地が本調査対象範囲となった。（第７節Fig１）

調査方法は、５m四方のグリッド法を採用した。

まず、５つの調査区約3,000㎡【東横イン北側調査区（道路新設）：約200㎡、さつま荘跡地調査区（道路拡張）：約200㎡、市電敷地（市電敷地及び水路新設）調査区：約700㎡、西部ガス跡地調査区（道路拡張）：約200㎡、駅前調査区（歩道橋の基礎及び駅前広場覆いの基礎工事）：約200㎡】について表土層及び撹乱層までを重機で除去した後、必要に応じて土層観察用ベルトを残しながら、人力で掘り下げていく方法をとった。

レベル及びグリッド設置は、熊本県土木部から情報提供を受けた４級基準点を基に日本測地系の国土座標に合わせて南北・東西方向に設定し、（株）有明測量開発社への業務委託で行った。

最初に調査着手した東横イン北側調査区の北西部を基準に東西軸は西からアルファベット（Ａ～）、南北軸は北から南へアラビア数字（１～）を用いて表記している。しかし、この枠に入らない東横イン北側調査区より北に位置する駅前調査区の南北軸は－１、－２、・・と、西に位置する東西軸は市電敷地調査区Z^{2}、Y^{2}、・・と表記した。

出土した遺物は、必要に応じて一括取り上げまたは出土位置及び高度を記入した上で、取り上げを行った。ベルトは土層の確認をしながら遺物を取り上げた後に取り外した。存在が確認された遺構については、その都度調査を行い、全体を1／10、1／20の縮尺で実測図を作成したほか、遺構の配置を確認するための全体図としては、1／100の地形測量図を作成した。（空撮３）

また、それぞれの調査段階において、適宜モノクロとカラースライドの２種類を35㎜と中版カメラを用いて写真撮影を実施した。またデジタルカメラでの補足撮影も行った。空中写真撮影は５回行い、５調査区の完掘状況をデジタルモザイクで合成写真を作成した。（空撮３）

コンタ図は、河川周辺の土層堆積であるために調査区により若干異なり対比が困難であること、各調査区もほぼフラットであることから図化しなかった。土層断面図や遺構断面図からおおよそのレベルは読み取れるものと考える。

工事立会いは上下水道工事、通信系幹線管路埋設、街路樹の移植に伴い実施した。上下水道工事、通信系幹線管路埋設については、掘削幅が１m前後で深さも約0.5m～2mとまちまちであり、狭小のトレンチ状態で危険性が高いことから掘削深度までの遺物確認を中心に行った。掘削幅が大きく、掘削深度も深い場合は、遺構を完掘して記録保存を行った。街路樹の移植については、ほとんどが掘削深度が浅く中世・古代の包含層のレベルまで達していない場合が多かった。

層位

今回の調査における層位は、各調査区とも基本的に同じであるが、調査区により残存層の厚さが異なり、分層が可能である。大まかに述べると表土・撹乱・整地層、１層（主に近世以降の覆土）、２層（中世の包含層）、３層（古代の包含層）、４層以下（地山：無遺物層）となる。工事立会い調査区では大まかにこの土

層での遺物取り上げを行った。

各調査区の層位を以下に述べる。(Fig. 4 参照)

【東横イン北側調査区】

１層（a-0）　灰色砂質土（Hue 7.5Y 4/1～3/1：5～20㎝）
a-1とほとんど変わらない。整地層と考えられる。

（a-1）　灰色砂質土（Hue 5Y 4/1：10～20㎝）
非常にパサパサして細かいレキが点々と混じる。下面に小溝らしい落ち込みあり。 耕作土と思われる。

（a-2）　灰オリーブ砂質土（Hue 5Y 4/2～3/1：8～26㎝）
a-1とあまり変わらないがザラザラした砂が入り細かいレキが入らない。

（a-3）　灰色砂質土（Hue 5Y 4/1：10～40㎝）
a-1とあまり変わらないがザラザラした砂が入り細かいレキが入らない。

（a-4）　灰色砂質土（Hue 5Y 4/2～3/1：5～12㎝）

２Ａ層　黒褐色砂質土（Hue 2.5Y 3/1～4/1：10～14㎝）
２Ｂ層と比較して色調がやや明るい。中世の遺物包含層。

２Ｂ層　黒褐色砂質土（Hue 2.5Y 3/1～4/1：10～40㎝）
若干粘りがありパサつかない。小溝もあることから 耕作土層と思われる。中世の遺物包含層。

３Ａ層　黒褐色土（Hue 10YR 2/3：10～25㎝）土壌化が進んだ粘質を帯びた土。古代の遺物を多く含む。

３Ｂ層　黒褐色土（Hue 10YR 2/3：5～20㎝）
３Ａ層と比較してやや砂質感がありパサパサしている。下層との明確な漸位層も含む。古代の遺物を含む。

４Ａ層　褐色土（Hue 5Y 3/1～4/1：10㎝前後）
無遺物層。 きめの細かい褐色砂質土である。色調が明るい。

【さつま荘跡地調査区】

撹乱・整地層　砂利が混じり、硬くしまる層。

１　層　暗褐色砂質土（Hue10YR 3/3：30～50㎝）褐色が強い砂質土。下部は２Ｂ層ブロックを含んでおり、全体的に耕作土と考えられる。

２Ａ層　黒褐色砂質土（Hue 10Y 2/2：10～20㎝）
粒子が細かくつぶすとサラサラする砂質土。所々に上層の耕作土が筋状に入るが動植物等の作用と考えられる。３～５㎜大のカーボン、１～２㎜の褐色粒を所々に含む。中世、古代の遺物を含む。

２Ｂ層　黒褐色砂質土（Hue 10Y 2/2：15～36㎝）
２Ａ層との違いは耕作土ブロックが入らないことで他の特徴は２Ａ層と同じ。

３　層　黒褐色砂質土（Hue 10Y 2/3：20～40㎝）
粒子が細かくやわらかい。２A層より土壌化が進んでおり、つぶすとパウダー状になる。上層はやや粘性があり、下層はやや砂質気味の箇所もあるが、他の調査区の様に明確ではなかったため、分層しなかった。古代の遺物を含む。

４Ａ層　褐色砂質土（Hue 7.5Y 4/4：22㎝～）
無遺物層。 きめの細かい褐色砂質土である。場所により粘質のある箇所、酸化物やマンガンが集中する箇所と若干状況が異なる。

4 B層　暗灰黄色砂質土（Hue 2.5Y 4/2：10㎝～）
無遺物層。 きめの細かい砂層がガチガチに固まった層で色調はやや緑色気味。

【西部ガス跡地調査区】

1層（a-1） 灰色砂質土（Hue 5Y 4/1～3/1：8～30㎝）
非常に砂質土。全体的に粗いブロック状。

（a-1'）灰色砂質土（ 〃 ：10～20㎝）層厚があるが分層できない。盛土？

（a-2） 灰色砂質土（ 〃 ：8～16㎝）a-1に比べシルトが多く混ざる。色調暗い。

（a-3） 灰色砂質土（ 〃 ：8～25㎝）非常に砂質。極細砂質シルトの～10㎜ブロックが多く混ざる。

（a-4） 灰色砂質土（ 〃 ：8～20㎝）粘質土に近い。極細砂まじりシルトの～10㎜ブロックが多く混ざる。

（a-5） 黄灰色粘質土（Hue 2.5Y 4/1～3/1：10～14㎝）砂質土に近い。2層が攪拌を受ける感じの部分を除けば、層界は明瞭。やや粗めのブロック状の箇所が多い。2層に含めるべきか？

（a-5'）黄灰色粘質土（ 〃 ：14～18㎝）a-1に比べ明らかに1層で、a-4に比べ混ざりが強く層界が明瞭。

2 上層　黒褐色砂質土（Hue 2.5Y 3/1～4/1：4～8㎝）
粘りあり全体的に細粒。土壌化が強いと思われるがシルトブロックは見えない。所々に炭化物、橙色の粒、白粘土塊が入る。中世の遺物包含層。

2 黒層　黒褐色粘質土（Hue 2.5Y 3/1～4/1：10～14㎝）
粘りあり全体的に細粒。土壌化が強いと思われるがシルトブロックは見えない。所々に炭化物、橙色の粒、白粘土塊が入る。中世の遺物包含層。

2 下層　黒褐色砂質土（Hue 2.5Y 3/1：8～15㎝）
やや粘り強く細かい砂が入る。ブロック状は目立たない。中世の遺物包含層。

3 上層　灰色粘質土（Hue 5Y 4/1：10～15㎝）
全体的に4層ブロックが入る。古代の遺物を含む。

3 下層　灰色粘質土（Hue 5Y 4/1：10～20㎝）
4層上部が暗色化感じで、ややブロック状もはっきりしない。古代の遺物を含む。

4 層　褐色砂質土（Hue 7.5Y 4/4：5㎝～）無遺物層。

【熊本駅前調査区】

撹乱・客土・整地層　熊本駅整地の際に持ちこまれた万日山周辺の白色粘質土？や明治時代以降のレンガ、陶磁器片やガラスなどを含む瓦礫が多く見られる。
また、明治24年以降の熊本駅に関する遺構も含まれる。

1 層　灰色砂質土（Hue5YR 4/1：10㎝前後）粘質なくパサパサ感あり。畑畦溝に堆積している層と酷似する。耕作土と考えられる。

2 層　灰色砂質土（Hue5YR 4/1～3/1：10～20㎝）全体的に混ざっており攪拌を受けている。耕作土と思われる。中世、古代の遺物包含層。

3 A層　オリーブ黒色砂質土（Hue 5Y3/1～4/1 ：10～25㎝）
古代の遺物を含む。

3 B層　オリーブ黒色砂質土（Hue 5Y3/1～4/1 ：10～18㎝） 3 A層と 4 層の漸位層にあたる層で 3 A層と比較して色調がやや明るい。古代の遺物を少量含む。

4 A層　褐色砂質土（Hue 7.5Y 4/4：22㎝～）無遺物層。 きめの細かい褐色砂質土。

４Ｂ層　　暗灰黄色砂質土（Hue 2.5Y 4/2：10㎝～）無遺物層。やや緑色気味ガチガチに固まった砂層。

【市電敷地調査区】

撹乱・整地層　砂利が混じり、硬くしまる層。

１　層　　暗～黒褐色砂質土（Hue10YR 3/3～2/3～2/2：100～140㎝）色調がやや暗く粒子が小さい砂質土。調査区全体に広がり耕作土と考えられる。部分的に洪水層と考えられるラミナ構造の砂層の堆積が見られる。調査区の南側が特に顕著である。南側のみ耕作土（洪水層の砂層を含む）を上層から色調の違いでA,B,C,D,E層に分層した。断面から少なくとも２時期の畑畦溝の状況が観察できる。（Fig.16・Fig.18参照）耕作による掘削が深部まで及んでおり2層が観察できないことも南側の特徴といえる。

（Ａ）暗褐色砂質土（Hue 10YR3/3：40～50㎝）色調がやや明るく少ししまる。粒子は細かい。一番新しい時期の耕作土と考える。

（Ｂ）黒褐色砂質土（Hue 10YR3/2：26～30㎝）色調がやや黒く、粒子が細かい。Ａ層より軟らかい耕作土と考える。

（Ｃ）黒褐色砂質土（Hue 10YR2/2：20～50㎝）耕作土主体の砂質土に砂が混じる。畑畦溝を埋めた洪水層でもあり、その後の耕作土でもあることが、断面からが観察される。市電敷地調査区で多く確認される畑畦溝を埋め尽くした層はこの層であると考えられる。ガチガチに固まった砂層を掘り返したと考えられる拳大のブロックも所々に観察される。

（Ｄ）黒褐色砂質土（Hue 10YR2/2：10～30㎝）砂質土だが、土壌化が進んだ当時の耕作土である。

（Ｅ）黒褐色砂質土（Hue 10YR2/1：10㎝前後）細粒砂層を主体とした層。断面観察できる一番古い時期の畑畦溝に堆積した洪水層と思われる。色調が暗い。

２　層　　黒褐色土（Hue 10Y 2/2：10～20㎝）

粒子が細かく土壌化が進んだ土。粘性があり色調が黒い。中世の遺物包含層。南側には耕作の影響か見られない。

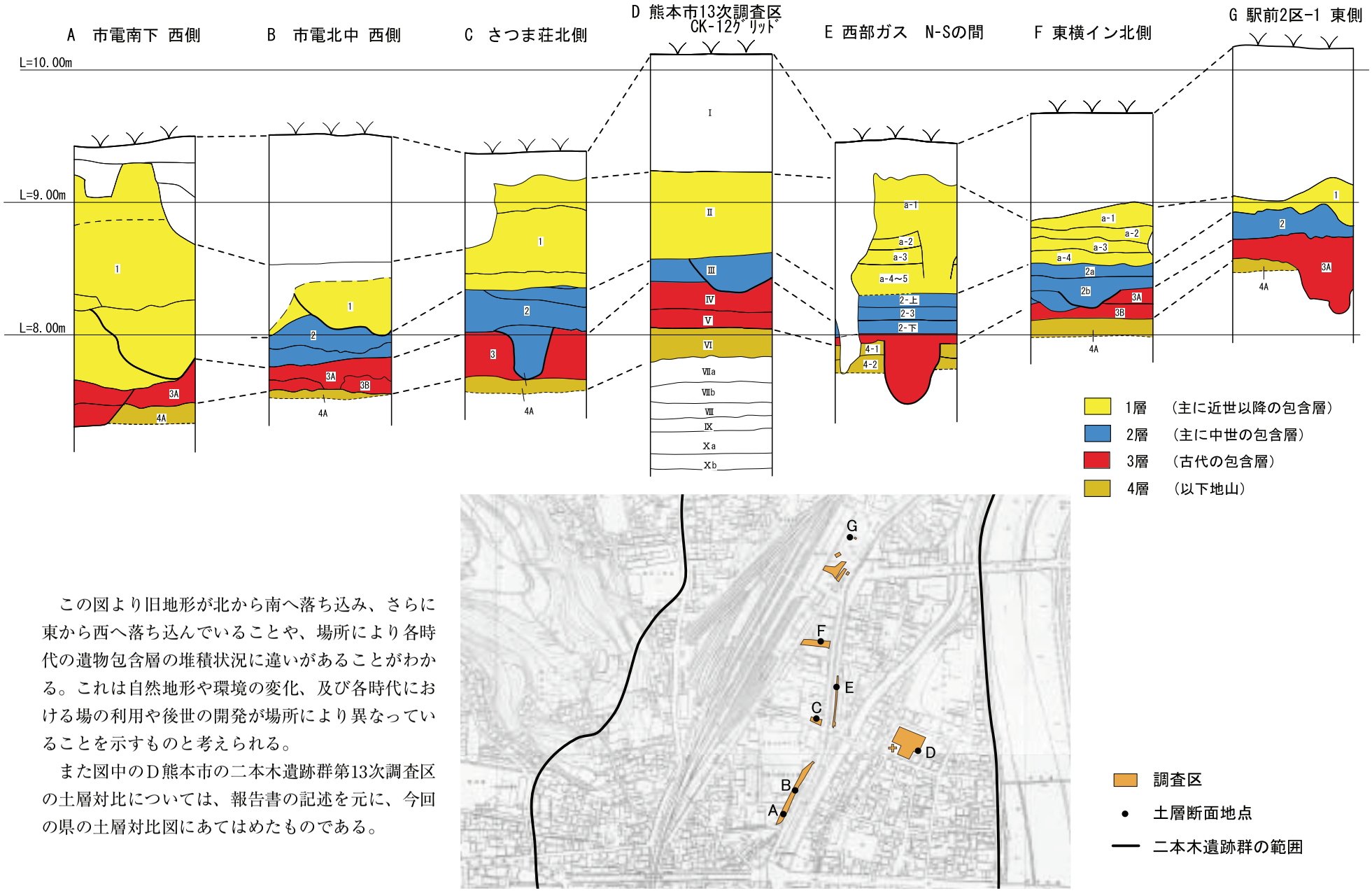
３Ａ層　　黒褐色砂質土（Hue 10Y 2/3：20～40㎝）

粒子が細かくやわらかい。２Ａ層より土壌化が進んでおり、つぶすとパウダー状になる。上層はやや粘性があり、下層はやや砂質気味の箇所もあるが、他の調査区の様に明確ではなかったため、分層しなかった。古代の遺物を含む。

３Ｂ層　　黒褐色砂質土（Hue 10Y 2/3：20～40㎝）

粒子が細かくやわらかい。２Ａ層より土壌化が進んでおり、つぶすとパウダー状になる。上層はやや粘性があり、下層はやや砂質気味の箇所もあるが、他の調査区の様に明確ではなかったため、分層しなかった。古代の遺物を含む。

４Ａ層　　褐色砂質土（Hue 7.5Y 4/4：20㎝～）無遺物層。 きめの細かい褐色砂質土。



この図より旧地形が北から南へ落ち込み、さらに東から西へ落ち込んでいることや、場所により各時代の遺物包含層の堆積状況に違いがあることがわかる。これは自然地形や環境の変化、及び各時代における場の利用や後世の開発が場所により異なっていることを示すものと考えられる。

また図中のＤ熊本市の二本木遺跡群第13次調査区の土層対比については、報告書の記述を元に、今回の県の土層対比図にあてはめたものである。

Fig.4　各調査区の土層図と地点

第２節　東横イン北側の調査

１．遺構と観察表

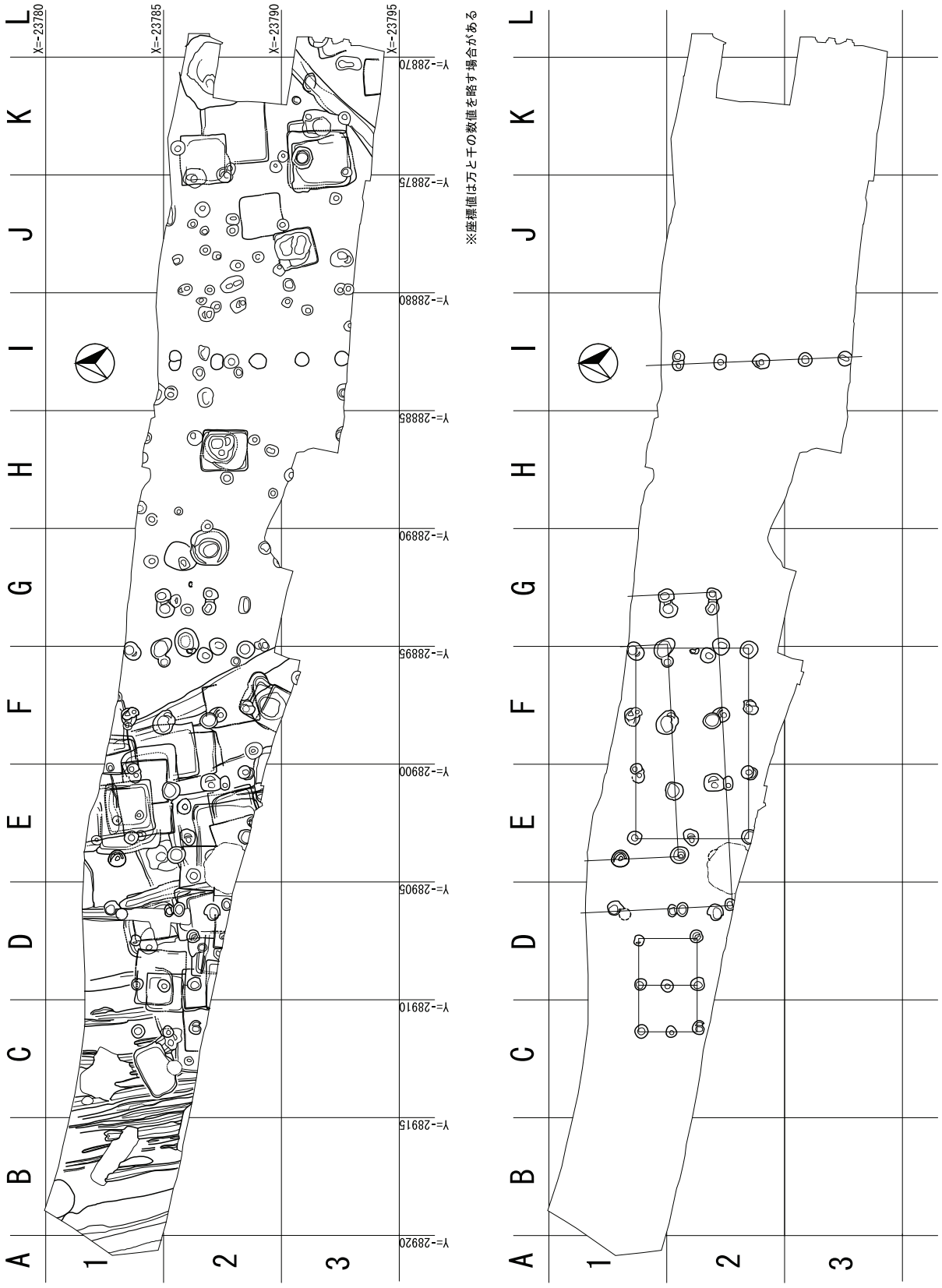


Fig.1　東横イン北側調査区全体図及びS056・060・064・098配置図（S=1/250）

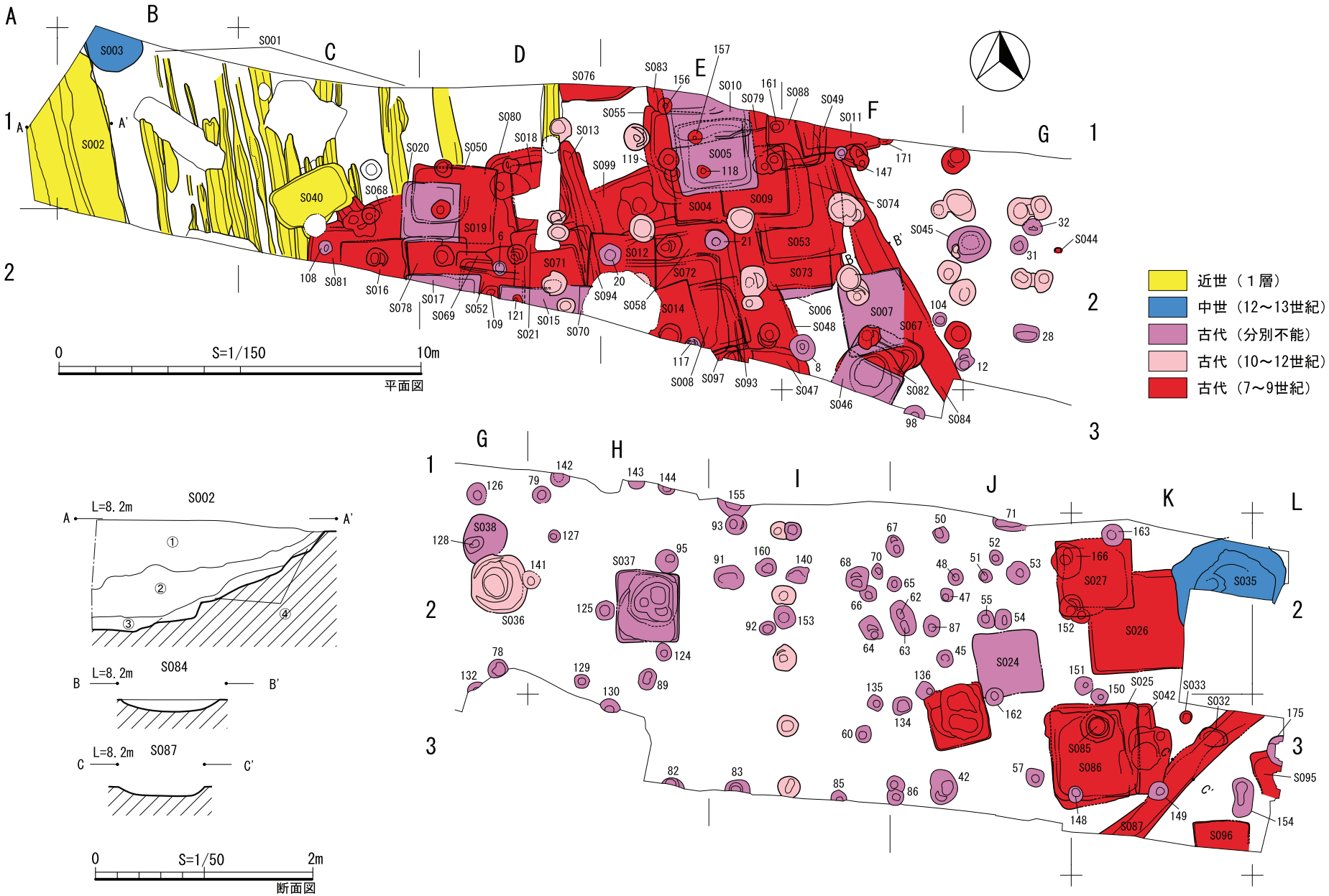


Fig.2　時期別遺構配置図及びS002・084・087（溝）断面図

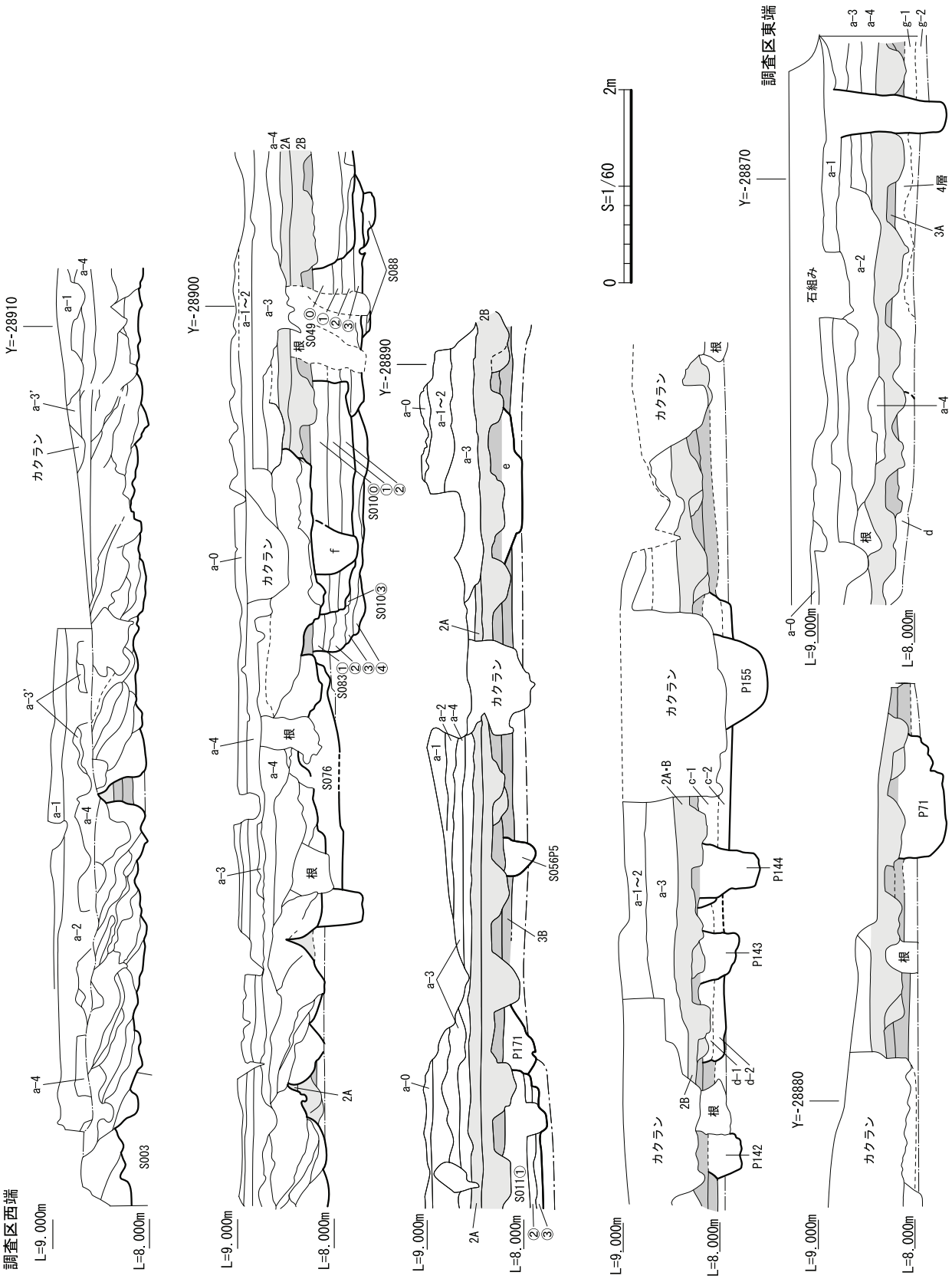


Fig.3　調査区北壁断面図

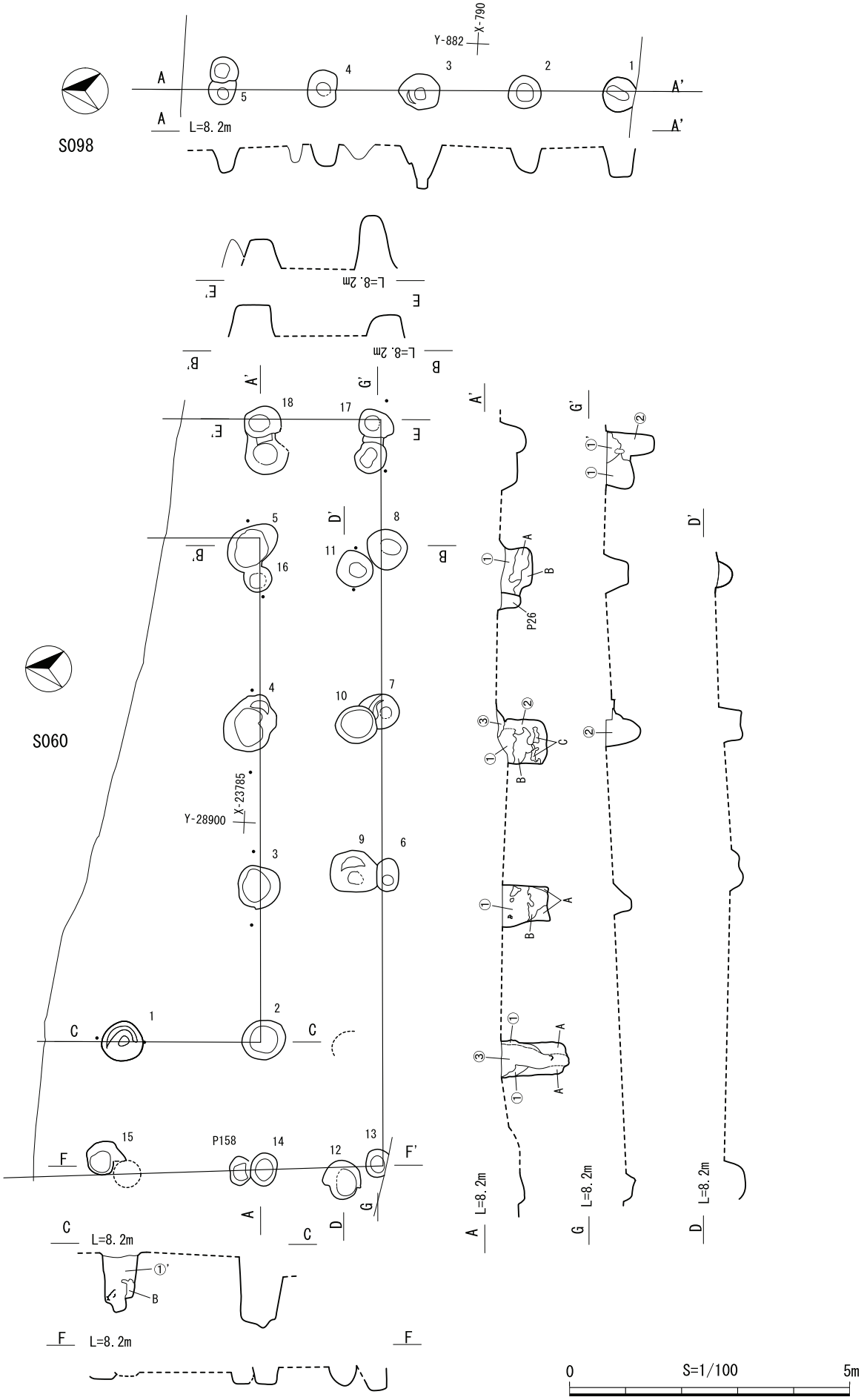


Fig.4　S060（掘立柱建物），S098（塀）実測図

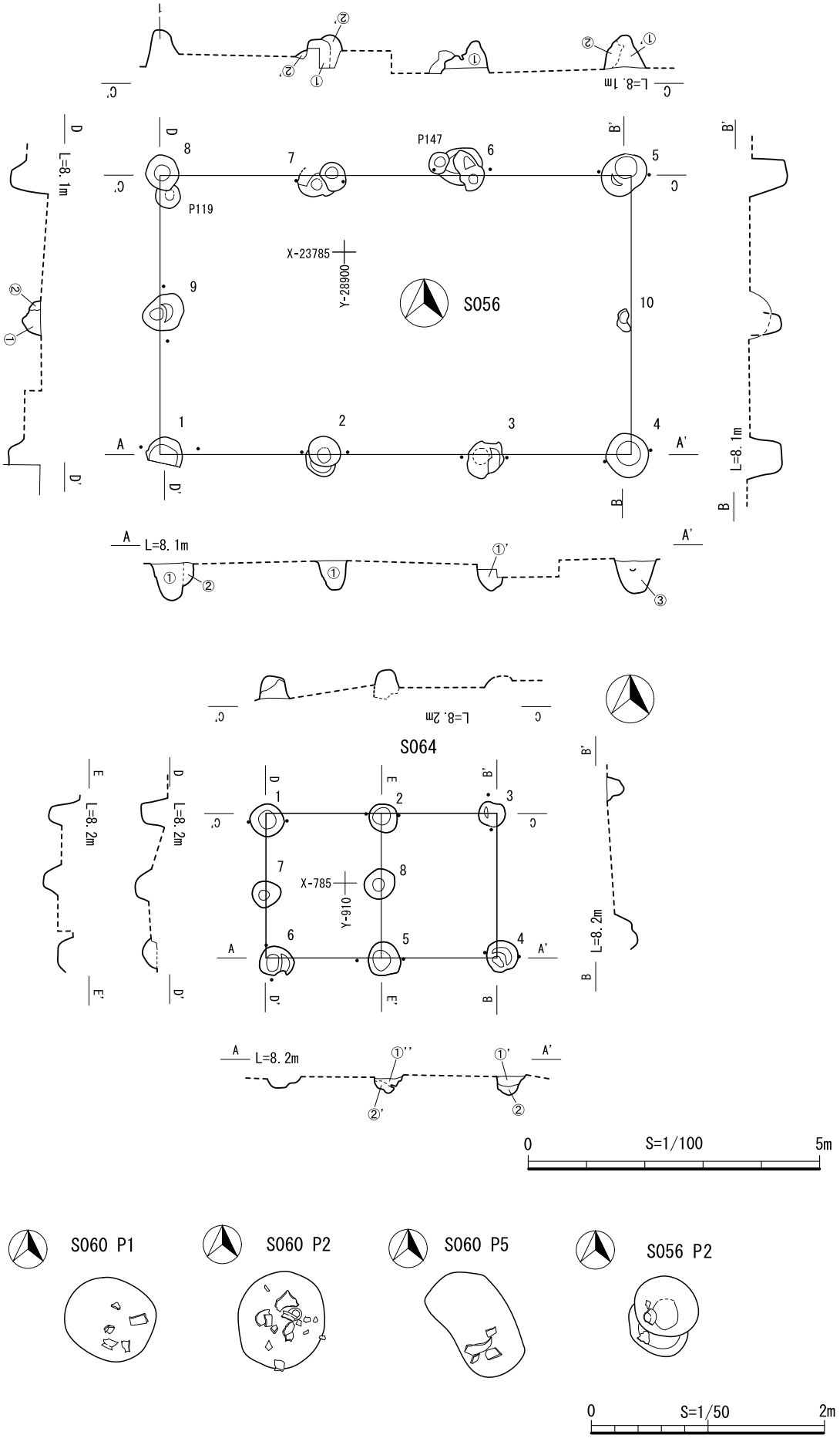


Fig.5　S056・064（掘立柱建物）実測図及びS060・056遺物出土状況

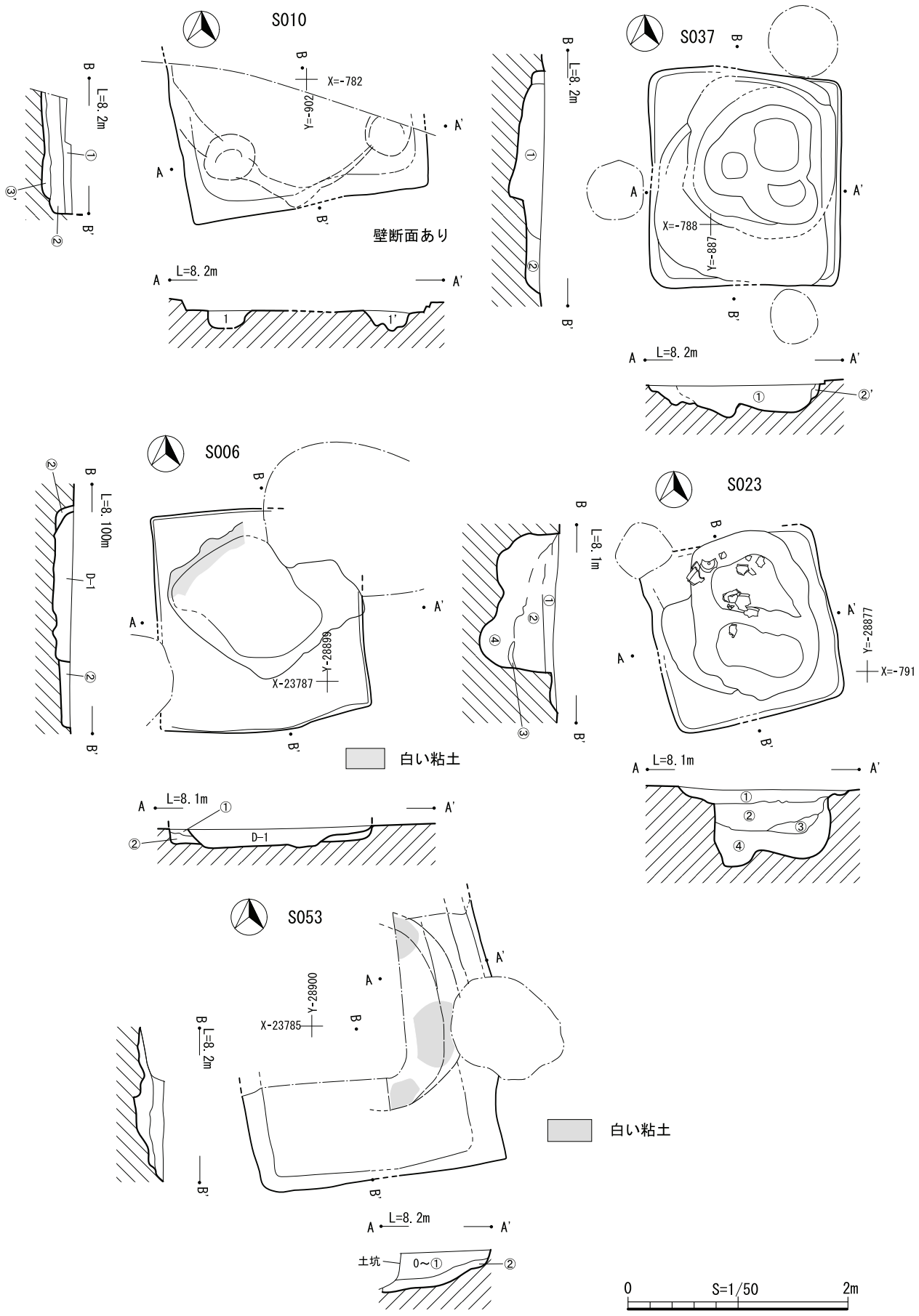


Fig.6　S006・010・023・037・053（竪穴住居）実測図

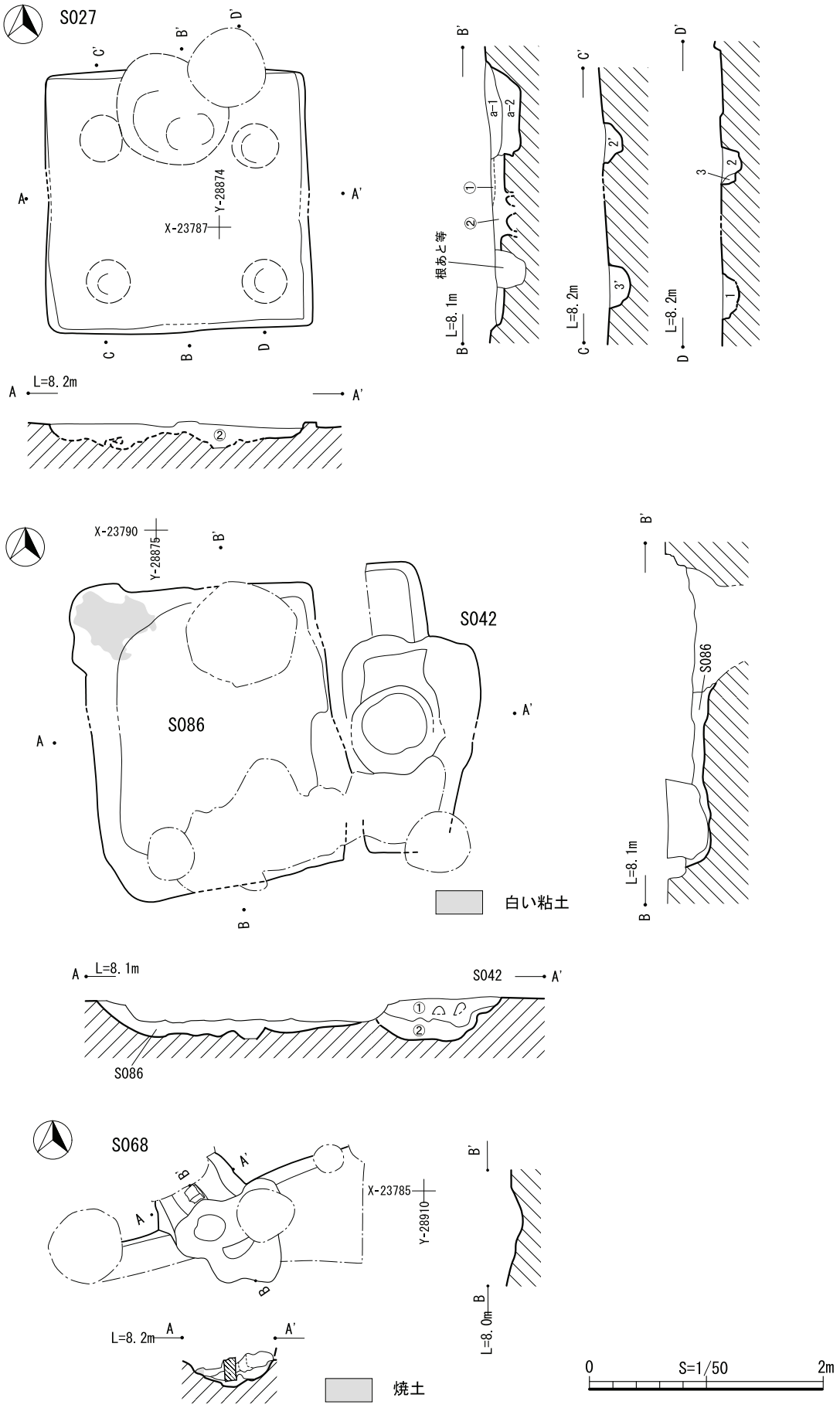


Fig.7　S027・068・086（竪穴住居）実測図

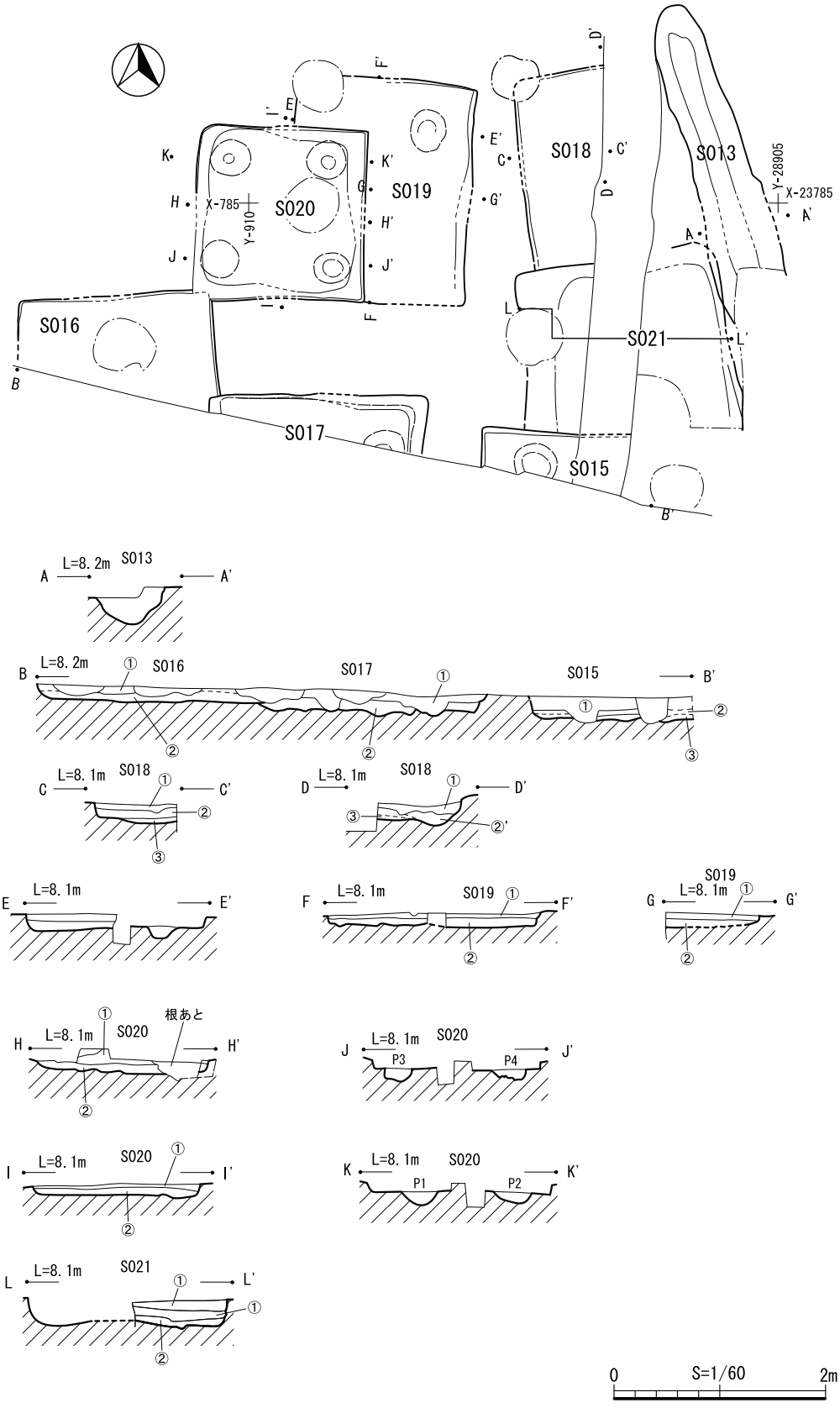


Fig.8　S013・015～021（竪穴住居）実測図

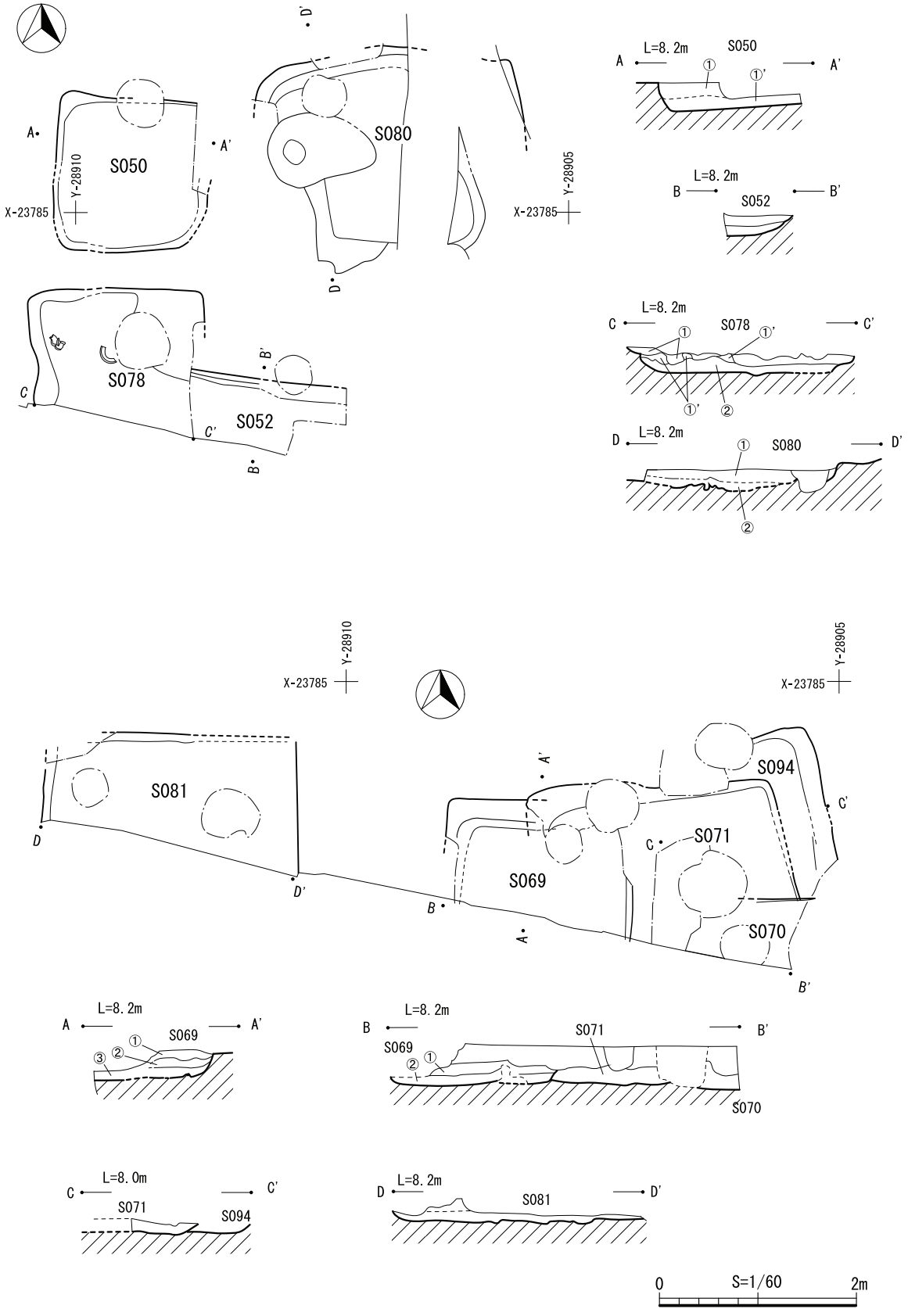


Fig.9　S050・052・078・080（上），S069～071・081・094（下）（竪穴住居）実測図

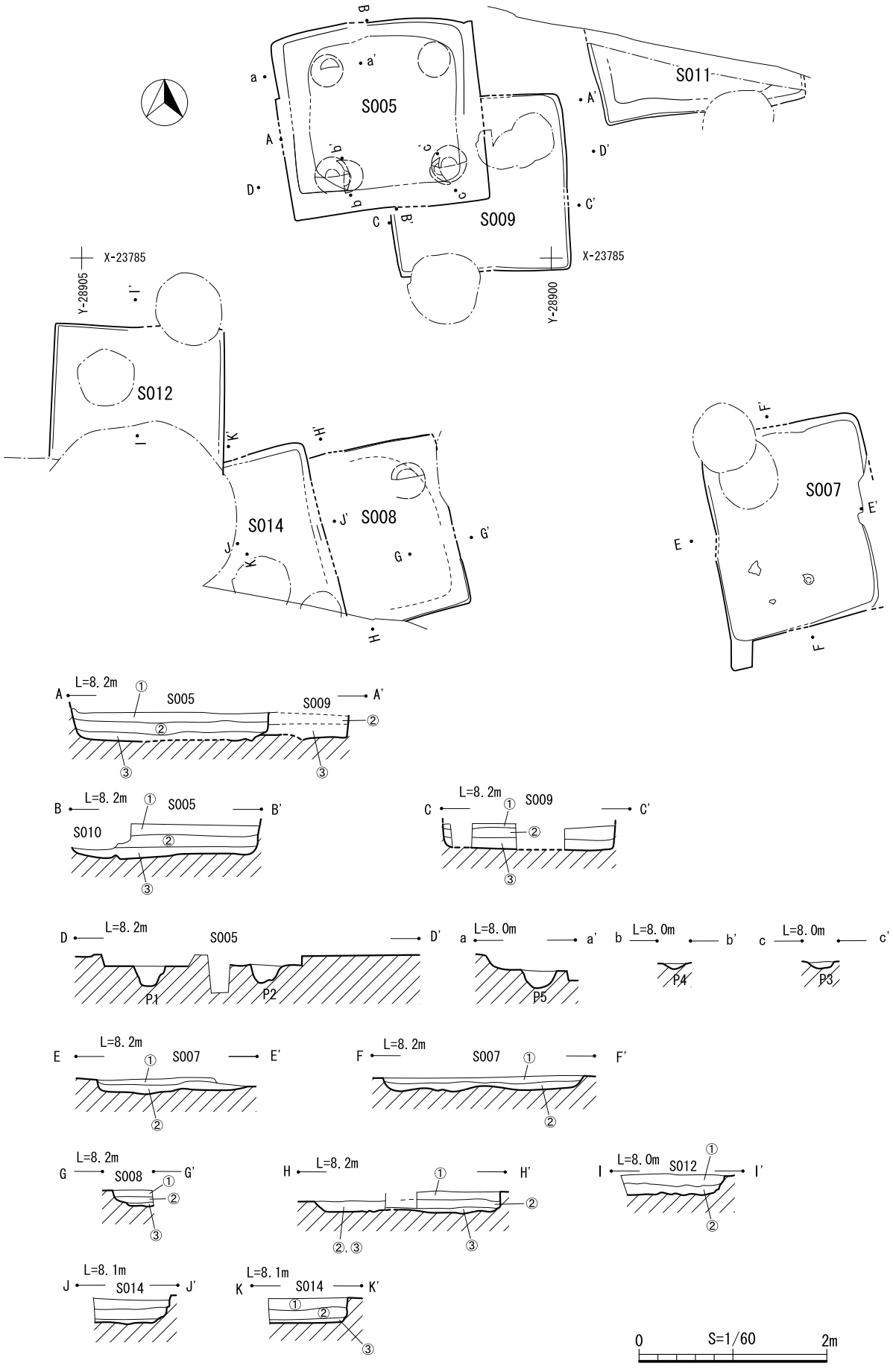


Fig.10　S005・007～009・011・012・014（竪穴住居）実測図

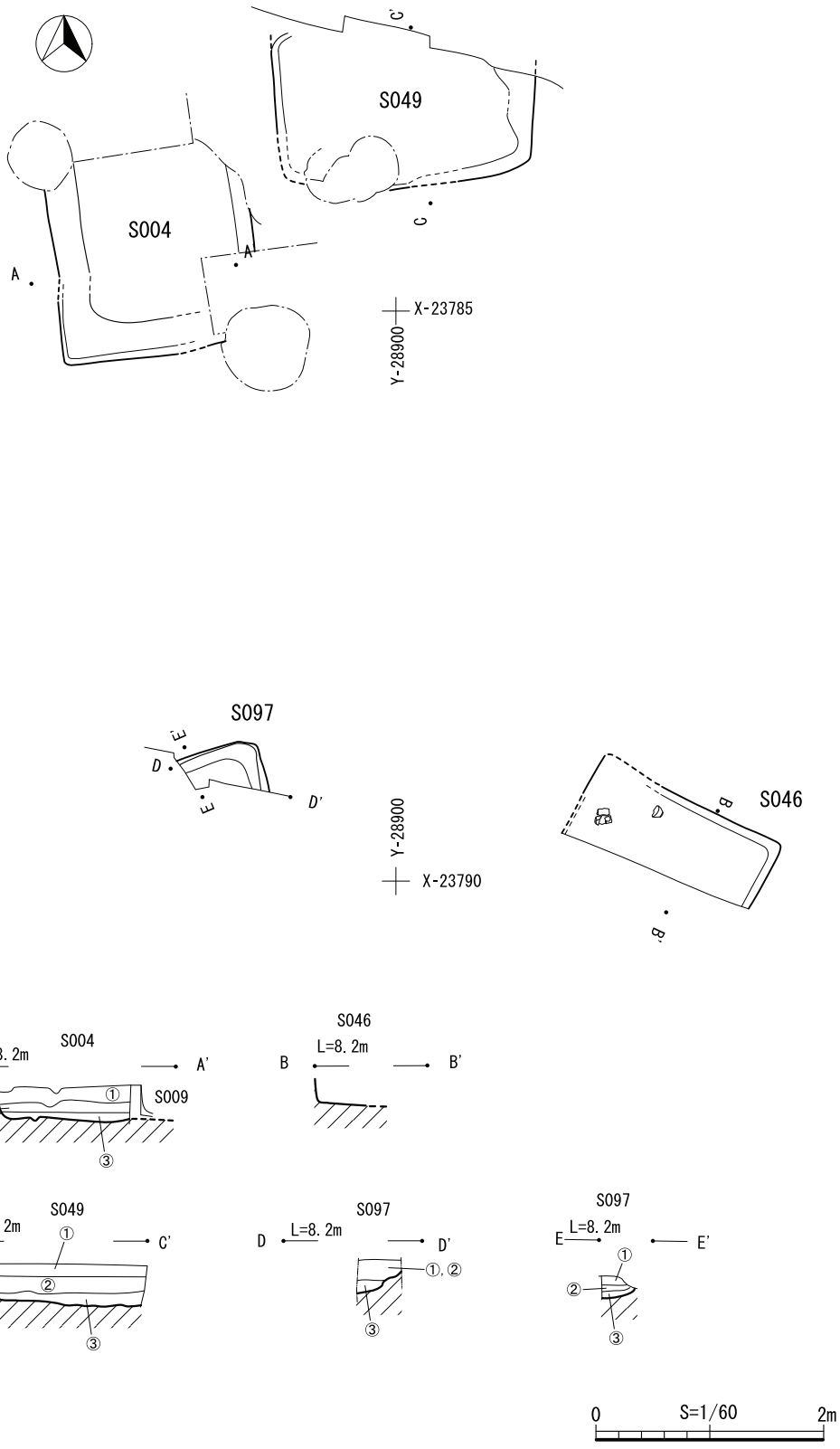


Fig.11　S004・046・049（竪穴住居），S097（土坑）実測図

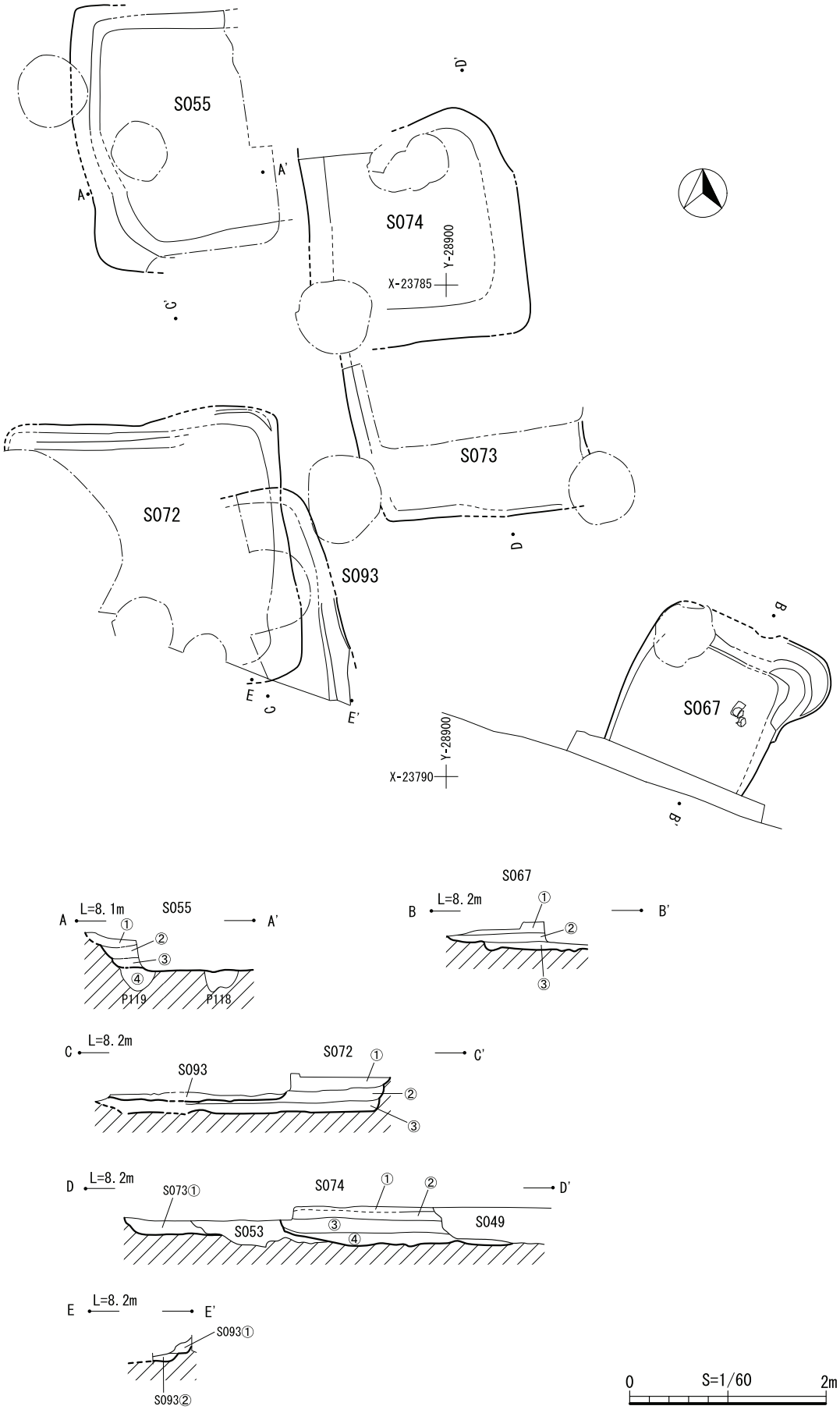


Fig.12　S055・067・072～074・093（竪穴住居）実測図

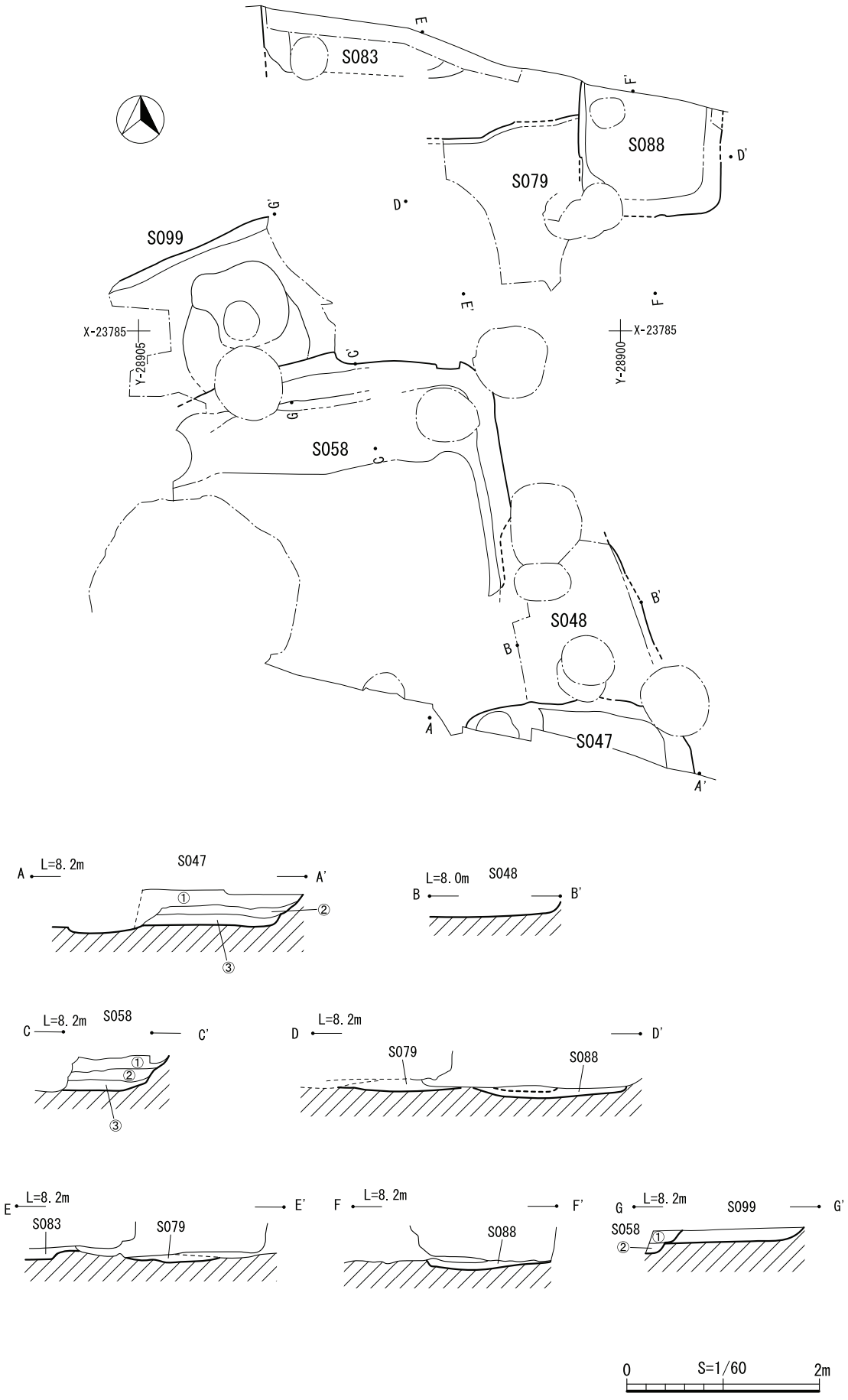


Fig.13　S047・048・058・083・099（竪穴住居），S079・088（土坑）実測図

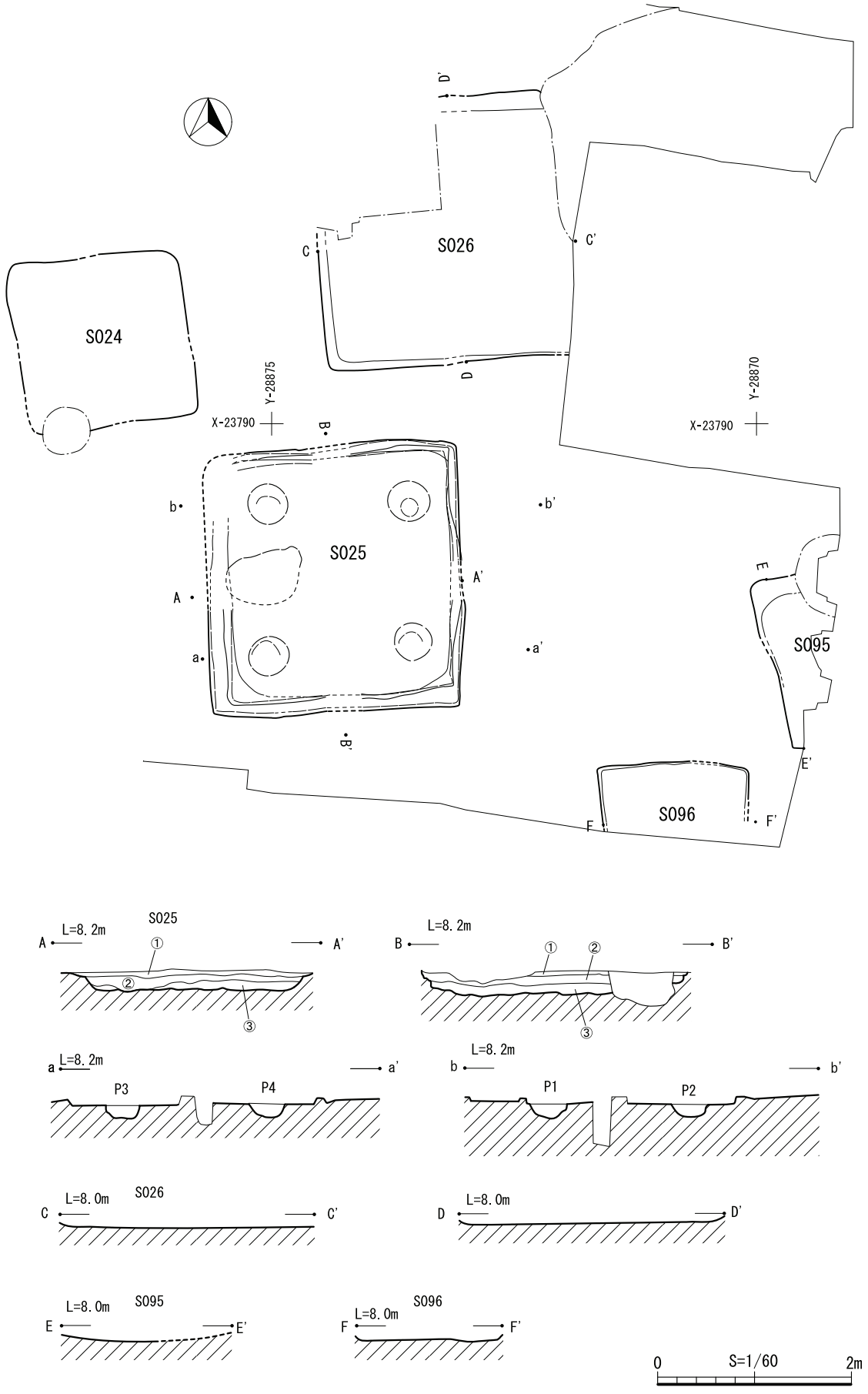


Fig.14　S024～026・095・096（竪穴住居）実測図

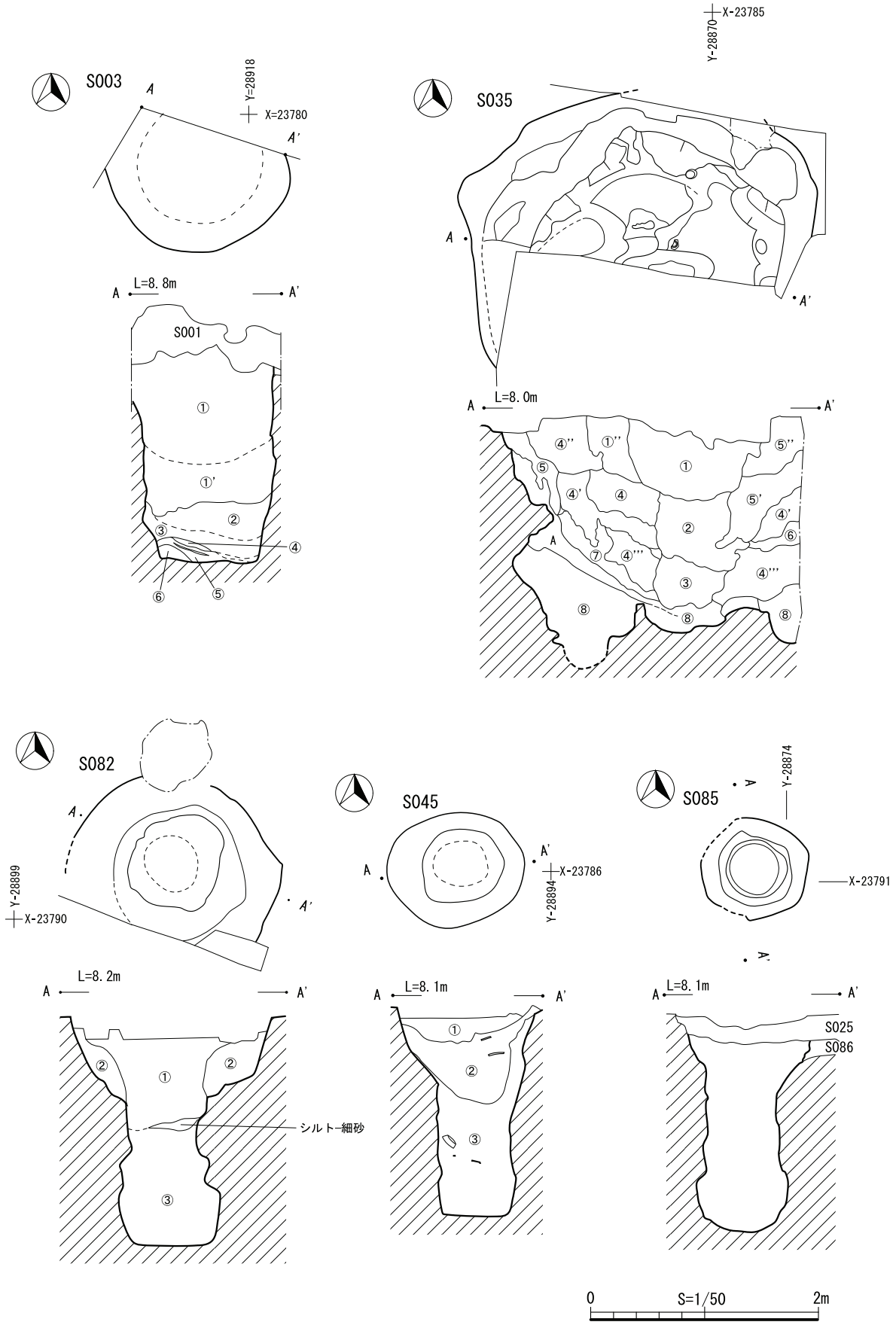


Fig.15　S003・035・045・082・085（井戸）実測図

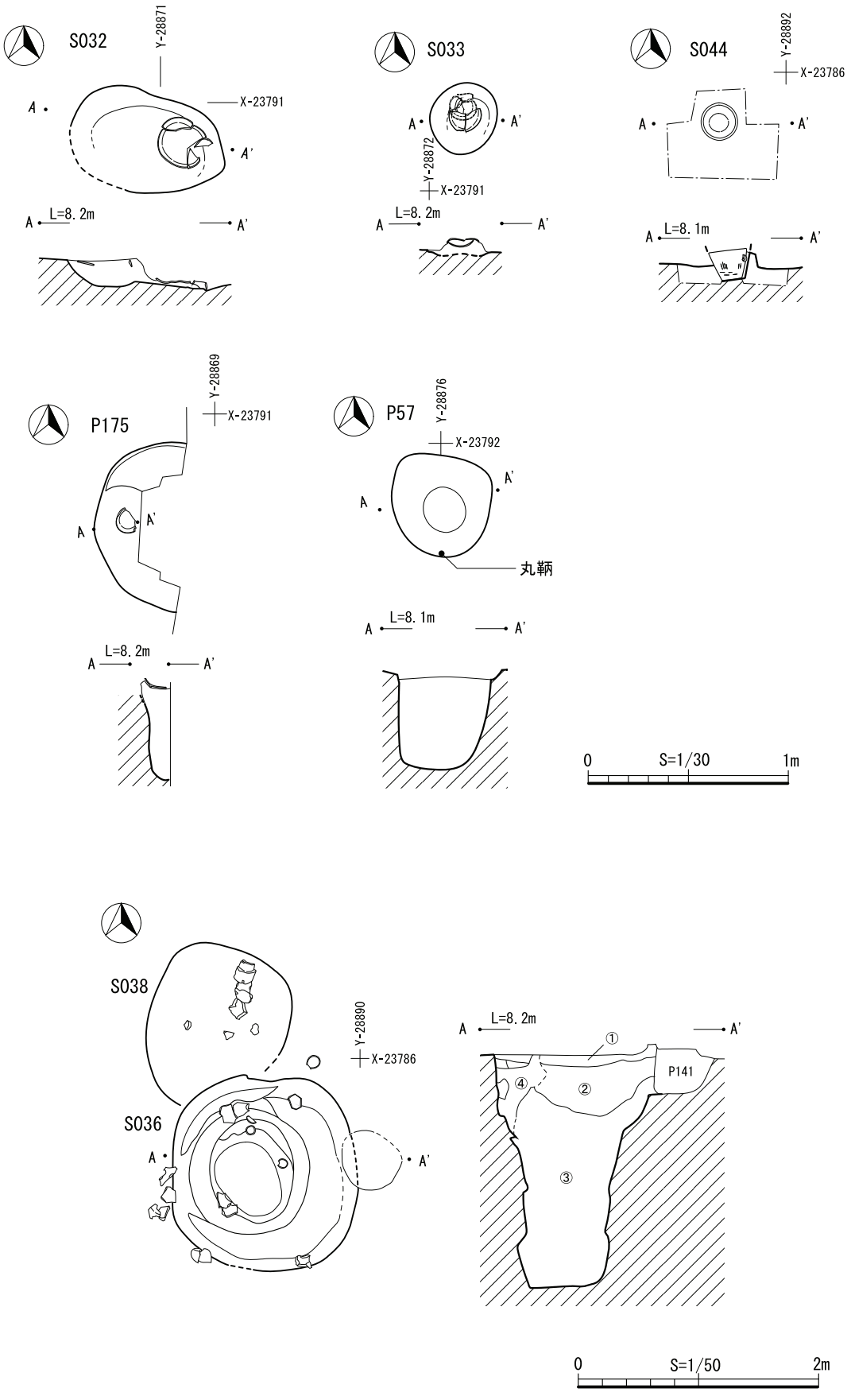


Fig.16　S032・033・044（土器埋納土坑），S036（井戸），S038（土坑）・P57・175実測図

Tab.1　東横イン北側遺構観察表(1)

遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺構の性格	備考
S001	溝群	近世	5.3(1条)	2.3(1条)	0.17	土取りまたは天地返しか？南北方向の多条の溝状の掘り込み　検出上深い部分のみ図化　西から東に移動しながら掘削している　底の形状はＶ字・丸が多く工具痕があるものがある　最も東の部分は別の溝である	1(a-4)層　S003・040を切る
S002	溝	近世以降	5.20	2.35～	0.94	大溝の一部　ゆるい土壌化・流水堆積・人為的埋土と考えられる部分が数層認められるため比較的長期にわたり存続したと思われる　溝の加工部と考えられる層では1層を含まないため溝の掘削は中世に遡る可能性がある	S001に切られる　熊本市二本木遺跡群第18次調査区の近世の大溝につながる可能性が高い(熊本市林田和人氏教示)
S003	井戸	中世(12世紀後半)	1.58	1.60	—	底の標高7.45m　下部約0.4mは大きく掘り過ぎている　ゆるい黒い砂の層の途中まで掘削されている	調査区外にのびる
S004	竪穴住居	古代(9世紀)	1.90	1.80	0.13	小規模な竪穴住居　切られているところが多いがほぼこのくらいの規模になる	S055・058・074を切る
S005	竪穴住居	古代(9～10世紀)	2.13	2.04	0.32	小規模な竪穴住居　P1・P2は埋土1層　P3・4は検出は埋土2層掘削後だが埋土2層伴うか不明　P5・6は埋土3層掘削後検出	S004・009・049・055・056・079を切る
S006	竪穴住居	古代(9～10世紀)	1.90	1.87	0.13	内部に土坑がある小規模な竪穴住居　中央に埋土1層より上位から掘込まれる土坑がある　土坑の掘形に沿って粘土が貼られていた部分がある	S048・053・073・074を切る
S007	竪穴住居	古代(9～10世紀)	2.15	1.79～	0.08	小規模な竪穴住居　東側は3層掘削が深すぎたため残りが悪い	S046・067・084を切る
S008	竪穴住居	古代(9世紀)	1.91	1.3～	0.22	小規模な竪穴住居　P1・P2を掘削したが遺構と判断できなかった	S048・058・072・S093・097を切る
S009	竪穴住居	古代(9世紀)	1.90	1.87	0.32	小規模な竪穴住居	S004・049・053・074・079を切る
S010	竪穴住居	古代(9～10世紀)	2.22	1.60～	0.25	内部に土坑がある小規模な竪穴住居　P1・2は埋土1層　土坑は埋土2層	S005・055・083・P156を切り調査区外にのびる
S011	竪穴住居	古代(9世紀)	2.16	0.8～	0.21	小規模な竪穴住居　P1は埋土1層　北壁断面の対になる位置にピットと思われる落ち込みがある	S049・P171を切り調査区外にのびる
S012	竪穴住居	古代(9世紀)	1.88	1.09～	0.27	小規模な竪穴住居	S013・014・058・072・099を切る　調査区外にのびる
S013	溝	古代(9世紀)	3.40～	0.55	0.27	全体的に丸いV字の掘形　検出当初S060P15と切り合いを誤る　S021を切ると思われるが切合う部分がわずかなため切合は不明としておく	S018・021・099を切る
S014	竪穴住居	古代(9世紀)	1.97～	0.92～	0.31	小規模な竪穴住居　埋土ごとに分けて掘削したがうまく掘り分けられていない　中世遺物が出土しているが当初上位遺構にしていた部分に伴うものと考える	S008・072・093を切り調査区外にのびる
S015	竪穴住居?	古代(9～10世紀)	1.5～	0.73～	0.02	小規模な竪穴住居か　西隅に両手拳くらいの白い粘土ブロックがあったがカマドに伴うものではない　東側はS060P13が上位遺構と考えられ切り合いを誤っている　東辺またP2としていた部分はS006P13の一部を誤認したもの	S021・052・070・071を切り調査区外にのびる
S016	竪穴住居	古代(8～9世紀)	1.85	1.1～	0.04	小規模な竪穴住居　検出上浅くS081まで掘削しているところがある	S017・078・081を切る　S020との切り合いは分からなかった　調査区外にのびる
S017	竪穴住居	古代(9～10世紀)	1.95～	0.50	0.07	小規模な竪穴住居　長軸はS016に切られているが約2ｍである　P1・2は埋土1層	S052・078を切り調査区外にのびる
S018	竪穴住居	古代(9世紀)	2.06～	1.74～	0.25	小規模な竪穴住居　西半でP1・P2を掘削したが遺構ではない	S080を切る
S019	竪穴住居	古代(9世紀)	2.12	2.35	0.15	小規模な竪穴住居　東半でP1を掘削したが遺構ではない　P2はピットの可能性がある　S078との切合があるが確認できていない	S050、080を切り、S020、P102、112に切られる。
S020	竪穴住居	古代(9～10世紀)	1.63	1.60	0.16	小規模な竪穴住居　特に小さい　対になるピットP1～4は埋土1層かさらにその上位の可能性ありピット間は約1m	S019・050・068・078・081を切る
S021	竪穴住居	古代(9世紀)	1.92～	1.4～	0.12	小規模な竪穴住居　北西・南東にP1・P2を掘削したが遺構ではない	S018・052・069・071・094を切る
S023	竪穴住居	古代(9世紀前葉)	1.59	1.62	0.76	内部に土坑がある小規模な竪穴住居　特に小さい　土坑北部に遺物が散布(埋土1層・標高7.9m前後)遺物は全て破片になっている　3点の土師器甕の口縁破片が別個体で土器供献の可能性は低いか　土坑の埋土2層上面は平坦で土坑を埋めた後床を作っている可能性がある　土坑は中央に広がり他の遺構に比べ深い　底の形状はきれいに整形されておらず埋土4層が加工部になると考える	S024との切り合いは不明

Tab.2　東横イン北側遺構観察表(2)

遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺構の性格	備考
S024	竪穴住居	古代(9～10世紀)	1.73～	1.76～		小規模の竪穴住居か　底の凹凸の残存範囲　概ね左記程度の大きさと思われる	
S025	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.72	2.64	0.23	P1～4は埋土1層　ピット間は1.5m　西半中央に埋土2層の浅い土坑状の落ち込みがある　カマドの下の土坑になる可能性があるが埋土は特にカマドを推定するものではない　7世紀代の遺物が埋土中に多く入る　小片のためこの遺構の年代を示すものではない	S085・086・042を切る
S026	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.71	2.62～	0.05	検出時で浅く　製地部分のみ	
S027	竪穴住居	古代(9世紀)	2.27	2.30	0.16	P1～4・カマドしたの土坑は埋土1・2の上位からの掘り込み　ピット間は1.3m　カマド下の土坑は切合いが明瞭でカマドの作り直しがあった可能性がある	S026を切る
S032	土器埋納土坑	古代	1.50	―	0.25	土師器杯を身に須恵器盤を蓋にする　遺構の底に水平に置く　3層中遺構　土器の中から遺物の出土はない	
S033	土器埋納土坑	古代(9世紀前葉)	0.72	0.67	0.63	ゆがみがきつい須恵器盤を上向きにし　遺構の底に水平に置く　土器の中から遺物の出土はない	S087を切る
S035	井戸	中世(12世紀後半)	3.06	1.65～	1.89	中央約1mとその外に分けて掘削するも埋土の状況から井戸枠はなかったようだ 若干の湧水があり明瞭な使用時埋土は分からなかった　2段の掘形で下部径は2.2mをこえ井戸の径としては大きい部類である　底の形状は極めて歪　砂層を掘り抜き固い砂質層を少し掘り込む	S026を切り調査区外にのびる
S036	井戸	古代(10世紀前～中葉)	1.75	1.53	1.98	2段の掘形で下部径は0.7～0.9m　湧水があり使用時埋土の観察はできていない	
S037	竪穴住居	古代(9～10世紀)	1.72	1.92	0.11	内部に土坑がある小規模な竪穴住居　土坑は埋土2層から掘り込まれる　P95・124・125と接しており重複せず検出当初はつながって見えていたことから関連する遺構の可能性がある　トイレ遺構の可能性があるかどうか指摘を受けたため土壌分析を行ったがその証左を得ることができなかった	
S038	土坑	古代(8～9世紀)	1.40	1.15	0.06	検出時で浅く底の形状が分からない　S036の上位として検出したが断面で確認できずP128を含め切り合いは不明としておく　S036や周辺の遺物出土状況からより大きな遺構の一部と思われる　ほぼ完形の丸瓦が出土している	S036を切るか？
S040	土坑	近世以降	2.00	1.36	0.74	大きく深い長方形の土坑。埋土を1､2と分けているが､掘ってすぐに埋めた感じ。4層のシルト～細砂､中砂混じりの部分を掘り抜き､極細砂混じりシルトの層を1～5㎝掘り込んだところでとまる。性格不明の土坑	S068を切る
S042	竪穴住居	古代(9世紀)	2.64	0.6～	0.27	東辺中央にカマド　カマドを崩すときの埋土に完形の須恵器蓋が入る　白い粘土塊は大きかったがカマド基部は分からなかった　カマド下の土坑は幅は東辺の2分の1あり比較的大きい	
S044	土器埋納土坑	古代(8世紀後半)	0.18	0.17	0.14	土師器鉢を上向きに遺構の底におく　掘形は土器がぎりぎり入るくらいで掘形を検出できなかった　鉢の高台に欠けがあるが打ち欠いたものか不明	
S045	井戸	古代(9世紀後葉)	1.25	0.96	1.94	S056P10との切り合いの確認は埋土・埋土1層の遺物の広がりから誤りがないと思われる　井戸中位・埋土3層から完形の土師器杯が出土しているが遺構の時期を示すものでないと判断しておく　2段に掘られるが上部下部の境に平坦部はない　下部径は0.6～0.7mで比較的小さい　掘削時に湧水があり最下部の埋土の観察はできなかった	S056P10を切る
S046	竪穴住居	古代(9～10世紀)	1.78	1.08～	0.10	小規模な竪穴住居　下位に遺構があるため正確に掘削できていない可能性がある　埋土1層から完形の土器が出土している	S067を切り調査区外にのびる
S047	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.35～	0.56～	0.28	西端にカマド下の土坑が埋土2層上から掘られる　カマドが辺の中央か西北隅にあるのかは不明である　北東部は検出できなかった上位遺構があると思われ正確に掘削できていない	S048を切り調査区外にのびる
S048	竪穴住居?	古代(～8世紀)	1.67～	1.55～	0.16	形状が分からないが掘形は竪穴住居と同じ　基本土層3層にはない黒色土で埋まり3層遺構の中で古いものである	全ての遺構に切られる
S049	竪穴住居	古代(9世紀)	2.27	1.41～	0.11	底が東半が低く西半が高くうねるような感がある	S053・074・P161を切り調査区外にのびる。
S050	竪穴住居	古代(9世紀)	1.56	1.62	0.26	小規模な竪穴住居　特に小さい　南辺と東辺は大きく切られており左記数値より大きくなる可能性があるがS020から推してこのくらいの大きさと思われる	S068を切り､S019､020､P102､112に切られる。
S052	竪穴住居?	古代(8～9世紀)	1.20～	0.70～	0.20	形状は北辺のみ残存　S078と切り合いを誤って掘削する	S069を切り調査区外にのびる
S053	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.45～	2.20～	0.41	内部に土坑がある竪穴住居　土坑は埋土2層の上位	S073を切る

Tab.3　東横イン北側遺構観察表(3)

遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺構の性格	備考
S055	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.74	1.67～	0.41	2段に掘られる　P119を切るので推してP118・156・157は下位遺構と思われる	S083・099・P156・157・119・118を切る
S056	掘立柱建物	古代(9世紀後葉)	8.10	4.80		2×3間　ピット間は梁行2.4m・桁行2.7m　ピット径は0.6mくらいのものが多い　S056P2・7にはそれぞれに切り合いがある　P6も同様の可能性が高い　新しい部分が柱間として尺にのることからこの部分はピットの掘り直しによると考える　P2よりほぼ完形の土師器杯が1点出土　埋土中の中央付近のため柱の抜き取りのときに入れられたものか　P1からも同様と思われる土師器杯が1点出土	
S058	竪穴住居	古代(8～9世紀)	3.43	2.7～	0.17	北辺は明確に2段に落ち込む　埋土2層が整地層であるか拡張が行われたか判断できなかった　埋土の残りが悪いが北辺と右辺にはカマドが付かない	S099を切る
S060	掘立柱建物	古代(10世紀前半)	13.20	4.50～		1以上×3間に3面以上の庇が付く　母屋のピット間は桁3.0m梁2.4m　S060P1・2・5はピットに広がるようにして土器が出土しているため柱は抜き取られている可能性が高いさらにP1・2からは抜き取った部分ををを埋め戻す前にも土器が入れられている　ピット径は0.7～0.8mくらいかP5の張り出した部分も含めているが上位遺構である　庇は母屋のピットから2.1m幅でめぐる　庇部分は当初別遺構としていた　P115の南にS013の掘りまちがいからピットが想定できること　P9と12の間に崩れてしまい記録できなかったピットがあったことから　ピット2つで母屋を囲む様相から庇と判断した　P13・P158は上位遺構と切り合いを誤っているようだ　ピット2つのうち配置から外側が建物となるためＰ７とP10は切り合いを誤っている　ピット径は概ね0.6mで母屋より小さい　S060P10～12がP12と関連し南に展開する別遺構となるかもしれない	
S064	掘立柱建物	古代(9世紀)	3.90～	2.40～	0.38	1×2間が見つかっているがS056から推定して1以上×2間で南に広がる建物になる可能性・同様で総柱になる可能性がある　P7・8はそれぞれP1とP6・P2とP5の中間にあるため一つの遺構としている　P3とP4の間は確認したがピットは見つからなかった	
S067	竪穴住居	古代(8～9世紀)	1.67	1.38～	0.11	小規模な竪穴住居　北東隅にカマドが付く　カマドとした部分は白い粘土ブロックが広がっておらず炭化物が非常に多く散布していた床面層より高い位置にカマドがあるが　S082のため沈下が想定されることから　その程度は明らかでない	S082を切り調査区にのびる
S068	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.30～	0.93～	0.14	北辺にカマドが付く　カマド下部は比較的よく残り側面は厚さ0.06mほどで内側は粘土が赤く焼けている　図で東側はカマド上部が落ちたものでその下部に同様の状況であった　支柱から南は円形である　支柱は元の位置を留めている　カマドの下には土坑がある　埋土は白い粘土ブロックが非常に多く混じり下部まで同様で整地部分は僅かであった　カマドが辺中央にあったとすると2.4mの大きさ	
S069	竪穴住居	古代(8～9世紀)	1.90～	1.25～	0.30	小規模な竪穴住居　切られている部分が多いが幅は2mを超えない　2段に掘り込まれる	S071・P109を切り調査区外にのびる
S070	不明	古代(9～10世紀)	1.20～	0.6以上	0.13	S060P13と切り合いを誤って掘削しているため東側は不明でS015との切り合いは分からない　ごく一部の検出のため遺構名は不明にしておく　S021との切り合いは明瞭で北辺は直線　周囲の状況からS021と同様の小規模な竪穴住居になる可能性がある	S012・021・071・094を切り調査区外にのびる
S071	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.54～	1.9～	0.24	東西の長さは概ねこの数値と思われる　上位遺構に大きく切られているが北辺にカマドは付かない	S094・P121を切る
S072	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.84	2.82	0.22	北辺にカマドは付かない　中央から南側は上部が大きく切られているが南北の長さはこの程度である	S058切り調査区外にのびる
S073	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.28	1.65～	0.21	S058との間は遺構番号を付けていないが遺構埋土である	S048を切ると思われるが断面で確認できていない
S074	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.34～	2.20～	0.19	長軸短軸ともこの程度の大きさで2.4×2.25mは越えないものと思われる	S053・073・079を切る
S076	落ち込み	古代(8～9世紀)	2.10	0.46	0.08	掘り形の形状が明瞭でない　底の高さは西へ低くなる　西へ大きく広がることはなくS013と関連して溝となる可能性があるが　遺構形状は大きく異なる	調査区外にのびる
S077	掘立柱建物一部						抹消
S078	竪穴住居	古代(8～9世紀)	約2.1	1.50～	0.06	小規模な竪穴住居　S052と切り合いを誤って掘削する　北東部は浅くベット状を呈する　遺構の北に不定形な低まりがあり変形している可能性がある	S052・069を切り調査区外にのびる
S079	土坑	古代(8～9世紀)	1.82～	1.43～	0.05	上位を切られ低まりの範囲のみ　底は平らで周囲の状況から竪穴住居の一部になる可能性がある　S088と切り合いがあると思われるが確認できなかった	
S080	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.65	2.15～	0.26	北辺中央に白い粘土ブロック・炭化物の集中がありカマドがあったものと思われる　底はうねるような凹凸があるため西辺の低まりはカマドの下の土坑ではない　P158との切り合いを誤っている	

Tab.4　東横イン北側遺構観察表(4)

遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺構の性格	備考
S081	竪穴住居?	古代(8～9世紀)	2.57	1.42～	0.14	S068を切る北辺全体は非常に多く白い粘土ブロック・焼土が広がる　カマドを推定して掘削したがカマドの位置を確認できなかった	S068を切り調査区外にのびる。
S082	井戸	古代(8～9世紀)	1.82	1.36以上	0.97	2段の掘形で上部と下部の間に平坦面がある　下部の径は約0.7m　上部には掘形が大きくえぐれている部分があった	調査区外にのびる
S083	竪穴住居?	古代(8～9世紀)	2.06～	0.62～	0.38	西辺の一部のみで全体は不明　東側は上位を切られており底の一部が確認できたにとどまる　埋土・周囲の状況から竪穴住居になる可能性が高い	P156を切る可能性が高く調査区外にのびる
S084	溝	古代(～8世紀)	5.3以上	0.82	0.14	全ての遺構に切られ、3B層と明瞭に異なる埋土　直線的に北北西-南南東にのびる	調査区外にのびる
S085	井戸	古代(8～9世紀)	0.95	0.90	2.59	2段の掘形で下部の径は約0.6m　底付近は黒くゆるい砂層で側面を掘りすぎている　7世紀の遺物が出土しているがこの遺構の時期を直接示すものではない	S086を切る
S086	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.15	2.62	0.22	北西隅にカマドが付く　カマド本体を確認できなかったが著しく多くの白い粘土塊・ブロックが集中する　底はうねるような凹凸がある	
S087	溝	古代(～8世紀)	5.03	0.75	0.09	全ての遺構に切られ、3B層と明瞭に異なる埋土　直線的に北東-南西にのびる	調査区外にのびる
S088	土坑	古代(8～9世紀)	1.48～	1.33～	0.09	上部を全て切られている　上位のS049の底が低い部分に合うように遺構の範囲がある　竪穴住居の一部の可能性があるが不明	P161を切る可能性が高い　調査区外にのびる。
S093	竪穴住居	古代(8～9世紀)	2.18～	0.7～	0.06	埋土2層と3層の境で2段の掘形になる　北東辺隅しか出ていないが形状・埋土から竪穴住居と思われる	S072を切り調査区外にのびる
S094	竪穴住居?	古代(8～9世紀)	1.50～	0.48～	0.10	上部は切られているが北東隅の残存していると思われる　大きくても3mを越えることはない	
S095	竪穴住居?	古代(9世紀)	2.26	0.75～	0.10	小規模な竪穴住居になる可能性があるが掘り過ぎがあり矢板近くで埋土も十分な観察ができていない	調査区外にのびる
S096	竪穴住居	古代(9世紀)	1.50	0.8～	0.06	小規模な竪穴住居　浅く根が入り向き・規模を正確に捉えていない可能性がある	調査区外にのびる
S097	土坑	古代(8～9世紀)	0.7～	0.4～	0.06	北東隅をのみの掘削　埋土の状況から竪穴住居の可能性がある	S093、047、072、048を切り調査区外にのびる
S098	塀	古代(8～9世紀)	6.20	―	0.45	ピット間1.8m　S098P5はP159と隣接しているが切り合いは不明である　ピットの並びとS060掘立柱建物の方位が整然とするためS060と関連すると判断している　P159からピットの並びを捉えS056と関連すると考えることも可能である　P1―4の中に切り合いは認められなかった	
S099	竪穴住居?	古代(～8世紀)	2.35～	1.34～	0.14	全ての遺構に切られる　3B層と明瞭に異なる埋土　中央の低まりはカマドを推定することができずうねるような窪みである　上位埋土を含め白い粘土ブロックや焼土・炭化物はなかった　竪穴住居の可能性が高い	

Tab.5　東横イン北側土層注記表(1)

	層名	色　調		備　　考
	2B	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	若干粘りがありパサつかない　全体的によく混じる　小溝もあることから作土層
	2A			記載漏れも2B層と同様　2B層との層界は明瞭
	3A	5Y3/1～4/1	オリーブ黒砂質土	粘りはわずかしかなく、若干パサつく　粗い砂が入る　遺構がないところでは、団粒状のシルトブロックが見える部分もある　小さな橙色状炭化物、細砂若干混じる
	3B	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	粉っぽい感じで、3A層より細粒ではない、粗い砂は入らない　4A層との層界は、根あと状のものが入るため不明瞭なところが多い
	1層a-0	7.5Y4/1～3/1	灰色砂質土	a-1に比べボソボソしている　橙色の粒が入るところがある　a-1とほとんど変わらず、層界は不明瞭　a-1上部を整地した層か？すぐ上には、焼土、炭化物、焼土の層がある　上に石組みの溝がくる
	1層a-1	5Y4/1	灰色砂質土	非常にパサパサ　細礫が点々と混ざる　下面に小溝らしき落ち込みあり　全体的に混じる 作土と思われる
	1層a-2	5Y4/2～3/1	灰オリーブ砂質土	a-1とあまり変わらないが、粗い砂が入り細礫が混じらない　作土層と思われる
	1層a-3	5Y4/1	灰色砂質土	砂が少なく粉っぽい　やや粘質土に近い　作土層と思われる
	1層a-3’	5Y5/2～4/2	灰オリーブ砂	極細～細砂、シルト、中砂がわずかに混じる　ラミナはみられない　下部は下層のブロックを少し含む　人為的な撹拌を受けている
	1層a-4			記載漏れもa-3と同様　2A層との層界は非常に明瞭

遺構番号	埋土名	色　調		備　　考
S001	A			2～3層のブロックが列を成す　2～3層の中に1層のブロックが入る
	B	5Y4/2～3/2	灰オリーブ砂質土	粉っぽい中に粗い砂質感がある（S001は、Bを基調としその比較で記載）1～4層がブロック状に混じる
	C			2～3層の大きなブロックが多く混じる　他より4層のはいりが少ない
	D			下層の非常に粗いブロックが主体でBがしみのように入る感じがある
	E			1層のブロック混じる
	F			下層のブロックが若干混じる　ブロック状
	G			下層のブロックがわずかに入る
	H			ほぼ4層と2～3層のブロック状　下に遺構があるところはそのブロックが入る
	①	2.5Y3/1～3/2	黒褐色砂質土	粘りほとんどないが、ザラザラとした砂も入らない　ブロックもあまり見られず、全体的によくしまる（C・D・Eに相当）
	②			①と4層が非常に粗いブロック状　遺構があるところはそれと埋1とのブロックと小さな4層のブロックが混じりあう（Hに相当）
S002	①	2.5Y4/1～4/2	黄灰色粘質土	粗い砂が混じる　しまりがゆるく、ブロック状ではなくほぼ単一の塊状で人為的に埋められた層と思われる　遺構中央に近づくとシルト～細砂がはいる　ラミナはなく撹拌を受けていると思われるが、中央付近は深くなりラミナもわずかに残っているため、流水により埋まる部分がある
	②	2.5Y4/2～3/1	暗灰色粘質土	5㎜くらいの4層のブロックがわずかに混じる　非常に不明瞭であるが、3層くらいに分かれる層界が部分的にあり土壌化によるものと思われる　人為的な埋土と、それがゆるく土壌化したものか
	③	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	①～③の中で最も粘質であるが、2より砂が混じる　土壌化した溝の底の堆積　間欠的に水が流れていたものと思われる
	④			2層と4層が粗いブロック状　1層が混じらないため2層の時点で掘削された可能性がある　加工時の堆積層
S003	①	5Y3/1	オリーブ黒色砂質土	粘りがある　ベタッとした感じで腐植と思われる　粗い砂が混じる　4層のブロックが少なめに点々と入っている　4層起源と思われる極細砂質シルト、細砂混じる　中砂わずかに混じる
	①’			4層のAが混じる
	②			4層のAに④が混じったような感じ
	③			4層のAと変わらない　②・③は遺構側面の4層主体で埋まる　上から埋め戻されたものではなく側面が崩れたものによると考えられる
	④			黒褐色粘質土、腐植質、粗い砂が入る　④～⑥は使用時堆積
	⑤			4層のAと④がラミナ状に互層
	⑥			乱れた4層の部分　加工部と思われるが判断できない
	A		深いオリーブ色	シルト～極細砂まじり細～粗砂
S004	①	10YR2/2	黒褐色砂質土	0.5～1㎝大の4A、B層のブロックを含む　やや砂質が強くザラザラする
	②	10YR2/2	黒褐色砂質土	0.5～1㎝大の4A、B層のブロックを含む　①層と比較するとやや粒子が細かくやわらかい 赤色粒（焼土？）も所々含む
	③	10YR2/2	黒褐色砂質土	①、②層と比較すると、混入ブロックが少ない　但し、遺構の端に4A層の7～8㎝大ブロックを含む
S005	①	10YR3/2～2/3	黒褐色砂質土	0.3～1㎝大の4A、B層のブロックを多く、カーボンを所々に含む　乾燥のためか、ザラザラ感が強い
	②	10YR2/3	黒褐色砂質土	0.3～1㎝大の4A、B層のブロックを多く、カーボンを所々に含む　1層と比較してザラザラ感が弱い　①層のピットがあり上面が床となる
	③	10YR2/2	黒褐色砂質土	0.3～1㎝大の4A、B層のブロックを多く、カーボンを所々に含む　きめ細かく粘性わずかにみられる　加工時埋土
S005ピット		5Y4/1～4/2	灰色砂質土	若干粘りあり、5㎜くらいの4層のブロック多く混じる　2.5Y3/1～4/1の黒褐色砂質土、砂が細かく粘り若干あり　ブロックを多く含む　下層のピットか
埋土2層下面検出ピット		2.5Y4/1～4/2	黄灰色砂質土	4層の大きなブロックが多く入る　残存が少ないためはっきりしないが、埋土①、②の一番の違いである、細砂～中砂が入るため、埋土①の可能性が高い　全体的には2層に似るが、4層のブロックが多く入るところは、埋土③に似る　残存は悪いが、層界は明瞭、深さから考えても埋土①のピットとすべきか

Tab.6　東横イン北側土層注記表(2)

遺構番号	埋土名	色　調		備　　考
S006	D-1	10YR2/2	黒褐色砂質土	白い粘土塊（1～10ｃｍ大）を多く含み、4A層のブロックやカーボン粒を所々含む　全体的にやわらかくサクサクしている
	①	10YR2/3	黒褐色砂質土	やわらかくさくさく感が強い　混入物はほとんど見られない　上位に土坑を伴うことから床となる
	②	10YR2/3	黒褐色砂質土	①と比べ4層のブロックが所々に入り、粘性がわずかに見られる　遺構掘形の隅にのみある　加工時埋土
S007	①	5Y3/2～4/2	オリーブ黒色砂質土	パサパサした感じも粗い砂があまり入らない
	②	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	①と比べさらに砂質　4層が根あと状部分に入っているものとブロックのものとがあるが判別できない　下面の凹凸著しい　加工時埋土
S008	①	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	粘りほとんどなく、細かい砂は入る　4層のブロックが埋土2層より多い　全体的にややブロック状の埋土　埋土①・②の境は明瞭も根跡のためとぎれる
	②	2.5Y4./1～3/1	黄灰色砂質土	わずかに粘りあり　粗い砂は、ほとんど入らない　全体的にブロック状、4層のブロック状点々と入る　埋土③との境は不明瞭なところが多く波打つ
	③	2.5Y3/2～3/1	黒褐色砂質土	わずかに粘りあり　②よりも粗い砂が少ない　下層と②層とのブロック状と思われるがよく混じるところが多い　加工時埋土か
S009	①	10YR2/3	黒褐色砂質土	乾燥のためかザラザラして砂質感が強い
	②	10YR2/3	黒褐色砂質土	0.3～1㎝大の4A、Bブロックを含む　ザラザラ感がある
	③	10YR2/2	黒褐色砂質土	0.3～1㎝大の4A、Bブロックを含む　粒子が細かく色調が暗い
S010	0	2.5Y4/1～4/2	黄灰色砂質土	やや粘質、橙色・白い粘土ブロック、炭化物の小さいものが多く混じる　①よりしまりがゆるくよくまじる
	①	10YR2/3	黒褐色砂質土	直径2～3㎜大の4A、Bブロックを所々含む　1.5㎝大のカーボンが1点あり
	②	10YR2/3～2/2	黒褐色砂質土	10～15㎝大の白い粘土塊を多量に含む　土坑を覆う埋土　①層のピットから上面が床となる
	③	10YR2/2	黒褐色砂質土	きめ細かく砂質が弱い　カマド粘土、カーボン、4Aブロック、赤色粒を所々含む　色調も上層と比較してやや暗い　上面が土坑の掘り込み面で床となる
S010ピット	1	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	粘りはほとんどない　若干ザラザラした砂が入る　埋土1とほぼ同じもよく混ざっている感じ
	1'			1に比べ、全体的に明るく粗い　埋土1より上位のピットの可能性もあり
S011	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	埋土1下面遺構　粘り気はほとんどない　4層のブロックが入るが平面埋土にも同じくらい入る　埋土1と変わらないがブロック状な感じがある　マークの部分は下位若干下層のブロックが入る
	②	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	やや粘質も砂が多くまじる　4層の大きなブロックが多く点々とまじる　①層のピットから上面が床となる
	③	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	やや砂質で4層の大きなブロックが多く点々とまじる　加工時埋土
S011ピット				①に比べややブロック状か　下位層のブロックがまじるものと思われる　境は明瞭
S012	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	非常に砂っぽく粗めの砂が多い　4層の大小のブロックが多く入り、粗めのブロック状
	②	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	非常に砂っぽく粗めの砂が多い　4層のブロックが非常に多く入る　下のﾗｲﾝは波打つが層界は明瞭　加工時埋土か
S013			暗灰黄色砂質土	パサパサして粗い砂が多く入る　全体的によく混ざり、ブロック状という感じはない
S014	①	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	若干粘りあり　細かい砂若干入る　2～5㎜の炭化物、橙色粒、5～20㎜白粘土塊は入る　①と②は層界明瞭
	②	2.5Y3/2～3/1	黒褐色砂質土	若干粘りあり　細かい砂若干混じる　上部2～3cmのほうがブロック状、顕著で、焼土塊、4層ブロック、白粘土塊が多く入いる　下のﾗｲﾝは波打つ
	③	2.5Y3/2～3/1	黒褐色砂質土	若干粘りあり　細かい砂わずかに入る　下層とはかなり異なり、埋土2に似るが、焼土や白粘土はほとんど入らず、層界は明瞭な部分と不明瞭な部分がある　加工時埋土か
S015	①	2.5Y3/2～4/2	黒褐色砂質土	やや粉っぽく粗めの砂が入る　焼土、白い粘土、炭化物、4層の小ブロックが全体に入る
	②	5Y3/2	オリーブ黒砂質土	粉っぽく細かいブロック状　①層のピットから上面が床となる
	③			②比べ下層のブロックを含む　粗いブロック状　加工時埋土
S015埋土①層下面ピット(P1)	1	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	粘りはほとんどないが、ザラザラとした砂も少ない　焼土、白粘土、4層2～5㎜のブロックが点々と入る埋土①と同じ埋土　最下部はブロック状
S015埋土①層下面ピット(P2)	1	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	かなり砂っぽい　ほとんど埋土1と同じもやや暗色
S016	①	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	粉っぽく細かい土　②との堺は甚だ不明瞭
	②			①が細かいブロック状　下層の土が多く入っていると思われる　4層が若干混じる
S017	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	粗めの砂が入る　白粘土塊、5～20㎜が多く、小さめの4層ブロックが点々と入る　凹みはピット埋土　若干ゆるく粗めのブロック状
	②	2.5Y3/1～3/2	黒褐色砂質土	粉っぽく、粗めの砂が入る　白粘土塊、4層の大きなブロックが多く入り、全体に粗いブロック状　①層ピットから上面が床をとなる
S018	①	5Y4/1～4/2	灰色砂質土	粉っぽく、ザラザラした感じ　4層ブロック目立つが、根跡状部分ものがほとんど
	②	2.5Y4/2	暗灰黄色砂質土	わずかにシルト質　4層、5㎜くらいのブロックが多く入る　細かいブロック状の部分が多い
	②'	2.5Y4/2	暗灰黄色砂質土	しっかりとしていて、シルト質　2とははっきり異なるが、境は不明　色調はよく似ている　わずかに炭化物混じる
	③			下層がブロック状になり、若干色が明るい部分　加工時埋土
S019	①	7.5Y4/1	灰色砂質土	かなり粉っぽい砂　ブロック状の部分もあるが、比較的よく混じる
	②	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	全体的に細かいブロック状　下との層界は見えにくいところが多い　4層のブロックは5㎜くらいのが目立つ
S020	①	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	かなり砂質でザラザラした砂が入っている　4層のブロック、白粘土塊ブロックが入るが、全体的に細かいブロック状
	②	5Y4/1～4/2	灰色砂質土	粉っぽい感じがする砂質　よく混じる部分もあるが、粗いブロック状　4層の入りは、上層と同じ程度　白粘土塊ブロックが少ない　下の層界は不明瞭　①層のピットから上面が床となる
S020埋土①層下面ピット(P3、P4)		5Y4/1	灰色砂質土	わずかに粘り、白粘土塊、4層のブロックが多く入る　G、G´に比べ粒度が細かく、はっきりとしたブロック状ではない
S020埋土①層下面ピット(B-B')		5Y4/1	灰色砂質土	わずかに粘り、白粘土塊、4層の5～10㎜のブロック多く入る（埋土1と同じ）　全体的に粗いブロック状の埋土

Tab.7　東横イン北側土層注記表(3)

遺構番号	埋土名	色　調		備　　考
S021	①	10YR2/3	黒褐色土	白い粘土が全体的にブロック状に混ざっている　5㎝程の大きさで、黄褐色土もブロック状に混ざっている　白色土は粘質があるが、黄褐色土はさらさらしている
	②			下層が多くブロック状に混じる　1と2の層界は不明瞭
S023				薄く観察しづらい　4層がしみのように暗色の部分と掘形埋土が明瞭ではない
S023土坑	①	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	細かいがパサつく　粘りはほとんどない　4層のブロックがわずかに入る　遺物が広がる
	②	5Y4/1～3/2	灰色砂質土	若干粘りあるが、砂っぽい　4層の5～30㎜のブロックが点々と多く入る　炭化物が点々と入る
	③	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	若干粘りがあるが砂っぽい　②と同様であるが、色調が暗い　土坑埋土
	④	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄砂質土	(粘りがあるもザラザラした砂が入る）と4層のブロック状　加工部埋土
S024				浅く記載ができなかった
S025	①	2.5Y3/2～4/2	黒褐色砂質土	やや粘りあり　粗めの砂が入る　ブロック状だがよく混じっている
	②	2.5Y3/1～4/2	黒褐色砂質土	わずかに粘りあり　パサパサしている　4層のブロックが①よりも大きいが多くはない　①層のピットから上面が床となる
	③	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	②より暗い　やや粘りあり
S025ピット	1	2.5Y4/1～3/1	暗灰黄色砂質土	わずかに粘りあり、細かい砂質土　ほぼ埋土①層と同じ
	1’			①に比べ若干細かい砂が入る　4層のブロックが大きく多く入る
S026				浅く記載ができなかった　3層
S027	①	2.5Y4/2	黄灰色砂質土	非常に砂っぽく粗い砂が入る　根跡が著しく、層界が不明瞭　②層のピットから上面が床となる
	②	2.5Y4/2	黄灰色砂質土	砂っぽく粗い砂が多く入る　層がうすくあまり観察できない
S027カマド土坑	a-1	2.5Y3/2～4/2	黒褐色砂質土	若干粘りあり、全体に細かい焼土、白粘土塊が入る
	a-2	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	4層とのブロック状　細かい焼土を多く含む　カマドの作り直しのときの加工部か？
S027ピット	1	2.5Y4/2	暗灰黄色砂質土	根跡が多く、観察不能
	2	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	全体的にブロック状で、4層の5～10㎜のブロック状多く含む　埋土2がブロック状になった感じ
	3		灰色砂質土	わずかに粘りがあり、非常に細かい砂質土　埋土②に似る
	3’			3に比べ、粗い砂がわずかに混じり、1～2㎜の橙色の粒を含む
S032	1	2.5Y4/1～4/2	暗灰黄色砂質土	比較的シルト質が強く、粗い砂は殆ど入らない　全体的に細かいブロック状　2～5㎜の橙色の粒目立つ　境が不明瞭も埋土はS087と全く異なる
S033	1	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	若干シルト質　根あと等による撹乱ひどく残り浅いため不明
S035	①	2.5Y4/2～4/1	暗灰黄色砂質土	粉っぽさはなく、ザラザラした砂が多く混じる　4層がわずかにブロック状に混じる
	①’			①とほぼ同じも、粗いブロック状が明瞭で層界もはっきりしている
	②	2.5Y4/2～4/1	暗灰黄色粘質土	炭化物、4層若干混じる　やや腐植質　わずかにザラザラした砂が混じる　粗いブロック状
	③	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	①’に似た粒径、4層のブロック、Aが混じる　非常に粗いブロック状
	④	2.5Y4/2～4/1	暗灰黄色砂質土	①に似た粒径　細かいブロック状で若干粘質
	④’			④と同様だが、4層のブロックが著しく大きい　ブロック状明瞭
	④”			④と似ているが粗い砂は少なめだが砂質　他はほとんど同じ様相
	④”’	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	Aが点々と混じる　4層ブロックが少ないが大きいものが入る　粗いブロック状　変形著しいと思われる
	⑤	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	粗い砂や4層のブロックはほとんど入らない　若干粘りあり
	⑤’			⑤と同じと思われる
	⑤”			わずかにザラザラした砂が混じる　粗いブロック状　4層のブロック、炭化物目立たない
	⑥	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色粘質土	Aも若干混じるか？わずかに腐植質　ザラザラした砂が入る
	⑦	2.5Y4/2～4/1	暗灰色粘質土	(やや腐植質）とAがラミナ状に入るところがある
	⑧	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	やや腐植質に4層が大量に横方向やまとまって混じる　ザラザラした砂が混じる　変形していると思われる　①～⑧は細かく分けている埋め戻しの単位と思われる
	A			腐植　わずかに炭化物混じる
S036	①	2.5Y4/1～4/2	黄灰色砂質土	わずかに粘りあり　ザラザラしている　砂が入る　4層のブロックをほとんど含まず、10㎜以下の炭化物が目立つ　遺物が多く入っている
	②	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	わずかに粘りあり　ザラザラした砂は入らないが、パサつく
	③	2.5Y3/1～3/2 10YR4/2～3/2	黒褐色粘質土＋ 灰黄褐色砂質土	黒褐色土（遺構にしか残らない土　わずかにパサつく）と灰黄褐色砂質土（3A層相当）と4層との極めて粗いブロック状
	④			全体的に粗いブロック状　根あとか地層の変形
S037	①	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	粘りあるも、やや砂っぽく、粗い砂が入る　4層のブロック、炭化物、橙色が少ない　土坑埋土
	②	2.5Y3/2～4/2	黒褐色砂質土	若干粘りあり　粗い砂が少ない　加工時埋土か
S038				浅く記載ができなかった　3層
S040	①	2.5Y3/1～3/2	黒褐色砂質土	2層～4層のブロック状で非常に粗く、ゆるい埋土　①、②の層界は明瞭な部分と不明瞭な部分が混じる　2層のブロックは少ない
	②		灰色砂質土	3～4層のブロックにわずかに2層のブロックが入る　極めて、粗いブロック状で、ブロックも10㎜以上が極めて多い
S042	①	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	若干粘りあり　粗い砂が若干入る　焼土粒、白い粘土塊混じり　カマドを壊したときのものと思われる
	②	5Y4/1	灰色砂質土	若干粘りあり　ザラザラした砂が入る　粉っぽい、細かいブロック状と思われる　カマド下の土坑埋土
	③		黄灰色砂質土	粘質土との中間　ザラザラした砂が若干入る　4層との粗いブロック状　カマドから床を形成する層

Tab.8　東横イン北側土層注記表(4)

遺構番号	埋土名	色　調		備　　考
S044				残りが悪く記載ができなかった
S045	①	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	やや粘りあり、粉っぽいが粗い砂は入らない　炭化物、橙色粒、4層のブロックが若干入る　遺物多い
	②	2.5Y4/1～3/1	褐灰色砂質土	粘質土が非常に粉っぽい感じ　粗い砂は入らない　4層の大小のブロックが点々と入っている　砂質土の感じは1、2とも似ているが1が明るく見え層界明瞭
	③	10YR2/3	黒褐色土	褐色砂質土と黒色粘質土の互層　砂質土はきめが細かく、粘質土は粘性がない
S046				記載もれ　3層
S047	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	粉っぽく細かい砂が多く入る　5～10㎜の4層ブロック2.5㎜の炭化物点々と入る　細かいブロック状　落ち込む部分は、焼土ブロックが多く混じる　カマド下の土坑
	②	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	粉っぽい砂の入り少ない　4層のブロックが多く入る　しみのように入るところも多い　カマド下の土坑から上面が床となる
	③			②と4層がブロック状に混じる　加工時埋土
S048				記載もれ　3層も黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）
S049	①	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	粘りはほとんどなく、ザラザラした砂が入る　2～5㎜の4層のブロック、白粘土塊ブロック、非常に多く入る　底のﾗｲﾝは明瞭で水平
	②	10YR4/1～3/1	褐灰色砂質土	わずかに粘りがあるも、パサパサした感じ　炭化物、4層のブロック混じる　全体的に細かいブロック状　底のﾗｲﾝは、凹凸があるも明瞭
	③	2.5Y3/1～3/2	黒褐色砂質土	若干粘りがあり、細かい4層の大きなブロックが目立つ　下層のブロックを多く粗く含む　加工時埋土
S050	①	10YR2/3	黒褐色土	粘質はなく、さらさらしている
	①’			4層のブロックが著しく多い　加工時埋土
S052				記載もれ　3層
S053	0	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	粘りほとんどない　ブロック状の部分もあるが、全体的によく混じる　①の上層
	①		オリーブ黒色砂質土	若干粘りあり　炭化物、白粘土塊2～5㎜を多く含む　地層のゆがみか、凹凸極めて著しい
	②			①と4層のブロック状　土坑から上面が床になる
S053土坑		2.5Y3/1～3/2	黒褐色砂質土	白粘土塊のブロックが多量に入る　焼土ブロックも若干混じる　粘り若干あり、細かい　0～①の粗いブロック状と思われる
S055	①	10YR2/3	黒褐色砂質土	粒子は細かい　下層と比較すると砂質感が強い　3～10㎜大の4Ｂブロック、2～3㎜大のカーボン、褐色粒を多く含む
	②	10YR2/3	黒褐色土	上層よりやや土壌化した感がある　混入物の状況は上層とほぼ同じ
	③	10YR2/3	黒褐色土	②層と③層の中間的な様相を呈す　3～10㎜大の4A、4B層ブロック等を多く含む　稀に2～3㎜大のカーボンを含む　粒子は細かく、底面近くは4A、4B層の大きなブロック（5～10㎜）がみられる
	④	10YR2/2	黒褐色土	粒子が細かく粘性が強い土　2～3㎝大の4Bブロックを所々に含む　下層へ行くに従い粘性が強くなる傾向あり　P119の埋土
S056	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	わずかに粘り、粗めの砂が若干入る　炭化物、5～15㎜、点々と入る　橙色粒、4層ブロック、若干混じる
	①’			1に比べ、4層のブロックが少ない
	②	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	ほとんど粘りは無く、炭化物、4層ブロック、白粘土塊ブロックが混じる　1に比べはっきり明るく砂質だが、根跡のため範囲が不明瞭
	②’			2より暗い
	③		暗灰黄色砂質土	やや粘りあり　ザラザラした砂はほとんど入らない
S058	①	5Y3/1～4/1	オリーブ黒砂質土	粘りはほとんど無くザラザラした砂も多く入る　根あと等の撹乱がひどいが細かいブロック状か？
	②	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	若干粘りがあるがパサパサした感じで粗めの砂も多く入る　焼土、白粘土塊が多く混じる（特に下部）　粗いブロック状
	③	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	若干粘りがあるが、パサパサして粗めの砂が多い4層とのブロック状　下との層界は根あと等のため掘削のﾗｲﾝとしている　加工時埋土
S060	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	若干粘りあり、粗い砂は入るがザラザラとした砂は入らない　4層の大小のブロックが非常に多く混じる
	①’			他に比べ、4層が少なめ
	②	2.5Y3/2～3/1	黒褐色砂質土	①に比べ、4層のブロックが少なく暗色で粘りがある　(4層の入る量によるものか)
	③	2.5Y3/2～4/2	黒褐色砂質土	ザラザラした砂は入らないが、粉っぽく、砂っぽい層　炭化物、橙色粒（焼土粒？）が多く混じる　遺物が多く入る
	A			ブロック状の4層にわずかに3層が混じる
	B			3層と4層の極めて粗いブロック状
	C			4層と埋土がまだらに混じりあう
	P6			記載できなかった　おそらく黒褐色土と思われる
	P7	10YR2/2	黒褐色砂質土	粒子は細かいが、全体的に砂質感が強い　全体の上2/3に4Aのブロック（3～5㎝大）　下1/3に4Bブロック（3～5㎝）を多く含む　また、全体的に3～5㎜大のカーボンを所々に含む　断面を見ると、中央には大きなブロックが少なく、より粒子が細かいので柱痕がそのまま腐ったものかもしれない
	P11	10YR2/3	黒褐色土	粒子が細かくやや土壌化が進んだ土　4A、Bブロック（1～3ｃｍ大）、2～3ｃｍ大の褐色粒やカーボンを多く含む　上層には、4～5㎜大の銅の丸い粒子状のものを確認　断面観察では黒褐色土と4Aの褐色土が混じりあう状況　平面では柱痕と考えられる　黒褐色の円いﾗｲﾝが見えるが断面では見えない状況
S064	①	10YR4/2～3/2	灰黄褐色砂質土	4層のブロックはほとんど入らない　炭化物がわずかに入る　わずかに粘りあり、わずかにザラザラした砂が入る　パサつかない
	①’			①に比べ、粘り、ザラザラした砂多い
	①”			白粘土塊ブロックが若干混じる
	②		暗灰黄色砂質土	わずかに粘りパサつかず、粗い砂がない　4層の大小のブロックが入る　1に比べ明るい
	②’			②に比べ4層のブロックが小さく少ない

Tab.9　東横イン北側土層注記表(5)

遺構番号	埋土名	色　調		備　　考
S067	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	わずかに粘りあるが、パサつく　細かいブロック状で炭化物多めに混じる
	②	10YR4/2～3/2	灰黄褐色砂質土	粘りはわずかであるが、全体的に細かい　カマド位置から上面が床となる可能性あり
	③	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	若干粘りがある　4層のブロック目立つ　炭化物多い　下のﾗｲﾝは凹凸著しく不明瞭な部分あり
S068				註記なし
S069(①-①")	①	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	若干粘りあり　4層の1㎝以下のブロック多く入る　全体的に細かいブロック状
	②	2.5Y4/1～4/2	黄灰色砂質土	わずかに粘りあり　上下層に比べはっきり砂質　細かいブロック状のところ多い
	③		オリーブ砂質土	若干粘りあり　細かい4層のブロックが多く入る　底は波打つ　最下層にしては4層の混じりが少ない
S069(A-B)	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	若干砂が混じる　全体的に細かいブロック状　白粘土が点々と混じる
	②	2.5Y3/1	黒褐色粘質土	若干砂混じる　4層ブロック、黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）が点々と混じる
S070	①	2.5Y4/2～4/1	暗灰黄色砂質土	粘質土との間くらい　粗めの砂を若干含む　焼土を多く含む　ピットか土坑　(P120の可能性あり、上位ピットの一部)
	②	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	全体によく混じる　1～2㎜の橙色粒目立つ
	③	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	細かいブロック状　ゆるい埋土
	③'	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	4層のブロックが③より多く、ゆるくない埋土
S071		2.5Y4/1	黄灰色粘質土	やや砂っぽい　4層、黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）との粗いブロック状　(下部　上部は残りが悪く観察できていない)
S072	①	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	粘りはほとんどなくパサパサ、ザラザラした砂はないが粗めの砂が入る　細かいブロック状で4層、白粘土塊、橙色粒、炭化物が全体に点々と入る
	②	5Y3/2～3/1	オリーブ黒色砂質土	粘りはほとんどなく、パサパサ、①に比べ粗い砂が少ない　①との層界明瞭下部ほど粗い　ブロック状、焼土、白粘土塊、点々と入る
	③	5Y3/1～4/1	オリーブ黒色砂質土	やや粘りがあり、粗めの砂が若干入る　②に比べ炭化物が多い　下のラインは、湾曲、根あと等著しい
S073	0		黄灰色砂質土	わずかに粘り、粗めの砂が多く入りパサつく感あり　4層のブロックが極めて多く入る　①の上層
	①		オリーブ黒色砂質土	若干粘りあり　地層のゆがみか、凹凸極めて著しい
S074	①	2.5Y3/1～3/2	黒褐色砂質土	粘り全く感じないが、ザラザラした砂も感じない　4層の2～5㎜くらいのブロックを点々と含む　薄いため不明瞭も比較的層界は明瞭
	②	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	粘りはほとんどないが細かい　4層の5～10㎜ブロック点々と含む　①より多い　下との層界はやや不明瞭も水平に通る
	③	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	若干粘りがあるが、ザラザラした砂も入りパサパサした感じ　下部のほうが、ブロック状が目立ち、やや暗色になる　4層のブロック若干含む
	④	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	4層のブロック、白粘土塊ブロック、非常に多く含む　下面は凹凸が著しく、4層が動いていると考えられる
S076				3A層に～1㎝の4層ブロックが点々と入る
S078	①	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	(砂はほとんど混じらず、やや粉っぽい)、4層と黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）の非常に粗いブロック
	①'			4層に黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）が若干混じるが、しみ込んだような感じ　4層も比較的暗い
	②	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	粗い砂が若干入る　白粘土塊ブロック、4層が非常に多く入っている　粗いブロック状に
S080	①	2.5Y4/1～4/2	黄灰色砂質土	若干粘りあり　砂は粗め、4層の大小のブロックが多く混じる
	②	2.5Y3/2～3/1	黒褐色砂質土	若干粘りあるも、パサつく　下面が波のようにうねり、P104と同じような埋土　平面でも浅い、深いの凹凸あり　地層の変形と思われる
S081	①	2.5Y3/2～4/2	黒褐色粘質土	粗めの砂がわずかに混じる　4層の細かいブロックがわずかに混じるが全体的によく混じる
	②			①に黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）と4層がブロック状に入る
S082	①	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	やや粘りがある　粗めの砂が若干混じる　黄灰色粘質土（2.5Y4/1～3/1）粉っぽく、粗い砂が入らない　ブロック状4層の大小のブロックが混じる
	②			①と変わらないが、粗めのブロック状で粗い砂が若干混じる　オーバーハングしているところがある
	③	5Y3/1～4/1	オリーブ黒色粘質土	やや腐植質　断面を作っていないので観察できていないが、やや粗い砂が混じる
S083	①	2.5Y4/1～4/2	黄灰色砂質土	やや粉っぽい　下部はブロック状、上部はゆるい埋土　若干粗い砂が混じる
	②	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	わずかに粘質　4層とのブロック状で4層がしみのように入るところあり　わずかに粗い砂が混じる
	③	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	やや粘質　②よりしまりがある　4層ブロックが多めに点々と入る　全体的に細かいブロック状
	④			③と4層と黒褐色粘質土のブロック状
S084		10YR2/3	黒褐色土	黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）　1～5㎝大の4Aブロックを多く含む　断面にも下から浮き上がっているような状況の4Aブロックあり
S085		5Y3/1～4/1	オリーブ黒色粘質土	やや腐植質　部分的にブロック状の埋土　下部には4層のブロックが多い
S086		5Y3/1～4/1	オリーブ黒色粘質土	4層の混じりが非常に少ない　下面は波打つ　炭化物混じる
S087		10YR2/3	黒褐色土	黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）　1～5㎝大の4Aブロックを多く含む　断面にも下から浮き上がっているような状況の4Aブロックあり
S088		2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色粘質土	若干粉っぽく細かい4層ブロックが点々とまじる
S093	①	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	わずかに粘質　砂のはいりが少なめ
	②	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	細かいブロック状顕著　黒褐色土、焼土、4層が多く混じる　S047の①カマド下の土坑部分の影響と思われる
S094		5Y4/1～3/1	灰色砂質土	4層の粗いブロック状　若干黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）が混じる
S095				3層の遺構
S096				3層の遺構

Tab.10　東横イン北側土層注記表(6)

遺構番号	埋土名	色　調		備　　考
S097	①	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	わずかに粘りがあるがパサパサも砂は細かい　細かいブロック状もはっきりしないところ多い
	②	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	①に比べ暗色　ブロックが粗めで炭化物、焼土、白粘土塊を多く含む　①との層界は不明瞭なところがある
	③			②と同様も、若干炭化物が目立ち細かいブロック状で暗色のブロック（下位遺構埋土）が多い
	0	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	粘りはほとんどないが、パサパサした感じも粗い砂はほとんど入らない　ブロックはあまり目立たず、よく混じる部分が多い　①の上層
S098				各ピット参照
S099	①	10YR3/2～4/2	黒褐色砂質土	粉っぽく、若干細かい砂が入る　4層のブロックが多く混じる　粗いブロック状　黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）に近い
	②		①と黒褐色粘質土	やや砂質、若干粉っぽい　ブロックが多く入る　黒褐色粘質土（3A・3Bと異なる）と似る
遺構(断面でのみ確認された遺構)(東-13)	b-1	2.5Y4/1	黄灰色砂質土	よく混ざる　橙色の粒、炭化物混ざる
	b-2			3Aと4層が混じりあう
遺構(断面でのみ確認された遺構)(東-13)	c-1	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	粘質土に近い　下半分はブロック状が細かく、しまりが上部よりある　上部はボソボソとした埋土
	c-2			3Aと4層が入る　細かいブロック状　しみのように入る部分がある　c-1、c-2の層界は不明瞭
P76	①	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	粘性ややあり　粗い砂が入る　ブロック状10㎜以下の4層が若干入っている
	②	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	粘りあり　粘質土のほうがいいかも　4層の大小のブロックが多く入る　粗いブロック状　①より明るい
	③	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	粘りがわずかにあるも、粉っぽい　粗い砂はほとんど入らない　小さめの4層のブロックが多く入る
P71		2.5Y4/1	黄灰色砂質土	非常に粗いブロック状　粘質土に近い
P109		2.5Y3/1～3/2	黒褐色粘質土	若干粗めの砂が入り、やや粉っぽい　4層が混じる粗いブロック状と思われるが、全体的に根跡が多い
P121				P109と同様も4層のブロックが多い
P141		2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	4層のブロックが少ない　下部はブロック状
P142				丸いものが多く根跡の影響が多いだけと思われる　4層のブロック多い
P143		2.5Y4/1	黄灰色砂質土	よく混じる　下部にのみ4層のブロック
P144		2.5Y4/1	黄灰色砂質土	粘質土に近い　細かいブロック状と思われる　4層の粗い砂が多く入る
P147		7.5YR4/6	褐色砂質土	粘りはあまり無く、粒は小さい　暗褐色土や褐色土が混じる　4層がしみのように入るところが多い
P155		2.5Y3/1～4/1	黒褐色粘質土	粗い砂が入る　4層のブロックを含む　粗めのブロック状　橙色の粒が目立つ
P171		2.5Y4/1	黄灰色砂質土	粘質土に近い　4層がしみのように入る　細かいブロック状
P175			灰色砂質土	粉っぽく若干ザラザラした砂が混じる　下部ほどブロック状がはっきりする

Tab.11　東横イン北側ピット観察表(1)

※埋土は基本土層、上端・下端はレベル値

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
1	E1	3層	59.3	57.6	1.14	8.02	6.89	7.13															S060P1　S055を切る。
2	E2	3層	73.2	63.1	1.05	7.94	6.89	7.20															S060P2　S048を切る。
3	E2	3層	81.2	75.5	0.84	7.88	7.04	—															S060P3　S004、009、058、074、084を切る。
4	E2		69.2	—	0.54	7.79	7.25	—	1	21													S056P1　S014を切り、調査区外にのびる。
6	D2		23.0	22.1	0.06	7.59	7.53	—	41	246													
7	E2		54.8	52.0	0.53	7.93	7.39	—															S056P2　S052、069を切る。
8	F2		74.0	65.3	0.47	8.00	7.53	—	24	388													S047、048を切る。
9	F2		69.0	64.3	0.38	7.90	7.52	—															S060P10　S007、P111を切る。
10	F1		102.2	87.5	0.94	8.02	7.09	—															S060P4　S053、084を切る。
12	F2～G2		61.0	59.2	0.54	7.94	7.41	7.49	17	114													柱痕あり
13	F2～G2		77.0	71.0	0.56	7.93	7.37	—	1	13													S056P4　P12と接する。
15	F2～G2		61.3	49.2	0.43	7.95	7.51	—															S060P8　3A層と4層。遺物点上げ。P40と遺物が混ざっている。
18	D1～E1		45.0	43.5	0.47	8.00	7.53	—	18	111													
20	E2		61.2	60.7	0.43	7.97	7.55	—	11	114													S012、058を切る。
21	E2		67.2	64.5	0.28	7.79	7.51	—	23	321													S058を切る。
22	F1		70.6	41.3	0.65	7.98	7.33	7.42															S056P6　S011、084、P147を切る。
23	C1		57.2	44.1	0.47	8.49	8.03	—															S064P1　P100と同一
24	D2		50.8	39.6	0.32	7.82	7.51	—	22	111													S060P14　S021、094を切り、P158と接する。
26	F1～F2		48.5	46.3	0.38	7.97	7.59	—															S060P5に含めるが、別遺構の可能性あり
28	G2		76.0	47.5	0.49	7.98	7.50	—	29	427													土坑？抜き取り？ピットが二つ重なっているようには見えない。P15と変わらない。周囲にピットはなく根跡と思われる。
31	G2		50.5	47.5	0.37	7.98	7.61	—	10	102													全体的にやや掘り過ぎ
33	E2		68.5	52.4	0.50	7.92	7.42	7.47															S056P9　S058を切り、S012、072に接する。
34	D2		62.9	52.4	0.40	7.85	7.45	—															S060P12
35	D2		58.0	56.0	0.32	7.91	7.59	—															S064P5　S078を切る。
36	D2		48.5	39.9	0.35	7.87	7.51	7.58	3	16													S064P4　S021、069、071を切る。
37	D1		51.8	41.9	0.22	7.97	7.74	—															S064P3　正確にとらえきれなかった。S018、080を切る。
38	C2		56.1	45.0	0.19	7.90	7.71	7.79															S064P6　S016、081を切る。
40	F2		64.5	59.7	0.34	7.95	7.61	—															S060P11　P15と接する。
42	J3		92.6	62.5	0.50	7.92	7.41	7.53	13	59									1	3255			
45	J2		48.0	43.0	0.30	7.96	7.66	—	3	102													
47	J2		40.5	39.6	0.29	7.93	7.65	—													瓦質3	3	
48	J2		45.4	41.4	0.28	7.95	7.67	—	6	100													
50	J2		91.6	46.3	0.32	7.93	7.61	—	10	339													
51	J2		41.9	33.5	0.40	7.91	7.51	—	3	33													P52と似ているが、4層ブロックが小さく少ない。
52	J2		43.5	39.2	0.36	7.90	7.54	—	14	68													

Tab.12　東横イン北側ピット観察表(2)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
53	J2		66.1	64.5	0.42	7.94	7.52	7.80	15	148													
54	J2		56.2	48.0	0.51	7.93	7.42	—	9	265													P55と接する。
55	J2		49.1	42.2	0.23	7.92	7.68	—	3	9													P54と接する。
57	J3		51.0	50.5	0.49	7.90	7.40	—	5	52													
62	I3		97.1	64.2	0.48	7.90	7.42	—	17	191					1	22	1	187					P63と切り合い不明。
63	J2		58.0	—	0.47	7.90	7.43	—	16	102							1	123					P62と切り合い不明。
64	I2		72.6	52.9	0.41	7.92	7.50	7.55	15	376													
65	I2～J2		46.4	41.7	0.27	7.91	7.63	—	14	178													
66	I2		45.6	42.3	0.37	7.90	7.54	—	10	173													P68に切られる。
67	I2～J2		59.5	48.7	0.43	7.91	7.48	7.69	3	18													
68	I2		69.5	58.7	0.38	7.91	7.54	7.65	14	177													P66を切る
70	I2		45.4	39.6	0.22	7.92	7.70	—	1	22													他に比べ小さいものの掘り方の形状から遺構と思われるが、樹痕の可能性も否定できない。
71	J2		128.5	—	0.27	7.92	7.65	—	5	39													調査区外にのびる
75	F1～G1		80.0	62.6	0.63	7.95	7.33	7.45	18	128													S056　P5　調査区外にのびる
76	G2		111.0	81.0	0.52	7.98	7.46	7.535/7.705															
78	G2		52.2	49.2	0.12	7.99	7.87	—															他の遺構と比べ浅め。下の遺構の埋土に似ているが樹痕も多く入り遺構ではない可能性もある。調査区外にのびる
79	H1		47.5	45.4	0.37	7.97	7.60	—															
82	H3		60.5	—	0.51	7.91	7.39	—	3	70													樹痕の可能性が高い。調査区外にのびる。
83	I3		66.5	—	0.41	7.90	7.50	—	22	229													調査区外にのびる
84	I3		63.5	62.4	0.52	7.92	7.40	—	7	29													S098　P1 調査区外にのびる
85	I3		44.7	42.3	0.37	7.89	7.51	—	2	43													調査区外にのびる
86	J3		48.7	45.3	0.50	7.95	7.45	—	2	15													形状がP62に似る。
87	J2		59.5	46.0	0.50	7.92	7.42	—	11	151													P46と同一
88	I2		73.0	64.5	0.42	7.96	7.54	7.64															S098　P3
89	H2		57.2	46.4	0.25	7.93	7.69	—	6	109							1	35					確認前に完掘したため覆土不明。全体的に根跡が入る。
91	I2		82.5	52.0	0.49	7.94	7.45	—	22	389							1	439					ピットが2つ以上重なっていると思われるが、切り合い不明。
92	I2		55.0	38.2	0.37	7.96	7.59	—	12	153													P153と接する。
93	I2		59.5	56.2	0.55	7.93	7.38	7.65	15	255													P155と接する。
95	H2		62.0	61.0	0.30	7.98	7.68	—	6	30													非常に粗いブロックで土坑とすべきか。
96	E1		65.4	50.6	0.25	7.57	7.32	—															S056　P7　S005、009に切られる。
97	F2		68.8	61.7	0.46	7.86	7.40	7.63															S056　P3　S007、082を切る。
98	F3		56.3	—	0.30	7.95	7.66	—															調査区外にのびる

Tab.13　東横イン北側ピット観察表(3)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
99	E1		58.1	50.4	0.65	7.92	7.27	—															S056　P8　S005に切られS055、084、P119を切る。
102	D1		50.8	40.3	0.41	7.92	7.50	—															S064　P2　S019、050を切る。
103	D2							—															位置確認できず
104	F2		75.1	68.3	0.21	7.80	7.59	—	2	39													一部掘り過ぎ。柱穴の有無判断つかず。黒褐色土と茶褐色土の混ざり。根跡を除けばマーブル状に混ざるため、地層の変形の可能性が高い。遺構ではないと思われるが、遺構ならばピットというより掘ってすぐ埋められた土坑というべき。
108	C2		40.0	38.0	0.17	8.34	8.17	—	3	11													竪穴住居の下で検出しているが、掘削状況を考えると上から入っていたと思われる。底は丸いがオーバーハングしたり横に伸びたりする部分は根跡だと思われる。S081を切る。
109	D2		44.1	—	0.67	7.88	7.21	—	5	40													竪穴住居が切る。深く大きなピットと思われる。S052を切り、調査区外にのびる
111	F2		64.2	58.6	0.47	7.87	7.40	7.50															S060　P7
112	D1～D2		50.0	47.1	0.33	7.73	7.40	—			15	44											S064　P8　S019、020、050を切る。
113	D1		66.2	57.1	0.41	8.02	7.61	—															S060　P15
114	D2		79.1	75.4	0.27	7.76	7.50	7.56															S060　P9　S006、048、058、073を切る。
116	F1		47.2	41.7					4	28													図化もれ
117	E2		41.0	—	0.48	7.78	7.30	7.43	5	79	47	123											若干変形している可能性あり。S014を切り、調査区外にのびる。
118	E1		41.2	34.3	0.36	7.57	7.21	—															S005、056、084に切られる。
119	E1		36.2	21.2	(0.01)	7.61	7.62	—															
120	D2		45.0	42.0	0.13	7.55	7.42	—	5	45													S060　P13　S015、070に切られ、調査区外にのびる。
121	D2		32.3	—	0.38	7.58	7.20	—															樹痕の可能性高い。S015、052に切られ、調査区外にのびる。
123	G1		122.0	32.5	0.51	7.97	7.46	7.63															
124	H2		48.5	40.1	0.36	7.93	7.57	—	7	88													3A層に4層が点々と混ざる。ブロック状。
125	H2		52.0	51.2	0.30	7.94	7.64	—	8	48	13	62											P131と同一
126	G1		59.5	58.0	0.31	8.00	7.69	—															
127	H2		33.0	32.5	0.23	7.89	7.66	—															
128	G2		54.5	41.2	0.36	7.95	7.60	—	4	53	9	64											根跡の可能性あり。S038を切る。
129	H2		43.3	38.2	0.18	7.90	7.72	—	1	8					1	6							
130	H3		58.0	—	0.30	7.93	7.63	—															調査区外にのびる。
132	G2		49.0	—	0.37	7.97	7.60	—															カクランに切られ残りが悪い。調査区外にのびる。
134	J3		57.2	56.0	0.35	7.90	7.55	—	4	78	30	108											
135	I3		54.6	48.5	0.49	7.90	7.42	—	1	33													
136	J2		46.2	42.2	0.39	7.92	7.54	—	7	52	11	66											P44と同一。S023を切る。
137	I3		58.6	58.4	0.43	7.91	7.48	—	3	26													S098　P2
138	I2		49.0	47.1	0.44	7.91	7.47	—															S098　P5

Tab.14　東横イン北側ピット観察表(4)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
139	I2	3A	65.0	50.4	0.39	7.97	7.58	―															S098　P4
140	I2		66.8	47.8	0.37	7.97	7.60	―	30	439	40	505									縄文1	11	
141	G2～H2		50.5	46.1	0.36	7.95	7.60	―	13	73													S036を切る。
142	H1		55.4	―	0.14	7.94	7.80	―															調査区外にのびる。
143	H1		45.5	―	―	7.96	―	―															調査区外にのびる。掘り過ぎのため下場なし。
144	H1		46.5	―	0.38	7.96	7.59	―															調査区外にのびる
147	F1		43.7	30.2	0.15	7.75	7.60	―															
148	J3～K3		41.7	38.0	0.24	7.63	7.39	―															S025、042を切る。
149	K3		57.0	49.2	0.49	7.78	7.29	―	13	106	32	147											S042、033を切る。
150	K2～K3		49.8	47.0	0.32	7.92	7.60	―	9	41	63	107											S025を切り、P151と接する。
151	K2		52.0	49.8	0.59	7.92	7.33	―	29	137	121	281											P150と接する。
152	J2～K2		66.5	58.4	0.29	7.90	7.62	7.66	9	61													形状から樹痕の可能性が高い。S027に切られる。
153	I2		63.4	55.3	0.32	7.97	7.65	―	6	223									1	2012			P92と接する。
154	K3		108.9	49.4	0.60	7.88	7.28	―	30	403	81	508											ピットが二つ重なっていると思われる。
155	I1		89.5	―	0.38	7.90	7.52	―	10	79	5	92											P93に切られ、調査区外にのびる
156	E1		42.4	34.4	0.28	7.68	7.40	―															S010、055、083に切られる。
157	E1		38.6	32.1	0.23	7.63	7.40	―															S010、055に切られる。
158	D2		52.1	38.4	0.23	7.76	7.53	―	7	56	13	74											S018、080を切り、P24と接する。
159	I2		52.9	52.4	0.40	7.91	7.50	―	2	13													
160	I2		56.5	44.0	0.31	7.95	7.64	―	6	725													
161	E1～F1		37.5	29.1	0.18	7.58	7.40	―	2	39													S049に切られる。
162	J2～J3		47.5	46.7	0.34	7.91	7.57	―	13	162	53	222											S024を切る。
163	K2		54.7	52.9	0.59	7.98	7.39	―			1	7											S027を切る。
166	J2～K2		80.8	51.5	0.37	7.91	7.55	―	2	25													柱痕と思われる部分あり。一部根跡入る。竪穴住居の一部である可能性もある。S027に切られる。
170	C1～C2	3B	50.0	46.0	0.25	7.87	7.62	―															カマド付近掘削時に輪郭明瞭に見えていた。S064P7 S068を切る。
171	F1				0.09	7.98	7.89	―															竪穴住居の一部である可能性あり。S011に切られる。
172	E2		46.5	18.3	0.26	7.71	7.45	―															S060　P6　S048を切りS008、P114に切られる。
173	F2		39.5	20.5	0.35	7.73	7.38	―															S056　P10　S045に切られる。
174	F1～G2		100.0	68.0	0.59	7.95	7.37	―															S060　P5
175	L3		82.0	―	―	8.10	―	―	4	64													S095を切り調査区外にのびる。

２．遺物と観察表

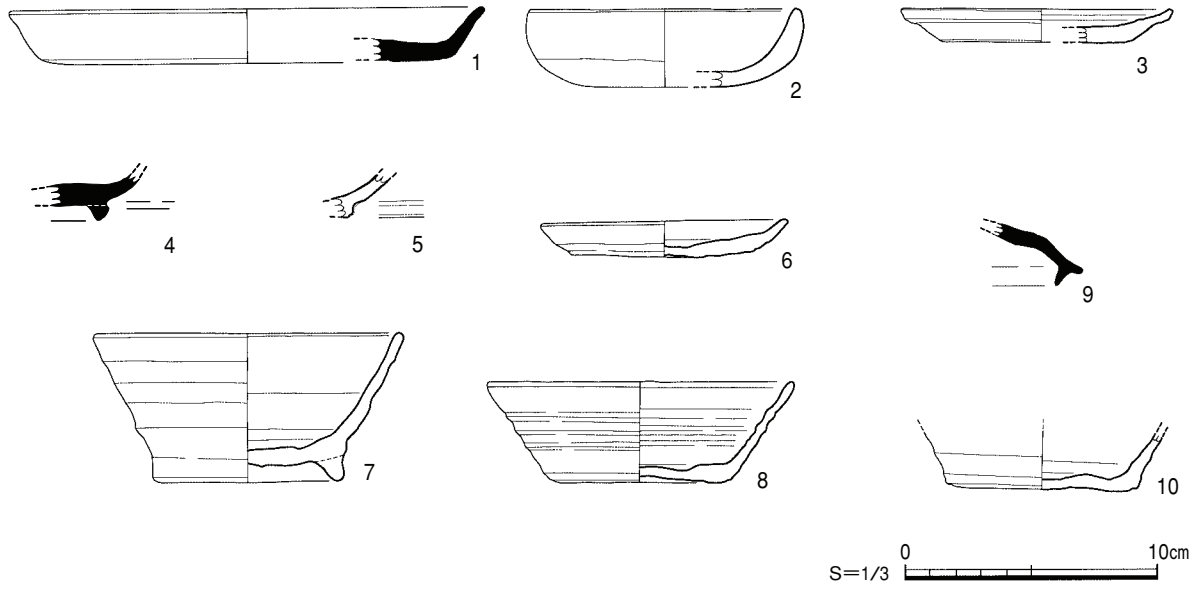


Fig.17　S001・002・003・007・008・009出土遺物実測図

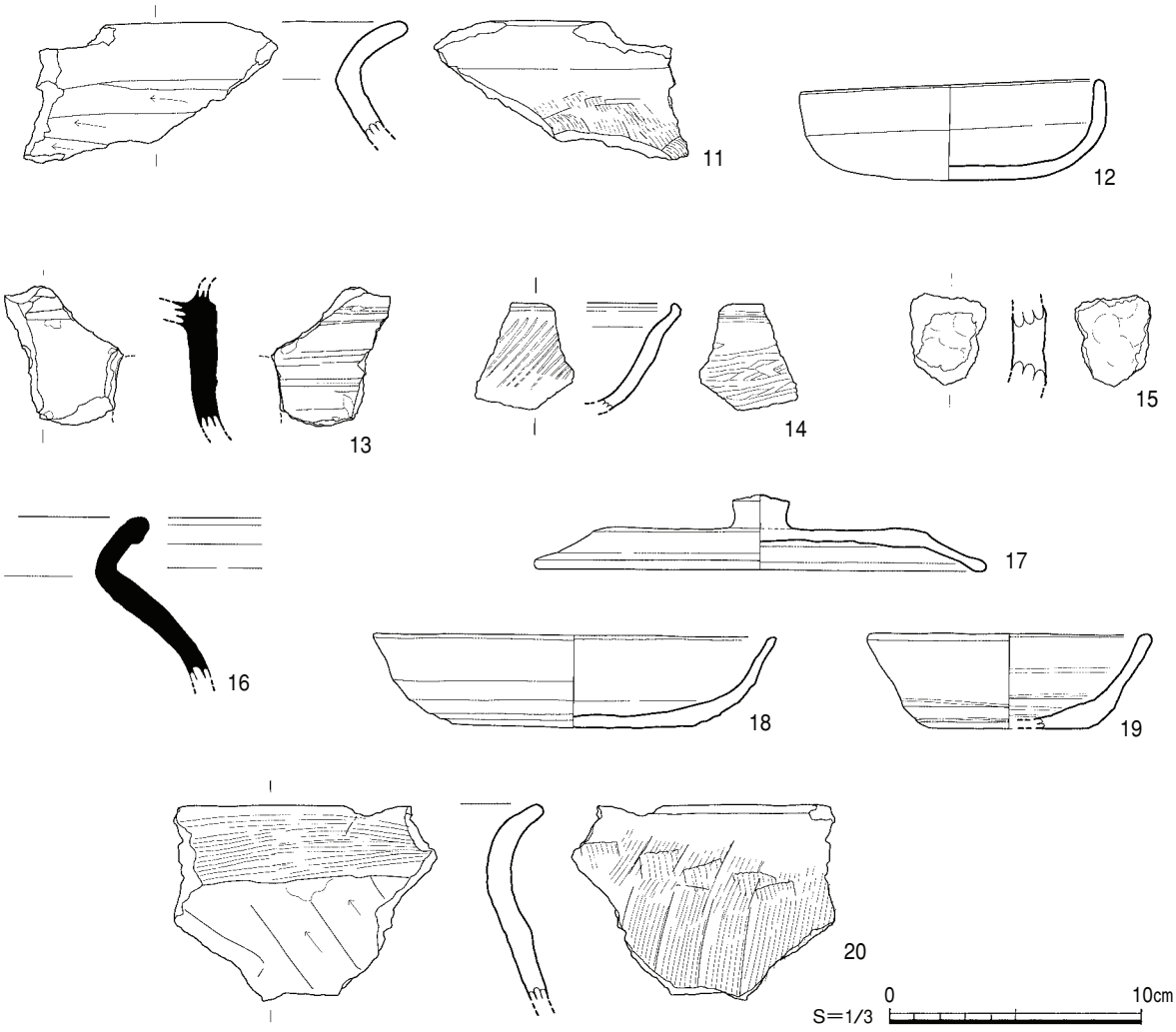


Fig.18　S011・012・013・014・023（1）出土遺物実測図

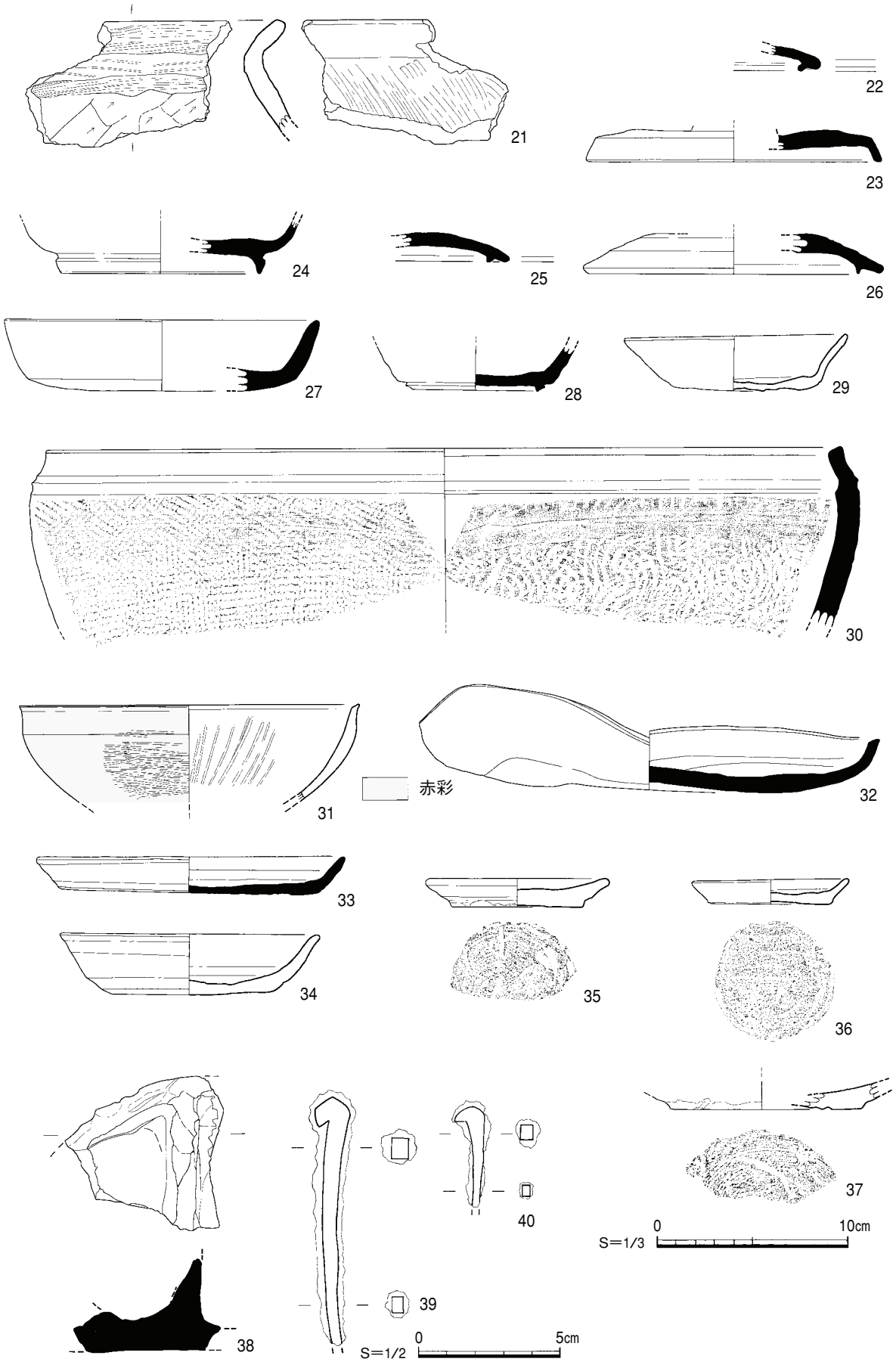


Fig.19　S023（2）・025・026・027・032・033・035出土遺物実測図

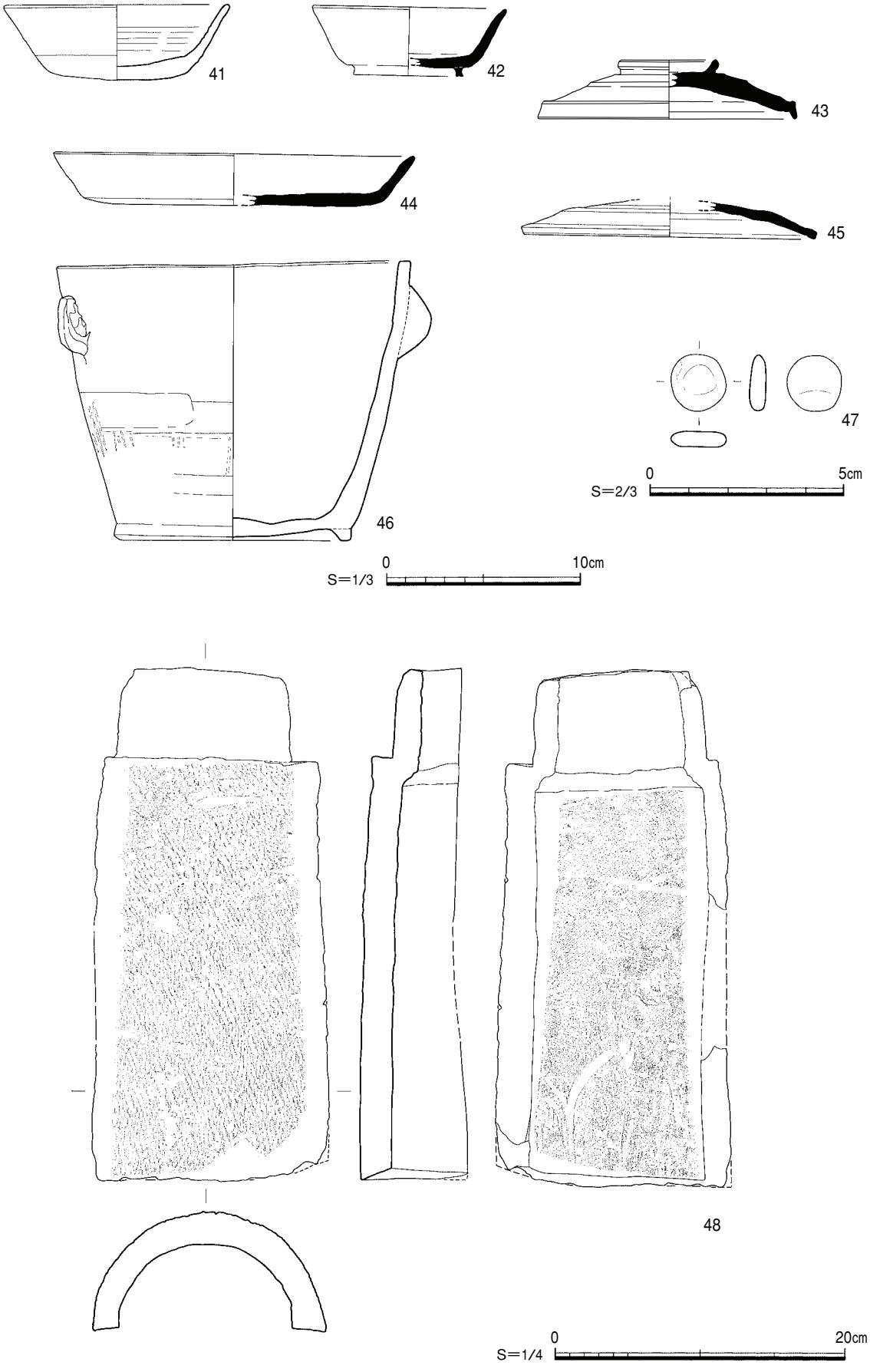


Fig.20　S036・037・038・042・044出土遺物実測図

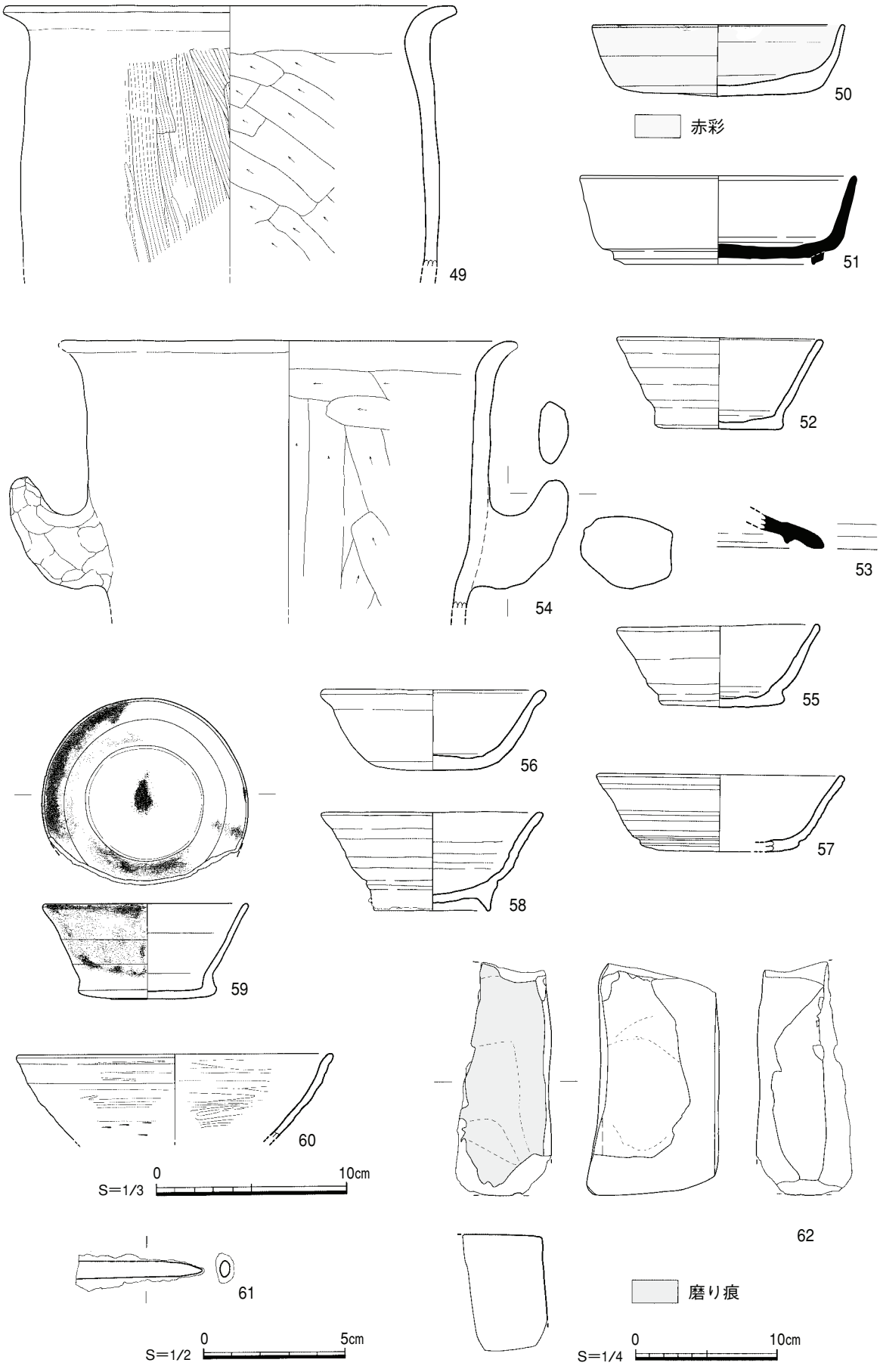


Fig.21　S045・046・056出土遺物実測図

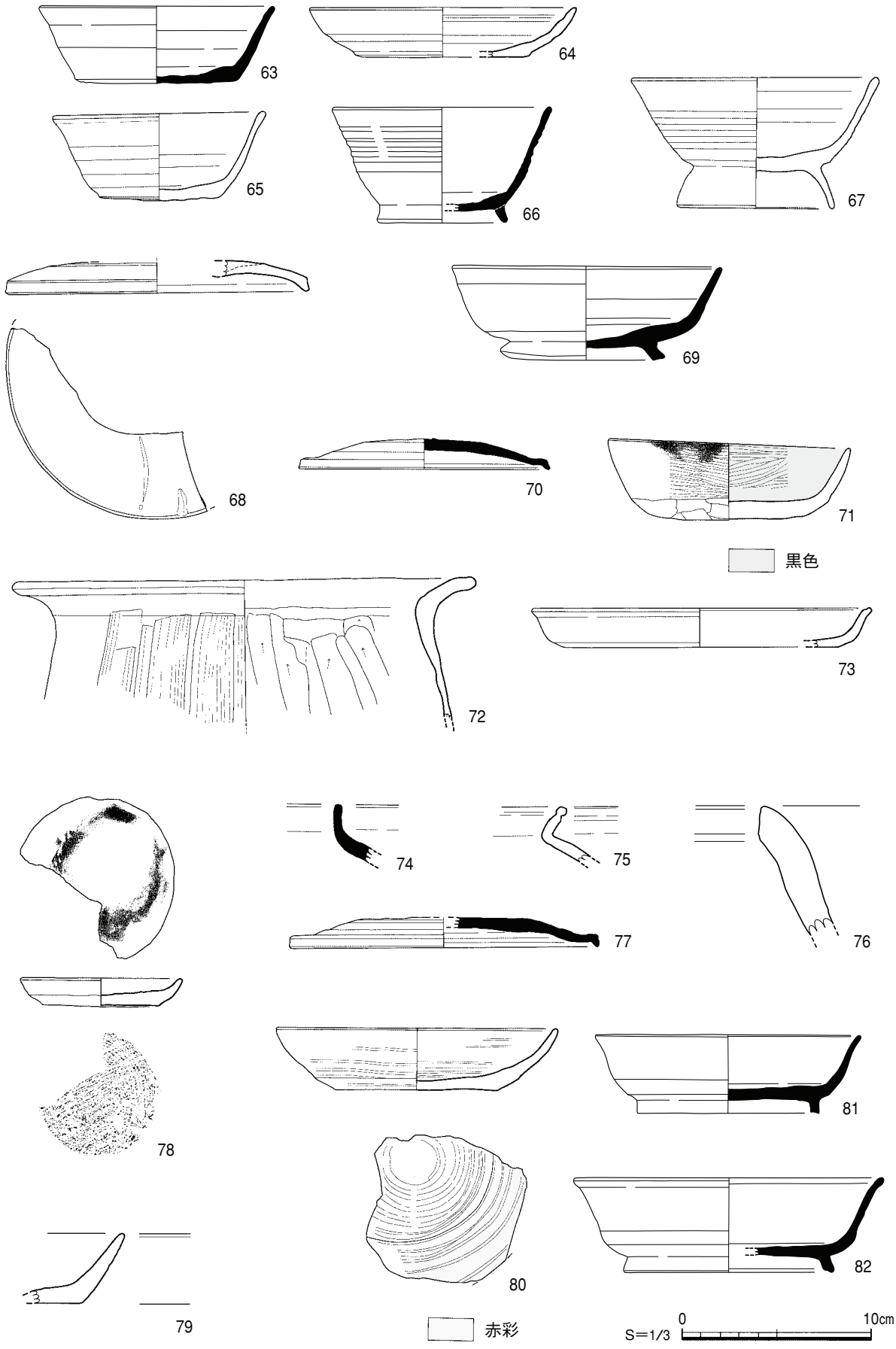


Fig.22　S058・060・068・086・087・098・ピット（1）・包含層（1）出土遺物実測図

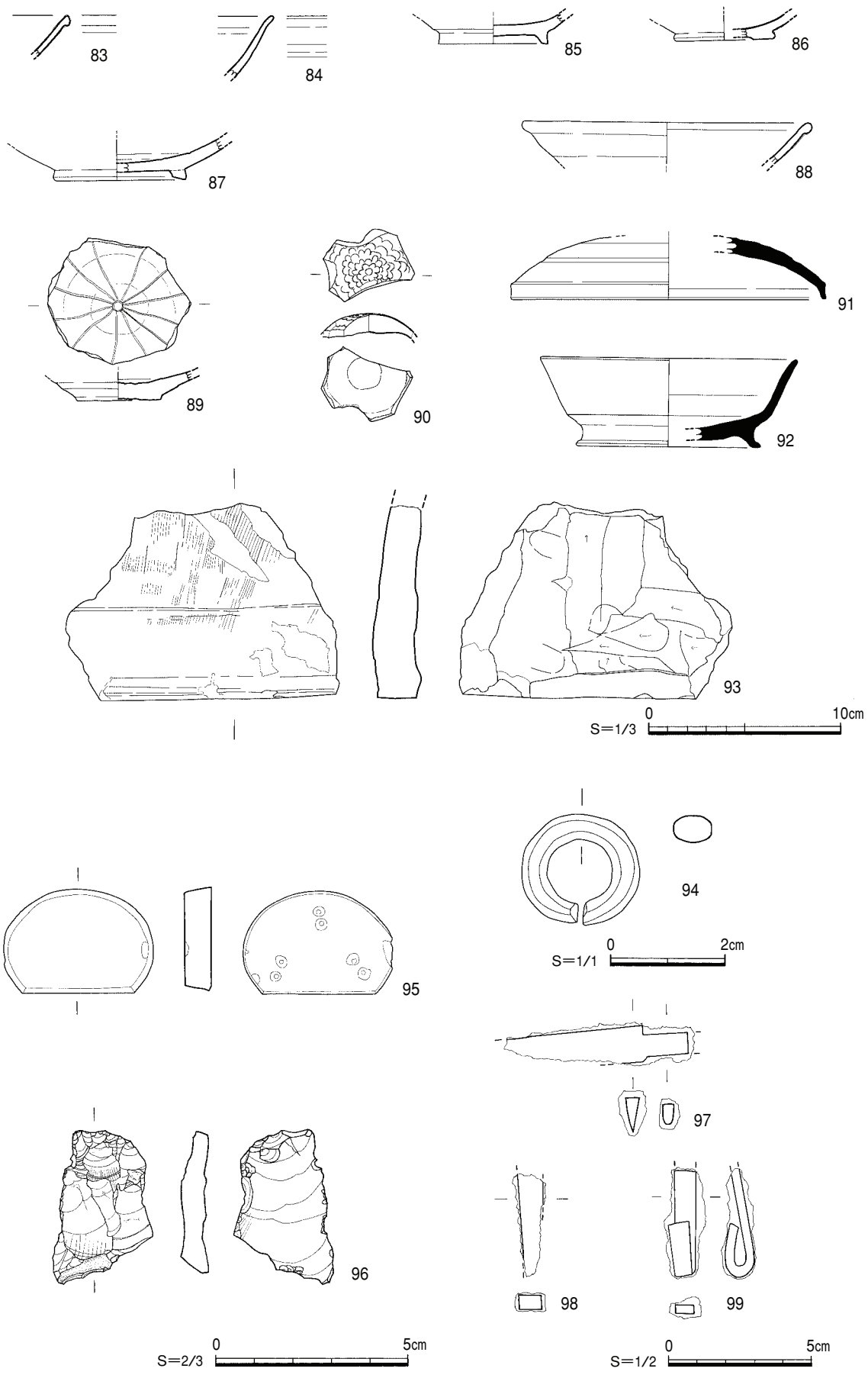


Fig.23　包含層（2）出土遺物実測図

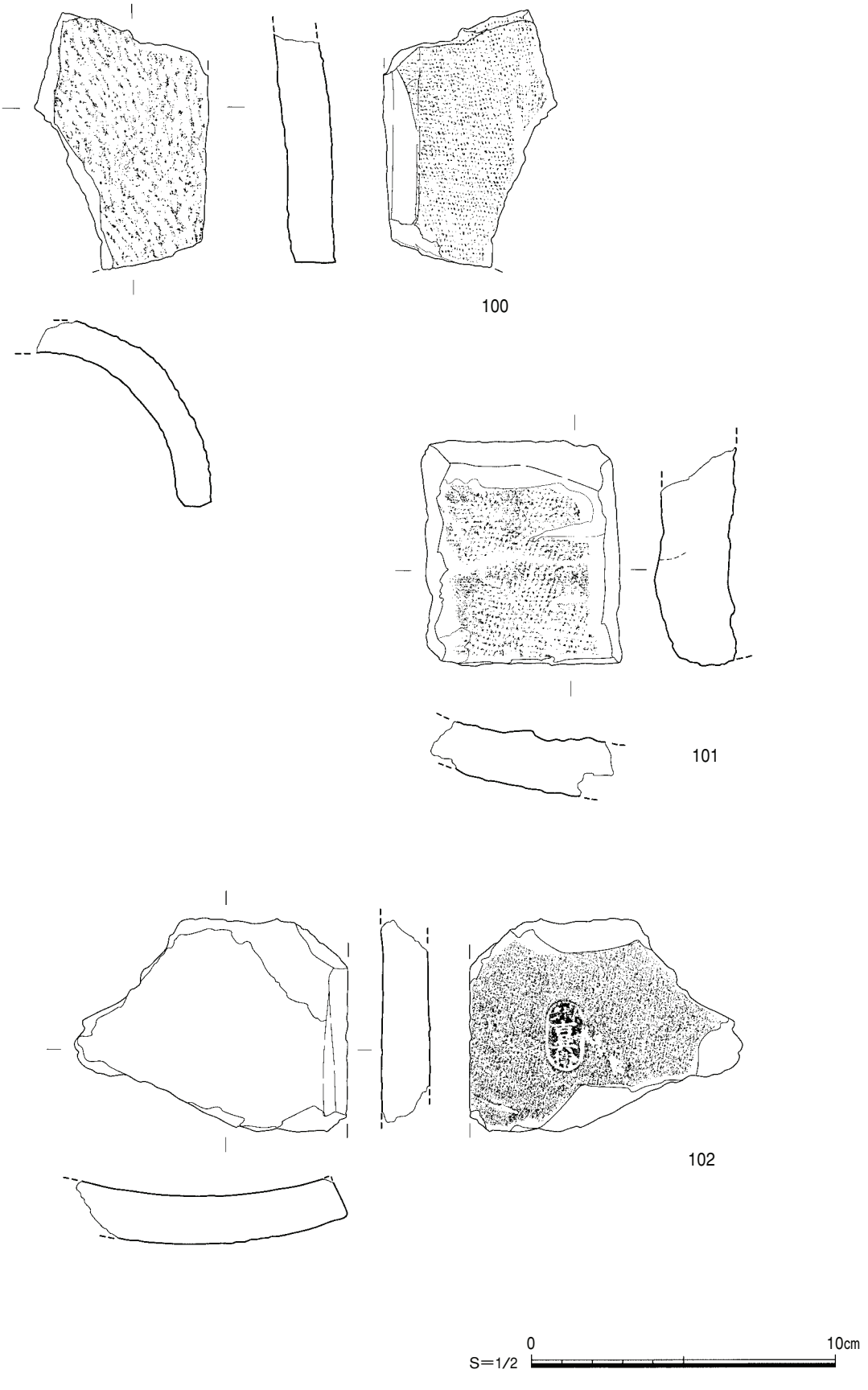


Fig.24　ピット（2）・包含層（3）出土遺物実測図

Tab.15　東横イン北側土器・陶磁器類観察表(1)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
17	1	須恵器	盤	S001	1層		18.8～	16.4～	2.2		横ナデ	成形時ナデ	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1	石英、黒曜石、砂粒など含む	良	1/6	8･9C
17	2	土師器	杯	S001	2層		10.4～		3.1～		横方向ナデ	横方向ナデ、手持ちヘラケズリ	灰白 10YR8/2	灰 白7.5YR8/2	石英、長石、角閃石、他含む	やや良	1/5	黒斑あり ～8C前葉
17	3	土師器	小皿	S001	3層		10.1～	7.8～	1.4		横ナデ	横・斜め方向ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	橙 5YR6/6	石英、角閃石、褐色粒、砂粒など含む	やや良	1/4	焼きむら。12C
17	4	須恵器	椀	S001	1層				1.8～	0.8	ナデ	ナデ	オリーブ黄 5Y6/3	灰 白5Y7/1	黒色粒、石英、長石、砂粒	良	破片	外面に自然釉。萩尾型椀　8C前半
17	5	白磁	椀 Ⅰ-1か2類	S002	2層				1.7～		回転ナデ、ヘラケズリ、ミガキ、施釉	回転ナデ、ヘラケズリ(高台削り出し)、ミガキ、施釉後削り取り	白色(土色帳に該当しない)	白色(土色帳に該当しない)	微細な黒色粒？カオリン質の陶石土。 胎土：淡黄2.5Y8/3	良	底部1/10	A期古段階　8C末～9C前　刑窯・定窯系。割れ後、酸化鉄等が多く付着している。
17	6	土師器	皿	S003			9.6	7.2	1.6		横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、板状圧痕	赤橙10R6/6、にぶい橙10YR7/3	にぶい橙 5YR7/4	石英	良	ほぼ完形	12C後半
17	7	土師器	椀	S007	1層	No.2	(12.0)	高台径 (7.1)	5.9	0.8	横ナデ	横ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 5YR6/6	2.0㎜以下の長石、雲母、赤色粒、黒色粒	良	口縁1/4 下部1/1	9C後半
17	8	土師器	杯	S009			(12.0)	(7.2)	4.0～		横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、板状圧痕	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	石英、褐色粒	良	1/4	10C前半
17	9	須恵器	蓋	S008	2層		(10.6)		2.5～		横ナデ	ヘラケズリ後ナデ	灰 5Y4/1	灰 5Y6/1	黒色粒、砂粒など含む	良	破片1/9	内面に灰かぶり、自然釉　7C前
17	10	土師器	杯	S007	1層	No.3		7.4～	2.3～		横ナデ	横・斜め方向ナデ、ヘラ切り後板状圧痕	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	石英、角閃石、黒曜石、長石、等含む	良	底部1/3	9C後半
18	11	土師器	甕	S011					4.7～		ケズリ	横ナデ、ハケ目調整	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	褐色粒、石、黒色粒、石英、角閃石など含む	良	破片	古代
18	12	土師器	杯	S012 D-2	1層	No.1	11.8		4.1		不定方向ナデ	横方向ナデ、手持ちヘラケズリ	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	1㎜以下の長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良	3/4	歪みあり。～8C前葉
18	13	須恵器	円色硯	S013	1層		残存高 5.2～	残存幅 4.9～	厚さ 1.6		ヘラケズリ、接合、灰かぶり	ヘラケズリ、接合ナデ	にぶい赤褐 5YR4/4	褐 7.5YR4/3	黒色粒、褐色粒、砂粒	良	破片	8C～9C
18	14	土師器	杯	S014	1層				4.2～		都城系の暗文	ミガキ	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	石英	良	破片	都城系の暗文
18	15	土師器	製塩土器	S022	清掃				3.2～		指頭圧痕	指頭圧痕	赤橙 10R6/6	灰 5Y6/1	石英、長石、黒色粒	良	破片	手捏
18	16	須恵器	壷	S023					6.5～		横ナデ	格子目痕タタキ、横ナデ	灰褐 7.5YR5/2	にぶい褐 7.5YR6/3	角閃石、長石、石英、黒色粒など含む	良	破片	古代
18	17	土師器	蓋	S023		D-1. No.3	(2.3)	(17.4)	3.0	つまみ 1.3	横方向ナデ	横方向ナデ、ヘラケズリ	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	2㎜以下の長石、雲母、角閃石、赤色粒	良	2/3	9C前葉
18	18	土師器	杯	S023		No.11	(15.8)	(9.7)	3.7		横ナデ後不定方向ナデ、指頭圧痕	横ナデ、板状圧痕	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	石英、長石、角閃石、褐色粒	良	口縁1/4 底部1/2	内外面に赤彩を施されている。9C中葉
18	19	土師器	杯	S023			9.0～	6.2～	3.8		ミガキ後タテ方向ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/6	褐色粒、石英、黒色粒、小石	良	1/3	回転ヘラミガキ。煤付着　9C前葉
18	20	土師器	甕	S023		No.5			7.8～		横ナデ、ハケ目	横ナデ、ハケ目、ハケ目後ケズリ	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	石英、角閃石、黒色粒、長石。砂礫多め	良	破片	古代
19	21	土師器	甕	S023		No.13			5.9		ハケメ、ケズリ	横ナデ、ハケメ	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	石英、黒曜石、輝石、長石など含む	良	破片	内外面に黒斑あり。古代
19	22	須恵器	蓋	S025	1層		(17.0)		1.4～		横ナデ	横ナデ	灰 7.5Y5/1	灰 N5/	石英、褐色粒	良	1/9弱	7C後
19	23	須恵器	蓋	S025	1層		(15.4)		1.7～		ナデ	口縁部横方向のナデ、ヘラケズリ	暗灰黄2.5Y5/2、赤褐10R4/3	赤褐 10R4/3	石英、黒色粒	良	1/9	外面全体に自然釉。　荒尾産　8C後
19	24	須恵器	椀	S025	ベルト			高台径 (10.4)	2.8～	1.1	横方向ナデ	横ナデ、貼り付け高台、沈線、ヘラ切り後ナデ	灰 5Y5/1	灰 N5/	石英、長石、小石	良	底部1/3	

Tab.16　東横イン北側土器・陶磁器類観察表(2)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
19	25	須恵器	蓋	S025	3層		(14.8)		1.6～		横・斜め方向ナデ	横ナデ	灰 5Y5/1	灰 N4/	石英、黒色粒	良	1/10	7C後
19	26	須恵器	蓋	S025 Pit2	1層		(15.1)		2.2～		ナデ、横方向ナデ	ヘラケズリ	灰 5Y5/1	灰 N5/	石英、角閃石、黒色粒、小石	良	1/7	7C後
19	27	須恵器	杯	S025	2層		(16.2)	(13.9)	3.8		成形時回転ナデ、回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ	灰 7.5Y5/1	灰 N5/	石英、黒色粒、砂粒、石を含む。黒色粒目立つ	良	口縁部1/8	外面全体に自然釉。 8C？
19	28	須恵器	椀	S026				7.4～	2.3～		横方向ナデ後不定方向ナデ	ナデ、高台貼り付け、ヘラ切り	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1・4/1	黒色粒、長石、砂粒	良	底部1/5	高台が貧弱でやや小さい。 9C
19	29	土師器	杯	S027	1層		11.5	7.2	3.1		横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、板状圧痕	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	雲母、石英、小石	良	1/4	赤彩？粗い成形。器形に歪みがきつく法量の集計にはふさわしくない。9C中葉
19	30	須恵器	鉢	S027	2層		42.8	9.9～			青海波状文、横ナデ、刺突文	格子目痕、突帯、横ナデ	灰黄褐 10YR5/2	にぶ黄橙 10YR7/2	石英、黒色粒、石など含む	良	口縁の一部	外面に焼きむらがある
19	31	土師器	椀	S032 K2	3層		(16.4)	—	(5.1)		横方向ナデ、放射状の暗文	横ナデ、ヘラミガキ、赤彩	にぶい橙 7.5YR6/4	明赤褐 2.5YR5/6	長石、雲母、赤褐色粒	良	口縁1/3	赤彩。都城系暗文
19	32	須恵器	盤	S032		No.1	24.0～	17.4	3.0		回転ナデ後多方向にナデ	回転ナデ、手持ちヘラケズリ	灰 N4/	灰 7.5Y6/1．4/1	石英、長石、砂粒、黒色粒	良	口縁1/7欠損のみ	全体に歪みがひどい。 8C
19	33	須恵器	盤	S033		No.1	16.0	13.5	2.1		ナデ　指頭圧痕	横ナデ、ヘラ切り後ナデ	灰白 2.5Y7/1	黄灰 2.5Y6/1	1.5㎜以下の長石、雲母、黒色粒、赤色粒	良	ほぼ完形	土器埋納、蓋として使用。 9C前葉
19	34	土師器	杯	S033		No.2	13.5	8.2	3.2		回転ナデのち斜めナデ	回転ナデ、糸きり後ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	石英、角閃石、砂粒等含む	良	ほぼ完形	全面赤彩。 9C前葉
19	35	土師器	小皿	S035			(9.1)	(6.6)	1.5		丁寧なナデ	回転ナデ、糸切り、	灰黄褐10YR6/2、橙5YR7/6	灰黄褐 10YR6/2	白色粒、褐色粒多い。灰色粒まじる 断：橙5YR7/6	良	1/4強	指頭圧痕、板状圧痕あり。口縁に多少ゆがみがあり、もう少し口径は大きくなるかもしれない。全体にくすんだ色調。
19	36	土師器	小皿	S035	埋土1層	掘り下げ	7.9	6.3	1.3		回転ナデ凸凹	横ナデ、ヘラ切り	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	1㎜以下の長石、雲母、角閃石、赤色粒、黒色粒	良	完形	
19	37	土師器	杯	S035				9.6～	1.4～		多方向にナデ	横ナデ、糸切り後多方向に粗いナデ	橙 5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/3	長石、石英、褐色粒、黒色粒など含む	やや良	底部1/4	底部の調整が粗く、粘土痕が残っている。
19	38	須恵器	風字硯	S035 外側K2			海部 0.9	長さ 5.5～	幅 5.6～	厚さ 3.4～		手持ちヘラケズリ			黒色粒			海部0.9㎝　右側の海部にわずかに朱墨付着。重さ45.57g
20	41	土師器	杯	S036		No.36	(11.4)	6.9	3.9		横ナデ	横ナデ、ナデ	にぶい橙 10YR7/3	にぶい橙 10YR7/3	石英、雲母、角閃石、褐色粒	良	2/3	内外面に黒斑有。10C前･中葉
20	42	須恵器	椀	S037			9.9～	5.7～	3.6		横ナデ	ナデ、ヘラケズリ	灰 N6/	灰 N5/	黒色粒、石英、砂粒	良	1/5	8C後葉
20	43	須恵器	蓋	S042 D-1	カマド埋土1		13.3		3.1		横ナデ	ナデ、ヘラケズリ	灰白10YR7/1・浅黄橙10YR8/4	灰白10YR7/1・浅黄橙10YR8/4	黒色粒、長石、褐色粒	良	完形（口縁部～つまみ部）	内面に自然釉付着つまみ径4.8㎝つまみ高0.7㎝　稜椀にともなう蓋。荒尾産 8C後
20	44	須恵器	盤	S042 D-1			(19.2)		2.7		回転ナデ	ナデ、回転ナデ	灰 N6/	灰 N7/	細砂くらいの白色粒多い　断：灰N6/	やや良	口縁部一部	少破片で、底からの復元のため誤差は大。 9C
20	45	須恵器	蓋	S042			(14.4)		1.9～		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ	青灰 5B5/1	青灰 5B5/1	白色粒、黒色粒若干入る。白色粒レキ、石英あり 断：青灰5B5/1～6/1	良	1/4弱	歪みあり　8C～9C
20	46	土師器	鉢	S044		Pit76 No.270	18.0	11.8	14.6		ナデのち指頭圧痕 横ナデ	成形ナデ後未調整、回転ヘラケズリ、ナデ板状圧痕又はヘラ状圧痕	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	石英、長石、黒褐色粒など含む	良	完形	2つの把手が付いている。土器埋納。 8C後半
21	49	土師器	甕	S045	最下層10～20㎝		(23.2)		(13.7)		横ナデ、斜め方向のヘラケズリ	横ナデ、縦方向のハケ目、ヘラナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR7/6	長石、石英、赤褐色粒、黒～灰色砂	良	1/4	外面に黒斑あり
21	50	土師器	杯	S045	3層	No.17	13.1	8.6	3.9		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ、ヘラ切り、板状圧痕	橙 5YR6/8	橙 5YR6/8	長石、石英、赤褐色粒	良	完形	スス付着。灯明。赤彩

Tab.17　東横イン北側土器・陶磁器類観察表(3)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
21	51	須恵器	椀	S045 40～20cm			(14.4)	(11.1)	4.6	0.7	横ナデ後不定方向ナデ、指頭圧痕	横ナデ、ヘラケズリ、ヘラ切り後ナデ	黄灰 2.5YR5/1	灰 5Y6/1	石英、長石、黒色粒	良	1/3	内面に火ぶくれがみられる。 8C後葉
21	52	土師器	杯	S045		No.3	10.7	6.5	4.8		横ナデ、不定方向ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ナデ	黄橙 10YR7/4	黄橙 10YR7/4	1.5㎜以下の長石、黒色粒。砂多め	良	完形	9C後葉
21	53	須恵器	蓋	S046	1層				1.2～		ナデ	横方向ナデ	オリーブ黒 7.5Y3/1	灰 5Y5/1	黒色粒、砂粒	良	破片	7C後半
21	54	土師器	甑	S046		No.2	(23.0)		(14.0)		横ナデ、横・縦方向のヘラケズリ	横・縦方向のナデ、指頭圧痕	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石、石英、赤褐色粒、砂.礫.多く大きい	良	把手	胴よりの口径復元
21	55	土師器	杯	S046			10.5	4.4	6.5		横ナデ後縦方向ナデ	横ナデ後板状圧痕	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	石英、長石、角閃石、黒色粒	良	5/6	9C後半～10C
21	56	土師器	椀	S056 Pit8	1層	No.1	(11.3)	(5.4)	4.3		粗い横ナデ、ナデ	横ナデ、工具によるナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	角閃石、石英、褐色粒小石	やや良	口縁1/3 底部1/1	10C前葉
21	57	土師器	杯	S056 Pit4			(12.6)	(8.2)	4.1～		回転ナデ	回転ナデ、ナデ	橙5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/4	橙5YR6/6～にぶい黄橙10YR6/4、灰黄褐10YR6/2	極ソ砂の白色、灰色の砂、極砂の光るもの銀・黒多めに入る。 断：にぶい黄橙10YR7/4	良	口縁部1/6弱	口径が大きいかもしれない。 9C後
21	58	土師器	椀	S056 Pit1			(11.6)	(6.9)	5.2	1.6	横ナデ、不定方向ナデ	横ナデ、粘土痕、板状圧痕	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	石英、長石、角閃石、褐色粒	良	口縁1/3 底部1/1	外面底部の貼り付け部分が粗い。 9C後葉
21	59	土師器	杯	S056 Pit2	3層	No.4	10.6	7.0	5.0		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石、石英、角閃石、赤褐色粒	良	口縁1/4 欠損のみ	灯明。煤の付着
21	60	土師器	椀	S056 Pit7			(16.3)		4.5～		ヘラミガキ、回転ナデ後ヘラミガキ	ヘラケズリ	暗灰 N3～4/	暗灰 N3～4/	極細砂くらいの白色、透明、光る砂が少しまじる。砂っぽさ 断：暗灰N3～4/	良	1/6弱	瓦器との区別が不安も瓦器ほどの硬質感はない。内面黒色
22	63	須恵器	杯	S058	1層		(12.3)	8.6	4.1		回転ナデ後ナデ	回転ナデ、ヘラ切り	灰 5Y7/1	灰 5Y7/1	長石、角閃石、黒色粒	良	口縁～底部1/2	
22	64	土師器	杯	S058			(14.1)	(9.2)	2.6		横ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ナデ	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	雲母、赤褐色粒、石英	良	1/5	
22	65	土師器	杯	S060 Pit2		No.16	10.7	6.4	4.7		回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石、石英、角閃石、赤褐色粒	良	完形	10C前～中葉
22	66	須恵器	椀	S060 Pit3	3層	No.2	(11.3)		6.1	0.9	横ナデ、指頭圧痕？	横ナデ	灰オリーブ 5Y6/2	灰 5Y4/1	角閃石、石英、小石	良	1/4	外面に粘土痕あり。 9C後半
22	67	土師器	高台付椀	S060 Pit1		No.4	12.9	8.1	7.0		回転ナデ	回転ナデ、高台貼り付け、	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、石英、赤褐色粒	良		外面に黒斑あり。 10C中葉
22	68	土師器	蓋	S068	3層	No.1	(15.7)		1.7～		ナデ、回転ナデ	ヘラケズリ、回転ナデ	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	粗砂の白色粒、1㎜くらいの光沢のある鉢状黒色粒(角閃石か)少し含む 断：橙7.5YR7/6	良	口縁部1/3	傷？(ヘラ記号には見えない)あり 8C～9C
22	69	須恵器	椀	S085	井戸の下層		14.1		4.9	0.8	不定方向ナデ	横ナデ、ヘラケズリ、ケズリ出し高台	灰 N4/	暗灰 N3/	1㎜以下の長石、黒色粒(外面に小石付着)	良	口縁1/4 底部1/1	外面、底部に自然釉。7C　宇城産
22	70	須恵器	蓋	S086			(13.0)		1.6～		横方向ナデ、一方向ナデ	つまみのためのナデ、ヘラケズリ、回転ナデ	青灰 5B5/1	青灰 10BG5/1～4/1	白色～透明の粒、黒色粒少し含む 断：青灰5B5/1	良	1/4弱	残存口縁の半分ほどはゆがみあり。 8C
22	71	土師器	杯	S087			12.4	5.6	4.3		ヘラミガキ	ヘラミガキ、ヘラケズリ、ナデ	黒 7.5Y2/1	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、石英、角閃石、赤褐色粒	良	ほぼ完形	内面黒色　8C前葉
22	72	土師器	甕	S098 Pit1	3a		(24.0)		7.5～		横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、縦方向のハケ後横ナデ	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/6	長石、角閃石、赤褐色粒	良	1/4強	古代
22	73	土師器	皿	S098 Pit88			(17.9)	(14.4)	2.1～		横ナデ	横ナデ、ナデ	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	石英、赤褐色粒	良	口縁1/9	幾内型。8C前・中頃

Tab.18　東横イン北側土器・陶磁器類観察表(4)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
22	74	須恵器	短頸壷	Pit66					3.15～		横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	灰N5/とオリーブ灰2.5GY5/1の中間	灰N5/	石英、長石、白色粒、ガラス質粒(極小)。鉄分の融出が認められる。還元は表面のみ	良	口縁～頸部の一部	
22	75	縄文土器	浅鉢	溝	1層		(20.0)		2.95～		沈線　ミガキ　ケズリ調整	ミガキ	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	角閃石、石英、砂粒	良	1/7	内外器面に黒斑あり。精巧なつくり。縄文晩期か。
22	76	土師器	一	T2	3層				6.9～		回転ナデ、回転ナデ後タテナデ？	回転ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	角閃石、石英、白色粒、砂粒、褐色粒含む	良	破片	内面の口縁部付近が黒く変色している。非常に厚く頸を持たない。
22	77	須恵器	蓋	Pit2			(16.4)		1.6～		回転ナデ	回転ナデ	明黄褐10YR6/6	褐灰10YR5/1	長石、黒色粒	良	口縁～天井部1/7	つまみの有無は不明　8C
22	78	土師器	小皿	Pit39			(8.4)	(6.2)	1.5		横ナデ	横ナデ、糸切り後板状圧痕	橙5YR6/6	橙5YR6/6	雲母、石英、褐色粒	良	3/4	灯明皿。
22	79	土師器	杯		3層				3.7		回転ヨコナデ	回転ヨコナデ、ヘラ切り後ナデ	橙5YR6/6	橙5YR6/6	長石、石英、褐色粒	良	口縁～底部の一部	古代
22	80	土師器	杯	Pit153		No.1	(7.6)	(8.5)	3.3		横・斜め方向ナデ	横ナデ、糸切り	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6	石英、赤褐色粒、小石	良	1/3	赤彩。墨書あり
22	81	須恵器	椀	Pit175		No.1	(13.8)	(9.6)	4.2	0.7	横ナデ	横ナデ、高台はり付け、ヘラケズリ	にぶい黄橙7/4	にぶい黄橙7/3	4㎜以下の長石、石英、黒色粒粒。砂、礫目立つ	良	1/2	荒尾産　8C後半
22	82	須恵器	椀	I2		Pit68	(16.1)	(10.9)	5.0	0.9	横ナデ	横ナデ、ケズリ出し高台	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1	1.5㎜以下の長石、黒色粒、角閃石、褐色粒	良	1/4強	荒尾産　8C後半
23	83	白磁	椀Ⅰ-1類	G2	3層		直径約17cm		2.2～		回転ナデ後ミガキ、白化粧土、施釉	回転ナデ後ミガキ、白化粧土、施釉、回転ナデ後ヘラケズリ	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	白色粒微細な黒色粒カオリン質の陶石土 胎土：淡黄2.5Y8/3	良	口縁部1/10	A期古段階　8C末～9C前　刑窯・定窯系
23	84	緑釉陶器	椀	H2	3層表土剥ぎ後の清掃掘り下げ		直径約16cm				回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	淡緑色(土色帳に該当しない)	淡緑色(土色帳に該当しない)	石英・長石多い。輝石まれに入る。	良	口縁部1/15	東海か京都洛西産
23	85	緑釉陶器	杯？	南東包含層表土はぎ				(5.4)	1.5～	0.5	回転ナデ	ナデ、ヘラケズリ	灰白10Y7/2	灰白10Y7/2	黒色粒、褐色粒、砂粒		底部破片	内面全体磨滅
23	86	白磁	椀Ⅰ-1か2類	K3	3層				1.3～	(5.0)	回転ヘラケズリ後ミガキ、施釉	回転ヘラケズリ後施釉(一部かきとり)、回転ヘラケズリ(高台削り出し)	白色(土色帳に該当しない)	白色(土色帳に該当しない)	微細な黒色粒子が多く入る、カオリン質の陶石土。 胎土：灰白10YR8/1	良	底部1/3	A期古段階　8C末～9C前　刑窯・定窯系(東70と同一固体の可能性あり)
23	87	緑釉陶器	皿	東側表土はぎ				(7.0)	2.1～	0.5	回転ナデ、ヘラミガキ	回転ナデ、高台ケズリ出し、前面施釉	灰白10Y7/2	灰白10Y7/2	黒色粒、石、砂粒	良	底部1/4	内面底部に沈線
23	88	白磁	椀Ⅰ-1類	H2	3層清掃掘り下げ		(15.4)		2.3～		回転ナデ後ヘラケズリ、ミガキ、施釉	回転ナデ後ヘラケズリ、ミガキ、施釉	白色(土色帳に該当しない)	白色(土色帳に該当しない)	微細な黒色粒子が多く入る、カオリン質の陶石土。 胎土：灰白10YR8/1	良	口縁部1/9	A期古段階　8C末～9C初　刑窯か定窯系(東68と同一固体の可能性あり)
23	89	緑釉陶器	耳皿		3層表土剥ぎ			4.3	1.5～		回転ナデ後線刻、施釉	回転ヘラケズリ後施釉、糸切り後施釉	オリーブ黄5Y6/4、淡黄2.5Y8/4	オリーブ黄5Y6/4、淡黄2.5Y8/4	石英まばらに含む。輝石更にごく少量入る	普通	底部	京都　洛北産
23	90	青磁	合子蓋？	F2	3層掘り下げ			4.7～	1.3～		回転ナデ後施釉	回転ナデ、ミガキ線彫り後施釉	オリーブ黄5Y6/3	オリーブ黄5Y6/3	黒色粒と白色粒。灰白色のカオリン主体の陶石土。 胎土：灰白2.5YR7/1	良	蓋部？2/3	釉色はⅠ類的　文様はⅢ類的。越Ⅰ類→8C末～10C中　越Ⅲ類→10C後～11C中
23	91	須恵器	蓋		3層		(16.3)		3.2～		回転ナデ後ナデ、回転ヨコナデ	ヘラ起こし後回転ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4とにぶい黄橙10YR6/4の中間	にぶい褐7.5YR6/3	白色粒、褐色粒(極小)	良	1/6	
23	92	須恵器	椀	西？	清掃		(13.2)		4.6	0.6	ナデ、ヨコナデ	横ナデ、高台貼付後ナデ、ヘラ切り後回転ナデ	灰10Y5/1	灰10Y5/1	精製された胎土(層状をなしている)。鉄分の融出が僅かに認められる	良	1/9	底部外面に焼成前の線あり。ヘラ記号。8C前半

Tab.19　東横イン北側瓦観察表

図版番号	遺物番号	器種	部位	出土地点	層位	取り上げ番号	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
20	48	丸瓦		S038	3層	No.2,3,4	35.6	11.4	2.3	2563.0	縄目叩き、布目痕後ナデ。一部欠損
24	100	丸瓦		Pit93			8.6～	5.7～	1.6		縄目叩き痕、布目叩き痕。 薄く須恵器のような印象
24	101	軒平瓦		表土剥ぎ			7.6～	6.7～	2.3		布目叩き痕　珠文の文様が3ケ残存している。顎欠損
24	102	瓦		表土剥ぎ			7.1～	9.0～	1.6		横方向のスジ条痕、横・縦方向ナデ　凸面に刻印文字が押されている。近代

Tab.20　東横イン北側金属製品観察表

図版番号	遺物番号	種別	出土地点	層位	取り上げ番号	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
19	40	鉄釘（角）	S027　J2　K2	埋土1層		2.7～	頭部：1.1 身：0.6	身：0.5	4.03	頭頂部残存。先端部欠損
19	39	鉄釘	S035　外側K2			8.9～	頭部：1.2 身：0.6	身：0.75	25.53	先端部欠損
21	61	刀子の茎（ナカゴ）	S056　Pit1			4.5～	0.6	0.3	4.49	
23	94	耳環	S040　C1	1層の撹乱掘削途中も下の遺構のものと思われる		1.9	2.0	0.5	7.24	鍍金が剥離している（外側）
23	97	刀子（刃部と茎）	E2	3層		6.4～	1.3	0.5	12.34	先端・基部欠損
23	98	刀子の茎（ナカゴ）	G2そうじ	3層		3.6～	0.9	0.5	3.81	
23	99	不明鉄製品の一部	C1	3層掘り下げ		3.9～	0.7	0.3	7.67	下部は折れ曲がり重なっている

Tab.21　東横イン北側土製品観察表

図版番号	遺物番号	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	色調	胎土	残存度	備考
23	93	かまど	H2-3溝	1層		（長さ） 10.4～	（幅） 14.2～	（厚さ） 2.5		（内）浅黄橙10YR8/3 （外）浅黄橙10YR6/4	角閃石、赤色粒、黒色粒、石	破片	

Tab.22　東横イン北側石製品観察表

図版番号	遺物番号	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材・石質	備考
20	47	碁石	S042　D-1かまど内　K3			1.4	1.4	0.4	1.43	砂岩の砥石のような感じの岩種	明赤褐2.5Ｙ Ｒ5/6～灰赤2.5YR4/2
21	62	砥石	S046		No.1	6.4	6.7～	9.2	1389.0		
23	95	丸鞆	Pit57　南側	上層		2.7	3.9	0.7	14.82		表側磨き、面取り
23	96	二次加工剥片	表土はぎ　東半			4.0	2.6	0.7	6.18	黒曜石	

３．小結

遺構一覧表や遺物観察表の補足をしつつ層位順に整理し、古代については切り合いや出土遺物から遺構の推移を想定しまとめにかえたい。

【１層から２層】

１層（ａ－０）中から重機掘削時に石組みの溝を検出している。長方形から方形の面をつらね溝の側面とし２段に積む。石は若干間知石状に奥をすぼめられている。石と石の隙間を粗い漆喰状のもので埋めているところがあった。石積みの下は溝状に30～40㎝掘り割り石などをつめて基礎としている。溝の底はコンクリートが貼られている。またコンクリート下にも底の整地や擾乱を受けた部分があり、底の作り直しが行われている。溝の埋土は大きく２層に分かれ、下部は流水による堆積やシルトでラミナが明瞭な溝として機能している時の堆積と、ガラスやビニールがはいる埋没時の堆積に分かれる。遺構の詳細な時期は分からないが、周辺から出土した肥え甕、「明治三十二年五月」銘の記念盃など考慮して近現代にわたるものと推定する。近世を含むかどうかは分からない。

１層のうちａ－１からａ－４は作土層と思われる。調査区東側は砂が多くまじり、層界や低まりに擾乱を受けた砂層がある。調査区東端から約10mにみられるため砂はS002からもたらされた可能性が高く、S002は少なくとも１層（ａ－３）までは存在したと推定する。S001の溝群は３層の遺構と同じ面で検出した。調査区断面の観察から１層（ａ－４）に属する。南北方向に溝状に掘り、それを繰り返して西から東へ移動している。４層を大きく掘りこんでいるところはないことから天地返しや土取りを想定している。畝間溝の想定で炭化種実の分析をおこなっているが層位の特定は難しい。S001とS002との間（約80㎝）に溝が見られずおおむね平行するため両遺構は併存していた可能性がある。S002は規模・方向から熊本市二本木遺跡群第18次調査区の近世の大溝につながる可能性が高い（熊本市林田和人氏教示）。S002の加工部と考えられる層では１層を含まないため溝の掘り始めは２層のときかもしれない。

２層は厚さ約30㎝で上下に分けた。２層は他の調査区では３層に比べ細粒で暗色が強い傾向にあるが当調査区では３層より暗色ではない。２Ｂ層の下からは幅30～40㎝の溝が90～110㎝間隔で南北方向に調査区全面に掘られていた（S001のある部分を除く）。同様に切り合う溝もあり、二度行われている。耕作地で見られる溝群であるため２Ａ・Ｂ層は耕作層であろう。２層に属するS003とS035の井戸が調査区の東西端から見つかっている。ともに12世紀後半の時期に埋まる。他調査区のこの時期の２層は細粒で暗色が最も強い層で比較的分かりやすいがこの調査区の壁断面にはない。２Ｂ層と井戸の埋土を直接比べる断面はなかったが、井戸の埋土は２Ｂ層より明らかに暗く、直近の西部ガス跡地調査区の２層上－２層黒と同じであることから当調査区の２層Ａ・Ｂは２層（ａ－５）～２層上と同じ層順で２層黒がないものと考える。

２層に属する遺構は溝群とS003とS035の井戸のみである。ともに井戸は大きさに比して浅い印象がある。掘形の底付近はしまりがゆるく黒い砂層で止まっていることに起因する。この調査区の２層当時は標高で約６m、２層Ｂ下面から約２mで井戸としての水量があったと思われる。確実に埋め戻しの際に入れられたと思われる遺物はないが、ヘラキリ底の土師器小皿の完形品が出土しており、それに類するものと考えている。S035は大きいこともあり井戸枠が使われている可能性を考えたがそれにつながる痕跡はなかった。埋土中に腐植の集積部分があり大量の草木とともに埋められていると思われる。井戸の他に見つかった遺構はないが３層遺構内からも２点の完形の土師器小皿が出土しており、遺構の存在が推定できるが顕著に広がることはなかったと思われる。周囲に他の遺構が伴わない理由を推定することは困難である。

１～２層はほぼ重機により掘削しているが以上から中世（13世紀以降）から土地利用の中心が耕作地に変わり、近代ごろから居住地となり現代に至ると考えられる。

【３層】

３層は２層に比べ褐色みが強く粉っぽく粗い砂はまじらない。Ａ・Ｂと分けているが様相は似ており遺構埋土の観察から遺構層位をＡ・Ｂに分けることはできなかった。また、遺構埋土にのみある土で３層Ａ・Ｂと明らかに異なる黒褐色土がある。暗く若干腐植質で細粒である。東半では３層Ａ・Ｂを分けることができず、また４層との間に４層がわずかに暗色の部分があった。３層からのしみ込みによるものと考えているが他の調査区に比べやや擾乱を受けている印象もある。３層Ａ・Ｂは他の調査区の３層の分層と同じ時間幅を想定できるかどうかは不明である。

西側の３層の遺構がない部分はS001により撹乱され遺構が見つからなかった可能性があるが、他に比べ遺構検出面が低くなっていないので深い遺構はなく、またS001には遺物が小さく少なかったことを考慮すると顕著に遺構が広がらない部分である。中央から東半は確認した竪穴住居は少ないが、調査区断面での遺構状の落ち込みや、検出面で方形に近い暗色のしみ込みがあったこと、S024やS096のように浅い竪穴住居が多いためで、遺構が少なかったわけではないと思われる。東半のピットのうちＧ１～Ｊ１グリッドでは断面がすり鉢状や全体的に丸く小さな土坑状のものが多い。またその他のグリッドでは全てが柱の立つピットではなかろうが、P152－P（151・156）－S025断面中のピット状落ち込み、P148－149－154などは関連するピット群となる可能性があり、Ｈ３～Ｊ３グリッドの南側のピットは円筒またはバケツ状に深く掘られており建物の一部になる可能性が高いものである。

３層の遺構は切り合いが多いため遺構の切り合い関係をＡ～Ｄの４段階にまとめた。

Tab.23　遺構の切り合い関係

	掘立柱建物等	井戸	埋納ピット　溝	竪穴住居等
A　10C中葉	060　098	036		010◇
				|
				005◇
9C後葉	①	045		|
B　9C後葉	056　064			015？　|　006◇
				|
				070？　|
				|
				012◇　|
	②		013	|
C				016◇　020◇　021◇　014？　009◇　011◇　007◇　027◇
				|　|　|　|　|　|　|　023◇　025
		085		017◇　019◇　018◇　008◇　004◇　049◇　046◇　|
9C前葉			033	|　|　|　|　|　086　042
				078◇　050◇　097？　074　067◇
				|　|　④
				052？　093？　053
				|　|　|
				069◇　072　047？　073
				|　|　|
				071　081？　080？　058　|　055
				|　|　|　|
			032	094？　068？　|　|　083？
8C後半	③		044	|　|　|
D				|　|
～8C前葉～			084　087	099？　048？

注・遺構番号はＳを省略している　全ての遺構　全ての切り合いを表示していない
・｜でつながる遺構は切り合い関係があり上が新しく下が古い
・020と070は掘立柱建物と切り合いがあるが竪穴住居を掘削してのちピットを見つけているため断面で確認できていない
・遺構の切り合いのうち切り合う部分がわずかで不安のあるものは表示していないが切り合い関係で矛盾している所はない
・023　025　027　042　086は①、②との切り合いがないため遺構の時期を考慮し任意においている
①060との切り合い関係
②050・064との切り合い関係
③埋土が３層Ａ・Ｂと異なる黒褐色土で埋まるもの
④竪穴住居等のうち遺構長軸が2.3m以下（上◇印があるもの）2.4m以上（下）を示す　？は大きさが把握できないもの

Ａ段階はS056・S064より上位遺構でS060とこれに切り合い関係にないものである。

S060は掘立柱建物で北側は調査区の外にのびる。南北に梁行２間・東西に桁行３間の母屋と庇が１間（北側は不明）からなる。母屋の柱穴の掘形は庇の柱穴より一回り大きくまた深く規模が大きい。Ｐ１・２・５は柱を抜き取ったあとある程度埋め戻した段階で入れられたと考えられる土器が出土した。これらの土器からS060は10世紀中葉ごろに廃絶している。土器は完形の土師器杯と須恵器甕片があり、Ｐ２とＰ５の甕片は接合せず破片数が特に多いとはいえないが同一個体でもおかしくない。甕の焼きは良好にかかわらず器表面に大きな剥離が多く割ったのち入れているものと思われる。梁行にのみ見つかっているが北側の状況が分からないため行為の特徴を示すかどうかは判断できない。Ｐ１の土器周辺にまじる炭化材の放射性年代測定を行ったところ、補正値で1150±30ＢＰ、暦年較正年代値が測定誤差σでcalＡD830－970であり、土器の年代観と矛盾しない。S036は井戸で埋没時期が土器から10世紀前葉から中葉である。井戸の掘形からS060のピットまで約１ｍと近く軒下にかかる可能性があるものの、同じＡ段階でも古いS045の井戸が近くにあることからS060と併存した可能性が高い。S098は南北方向に並ぶピット列で方向性がS060と合致する。S056とも方向性が同じ考えることも可能であるがピットの並びはS060と関連するとするほうが自然である。以上からS060・S036・S098は同時に存在し、S060の掘立柱建物が中心建物で、S036の井戸を有し、S098が塀となり東の端となる屋敷、あるいは施設と考えられるのではなかろうか。

S010・S005は小規模な竪穴住居である。S060との上下関係は分からず、S060の中に収まり、内部遺構と考えることも可能な状況にある。しかし、S010とＢ段階のS006はともに後述の通り特殊な形態を有する竪穴住居で規模を含め近似した遺構であるため、同時あるいは連続した遺構の可能性を推定する。S045は井戸で９世紀後葉に埋まる遺構である。S060との併存は考えられず、遺構の配置からS010・S005と関連するものと考えることが可能である。

Ｂ段階はS060の下位でS056・S064とこれらとの切り合い関係がない遺構である。竪穴住居等とした６基の遺構はS056・S064に近接または重複するため同時併存は考えられず、上述のS010とS006との関係からこれらのいくつかはS056・S064より新しい遺構であると想定する。

S056とS064はS056の北側桁行とS064の北辺は同一線上に並びまたその間は4.2mと、極めて整然とした配置をとることから同時に存在したものと考えられる。S056Ｐ１・Ｐ２の中央付近の中位から柱穴に入れられた可能性が高い遺物が出土している。その位置から柱を抜き取ったあとに入れられたものと思われ、よってS056の廃絶の時期は９世紀後葉である。S064はS056から考えて梁行２間の掘立柱建物で南にのびると考えるほうが自然であろうか。柱穴の規模はS056がやや大きいが掘り直しがあるものもあり比較が難しい。桁を南に向けるS056が中心の建物群と考える。調査区東半や周囲とのとの関連を探すことは困難である。

切り合い関係のＡ・Ｂ段階はS056・S064の掘立柱建物が廃絶した後、小規模な竪穴住居と小さめの井戸からなる場にかわり、その後S060を中心とした屋敷、施設に変遷すると考えられる。

Ｃ段階はS056・S064より下位の遺構である。竪穴住居が西半では著しく切り合いながら、東半でも前述の通り少なからずあり、西北部を除く調査区全般に広がる。表の中で竪穴住居等の④の破線は長軸が2.4m以上のもの2.3m以下のものの境を示す。便宜的に2.3m以下を小規模竪穴住居としている。小規模なものは新しく小規模でないものは旧い傾向は明らかである。小規模でないものの中でも2.4m～2.8mのものとそれ以上のものに分けることもできるが、大きさが分からないものが多くなるため分けていない。時期が特定できる遺構はS023で９世紀前半に埋まる。S027の床となる層から９世紀中葉、S042のカマド下の土坑より９世紀前葉の遺物が出土し下限を知ることができる。S044は土器埋納ピットで８世紀後半の土師器鉢が正位に置かれていた。ほぼ遺物の大きさと掘形が同じ大きさで埋土の確認ができず、埋納土器中の埋土の比較で不安もあるがＤ段階に入ることはない。切り合い上最後の遺構の時間幅を知るためS068のカマドを覆う埋

土中の炭化種実の放射性年代測定を行ったところ、暦年較正年代値が測定誤差σでcalＡD652－756である。これらからＣ段階は 8 世紀後半から 9 世紀中葉を想定したい。土器埋納ピットのS033は須恵器盤を蓋に土師器杯を身に合せ口にして正位に置かれており 9 世紀前葉でこの期に入る。

Ｄ段階は 3 層Ａ・Ｂと明瞭に異なる黒褐色土で埋まる遺構である。S084・S087の溝とS048・S099の竪穴住居の可能性があるものの 4 基のみである。他の竪穴住居の整地層でこの黒褐色土のブロックが混じるものがあるが含めていない。S087から 8 世紀前葉以前の完形の土器が出土しており、近接するS025から 7 世紀代の遺物が少なからず出土することから 7 世紀代の遺構と思われる。S084とS085は方向が若干異なるものの掘形や規模が同じであり、S048・S099はS084と方向性が同じで、近似した時期の遺構群となる可能性があるが指摘程度に留めておきたい。

ＡからＣ段階にわたる竪穴住居うち特異な付属遺構が伴うものがある。竪穴住居という呼称はふさわしいものではないが、他と同じ竪穴を持つことから表現を分けていない。S006・S010は中央に大きな土坑があり竪穴の多くの部分を占める。土坑の埋土は炭化物が多いことや白い粘土や焼土の塊・ブロックが多くまじりカマドと似ている。S006からは土坑側壁に貼り付くように白い粘土があり土坑の約 4 分の 1 残っていた。カマドと考えるには大きく、鞴や溶解炉・鋳造遺構のようなものを考え掘削したが推測できるような遺物は全く出土していない。S055もまた同様である。S023・S037も同じように土坑があり前者に比べ土坑が深い。土坑の中の埋土には特徴的なものはなかった。S037に近いP127から椀形の鉄滓が出土しているほかP95・P125からも鉄滓が、S046から鞴の羽口の小片が出土している。これらから当調査区や近隣で鍛冶などが行われていたことは推測される。遺構と直接関連する遺物でないため付属遺構の性格を言及することは避けたい。S037でトイレ遺構の可能性がないかという指摘をいただいたので埋土の分析を行ったが分析の対象環境にはなく不明とするほかない。

【遺物について】

遺構と直接結びつかない遺物のうち、越州窯系青磁・白磁Ⅰ類・緑釉陶器・暗文のある都城系土師器・墨書土器・円面硯・風字硯・石製丸鞆が出土している。二本木遺跡群ではこれらの遺物はよく見受けられるもので、遺跡を特徴づける遺物である。他の調査区と比べ量が多いという印象はないが、古代肥後国の中心的位置にあるこの遺跡の広がりを示す遺物と考えられる。

これらの中で越州窯系青磁のうちⅢ類に分類される可能性がある合子蓋？（Ｆig.23　90）は多層に線刻で描かれる連弁状の文様があり、外面頂部が丸く膨らむ形態で類例がないものである。壺類の蓋となる可能性もある。残念ながら全形を知る残存はない。緑釉陶器では京都市洛北産の耳皿（Ｆig.23　89）がある。内面に子房状の小さな円から揺らぎながら放射状に広がる線刻の文様がある。糸切り底で全面施釉である。釉の状態はよく黄味がある薄めの緑色に発色している。墨書土器（Ｆig.22　80）は回転ヘラミガキが施される土師器の底に書かれており「十」の部分が残る。その上にかすれていて細く「八」の部分があり、「大」と「十」で「本」と書かれているかもしれない。石製丸鞆（Ｆig.23　95）は完形品である。石材は熊本県馬場正弘氏から頁岩あるいはホルンフェルスであろうと教示いただいた。P57からの出土であるが、ピット側壁に入る根あと状の部分からのものである。都城系土師器のうち畿内型土師器皿（Ｆig.22　73）が含まれている。小破片であるが器面の残りはよく底部は指オサエで、鮮やかな橙色を呈する。

それらのほかS040は近世以降の土坑であるがその埋土から完形の耳環（Ｆig.23　94）が出土している。薄い金色に発色する。鍍金は残りが余りよくなく、下地は緑錆がふいている。小規模な竪穴住居のS018の埋土中からカキと思われる貝殻の小片が出土している。

４．写真図版

PL.1　東横イン北側 空撮

PL.2　S001・002検出状況（北から）

PL.3　S001完掘状況（西から）

PL.4　S002土層断面（南から）

PL.5　S003掘削状況

PL.6　S006埋土1層より上位D-1検出状況（南から）

PL.7　S006D-1白粘土基部残存状況（南から）

PL.8　S006土層断面（南西から）

PL.9　S006完掘状況（南から）

PL.10　S007完掘状況（南から）

PL.11　S008・014完掘状況（南東から）

PL.12　S005埋土1層下面ピット1土層断面（南から）

PL.13　S010・005・004・009掘削状況（北から）

PL.14　S010埋土1層下面ピット1土層断面（南から）

PL.15　S010・005土層断面（西から）

PL.16　S010土層断面（西から）

PL.17　S010完掘状況（西から）

PL.18　S012完掘状況（南から）

PL.19　S002・008土層断面（東から）

PL.20　S020・019掘削状況（南から）

PL.21　S019・020完掘状況（南から）

PL.22　S023遺物出土状況（東から）

PL.23　S023土層断面（東から）

PL.24　S032遺物出土状況（東から）

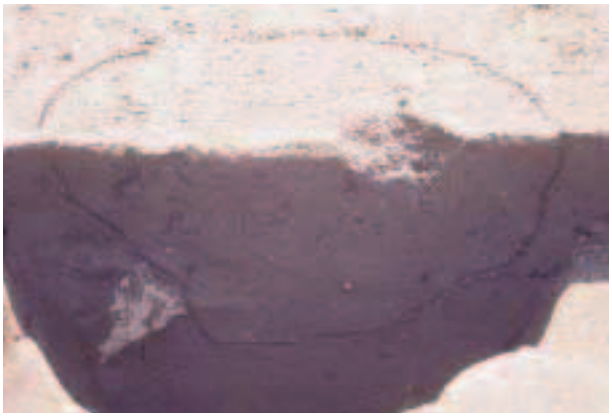
PL.25　S033遺物出土状況（南から）

PL.26　S018･013完掘状況（南から）

PL.27　S025ピット1土層断面（南から）

PL.28　S025･042掘削状況（西から）

PL.29　S025･085･086土層断面（西から）



PL.30　S027ピット2土層断面（東から）

PL.31　S026･027掘削状況（北から）

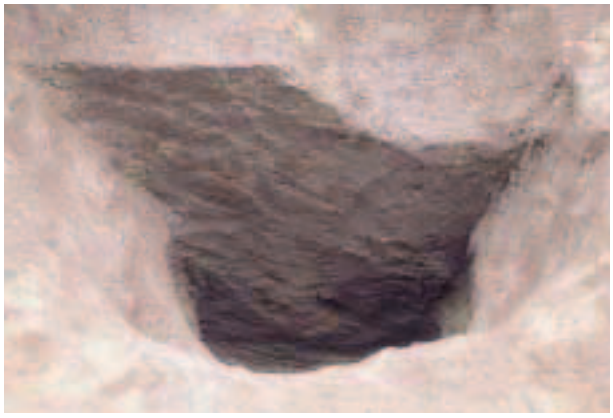
PL.32　S035土層断面（北東から）

PL.33　S035完掘状況（南から）

PL.34　S036･038遺物出土状況（西から）

PL.35　S036土層断面（南から）

PL.36　S036完掘状況（南から）



PL.37　S036土層断面（南から）

PL.38　S045遺物出土状況（南西から）

PL.39　S045遺物出土状況（南東から）

PL.40　S045完掘状況（東から）

PL.41　S046完掘状況（北から）

PL.42　S044遺物出土状況（南西から）

PL.43　S044土層断面（南から）

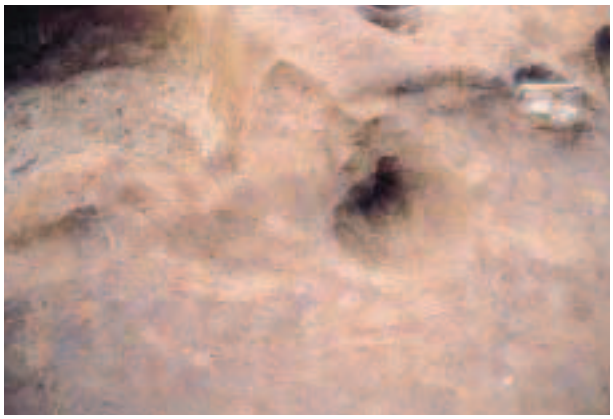
PL.44　S049完掘状況（北から）

PL.45　S053・073完掘状況（南から）

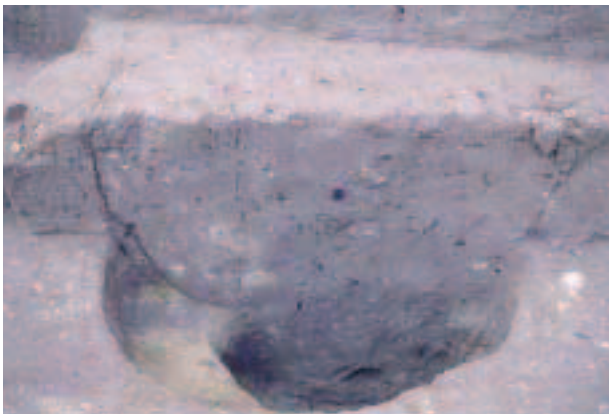
PL.46　S055・083完掘状況（南から）

PL.47　S067完掘状況（南から）

PL.48　S068カマド掘削状況（南から）

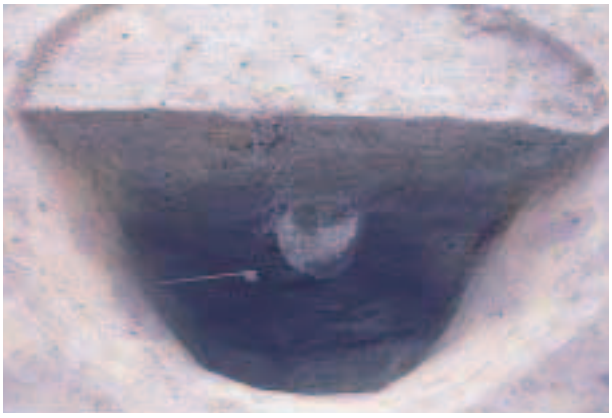


PL.49　S068完掘状況（南から）



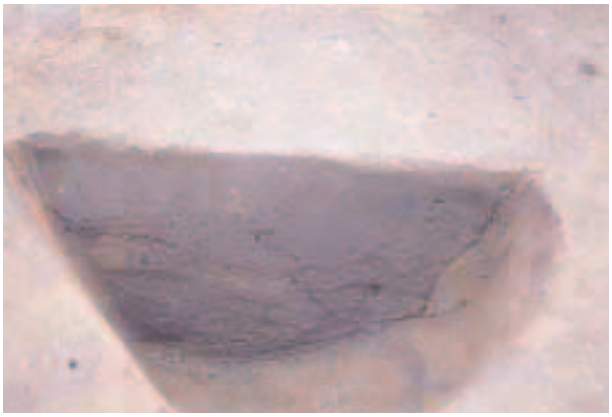
PL.50　S056ピット1土層断面（北から）

PL.51　S056ピット2遺物出土状況（北から）



PL.52　S056ピット4土層断面（北から）

PL.53　S056ピット10とS045の切りあい（南から）

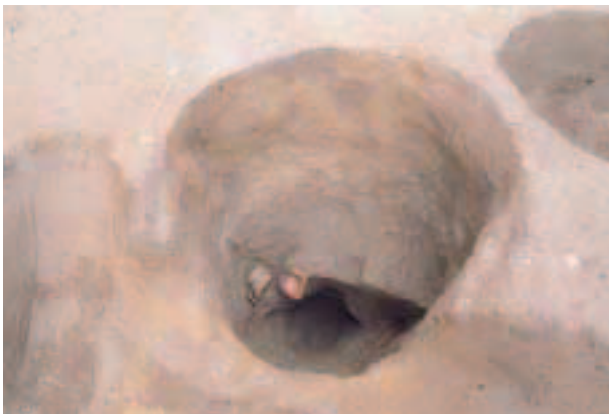


PL.54　S064ピット1土層断面（南から）

PL.55　S064ピット4土層断面（南から）

PL.56　S074完掘状況（北から）

PL.57　S085・086完掘状況（南から）



PL.58　S060ピット1遺物出土状況（東から）

PL.59　S060ピット2遺物出土状況（南東から）

PL.60　S060ピット3土層断面（北西から）

PL.61　S060ピット2遺物出土状況（南から）

PL.62　S060ピット4土層断面（南から）

PL.63　S060ピット5遺物出土状況（南東から）

PL.64　ピット57遺物出土状況（北から）

PL.65　北壁土層断面（南西から）

PL.66　C1～D2遺構掘削状況（北から）

PL.67　C1～D2遺構掘削状況（北西から）

PL.68　E1～F2遺構掘削状況（北から）

PL.69　E1～F2遺構掘削状況（南東から）

PL.70　上位竪穴住居完掘状況全景（東から）

PL.71　上位竪穴住居完掘状況I2～K3（西から）

PL.72　上位竪穴住居完掘状況C1～F2（東から）

PL.73　上位竪穴住居完掘状況C1～F2（西から）

PL.74　完掘状況全景（東から）

PL.75　完掘状況H1～K3（北西から）

PL.76　完掘状況I2～K3（北から）

PL.77　完掘状況F1～H3（北から）

PL.78　完掘状況C1～F1（西から）

PL.79　完掘状況C1～G2（北東から）

PL.80　完掘状況E1～G2（北から）

PL.81　完掘状況E1～F2（南から）

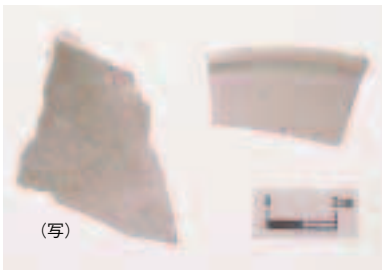
※（写）は写真撮影のみ

S001

S001

S002

S003



S003・G2

S009・S056

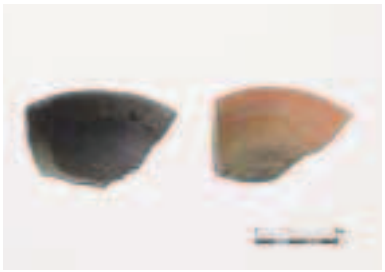
S007

S008

S011

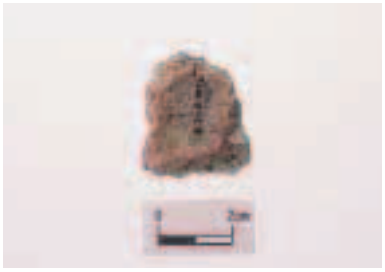
S012

S013


S046・S013（写）

S014

S018・3層（写）


3層

S023・S046

S023

S023

PL.83

S023

S023

S023（写）

S023（写）

S025

S025

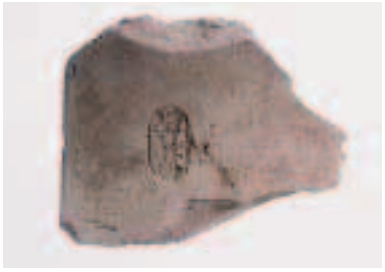
S025

S025（写）

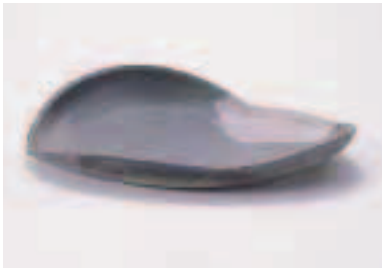
S026・S027

S027

S027（写）


表土はぎ

S027・S056


S032

S032

S033

S033

S038

PL.84

S035

S036・S037

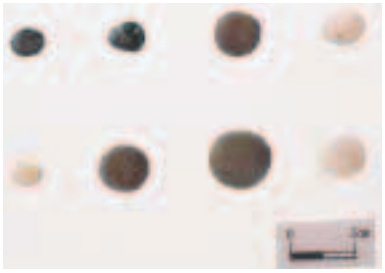
S023・S035（写）

S035（写）

S042

S042（写）

S045・S042


S042(実)・035・058・E2・ピット153・2~3層（写）

S045

S046

S046

S046・S035

S045

S056ピット5・S045（写）

S035

S056ピット2

S056ピット4・ピット7

PL.85

S058・S056ピット1

ピット88・S058・ピット153

S060ピット2

S060ピット1・ピット12（写）

S060ピット1・ピット3

S068（写）

S085・S068

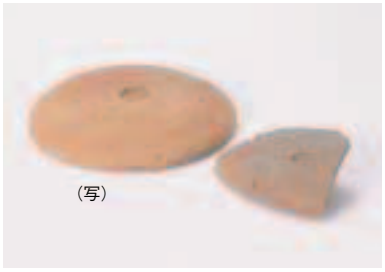
S068・S017・S045（写）

S035

S087

S086・S098

S085（写）



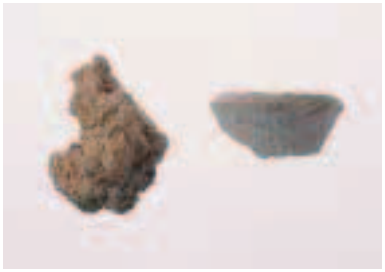
3層

S098

ピット29

ピット66

ピット175

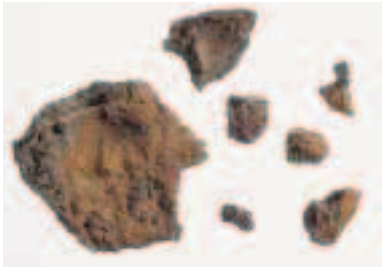

ピット63（写）

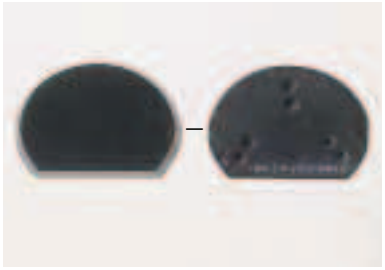
PL.86

ピット153・ピット8（写）

ピット93

T2・ピット66


ピット127（写）


ピット57

ピット39

3層（写）

1層

S044

F2

I 2ピット68・3層

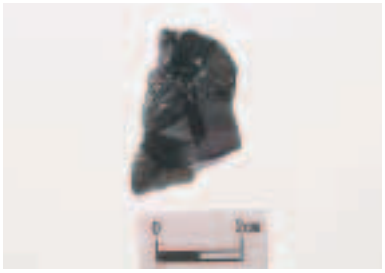
H2・K3・S035

2層

H2

1層

S040

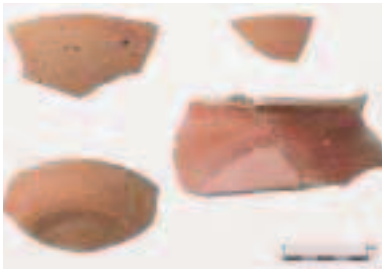

3層

3層

PL.87

E2

C1・3層

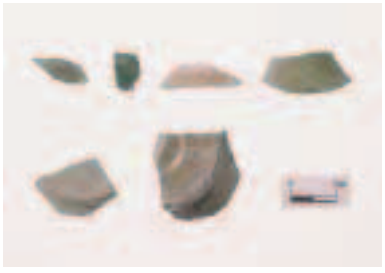

K3・E1・F1（写）

E1、2・3層（写）

F2（写）

3層（写）

S035


Pit83・S035・3層・S015・3層（写）

表土はぎ（写）

カクラン（写）

カクラン（写）

カクラン（写）

F2（写）

3層（写）

表土はぎ（写）

3層（写）

カクラン（写）

表土はぎ（写）

第３節　さつま荘跡地の調査

１．遺構と観察表

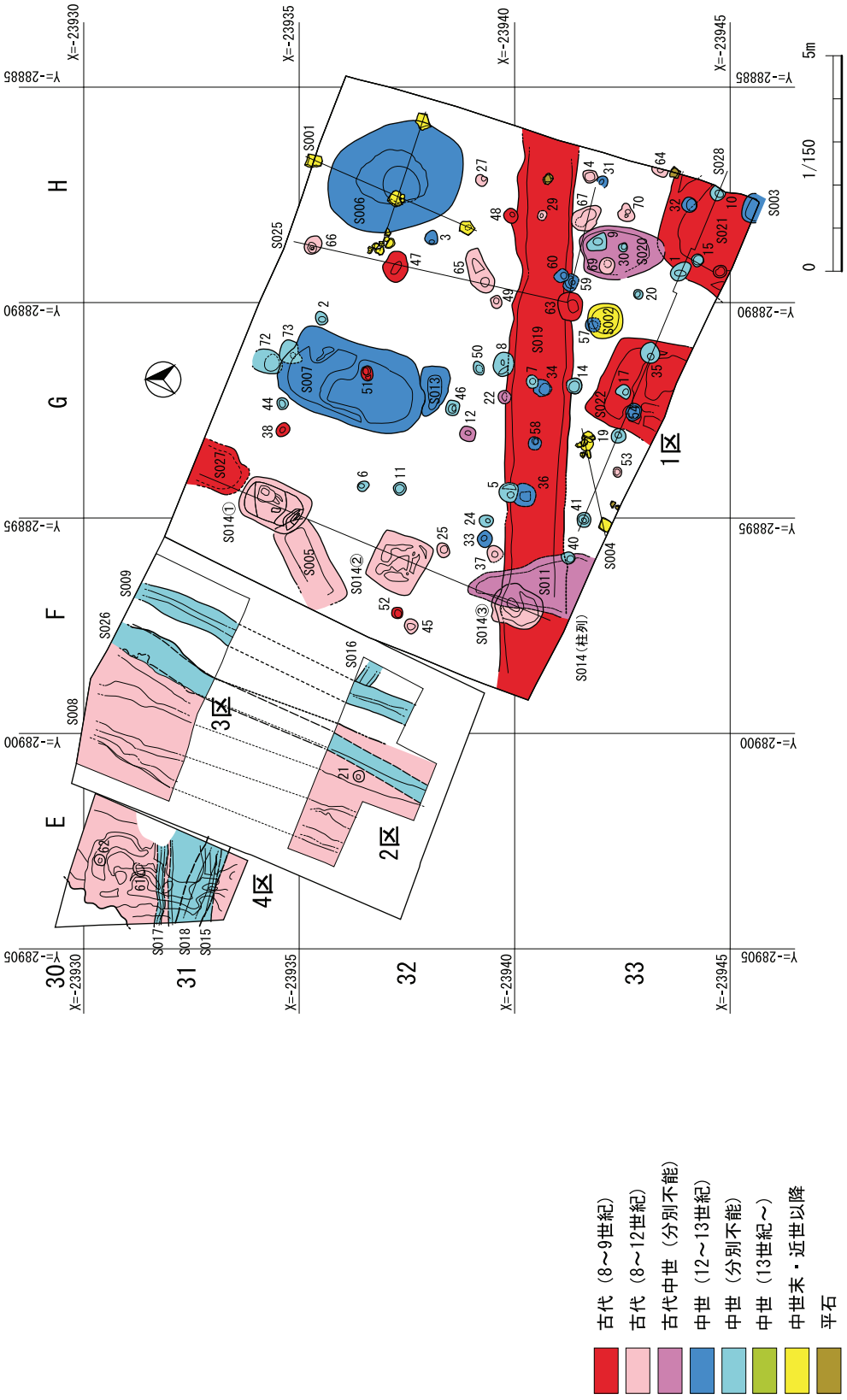


Fig.1　さつま荘跡地調査区時期別遺構配置図

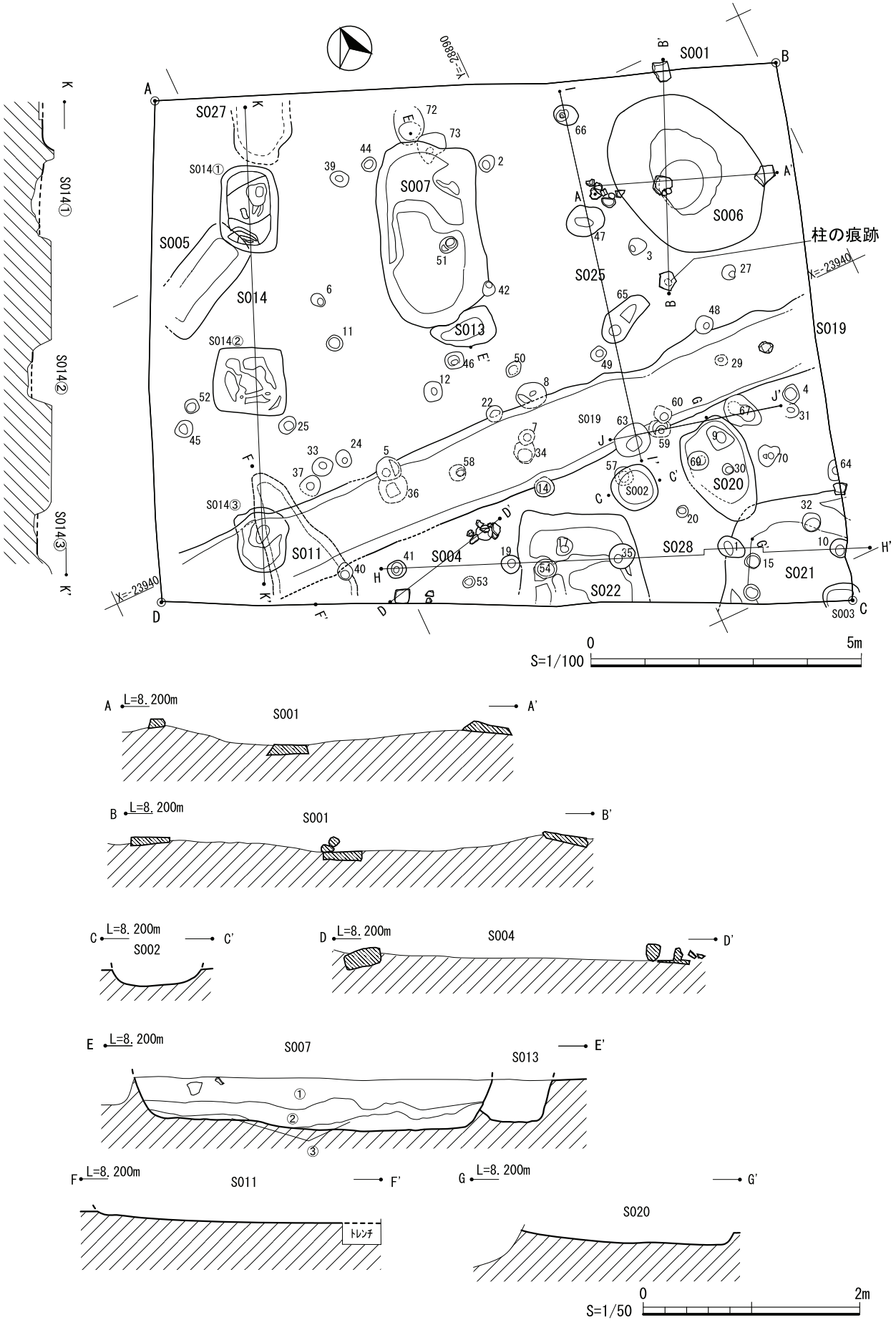


Fig.2　1区遺構配置図及び遺構断面図

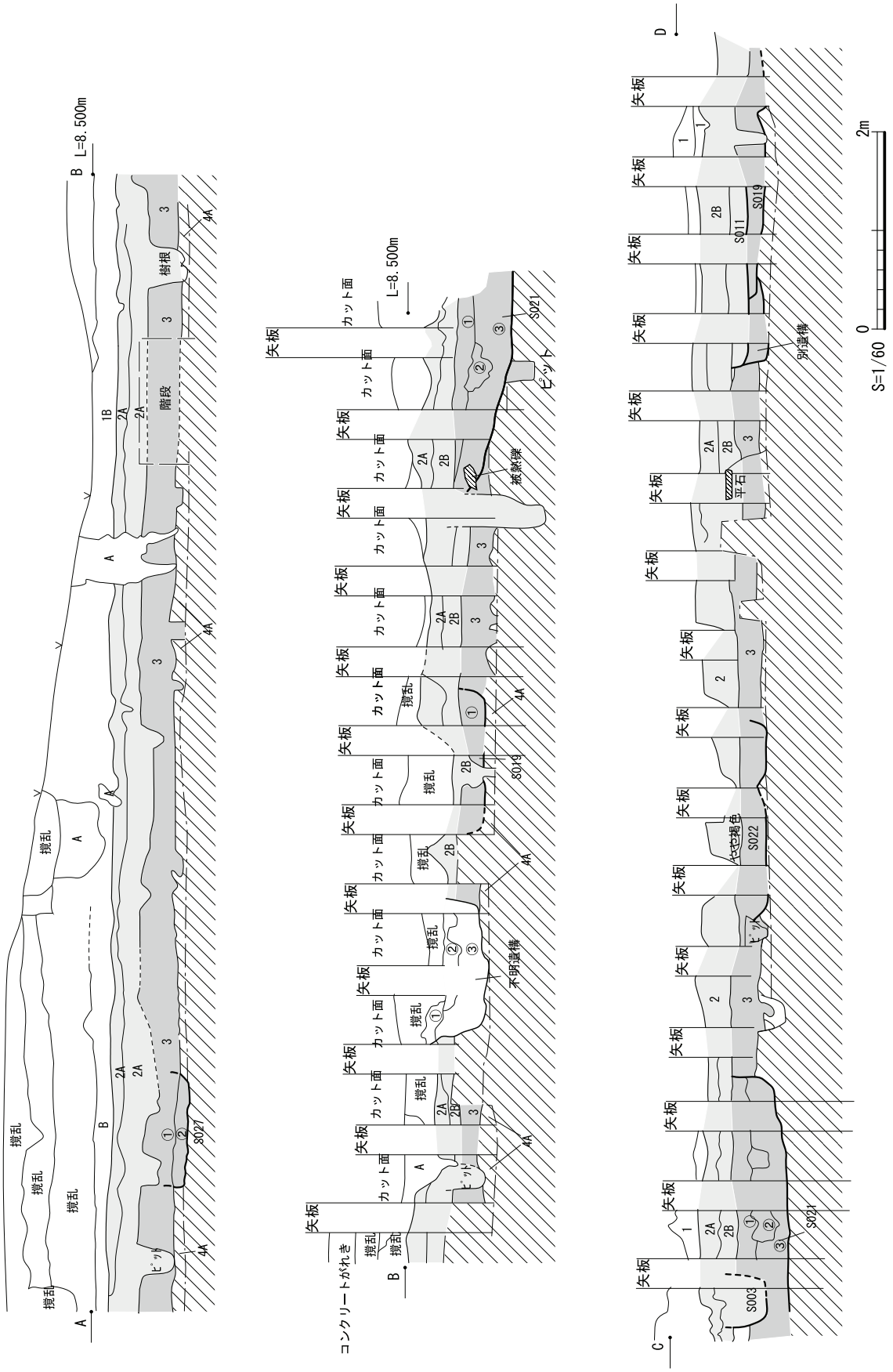


Fig.3　1区壁土層断面図

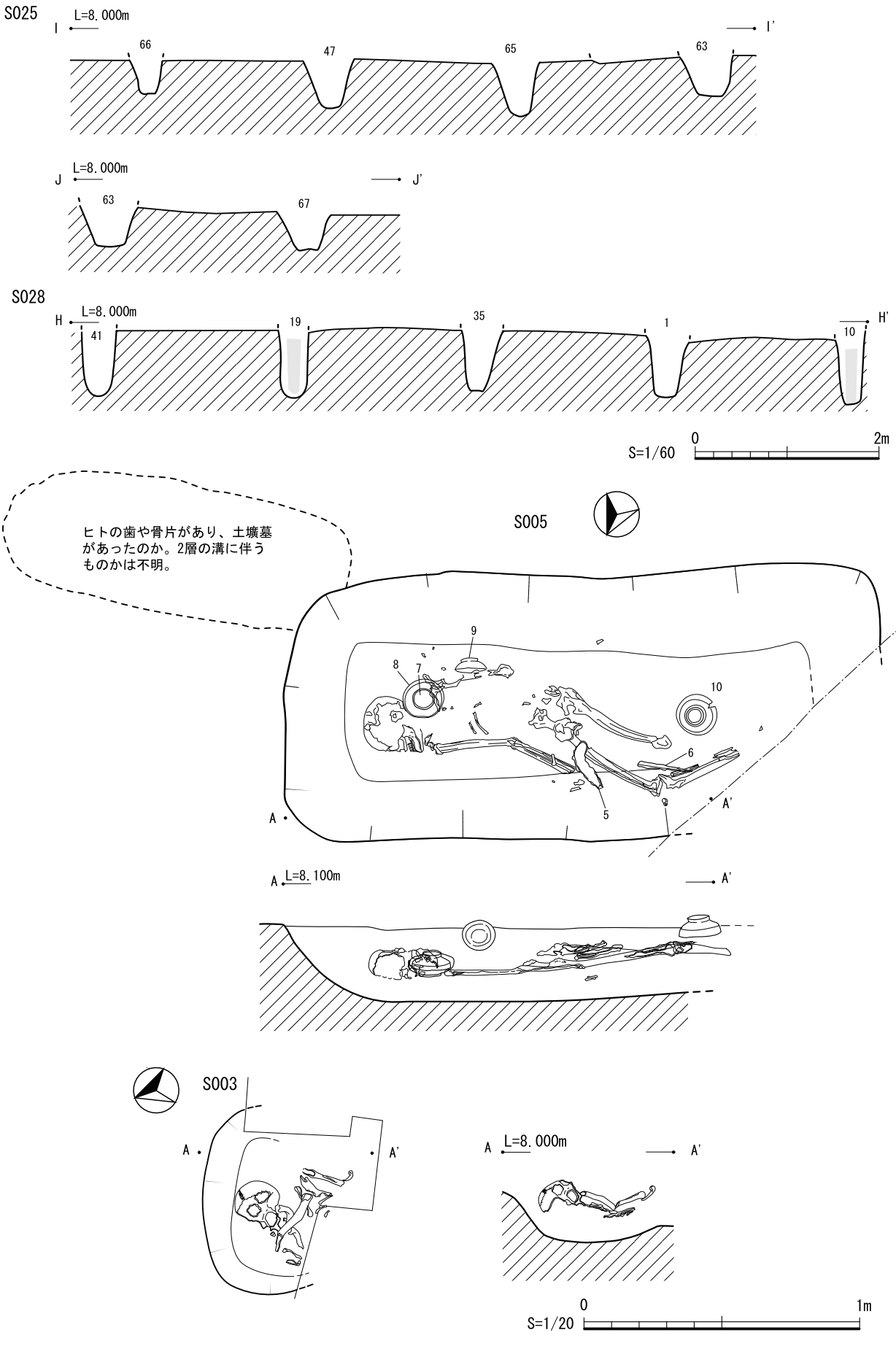


Fig.4　S025・028（掘立柱建物）断面図及び・S003・005（土壙墓）実測図

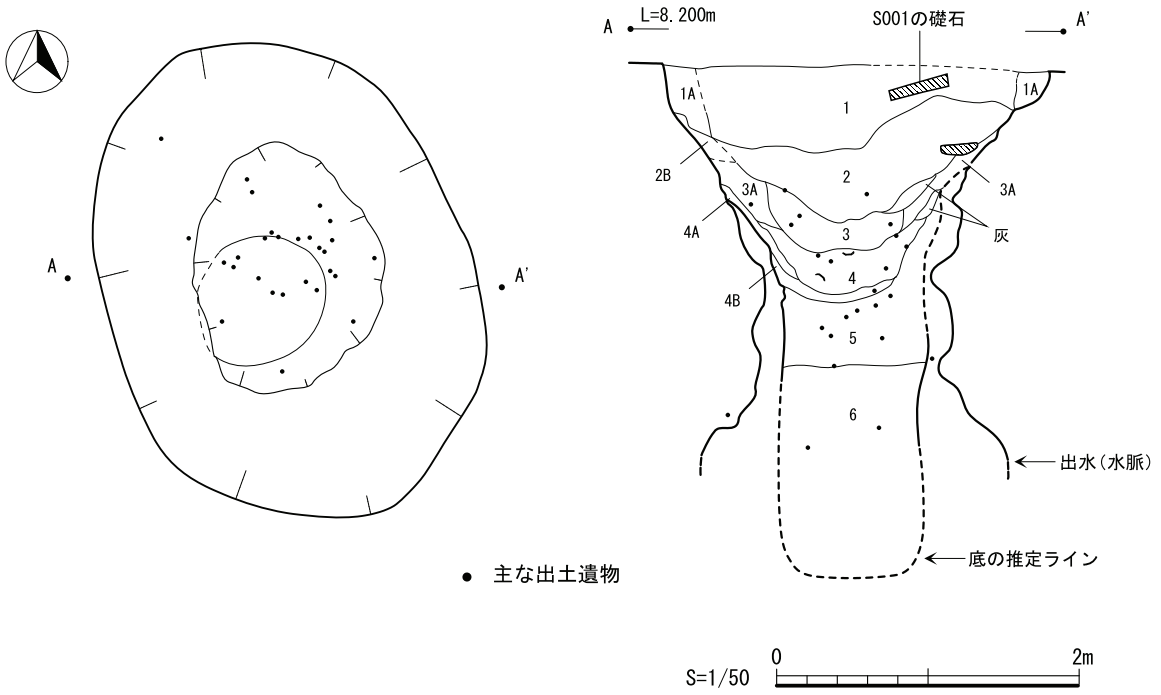


Fig5　S006実測図

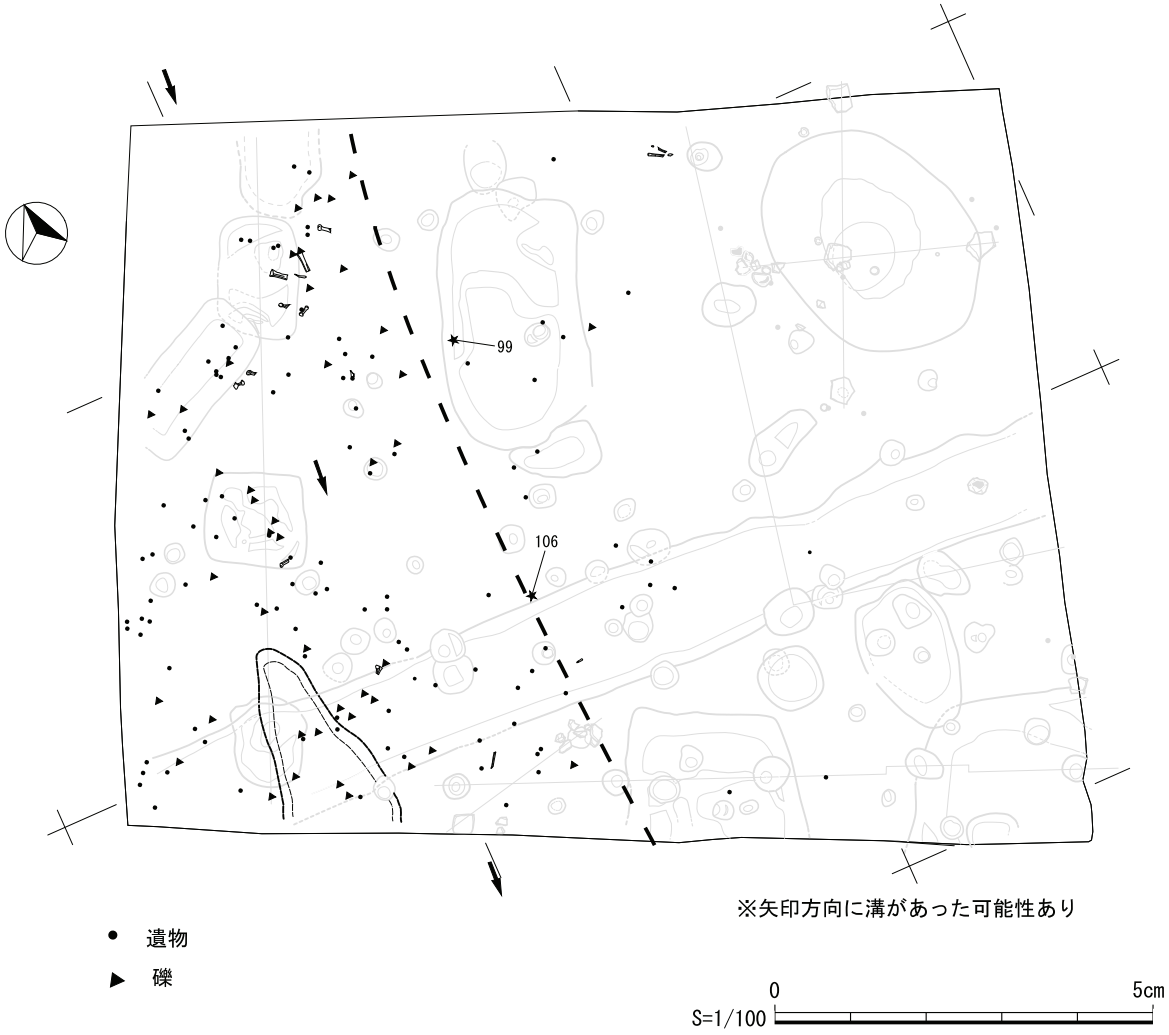
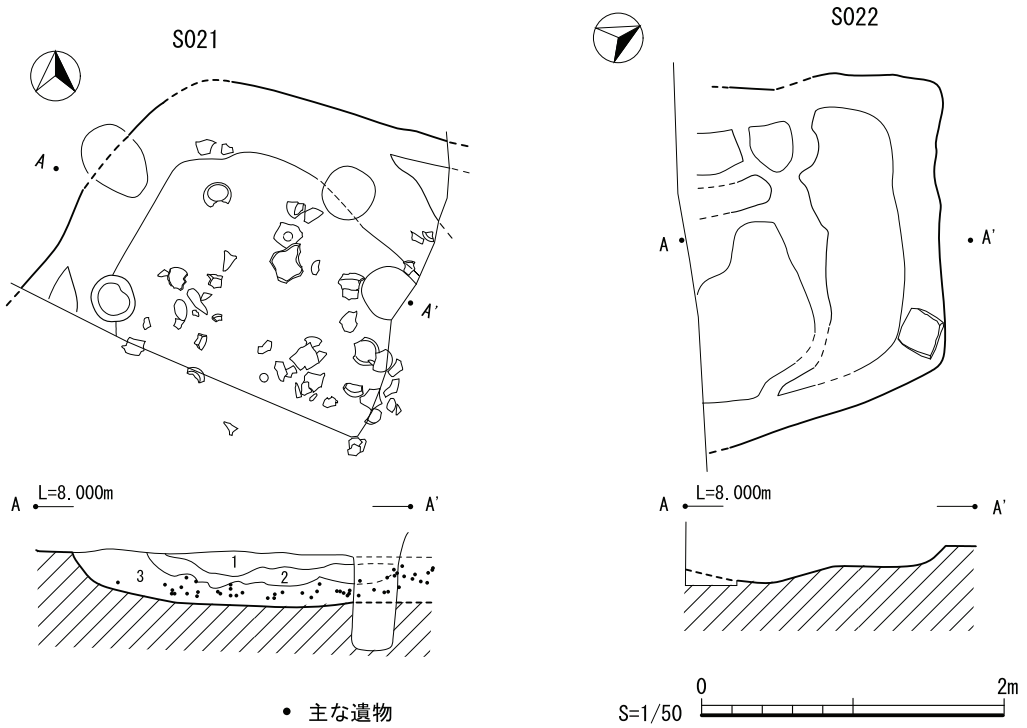


Fig6　1区2層上～3層上（2層主体）出土遺物平面図



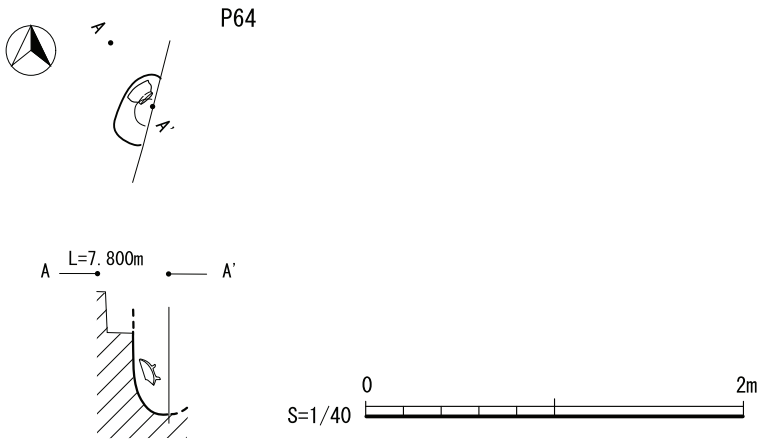


Fig.7　S021・022（竪穴住居）・ P64実測図

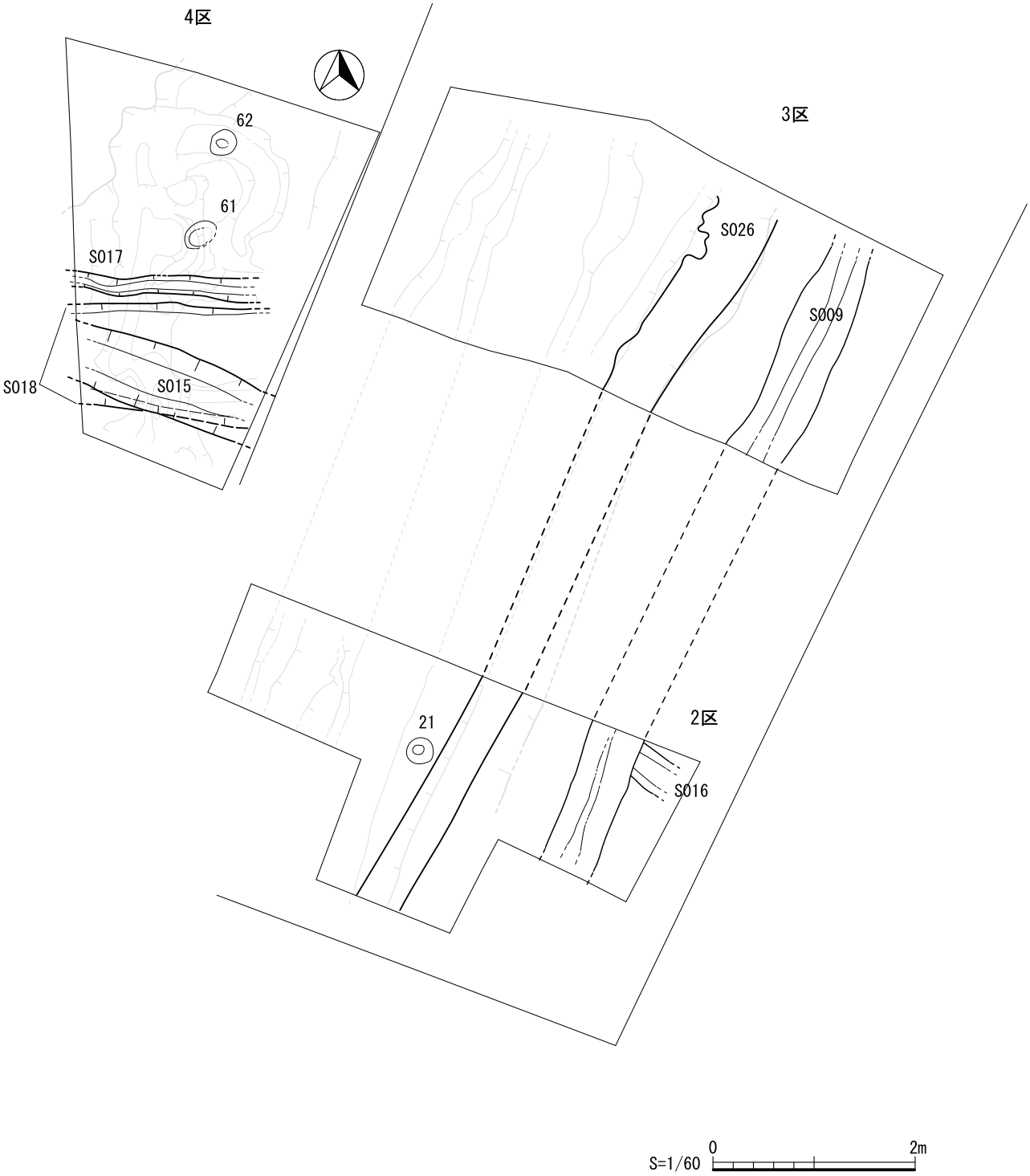


Fig.8　2～4区遺構配置図①（中世）

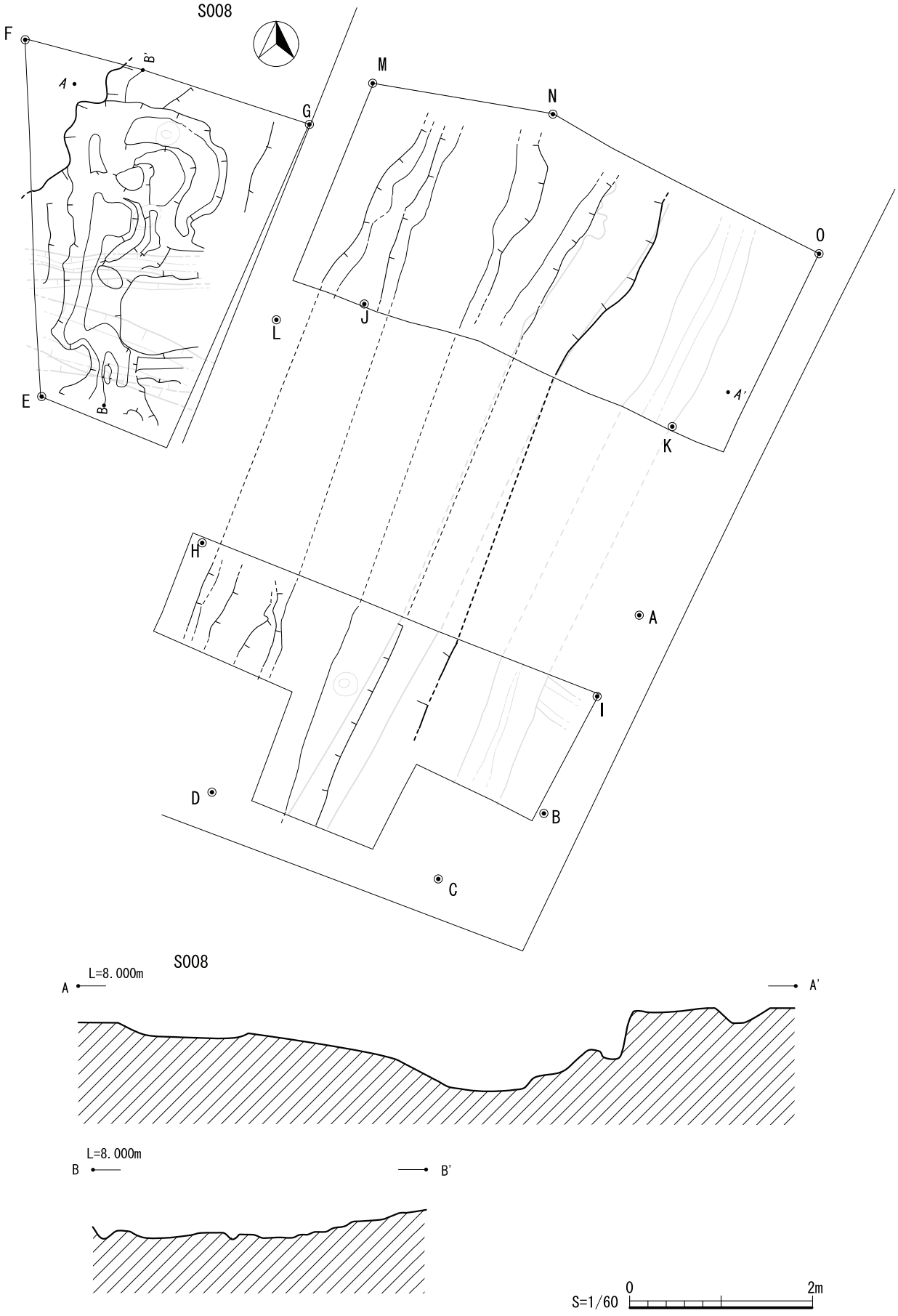


Fig.9　2～4区遺構配置図②（古代）及び遺構断面図

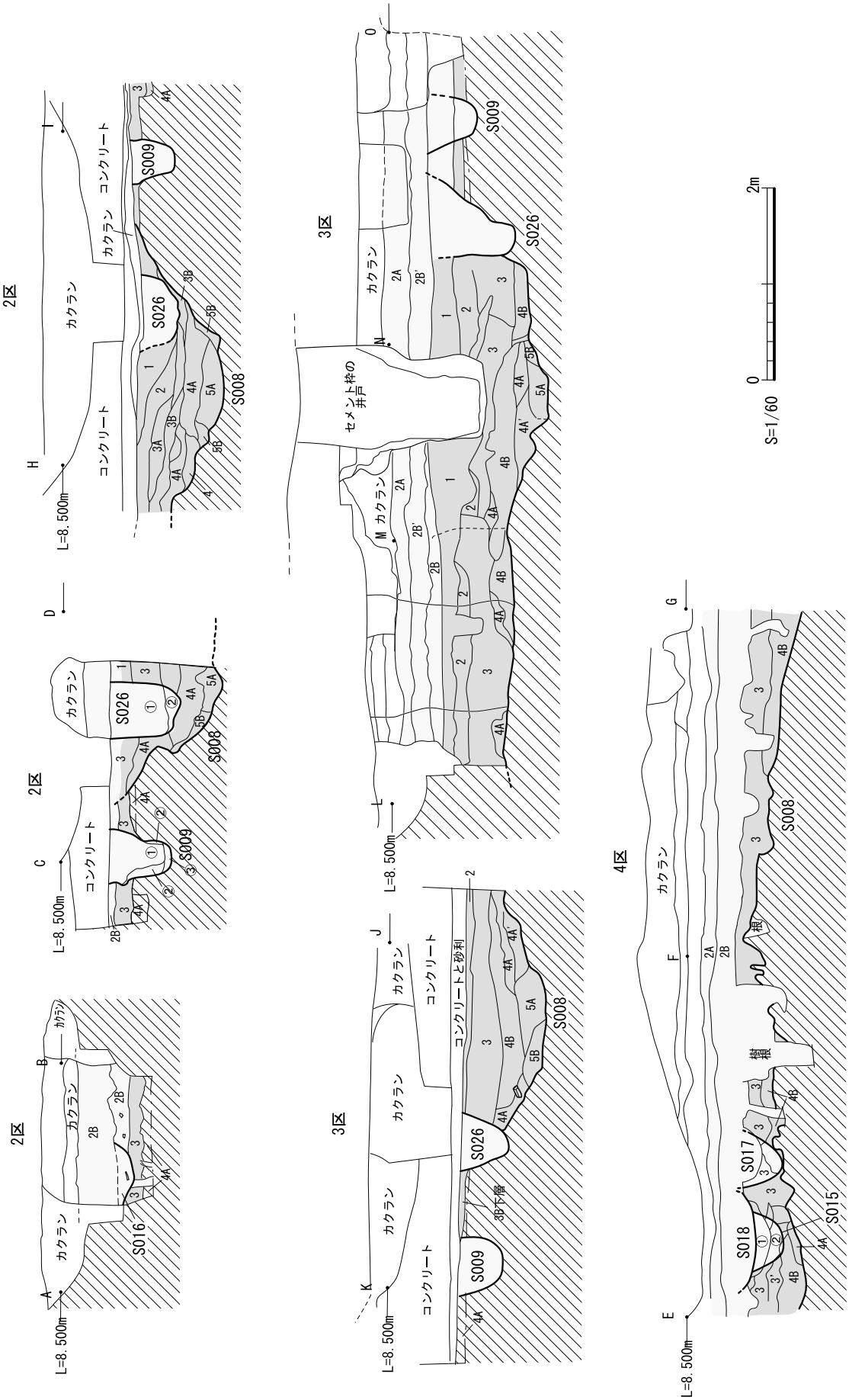


Fig.10　2～4区土層断面図（S=1/60）

Tab.1　さつま荘跡地遺構観察表　　※遺物は、ビニール11号袋（８分目）で約650g、13号袋（８分目）で約1200g、【46×62×19】㎝の大きさの網コンテナ（８分目）で約15000gの重量。

区	遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	出土遺物と出土量	遺構の所見	切り合い関係など
1	S001	礎石柱建物	近世(19C中)	3.85	3.00	―	中央の礎石上で「文久通宝」(1863年)を1枚確認。西側にある複数の石の中に凹石1点あり。	掘りこみの中に礎石を置いた可能性あり。北北東に24度ずれる。銭は地鎮用か？南側の礎石には径15cm程の柱痕跡あり。	S006を切り、調査区外にのびる。
1	S002	土坑	(中世～)近世以降	0.82	0.81	0.14	スラグ片、土器少量出土。遺物は全て古代。	粘土ブロックを多く含む。埋土は1.2層に近い。	
1	S003	土壙墓	中世(12C後半前後)	1.35	―	0.16	糸切り底小皿小片：2点、滑石片2点、拳大礫：1個	人骨(男性：頭骨)出土。埋土が基本土層の2層。頭位は北東を向く。	S021を切り、調査区外に伸びる。
1	S004	礎石柱建物	近世以降？	3.00	―	―	なし	S001と近い時期の可能性あり。南側の礎石は矢板の打込によりやや動いているがほぼ同レベル。	調査区外に展開するものと考えられる。
1	S005	土壙墓	古代(10C後)	4.32	1.93	0.22	土師器椀3点、黒色土器A類1点、刀子1点、鉄鎌1点出土。	頭位は北東を向く。成人男性。土師器3点の内1点の高台部は故意に欠く。木棺墓の可能性あり。確認層は、2B層下～3層上。	S014を切り、調査区外にのびる。
1	S006	井戸	中世(12C後)	3.28	2.40	2.63	糸切り底小皿、杯多し、瓦器、滑石片、輸入陶磁器片など、	4B層は灰層。湧水量が多く危険性が高く完掘できず。	S001、P3に切られる。
1	S007	土坑	中世(12C後)	3.42	1.88	0.36	糸切り底小皿、杯、瓦器、初期高麗青磁片など、	楕円形の土坑、用途不明。埋土は3層に分層。	S013、P51、73,72を切り、P42に切られる。
2･3･4	S008	大溝	古代(8～12C)	8.15～	5～	2.67	8世紀前半～後半の遺物が81,752g出土。獣骨も多し。	北東から南西方向の流れ。北西側は浅くなっており、ややいびつな形状。8C後の可能性が強いが時期の詳細は不明。	S015、017、018、026、P21に切られ、調査区外にのびる。
3	S009	小溝	中世	6.8～	0.50	0.3～	遺物は3,021g出土。遺物は古代のみ。	埋土と断面から中世と判断。流れはS008しと並行。	S016を切り、調査区外にのびる。
1	S011	溝状遺構	古代末～中世(11C後～13C)	2.3～	1.35～	0.13	遺物は812g出土。遺物は古代のみ。磨研土師器片出土。	F,G-31,32に広がる遺物群に繋がる可能性あり。	S014,019を切り、P40に切られ、調査区外にのびる。
1	S013	不明遺構	中世(12C後)	1.20	0.68	0.28	糸切り底土師器の小片を含む430g出土。	やや不定形の中世土坑。S007と同じ埋土。	S007から切られる。
1	S014	柱列？	古代(8～12C)	1.2～1.6	0.9～1.22	0.3～0.73	古代の須恵器、土師器の小片が673g出土。赤彩土器片含む。	やや長楕円形プラン。樹痕が入りこみ底面が乱れている。柱穴の間隔は約3m。溝群と並行する。柱穴の間隔が長いが柵列か？掘立柱建物？が溝で切られている可能性あり。柱軸は北から北北東に約25度ずれる。埋土は3層。	S005、11に切られ、S019を切る。
4	S015	溝	中世	1.88～	0.67	0.29	遺物は1,831g出土。遺物は古代のみ。	市41次調査区の35号溝へつながる。土層断面より中世と判断。	S008、018に切られ、調査区外にのびる。
2	S016	小溝	中世	0.6～	0.35	0.05	出土遺物なし。	浅い溝。S018につながる可能性あり。土層断面より中世と判断。	S009に切られ、調査区外にのびる。浅い溝。
4	S017	小溝	中世	1.63～	0.20	0.11	遺物は170g出土。遺物は古代のみ。埋土は2B層。	埋土が不明確。土層断面より中世と判断。	S008を切り、調査区外にのびる。
4	S018	小溝	中世	1.88～	0.65	0.29	遺物は329g出土。遺物は古代のみ。埋土は2B層。	市41次調査区の23号溝つながる。土層断面より中世と判断。	S008,015を切り、調査区外にのびる。
1	S019	溝	古代(8C後～9C)	12.7～1.5	1.43	0.16	遺物は1,061g出土。遺物は古代のみ。埋土は3B層。一番下層で検出。	ほぼ東西へ続く。黒色土器A類が出土。	S011、023、ピット群に切られる。
1	S020	不明遺構	古代末～中世	1.96	1.25	0.10	遺物は1,039g出土。遺物は古代のみ。埋土は2B層。	ややいびつ、灰色の埋土。	S021、025切る。
1	S021	竪穴住居	古代(8C後)	2.3～	2.05～	0.41	遺物は21,911g出土。遺物は8C前～後。埋土は3層に分層。2層は焼土層。	調査区外に続き全容は不明。遺物が多いが時期幅あり。	S003、20、28やピッチ群に切られ、調査区外にのびる。
1	S022	竪穴住居	古代(～9C中)	2.28	1.46～	0.25	遺物は276g出土。遺物は古代のみ。埋土は基本土層の3層。	小型の住居。9世紀代か。	調査区外にのびる。
1	S025	掘立柱建物	古代(8C～12C)	1.72	0.92	0.66	4×2以上。埋土が2B～3層。	柱軸は北から北北東に約12度ずれる。	調査区外にのびる。
2･3	S026	小溝	中世	2.53以上	0.60	0.88	出土遺物なし。	深い溝。S009とほぼ並行する。土層断面より中世と判断。	S008を切り、調査区外にのびる。
1	S027	不明遺構	古代	1.1以上	1.05以上	0.14	出土遺物なし。埋土は基本土層の3層。	土坑状のものか？詳細不明	S00、調査区外にのびる。
1	S028	掘立柱建物	中世(12C後～13C)	1.50	0.20	0.75	出土遺物なし。Pit.1.10.19,35,41でPit.1.10.19は柱痕跡あり。埋土は基本土層の2層で黒色が強い。	5間以上の掘立柱建物。柱軸は西から北西西に約22度ずれる。	P19、35、1、10から成る。調査区外にのびる。

※S010,12,23,24は欠番。

Tab.2　さつま荘跡地遺構土層注記表

遺構番号	層名	色　調		備　　考
S002				基本土層の1層に近い。色調が明るい。
S003		10YR2/2	黒褐色土	色調が黒色で、いわゆる基本土層の2層である。
S005		10YR2/3	黒褐色土	きめが細かくややさらさら感あり。1～5㎜大のカーボンと褐色粒を多く含む。5～10㎜大の4A層の褐色土のやわらかいブロックも所々に含む。
S006	1	10YR2/2	黒褐色土	色調が黒くいわゆる中世の埋土である。やや砂質であり、2～3㎜大の褐色粒、カーボン粒、４A、B層のブロックなどの混入物や土器や骨片を多く含む。
	1A	10YR2/2	黒褐色土	1層と比較して色調がややうすい。3と同様、井戸外の堆積物、混入物も1層と比較して少ない。
	1A’			上層と比較してやや色調がうすい。
	2	10YR2/1	黒色粘質土	1層より更に色調が黒く粘性が高くやわらかい。一般的に水性堆積物といわれる様な色調と粘性に近い。 混入物は1層とあまり変わらないが、灰が層状に堆積している。
	2B	10YR3/2	黒褐色土	井戸外の堆積土と考えられる。基本土層4A層のブロックを多く含む。ややしまる砂質土。
	2B’			上層と比較して色調がやや黒い。2層の一部と考えてもよいかもしれない。
	3	10YR2/1	黒色粘質土	主にカーボンと灰の堆積層で水分を多く含み、やわらかい。所々焼土ブロックも含む。遺物が多い。
	3A	10YR2/2	黒褐色粘質土	3層と比較してやや色調が明るく硬さ見られる。3～5㎜大のカーボンや焼土のブロック、1～2㎜大の基本土層4A、Bブロックが入る。井戸の外側に堆積した様相を示す。
	4	10YR2/2	黒褐色粘質土	色調は2、3層より明るい。3層と同様に水分を含みやわらかい。主に灰層主体の土が土壌化したものと考えられる。所々が2～5㎜大の焼土ブロック。3～20㎜大のカーボンが入る。遺物を多く含む。
	4A	10YR3/2	黒褐色粘質土	灰の集中層。水分を含みやわらかい。
	4B	10YR4/6	褐色粘質土	焼土、カーボン、灰が層状に入る。水分を含みやわらかい。焼土の層が目立つ。
	5	10YR2/1	黒色粘質土	水分を多く含むやわらかい粘質土。基本的には、4層と同じだがやや硬い。礫もない。
	5A	100YR2/1	黒色粘質土	色調は、5層よりやや明るく、ややしまる。井戸の外側のオーバーハングした中に堆積している様相を示す。土中に含まれる混入物は5層とさほど変わらない。
	6A		黒褐色粘質土	やわらかく水分が多い。やや砂質が強く、水分が少ない。
S007	1	10YR2/2	黒褐色土	ややしまりのある強い砂質土。カーボン(5～10㎜大)。褐色粒、小礫(1～3㎝大)を非常に多く含む。
	1’			1よりやや明るい。
	2	10YR2/1	黒色粘質土	上層と比較して粘りが強く、色調が暗い。混入物が少ないが、カーボンや褐色粒を含む。
	3	10YR3/3	暗褐色砂質土	硬くしまる砂質土。4Aよりややにごり、土器の小片を含む。
S008	1	10YR3/3	暗褐色砂質土	きめの細かい砂質土。色調が2B層に酷似する。カーボン、褐色粒が入る。(古代の遺物や獣骨等が多い。)
	2	10YR2/3	黒褐色砂質土	1層と比較すると色調が黒く、砂質土ながらやや粘性がある。カーボン、褐色粒等が入る。(古代の遺物や獣骨等が多い。)
	3	10YR2/3	黒褐色粘質土	基本的に色調が黒く、粘質であるが、端のほうでは、砂質土の所である。(古代の遺物や獣骨等が多い。)2区の3Cに似る。
	4A	7.5YR3/4	暗褐色砂層	基本的には酸化鉄の強い砂質だが、所々により黒褐色の砂層がある。ラミナ構造が見られる。
	4B	10YR2/3	黒褐色砂質土	きめ細かい砂質土。3～5㎜大のカーボンや基本土層4A、B層のブロックが所々に含まれる。全体的に灰色の砂質土に混入物が多いというイメージあり。
	5A	10YR3/2	黒褐色粘質土	最下層の粘質土。2～3㎜大のカーボンや基本土層4A、B層のブロックが多く入る。きめが細かく粘性は強い。
	5B	10YR3/2	黒褐色砂質土	大き目の基本土層4A、Bのブロックが多く入る。色調はやや明るいか？ブロック土の影響でどちらかというと砂質である。
		7.5Y6/2	灰黄色粘質土	酸化鉄を多く含む。やや硬めの粘質土。東横インのカマド粘土の粘性はこれを使用したものと考えられる。プライマリーで無遺物層。
		10YR3/2	黒褐色砂質土	きめは細かいがガチガチに硬くしまる砂質土。しかし、やや土壌化した感あり。無遺物層。この下に砂層があり、出水する。
S009	①	10YR2/3	黒褐色粘質土	マンガン粒を多く含み、カーボン、褐色粒をまばらに含む。粒子が細かくやわらかく粘性が強い。
	②	10YR3/4	暗褐色土	地山4A層と①層との混入土。やわらかく粘性ないが、①層程ではない。
	③	10YR3/3	暗褐色砂質土	地山4B層と①層との混入土。全体的に砂質である。
S011		10YR2/3	黒褐色土	きめが細かくてややさ砂質土。2～3㎜大のカーボン、焼土が所々に入る。2B層に似る。
S013		10YR2/2	黒褐色土	黒色が強く、中世の層。2層に酷似。カーボン(5～10㎜大)、土器小片(1～2㎝大)、褐色粒(3～5㎜大) 多く含む。粘質の所もあるが、砂質の所もある。
S014		10YR2/1	黒色土	粘性が強い。上層はより粘性が強く、下層は4B層のブロックを含み、やや砂質気味。
S015		10YR2/3	黒褐色砂質土	基本土層の2層を基調とする色調が黒い砂質土。
S016		10YR2/2	黒褐色土	粒子が細かく、色相は黒い。カーボン(3～5㎜大)、褐色粒と4層のブロック(1～2㎜大)が入る。ややしまり、力を加えるとボロボロになる。どちらかというと、砂質的か。
S017		10YR2/3	黒褐色砂質土	基本土層の2層を基調とする色調が黒い砂質土。
S018		10YR2/3	黒褐色砂質土	基本土層の2層を基調とする色調が黒い砂質土。
S019		10YR2/2	黒褐色土	きめが細かくやや砂質土。全体的に４A、Bの3～5㎜大のブロックが入るが、下層ほど多い。1層のみだが、小さく細分することも可能で、①全体的に暗褐色でやや砂質土。下層に比べて混入物は少ない。②小さな4A、B層のブロック(3～5㎜大)が多く入る。③4Bと4Bの酸化鉄ブロック（3～5㎜大）が多く入る。
S020	①	10YR2/3	黒褐色粘質土	色調が全体的に黒く、所々にカーボン(5～30㎜大)を含む。粘性はさほど強くない。上層に堆積しているのみである。
	②	10YR3/3	暗褐色粘質土	色調が全体的に灰黄褐色を呈している。上層と同様さほど粘性は強くない。
S021	1	10YR3/2	黒褐色土	やや粘性があり、やわらかい。焼土とカーボンのブロックを含む。2層の影響で硬くなる。7世紀後半の遺物多し。
	2	10YR4/6	赤褐色土	主に焼土ブロックを含む層。硬くなる。所々はその続きで焼土ブロックが少ないところも2層に入れる。
	3	10YR2/3	黒褐色土	きめが細かく、粘性がある。焼土が少なく、カーボン粒(5～10㎜)を所々に含む。(8世紀後半の遺物が主体)
S022		10YR2/3	黒褐色土	やや粘性のある黒色土。所々5～10㎜大のカーボンを含み、4A、Bブロックも含む。樹痕等の影響を受けており、上層からいく筋もの土層が入る。
S025		10YR2/3		P65,66,67が基本土層の2B層、P47,63は3層にあたる。
S026		10YR2/3	黒褐色砂質土	基本土層の2層を基調とする色調が黒い砂質土。
S027	①			ほぼ3層だが4A、Bのブロックをわずかに含む。
	②			4A、Bのブロックを含む砂質土。
S028		10YR2/3	黒褐色土	全てのピットが基本土層の2層にあたる。

Tab.3　さつま荘跡地ピット観察表(1)

※埋土は基本土層、上端・下端はレベル値

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
1	1区H33	2B	54.0	43.0	0.66	7.84	7.18	―															S028を構成。柱痕有り。焼土入。S021を切る。
2	1区G32	2B	30.0	28.0	0.25	7.88	7.63	―	9	42	20	12	1	3									
3	1区H32	2B	34.0	25.0	0.51	7.94	7.43	―	13	45	1	45			1	4							
4	1区H33	2B下～3上	38.0	28.0	0.54	7.92	7.38	―	8	60													P31から切られる。
5	1区G32	2B	50.0	39.0	0.21	7.78	7.57	7.75					3	10									S019とP36を切る。
6	1区G32	2B	27.0	22.0	0.48	7.92	7.44	―					1	10									
7	1区H32	2B	31.0	25.0	0.37	7.89	7.52	―															P34を切る。
8	1区H32	2B	55.0	49.0	0.54	7.93	7.38	7.59															S019を切る。
9	1区H33	2B	49.0	37.0	0.40	7.88	7.48	―			1	6			1	6							S020を切る。
10	1区H34	2B	35.5	-	0.75	7.86	7.11	―															柱痕有り。S021を切る。
11	1区G32	2B	30.0	28.0	0.32	7.90	7.59	―	6	42													
12	1区G32	不明	34.0	33.0	0.27	7.90	7.63	―															
14	1区G33	2B	34.0	33.0	0.23	7.91	7.69	―	7	85	1	27			1	6							S019を切る。
15	1区H33	2B	30.0	29.0	0.45	7.79	7.34	―	8	59													S021を切る。
17	1区G33	2B	33.0	30.0	0.49	7.93	7.44	―															S022を切る。
19	1区G33	2B	33.5	32.0	0.17	7.92	7.75	―															柱痕有り。S028を構成。
20	1区H33	2B	26.0	25.0	0.56	7.89	7.33	―															
22	1区G32	2B～3	30.0	29.0	0.32	7.89	7.57																S019を切る。
24	1区F32	2B	27.0	24.0	0.50	7.92	7.42	―	9	73													
25	1区F32	2B下～3上	33.0	28.0	0.30	7.99	7.69	―															
27	1区H32	2B下～3上	30.0	27.0	0.70	7.95	7.25	―	13	45	1	37			1	3							
29	1区H33	2B下～3上	24.0	20.0	0.43	7.91	7.48	―	6	54			1	24									S019を切る。
30	1区H33	2B	21.0	20.0	0.38	7.88	7.50	―	9	49													S020を切る。
31	1区H33	2B	25.0	―	0.35	7.81	7.46	―	2	16													
32	1区H33	2B	35.0	35.0	0.75	7.91	7.16	―	19	128	2	56			2	7							焼土入。S021を切る。

Tab.4　さつま荘跡地ピット観察表(2)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
33	1区F32	2B	40.0	35.0	0.32	7.92	7.60	―	6	93													
34	1区G33	2B	40.0	―	0.46	7.89	7.43	―	21	106	2	16			2	5	4	168					P7から切られる。
35	1区G33	2B	48.0	44.0	0.67	7.91	7.23	―															S022を切る。
36	1区G33	2B	53.0	―	0.56	7.90	7.34	―	35	221	2	29					1	26	滑石2	37			S019を切り、P5から切られる。
37	1区F32	2B下～3上	58.0	37.0	0.45	7.92	7.46	―	38	223	2	7							砥1	119			
38	1区G31	3上	34.0	27.0	0.31	7.90	7.59	―	4	15													藁のカーボン多し
40	1区F33	2B	31.0	29.0	0.55	7.92	7.37	―	14	110	1	112									粘土	30	カーボン、焼土混入。S011を切る。
41	1区	2B	30.0	29.0	0.33	8.06	7.72	―															
44	1区G31	2B	27.0	25.0	0.33	7.90	7.57	―	18	133							1	6					
45	1区F32	2B～3A'	34.0	31.0	0.23	7.91	7.68	―	9	56	5	82											10～20cm大の礫2個あり
46	1区G32	中央　2B(柱痕) 外　褐色(酸化物)	35.0	31.0	0.59	7.79	7.20	―	10	31	3	41	1	6	1	3							
47	1区H32	3	64.0	57.0	0.66	7.77	7.12	―	2	6	1	66											S025を構成。
48	1区H33	3	35.0	32.0	0.19	7.76	7.58	―															S019を切る。
50	1区G32	2B	33.0	24.0	0.14	7.78	7.65	―	2	25													先細りするのが杭状のものと考えられる。
51	1区G32	3	45.0	40.0	0.32	7.38	7.06	―	3	31					1	3							S007に切られる。 柱痕有り
52	1区F32	3	26.0	25.0	0.11	7.75	7.63	―	2	15													
53	1区G33	2B～3A	24.0	20.0	0.22	7.92	7.70																下(底面)に礫5点。このピットに伴う根石と思われる。少しわくからはみ出している。石の大きさは、15～20cm、厚さ2～8cm。
54	1区G33	2B	40.0	35.0	0.30	7.85	7.56	―	12	71	3	98			2	26							先がやや先細りか？
57	1区G33	2B	35.0	32.0	0.19	7.74	7.55	―	7	26													S002から切られる。
58	1区G33	中央　2B 外　褐色(酸化物)	30.0	29.0	0.55	7.81	7.26	―	6	62	3	29											S019を切る。
59	1区H33	2B	40.0	31.0	0.27	7.71	7.44	―	19	109	1	2											S019を切る。
60	1区H33	2B	33.0	26.0	0.34	7.70	7.37	―	2	3	2	10											P59とS019を切る。
61	4区E31	2B～3	34.0	―	0.33	7.74	7.42	―															S008を切る。
62	4区E31	2B～3	29.0	24.0	0.22	7.75	7.53	―															S008を切る。
63	1区GH33	3	64.0	56.0	0.44	7.71	7.27	―	4	28	1	12											S025を構成。

Tab.5　さつま荘跡地ピット観察表(3)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
64	1区H33	2B～3	38.0	―	0.47	7.55	7.07	―	13	208	3	18											矢板に半分切られる。10C後の土師器出土。
65	1区H32	2B～3	106.0	43.0	0.64	7.68	7.04	―															S025を構成。
66	1区	2B～3	46.0	36.0	0.35	7.64	7.29	7.27															S025を構成。S020を切り、S019に切られる。
67	1区H33	2B～3	75.0	53.0	0.37	7.62	7.25	―	7	64	1	46											S025を構成。
69	1区H33	2B～3	40.0	―	0.39	7.64	7.25	―	9	45	1	11											柱痕有り。S020との切り合い不明。
70	1区H33	2B～3	23.0	20.0	0.28	7.70	7.42	―															下面に被熱レキあり。根石。
72	1区G32	2B	56.0	―	0.39	7.71	7.33	―															P73とS007から切られる。
73	1区G32	2B	55.0	45.0	0.54	7.69	7.16	―															P72を切り、S007から切られる。

※番号なしは欠番。

２．遺物と観察表

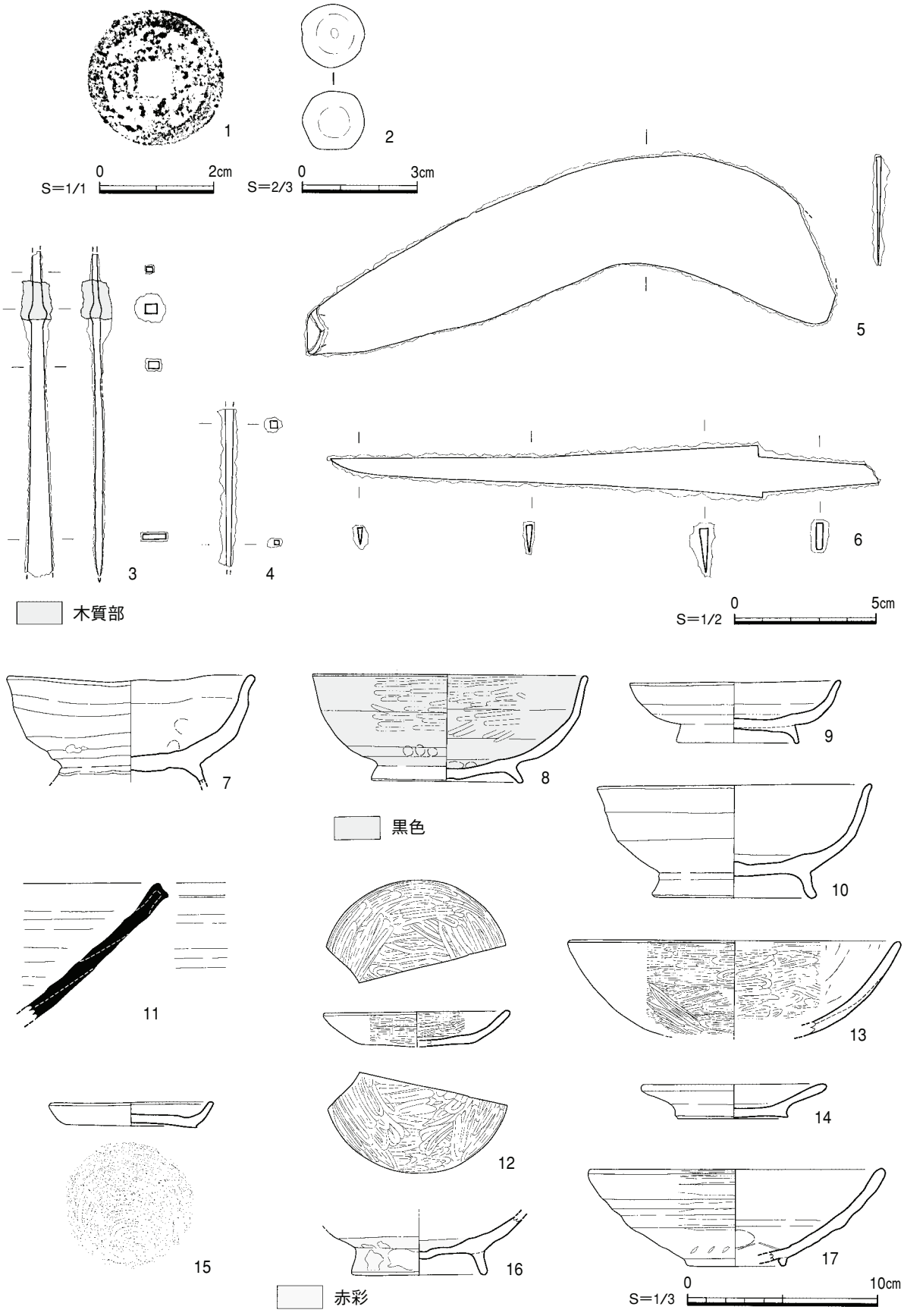


Fig.11　S001・003・005・006（1）出土遺物実測図

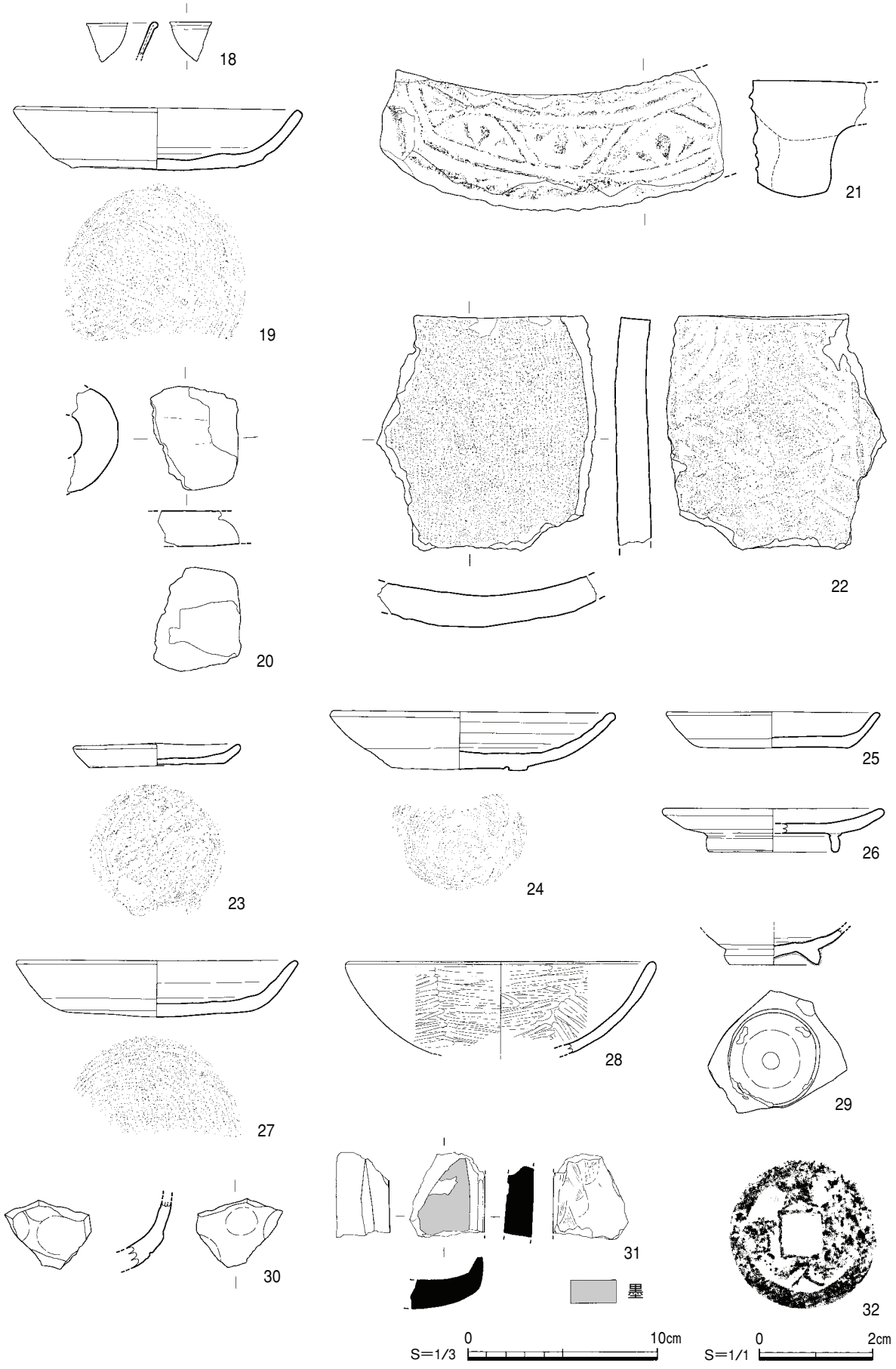


Fig.12　S006（2）・007（1）出土遺物実測図

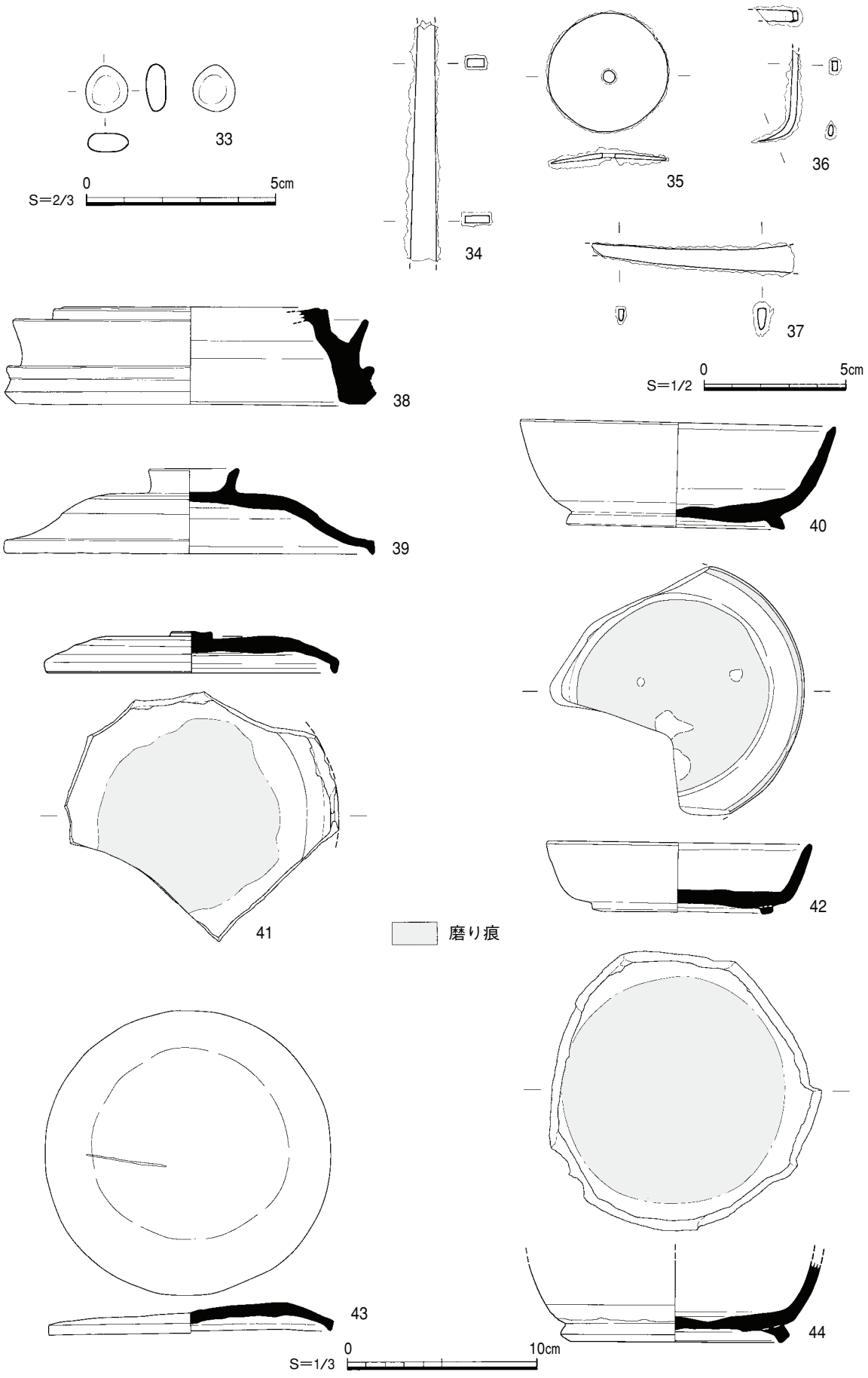


Fig.13　S007（2）・008（1）・009出土遺物実測図

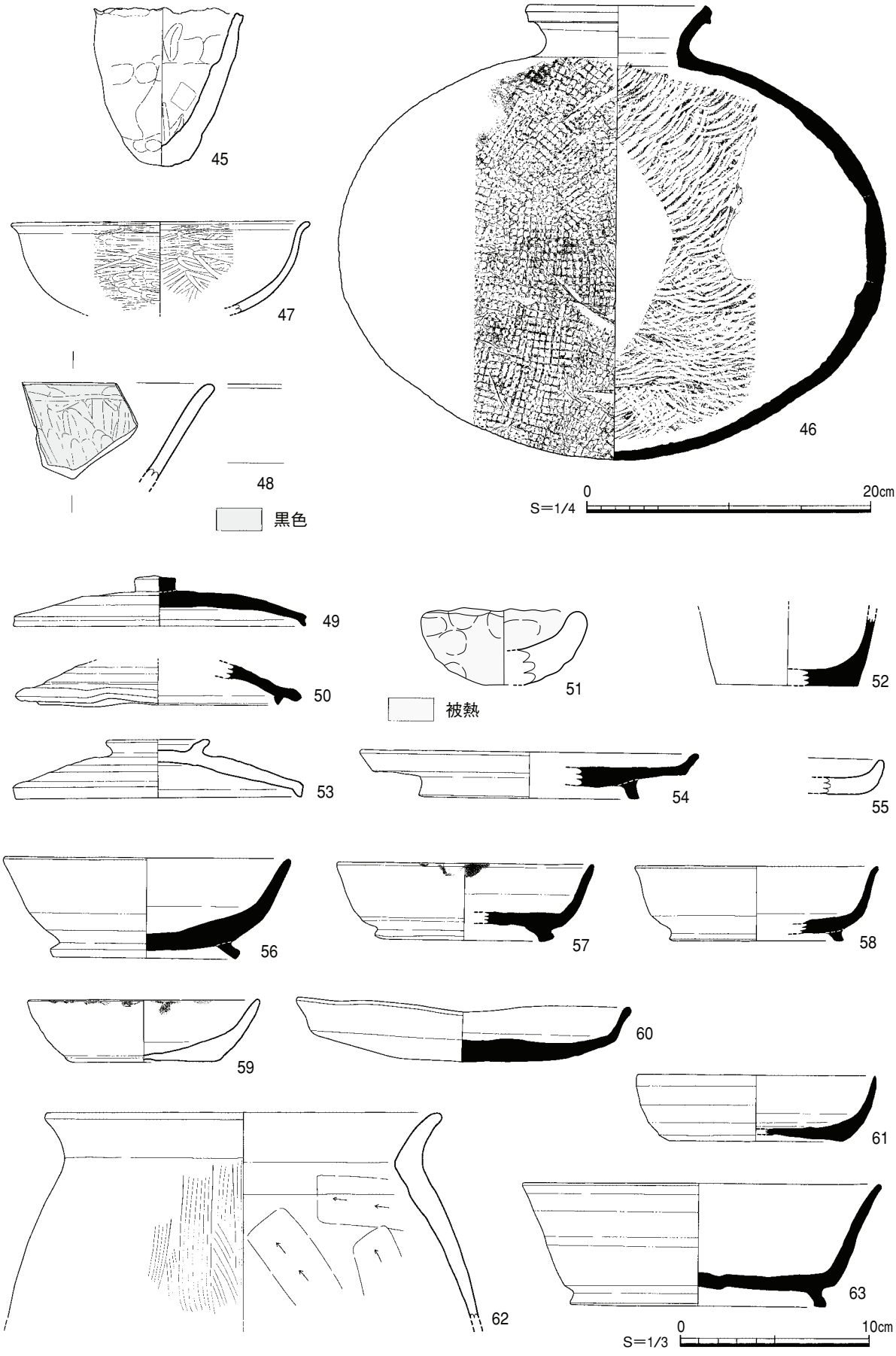


Fig.14　S008（2）・011・019・021出土遺物実測図

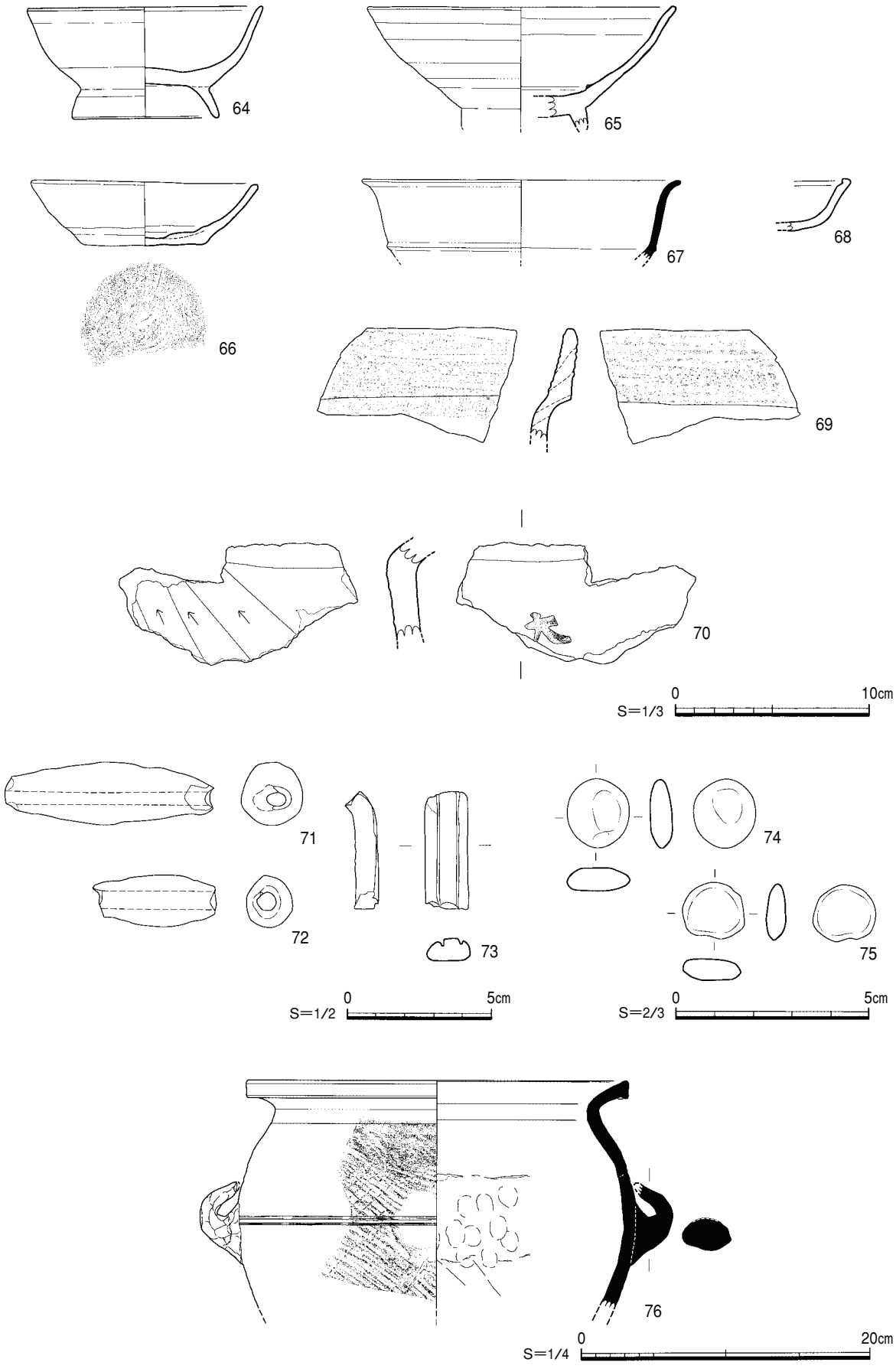


Fig.15　ピット・包含層（1）出土遺物実測図

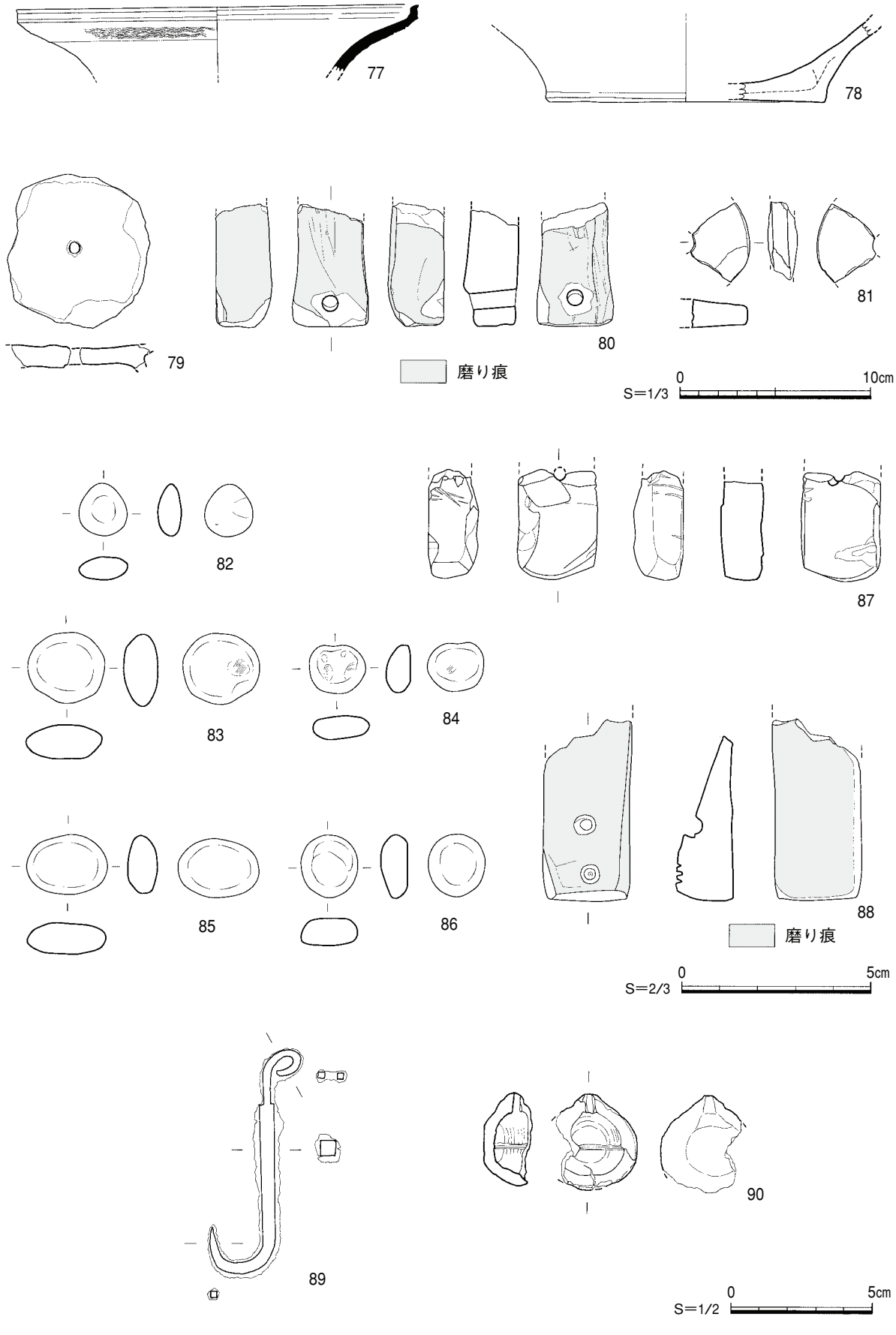


Fig.16　包含層（2）出土遺物実測図

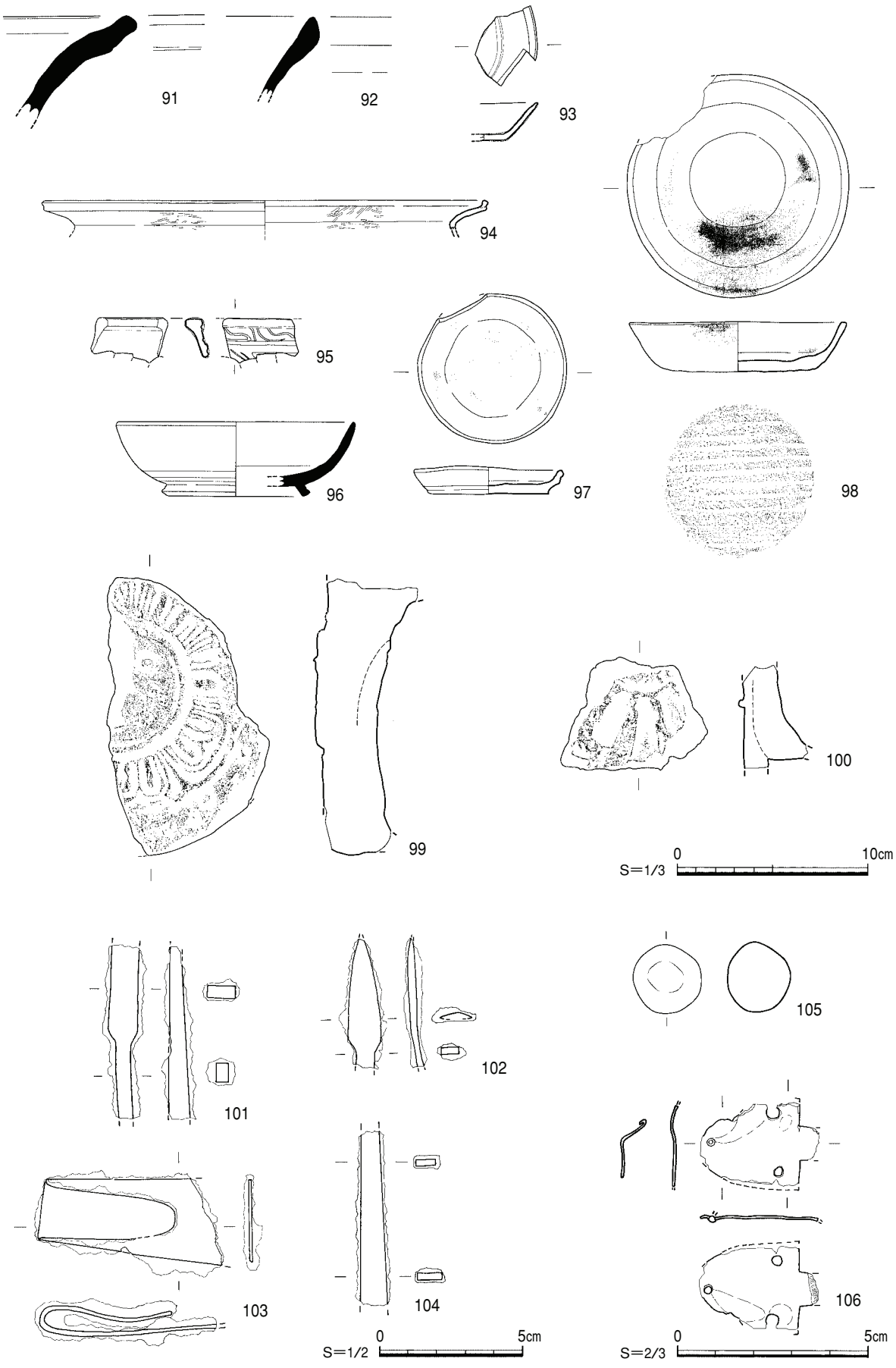


Fig.17　包含層（3）出土遺物実測図

Tab.6　さつま荘跡土器・陶磁器類観察表(1)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法（cm）				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）				
11	7	土師器	高台付椀	S005		No.1	12.7	8.1～	5.8～	1.3～	多方向ナデ、ナデ(指頭圧痕)	粗い横ナデ、ヘラ削り後ナデ、高台はり付け後ナデ、一部黒斑あり	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	角閃石：多い	良	ほぼ完形	口縁歪みあり。底部は故意に欠いたと考えられる。10C中。8とあわせで出土。
11	8	黒色土器A類	椀	S005		No.2	14.2	7.9	5.7	0.8	横ナデ、ミガキ、指頭圧痕、	横ナデ、ミガキナデ、ヘラ削り後ナデ、指頭圧痕、高台はり付け後横ナデ	黒 7.5Y2/1	にぶい黄橙 10YR7/4	1mm以下の長石、砂粒：多い　角閃石、輝石：まばら	良	ほぼ完形	内黒。内外面にミガキあり。7とあわせで出土。7が上で8が下。
11	9	土師器	高台付皿	S005		No.3	11.0	6.4	3.3	0.9	多方向ナデ、ナデ(指頭圧痕)指頭圧痕	横ナデ、回転ヘラ、高台はり付け後横ナデ	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2	角閃石まれに入る	良	完形	歪みあり。　10C中
11	10	土師器	高台付椀	S005		No.6	14.2	8.6	6.0	1.3	横ナデ	横ナデ、ヘラ調整、ヘラ切り	にぶい黄橙 10YR7/4	橙5YR7/6、にぶい黄橙10YR7/3	金雲母：多い　黒色粒	良	完形	10C中
11	11	東播系須恵器	鉢（片口鉢？）	S006	1層				7.1～		回転ナデ	回転ナデ	灰 5Y5/1	黄灰 2.5Y6/1	長石、輝石：多、所々に5～10mm大の砂粒	良	口縁部のみの破片	重ね焼きによる色調の違いあり。第1段階のものか？(11後～12前？)
11	12	瓦器	小皿	S006			(9.5)	(6.2)	1.9～		ヘラミガキ(分割)	ヘラミガキ(分割)	暗灰 N3/～2/	暗灰 N3/～2/	細砂くらいの白色砂少し入る、長石、角閃石。断：灰10Y6/～N5/	良	約5/12	若干歪みあり
11	13	瓦器	椀	S006	2層下		(17.1)		5～		ヘラミガキ	ヘラミガキ、コテアテ痕	黒 10YR2/1	黒褐10YR2/1～3/1、オリーブ黒7.5Y3/2	輝石多い。断：暗灰N3/～4/	良	約1/6	コテアテ跡残存
11	14	土師器	小皿	S006	5層上		(9.4)	5.9	1.8		回転成形後、不定方向ナデ	口縁部回転ナデ、成形後未調整、糸切り、1.5cmのヘラ(ハケメ状のあと)あて痕あり	にぶい黄橙 6/3～7/3	にぶい黄橙 6/3～7/3	砂粒は少ない。褐色粒が点々とまじる。断：内外と同じ～灰白 2.5Y8/2	良	口縁で1/2弱	糸切り底小皿。中世
11	15	土師器	小皿	S006	3層上		8.4	6.8	1.3		口縁部横方向ナデ	口縁部横方向ナデ、糸切り	にぶい黄橙10YR 6/3 黒斑状に灰色の部分が大くをしめる	にぶい黄橙10YR 6/3 黒斑状に灰色の部分が大くをしめる	細砂の白色粒少しまじる。キラッと光るものも入るが小さい褐色粒まじる	良	ほぼ完形（口縁欠け）	はっきり歪みあり。12C後～
11	16	土師器	高台付椀	S006		5層下		7.0	3.0～	1.5	ナデ(指頭圧痕あり)	横ナデ	橙 2.5YR7/8	橙 2.5YR7/8	石英、角閃石、長石、雲母、輝石	良	1/2弱	赤色顔料
11	17	瓦器	椀	S006	5層上層、5A上層		(15.6)	(5.4)	5.1		ミガキ、指頭圧痕、コテあて具痕　ナデ？	ミガキ、コテあて具痕、高台貼付、ナデ？	灰白 N7/	灰 N6/	輝石　多、長石　やや少	良	口縁～底部1/5～1/6	幅5mmの工具でミガキあり。一次焼成の際の黒斑あり。(口唇部周辺)　中世
12	18	初期高麗青磁	椀（III-2）、C期（11C後～12C前）	S006	5A下層		2.2～		2.1～		回転ナデ磨き後施釉	回転ナデ磨き後施釉	灰オリーブ 7.5Y6/2	灰オリーブ 7.5Y6/2	黒色粒を多くカオリン主体の陶石土。色調は灰色　胎土：灰5Y6/1	良	口縁約16cm(？)	C期(11C後～12C前)
12	19	土師器	杯	S006			(14.7)	約8.8	3.2		口縁部横方向ナデ後、一方向ナデ	口縁部横方向ナデ、糸切りのち板目圧痕	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR6/4	細砂くらいの砂粒、長石、輝石が少しまじる。1～3mmの橙色粒まじる。断：にぶい黄橙10YR6/4	良	17/36（1/2弱）	1/2に近いので少しずらして実測し合成している
12	23	土師器	小皿	S007		No.9	8.4～8.5	7.1	1.2(ゆがみのところ2cm)		一方向ナデ(強い)	口縁横方向ナデ、糸切り・板目圧痕。指頭圧痕	褐灰 10YR6/1	にぶい黄橙 10YR7/4	～2mmの橙色粒多い。細砂の白色、半透明雲母まじる　断：内外に漸移的に変化	良	約5/6(口縁部)他は100%	大きくゆがむ。12C後～
12	24	土師器	杯	S007			(14.7)	(7.1)	(3.1)		回転ナデ？	回転ナデ、丁寧なロクロ成形・2次調整なし、糸切り	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	金雲母：多い 長石、黒色粒：まばら	良	1/8口縁部底部1/2強	中世前期いわゆる肥前系
12	25	土師器	皿	S007		No.3	11.2	8.0	1.9		回転ナデ	ヘラ切り後ナデ、板状圧痕残	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	輝石：多い　雲母、石英	良	ほぼ完形	11C前？
12	26	土師器	托	S007			(11.2)	(6.5)	2.8	1.0	口縁部横方向ナデ、見込み部ナデ	ナデ、高台横方向ナデ、工具によるナデ・高台貼り付け	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 7.5YR7/3	粗砂の白色砂、黒色(角閃石？)、褐色粒すこしまじるが少ない 断：にぶい橙7.5YR7/3	良	口縁で1/7弱	全体的にくすんでいる。10C後

Tab.7　さつま荘跡土器・陶磁器類観察表(2)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法（cm）				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）				
12	27	土師器	杯	S007			(14.5)	(10.0)	3.0		一方向ナデ	口縁部横方向ナデ、成形後未調整、糸切り板目圧痕	褐灰 10YR6/1	にぶい橙 7.5YR7/4	石英、長石わずかに入る。	良	約1/4	12C後～
12	28	瓦器	椀 （肥後型）	S007			(15.8)		4.8～		ヘラミガキ	ヘラケズリ後ヘラミガキ（分割）、ヘラミガキ	灰白 5Y8/2	灰白 5Y8/2	砂粒は非常に少ない。 石英、長石、輝石少々。 断：灰白N7/	良		いぶしは全くない
12	29	初期高麗青磁	椀 Ⅲ類 高台	S007				4.6	2.0～		回転ナデ後施釉	回転ヘラ削り（高台削り出し）後施釉	灰オリーブ 7.5Y5/3	灰オリーブ 7.5Y5/3	白色粒を多く、黒色粒をまばらにカオリンを主体とした胎土。但し、Ⅰ、Ⅱ類に比べて胎土が粗雑で、やや褐色を帯びる。 胎土：浅黄2.5Y7/3	良	高台のみ全部残存	目跡有　C期（11C後～12C前）
12	30	土師器	製塩土器	S007	上層				3.6～		指頭圧痕、ナデ	指頭圧痕、ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	石英、長石：多、輝石、褐色粒：やや多	良	底部の一部	製塩土器の特徴を裏付けるべく、外側は被熱した色調である。古代
12	31	須恵器	風字硯	S007	上層			4.5～	3.9～	2.8～	弱い研磨	強い研磨による仕上げ	灰 N5/	灰 N5/	細～粗砂　白色砂、1～5㎜くらいの黒色礫（黒曜石？）安山岩？：多。器表にも目立つ。断：にぶい赤褐2.5YR4/3	良		墨の跡残る。9C代
13	38	須恵器	円面硯	S008	3層下	No.41		(18.3)	5.2		横方向ナデ、ヘラケズリ	磨研、横方向ナデ、板状工具による削り	黄灰 2.5Y5/1	黒褐 2.5Y3/1	1.5㎜以下の長石・雲母・赤色粒・黒色粉		1/3弱	8C後
13	39	須恵器	坏蓋	S008	3層 上層	No.17	(19.2)		4.7		口縁付近横方向ナデ回転か、ナデ・成形痕は残る	口縁付近横方向ナデ回転か、灰かぶり、ヘラケズリ、つまみ貼り付け横方向ナデ	黄灰 2.5Y5/1	褐灰 5YR4/1	粗砂の白色、半透明砂、黒色粒まじる。4㎜大の黄灰色レキが見える。 断：灰N5/	良	約1/4弱	つまみ径4.8cm、高1.3cm。　口縁ですわらせると上部が大きく傾く小さなゆがみあり。全体的にゆがみがあると考え上部を平坦になるよう図化している。　椀蓋とすべき？輪状つまみ。8C後半
13	40	須恵器	椀	S008	2～3層		(16.4)	(13.5)	5.5	5.0	口縁付近横方向ナデ、ナデ	口縁付近横方向ナデ，高台貼り付けのナデ、ヘラケズリ後ナデ、横ナデ、工具での調整	橙 7.5YR7/6	浅黄橙7.5YR8/6～褐灰5YR4/1	極砂層の白色、半透明砂、暗色砂、褐色粒まじる　断：浅黄橙7.5YR8/6～褐灰5YR4/1	良	約1/3	焼きのいい土師器と変わらない感じ。わずかにゆがみあり。7C後？～8C初？ 高台円：黄橙10YR8/6
13	41	須恵器	転用硯	S008	2層	No.56		15.1	2.2	つまみ 2.2	回転ナデ	回転ナデ、高台取付け後ヘラ切り、回転ヘラ切り	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	長石			8C後
13	42	須恵器	転用硯 （高台付椀）	S008	2～3層		13.6	3.7	9.5	3.0	極ソ砂の白色・半透明砂入る。細レキもわずかにあり　断：灰N6/	横方向ナデ、高台はり付けの横ナデ、ヘラ切り後ナデ	（内外）灰 N5/	（内外）灰 N5/	極ソ砂の白色・半透明砂入る。細レキもわずかにあり　断：灰N6/		約1/3強	全体的に器の仕上がりが悪い。　8c後半
13	43	須恵器	坏蓋	S008	4層	No.6	14.8～ 14.9		1.5		ナデ	つまみ貼り付け、横方向ナデ、ヘラケズリ、ヘラ記号	灰 N6/	灰N5/～ 青灰5B5/1	極ソ砂の白色、半透明砂多く入る 断：灰N6/	良	つまみのみ欠損	ゆがみが強い。外面に赤サビのようなものがついているが埋没後のものと思われる。8C後～9C前
13	44	須恵器	転用硯	S008	2層	No.56		10.0	(4.3)		研磨、回転ナデ	回転ナデ、高台はり付け後ナデ、ヘラ切り後ナデ	灰オリーブ	灰 5Y5/1	長石、石英	良		8C前半　荻生型椀
14	45	土師器	製塩土器	S008	3層	No.7	7.8		8.4		ヘラ状工具による調整。指頭圧痕。	指ナデ、粘土の継ぎ痕。指頭圧痕。粘土接合痕跡？	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	長石、石英、褐色粒、角閃石、砂粒	やや良	ほぼ完形	口縁一部に黒斑有
14	46	須恵器	横瓶	S008	2～3層、3層中下層・下層	No.55.39.48.49.54	12.4	胴部最大径（27.8）～（38.4）	32.0		回転ナデ、当て具痕（同心円状）	回転ナデ、ナデ、タタキ（格子状）	橙 5YR6/8	橙 7.5YR7/6	石英、長石	やや良		8C後？
14	47	瓦器	椀	S011	3a層		15.4		4.8～		ヘラケズリ	ヘラケズリ、ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	褐色粒目立つ。細砂くらいの白色粒、雲母	良	口縁で約1/9	

Tab.8　さつま荘跡土器･陶磁器類観察表(3)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法（cm）				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）				
14	48	黒色土器A類	杯	S019		清掃			3.4～		ヘラミガキ	口縁横方向ナデ	黒褐 2.5Y3/1	橙 7.5YR7/6	極砂層の白色砂、褐色粒、半透明砂すこし入る。	良	1/12以下か？	口径14cm前後か？
14	49	須恵器	蓋	S021	2層	No.28			2.7	つまみ 0.7	回転ナデ後不定方向ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ後不定方向ナデ、横ナデ	灰黄 2.5Y7/2	淡白 2.5Y8/2	長石,輝石、褐色粒	良	完形	8C後
14	50	須恵器	杯蓋	S021	3層上		(14.4)		2.3～		回転ナデ	ヘラケズリ後ナデ	灰 5Y6/1	灰 5Y5/1	長石、輝石	良	1/6	7C後
14	51	土師器	坩堝（手捏ね）	S021	1層				3.9～		指頭圧痕	指頭圧痕	灰 N4/	灰 N4/	石英	良		金属の様な泡状の5㎜大の物質付着。内外面被熱により発砲した様にただれている。 青銅痕か？緑色の物質が付着
14	52	須恵器	長頸壷？	S021	1層	No.16		(7.4)	3.8～		横ナデ	横ナデ、糸切り後ナデ	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	石英、長石、輝石	良	1/2	
14	53	土師器	杯蓋	S021	3層下床面	No.41	15.0	つまみ 5.2	3.1	つまみ 0.7	横ナデ後縦方向ナデ	横ナデ後ヘラケズリ、ヘラ調整	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	石英、角閃石、長石、金雲母	良	1/3	8C後
14	54	須恵器	盤	S021	2層	No.30	(17.6)	(11.6)	2.5	11.0	回転ナデ	ヘラケズリ後ナデ、ヘラ切り後ナデ	灰黄褐 10YR4/2	褐 7.5YR4/3	石英、長石、角閃石	良	1/4	8C後
14	55	土師器	盤	S021	3層下	No.68			1.9～		横ナデ	横ナデ	赤褐 2.5YR4/8	赤褐 2.5YR4/8	雲母、石英、角閃石	良	破片	内外面赤彩
14	56	須恵器	杯	S021	3層上	No.60	0.0	10.0	5.3	0.9	横ナデ、多方向ナデ、指頭圧痕	横ナデ、ヘラ調整	黄灰 2.5Y6/1	灰5Y6/1、灰白5Y7/1	角閃石、長石、石英	良	1/3	外面1/4剥離。7C後
14	57	須恵器	高台付杯	S021	3層上	No.61	(13.5)	(9.5)	4.1	0.8	横ナデ	横ナデ、ナデ、貼付高台	灰黄 2.5Y6/2	黄灰 2.5Y6/1	長石、角閃石、石英、輝石。砂粒	良	1/2弱	器面一部にスス付着。灯明皿として使用。7C後～8C前
14	58	須恵器	高台付杯	S021	3層下	No.82	(12.6)	(9.1)	4.0	0.6	横ナデ	横ナデ	灰 5Y4/1	灰5Y4/1	黒色粒	良	1/3	外面全体に自然釉付着8C後
14	59	土師器	杯	S021	3層下	No.50	(12,0)	(7.0)	3.3		横･縦･斜め方向ナデ、指頭圧痕	横ナデ	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	長石・石英・角閃石・輝石・褐色粒・小石	良	1/4	口縁部に煤付着
14	60	須恵器	盤	S021	3層下	No.72	17.4	16.0	3.2		横ナデ、多方向ナデ	横ナデ後斜め方向ナデ	灰 N4/	灰 N5/	長石、輝石	良	口縁部1/3欠損	全体に歪みあり、外面底部が黒く変色。8C後
14	61	須恵器	杯	S021		No.3	(12.4)	(9.0)	3.5		横ナデ、指頭圧痕	ヘラケズリ後ナデ、ヘラ切り後ナデ	灰褐 7.5YR5/2	N灰6、にぶい赤褐7.5R4/3	長石・黒色粒	良	1/2	荒尾産須恵器の可能性あり
14	62	土師器	甕	S021	3層下	No.79	(20.6)		10.9～		横ナデ、不定方向ケズリ	横ナデ、縦・斜め方向ハケ目	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	長石、石英、角閃石；多い。雲母、赤色粒ところどころ。	良	口縁～胴部の一部	
14	63	須恵器	椀	S021	3層上	No.39	18.7	13.6	6.6	1.0	回転ナデ後不定方向ナデ、回転横ナデ	回転横ナデ、回転ヘラケズリ、高台はり付け後横ナデ、ヘラ糸きり後ナデ	白灰 5Y7/1	白灰 5Y7/1	石英、長石、輝石、砂粒	良	完形	8C後
15	64	土師器	椀	pit64			(12.0)	7.4	5.8		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、切り離し技法不明後ナデ,高台はり付け	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	微細な石英、長石	良		10C前～中
15	65	輸入陶磁器	同安窯系青磁椀 II-2類(山本編年)	pit31、pit32			16.2	7.0	6.2～		回転ナデ後施釉(削り後施釉と無釉)	回転ナデ後施釉(削り後施釉)、回転ナデ後削り無釉、高台削り出し	(施釉部)オリーブ灰10Y6/2、(無釉部)黄灰2.5Y6/1、黒褐10YR3/1	(施釉部)オリーブ灰10Y6/2、(無釉部)黄灰2.5Y6/1、黒褐10YR3/1	黒色粒を多く、カオリン質の陶石土。	良	底部と口縁部欠、残存度は約2/3	同安窯系青磁椀　II類-2 D期(12C中～12C後)　蛇の目釉剥ぎ
15	66	古代土師器	杯	E-32	2B下層	No.66	(11.8)	6.3	3.2～3.5		回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	にぶい黄橙10YR7/4、オリーブ黒7.5Y3/1	にぶい黄橙10YR7/4、橙5YR6/6	輝石・長石・金ウンモ(少)	良	3/5	9C中？内面広範囲に一次焼成時の黒斑残る。外面の褐色は酸化鉄の影響と考えられる。
15	67	須恵器	稜椀	E-31	2層		(16.6)		4.2～		回転ナデ後棒状工具による斜め方向のナデ	回転ナデ後突帯貼り付け	黄灰2.5Y4/1に近い色が主体	灰N4/に近い色が主体	石英、褐色粒多く、輝石まばらに入る。しかし、一部熱により変化	良	口縁約1/6	8C後

Tab.9　さつま荘跡土器･陶磁器類観察表(4)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法（cm）				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）				
15	68	土師器	杯	F-31	2B下～3上層	清掃			2.0		横ナデ	横ナデ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	長石を多く	良	破片（口縁～底部1/2残）	
15	69	縄文土器	深鉢	E-31	2 B 下層				5.9～		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	石英多、長石、角閃石（少）	良	口縁部	古閑式か？
15	70	土師器（墨書土器）	甕	E-32					5.1～		横ナデ、ケズリ	横ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	石英、輝石、小石	良	破片	墨書土器
15	76	須恵器	突手付甕	E-32	2B下相当層	№56	（16.1）		（15.8）		ナデ、指頭圧痕	格子目状のタタキ・ナデ、沈潜後突手はり付け	灰 N4	灰 7.5Y5/1	長石	良		8C後か？在地産土師器の器形と似る。
16	77	須恵器	甕	F-32		№53	（42.2）		7.0～		ナデ	口縁部横方向ナデ、成形時横方向ナデ	褐灰 5YR5/1	赤灰10YR5/1、（口端部～口縁外面の一部）灰白N7/	0.5～1.0㎜の黒色粒目立つ。白色砂、黄灰色砂、黒曜石？半透明砂まじる 断面：明青灰5B7/1	良	口縁部1/8～1/9	ゆがみがあり口径も大きいことから誤差も大きいと思われる。
16	78	縄文土器	深鉢	F-32	3層上層			（14.4）	3.7～		ナデ	ナデ（下敷の凹凸一部残る）、工具による調整後ナデ（一部工具痕残る）	にぶい黄 2.5Y6/3	橙 7.5YR6/6	角閃石：多　石英・長石（少）	良	底部約1/3	付近で出土する縄文土器の口縁は御領式、天城式、古閑式が多い。（縄文後期後半～晩期）
17	91	須恵器	甕	G-32	2B層	№36			5.4～		横方向ナデ	横方向ナデ	黄灰 2.5Y5/1～6/1	灰N5/～6/、灰N4/～5/	粗砂の白色砂、光る灰色砂、光る物質まじる。白い筋のような物質が層状になっている部分あり。 断：青灰10BG6/1	良	破片	
17	92	東播系須恵器	提鉢	G-32	2B層		（22.0）		4.1～		口縁横方向ナデ、ナデ	口縁横方向ナデ、横方向ナデ、ナデ	灰白 N7/～6/	灰白N7/～6/、（口縁外面）灰N4/～3/	細砂の白色粒目立つ、灰色で光る物質、光らない物質まじる。 断：灰白N7/～6/	良	破片	若干ゆがみがあり
17	93	白磁Ⅸ-1b（ロハゲ）	皿	G-3	2b下・3a上層		12？		2.0～		回転ナデ後ミガキ施釉、回転ナデ後削り施釉、回転ナデ後ミガキ無釉	回転ナデ後ヘラ削りミガキ施釉、回転ナデ後ミガキ施釉	明緑灰 7.5GY7/1	明緑灰 7.5GY7/1	微細な黒色粒を多くカオリンを主体とした胎土。灰白色で非常に良質。 胎土：灰白2.5Y8/2	良	口縁～底部約1/13	F期（13C中～14C初）
17	94	縄文土器	浅鉢	H-33	3層下		（46.6）		3.1～		ナデ、横ナデ後縦ミガキ、横ナデ	ナデ、突帯、不定方向ヘラミガキ、横ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	石英、角閃石、砂粒	良	破片	天城式。縄文後期末～晩期初頭。黒色磨研系土器型式。
17	95	青白磁	香炉の台	H-32	2B層		4.0～		2.4～		回転ナデ磨き後施釉	回転ナデ磨き後線彫り施釉	明緑灰10G7/1、明青灰5BG7/1	明緑灰10G7/1、明青灰5BG7/1	黒色粒を含んだカオリンの陶石土	良	台の口縁（口縁部の約1/7）、約9cm（？）景徳鎮	元か？～（それ以降か） 露胎部：灰白10YR8/1スカシ有
17	96	須恵器	椀	G-31			（12.2）	（7.9）	4.9	（0.6）	口縁部横方向ナデ、成形時ナデ、後一方向にナデ	回転ヘラ削り、高台貼り付け後横方向ナデ、口縁部横方向ナデ、成形時ナデ	青灰 5B6/1～5/1	青灰 5B6/1～5/1	粗砂の黒色粒まじる。白色砂若干まじる。目に見える砂は少ない。 断：青灰5B6/1～5/1	良	約1/8	全体的に欠けが多く、図は借用している部分がある。7C後半
17	97	土師器	小皿	G-33 Pit19			7.6	6.3	1.3		ナデ後タテナデ	横ナデ後ヘラ調整、糸切りのちナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄橙 10YR7/4	黒色粒	良	ほぼ完形	内面にスス付着
17	98	土師器	小型杯	G-32	2層下	№29	11.5	7.7	2.6		回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り後板目	褐灰10YR4/1、にぶい黄橙10YR7/3～7/4、黒1.5N/	にぶい黄橙10YR7/3～7/4、褐灰10YR4/1、黒N1.5/	輝石、角閃石、長石	良	95%	内外面に煤付着。灯明皿として使用した痕跡あり。板目があることから10C末～11C前か？

Tab.10　さつま荘跡古銭観察表

図版番号	遺物番号	種別	出土地点	層位	取り上げ番号	径（㎜）	重量（g）	備考
11	1	銭	S001			24.0	3.27	礎石上出土。「文久通宝」と読める
12	32	銭	S007			26.0	3.52	文字不明

Tab.11　さつま荘跡石製品観察表

図版番号	遺物番号	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法（cm）				重さ（g）	石材・石質	残存状況	備考
						長さ	幅	穿孔径	厚さ				
13	33	碁石	S008	4B上層		1.3	1.1		0.5	1.10	角閃岩		
15	74	碁石	Pit58	下層		1.8	1.6		0.6	2.76	蛇紋岩	完形	中世
15	75	碁石（黒）	Pit68			1.6	1.5		0.6		角閃岩(蛇紋岩になりかけ)		形状はややいびつだが、付近から多く出土しているため碁石と判断した。
16	80	砥石	F-32	2B層下相当	No.49	6.6～	4.0		3.0	107.0	流紋岩（リソイダイト）		垂下するものか？腰佩？0.8㎝のきれいな穿孔あり、使用面5面。垂下する穿孔あり。複数の溝あり
16	81	紡錘車	F-32	2～3層		（6.0）		（1.2）	1.5	15.10	輝石安山岩（風化）	破片	磨り痕等は石材が風化しているため不明
16	82	碁石	G-32	2層	No.46	1.4	1.3		0.6	1.67	結晶質石灰岩		
16	83	碁石	G-32	2層		1.9	2.1		0.9	4.40	蛇紋岩	完形	
16	84	碁石	G-32	2層		1.3	1.5		0.7	1.70	蛇紋岩	完形	
16	85	碁石（白）	F-32	撹乱		1.6	2.1		0.8		結晶質石灰岩（木葉山産）		やや楕円だが付近から多く出土しているため碁石と判断した。
16	86	碁石	G-32	2層		1.2	1.5		0.7	2.50	安山岩	完形	
16	87	滑石石製品	F-33	2B層		2.9～	2.1	0.3	1.1	13.10	滑石	破片	穿孔は両面から　温石か？
16	88	砥石	F-32	2B下～3A上		4.8～	2.4		1.5	21.60	砂岩（細粒）		携帯して使用する為穿穴しようとしたが硬くてできなかったのだろう。磨り面4面。特に二面顕著。

Tab.12　さつま荘跡土製品観察表

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法（cm）				重さ（g）	調整	色調	胎土	残存状況	備考
							長さ	幅	穿孔径	厚さ						
12	20		鞴の羽口	S006	2a上層		4.6～	5.5～		3.0～			橙5YR7/8、褐灰10YR6/1～5/1	2～7㎜レキ、赤褐・白・褐色・灰・黒色のものまじる。極細・細砂も同様に多くまじる		暗色の部分もあるが、後不明。やや右の孔が広くないことから右が鞴か？
15	73		水注の突手？	Pit5	底部		4.1～	1.5		0.8	8.3		（内）にぶい黄2.5Y6/3 （外側）暗オリーブ褐2.5Y3/3		破片	突手の表に2条の黒い溝、溝に釉が溜まっている？全体に釉の跡、表面は汚れている。貿易陶磁　中国産。13C代？
15	71		土錘	E-31	2層相当		7.1	1.2		2.1	11.7		にぶい黄橙10YR7/4	石英、長石、黒色粒長石、輝石、褐色粒	ほぼ完形	孔径0.6㎝、焼成：良
15	72		土錘	E-31	2B層下	一括	（4.2）	1.8		1.8	28.2		灰黄褐10YR6/2	石英、長石：多い　角閃石、輝石、赤褐色粒：まばら	一部欠損	孔径0.6㎝、焼成良、部分的に黒く焼けている
16	79	土師器	紡錘車（高台付杯転用）	2層			6.0～8.1	1.3～	0.7	1.3	70.5	多方向ナデ、指頭圧痕	灰黄2.5Y7/2	石英・長石・黒色粒・褐色粒		黒斑あり
16	90		鋳型（鈴用）	F-32	3上		3.4	2.8～		0.7			（内）灰5Y6/1 （外）灰白5Y7/1	長石を多く含む。	3/4	全面被熱
17	105		土玉	H-31	2層		1.8	1.8		1.6	5.0		黄灰2.5Y5/1、（部分的）にぶい黄橙10YR7/3	角閃石	完形	用途不明

Tab.13　さつま荘跡金属製品観察表

図版番号	遺物番号	種別	出土地点	層位	取り上げ番号	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
11	2	鉛、鉄砲玉	S003		No.82	1.7	1.7	1.7	13.21	中世か。一部潰れる（命中痕）。中央の2㎜程のへこみは接合時についたもの？
11	3	鉄鑿	S006	5A下	No.A-26	11.3～	0.9	0.15～0.3	11.14	柄の木質部残存
11	4	鉄釘	S005	5層		5.5～	0.3	0.15～0.3	2.84	上下端部欠損
11	5	鎌	S005		No.4	7.3	19.5～	～0.2	83.59	先端部と柄の返しが一部欠損。 木柄にとりつける部分の捻りかえしがある。左が基部
11	6	刀子	S005		No.5	19.25～	1.9	～0.3	30.15	基部欠損
13	34	鉄鑿？（鉄鏃？）	S007		No.1	8.4～	0.9～	0.3	13.76	
13	35	鉄製紡錘車	S007		No.6	4.3	4.2	0.2	12.89	中世。穿孔はサビで塞がっている。
13	36	不明（鉄）	S008	4B層（2回目の流れ）	No.88	3.3	0.3	0.3	1.98	上下端部欠損
13	37	刀子の刃部？	S009	2層	No.5	7.2～	1.0～	0.3	7.06	先端・基部欠損。 さびぶくれが取れたので接合し、そのままだと浮くので含浸をする。
16	89	鉄製釣針	F-31	2B下相当	No.25	7.9	3.2	0.6	14.04	先端に穴があいているかもしれない。釣針の尖っている部分がない。
17	101	鉄鑿	G-31	3上層		6.1～	1.1	0.4	15.22	
17	102	鉄鏃	G-32	3層上		4.5～	1.1	～0.2	5.39	先端・基部欠損。槍鉋か鉄鏃か？
17	103	鉄鎌の基部	G-32	2層	7871 No.10				31.41	先端部欠損
17	104	鉄鑿？（鉄鏃？）	G-33	2B層下		6.0～	1.0～	0.3	9.58	
17	106	青銅、銅■具	G-32	2B下～3上		3.1～	2.2～	0.1	2.85	金箔が塗ってあったかもしれない。穿孔3ヶ所、1ヶ所には鋲も残る。変形歪みあり。古代。ベルト穴止め具が磨れたと考えられる跡あり。

Tab.14　さつま荘跡瓦観察表

図版番号	遺物番号	実測番号	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法（cm）			重さ（g）	調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							長さ	幅	厚さ		表面	裏面	表面	裏面				
12	21	8	軒平瓦	S006 A-24	5層下		6.0～	18.0～	6.0～	―	布目	ナデ	（凹面）灰黄2.5Y7/2	（凸面）灰白2.5Y7/1	長石、黒色粒、角閃石	良	瓦当	凹面布目・凸面ナデ、軒平瓦4A類3期（金田編年）。 9C後
12	22	6	平瓦	S006	6層下	No.A-27		12.4～	11.5～	―	木の葉状文様、指頭圧痕	布目タタキ痕	（凹面）灰N5/	（凸面）灰5N/	石英、長石、小石、砂粒	良	1/3？	葉脈状圧痕
17	99	19	軒丸瓦	G-32	2層中	No.24		（19cm）	3.4	―		ナデ、指頭圧痕	（凹面）灰5Y4/1	（凸面）黄褐2.5Y6/3	長石、輝石。緻密な胎土	良	瓦当	軒丸瓦2類1期（金田編年）。8C中～後
17	100	84	軒丸瓦	G-31	2層上		5.1～	7.7～	3.4～	―	ナデ、指調整、斜め方向ナデ、ナデ後縦方向ハケ目調整、横ナデ	蓮華文、芯状が見られる	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	石英、長石、黒褐色粒	良	破片（軒先）	被熱。単弁蓮華文。金田編年では軒丸瓦6類か8類で9C以降となる。

3．小結

【出土遺物】

調査１区～４区の遺物の総出土量は、網コンテナ（46×62×19㎝）で28箱出土した。

８世紀後半から９世紀の遺物がほとんどであるが、縄文土器、７世紀後半から８世紀前半の遺物、10～12世紀前半の遺物や中世の遺物も多く出土している。

８世紀後半から９世紀の中で特筆すべき出土遺物として、硯（２点）、青銅製■具（１点）、墨書土器（１点）、須恵器の稜椀（１点）、軒丸瓦（２点）とほぼ完全な形の製塩土器が１点出土している。硯は須恵器椀蓋の転用硯（№41：８世紀後半）と風字硯（№31：９世紀）であり、風字硯は鏡のように研磨が顕著である。青銅製■具（№106：８～９世紀）は、欠損部が多いが、穿孔が2箇所確認できる。墨書土器は、甕（№70：９世紀）に「大」という文字が確認できる。墨が濃いため、廃絶の際に書かれたものであろうか。稜椀（№44：８世紀後半）は口縁部であるが、非常に珍しい。金属製品を模したものであろう。軒丸瓦は２点（№99、№100）あり、99は金田編年で１期（８世紀中～後）軒丸瓦２類である。100は９世紀以降と考えられる。製塩土器は器壁が厚く、器形も７世紀の物とは異なり丸底のコップ状の形態をしている。水の容量は、122mlあり、塩を詰め込んだ時の重さは約158gであった。

７世紀後半から８世紀前半の遺物では、硯（２点）、関西系土器（１点）が１点出土している。硯は須恵器萩生型椀の転用硯（№44：８世紀後半）と円面硯（№38：８世紀前半）である。

10～12世紀前半の遺物では、S005の土坑墓一括遺物（土師器の椀３点と黒色土器A類１点：10世紀後半）、磨研土師器椀（１点：№29：11C後）、初期高麗青磁（１点：№29 C期：11世紀後半～12世紀前半）の高台が出土しており、山本編年では椀Ⅲ類にあたる。

中世期の遺物としては貿易陶磁器があり、同安窯系青磁椀（Ⅱ類－２：D期12C中～12C後）と白磁Ⅲ（ⅠＸ類－１ｂ：F期13C中～14C初）が出土している。

その他の遺物では、鈴の鋳型（№90）、鉄製釣針（№89）、碁石（№82～86）が出土している。２Ｂ層を中心とした層位からの出土であることを考慮すると、凡そ中世期と考えられる。

【遺構】

◆時期変遷（Fig.18参照）

出土遺物から遺構時期を決定する方法がとられるが、遺構が存在した時期そのものを示す遺物はほとんどなく、その多くが遺構廃絶後に入り込んだ遺物である。しかし、廃絶後の限りなく近い時期推定は可能と考える。ここでも同様な考えで時期推定をしてみたい。

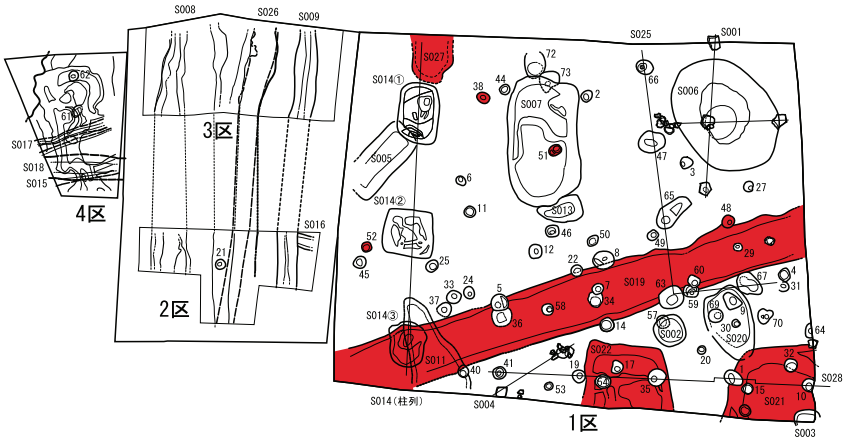
出土遺物から推定される遺構の時期について、S021（竪穴住居）の出土遺物は８世紀前～後とかなり時期差はあるが、一番新しい遺物をとって８世紀後半、S008（溝）も８世紀後半の遺物が多いが、断面観察により８～12Cと推定した。S022（竪穴住居）は出土遺物が少なく時期の決め手に欠けるが、竪穴住居が９世紀中葉で消滅する例が多い(1)ことから９世紀中葉頃までを下限とした。出土遺物が無い遺構やピットは埋土から、１層は中世末～近世以降、２A層は主に中世、２Ｂ層は古代末～中世、３層は古代と推定した。

これらの条件を基に遺構の時期変遷を示したのが、Fig.18である。

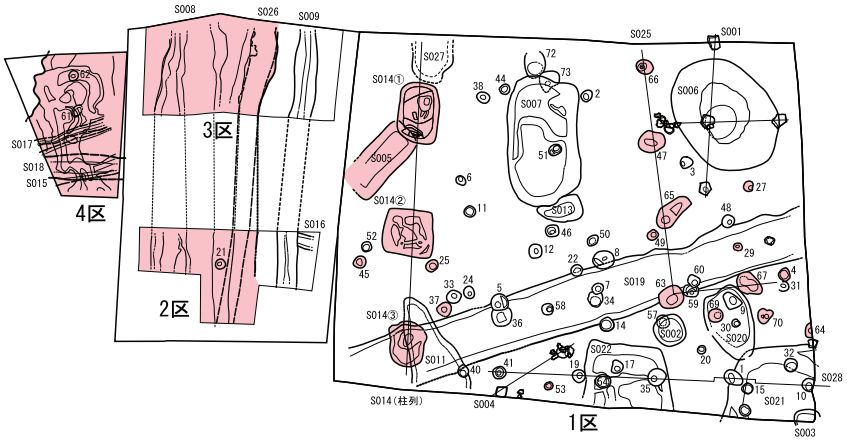
◆遺物集中区（１区西側：F,G-31,32,33）について（Fig.8参照）

１区西側：F,G-31,32,33の２層A～３層上（２A,Ｂ層が中心）で遺物が集中して確認された。遺構確認のために掘り下げている最中であり、明確に遺構の輪郭がわからなかったが、南北に続く溝であった可能性が高い。この遺物集中区の最深部がS011と考えられる。調査者の力量不足で上層での確認が判断できなかった。中世～古代の遺物や獣骨（ウシ、ウマ、ニホンジカ）や人骨が出土しているが、獣骨や人骨については

古代（～９世紀）

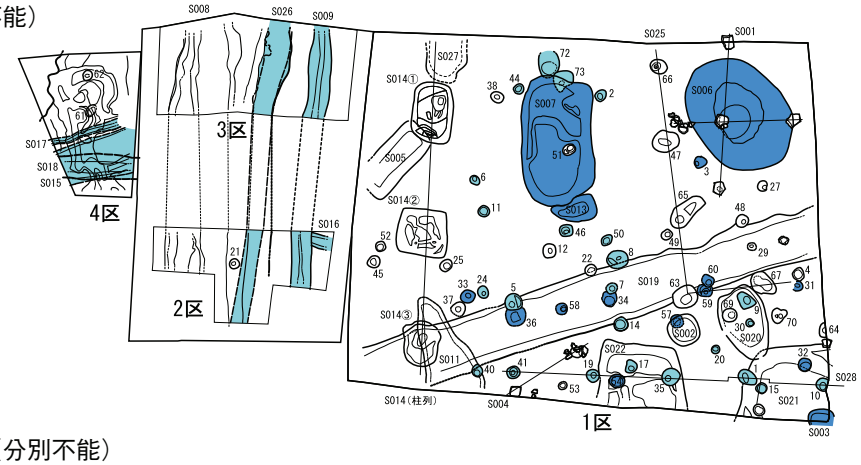


古代（～12世紀）



中世（12～13世紀）

中世（分別不能）



古代・中世（分別不能）

近世以降（１層）

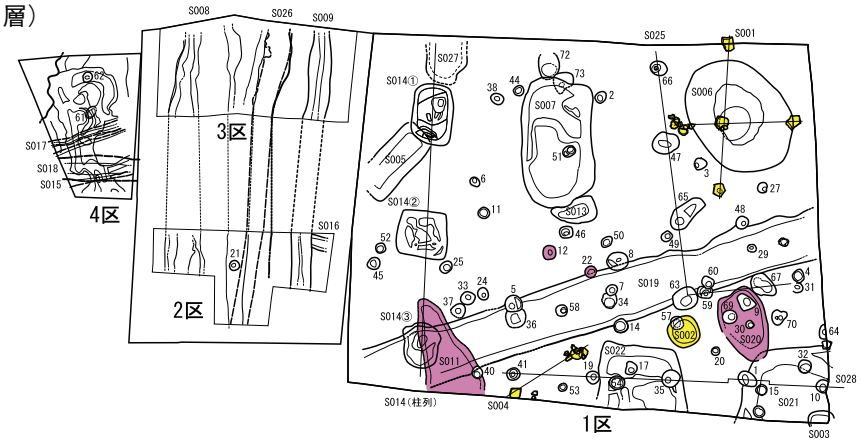


Fig.18　遺構変遷図

第 4 章を参照願いたい。

◆S019（溝）

S019（溝）は、東西軸にのって続く溝である。遺構確認面も 3 層下層であり、この調査区では一番下層で確認された。出土遺物が少ないが黒色土器Ａ類（№48）の椀が出土していることを考えると 9 世紀代（後半）だろう。東西軸にのっていることと一番下層で確認されたことを考えれば、8 世紀代と考えられるが、出土遺物からは 9 世紀代としか言えない。

◆S001（礎石建物）

表土剥ぎの際に最初に確認した遺構が、この礎石建物である。S006（井戸：12世紀後半）の上にあり、中央の礎石の上に「文久永宝」があったことから幕末（1863年）以降の建物であろう。西側の礎石は小さい礫が 8 個で構成されており、そのうちの 1 個は凹石であった。南側の石には礎石痕跡と考えられる径15㎝ほどの跡形が残存していた。5 個の礎石が配置されているがややいびつであり、礎石が動いていたり、なくなっている可能性もあり、当時の建物の復元は困難である。調査区外に伸びていると考えられる。

◆溝群（S008,9,15,16,17,18,26）

8 世紀後半と推定されるS008を切る形でS009,15,16,17,18,26の溝群が存在する。２Ｂ層の埋土であることから概ね中世と考えられるが、一部古代にも入る可能性があるため、古代末～中世期の溝と判断した。

【註】

（1）網田龍生　1997「肥後における竪穴住居の終焉」『肥後考古第10号』肥後考古学会より

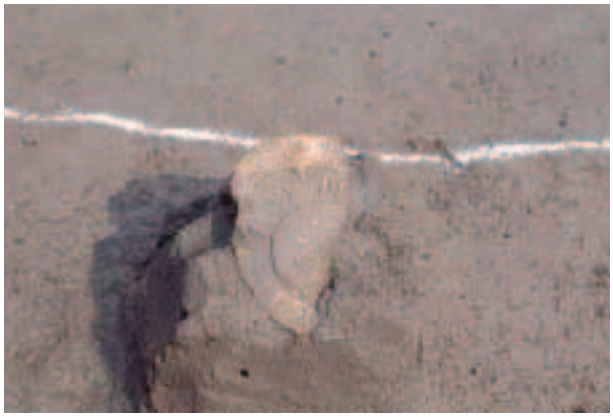
４．写真図版

PL.1　さつま荘跡地 空撮

PL.2　矢板前の敷石検出状況1（南東から）

PL.3　矢板前の敷石検出状況2（南西から）

PL.4　1区2層上遺物検出状況（南東から）



PL.5　1区2層上軒丸瓦出土状況（北から）

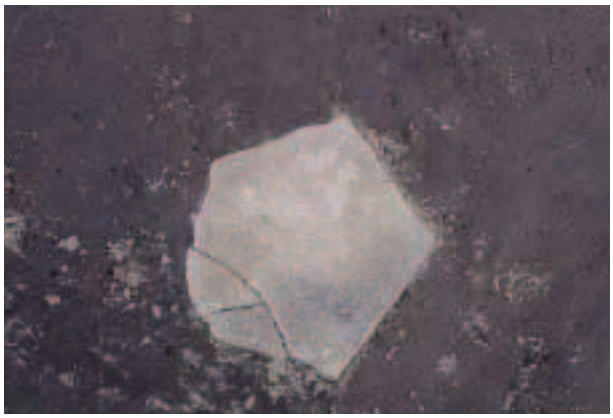
PL.6　1区2B中層鉄製釣針出土状況1

PL.7　1区2B中層鉄製釣針出土状況2（北から）

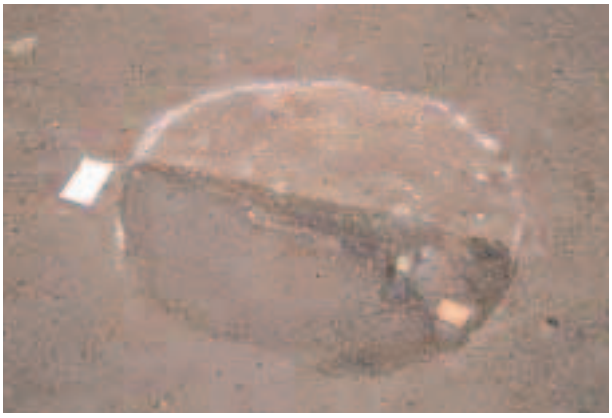
PL.8　S001礎石検出状況1

PL.9　S001礎石検出状況2

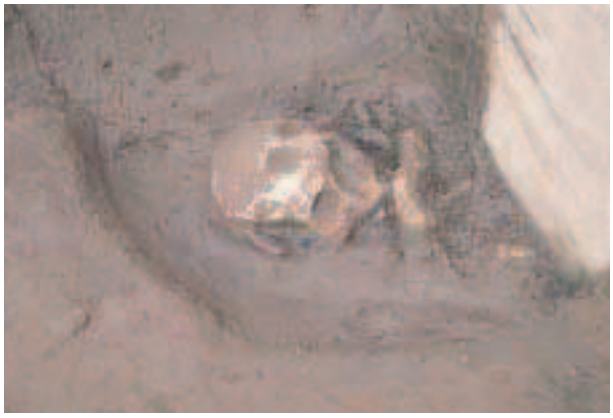
PL.10　S001礎石検出状況3



PL.11　S001礎石検出状況4



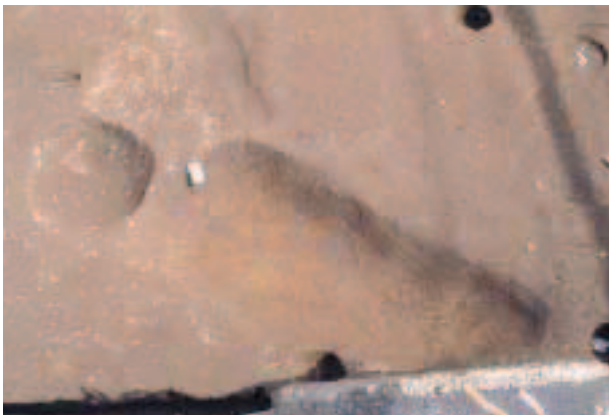
PL.12　S002土層断面（北から）



PL.13　S003人骨検出状況1（北西から）

PL.14　S003人骨検出状況2（北から）

PL.15　S005人骨検出状況（北西から）



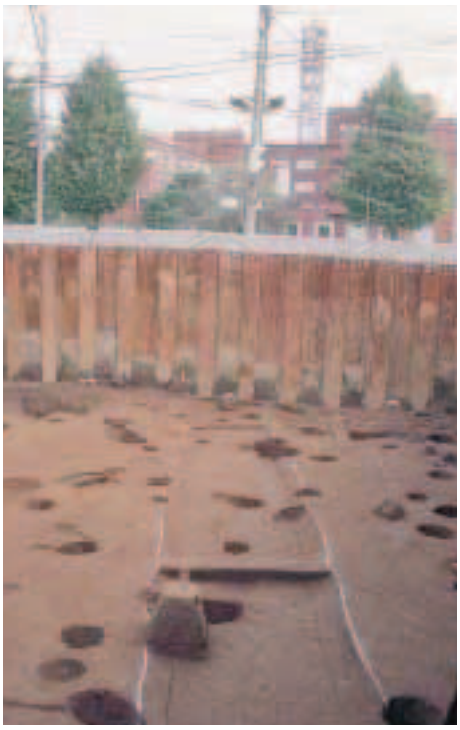
PL.16　S005完掘状況

PL.17　S007・S013完掘状況（北東から）

PL.18　S006土層断面（南東から）

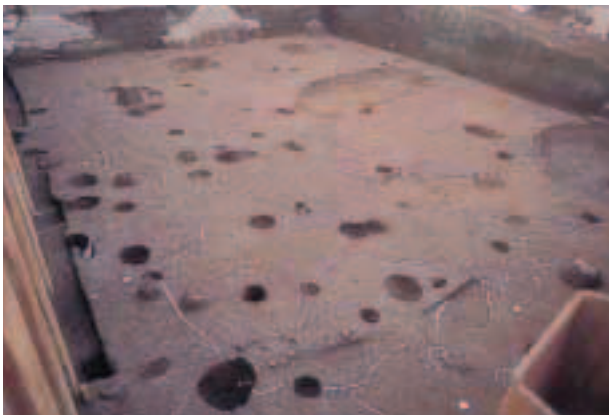
PL.19　S006完掘状況（南西から）

PL.20　S007土層断面



PL.22　S019堀削状況（西から）

PL.21　S014②土層断面（西から）



PL.23　S019検出状況（東から）

PL.24　S021検出状況（北西から）

PL.25　S021 3層下遺物出土状況（北西から）

PL.26　S021焼土検出状況（北から）

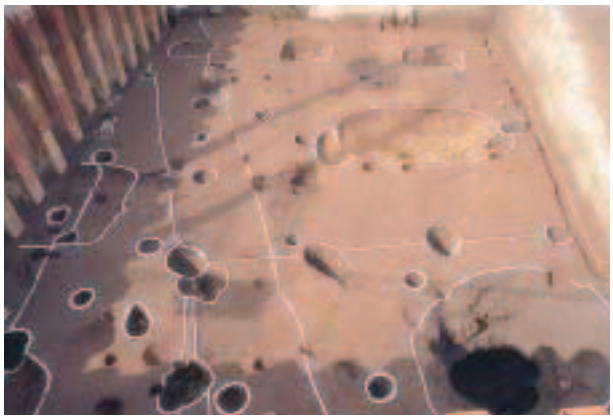
PL.27　S021土層断面

PL.28　S021完掘状況（南東から）

PL.29　S014③完掘状況1区（南東から）

PL.30　ピット64遺物出土状況

PL.31　1区完掘状況1



PL.32　1区完掘状況2

PL.33　1区北壁土層断面

PL.34　S008遺物出土状況1（3区南西から）

PL.35　S008遺物出土状況2（北東から）

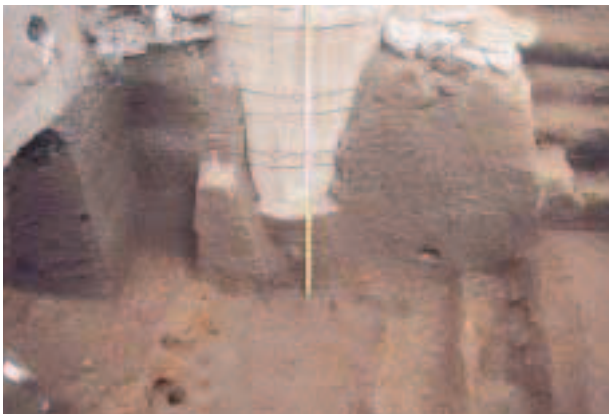
PL.36　S008・026遺物出土状況（南から）

PL.37　2区S008牛の下顎出土状況1（2区東から）

PL.38　2区S008牛の下顎出土状況2（南から）

PL.39　S008・009・026土層断面1（2区西から）

PL.40　2区S008土層断面（南から）



PL.41　S008・009・026土層断面2（南から）

PL.42　S008・009・026土層断面3（2区南から）

PL.43　S008・009・026土層断面4（4区西から）

PL.44　S008・009・026完掘状況1（3区北から）

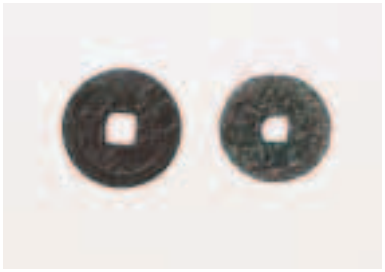
PL.45　S008・009・026完掘状況2（3区東から）

PL.46　S008・009・026完掘状況3（3区北から）

PL.47　3区完掘状況（北から）

PL.48　S015完掘状況（西から）

※（写）は写真撮影のみ


S001・S007

S003・G−33

S005

S005

S005

S005・S008

S005

S005

S006

S006

S006

S006

S006

S006・S007

S006

S006

S006

S001礎石（写）

PL.50

S006

S006

S006（写）

S006（写）

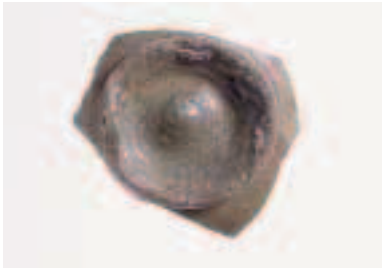
S006（写）

S006（写）

S006（写）

S006（写）

S007


S007

S007

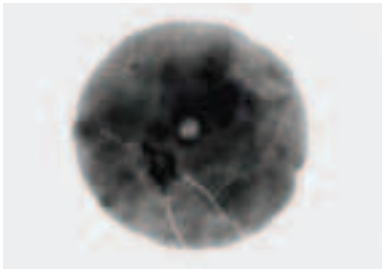
S007

S007

S007

S007

S007


S007X線写真

S001礎石（写）

PL.51

S008

S008

S008

S008

S008

S008

S008

S008・ピット58・ピット68

S008（写）

S008（写）

S008

S008

S008（写）

S008（写）

S008（写）

S008（写）

S008（写）

S008（写）

PL.52

S008（写）

S008（写）

S009（写）

S011・S019

S015（写）

S019（写）

S021

S021

S021

S021

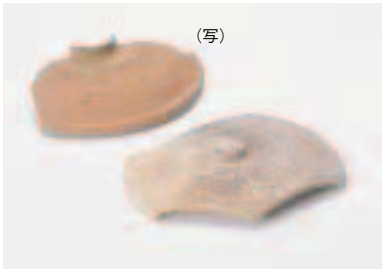
（写）
S021

S021

S021

S021

S021


（写）
S021

S021（写）

S021（写）

PL.53

S021（写）

S025（写）

ピット64

ピット31・32

ピット5

E－1

E－1

E－31（写）

E－31・S006・ピット55（写）

E－1

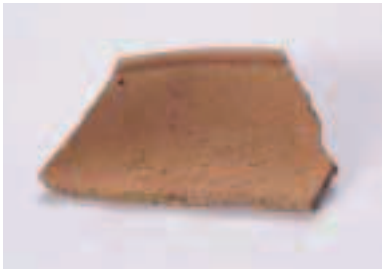
E－31（写）

E－31（写）

E－32

E－32

E－32・F－32


F－31

F－31（写）

F－32

PL.54

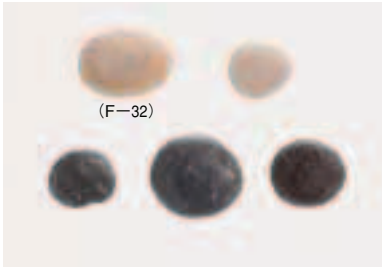
F－32

F－31（写）

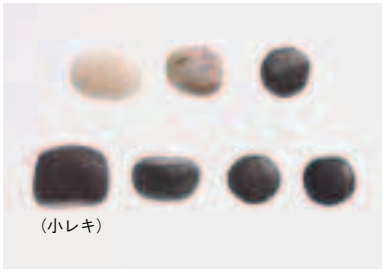
F－32（写）

F－32

F－32



F－32・G－32（4点）



G－33・F－32・H－33・2層（写）

F－33

G－31

G－31

G－31（写）

G－32

G－32

S008被熱レキ（写）

S008被熱レキ（写）

G－32

F－31・G－31

F－31X線写真

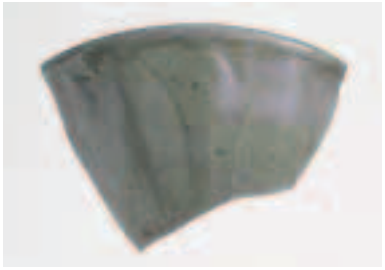
PL.55

G—32

G—32

G—32

G—32



G—32（写）

G—32（写）

G—32（写）

G—32（写）

G—33

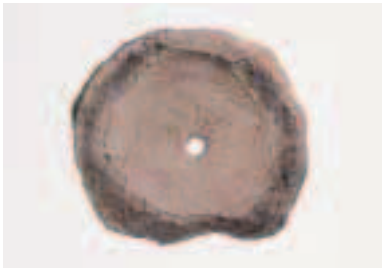
H—31

H—31（写）

H—32

H—32（写）

H—33（写）



2層

F—32

2層（写）

2層（写）

第４節　市電敷地の調査

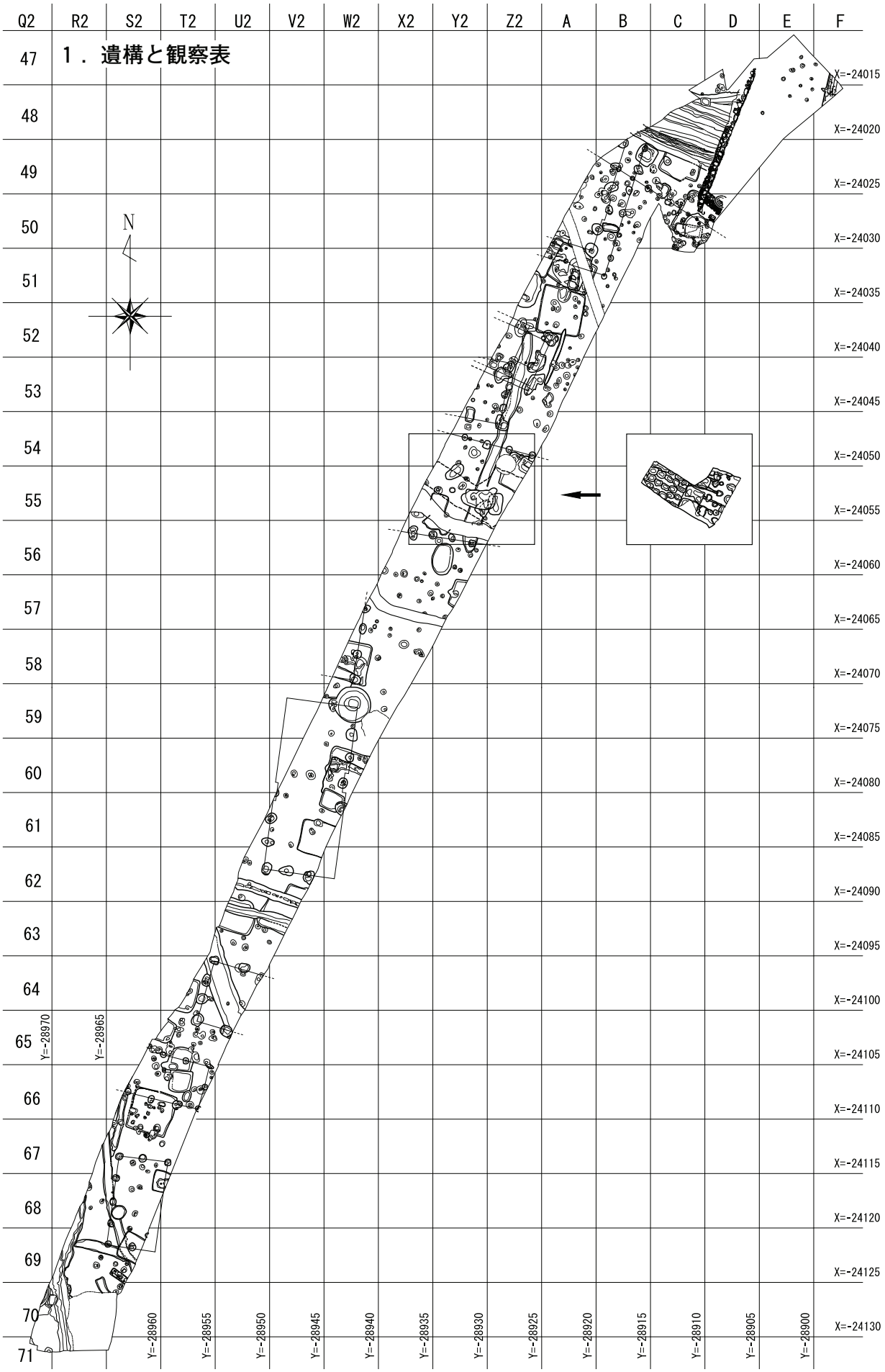


Fig.1　市電敷地調査区全体図（S=1/500）

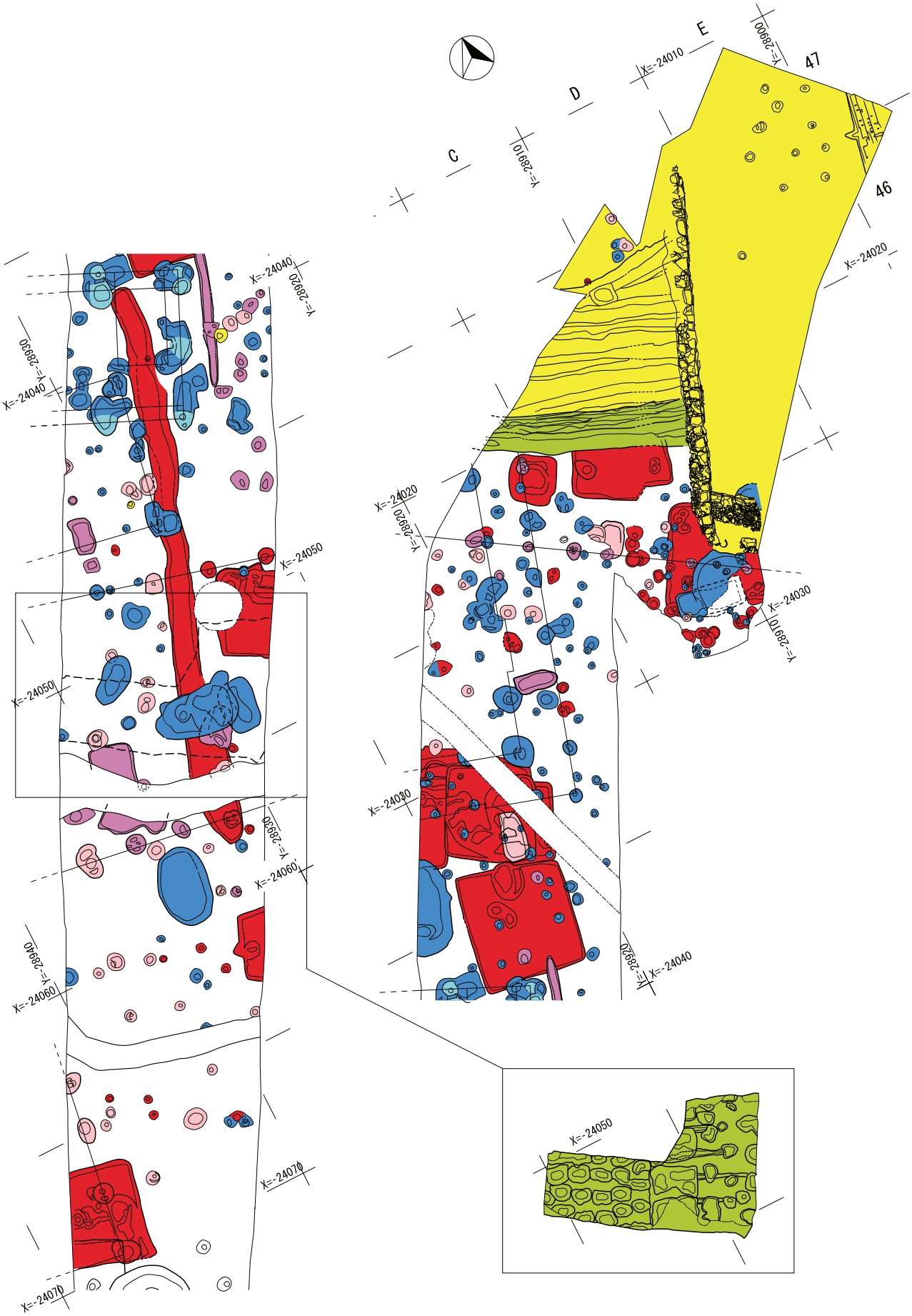


Fig.2　市電敷地時期別遺構配置図(1)（S=1/200）

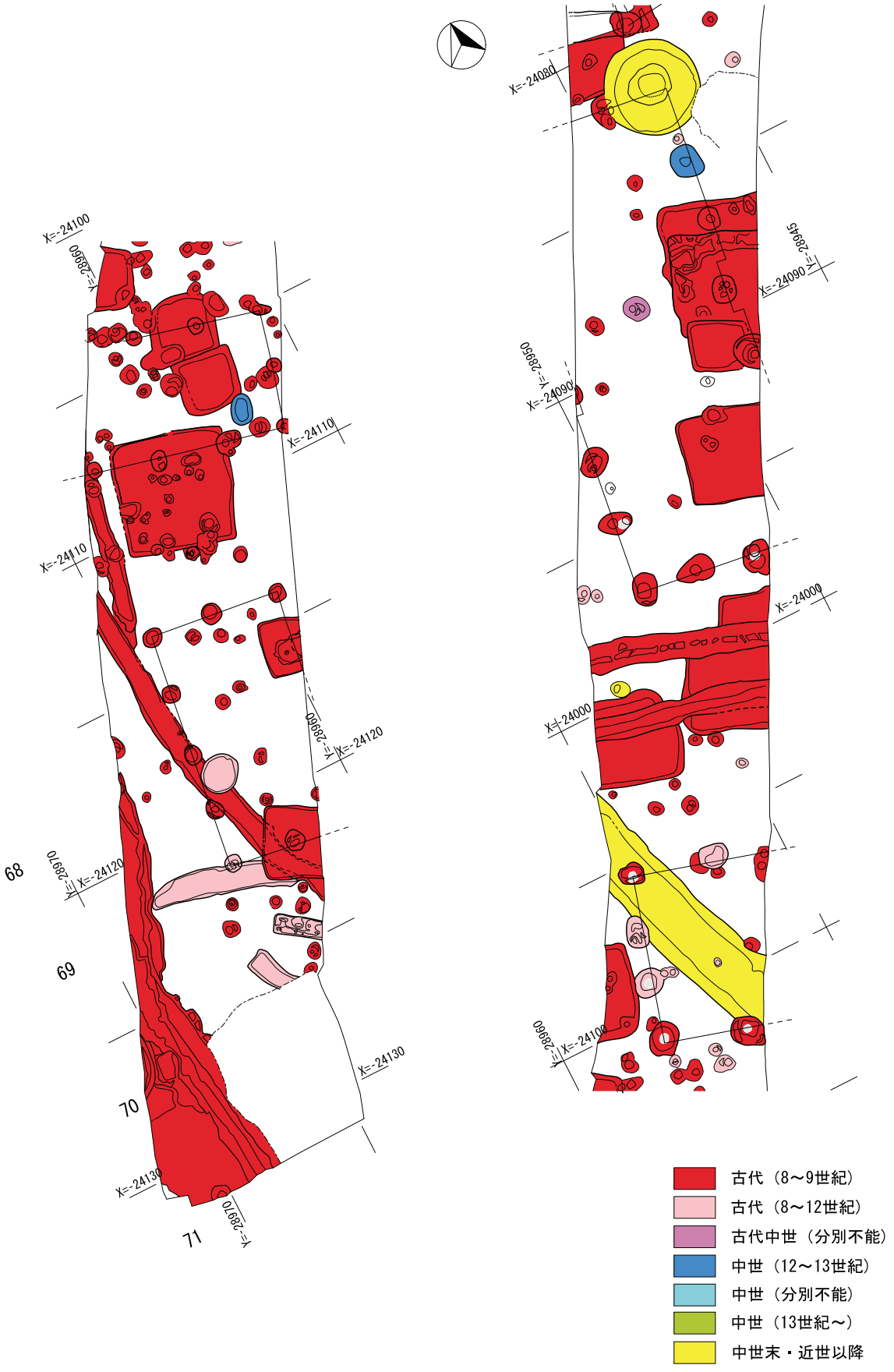


Fig.3　市電敷地時期別遺構配置図(2)（S=1/200）

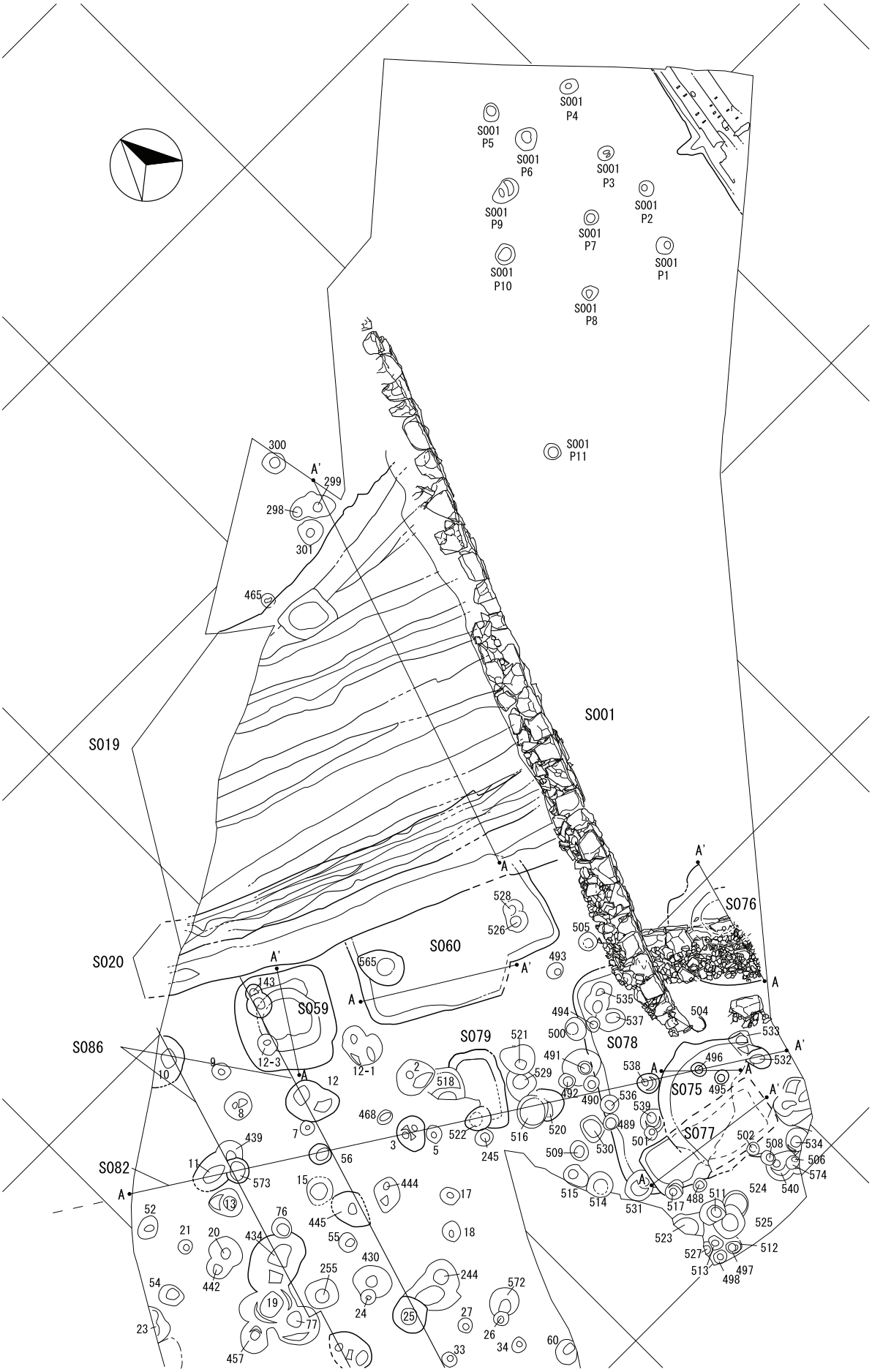


Fig.4　遺構配置図【1】（S=1/100）

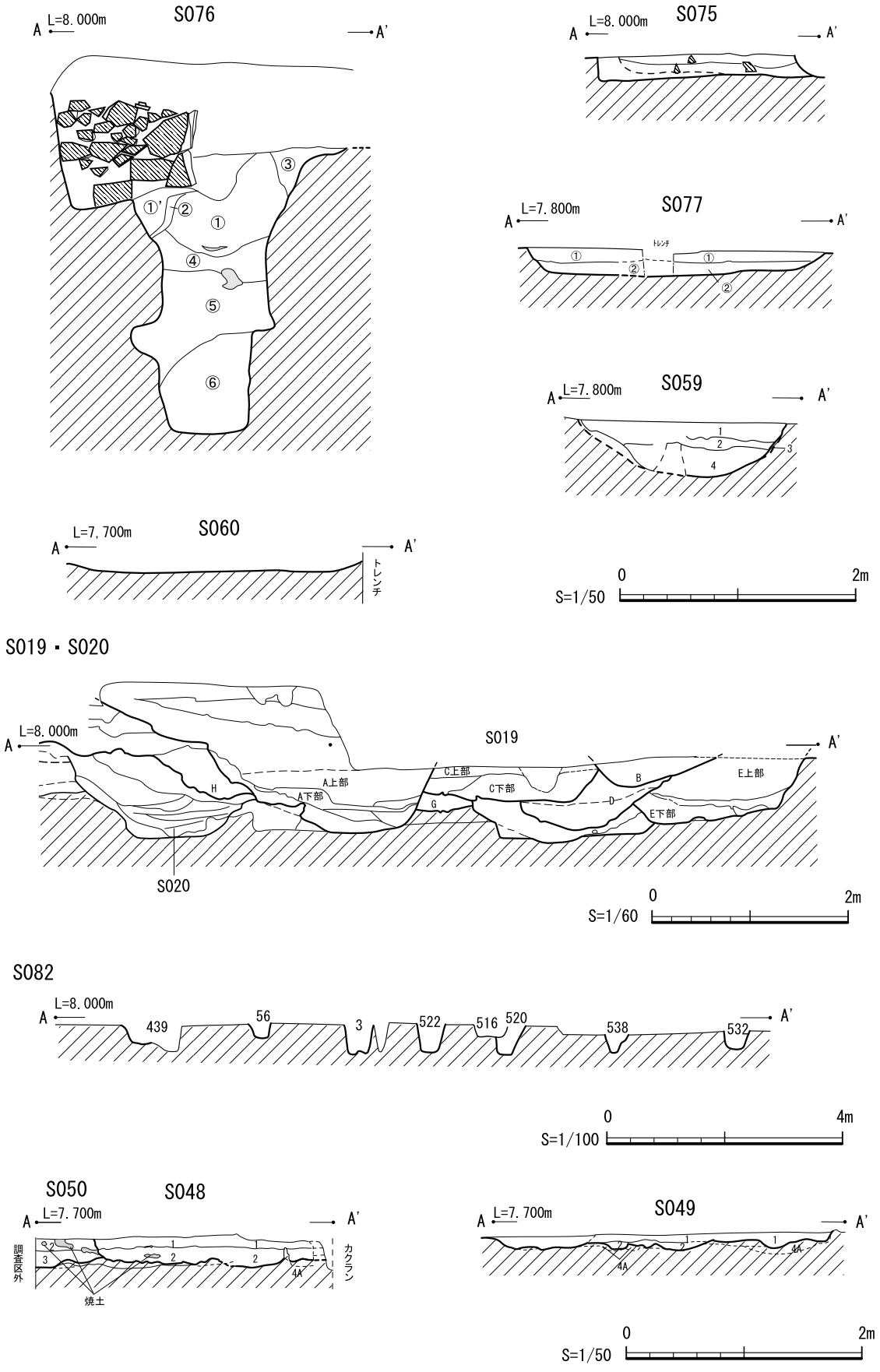
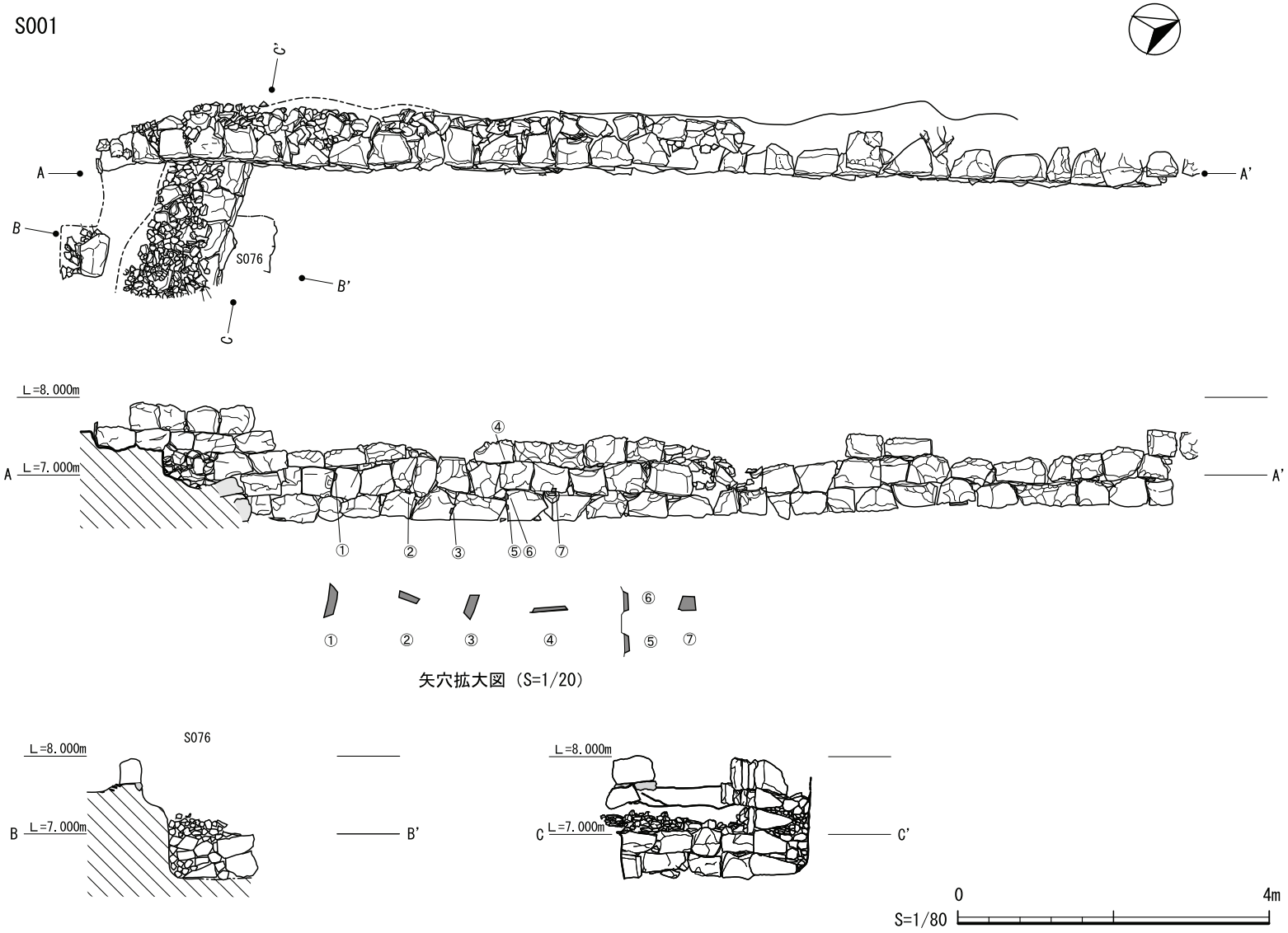


Fig.5　S076（井戸），S075・077・059・060（土坑），S019・020（溝），S082（柵列），S048・049（竪穴住居）実測図



矢穴拡大図（S=1/20）

Fig.6　S001（石垣）実測図及び矢穴拡大図

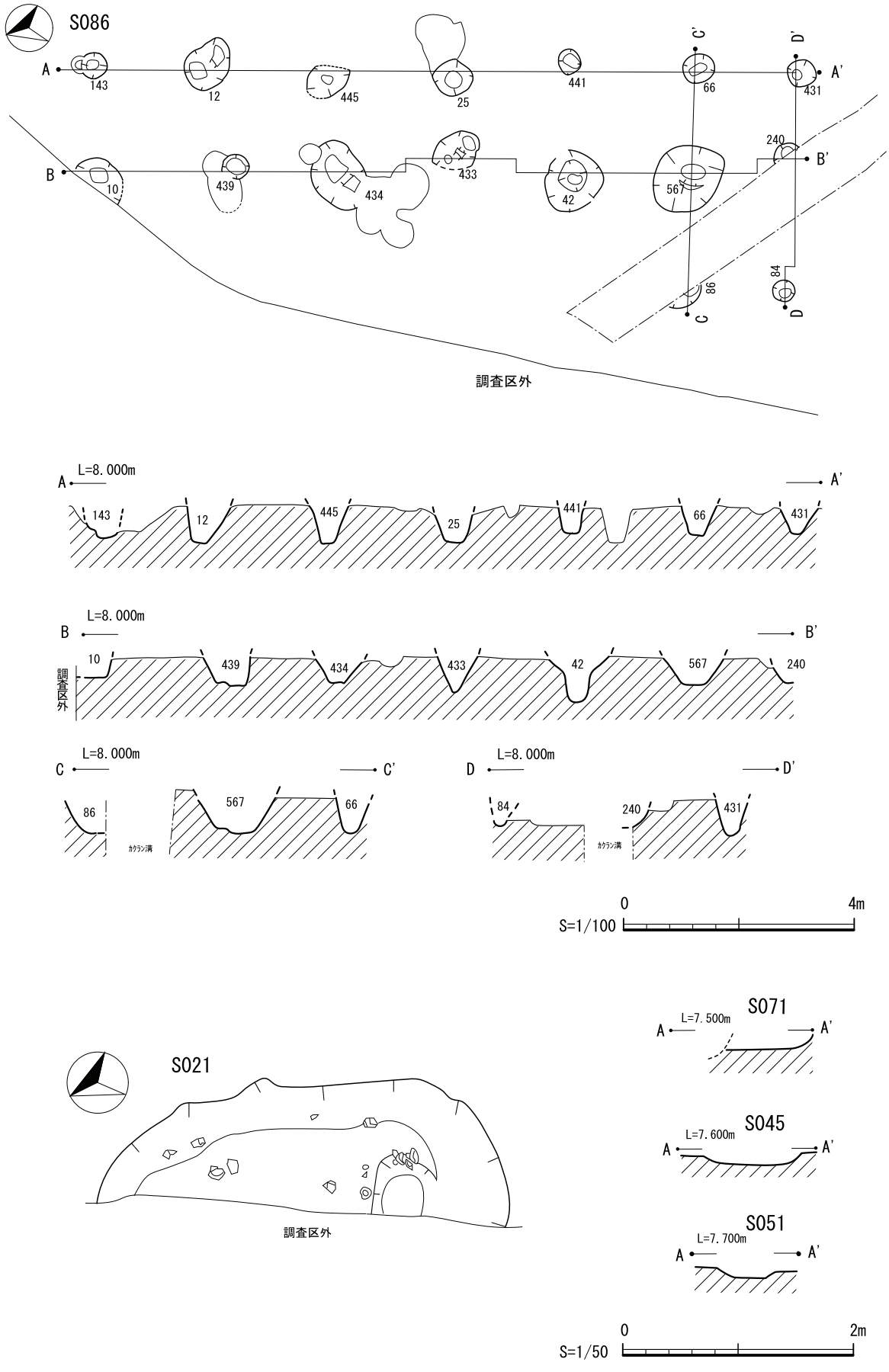


Fig.7　S086（掘立柱建物），S021（土坑），S071（竪穴住居跡），S045・051（溝）実測図

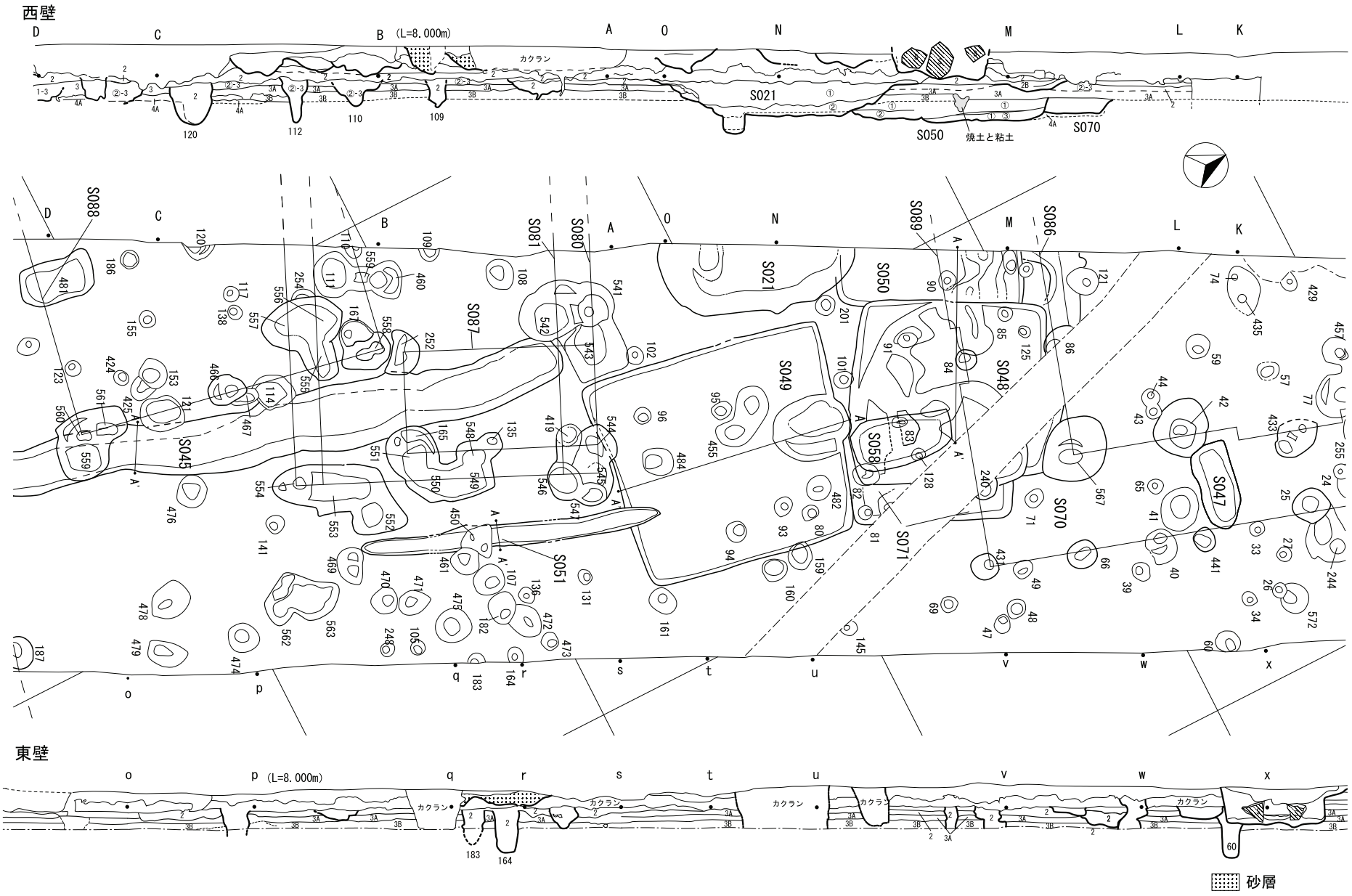


Fig.8　遺構配置図及び東西壁土層図【2】(S=1/100)

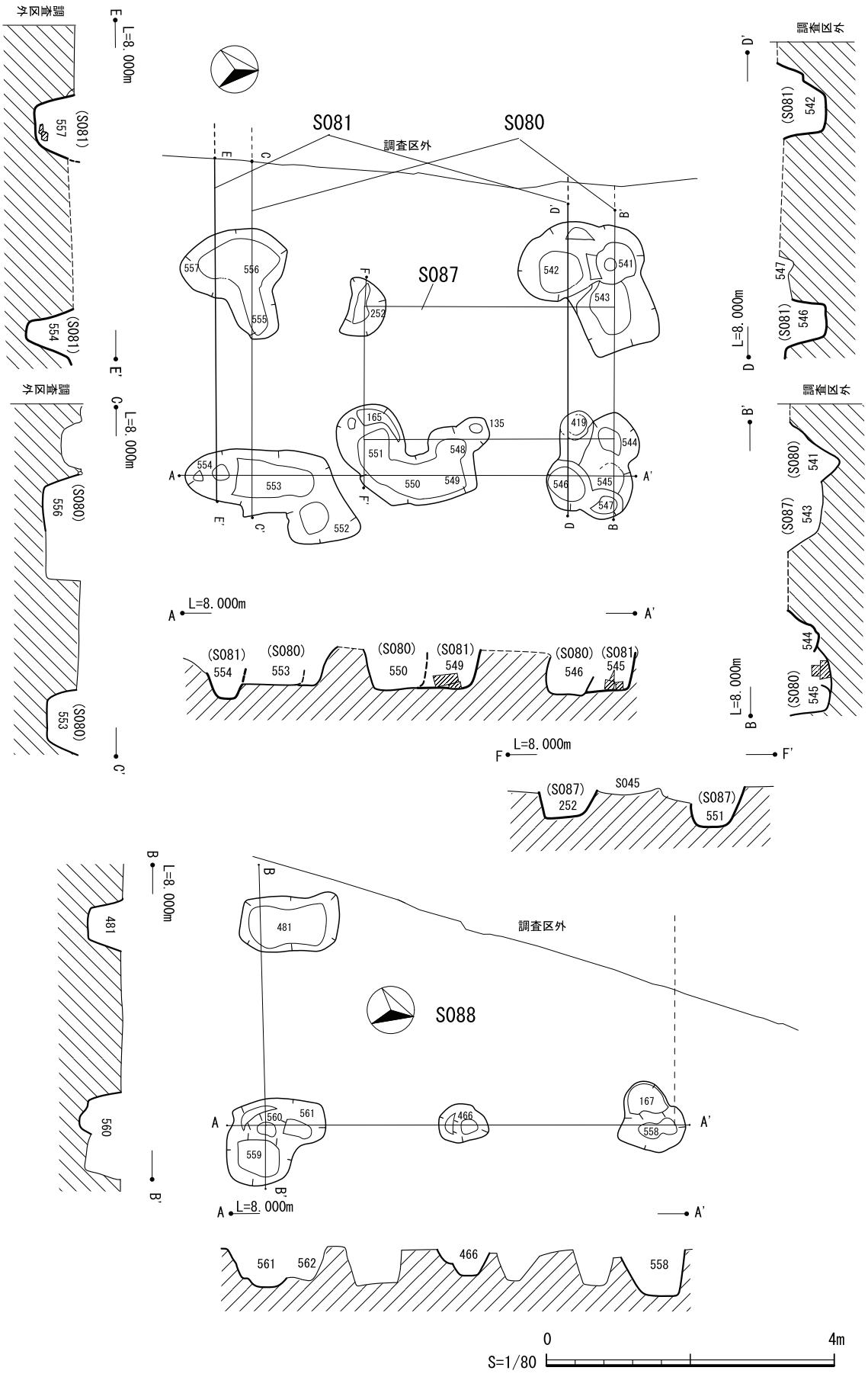


Fig.9　S080・081・087・088（掘立柱建物）実測図

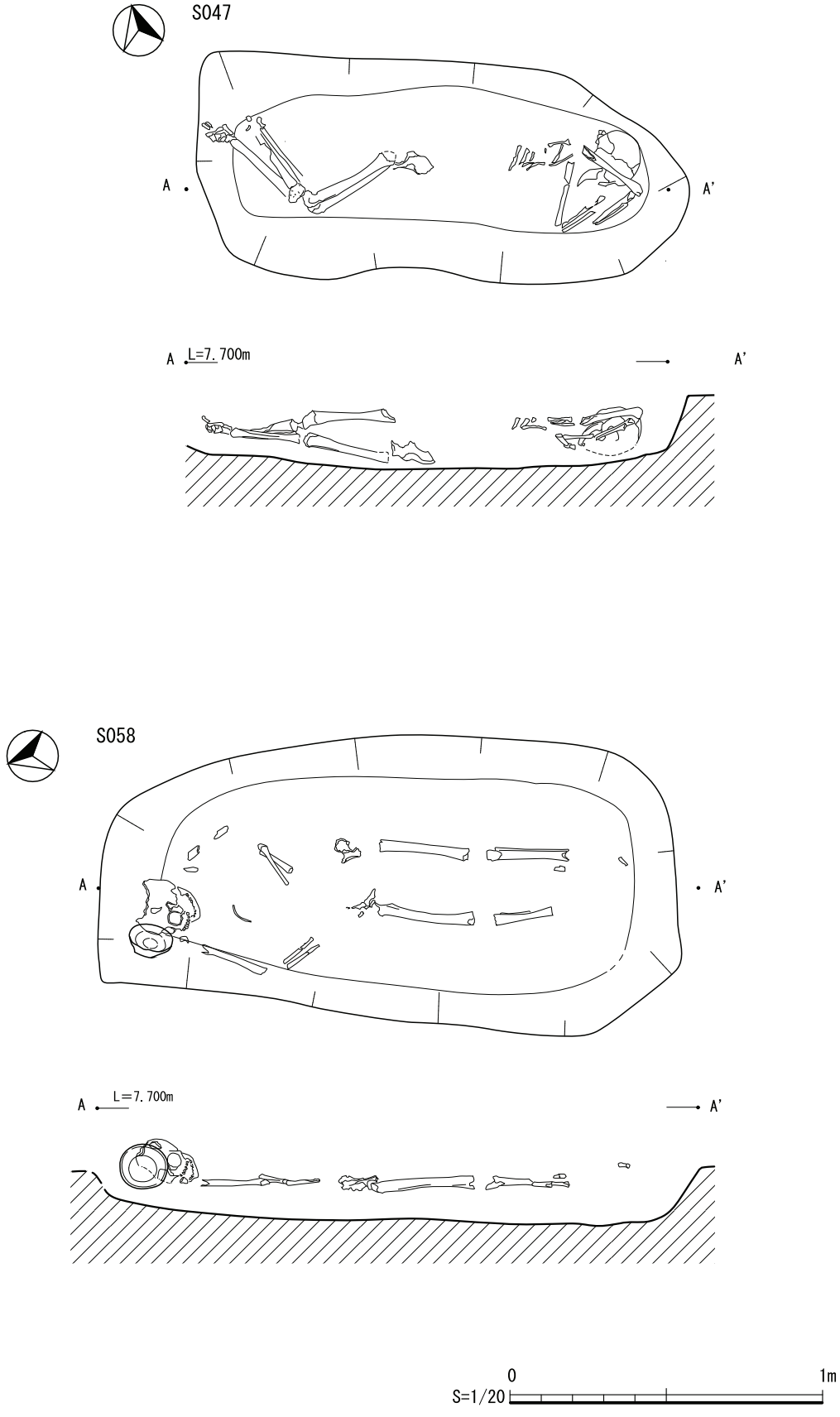
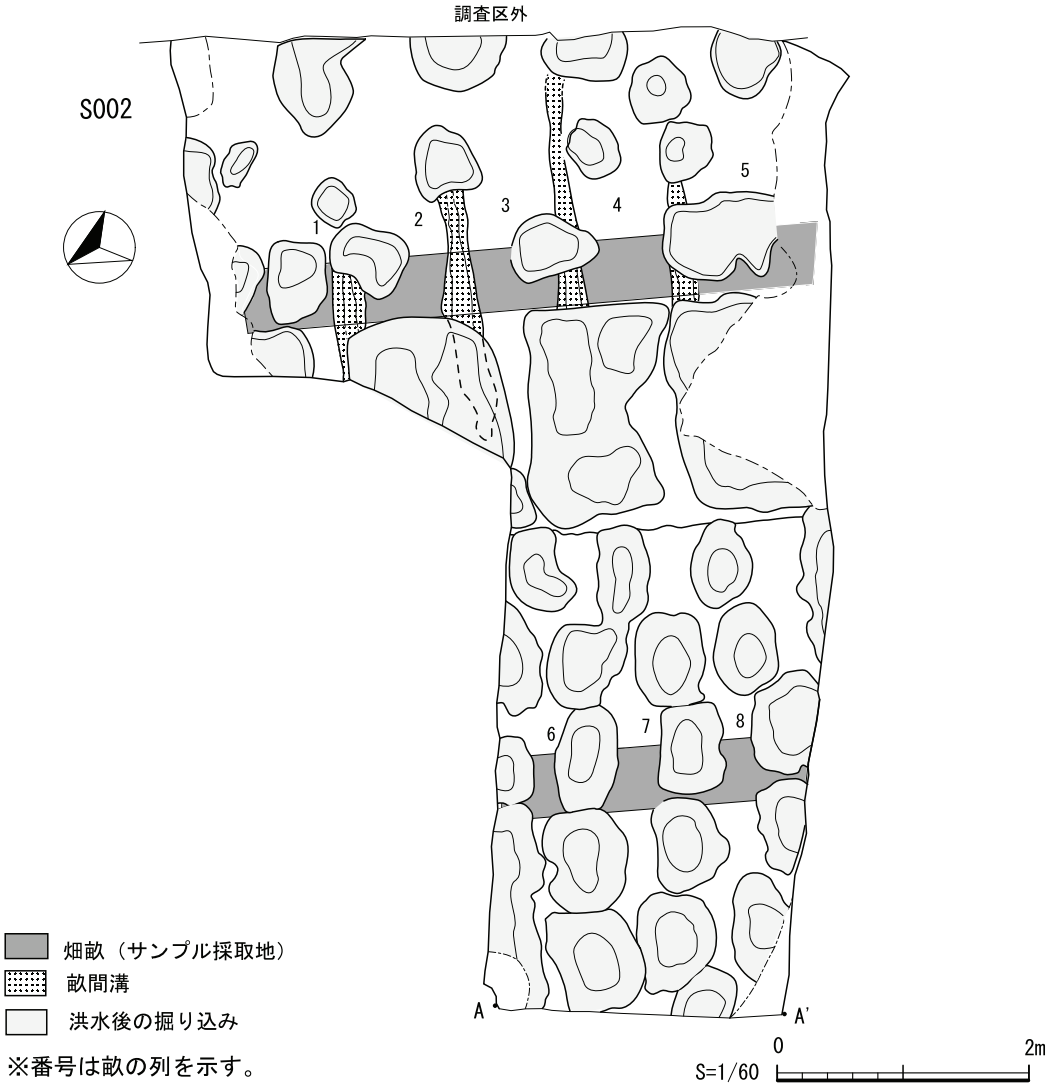


Fig.10　S047・058（土壙墓）実測図



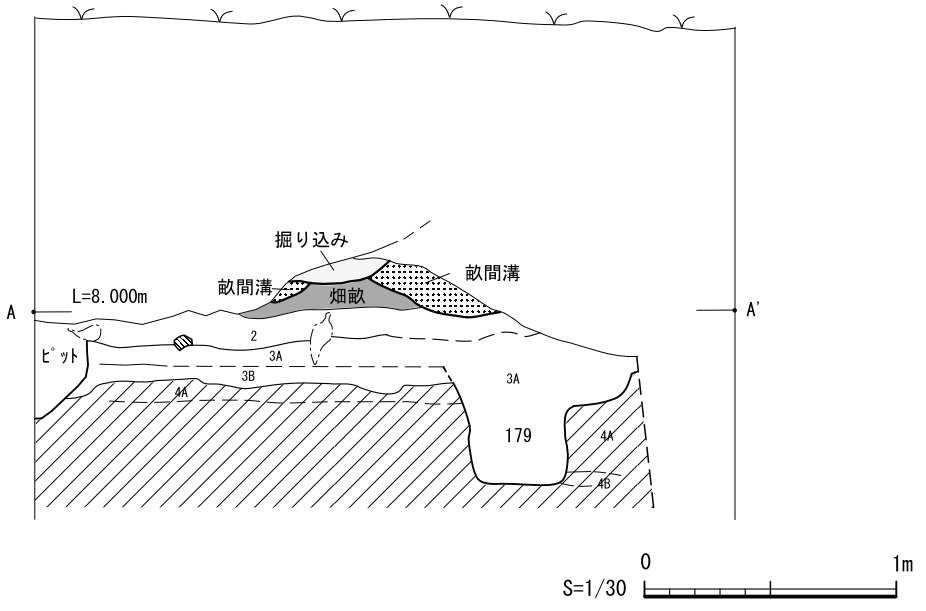


Fig.11　S002（畝状遺構）実測図

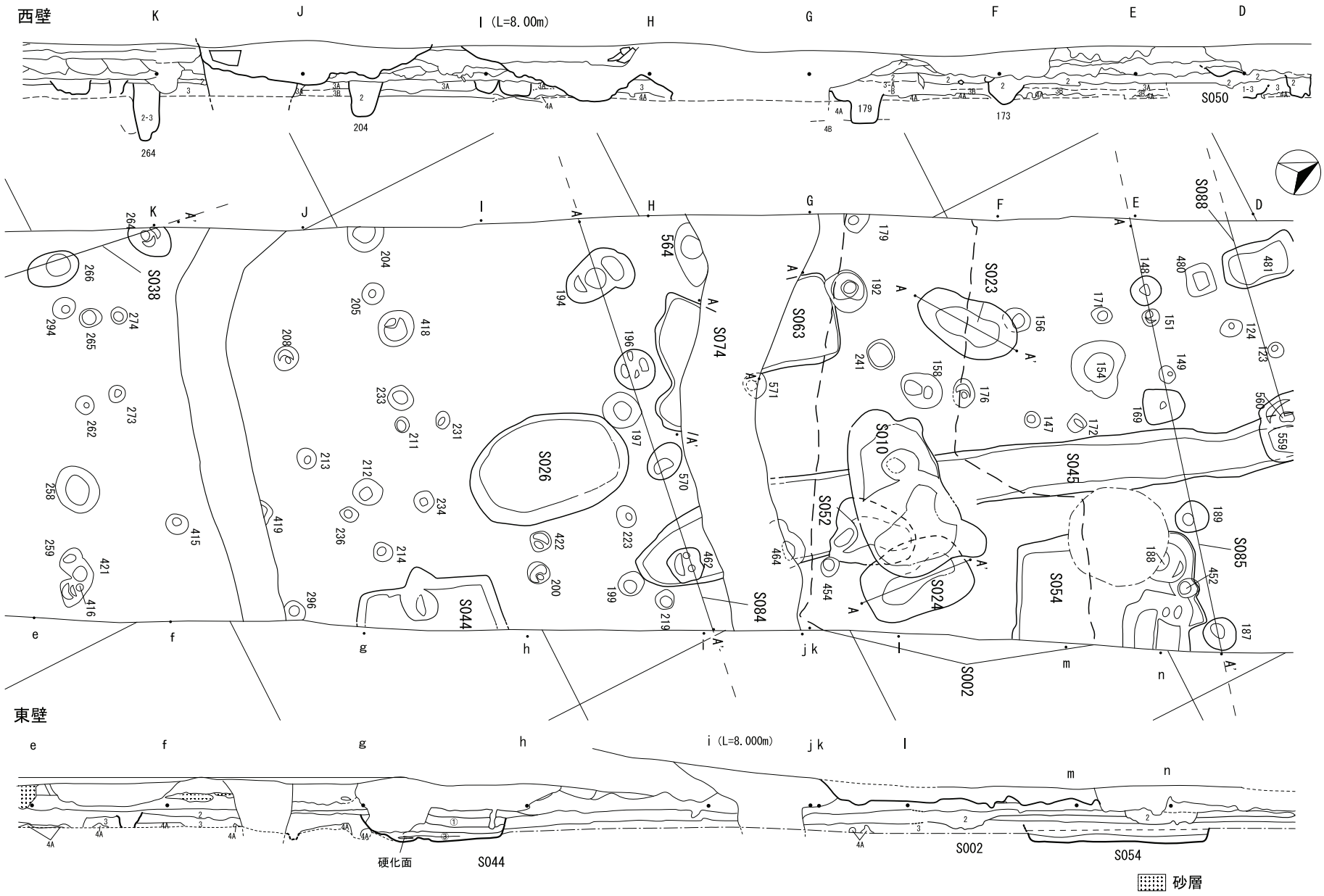


Fig.12　遺構配置図及び東西壁土層図【3】（S=1/100）

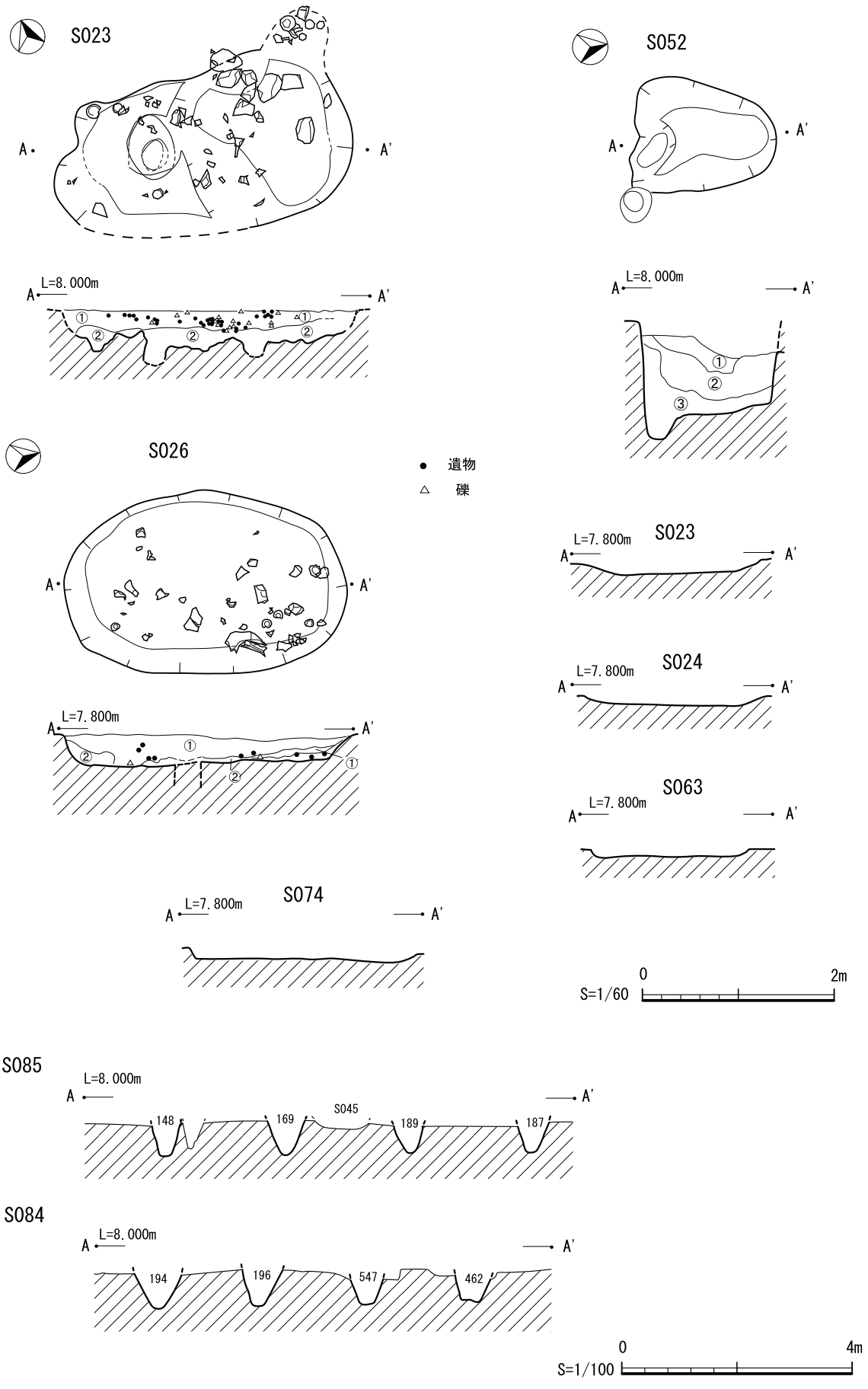


Fig.13　S010・052・026・023・024・063・074（土坑），S083（掘立柱建物？），S084（柵列）実測図

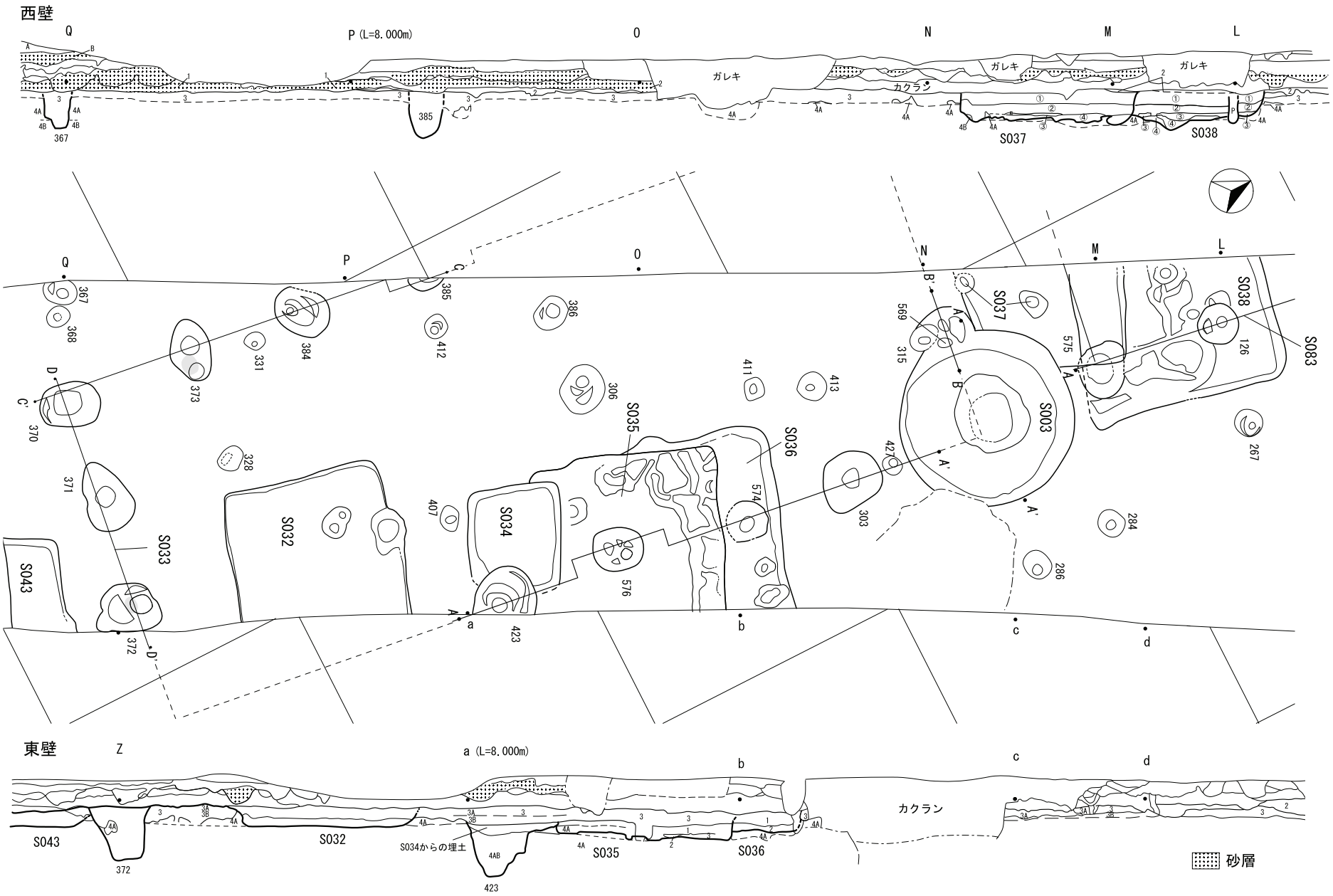


Fig.14　遺構配置図及び東西壁土層図【4】(S=1/100)

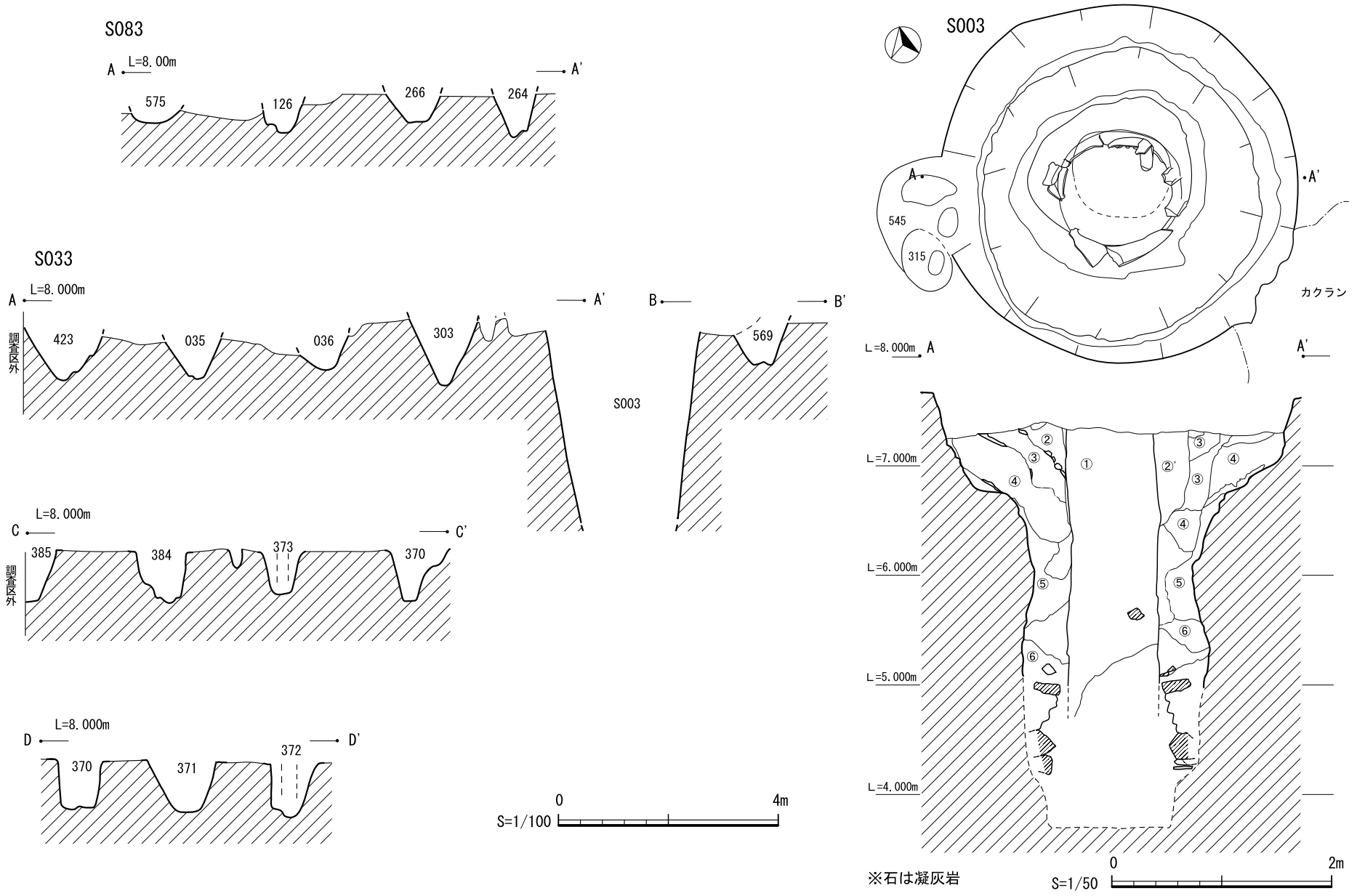


Fig.15　S083・033（掘立柱建物），S003（井戸）実測図

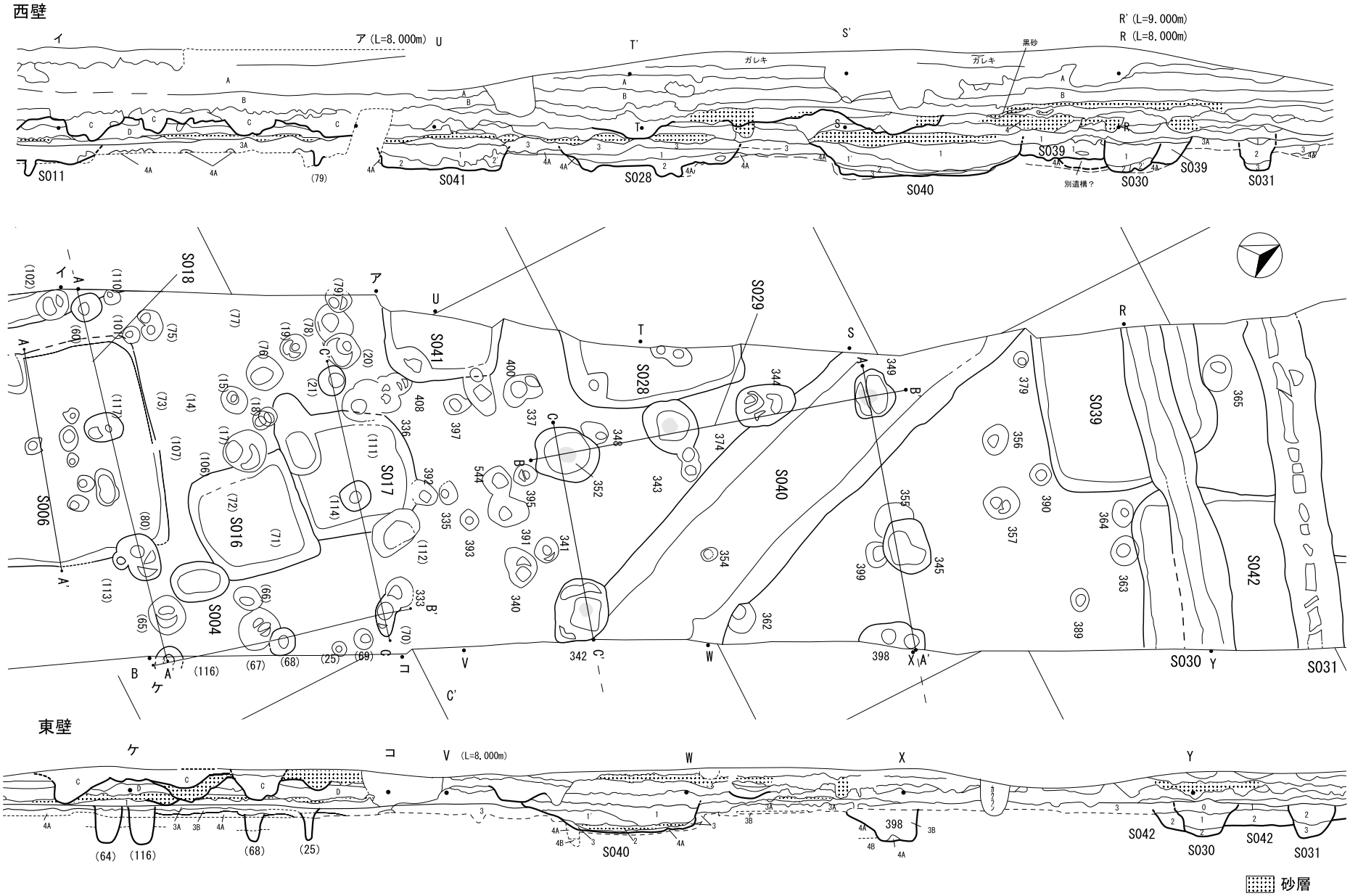


Fig.16　遺構配置図及び東西壁土層図【5】(S=1/100)

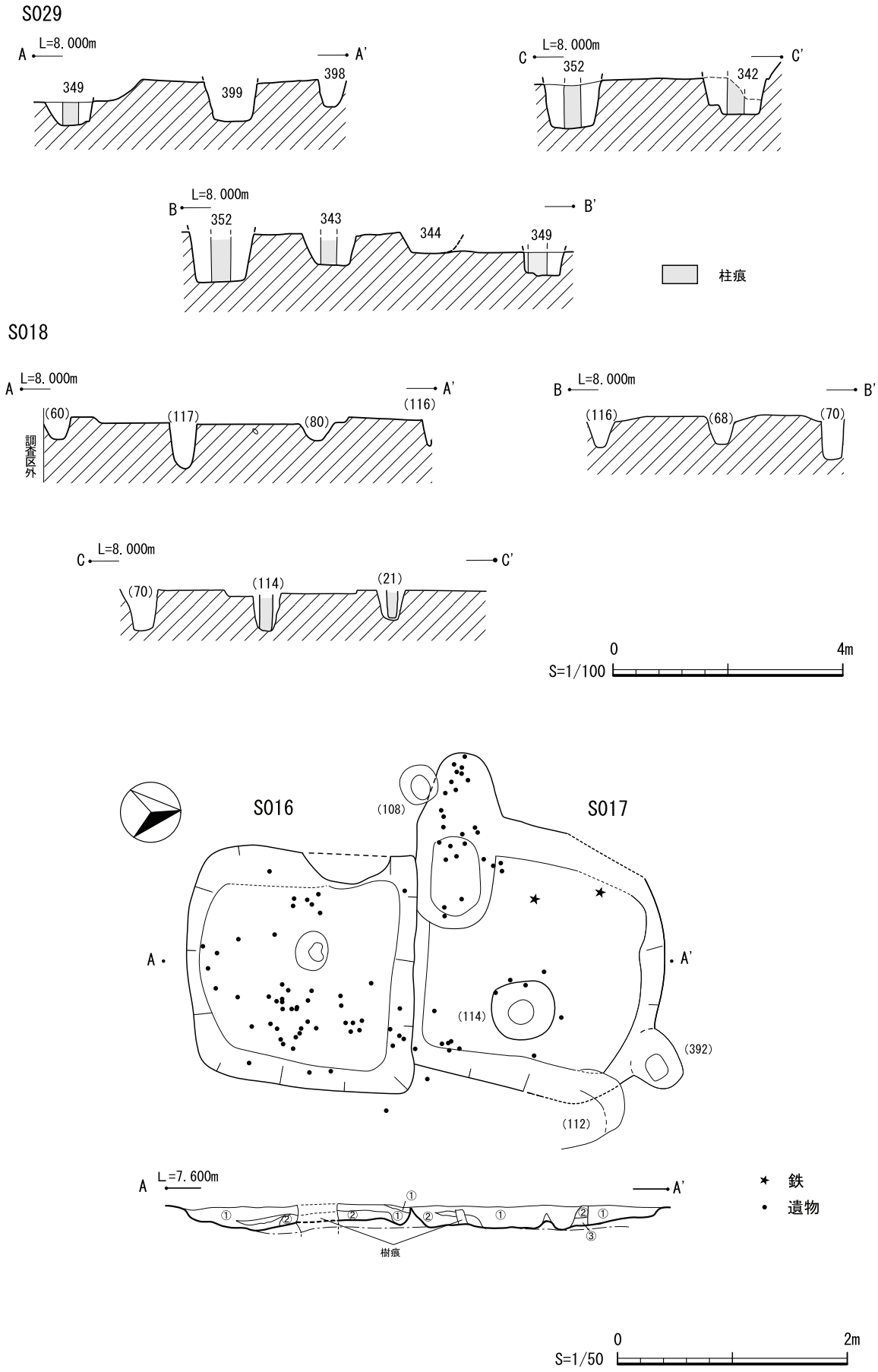


Fig.17　S029・018（掘立柱建物），S016・017（竪穴住居）実測図

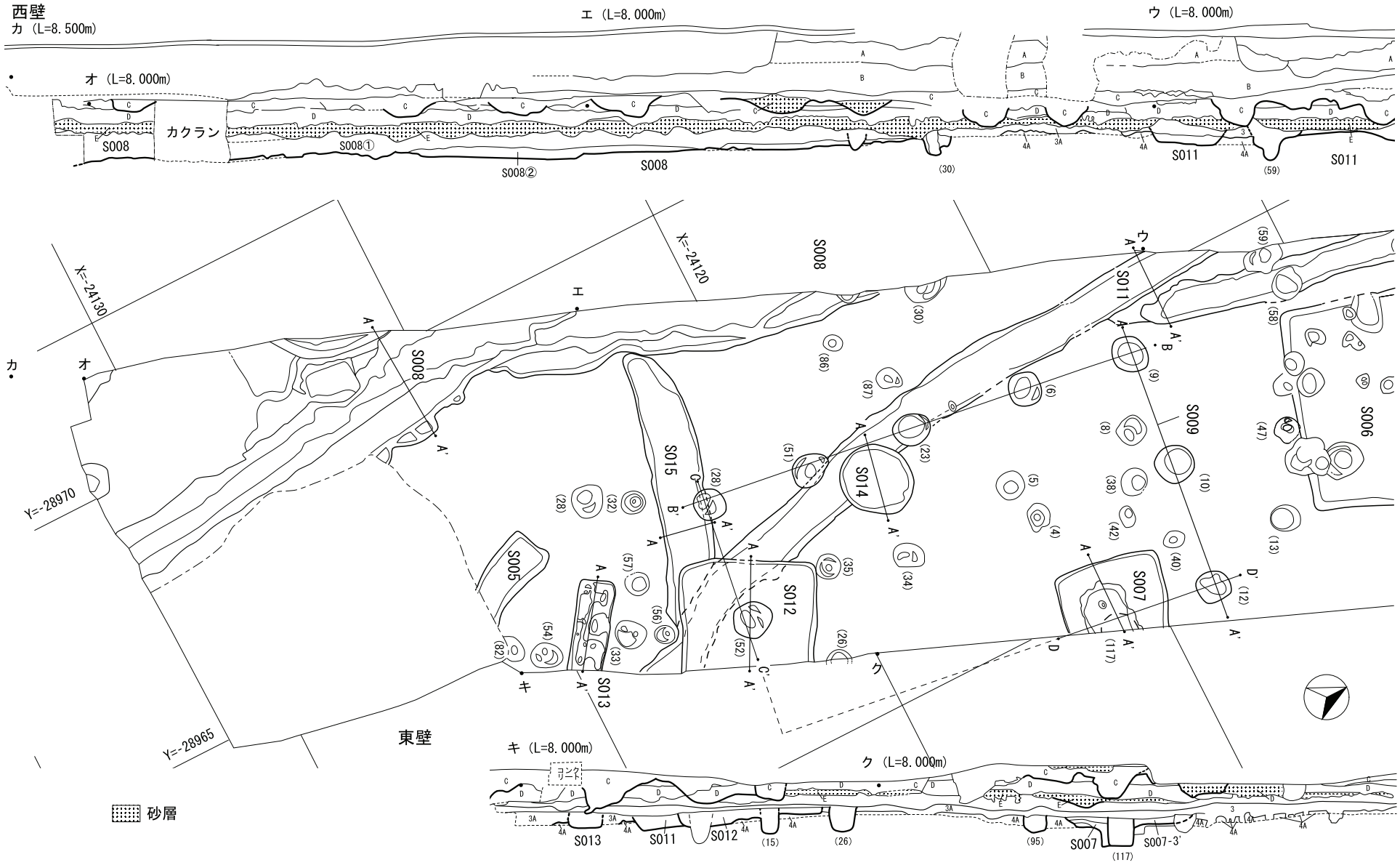


Fig.18　遺構配置図及び東西壁土層図【6】(S=1/100)

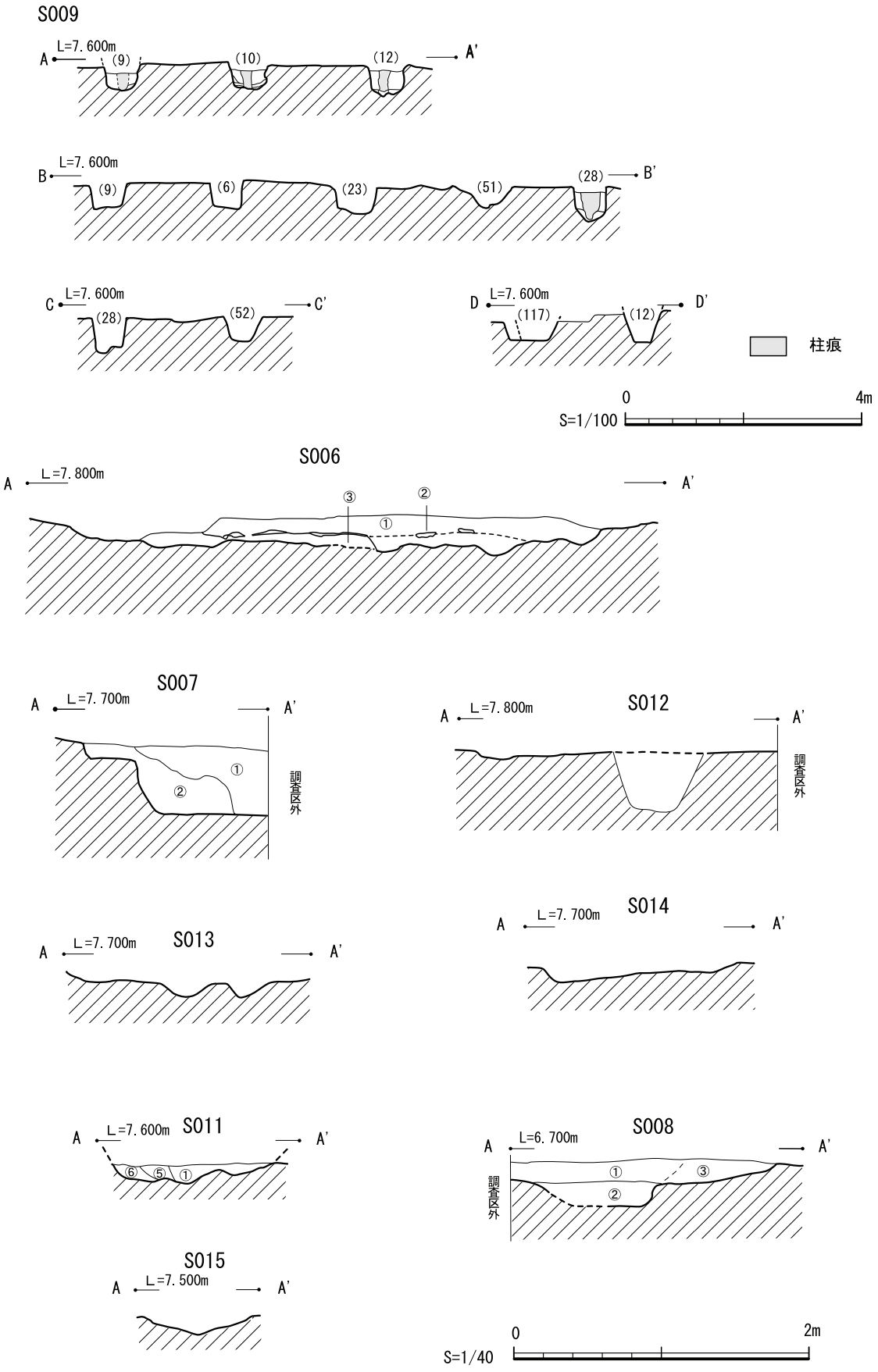


Fig.19　S009（掘立柱建物），S006・007・012・013（竪穴住居），S014（土坑），S008・011・015（溝）実測図

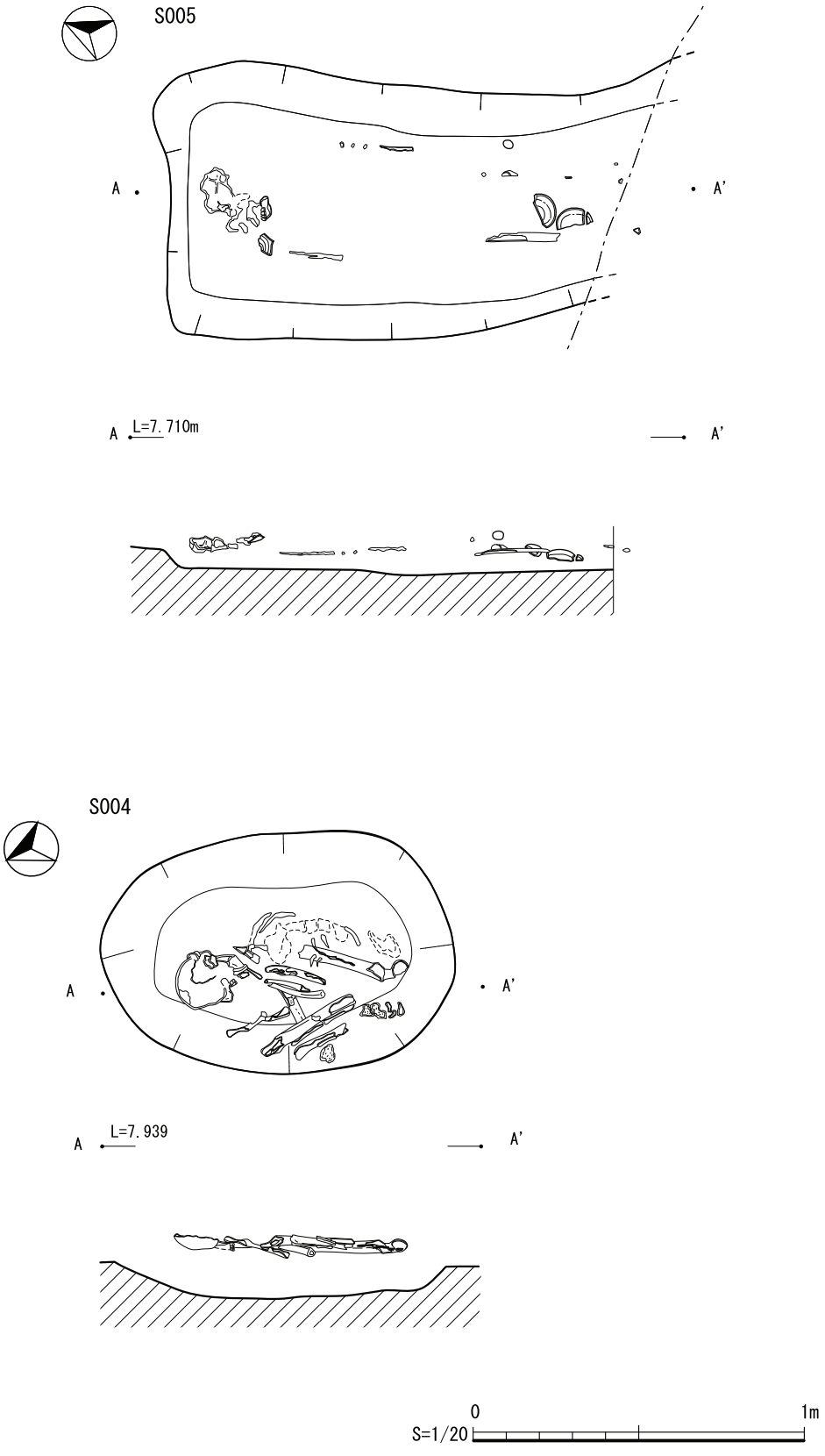


Fig.20　S004・005（土壙墓）実測図

Tab.1　市電敷地遺構観察表（1）

遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物と出土量	遺構の所見	切り合い関係等
S001	石垣(水路)	近現代	12～	1.6～	1.58	レンガ、瓦、ガラス片など近代の遺物が中心。総重量16,939g。明治期製造の柳川産の瓦あり。	白川取り入れ口からつながる用水路の一部か。ピットがあり、桟橋があった可能性あり。	S019、020、078、079を切り、調査区外にのびる。
S002	畑の畝	中世後期～近世	7.85（全体の範囲）	4.92（全体の範囲）	0.25	古代、中世の遺物が中心。総重量48,796g。	畑の畦及び洪水後耕作に適した土を掘り起こしたと考えられる土坑群。	
S003	井戸	近世以降	3.30	3.26	1.68	古代、中世、近世の遺物が出土。総重量13,297g。最下層に17世紀末～18世紀初頭の土師器灯明皿あり。	底まで4m以上。確認面から約1m下にステップがあり、3m下には凝灰岩の石組みあり。木製の井戸枠があったと考えられる。	S545、P315を切る。カクランに一部切られる
S004	土壙墓	中世	1.07	0.73	0.11	出土遺物総重量840g。但し埋葬時期を示す遺物はなし。	埋土から中世人骨と推定。北枕の伏臥屈葬。成人男性。詳細は第4章を参照。	S016を切る
S005	土壙墓	古代(10世紀後)	1.37～	0.84	0.06	土師器小皿1点出土。10世紀後半。	古代人骨。時期は遺物から10世紀後半。北枕の伸展葬。成人男性。詳細は第4章を参照。	カクランに切られる
S006	竪穴住居	古代（8C末～9世紀中）	3.96	3.96	0.26	出土遺物総重量10,629g。遺物は1層で浮いた状態で出土。	1辺約4mの竪穴住居跡。柱穴は、不明。西側は破壊されたカマド跡と判断。	P80、113、117に切られる。
S007	竪穴住居	古代(～9世紀中)	1.95	1.35～	0.51	出土遺物総重量446g。赤彩土師器片、9C代。	埋土は基本土層の3層で古代。中央に掘りこみとピットあり。けり轆轤付土器工房跡か。	S009のピットに切られ、調査区外にのびる
S008	溝	古代(～9C)	14～	3.29～	0.39	出土遺物総重量24,013g。	ほぼ北側から南側に流れる溝。埋土と出土遺物から古代と推定。	S015を切り、調査区外にのびる
S009	掘立柱建物	古代(9世紀中)	8.28	4.52～	0.59	8つのピットからの出土遺物総重量3,108g。	4間×2間の掘立柱建物。柱間は2.1m(7尺)で軸線は東に9～10度ずれる。	S007、011、012、015を切り、調査区外にのびる
S010	土坑	中世(12C中～後)	3.04～	1.72～	0.31	出土遺物総重量13,188g。ほとんどが中世糸切り小皿。	被熱礫が多量に出土。遺構の性格不明。	S045を切る。
S011	溝	古代(8C後～9C中)	17.40	0.87	0.27	出土遺物総重量239g。小片のみ。	2本の溝が交差する。最終の流れはS011-2がS011を切る形。時期はS012より以前。	S012、014、015、P23、50、51、58、59、60、102、110に切られ、調査区外にのびる
S012	竪穴住居	古代(～9C中)	2.47	1.9～	0.04	出土遺物総重量760g。古代の遺物のみ。	浅い。S012の北西にあるP50はS012に伴うカマドと判断。遺物もS012に伴うものである。S012は、一辺約2ｍの短い住居跡である。	S011を切り、P52に切られ、調査区外にのびる。
S013	土坑	古代(～12C)	1.64～	0.66	0.18	出土遺物なし。埋土は古代。	浅くて凹凸あり。プラン的にはS005に酷似していたため、墓と推定して掘り下げたが、その証拠は発見できず。完掘後の状況もかなり凹凸が激しく、土墓壙と判断できる状況ではないが可能性は残る。	調査区外にのびる
S014	土坑	古代(～12C)	1.48	1.24	0.07	出土遺物なし。	楕円形の土坑で、浅い。埋土は古代。	S011を切る
S015	溝状遺構	古代(11C)	4.5～	0.95	0.17	出土遺物総重量183g。古代の遺物のみ。	ほぼ東西に位置するが、S008に接してS011、S012を切るが長く続かない。	ほぼ東西に位置するが、S008には繋がらない。南北の流れとは異質。
S016	竪穴住居	古代(9C第1四半期)	2.10	2～	0.21	出土遺物総重量2,951g。古代の遺物のみ。	一辺が約2mの小型住居でS017とほぼ同時期と推定。カマドは破壊されていた。硬化面顕著。	017を切り、S004、P17、71、72、106に切られる。S017とはやや接した状態。
S017	竪穴住居	古代(9C第1四半期)	2.28	2.19	0.19	出土遺物総重量3,149g。古代の遺物のみ。須恵器の稜椀片出土。	一辺が約2mの小型住居でS016やや古いがほぼ同時期と推定。カマドは南西側隅にあり、破壊されていた。	S016、P111、112、114、392に切られる。
S018	掘立柱建物	古代(9世紀代？)	6.54～	4.09	0.79	７つのピットからの出土遺物総重量802g。	2間×3間～の掘立柱建物。柱間は約2.1m(7尺)で軸線は東に15度ずれる。	S017を切り、調査区外にのびる。
S019	溝群	中世紀末～近世初頭	5.64～	6.53～	1.20	出土遺物総重量18,017g。古代、染付小野皿E群（16世紀末）高台片出土。	8条の溝の切り合い。流路は西から東。	S020を切り、S001に切られる。
S020	溝	中世(13C中～後)	6.12～	1.49	0.81	出土遺物総重量10,974g。古代、中世の遺物のみ。	埋土は基本土層の2層。切り合いS019より古い。龍泉窯系青磁椀Ⅲ2C(F期)片出土。	S060を切り、S001に切られる。
S021	土坑	中世(12C中～後)	3.58	1.18～	0.60	出土遺物総重量12,437g。古代、中世の遺物のみ。	調査区外に続く土坑。遺物はやや浮いて出土。同安窯系青磁椀Ⅲ類片(D期)出土。	S073を切り、調査区外にのびる。

Tab.2　市電敷地遺構観察表（2）

遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物と出土量	遺構の所見	切り合い関係等
S023	土坑	中世(12C前～中)	1.90	1.00	0.11	出土遺物総重量2,126g。古代、中世の遺物のみ。	浅い土坑だが、ピット群上の可能性が高い。糸切り小皿片、白磁椀Ⅳ～Ⅶ類(C期)片出土。	P156を切る。
S024	土坑	中世(12C前～中)	1.91	1.36	0.09	出土遺物総重量1,839g。古代、中世の遺物のみ。	浅い土坑だが、ピット群上の可能性が高い。糸切り小皿片、白磁椀Ⅳ～Ⅶ類(C期)片出土。	S052を切り、S010から切られる。
S026	土坑	中世(12C前～中)	2.95	1.86	0.32	出土遺物総重量19,758g。古代、中世の遺物のみ。	浮いた状態で被熱礫、遺物が多く出土。土坑の埋没過程で投げ込んだものか？糸切り小皿片、白磁椀Ⅳ～Ⅶ類(C期)片出土。	
S028	竪穴住居	古代(8C～9C中)	3.19	1.16～	0.40	出土遺物総重量3,111g。	一辺が約3mの竪穴住居跡。北側にカマドの粘土が残る。硬化面一部残存。	P343に切られ、調査区外にのびる。
S029	掘立柱建物	古代(11C～12C前)	5.80	4.5～	0.86	出土遺物総重量922g。P.343,344からヘラ切り底小皿片が4点出土。	3×2間以上。6つのピットから構成。埋土は3層。柱間は、1.8mと2.7m。軸は東に17～18度ズレあり。	S040に切られ、調査区外にのびる。
S030	溝	古代(9C中～後)	6.17～	0.81	0.67	出土遺物総重量15,544g。	S031とほぼ平行した溝。軸は東に14～15度ズレあり。出土遺物多い。両拳大の被熱礫あり。	S039、042を切り、調査区外にのびる。
S031	溝	古代(9C中～後)	6.15～	0.94	0.42	出土遺物総重量2,337g。	S030とほぼ平行した溝であることから同時期と推定。軸は東に17～18度ズレあり。	S042、043を切り、調査区外にのびる。
S032	竪穴住居	古代(8C後)	3.14	2.7～	0.35	出土遺物総重量1,022g。	北側にカマドあり。カマドから内から土師器の杯出土。	調査区外にのびる
S033	掘立柱建物	古代(9C中～後)	7.1～	4.1～	0.97	出土遺物総重量1,195g。	3×７間。柱間は、2.1～2.4mで軸は東に8～9度ズレる。	調査区外にのびる
S034	竪穴状遺構	古代(9C中～後)	1.92～	1.73	0.15	出土遺物総重量920g。	一辺2m弱の竪穴住居の可能性あり。	S035、P423に切られる。
S035	竪穴住居	古代(8C後～9C前)	3.49	3.16～	0.25	出土遺物総重量2,526g。製塩土器出土	一辺約3.5mの竪穴住居。出土遺物が小片のため時期の決め手に欠けるが、やや大型であることから8C後～9C前と推定。西側にカマドあり。	S036を切り、S034、P423に切られ、調査区外にのびる。
S036	竪穴住居	古代(8C後～9C前)	3.55～	2.75～	0.33	出土遺物総重量1,187g。	一辺約3.5mの竪穴住居。出土遺物が小片のため時期の決め手に欠けるが、やや大型であることから8C後～9C前と推定。西側にカマドあり。	S035に切られ、調査区外にのびる。
S037	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	3.19～	2～	0.61	出土遺物総重量526g。	S038よりやや小型の竪穴住居跡。	S038を切り、S003、P545にう切られ、調査区外にのびる。
S038	竪穴住居	古代(8C第4四半期)	3.81	2.74～	0.51	出土遺物総重量2,800g。	一辺3.5m強のやや大きめの竪穴住居。飽田郡産の土師器杯が出土していることから時期を決定した。	S037に切られ、調査区外にのびる。
S039	竪穴住居	古代(8C中)	2.99	2.9～	0.16	出土遺物総重量2,401g。	やや東西に長い竪穴住居跡。出土遺物から時期を判断。	S030に切られる。
S040	溝	中世末～近世	7.6～	2.2～	0.60	出土遺物総重量6,465g。	南北軸から西に18度ズレる。糸切り小皿片あり。白磁皿ⅣかⅤ類片(C期)あり。埋土は1層で断面より中世末～近世以降と判断。	S029、P349、354を切り、調査区外にのびる。
S041	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	2.14	1.41～	0.48	出土遺物総重量1,958g。出土遺物は小片多い。	一辺約2mの小型住居跡。S016、017と同規模。硬化面一部残存。	P400、408を切り、調査区外にのびる。
S042	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	2.85～	2.67～	0.29	出土遺物総重量1,042g。出土遺物は小片多い。	一辺約3mの住居跡。S016、018と同規模。硬化面残存。	S030、031に切られ、調査区外にのびる。
S043	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	1.68～	0.97～	0.30	出土遺物なし。	硬化面一部残存。北側にカマドの粘土が一部残存。	S031、S042から切られ、調査区外にのびる。
S044	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	2.69～	0.8～	0.29	出土遺物総重量865g。磨り痕ある須恵器摺鉢出土。	一辺約2.7mの住居跡。硬化面一部残存。西側にカマドが残存。	調査区外にのびる
S045	溝	古代(9C第3四半期)	21.50	1.24	0.26	出土遺物総重量5,644g。	ほぼ南北に続く溝(東に14度ズレあり)。	S010、052、P114、121、462、559、560、561に切られる。
S047	土壙墓	古代末～中世？	1.57	0.71	0.24	出土遺物総重量144g。埋土中の遺物小片のみ。	埋土は2～3層の様相を呈す。東枕の伸展葬。成人女性。詳細は第4章を参照。	P42に切られる
S048	竪穴住居	古代(8C第4四半～9C第1四半期)	3.45	3.28	0.39	出土遺物総重量10,655g。	一辺約3.5mの住居跡。北側にカマドが残存。回転ヘラミガキ土師器が出土。	S050、070、071、073を切り、S049、058、P82～85、92、101、125に切られる。

Tab.3　市電敷地遺構観察表（3）

遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物と出土量	遺構の所見	切り合い関係等
S049	竪穴住居	古代(8世紀後)	4.15	3.96	0.16	出土遺物総重量4,813g。	一辺約4mの住居跡。北側にカマドが残存。	S048、051を切る。
S050	竪穴住居	古代(8C第4四半～9C第1四半期)	2.33	0.81以上	0.34	出土遺物総重量2,211g。	カマドの粘土散乱。S048に近い時期か。	S070、073、P88～90を切り、S048に切られ、調査区外にのびる。
S051	浅い溝	古代(～12世紀)	5.49	0.41	0.07	出土遺物なし。	埋土は基本土層の3層。	P450、461を切る。S049との切り合い関係は不明。
S052	土坑	中世(12C前～中)	1.54	1.20	0.90	出土遺物総重量429g。	埋土は基本土層の3層に近い。	S010、024に切られる。S045との切り合い関係は不明。
S054	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	3.15	2.03以上	0.25	出土遺物総重量473g。	一辺約3.1mの住居跡。北側にカマドが残存。	P452に切られ、調査区外にのびる。
S058	土壙墓	古代(11世紀)	1.84	0.94	0.16	出土遺物総重量1,403g。	北枕。西向きの伸展葬。成人女性。時期は遺物から11世紀(非押し出しの土師器)。詳細は第4章を参照。	S048を切り、P82、92、128に切られる。
S059	土坑	古代(8C前～中)	1.79	1.76	0.46	出土遺物総重量3,376g。8C前～中の須恵器蓋と円面硯出土。	一辺約1.8mの方形土坑。	S019、S020、P12-2、-3、143に切られる
S060	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	2.57以上	1.95以上	0.51	出土遺物総重量4,987g。	一辺約2.5mの竪穴住居跡。南側に破壊されたカマドあり。P.526、528、565は柱穴の可能性あり。	S019、S020に切られる
S063	土坑	古代末～中世	3.33	1.64	0.25	出土遺物総重量381g。	浅い土坑に樹根が入る。埋土は基本土層の2～3層。	P192、462、カクランに切られ、調査区外にのびる。
S070	竪穴住居	古代(8世紀後)	4.08以上	0.95以上	0.28	出土遺物総重量44g。	一辺約4mのやや大型住居。埋土は基本土層の3層。	P121を切り、S049、050、P80、87、88に切られる。
S071	竪穴住居	古代(8世紀後)	2.94	0.75以上	0.17	出土遺物なし。	一辺約3mの住居。埋土は基本土層の3層。	
S074	不明遺構	古代末～中世	1.3以上	1.24	0.10	出土遺物総重量162g。	浅い土坑で形状がいびつ。埋土は基本土層の2～3層。	カクランに切られる。
S075	土坑	中世(12C～13C)	2.46以上	0.84以上	0.19	出土遺物総重量4,304g。糸切り底小皿、瓦器椀片、白磁椀皿片出土。	やや大きな円形土坑。被熱礫多い。	S077、078、P532、533を切る。
S076	井戸	中世(12C中)	1.28	0.65以上	2.35	出土遺物総重量6,127g。	馬の歯、不明墨書糸切り小皿、白磁椀Ⅳ類片(C期)出土。糸切土師小皿・杯で時期推定。	S001に切られ、調査区外にのびる。
S077	土坑	中世(12C～13C)	2.50	1.06	0.23	出土遺物総重量311g。糸切り底土師器小皿片出土。	長方形、埋土2層分　明瞭	S078を切り、S075、P502、503、517に切られる。
S078	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	4.19	3.71以上	0.07	出土遺物総重量986g。	一辺約4mの住居。埋土は基本土層の3層。	P534～533に切られ、S075～077、P487、490、491、494、499、500～504、508に切られる。
S079	土坑	古代(～12世紀)	1.37以上	0.81以上	0.11	出土遺物なし。	形状が長方形でP518が切ることが明瞭なため遺構とする。	P518、522に切られる。
S080	掘立柱建物	中世(12C代)	4.4～	4.90	0.47	出土遺物はS080、81、87で総重量3,298g。遺物は全て古代。	礎石2箇所あり。2間×2間以上で東西2.4m、南北2.7～3m。埋土は基本土層の2層。S080と81は建て替えと判断。東に26度のズレあり。	S080、081、087との切り合い関係は不明。
S081	掘立柱建物	中世(12C代)	4.4～	4.80	0.55	出土遺物はS080、81、87で総重量3,298g。上層から糸切り小皿片、白磁椀Ⅳ～Ⅷ類(C期)片出土。	礎石2箇所あり。2間×2間以上で東西2.4m、南北2.7～3m。。埋土は基本土層の2層。S080と81は建て替えと判断。東に26度のズレあり。	S080、081、087との切り合い関係は不明。
S082	柵列	古代末～中世？	10～	―	0.50	p.522より製塩土器1点出土。	柱は6柱。7間以上で1.8～2.1ｍ。北から東に34度のズレあり。柱穴の埋土は2層と3層が混じる。	
S083	掘立柱建物	古代(9C中～後)	7～	1.9～	0.80	出土遺物はなし。	1～×4間～。柱穴の埋土は2～3層。柱間は、2.1～2.4mで軸は東に9度ズレる。S033とほぼ並行の建物で同時期と推定。	S038を切り、調査区外にのびる。
S084	柵列？	古代(9C中～後)	7.8～	―	0.60		5間～。柱穴の埋土は2～3層。柱間は、1.8mで軸は東に9度ズレる。S033とほぼ並行の建物で同時期と推定。	S045を切り、調査区外にのびる。
S085	柵列？	古代末～中世？	8.2～	―	0.55		5間～。柱穴の埋土は2層と3層。柱間は、2.1mで軸は東に15度ズレる。	

Tab.4　市電敷地遺構観察表（4）

遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物と出土量	遺構の所見	切り合い関係等
S086	掘立柱建物	中世(12C～13C)	5.5～	13.8～	0.60	糸切り小皿・杯片出土。	東と南の庇付き、3～×6間～。柱穴の埋土は3柱以外基本土層の2層。柱間は、2.1mで軸は東に17度ズレる。	S048、059、070、071を切る。
S087	掘立柱建物	中世(12C代)	3.30	1.80	0.55	出土遺物はS080､081､087で総重量3,298g。糸切り土師小皿、白磁Ⅳ類(C期)片出土。	S080、081の付属施設の可能性もあるが1間×1間の建物と考える。S080、081に並行している。	S080、081、087との切り合い関係は不明。
S088	掘立柱建物	古代末～中世？	5.60	3.7～	0.65	出土遺物はなし。	2×2間～。柱穴の埋土は2～3層が主体。柱間は、2.7mで軸は東に12度ズレる。	S045を切る。

※欠番はS022、25、27、46、53、55、56、57、61、62、64、65、66、67、68、69、71、72、73。

Tab.5　市電敷地土層注記表（1）

遺構番号	層名	色調		備考
S001	①	2.5Y3/8	暗オリーブ褐色砂質土	砂粒ではあるが粘性は殆どない。石片が残存している。人為的に埋められたものである。
	②	7.5YR3/1	黒褐色粘質土	きめ細かく粘性は①と同じくらい。炭化物が残存する。炭化物は層の中に散在している。
	③	10YR3/3	暗褐色砂質土	①よりも粗粒で、粘性は殆どない。石片が残存する。
	④	2.5Y3/1	黒褐色砂質土	粒は①より大きく、粘性はない。酸化鉄の筋が入る。
	⑤	10YR3/1	黒褐色粘質土	きめが細かいが粘性はさほどない。所々に酸化鉄の縦筋が入る。木質も残存している。
	⑥	10YR3/2	黒褐色粘質土	砂粒ではあるが、粘性は⑤より低い。木質が残存している。
	⑦	10YR2/1	黒色粘質土	きめが細かく、粘性もある。陶磁器片や酸化鉄の縦筋が入る。この層に陶磁器片が見られることから洪水によって運ばれてきたか、もしくは人為的に埋めてしまったことが考えられる。
	⑧	10G2/1	緑黒色砂質土	大き目の粗粒で粘性はない。
	⑨	7.5YR4/4	褐色砂質土	きめが粗く、粘性はない。酸化鉄を多く含む。④や⑤のように筋ではなく、層の全体に酸化鉄を含んでいるため全体的に土が硬くゴリゴリしている。水が溜まったことで、⑨に酸化鉄がみられるようになった。
	⑩	2.5Y3/2	黒褐色砂質土	粒は大きめで粘性はない。2.5Yオリーブ褐色砂質土4/4が混ざる。
	⑪	7.5YR2/1	黒色砂質土	粒は大きく、粘性はない。
S002				土坑は、シルト混じり、極細砂～中砂で埋められ流水堆積を示すラミナが見られる。シルトの中砂ブロックが入る下部には下層のブロックが若干混じる。
S003	①	7.5Y4/1～3/1	灰色砂質土	非常にゆるい埋土。砂質が強いためか、ブロック状は見られない。ほとんど1層最上部の層に似た埋土。
	②	7.5Y4/1～3/1	灰色砂質土	全体的にブロック状で5～10㎜の4層のブロックが多く入る。aのブロックが入る。
	②’			4層のブロックが少なく、aのブロックはない。
	③	7.5Y4/1～3/1	灰色砂質土	②とあまり変わらないが比べると砂質が弱い。5～15㎜の4層ブロック点々と入る。
	③’			③に比べ1層の砂の塊の大きいものが入る。
	④	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	③と変わらないが、4層のブロックが多く大きい。
	⑤	7.5Y4/1～3/1	灰色砂質土	砂質強い。4層のブロックが入るが少ない。①～④に比べ粗い砂がほとんど入らない。
	⑥	7.5Y4/1～3/1	灰色砂質土	やや砂粒が細かい。
	a	10YR4/2	灰黄褐色砂質土	砂は細かく、さらさらした感じはない。粘土質は感じられない。灰色砂質(7.5Y4/1)が強いが、ブロック状、根跡状に入る。
S004		10YR2/2	黒褐色土	周辺の3層相当層とほぼ同じだがややわらかい。
S005		10YR2/3	黒褐色粘質土	粘性はさほどなく、ややしまる。所々に1～2㎜大のカーボンと褐色粒を含む。
S006	①	10YR2/3	黒褐色土	粒子が細かくサラサラしている。4B層のブロック(5～30㎜)も混じる。遺物を含む。廃棄後の堆積層である。
	②	2.5YR3/3～10YR2/3	暗オリーブ褐色土～黒褐色土	硬化面。暗オリーブ褐色土を中心とした硬化層。当時(古代)の人々の生活面と考えられる。その証拠に、被熱した礫(5×15×10㎝大)2個が、その面の上にある。
	③	10YR2/2	黒褐色土	①層と比較して色調が黒い。粒子は細かくややしまる。4A、B層のブロックも混じる。
	③-2	10YR3/4	暗褐色(砂質)土	砂質が強くパサパサしている。4A層の砂質が多く入る。
S006-ピット	①	10YR2/3	黒褐色土	3A層に似てやや粘性がある。色調は②層より黒い。4A、Bブロック、4～5㎜大のカーボンを含む。
	②	7.5YR2/2	黒褐色土	4B層、4A、Bブロックを多く含む。3B層の様にサラサラ感があり、4A、4Bブロックを多く含む。
	③			砂質が強く、4B層ブロックが多い。色調はS009に酷似。
	④	10YR2/3	10YR2/3	4A、Bブロックを含む。①層に似てやや粘性あり。
S007	S007-2		黒褐色土	茶色が強めの黒褐色土。さらさらしていて、粘質は低い。混入物は褐色土のブロック状のもの、明褐色粒などである。5㎜程度の炭化物も数個混じっている。
	S007-3		黒褐色土	黒色が強めの黒褐色土。サラサラして粘質土は低い。混入物は、褐色土のブロック状のもの、明褐色粒などで炭化物はない。遺構の端は粘性が強くカーボンや焼土を含む。
S008	①	10YR2/2	黒褐色土	しまりがややあり、粘性はほとんどない。遺物を多く含む。調査区外の断面では下層にあたる。
	②	10YR3/2		上層と比較して砂質が強く、硬くしまる。所々2～3㎝大の酸化鉄のブロックを含む。特に上層の2～3㎝には酸化鉄の帯状の集中層がある。遺物はほとんど含まない。
	③	10YR2/2		①層と殆ど変わらないが、マンガンを多く含む。全体形状を見るとステップのところに当たる。
S009	①	10YR2/3	黒褐色土	粒子が細かくやや粘性がある。2～3㎜のカーボン、1～5㎜大の4A、B層ブロック含む埋土。
	①-2			基本的には、①層と同じだが、粒子がやや粗い。
	②	10YR2/3	黒褐色土	①層と比較して硬くしまる。柱の痕跡と推定される。
	②-2	10YR2/3	黒褐色砂質土	②層と比較して4B層ブロックが多い。
	③	2.5Y4/3	オリーブ褐色砂質土	4Bブロックを多く含む。粒子が粗い砂質土。
S010	1	10YR2/3	黒褐色粘質土	きめが細かく非常に粘性が強い。2～5㎜大のカーボンを含む。遺物多い。
	2	10YR2/3	黒褐色粘質土	基本的に同じだが、色調がやや明るくしまる。遺物はほとんど含まない。
	2’			やや黒い。

Tab.6　市電敷地土層注記表（2）

遺構番号	層名	色調		備考
S011	①	10YR3/2	黒褐色砂質土	きめが非常に細かく硬くしまる。2～3cm大の4A、B層のブロックを多く含む。Bの流れ
	②	10YR2/3	黒褐色砂質土	砂粒がやや粗くサラサラしている。Bの流れ
	③	10YR2/2	黒褐色土	④層と色調は似ているが硬くしまる。2～3mm大の4B層と思しきブロックを含む。Bの流れ
	④	10YR2/2	黒褐色土	粘性が高くやわらかい。所々3mm大のカーボンを含む。Aの流れ
	⑤	10YR3/2	黒褐色砂質土	色調や混入物は①層に酷似するが、①層より砂質が強くさらさらする。Aの流れ
	⑥	10YR2/2	黒褐色土	粘性があり、やわらかい(⑤層と比較して)1～2cm大の4A、Bのブロック土を含む。Aの流れ
S012		7.5YR3/1	黒褐色砂質土	粒子が細かく砂質が強い。やわらかくて4Aのブロックを所々に含む。S012の下層は、4Aブロックが多く入り酸化鉄を含み、やや硬くしまる。
S013		10YR2/2	黒褐色粘質土	2～3mm大のカーボンや褐色粒を所々に含む。色調は4Aの漸移層の影響かやや明るく粘性もある。
S014		10Yr2/2	黒褐色土	3A層に酷似。やや粘性があり、5～10mm大のカーボンを所々に含む。
S015		10YR2/2	黒褐色土	粒子が細かくややしまる粘性のある土。3Aに近いが、下の黒(4A直上)であろう。3～5mm大のカーボン、褐色粒、酸化鉄や4A、B、特に4Bの粘っぽい白粘土のブロックを所々に含む。
S016		10YR2/2	黒褐色土	S015とほぼ同質
S017	1	10YR2/3	黒褐色土	カマド本体の土。やや粘性があり、カーボン、焼土、カマド粘土が混じる。カマドの土の一部と考えられる。
	1			1より粘性が強い。下に伸びることから樹痕と考えられる。
	2	10YR3/2	黒褐色土	やや色調が明るく、混入物を殆ど含まない。
	3	10YR2/2	黒褐色土	4層と比較して粘性がある。また、上層は1層に似て混入物が多いが、下層は殆ど含まない。
	4	10YR2/3	黒褐色土	ややサラサラ感があり、4A、4B層のブロックを多く含む。
	5	10YR3/4	暗褐色砂質土	4A層主体で黒褐色の濁りが入る。地山の可能性あり。
S019	青1	2.5Y4/2～2/2	暗灰黄色砂土	細砂混じり。極砂～シルト。全体的に細かいブロック状。作土か。
	青2		暗灰黄色作土	粒径は変わらないが、明るい。粗いブロック状顕著。
	A-1			
	A-2			細～中砂混じり。極細砂シルト質。撹乱。
	A-3			中砂混じり。極砂～細砂質シルト。ラミナが見えないがA-1別の場所ではある。
	A-4			細砂～シルト鉄分のところが一番堅い。
	A-5			細砂～シルトが点状に多く入る。粗いブロック状。人為的な埋土と思われる。
	A-6	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト～細砂。若干暗め。
	A-6-①	5Y4/1～4/2	灰～灰オリーブ	細かいが粗い砂も多く混じる。①～④はわずかな差しかないが、層界が明瞭ではないがあり。人為的な埋没と撹乱、掘りなおしなどの連続と思われる。どれも撹乱は弱い。
	A-6-②			シルト～細砂のブロックの中に炭化物がわずかに混じる。①～④はわずかな差しかないが、層界が明瞭ではないがあり。人為的な埋没と撹乱、掘りなおしなどの連続と思われる。どれも撹乱は弱い。
	A-6-③			弱く撹乱を受けている。③と④がセットと思われる。①～④はわずかな差しかないが、層界が明瞭ではないがあり。人為的な埋没と撹乱、掘りなおしなどの連続と思われる。どれも撹乱は弱い。
	A-6-④			シルト～細砂のブロックが目立つ。③と④がセットと思われる。①～④はわずかな差しかないが、層界が明瞭ではないがあり。人為的な埋没と撹乱、掘りなおしなどの連続と思われる。どれも撹乱は弱い。
	B	2.5Y4/2	暗灰黄	シルトまじり極細～細砂。比較的ゆるい砂が小さな点状に広がるところあり。人為的埋土と思われる。
	C上部	2.5Y4/2	暗灰黄	下部はシルトのラミナが入る。細～シルト。極細～細砂が点々と入る。不明瞭、右と同じと思われる。平面掘削でﾗｲﾝが比較的はっきり見えるので上から入っていると思われる。多少撹乱を受けている。
	C下部			シルト～細砂。全体として上方は粗い。極細～細砂の乱れたラミナ。シルト、中砂混じるラミナ。
	D上部	2.5Y4/2		ゆるく土壌化。若干明るい。極細～細砂質シルト。
	D下部	2.5Y4/2		ゆるく土壌化。砂質シルト。シルトがブロック状。
	E上部			細砂、極細砂混じる。細～中砂ラミナ不明瞭。細砂の混じりが多い部分がある。左上がり部分に4層のブロックを含む。
	E下部	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	砂質土と4層のブロック状。非常に粗いブロック状。わずかに撹乱を受けているか？加工部。ブロック状目立たない土壌化。
	F-1	2.5Y4/2～4/1	黄灰砂質土	シルト混じり、極細砂、細砂入る。4層ブロックが混じる。若干加工部残こるか。掘りなおし。
	F-2	5Y4/1	灰	砂混じりシルト。撹乱を受けている。4層のブロックは入る。
	F-3			4層ブロック混じる。シルトと極細～細砂のラミナ。
	G			ややブロック状。加工部の可能性あり。
	H	5Y4/1	灰	底でやや土壌化しているような感じ。4層のブロック混じる。やや撹乱。
	黄1	2.5Y4/2	暗灰黄色	復旧土坑群と思うが中にラミナがのこる。シルト～細砂の大きなブロックが入る。
	黄2	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色砂質土	1層にしては暗い、粗いブロック状。埋土と思われる。
	黄3	2.5Y4/2	灰黄色砂質土	極細～細砂。下を明瞭に切るため溝、土坑埋土と思われる。シルト～極細が点々と多く入る。

Tab.7　市電敷地土層注記表（3）

遺構番号	層名	色　調		備　　考
S020	S020上	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質	やや砂っぽい。2層上部にあるか、1層下部にあるか、1層っぽいか。
	S020中	5Y3/1～4/1	オリーブ黒粘質土	橙色の粒々多く混じる。見た感じははっきり2層。
	S020下	2.5Y3/1～4/1	黄灰色	砂混じり。弱く撹乱を受ける。
	S020下’			2層に4層がブロック状に入る。加工部が撹乱を受けているか。
S023	1	2.5Y3/1～3/2	黒褐色砂質土	やや粘りあり。2層と3層が混ざった感じ。ブロック状は目立たない。
S024	1		黒褐色粘質土	2層に3層が入るブロック状。2～7㎜の炭化物多く入る。若干砂が入る。
S026	①	10YR2/2	黒褐色砂質土	きめが細かくザラザラ感がある。2～3㎜大のカーボンや褐色粒を所々含む。土器が多い。
	①’	10YR2/1	黒色粘質土	カーボンが集中して粘質化した土。
	②	10YR3/3	暗褐色砂質土	①層と比較するとやや硬くしまる。遺物はほとんど含まない。混入物もほとんどない。
S028	1	10YR2/3	黒褐色土	部分的に砂質土と粘質土が混じる。2～5㎜大のカーボン、焼土粒が所々に入る。遺物は多い。
	2	10YR2/3	黒褐色土	4A層が入り、より砂質が強くなる。遺物は少ない。
S029	①	10YR2/3	黒褐色砂質土	1～3㎝大の4Ａ、Ｂブロックを所々に含む砂質土。②層よりややわらかい。
	②	10YR2/3	黒褐色砂質土	1層との違いはややしまること。
	③	10YR3/3	暗褐色砂質土	4Ａ、Ｂのブロックのみの層。黒褐色土は殆ど混入せず、①、②層と比較して砂質が強い。
S030	1	10YR2/3	黒褐色粘質土	やや粘質でやわらかい。遺物多し。
	2	10YR2/3	黒褐色粘質土	1よりややしまる。砂質が強い。遺物はほとんどない。
	2’	10YR2/3	黒褐色砂質土	4A層の割合が多く砂質がより強い。遺物はほとんどない。
S031	1層	10YR3/1	黒褐色粘質土	ややカクランドに似るが、目が細かく粘質がある。3～5㎜大のカーボンを所々に含む。
	2層	10YR2/2	黒褐色粘質土	目は細かいがやや砂質である。遺物を多く含む。
	3層	10YR2/3	黒褐色砂質土	目が細かく砂質が強い。4A層の色調に似てやや明るい。
S032	1	7.5Y2/2	黒褐色シルト	粗く、粘性ほとんどない。極細砂が混じり、しまりほとんどない。
	カマド1	10YR3/2	黒褐色シルト	粗くしまり弱い。焼土、粘土、カーボン多く混じる。
	カマド2	10YR2/3	黒褐色砂質土	粗くしまりほとんどない。砂質、粘性なし、粒子は細かい。カーボン多く混じる。
	カマド3	10YR2/3	黒褐色砂質土	粗くしまりない。粘性ほとんどない。
S033	①	7.5YR3/1	黒褐色土	黒色土
	②	10YR2/3	黒褐色土	ブロック混入土。
	③	10YR3/3	黒褐色土	埋土黒色土
	③’	7.5YR4/4	褐色土	褐色土混入
	④	7.5YR2/2	褐色土	ブロック混入土。
S034	1	10YR3/3	暗褐色砂質土	粒はやや小さくしまりはない。
	2	10YR3/4	暗褐色砂質土	粒はやや小さく、硬いがあまりしまりはない。
	4A	10YR3/3	暗褐色砂質土	粒はやや小さい。部分的に10YR4/6褐色砂質土が混ざる。
S035	1	10YR3/4	暗褐色粘質土	粒はやや小さく、弱いながらも粘性あり。10YR4/6褐色粘質土のブロック状塊が点在する。
	2	10YR3/3	暗褐色粘質土	粒はやや小さく、粘性は1より強い。
	3	10YR3/4	暗褐色砂質土	粒はやや小さく、硬くしまっている。
	4	10YR3/3	暗褐色砂質土	粒はやや小さく、しまりはない。
S036	カ①層	10YR2/3	黒褐色土	カマド内の土。焼土やカマドの土のブロックを多く含む。部分的に粘質。
	カ②層	10YR2/3	黒褐色砂質土	土色は全体的に黒褐色土。カ①層よりやや粘質が強い。
S037	1	10YR2/3	黒褐色土	どちらかというと粘質土である。カーボン、焼土粒子がはいる。
	2	10YR2/3	黒褐色土	やや砂質土であり、カーボン、焼土粒、4A、B層ブロックが入る。色調は①層よりやや明るい。但し、やや混入物が少ない。
	3			硬化層。カーボン、焼土粒が入る。但し、カーボン、焼土粒はない。
	4			住居を作る際の整地層と考えられる層。黒色土の4A、Bのブロック土が多く入り、砂質が強い。
S038	1層	7.5YR5/4	にぶい褐色粘質土	カマドの粘土、焼土、カーボンを含む層。粘土が多いため粘性が強いがカマドを壊した跡か？
	2層	10YR2/3	黒褐色土	きめが細かく、どちらかというと砂質土か。カーボン、粘土、焼土を所々に含むが1層ほどではない。

Tab.8　市電敷地土層注記表（4）

遺構番号	層名	色調		備考
調査区土層断面のS038	①	10YR2/3	黒褐色土	どちらかというと粘質土である。カーボン、焼土粒子が入る。
	②	10YR2/3	黒褐色土	やや砂質土であり、カーボン、焼土粒、4A、B層ブロックが入る。色調は①層よりやや明るい。
	③			硬化層。カーボン、焼土粒が入る。
	③’			やや硬化するが、③ほどではない。カマドのかきだし土が含まれると思われる。
	④			住居を作る際の整地層と考えられる層。黒色土の4A、Bのブロック土が多く入り、砂質が強い。
S039	1	10YR3/3	暗褐色砂質土	粒はやや小さく、しまりはない。
	2	10YR3/4	暗褐色砂質土	粒はやや小さく、硬くしまっている。（硬化層）
	3	10YR3/3	暗褐色砂質土	粒はやや小さい。所々褐色砂質土が混じる。
S040	①	10YR2/2	黒褐色砂質土	4A層の褐色砂層がラミナ状に入る。より砂が強い。自然に流路内に堆積した感が強い。遺物を含む。
	①’	10YR2/2	黒褐色土	4A層は殆ど含まない。①層と比較して砂質感はない。2～3㎜大のカーボンや褐色粒を所々含む。遺物を多く含む。
	②	10YR2/1	黒色砂	硬くしまる、純粋な砂層。自然堆積層。
	③	10YR2/2	黒褐色砂質土	①層と同様砂質が強い土。基本的には①’の下部で砂質土といった感じ。
S041	1	10YR2/3	黒褐色土	どちらかというと粘質土か。S028の1層と酸化鉄。
	2	10YR2/3	黒褐色土	4A礫が入り、砂粒が粗い。S028の2層に酸化鉄。
S042	1	10YR3/3	暗褐色砂質土	粒はやや小さく、粘性はない。
	2	10YR3/4	暗褐色砂質土	粒はやや小さく、硬くしまっている。（硬化層）
	3	10YR3/3	暗褐色砂質土	粒はやや小さい。所々10YR4/6褐色砂質土が混じる。
S043	①			混入物少ない。
	②	10YR2/3	黒褐色粘質土	粘土、カーボン、焼土を含む。焼土を一番多く含む。
S044	1	10YR2/3	黒褐色粘質土	カマドの中心に堆積した土。カーボンや焼土を所々に含むが主体は黒褐色土。粘性はあるがややしまる。
	2	2.5YR5/8	明赤褐色土	色調は焼土の色。焼土、カーボン、粘土、灰の層。
	3	10YR2/2	黒褐色土	1層と比較すると、混入物もほとんどなく砂質がやや粗い。
S045	1	7.5YR3/4	黒褐色粘質土	粘性ややあり。炭のブロックを少量含む。しまり強い。粘土は粗く細かい。
	2	10YR4/6	褐色粘質土	粘性ややあり、しまり強い。粒子は粗く細かい。焼土が少量混じる。
S047				埋土は、基本土層の2～3層の様相を示す。
S048	1	10YR2/3	黒褐色粘質土	きめが細かく、5～10㎜大のカーボン粒、焼土、4A、Bブロックを含む。遺物が多い。
	2	10YR2/3	黒褐色砂質土	きめがやや粗く、砂質土である。混入物やや少ない。
S049	1	10YR2/3	黒褐色土	きめが細かくどちらかといえば砂質土。所々2～3㎜大のカーボンや褐色粒が入る。
	2	10YR2/3	黒褐色土	部分的に硬化している層。4B層ブロック入り、1層と比較してやや色調が明るい。
S050	①	10YR2/3	黒褐色土	
	②			焼土とカーボンを含む層。部分的に硬化。（S048　1層とほぼ同じ）
	③			やや4Aを含み砂質が強い。（S048　2層とほぼ同じ）
S051				埋土は、基本土層の2～3層の様相を示す。
S052	1	10YR2/3	黒褐色粘質土	粘性ややあり。細かい粒子。しまり強い。炭、焼土混じる。
	2	10YR3/4	暗褐色粘質土	粘性ややあり。細かい粒子で粗い。しまり強い、1と同じくらい。炭、焼土混じる。
	3	10YR2/3	黒褐色粘質土こ	粘性ややあり。2より強い。細かい粒子で粗い。しまり強い、2と同じくらい。炭の粒子を少量混じる。
S054	1	10YR3/4	暗褐色砂質土	土のしまりはない。粘土はやや小さく、少し粗い。
	2	10YR3/3	暗褐色砂質土	土のしまりはあまりない。粒はやや小さく1よりきめが細かい。
	3	10YR3/4	暗褐色砂質土	土は少し硬くしまる。粒はやや小さい。
S058				埋土は、基本土層の2～3層の様相を示す。
S059	1	10YR3/3	暗褐色土	細かい粒子で粗い。炭、焼土が全体に混じる。白い砂質のブロック少量混じる。
	2	10YR3/4	暗褐色土	粘性ややあり。焼土を一部に含む。
	3	10YR3/4	暗褐色土	全体にカーボンを多く含む。
	4	10YR3/4	暗褐色土	1・2より明るい。全体に白、橙の砂質のブロックと多量に含む炭、焼土は混じらない。
S060	上層	10ＹR2/3	黒褐色粘質土	粘性がやや強い。下層は4A層がやや混じる。
S063				埋土は、基本土層の2～3層の様相を示す。

Tab.9　市電敷地土層注記表（5）

遺構番号	層名	色　調		備　　考
S070	1	10YR2/3	黒褐色砂質土	細かいブロック状の部分がある。周囲の3層より暗めの色調。
	2			3層と4層の極めて粗いブロック状、4層の割合が多いか。1、2の層界明瞭。
S074				埋土は、基本土層の2～3層の様相を示す。
S075	1	2.5Y3/1	黒褐色粘質土	2層と3層が混ざる。中に炭上炭化物は殆ど含まない。
	2	5Y2/1～3/1	黒色粘質土	炭状の炭化物が著しく多い。木炭のような炭化物を含まない腐植質。
S076	①	10YR2/1	黒色粘質土	0.5～2㎝大のカーボンを所々に含む粘質土。しかし、上層は硬くしまる。４Ｂ層のブロック（1㎝大）を多く含む。中央に灰と思われる堆積層あり。
	②	10YR2/1	黒色粘質土	やや色調が明るい。上層では井戸枠ではないかと思われたが、掘り進めるとその確実性はつかめなかった。
	③	10YR2/3	黒褐色土	４Ａ、Ｂ層のブロックが多く含まれる。硬くしまる層。色調が他に比べ明るい。
	④	10YR2/1	黒色粘質土と黒褐色粘質土	混合した粘質土。色調が暗いところと明るいところがある。混入物と①層とよく似ている。やわらかい土。
	⑤	10YR2/1	黒色粘質土	上層と比較して粘質土といえどもやや硬くしまる。混入物は変わらない。
	⑥	10YR1.7/1	黒色粘質土	いわゆる青灰色粘質土である。においもありくさい。最下層は、やや暗褐色のパサパサした土である。この黄灰層の最下層には、拳大の礫が5～6個あった。（4～5㎝厚）
S078	a			肌色の砂混じり粘土。上位は根跡で寸断されているが、基部が残っている。上部にカマド白粘土残部あり。
	b	2.5Y3/1	黒褐色粘質土	灰状の炭化物が多く混じる。最下部に白粘土ブロックがラミナ状にはいる。土坑埋土。3層にしては暗めの色調）
	c			3～4層の粗いブロック状。
	d	2.5Y3/1～4/1	黒褐色粘質土	4層ブロック殆ど混じらない。粘質、他に比べ強め。
S078	a	5Y4/1～3/1	灰色粘質土	砂質は殆ど感じないが、粘りもなくパサパサしている。白粘土ブロックはカマドの周囲に混じるが多く混じるのではなく稀に混じる。遺構廃棄の時の覆土。
	b		にぶい黄褐色粘質土	粘質も粘土ではなく、パサつく。若干砂が混じる。途切れるのは、上位から根跡などの撹乱が入るため。
	c		暗灰黄色粘質土	aより細かい。4層がブロック状に混じり、下部ほど多く大きく混じる。（竪穴内整地層）上2～3㎝はブロックは目立たない。（上面が床と思われる）
	d			cと4層が粗いブロック状。
	e		灰色粘質土	cより細かい。4層がしみのように暗色になる。4層がブロック状に混じるところがある。
S079				埋土は、基本土層の2～3層の様相を示す。
S080				P.541、545-1、549、553、556で構成。いずれも基本土層の2層。
S081				P.542、546、550、554、557で構成。いずれも基本土層の2層。
S082				P.11、522（2～3層）、532、538、520（3層）、56、3（2層）で構成。
S083				P.126、575（3層）、264、266（2～3層）で構成。
S084				P.194、196、570（2～3層）、462（3層）で構成。
S085				P.148（2層）、169（2～3層）、187、189（3層）で構成。
S086				P.441、439、433（3層）、143、10、12、445、434、25、42、66、567、431、240、86、84（2層）で構成。
S087				P.543、544、165、252で構成。いずれも基本土層の2層。
S088				P.481（2～3層）、560、466、558（2層）で構成。

Tab.10　市電敷地北側ピット観察表（1）

※埋土は基本土層、上端・下端はレベル値

ピット番号	確認地点	覆土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	柱穴の有無	（土師器）		（須恵器）		（陶磁器）		（黒色土器）		（瓦）		（石器）		（その他）		備考
										数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
2	C-49	2層	26.5	25.0	0.569	7.649	7.080	7.196	無	17	124	5	19			1	7	2	110					（焼土入り）
3	B～C-49	2層	64.0	43.0	0.526	7.611	7.085	7.135		7	37													P5に接する。
5	B～C-49	2層	32.0	26.0	0.560	7.666	7.106		無	18	151	2	19					1	39					P3と接する。
7	B-49	2層	25.5	25.0	0.427	7.617	7.190			4	29													P12と接する
8	B-49	2層	51.0	43.0	0.525	7.605	7.080	7.115		19	234	2	9											
9	B-49	2層	31.0	28.0	0.248	7.622	7.374	—	無			2	39											
10	B-48～49	2層	120.0	50.0	0.320	7.582	7.262	—		20	209	5	71			1	14							調査区外にのびる
11	B-49	2層～3層	161.5	50.0	0.355	7.576	7.221	—		64	447	5	37			2	10	2	271					P439と切り合い不明。
12	B-49	2層	95.0	72.0	0.777	7.612	6.835	7.154		133	1393	25	329					2	71					P7と接する。
12-1	C-49	2層	33.5	29.0	0.506	7.589	7.083	—	無															
12-3	B-49	2層	33.5	31.5	0.415	7.604	7.189	—	無															S059を切る。
13	B-49	2層～3層	33.0	30.0	0.554	7.580	7.026	7.146		20	168	15	81											
15	B-49	2層	—	48.0	0.461	7.587	7.126	—		50	398	5	48							石炭1	5			
17	B-50	2層	33.0	29.0	0.478	7.598	7.120	—	無	48	257	11	278											
18	B-50	2層	34.0	29.0	0.277	7.564	7.287	—		26	135	2	19											
19	B-49～50	2層	—	—	0.486	7.559	7.073	—		78	416													P77、434、457と切り合い不明。
20	B-49	2層	56.0	45.0	0.552	7.569	7.017	—		6	27													P422と切り合い不明。
21	A-49	2層	25.0	23.0	0.187	7.561	7.374	—		4	42	3	18											
23	A-49	2層～3層	69.0	—	0.394	7.591	7.197	—		11	66													調査区外にのびる。
24	B-50	2層	31.5	32.0	0.349	7.573	7.224	—		27	256	2	15			1	5							P430を切る。
25	B-50	2層	64.0	46.0	0.528	7.444	6.916	—		32	197	10	59							軽石1				P244と切り合い不明。軽石1
26	B-50	2層	25.0	23.5	0.313	7.584	7.271	—		4	27	1	12											P542を切る
27	B-50	2層	28.5	24.0	0.199	7.600	7.401	—	無	6	22	4	36											
33	B-50	2層	27.0	25.0	0.366	7.584	7.218	—	無	35	151	1	34											
34	B-50	2層	27.0	23.5	0.233	7.593	7.360	—	無	11	51	1	6											
39	B-50～51	2層	32.5	31.5	0.270	7.613	7.343	—	無	8	84													
40	B-50	3層	65.5	56.5	0.593	7.536	6.943	7.075		9	48	1	19											
41	B-50	2層	76.0	67.0	0.648	7.602	6.954	—		11	73													
42	A～B-50	2層	107.0	93.5	0.787	7.590	6.803	—		98	479	6	94							軽石1				
43	A-50	2層	32.0	31.5	0.248	7.613	7.365	—	無	14	57	1	2											P42を切りP44に切られる。
44	A-50	2層	30.0	34.5	0.257	7.557	7.300	—				1	15											P43を切る。
47	B-51	2層	33.0	29.5	0.378	7.615	7.237	—		37	247	1	9											
48	B-51	2層	35.0	34.0	0.558	7.598	7.040	—	無	36	280	1	11			1	14							
49	B-51	2層	36.5	35.5	0.259	7.600	7.341	—		28	135	1	9											糸切り土師小皿の完形出土
52	B-49	2層～3層	45.0	34.0	0.440	7.557	7.117	—																
54	A-49	3層	46.0	36.0	0.228	7.585	7.357	—		7	69													
55	B-49～50	2層	32.0	28.5	0.491	7.599	7.108	—	無	10	53													
57	A～B-50	2層	64.0	48.5	0.522	7.550	7.028	—		7	101													
59	A-50	2層～3層	46.0	44.0	0.631	7.585	6.954	—		6	121					1	8			1				
60	B-50	2層～3層	40.0	36.0	0.517	7.591	7.074	—		11	96													調査区外にのびる
64	B-50	2層	29.0	22.5					無	15	115													樹痕
65	B-50	2層	28.0	27.0	0.308	7.616	7.308	—	無	39	292	1	16											
66	B-51	2層	22.5	19.0	0.485	7.590	7.105	—	無	32	263	4	67											

Tab.11　市電敷地北側ピット観察表（2）

ピット番号	確認地点	覆土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	柱穴の有無	（土師器）		（須恵器）		（陶磁器）		（黒色土器）		（瓦）		（石器）		（その他）		備考
										数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
69	B-51	2層	28.5	27.0	0.239	7.599	7.360	—	無	6	67													
71	A～B-51	2層	33.5	27.5	0.326	7.601	7.275	—	無	17	97	4	20											
72	B-51	2層	23.5	19.5					無	1	11													樹痕
74	A-50	2層	82.0	39.0	0.405	7.581	7.176	—																樹痕の可能性が高い。P435と切り合い不明。
75	A-50	2層	33.5	30.0						19	96	1	24											位置確認できず
76	A-50	3層	34.5	30.5	0.470	7.603	7.133	—		7	60	2	61											P434を切る。
77	A-50	2層	27.5	27.0	0.415	7.564	7.149	7.393	無	22	189	8	93							滑石1	15			P19と切り合い不明。滑石1(15g)
80	A-51～52	2層	31.5	30.0	0.453	7.531	7.078	—	無	3	25					1	7							S049を切る。
81	A-51	2層	19.5	18.0	0.186	7.559	7.373	—	無	13	62													S071を切る。
82	A-51	2層	44.5	40.0	0.202	7.563	7.361	—		3	25													S048を切る。
83	A-51	2層	32.5	27.0	0.266	7.567	7.301	—		13	62							1	27					S048を切る。
84	A-51	2層	38.0	36.0	0.372	7.571	7.199	—	無															S048を切る。
85	A-51	2層	29.5	28.5	0.432	7.556	7.124	—	無	4	77	1	15											S048を切る。
86	A-50	2層	64.0	20.0	0.059	7.565	7.506	—		9	63	4	23											カクランに切られS048と接する。
87	A-50	2層	51.0	17.0	0.278	7.587	7.309	—		18	100	1	12			1	8							S071を切る。
88	A-50	2層	30.0	21.0	0.392	7.569	7.177	—		8	58													S050、071を切る。
89	A-50	2層	49.0	30.0	0.292	7.576	7.284	—		28	324	1	3											S050を切る。
90	A-51	2層	35.5	31.0	0.249	7.586	7.337	—	無	14	82	1	8											S050を切る。
91	A-51	2層	33.0	28.0	0.373	7.544	7.171	—		5	40	2	68			1	6							S048を切る。
93	A-52	2層	38.0	31.5	0.317	7.540	7.223	—	無	6	58	1	5											S049を切る。
94	A-52	2層	38.0	34.5	0.566	7.556	6.990	—	無	21	131													S049を切る。
95	A-52	2層	35.0	33.0	0.371	7.557	7.186	—	無	55	1527	2	110											S049を切る。
96	A-52	2層	31.0	29.5	0.319	7.583	7.264	—	無	9	37	1	19											S049を切る。
101	A-51	2層	32.0	32.0	0.308	7.544	7.236	—	無	1	4													S048を切る。
102	Z^2-52	2層	32.5	28.5	0.411	7.589	7.178	—		10	78	1	10											
105	A-53	2層	28.5	24.0	0.339	7.544	7.205	—		9	83													
107	A-53	2層～3層	58.0	50.0	0.608	7.581	6.973	—		2	14													
108	Z^2-53	2層	59.0	50.0	1.388	7.567	6.179	—																
109	Z^2-52	2層	34.5	—	0.165	7.608	7.443	—		1	6													調査区外にのびる
110	Z^2-53	2層	32.5	—	0.142	7.570	7.428	7.481		1	7													調査区外にのびる
111	Z^2-53	2層	72.0	54.0	0.299	7.535	7.236	—		16	77	1	15			1	4							P460と切り合い不明。
114	Z^2-53	2層	31.0	30.0	0.447	7.418	6.971	—		1	10													S045を切りP114、P467に切られる。
117	Z^2-53	2層	35.5	30.5	0.332	7.506	7.174	—		6	26													樹痕の可能性あり
118	A-50	2層	26.5	25.5	0.275	7.591	7.316	—	無	3	14													
119	C-53	2層～3層								7	81	2	27											位置確認できず
120	Y^2-53	2層	57.5	—	0.336	7.522	7.186	7.277		1	8													調査区外にのびる
121	Z^2-51	2層～3層	80.0	73.5	0.457	7.532	7.075	—		49	234	7	48											S045を切る。
123	Y^2～Z^2-54	2層	29.0	27.5	0.369	7.595	7.226	—		6	34	1	6											
124	Y^2-54	3層	41.0	40.0	0.575	7.576	7.001	—		2	13													
125	A-50～51	2層	24.0	21.5	0.272	7.551	7.279	—	無	16	103													S048を切る。
126	W^2～A-56	2層	77.0	76.0	0.538	7.410	6.872	7.057		5	31													S038を切る。
128	A-51	2層	23.0	22.5	0.465	7.568	7.103	—																S048、058を切る。
131	A-52	2層	25.0	25.0	0.430	7.616	7.186	—	無															

Tab.12　市電敷地北側ピット観察表（3）

ピット番号	確認地点	覆土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	柱穴の有無	（土師器）		（須恵器）		（陶磁器）		（黒色土器）		（瓦）		（石器）		（その他）		備考
										数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
135	Z²-52	2層																						S061の一部
136	A-53	2層	29.0	27.0	0.432	7.580	7.148	—		21	88	1	4	青磁1	4									
138	Z²-53	2層	26.0	25.5	0.310	7.533	7.223	—		4	34													
141	Z²-53	2層	32.0	31.0	0.469	7.554	7.085	—		1	11													
145	B-52	2層	26.0	23.0	0.136	7.543	7.407	—		18	83													カクランに切られる。
147	Y²-55	2層	31.0	28.0	0.340	7.551	7.211	—		5	42													
148	Y²-54	2層	78.0	76.0	0.574	7.546	6.972	—		31	237	2	11			2	26							
149	Y²-54	2層	34.0	33.0	0.464	7.558	7.094	—		10	33	2	15											
151	Y²-54	2層	36.0	34.0	0.431	7.549	7.118	7.188		2	32	1	12											
153	Z²-53	2層～3層	54.0	49.0	0.622	7.572	6.950	—		4	33													P425を切る。
154	Y²-54	2層	82.0	52.0	0.481	7.547	7.066	—		63	648	13	141			1	5							
155	Y²-53	2層	30.0	28.0	0.383	7.568	7.185	—		15	118													
156	Y²-54	2層～3層	46.0	46.0	0.664	7.546	6.882	—		35	124	3	22											S023に切られる。
158	Y²-55	2層～3層	60.0	58.0	0.480	7.487	7.007	7.040		4	69	1	6											
159	A-52	2層	50.5	45.0	0.315	7.543	7.228	—		9	47													S049を切る。
160	A-52	2層	48.5	46.5	0.444	7.540	7.096	—		30	183	1	6											
161	A-52	2層	50.5	49.0	0.473	7.569	7.096	—		22	170	2	53											
164	A-53	2層	29.5	27.5	0.454	7.580	7.126	—		1	16													調査区外にのびる
167	Z²-53	2層～3層								14	145	2	8											S067の一部
169	Y²～Z²-54	2層～3層	75.5	62.0	0.614	7.597	6.983	—		30	331	3	48			1	4	1	58					
171	Y²-54	2層	38.0	30.0	0.329	7.530	7.201	—		1	10	1	4											
172	Y²-54	2層～3層	33.0	32.5	0.358	7.533	7.175	—		7	38	1	12											
176	Y²-55	2層～3層	48.0	40.0	0.498	7.521	7.023	7.049		15	93					1	3							
179	X²-55	2層	44.5	—	0.404	7.475	7.071	—		35	131	2	13			1	2							
182	A-53	2層～3層	60.0	50.0	0.630	7.601	6.971	—		32	131													P472を切る。
183	A-52	2層	29.0	16.0	0.238	7.580	7.342	—																調査区外にのびる
186	Y²-53	不明	32.0	30.0	0.350	7.529	7.179	—																
187	Z²-54	3層	60.0	57.0	0.511	7.544	7.033	—		4	52	1	16											
188	Z²-54	3層	73.5	—	0.512	7.546	7.034	7.152		13	114	1	6											S054を切る。
189	Z²-54	3層	62.0	52.5	0.451	7.524	7.073	—																
192	Y²-55	2層～3層	70.0	68.0	0.791	7.497	6.706	6.825																S063を切る。
194	X²-56	2層～3層	80.0	74.0	0.612	7.502	6.890	6.997		9	21													P227と切り合い不明。
196	X²～Y²-56	不明	74.0	72.0	0.626	7.575	6.949	—		9	79	3	26							3				S026に切られる。
197	Y²-56	2層～3層	52.0	40.0	0.559	7.513	6.954	—		41	212	5	34					1	34					
199	Y²-56	2層	43.0	38.0	0.727	7.590	6.863	—		12	52	2	28											S045と接する。
200	Y²-56	不明	42.0	38.0	0.536	7.561	7.025	7.111		33	397	3	88			2	5							
201	A～Z²-51	2層	37.0	35.0	0.347	7.539	7.192	—		2	13													S021と接する。
204	X²-56	2層	68.5	—	0.446	7.572	7.126	—		4	64	1	18											調査区外にのびる
205	X²-56～57	2層～3層	41.0	38.0	0.512	7.552	7.040	—		7	53	5	63											
208	X²-57	3層	47.0	41.5	0.462	7.533	7.071	7.202		10	53													
211	X²-57	3層	29.0	25.0	0.475	7.536	7.061	—		9	52													
212	X²～Y²-57	2層	55.5	48.0	0.613	7.539	6.926	—		6	57	1	15							砥石1	6			やや砂質混ざる
213	X²-57	2層～3層	38.0	33.0	0.404	7.562	7.158	—		8	25													

Tab.13　市電敷地北側ピット観察表（4）

ピット番号	確認地点	覆土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	柱穴の有無	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備考
										数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
214	Y²-57	3層	37.0	31.0	0.317	7.588	7.271	—		1	8	2	11											
219	Y²-56	3層	40.0	40.0	0.588	7.577	6.989	—																
223	Y²-56	2層～3層	41.5	34.0	0.477	7.556	7.079	—																砂質土
227	X²-56	2層～3層	64.0	60.0	0.616	7.506	6.890	7.050/6.997		6	84	3	68			1	13	1	103					P194と切り合い不明
229	X²-56	3層	17.0	16.0		7.564	—	—																下場は樹痕の影響のため測定不能。
231	X²-56～57	2層	32.0	25.0	0.261	7.565	7.304	—																
233	X²-57	2層～3層	48.0	44.0	0.456	7.548	7.092	—																
234	Y²-57	3層	40.0	36.0	0.358	7.543	7.185	—		4	12	6	296			1	3							
236	X²～Y²-57	2層	35.5	27.0	0.456	7.567	7.111	—		2	34													
240	A-51	2層	48.0	25.0	0.389	7.580	7.191	—		32	152	2	22											S071と切り合い、カクラン(土管)に切られる
241	Y²-55	2層	56.0	54.0	0.773	7.474	6.701	—		68	476	5	170					2	120					
244	B-50	2層	70.0	46.0	0.523	7.588	7.065	—		88	818	5	45					1	5	1				P25と切り合い不明
245	C-50	2層	32.5	31.5	0.295	7.681	7.386	—		29	313	8	138											
248	A-53	2層	25.5	24.0	0.226	7.597	7.371	—		4	30													
252	Z²-53	2層～3層	52.0	46.0	0.434	7.512	7.078	—																S045を切る。
254	Z²-53	2層	50.0	48.0	0.181	7.490	7.309	—		67	551	5	38											カーボン、焼土混じる。
255	B-50	2層～3層	59.0	51.0	0.508	7.622	7.114	—		10	51	1	5											
258	X²-58	2層～3層	90.0	74.5	0.246	7.594	7.348	—		19	139													
259	X²-58	2層	47.0	—	0.551	7.590	7.039	—		3	12													P421と切り合い不明。
262	X²-58	3層	34.0	31.5	0.606	7.588	6.982	—		9	133					1	5							
264	W²-57	2層～3層	85.0	—	0.834	7.556	6.722	6.853/6.888		5	40													調査区外にのびる。
265	W²-57	2層～3層	42.5	35.0	0.373	7.584	7.211	—		1	12													
266	W²-57～58	2層～3層	96.5	61.5	0.495	7.602	7.107	—		21	246	1	53											
267	W²～X²-58	2層～3層	52.5	49.0	0.606	7.588	6.982	7.106		8	83	1	8			2	8							
268	W²-59	1層～2層								1	26							1	86					1/100のみ
273	X²-57～58	3層	31.5	29.5	0.424	7.571	7.147	—		1	44													
274	X²～W²-57	3層	23.5	20.0	0.331	7.567	7.236	—																
284	X²-59	3層	52.5	46.5	0.656	7.600	6.944	—		24	61													
294	W²-58	2層～3層	44.0	37.5	0.578	7.598	7.020	—		5	68													
296	Y²-57	2層～3層	46.0	44.0	0.217	7.538	7.321	—		5	39	1	52											カクランに切られ調査区外にのびる
298	D-48	2層～3層	40.0	26.0	0.335	7.717	7.382	—		6	57													P299と切り合い不明。
299	D-48	2層～3層	48.0	40.0	0.415	7.719	7.304	—		17	136	3	59											P298と切り合い不明。
300	D-47	2層～3層	40.0	35.0	0.424	7.709	7.285	—		15	192	2	16											
301	D-48	2層	33.0	29.5	0.406	7.704	7.298	—		30	197	4	69											
303	W²-59～60	2層	124.0	108.0	1.201	7.639	6.438	—		24	170	1	12							1				S033の一部
306	V²-60		86.0	82.0	0.754	7.681	6.927	7.490/6.957		13	64	2	8											
315	W²-59	3層	58.5	41.0	0.571	7.587	7.016	—		2	23	1	26					2	21					S003に切られP545を切る。
328	V²-61～62	3層	42.0	35.0	(0.241)	7.632	(7.391)	—		7	32													下場破線
331	V²-61	3層	35.0	34.5	0.422	7.690	7.268	—		10	44													
333	T²-65	3層	57.5	52.5	0.473	7.635	7.162	—		2	19	1	8											合庁2区P70のステップと考えていたもの
335	T²-65	3A層～3B層	40.0	35.0	0.398	7.615	7.217	—		5	25	1	6											

Tab.14　市電敷地北側ピット観察表（5）

ピット番号	確認地点	覆土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	柱穴の有無	（土師器）		（須恵器）		（陶磁器）		（黒色土器）		（瓦）		（石器）		（その他）		備考
										数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
336	T²-65	3層	82.0	61.0	0.790	7.697	6.907	6.943		16	100	1	9											合庁2区P111の続き P408と切り合い不明
337	T²-65	3B層	54.0	43.0	0.435	7.595	7.160	7.500		9	36	3	15											
340	T²～U²-65	3A層	76.0	52.0	0.473	7.612	7.139	7.198		7	41													
341	T²-65	3A層	45.0	43.0	0.475	7.612	7.137	7.252																
342	U²-65	3層	110.0	100.0	0.544	7.636	7.092	7.167	有															S029P6　S040に切られる。
343	T²-64	3A層	96.0	95.0	0.625	7.573	6.948	—	有															S029P4　S028を切りP374と切り合い不明。
344	T²-64	3A層～3B層	88.0	80.0	0.388	7.560	7.172	7.232/7.290								1	13							S029P3　S040に切られる。
345	U²-64	3A層	100.0	80.0	0.726	7.566	6.840	—																S029P1　P355、399を切る。3A層（やや黒）
348	T²-65	3層	52.0	-	0.986	7.553	6.567	—		1	6													P352を切る。
349	T²～U²-64	3層	86.0	76.0	0.610	7.190	6.580	6.777	有															S029P1　S040に切られる。
352	T²-65	3A層	124.0	110.0	0.856	7.616	6.760	—	有															S029P5 P348を切りP395と接する。
354	U²-64	3A層	30.0	24.0																				S040に切られる。（褐色砂層）
355	U²-64	3層	76.5	34.0		7.645	—	—		9	84	1	19											下場なし。P345に切られる。
356	U²-63	3B層	52.5	51.0	0.251	7.630	7.379	—		3	17	1	4											
357	U²-63	3層	64.0	57.0	0.475	7.619	7.144	7.209		4	32	1	6											
360	U²-64	3層	30.0	21.5	0.202	7.783	7.581	—		20	80	1	9											
362	U²-64	3B層	51.0	45.0	0.266	7.587	7.321	—		7	40	4	31											S040に切られる。
363	U²-63	3B層	54.0	53.5	0.470	7.634	7.164	—		29	150	10	100			1	8							S042に切られる。
364	U²-63	3B層	49.0	40.0	0.383	7.609	7.226	—		19	138													S042と接する。
365	U²-62	1層・撹乱・3層	73.0	61.0	0.394	7.656	7.262	—		25	152	9	88											S039を切る。
366	V²-62	3A層～3B層	35.0	32.5						18	134	1	3					1	17					1/100のみ
367	U²-62	3A層～3B層	62.5	46.0	0.545	7.657	7.112	7.346																調査区外にのびる
368	U²-62	3A層～3B層	42.5	40.0	0.418	7.675	7.257	—		1	120													
370	U²～V²-62	3層	108.0	79.0	0.913	7.662	6.749	7.349	不明															S033の一部
371	V²-62	3層	125.0	95.0	0.135	7.632	7.497		有	19	102	4	69											S033の一部
372	V²-62	3層	121.0	84.5	0.972	7.565	6.593	6.832/6.755	有	24	181													S033の一部
373	U²～V²-61	3層	115.0	79.0	0.849	7.640	6.791	—																S033の一部
374	T²-64	3B層	45.5	41.0	0.409	7.540	7.131	—		9	47	2	16											P343と切り合い不明。
379	U²-63	3B層	34.0	33.0	0.346	7.641	7.295	—		12	113													
384	U²～V²-61	3層	105.0	83.5	0.903	7.625	6.722	7.023/6.845	不明															S033の一部
385	V²-60～61	3層	66.0	24.0	0.879	7.604	6.725	—	不明	2	16													S033の一部　調査区外にのびる
386	V²-60	3層	68.0	54.5	0.587	7.661	7.074	7.125		36	264	1	37											
389	U²～V²-63	3A層	42.5	37.0	0.234	7.608	7.374	—		9	38	2	39											
390	U²-63	3B層	39.0	38.5	0.251	7.614	7.363	—		4	44	1	8											
391	T²-65	3B層	61.0	60.0	0.367	7.618	7.251	—		7	45	1	19											P544と切り合い不明。
392	T²-65	3B層	52.0	41.0	0.345	7.591	7.246	—		40	364	4	15											S017を切る。
393	T²-65	3B層	41.0	38.0	0.289	7.578	7.289	—		2	12													
395	T²-65	3A層～3B層	44.5	40.0	0.358	7.551	7.193	—		4	29													P352と接する。
396	T²-65	3B層	45.5	39.0	0.482	7.553	7.071	7.304		6	63													S041に切られP397と接し、P400と切り合い不明。
397	T²-65	3層	39.0	38.0	0.424	7.565	7.141	—		19	161	1	16											P396と接する。
398	U²-64	3層	115.0	54.0	0.473	7.580	7.107	—		19	184	16	318					1	29					調査区外にのびる

Tab.15　市電敷地北側ピット観察表（6）

ピット番号	確認地点	覆土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	柱穴の有無	（土師器）		（須恵器）		（陶磁器）		（黒色土器）		（瓦）		（石器）		（その他）		備考
										数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
399	U²-64	3B層	42.0	40.0	0.343	7.582	7.239	—																P345に切られる。
400	T²-65	3B層	49.0	30.0	0.219	7.510	7.291	—																S041に切られP396と切り合い不明。
407	V²-61	3層	48.0	40.0	0.514	7.611	7.097	—		7	60													
408	T²-65	3層	40.0	40.0	0.397	7.697	7.300	—																S041に切られP336と切り合い不明。
411	W²-60	3層	45.5	41.0	0.267	7.596	7.329	—		4	22													
412	V²-61	3層	24.0	22.5	0.586	7.579	6.993	7.047		11	88							1	56					
413	W²-59	3層	55.0	52.0	0.580	7.618	7.038	—		13	68	3	15											
415	X²-57～58	2層～3層	40.5	38.0	0.434	7.518	7.084	—		1	10	1	38											カーボン、焼土混じる
416	X²-58	2層	—	49.0	0.643	7.588	6.945	7.176/7.034		9	72	2	19											カーボン、焼土混じる。P421と切り合い不明。
418	X²-56	2層～3層	70.5	64.0	0.446	7.559	7.113	7.229		5	55													P232と同一
419	X²-57	2層	—	46.5	0.448	7.558	7.110	—		3	17													P217と同一。S062を切り、カクランに切られる。
421	X²-58	3層	—	41.0	0.370	7.579	7.209	—				4	26											P259、416と切り合い不明。
422	Y²-56	2層～3層	36.0	32.0	0.484	7.548	7.064	7.150		50	196					1	7			石炭?1	4			P250と同一
423	W²-61	3層	—	115.0	0.712	7.584	6.872	6.952		9	196													S034を切る。
424	Z²-53～54	1層～2層	28.0	26.0	0.425	7.513	7.088	—		3	31													
425	Z²-53～54	2層～3層	—	40.5	0.406	7.472	7.066	—		1	17					1	16							P153に切られる。
427	W²-59	2層～3層	37.5	32.5	0.349	7.582	7.233	—		9	69	2	12											
429	A-50	3層	32.0	30.0	0.391	7.572	7.181	—		14	110	3	36											カクランに切られる。
430	B-50	2層～3層	71.5	—	0.465	7.573	7.108	—		5	34	1	3											P24に切られる
431	B-51	2層	50.0	41.0	0.472	7.538	7.066	—		4	27	1	14											P68と同一
433	B-50	3層	70.0	64.0	0.604	7.599	6.995	7.133		16	43	2	52			1	6							
434	B-49	2層	110.0	90.0	(0.387)	7.147	7.534	—		39	270													P76に切られP19と切り合い不明。
435	A-50	3層	58.0	54.0	0.464	7.577	7.113	—		14	100													P74と切り合い不明
439	B-49	3層	77.0	44.0	0.469	7.593	7.124	7.164		9	26	2	14											P11と切り合い不明。
441	B-50	3層	42.5	38.5	0.404	7.550	7.146	—		6	25													
442	B-49	2層～3層	—	40.5	0.431	7.564	7.133	—																P20と切り合い不明
444	B-49～50	2層～3層	47.0	46.0	0.360	7.549	7.189	—		1	24													樹痕の可能性あり
445	B-49	2層～3層	79.0	58.5	1.570	7.492	5.922	7.287		14	168	8	207											樹痕の可能性あり
450	A-53	3層	50.0	47.0	0.605	7.596	6.991	7.107		11	187	4	22					3	256					S051を切りP461に切られる。
452	Z²-54	2層	34.0	33.0	0.484	7.544	7.060	—		8	49													S054を切る。
454	Y²-55	3層	37.0	31.5	0.143	7.490	7.347	—												1				S052を切る。
455	A-52	2層	121.5	62.0	0.478	7.449	6.971	7.165																S049の中にある
457	A-49～50 B-49	2層	54.0	54.0	0.560	7.579	7.019	7.082		21	138	2	8			5	33							P19と切り合い不明。
460	Z²-52～53	2層	64.0	58.0	0.429	7.555	7.126	7.289		8	67	1	72											P111と切り合い不明。
461	A-53	1層	46.0	46.0	0.459	7.557	7.098	—																S051、P450を切る。
462	Y²-52	2層～3層	44.0	44.0	0.452	7.489	7.037	7.103		17	162	5	79			1	4							S045に切られる。
464	Y²-55～56	2層～3層	61.0	37.0	0.342	7.469	7.127	—																S045を切り、カクランに切られる。
465	C-48	2～③層	28.0	26.0	0.219	7.495	7.276	—																
466	Z²-53	②層～3層 灰色砂質土	69.0	54.0	0.368	7.511	7.143	7.305																樹痕の可能性あり。P467を切る。
467	Z²-53	②層～3層 灰色砂質土	—	23.5	0.286	7.431	7.145	—																樹痕の可能性あり。P114を切り、P466に切られる。
468	B-49	②層～3層	30.0	23.0	0.395	7.649	7.254	—																

Tab.16　市電敷地北側ピット観察表（7）

ピット番号	確認地点	覆土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	柱穴の有無	（土師器）		（須恵器）		（陶磁器）		（黒色土器）		（瓦）		（石器）		（その他）		備考
										数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
470	A-53	不明	49.0	47.0	0.599	7.524	6.925	―																
471	A-53	不明	69.0	43.5	0.507	7.523	7.016	―																
472	A-53	不明	―	52.5	0.407	7.588	7.181	―																P182に切られる。
473	A-53	不明	33.5	29.0	0.408	7.587	7.179	―																
474	A-53～A-54	不明	58.5	54.5	0.693	7.533	6.840	―																
475	A-53	②層～3層	63.0	63.0	0.664	7.607	6.943	―		4	57													P99と同一
476	Z^2-53～54	②層～3層	58.5	53.5	0.059	7.449	7.390	―	有	4	36	1	26											S045と接する。
478	Z^2-54	不明	77.5	59.0	0.507	7.561	7.054	―																
479	A-54	不明	72.5	44.5	0.564	7.575	7.011	―																
480	Y^2-54	不明	56.0	51.0	0.385	7.550	7.165	―																
481	Y^2-53～54	不明	136.5	76.5	0.449	7.562	7.113	―																
482	A-51	不明	48.0	43.0	0.522	7.445	6.923	―																S049に切られる。
483	A-52	不明	65.5	52.0	0.208	7.467	7.259	7.271																S049に切られる。
484	A-52	不明	56.0	49.0	0.320	7.441	7.121	―																S049に切られる。
485	北拡張	2層	32.5	28.5	0.674	7.768	7.094	―		30	172													土師皿、3層とのブロック状埋土
486-1	北拡張	2層	27.0	25.0	0.510	7.745	7.235	―		67	587	11	84			1	5							P486－2と切り合い不明。
486-2	北拡張	2層	28.0	23.0	0.528	7.785	7.257	―																P486-1と切り合い不明。
489	北拡張	2層	31.0	26.0	0.444	7.787	7.343	―		10	33	2	12											2層にしては3層に近い埋土
490	北拡張	2層	29.0	25.5	0.133	7.781	7.648	―		15	63													浅いが明瞭に底のラインが分かる。底が丸いピット。
491	北拡張	2層	25.0	24.0	0.760	7.999	7.239	―		22	81													
492	北拡張	2層	28.5	25.5	0.399	7.829	7.430	―		10	86			青磁1	18									
493	北拡張	2層	32.0	28.0	0.365	7.667	7.302	―		22	75	1	8											
494	北拡張	2層	27.0	24.5	0.245	7.555	7.310	―		22	57	3	23					4	83					
495	北拡張	2層	26.5	24.0	0.240	7.558	7.318	―		28	120	4	25			1	7							S075に切られる。
496	北拡張	2層	28.0	24.0	0.234	7.566	7.332	―		8	64	3	16											S075に切られる。
497	北拡張	2層	26.5	23.0	0.274	7.595	7.321	―		9	37													
498	北拡張	2層	23.5	23.0	0.271	7.598	7.327	―		10	16													
499	北拡張	2層	29.0	28.0	0.210	7.585	7.375	―		4	15	1	3											
500	北拡張	2層～3層	42.0	37.0	0.503	7.567	7.064	―		8	20	1	13											
501	北拡張	2層	25.5	21.5	0.380	7.583	7.203	―		20	64													
502	北拡張	2層	23.5	23.0	0.193	7.574	7.381	―		6	28													
503	北拡張	2層	26.5	26.0	0.322	7.592	7.270	―		9	21													
504	北拡張	2層		25.0	0.130	7.574	7.444	―		15	47													S075に切られる。
505	北拡張	2層	34.0	33.0	0.275	7.559	7.284	―		1	8													
506	北拡張	2層	25.5	22.0	0.328	7.575	7.247	―		6	23	1	22											
507	北拡張	2層	31.0	26.0	0.291	7.590	7.299	―		15	60													
508	北拡張	2層	27.5	24.0	0.285	7.545	7.260	―		4	28	14	56											
509	北拡張	2層～3層	40.0	31.0	0.202	7.588	7.386	―		6	30													
510	北拡張	2層	56.0	53.0	0.367	7.578	7.211	―		11	53													
511	北拡張	3層	47.0	―	0.367	7.578	7.211	―		2	16	3	20											P523、524、525を切る。
512	北拡張	2層	23.0	―	0.228	7.599	7.371	―				1	8											P497と重なる。
513	北拡張	2層	20.0	―	0.212	7.535	7.323	―																P525を切り、P527と切り合い不明。
514	北拡張	3層	40.0	38.0	0.442	7.595	7.153	―		16	109	1	3											P515と接する。

Tab.17　市電敷地北側ピット観察表（8）

ピット番号	確認地点	覆土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	柱穴の有無	（土師器）		（須恵器）		（陶磁器）		（黒色土器）		（瓦）		（石器）		（その他）		備考
										数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
515	北拡張	3層	47.0	33.0	0.439	7.511	7.072	—																P514と接する。
516	北拡張	3層	56.0	54.0	0.189	7.577	7.388	—		21	98													P529、P520を切る。
517	北拡張	2層～3層	34.0	29.0	0.102	7.381	7.279	7.379		5	16													S077の1層目掘削後検出。S077を切る。
518	北拡張	2層～3層	50.0	—	0.160	7.484	7.324	7.399																樹痕が著しい。S079を切り、P2に切られる。
519	北拡張	2層～3層	20.0	18.0	0.218	7.527	7.309	—		6	16							1	3					遺構ではなく樹痕かもしれない。遺物は多い。
520	北拡張	3層	48.0	—	0.507	7.571	7.064	—		4	13													P516に切られる。
521	北拡張	3層	56.0	54.0	0.341	7.567	7.226	—		29	175	3	19											P529を切る。
522	北拡張	3層	47.0	40.0	(0.400)	7.495	(7.095)	—	有	18	141	3	8											柱痕らしき部分があったが、平面では全く確認できず。
523	北拡張	3層	60.0	—	0.131	7.580	7.449	—		11	47													樹痕の可能性大も、P516と大きさ浅さが同じのため遺構として扱う。P511に切られ、調査区外にのびる。
524	北拡張	3層	48.0	—	0.192	7.592	7.400	—		5	15													P511に切られ、P525を切る。
525	北拡張	3層	47.0	45.0	0.338	7.404	7.066	—		17	188													P512を切り、P513、511、524に切られる。
526	北拡張	3層	36.0	—	0.336	7.469	7.133	—		21	99	4	73											埋土2つ。S060に伴う可能性あり。S060掘削中から見えたのでS060最終面に伴う遺構ではない。伴うかどうかは不明も、いい位置にきている。P528を切る。
527	北拡張	3層	21.0	—	0.195	7.607	7.412	—		4	42													P513と切り合い不明で調査区外にのびる。
528	北拡張	3層	38.0	—	0.297	7.490	7.193	—		2	14	2	59											P526に切られる。S060に伴う可能性を否定しない。
529	北拡張	3層	56.0	—	0.297	7.557	7.260	—																P516、521に切られる。
530	北拡張	3層	49.0	39.0	0.059	7.546	7.487	—		1	8	1	12											土器埋納ピット。検出の都合で浅くなったためS078に切られているように見えるが、切り合いは不明としておく。
531	北拡張	3層	61.0	45.0	0.401	7.546	7.145	7.315		17	215	1	28											遺物、石多目に入る。1cmくらいの炭化物点々と入る。S078との切り合い不明。
532	北拡張	3層	37.0	32.0	0.355	7.518	7.163	—		4	39													S078を切る。P533に比べ砂質で4層ブロックが多い。
533	北拡張	3層	34.0	27.0	0.289	7.553	7.264	—		1	37													S078を切る。P533に比べ砂質で4層ブロックが多い。
534	北拡張	3層	41.0	—	0.298	7.471	7.173	7.338		2	18													S078、P540を切り、P541に切られる。粘質強め（カクランの影響か）
535	北拡張	3層	72.0	43.0	0.291	7.420	7.129	7.271				1	7											やや変色。P537と切り合い不明。S078の下。
536	北拡張	3層	37.0	34.0	0.198	7.479	7.281	—		8	50													浅く小さめ。根痕に見えるが、S078掘削中から明瞭に見えたため遺構としておく。
537	北拡張	3層	50.0	41.0	0.307	7.377	7.070	—																P535と切り合い不明。S078の下。
538	北拡張	3層	39.0	36.0	0.310	7.417	7.107	7.299				2	92											S078埋土2中から見えていた。3層埋土だがボソボソしていて根痕かも。
539	北拡張	3層	43.0	42.0	0.431	7.403	6.972	7.057		2	11	1	4											4層ブロック目立つ。S078の下。
540	北拡張	3層	52.0	—	0.444	7.529	7.085	7.288		4	58													やや粉っぽい。色調明るめで4層ブロック多く混ざる。P541と切り合い不明。
541	Z²-52	2層	62.0	60.0	0.654	7.553	6.899	—																P541、542、543と切り合う。
542	Z²-52	2層	106.0	100.0	0.556	7.445	6.889	—																P541、542、543と切り合う。
543	Z²-52	2層	100.0～	104.0	0.489	7.589	7.100	—																P541、542、543と切り合う。
544	Z²-52	2層	76.0	55.0	0.513	7.686	7.173	—																P544、545、546、547と切り合う。
545	Z²-52	2層	85.0	55.0	0.524	7.583	7.059	6.943																P544、545、546、547と切り合う。
546	Z²-52	2層	74.0	61.0	0.582	7.530	6.948	—																P544、545、546、547と切り合う。
547	Z²-52	2層	55.0	42.0	0.532	7.583	7.051	—																P544、545、546、547と切り合う。
548	Z²-52,53	2層	65.0	50.0	0.448	7.548	7.100	—																P135、549と切り合う。
549	A-52,53	2層	80.0～	71.0	0.547	7.586	7.039																	P548、550と切り合う。
550	A,Z²-53	2層	65.0	60.0～	0.534	7.573	7.039																	P549、550と切り合う。
552	A,Z²-53	2層	95.0	60.0～	0.435	7.543	7.108																	P553と切り合う。
553	Z²-53	2層	100.0～	90.0	0.423	7.468	7.045																	P552、554と切り合う。

Tab.18　市電敷地北側ピット観察表（9）

ピット番号	確認地点	覆土	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（m）	上端（m）	下端（m）	中端（m）	柱穴の有無	（土師器）		（須恵器）		（陶磁器）		（黒色土器）		（瓦）		（石器）		（その他）		備考
										数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
554	Z²-53	2層	73.0～	70.0	0.606	7.449	6.843	7.191																P553と切り合う。
555	Z²-53	2層	65.0～	52.0	0.412	7.417	7.055																	P556、567と切り合う。
556	Z²-53	2層	90.0～	70.0	0.527	7.513	6.986																	P555、557と切り合う。
557	Z²-53	2層	95.0～	80.0	0.486	7.457	6.971																	P555、567と切り合う。
558	Z²-53	不明	95.0	55.0～	0.678	7.490	6.812																	P167と切り合う。
559	Z²-54	2層	93.0	75.0～	0.412	7.506	7.094																	P560、561と切り合う。
560	Z²-54	2層	70.0～	60.0～	0.588	7.578	6.990	7.094																P559、561と切り合う。
561	Z²-54	2層	60.0～	60.0	0.473	7.549	7.076																	P554、560と切り合う。
562	A-53	不明	60.0	55.0～	0.538	7.509	6.971	7.091																P563と切り合う。
563	A-53	不明	110.0	70.0	0.550	7.513	6.963	7.101																P562と切り合う。
564	X²-55	3層	110.0	50.0～	0.572	7.525	6.953																	
565	C-49	3層	90.0	60.0	0.061	7.521	7.460																	S060の柱穴か？。
566	Z²-53	2層	45.0	30.0～	0.189	7.546	7.357																	
567	A-51	2層	105.0	105.0	0.572	7.651	7.079	7.129																
568	T²-64	3AB層	50.0～	50.0	0.430	7.556	7.126																	
569	W²-59	3層	80.0～	70.0～	0.744	7.584	6.840	6.923																P315から切られる。
570	Y²-56	不明	75.0	55.0	0.380	7.404	7.024																	
571	Y²-55	不明	48.0	40.0	0.664	7.506	6.842																	
572	B-50	2層	53.0	50.0	0.304	7.562	7.258																	
573	B-49	2層	45.0	40.0	0.454	7.578	7.124																	P11、429と接する。
574	W²-60	3層	80.0～	70.0	0.543	7.321	6.778																	S036と切り合う。
575	W²-58	3層	100.0	82.0	0.511	7.588	7.077																	S037、38と切り合う。
576	W²-60	3層	90.0	80.0	0.721	7.324	6.603																	S035と切り合う。
577	C-50	2層																						

S001に伴うピット

1	北拡張		23.0	22.0	0.251	6.684	6.433	—																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。
2	北拡張		29.5	26.0	0.336	6.708	6.372	—																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。
3	北拡張		31.0	25.0	0.229	6.698	6.469	6.510																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。
4	北拡張		33.5	25.5	0.299	6.689	6.390	—																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。
5	北拡張		34.0	26.0	0.364	6.744	6.380	—																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。
6	北拡張		42.0	40.0	0.261	6.743	6.482	—																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。
7	北拡張		29.0	25.5	0.325	6.705	6.380	—																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。
8	北拡張		29.0	24.0	0.175	6.724	6.549	—																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。
9	北拡張		53.0	34.0	0.415	6.724	6.309	6.516																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。
10	北拡張		37.5	33.0	0.343	6.753	6.410	—																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。
11	北拡張		31.0	29.0	0.036	6.792	6.756	—																レンガか瓦が敷きつめてあり、上に柱がくるものと想定される。浅いが下に瓦があった。

Tab.19　市電敷地南側ピット観察表（10）

ピット番号	確認地点	覆土	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（m）	上端（m）	下端（m）	中端（m）	備考
(4)	S²-68	3B主	40.5	35.5	0.39	7.49	7.11	—	3B主体のブロック。3A・4層も混じると思われる。2〜10cm、4層ブロック点々と入る。
(5)	S²-68	3A主	50.5	46.5	0.35	7.51	7.16	—	柱痕(直径10cm)は平面では見えるが断面では確認できず。柱痕あるいは抜取痕らしきものあり。
(6)	S²-68	3B	61.5	58.0	0.48	7.51	7.03	7.13	カーボン　褐色粒入る遺物多し。S009P4。柱痕有り
(8)	S²-67	3層	57.0	42.0	0.29	7.49	7.02	7.27	小さな4Bブロック　カーボン含む(5mm)、切り合いまたは抜取痕あり
(9)	S²-67	3B	62.0	59.0	0.40	7.45	7.05	—	S009P3。柱痕有り
(10)	S²-67	3B	68.0	63.5	0.51	7.51	7.00	—	須恵器小皿もしくは坏あり、遺物多し。S009P2。柱痕有り
(12)	T²-67	3B	59.0	51.5	0.55	7.47	6.92	—	S009P1。柱痕有り
(13)	T²-67	3A〜3B	49.0	46.5	0.33	7.53	7.20	7.28	3Bブロック4層若干混じる。柱痕不明
(16)	T²-66	3A主	38.5	31.3					焼土、カマド土入るピット。位置確認できず
(17)	T²-66	3B主	79.5	71.5	0.48	7.50	7.01	7.25	小カーボン粒、小4A、4Bブロック入る。遺物多し、上層石帯出土
(19)	S²65	3B	50.0	46.5	0.15	7.21	7.06	7.22	小カーボン、小4A、Bブロック入る。柱痕有り
(20)	S²65	3A主	55.6	52.5	0.40	7.46	7.06	7.14	円礫片あり
(21)	T²-65	中心3A　外3B	50.0	46.0	0.53	7.49	6.96	—	柱痕有り
(23)	S²-68	3B	68.0	60.0	0.44	7.42	6.98	7.02	ブロック小、カーボン、褐色粘土。柱。土師器あり。遺物多し。S011を切る。柱痕不明
(25)	T²-66	3A層主	30.0	—	0.40	7.49	7.09	—	
(26)	S²-69	3Bブロック	43.0	—	0.27	7.44	7.16	—	半分は調査区外に続く。柱痕跡は断面にあるが浮いて見える。柱痕不明
(28)	S²-69	3層	59.0	57.0	0.59	7.37	6.78	6.85	S009P7　S015を切る。柱痕有り
(30)	R²-68	3層	55.0	—	0.30	7.44	7.14	7.23	ステップあり。柱痕ありの柱穴(断面)　柱痕有り
(32)	R²-69	3Aと3Baブロック状	46.0	40.0	0.23	7.35	7.13	7.17	2〜4mmの4層ブロック混じる。柱痕不明
(33)	S²-69	3Aと3Baブロック状	56.0	50.0	0.32	7.41	7.10	7.204/7.197	2〜4mmの4層ブロック混じる。柱痕不明
(34)	S²-68	3Aと3Baブロック状	56.0	42.0	0.62	7.49	6.86	—	4層ブロック大きい。S012と接する。柱痕不明
(35)	S²-69	3Aと3Baブロック状	46.0	43.0	0.21	7.48	7.27	7.323/7.363	4層ブロック大きい。S012と接する。柱痕不明
(38)	S²-67	3Bに3Aのブロック混じる	52.0	47.0	0.32	7.50	7.18	—	2-10mm4層ブロック。炭化物が点々としている。S011を切る。柱痕不明
(40)	S²-67	3A〜4層のブロック	42.0	31.0	0.30	7.46	7.17	—	樹痕と思われる。柱痕不明
(42)	S²-67	3A〜4層のブロック	39.0	27.0	0.25	7.47	7.22	—	4層ブロック点々。樹痕と思われる。柱痕不明
(47)	S²-67	3B〜4層のブロック	48.0	47.0	0.37	7.50	7.14	7.22	3Aも混じる
(51)	S²-68	3A主	72.0	57.0	0.39	7.41	7.02	7.10	カーボン、焼土粒混入。遺物多し。S009P5　S011を切る。
(52)	S²-69	3A主	68.0	57.0	0.40	7.37	6.98	7.106/7.053	カーボン、焼土粒混入。埋土に粘性あり。S009P8　S012を切る。
(54)	S²-70	3A	47.0	38.0	0.18	7.35	7.17	7.21	やや硬くなる。上に礫あり。底に9世紀代の土師器坏あり。ステップあり。
(56)	S²-69	3A	37.0	32.0	0.24	7.39	7.14	7.28	S015を切る。

Tab.20　市電敷地南側ピット観察表（11）

ピット番号	確認地点	覆土	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（m）	上端（m）	下端（m）	中端（m）	備考
（57）	S²-69	3A	44.0	—	0.30	7.36	7.06	—	褐色粒、カーボン入る
（58）	S²-67	3層	56.0	53.0	0.56	7.47	6.91	—	
（59）	S²-67	3層	74.0	—	0.45	7.47	7.02	7.24	S011を切る。
（60）	S²-66	3A主	55.0	47.0	0.38	7.52	7.13	—	4A、Bブロックなし。S018P7。柱痕有り
（65）	T²-66	3B	72.0	54.0	0.46	7.49	7.02		カーボン粒入る。柱痕有り
（66）	T²-66	3B	55.0	43.0	0.38	7.46	7.08	—	柱。カーボン粒入る。柱痕有り？
（67）	T²-66	3B	80.0	—	0.68	7.53	6.84	6.955/6.965	カーボン、4A、4B粒多い
（68）	T²-66	3B	52.0	—	0.42	7.47	7.06	—	柱。4A、4B粒少、カーボン含む。柱痕有り？
（69）	T²-66	3Bのみ	37.0	35.0	0.22	7.52	7.30	—	
（70）	T²-65～66	3B	104.0	45.0	0.73	7.51	6.78	7.110/7.243	2cm大カーボン入る。土師器坏あり
（75）	S²-66	3A主	57.0	42.0	0.48	7.53	7.05	—	3Bも混じる
（76）	S²-65～66	3B主	64.0	61.0	0.36	7.55	7.19	—	カーボン4A多、4B少。ピットか？
（78）	S²-65	3層	70.0	—	0.36	7.43	7.07	—	形状あやしい
（79）	S²-65	3層	48.0	—	0.28	7.49	7.21	7.29	P78を切る
（80）	T²-66	3A主	90.0	60.0	0.42	7.50	7.08	7.385/7.068	小カーボン多。S018P5。柱痕有り
（81）	R²-70	3A	24.0	21.0	0.23	7.29	7.06	—	粘性あり
（82）	S²-70	3A	40.0	—	0.13	7.36	7.23	—	ややしまる、4B白混じる
（84）	S²-69	3A	29.0	28.0	0.20	7.27	7.07	—	やや粘、やわらかい
（87）	Q²-68	3B	49.0	39.0	0.43	7.40	6.97	7.35	小カーボン、褐色粒混じる
（89）	S²-67	3B	30.0	29.0	0.40	7.51	7.11	7.21	さくさく
（101）	S²-66	3A主	32.0	31.0	0.29	7.48	7.19	—	カーボン、褐色粒
（102）	S²-66		55.0	52.0	0.51	7.51	7.00	7.18	S011を切る。
（108）	T²-66	3A主	34.0	33.0	0.25	7.55	7.30	—	3Bも少し混じる。S006より上か？
（110）	S²-66	完掘	30.0	26.0	0.20	7.51	7.31	—	
（111）	S²-65	3B主	75.0	—	0.09	7.54	7.46	—	4Bブロック多
（112）	S²-65	3A主	—	—	0.31	7.47	7.17	—	4Bブロック多
（113）	T²-66	3A主	33.0	—	0.25	7.50	7.25	—	P80と切り合う
（114）	T²-65	3A主	54.0	49.0	0.65	7.40	6.75	—	Bブロック多。S017を切る。S018P24。柱痕有り
（116）	T²-66	3B主	49.0	—	0.45	7.44	6.99	—	4A、Bの混入物あり。S018P4
（117）	S²-66		71.0	51.0	0.78	7.40	6.61	6.99	S018P6　S006を切る。

２．遺物と観察表

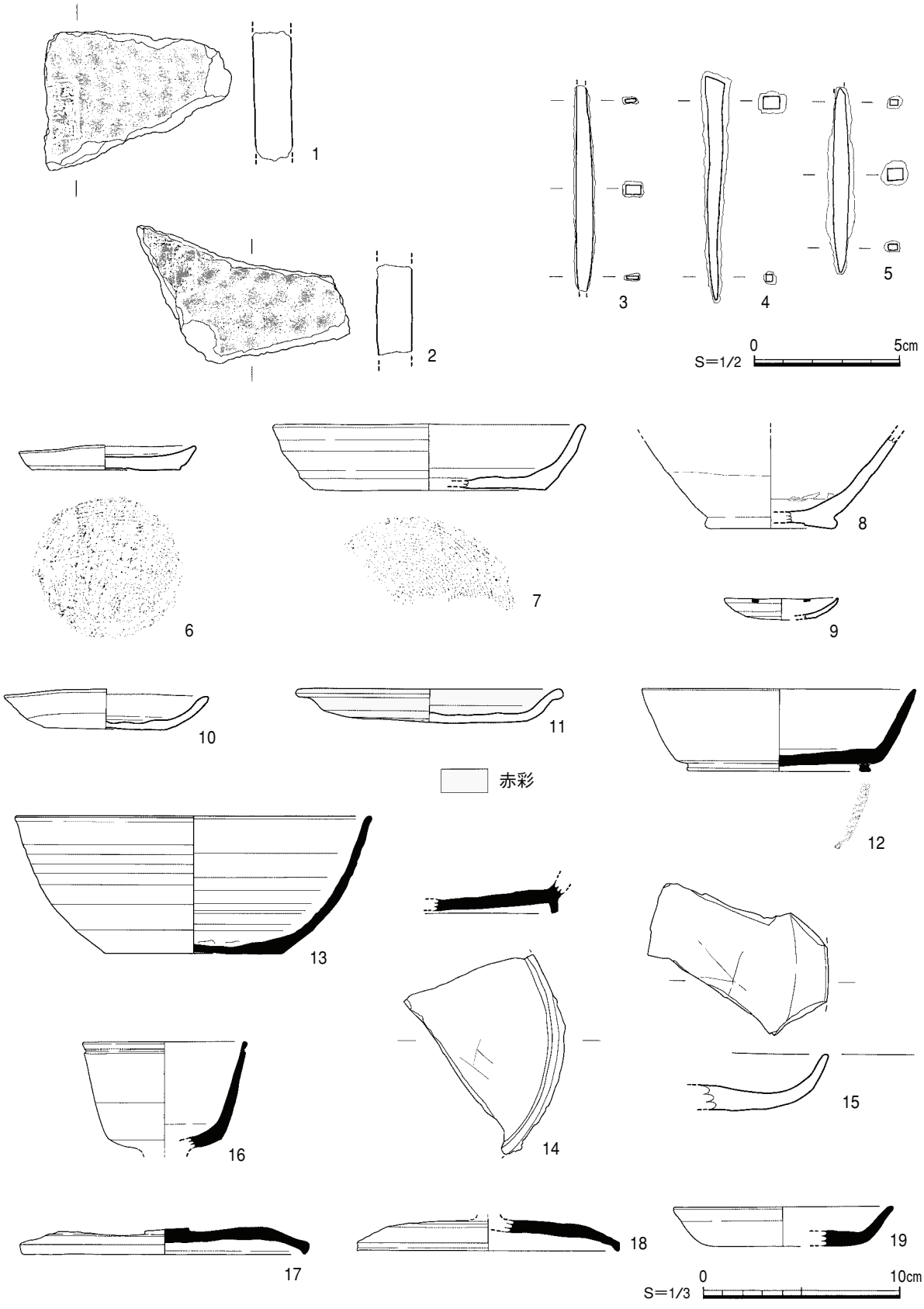


Fig.21　S001・002・003・005・006・008・009出土遺物実測図

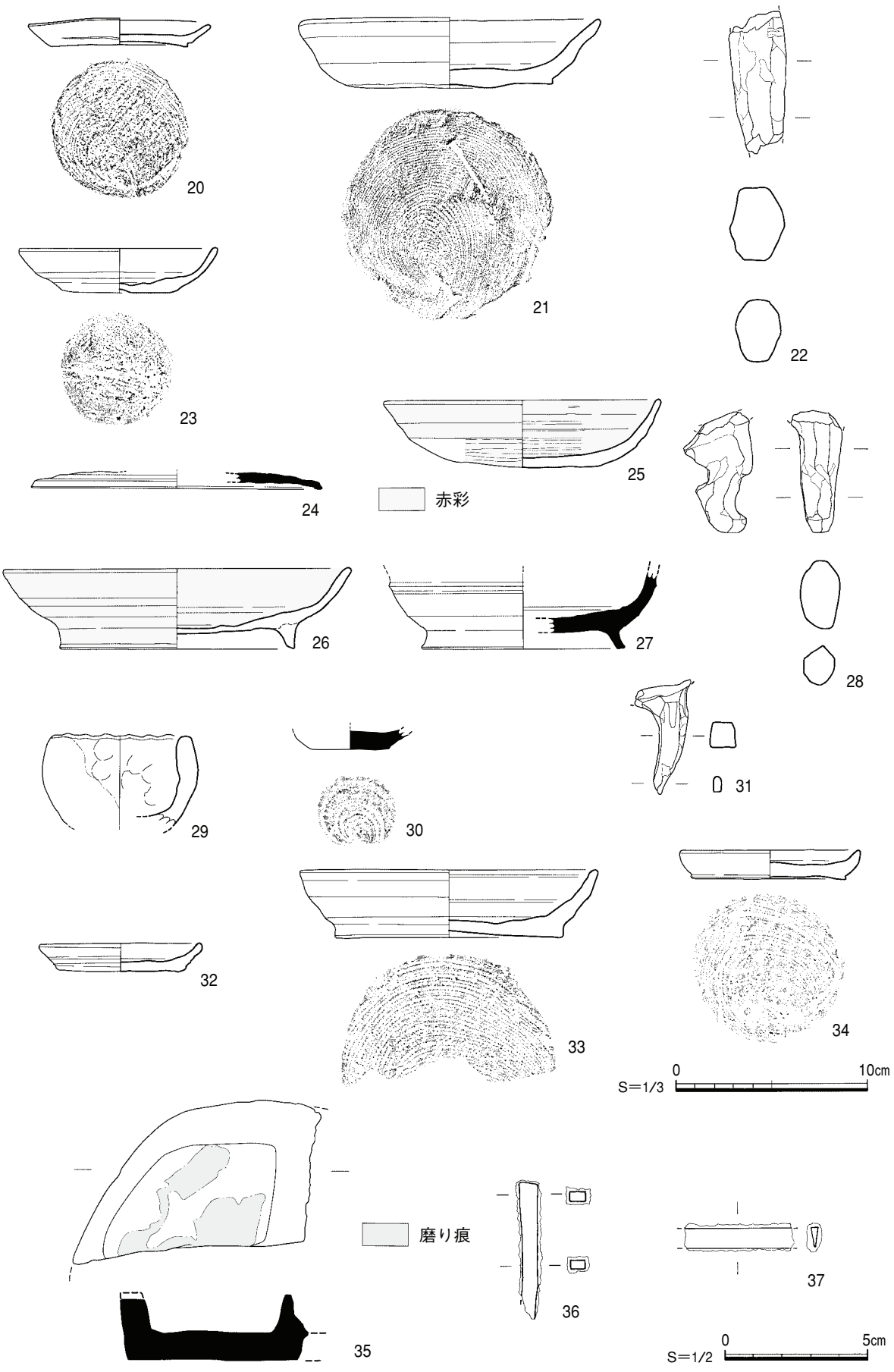


Fig.22　S010・015・016・017・019・020・021出土遺物実測図

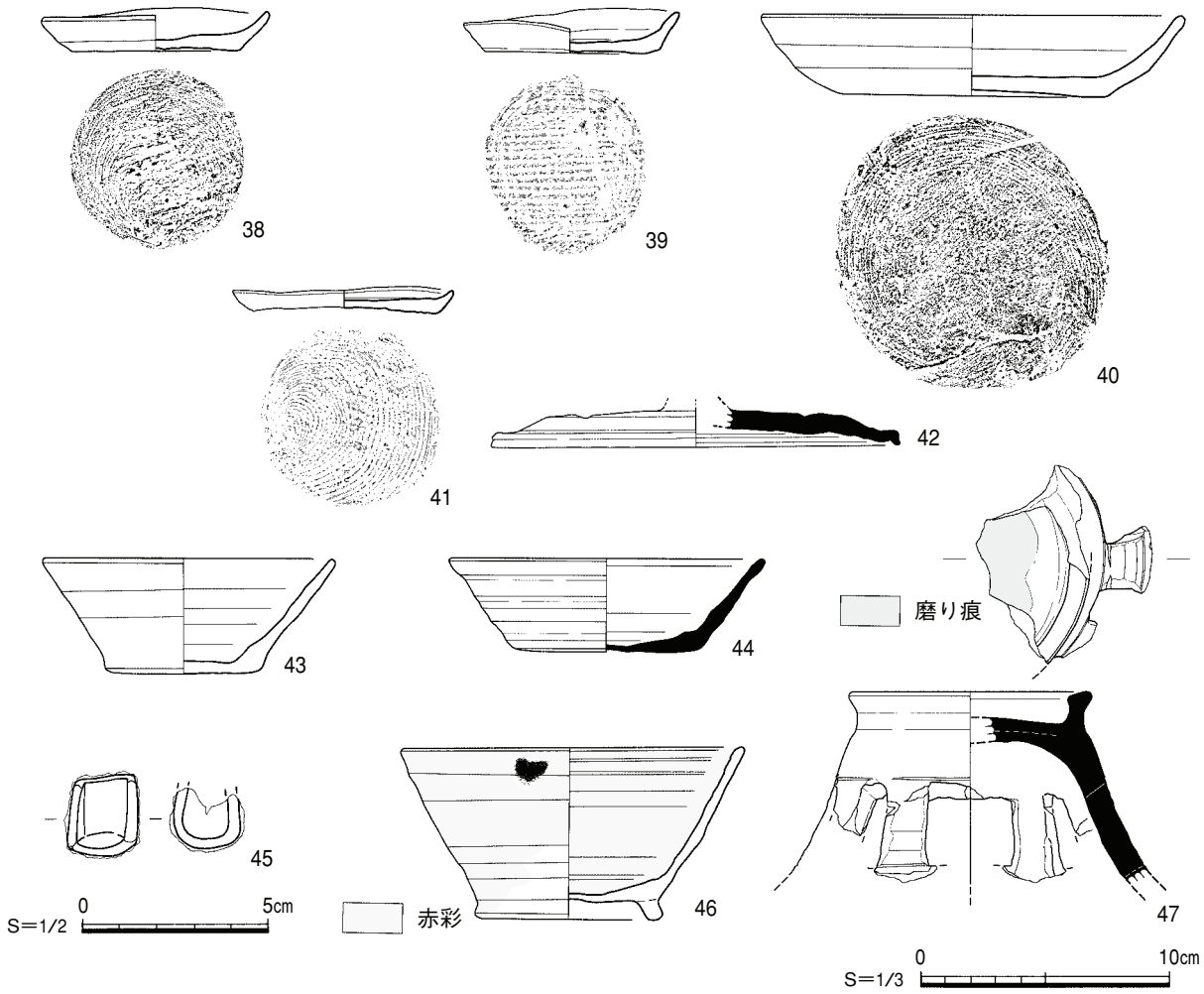


Fig.23　S024・026・028・030出土遺物実測図

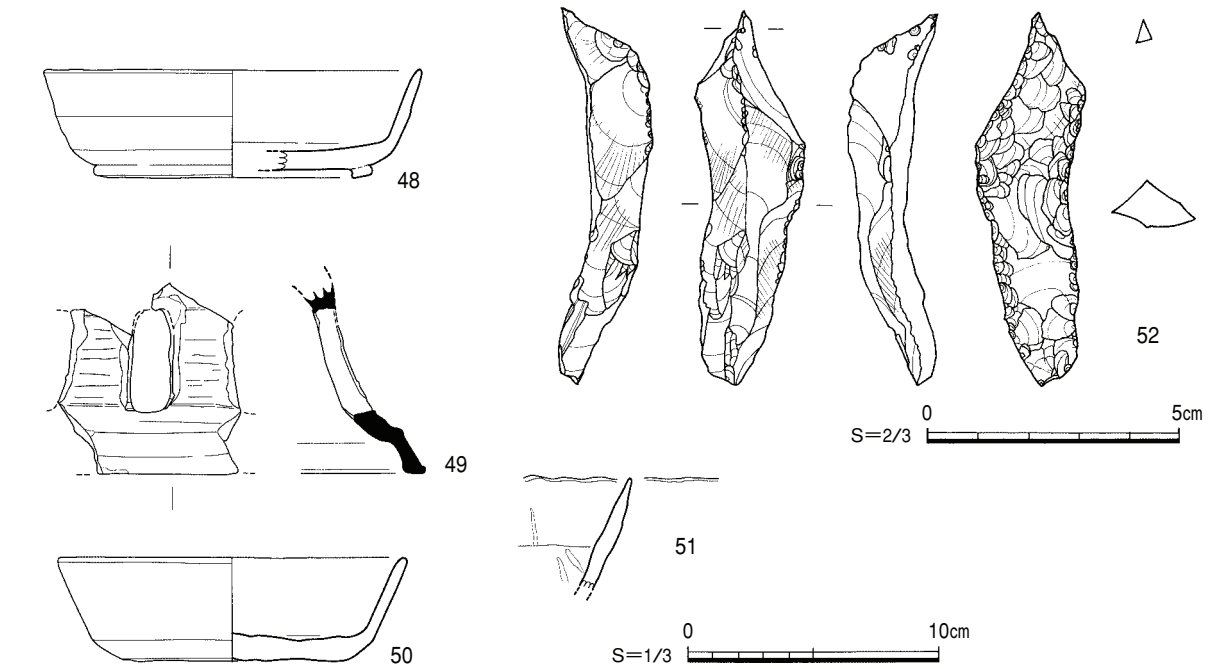


Fig.24　S031・032・035出土遺物実測図

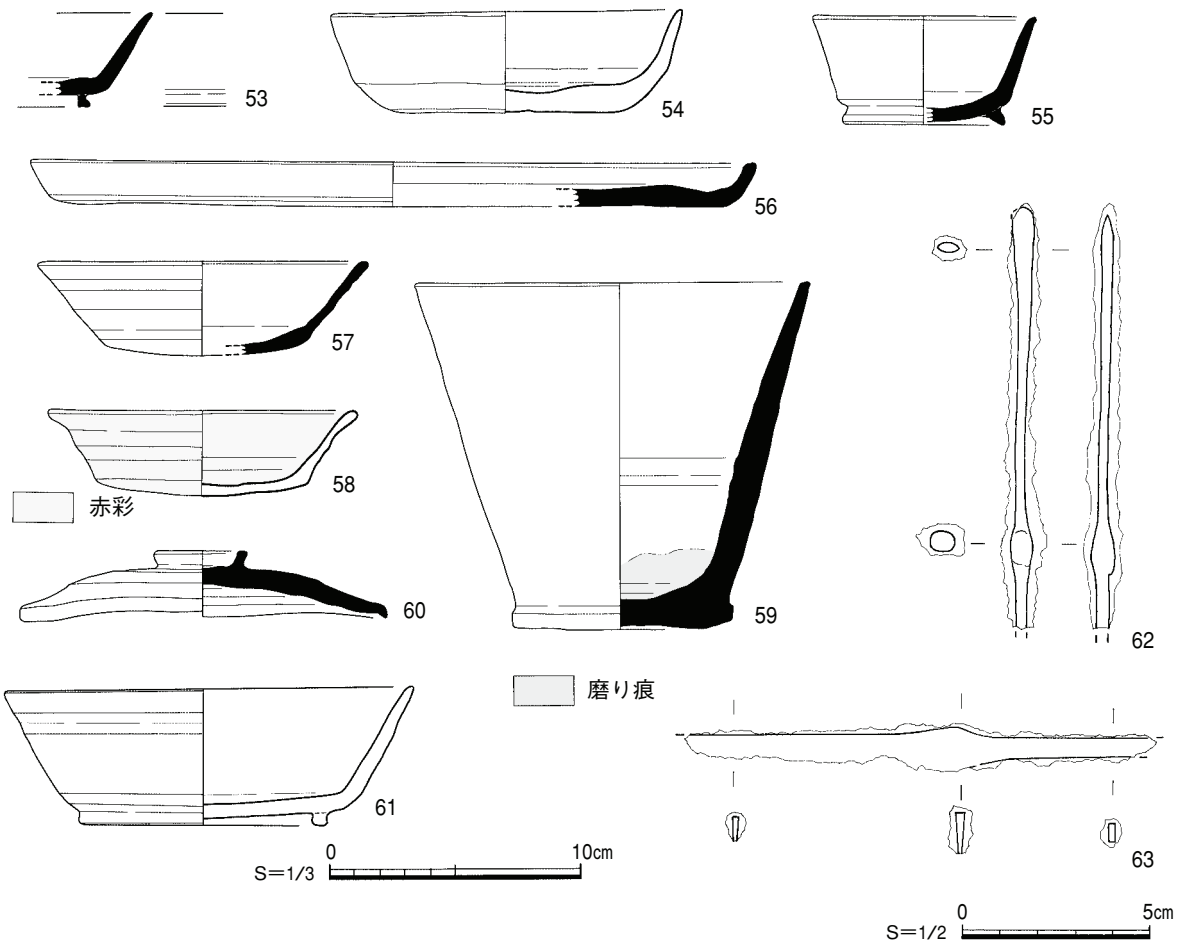


Fig.25　S038・039・040・042・044・045出土遺物実測図

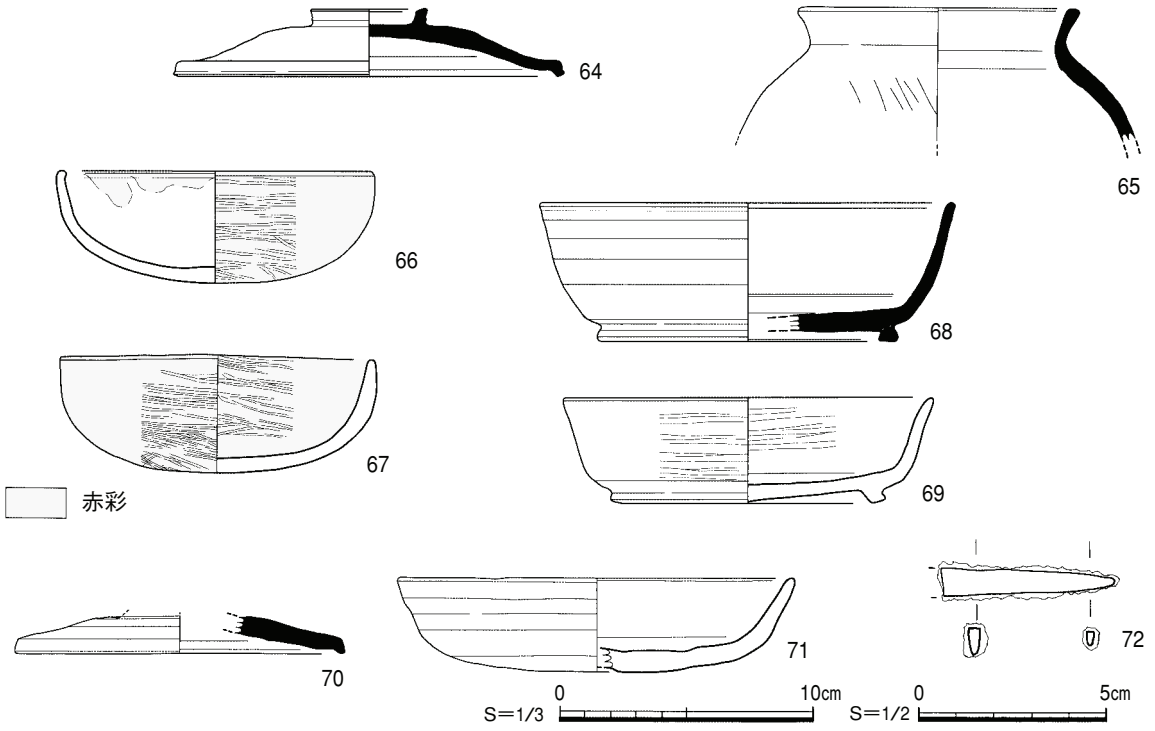


Fig.26　S048・049・050出土遺物実測図

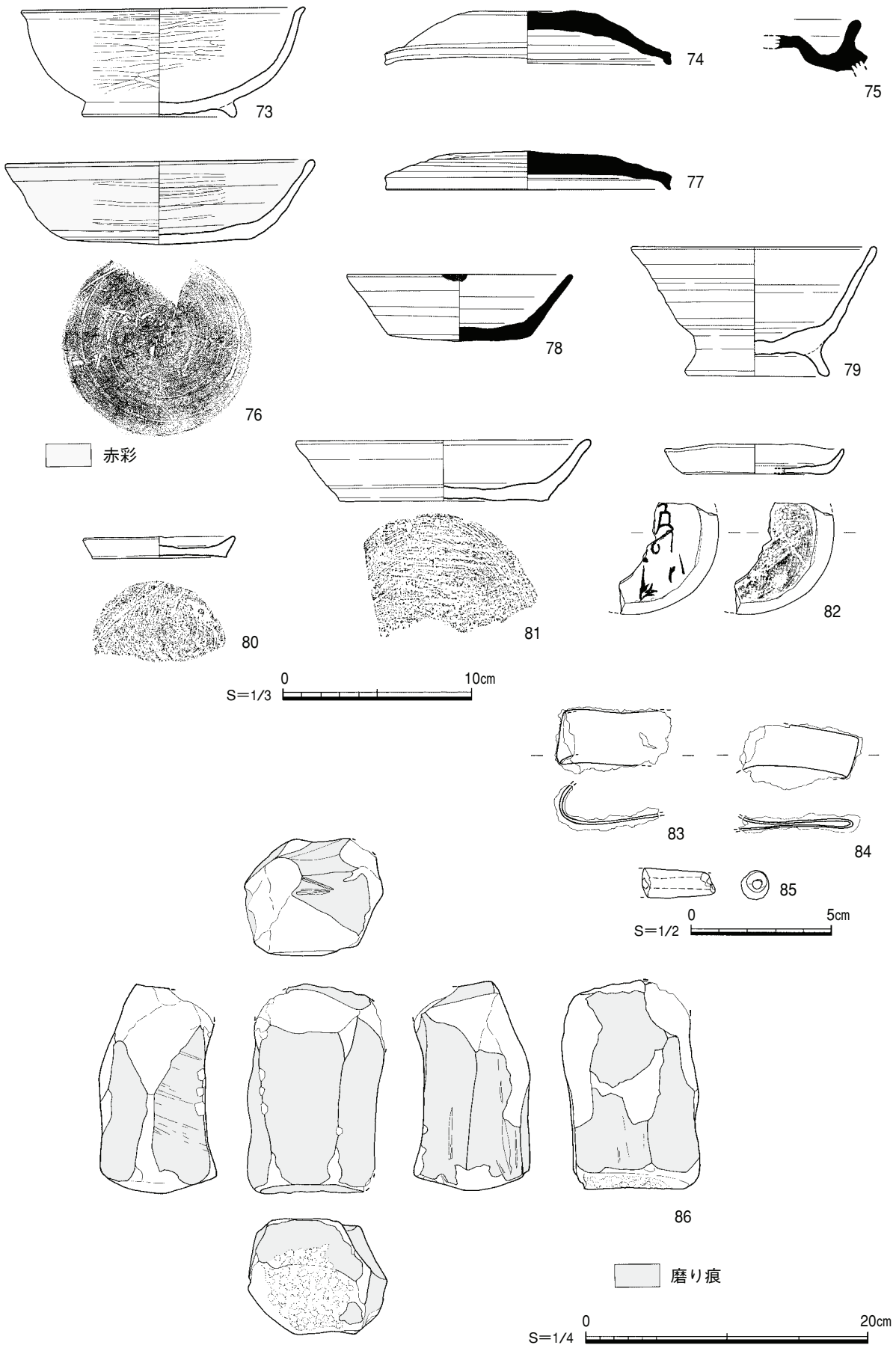


Fig.27　S058・059・060・075・076・080・081・087・ピット出土遺物実測図

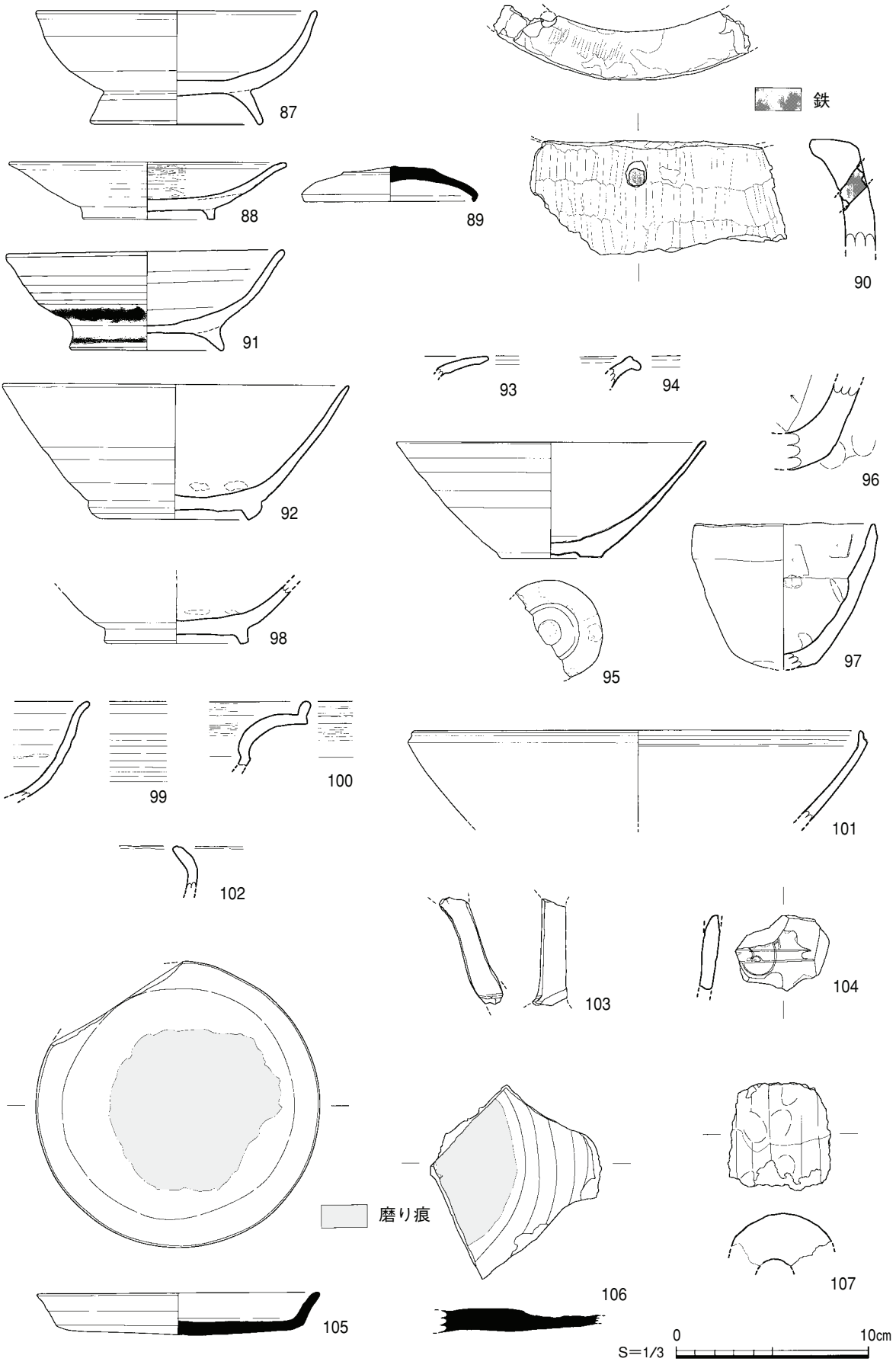


Fig.28　ピット・包含層出土遺物実測図（1）

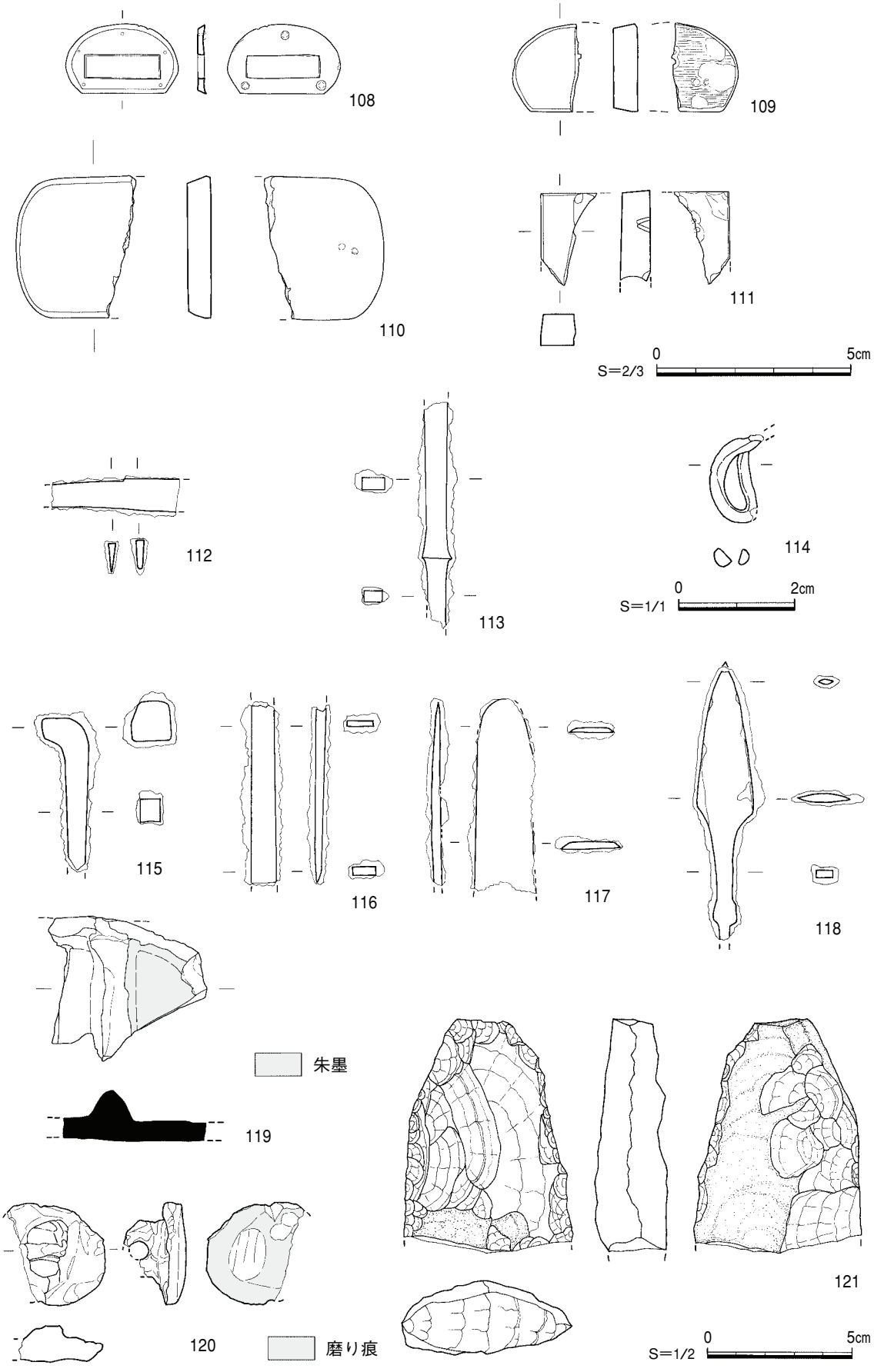


Fig.29　ピット・包含層出土遺物実測図（2）

Tab.21　市電跡地土器・陶磁器類観察表（1）

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ	法量（cm）				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）				
21	6	土師器	小皿	S002	2層		9.0	7.6	1.3		横ナデ、不定方向ナデ	横ナデ、ヘラ切り	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	長石、雲母	良	ほぼ完形	口縁に歪みあり。口縁部一部欠損。 12C中～後
21	7	土師器	杯	S002			(15.8)	(11.8)	3.4		横ナデ	横ナデ、糸切り	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	長石、雲母、褐色粒、輝石	良	1/4	12C中～後
21	8	青磁	越州窯系椀	S002	2層下～3層	Z^{2}-55		(6.70)～	4.80～	0.6	ナデ後施釉（目痕あり）	ナデ後施釉、ヘラケズリ	オリーブ黄 5Y6/3	にぶい黄 2.5Y6/3	精製された胎土。黒色粒	良	胴部～底部	越Ⅱ類。見込み目跡あり。
21	9	土師器	小皿	S003	最下層		(5.8)	(3.5)	1.0～		横ナデ	横ナデ、糸切り	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	赤褐色粒、黒色粒	良	1/4	灯明皿として使用。煤付着。 17C末～18C初
21	10	土師器	皿	S005		No.4・5・6	10.3	5.7	1.8		横ナデ	横ナデ、体部貼付、粗いヘラ切り	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	石英、黒色粒、角閃石、小石	良	完形	巻紐技法か？　10C後～
21	11	土師器	盤	S006		No.16	13.4	9.1	1.9		ナデ	回転ヘラ切り 回転ナデ	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石、石英	良		内外面赤彩。9C前～中
21	12	須恵器	椀	S006 中央 Pit			(13.9)	(9.4)	4.2	0.4	横ナデ	横ナデ、板目痕、ヘラ切り後ナデ	灰白 2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1、 黄灰6/1	黒色粒、褐色粒、白色粒	良	1/6	8C第4四半期
21	13	須恵器	杯	S006		No.14	(18.0)	(9.1)	7.0		回転ナデ、ナデ（指頭圧痕）	回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1	長石、石英	良		
21	14	須恵器	鉢？	S006		No.9		(15.8)	1.60～	0.8	ナデ	ナデ、ヘラ記号	灰白 2.5Y7/1	黄灰 2.5Y6/1	黒色粒、黒曜石	良	底部1/5	ヘラ書き「上」か？
21	15	土師器	高杯	S006					(2.8)		回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ		長石、石英、褐色粒、砂粒	やや不良		刻書土器「大」。 8C後？
21	16	須恵器	脚付き杯	S008	1層		(8.2)		5.40～		横ナデ	回転ヘラケズリ、沈線、横ナデ、高台はり付け後ナデ	灰 N5/	灰 N5/	石英、褐色粒	良	破片	輸入品。珍品。
21	17	須恵器	蓋	S008		No.32	14.3		1.3		横ナデ	ヘラケズリ後ナデ	にぶい褐7.5YR5/3・灰5Y5/1	灰5Y5/1・にぶい赤褐5YR5/3	石英、黒色粒、長石	良	ほぼ完形	8C後？
21	18	須恵器	蓋	S009 Pit10	1層		(13.4)		1.6～		横ナデ後不定方向のナデ	横ナデ、不定方向のナデ、ナデ、灰がかり	灰 5Y6/1	灰 5Y5/1	石英、長石	良	1/5	つまみ欠如。8C後～9C前
21	19	須恵器	盤	S009 Pit9			(11.2)	(7.0)	2.0		縦・横方向ナデ	横ナデ、不定方向のナデ	灰黄 2.5Y6/2	にぶい黄橙 10YR6/3	石英、褐色粒	良	1/7	9C前？
22	20	土師器	小皿	S010		No.7	9.4	1.5	7.0		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後？	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石、石英、雲母、赤褐色粒	良		皿、小皿セットで。12C中頃
22	21	土師器	皿	S010		No.1	15.5	10.9	3.6		回転ナデ	回転ナデ、回転糸切り	橙 7.5YR6/6	明赤褐 5YR5/6	長石、石英、雲母	良		皿、小皿セットで。12C中頃
22	22	瓦器	火舎	S010	1層	一括	長さ7.5～	幅3.0	厚さ4		ナデ、指頭圧痕		橙 5YR6/6		石英、角閃石、褐色粒		脚	指頭圧痕あり。脚部？
22	23	土師器	杯	S015	1層	No.1	10.0	6.0	2.4		ナデ	ナデ、ヘラ切り後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、雲母、角閃石、石英	良	完形	スス付着。灯明皿として使用。 11C代？
22	24	須恵器	蓋	S016		No.26	(15.2)		0.9～		横ナデ、指頭圧痕	横ナデ	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y7/1	石英、黒色粒、砂粒	良	1/5	8C後～9C前
22	25	土師器	坏	S016		No.1・2・34	(14.2)	7.6	3.5		横ナデ、部分的なヘラミガキ	横ナデ、ヘラ削り後部分的なヘラ磨き	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	長石、石英、褐色粒	良	1/2	下部～底部以外は赤彩。8C第4四半期～9C第1四半期
22	26	土師器	杯	S016		No.22	(17.8)	(12.2)	4.2	1.4	横・斜め方向ナデ、指頭圧痕	横ナデ、貼付高台、糸切り後粗い調整	明赤褐 5YR5/6	橙 2.5YR6/6	石英、長石	良	2/3	赤彩。内面スス付着（灯明皿） 9C第1四半期
22	27	須恵器	稜椀	S017		No.2？	(10.6)	(10.7)	4.0～	1.1～	縦・横方向にナデ	ヘラケズリ後ナデ			黒色粒、褐色粒、長石、砂粒	良	底部1/4	8C後
22	28	土師器	火舎	S019	2層	掘り下げ	長さ6.4～	幅2.7					明赤褐 5YR5/6		石英、黒曜石、赤褐色粒		脚	獣脚状

Tab.22　市電跡地土器・陶磁器類観察表（2）

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ	法量（cm）				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）				
22	29	坩堝		S019			(7.0)		4.7～		ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	赤灰 2.5YR4/1	灰オリーブ 5Y4/2	石英多い	良	口縁～体部約1/6残存	手づくね。内外面被熱して部分的に緑色の金属物付着。青銅か？特に外面は金属が融けて焼けただれた感じあり。
22	30	須恵質	皿？	S019	下部			4.0	1.1～		ミガキ、赤色顔料	ナデ、糸切り	暗赤 10R3/6	褐灰 10YR6/1	石英、小石	良	底部	内面に赤色顔料。詳細不明
22	31	土師器	甕？	S020 C-49	上層		長さ4.8	幅3.7	厚さ1.7		ナデ、ヘラ削り		にぶい橙 7.5YR7/4		石英、褐色粒		把手のみ	甕の把手か？　先端に黒斑あり
22	32	土師器	小皿	S021		No.10	8.6	6.3	1.5		横・斜め方向ナデ	横ナデ、糸切り後板状圧痕(1/3程度)	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	石英、雲母、輝石	良	ほぼ完形	12C中～後
22	33	土師器	杯	S021		No.5	(15.2)	(11.8)	3.6		横ナデ	横ナデ、糸切り	橙5YR6/6、にぶい褐7.5YR7/4	橙 5YR6/6	石英、雲母、輝石	良	1/2	12C中～後
22	34	土師器	小皿	S080、081、087			9.2	8.0	1.5		横ナデ	横ナデ、糸切り	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	雲母、赤褐色粒、角閃石、黒曜石か？乳白色粒	良	完形	12C中頃？
22	35	須恵器	風字硯	S021				長さ 5.30～	幅 8.60～	厚さ1.00 ～2.50					密。黒色粒、白色粒		破片	海の一部に使用痕が残る。 9C代
23	38	土師器	小皿	S024		No.8	8.9	6.7	1.7		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後なんらかの圧痕が残る	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石、石英、赤褐色粒	？		12C前～中？
23	39	土師器	小皿	Y^{2}Z^{2} 55-29	上層		8.2	5.9	1.6		横ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ、板目圧痕	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4、にぶい橙5YR6/4	長石、黒色粒、赤褐色粒、茶褐色粒	良	ほぼ完形	外面底部に板目圧痕あり。 12C後～13C
23	40	土師器	杯	S024		No.7	16.7	10.8	3.4		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	輝石、石英、赤褐色粒	良		12C前～中？
23	41	土師器	杯	S026		No.3	8.8	7.3	0.9		横ナデ	横ナデ、糸切り後ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	黒色粒、赤褐色粒	良	ほぼ完形	外面底部に糸切り痕有
23	42	須恵器	蓋	S028	1層		(16.2)		1.6～		回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	白色粒、黒色粒	良	口縁～天井部1/5	つまみが欠如。 8C？
23	43	土師器	杯		3層		10.4	5.4	4.6		回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	長石、石英、角閃石	良		9C後～9C初
23	44	須恵器	杯	S030	下層	No.62	(12.3)	(7.4)	3.7		回転ナデ	回転ナデ、切り離し技法不明後ナデ(板状圧痕)	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	長石、石英	良		
23	46	土師器	椀	S030	1層下	No.56	13.5	7.1	7.0		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	長石、石英	良		高台付近以外は赤彩。灯明として外面にスス付着。9C前～中
23	47	須恵器	円面硯	S030	上層	No.49		長さ (9.4)		厚さ (7.7)			灰オリーブ 5Y5/2	灰オリーブ 5Y5/2	長石			S031・39番と同一か？　8C後？
24	48	土師器	椀	S031、V^{2}-63	上層、3層	No.1	(14.8)	(11.1)	4.3	0.5	横ナデ後工具による縦方向のナデ	横ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、高台取付後ナデ	灰黄 2.5Y7/2	灰白 5Y7/1	石英、長石、黒色粒	良	1/3	8C後？
24	49	須恵器	円面硯	S031	2層				復元底径 (16.2)	残存高 7.6～	横ナデ	横ナデ	灰黄褐10YR5/2、褐灰5/1	にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒、黒色粒	良		灰かぶり。 8C後？
24	50	土師器	杯	S032	2層・カマド	No.1	(13.8)	8.3	4.1		横ナデ、ナデ	横ナデ、ヘラ切り	にぶい黄橙 10YR7/4	黒褐 10YR3/1	長石、角閃石、雲母、赤褐色粒	良	口縁～底部2/3	底部～体部外面に煤付着。 8C代
24	51	製塩土器		S035	一括				4.4～		ナデ、板状工具痕有	ナデ、全面被熱	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	石英、長石、砂粒多い。赤色粒まばらに入る	良	口縁部約1/6残存	古代。口縁部のみ。布目痕なし
25	53	須恵器	椀	S039	上層				3.7		横ナデ	横ナデ	灰 N5/	灰 N5/	石英、長石	良	1/8以下	8C前～中？　宇城産？
25	54	土師器	杯	S038	2層	No.1	(13.8)	8.2	4.1		横ナデ、不定方向ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ナデ、回転ヘラ削り後ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石、黒曜石、雲母、赤褐色粒	良	口縁～底部（口縁部は1/2）	8C3/4　飽田郡産土師器
25	55	須恵器	椀	S040	上層	No.2	(8.8)	(6.4)		0.8	横ナデ、多方向にナデ	横ナデ、ヘラナデ、ヘラ切り	灰 5Y6/1	灰 5Y5/1	石英、長石、角閃石、黒色粒	良	1/2	特殊な形の小椀

Tab.23　市電跡地土器・陶磁器類観察表（3）

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ	法量（cm）				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）				
25	56	須恵器	盤	S042	3層	No.2	（28.4）	（24.4）	1.7		回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ	灰5Y6/1・灰4/0	灰5Y6/1・灰4/0	白色粒、黒色粒	良	1/6	8C後？
25	57	須恵器	杯	S045	上層	No.11	（12.8）	（8.4）	3.7～		横ナデ	横ナデ、板状圧痕	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	石英、黒色粒	良	1/3	底部外面に板目状の紐織痕あり。 9C中
25	58	土師器	椀	S045	上層	No.18	（11.9）	（7.9）	3.4		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラ削り後ナデ	橙5YR6/6、にぶい橙7.5YR7/4	橙5YR7/6、 にぶい橙5YR6/4	長石、褐色粒	良	口縁～底部1/2	器面全体に赤色顔料塗布。内面底面と外面胴部に黒斑あり。9C第3四半期
25	59	須恵器	すり鉢	S044		No.7	（15.4）	8.7	13.8		横ナデ、ナデ	横ナデ、ヘラ切り	灰 N5/	灰 N5/	白色粒	良	4/5	すり痕あり。8C後～9C前
25	60	須恵器	蓋	Pit194		No.8	14.4		2.7		横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	灰 7.5Y4/1	にぶい赤褐 2.5YR4/4	長石、石英	良？	完形	灰かぶり、自然釉付着。 8C後。荒尾産
25	61	土師器	椀	Pit194		No.1.2	16.0	9.3	5.5		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラナデ、回転ヘラケズリ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石、石英、雲母	良		8C代
26	64	須恵器	杯蓋	S048	2層		ツマミ径（4.5）	底（裾）径（15.0）	2.7		回転ナデ	回転ナデ	黄灰 2.5Y4/1	灰白5Y8/1、 灰オリーブ5Y5/2	長石、赤褐色粒	良		8C後。荒尾産
26	65	須恵器	壷	S048	上・下層		（10.8）		（5.3）		横ナデ	横ナデ、斜め方向タタキ	灰 N5/	灰 N5/	長石、石英、黒色粒、褐色粒	良	口縁部1/4	9C代？
26	66	土師器	杯	S048		No.2		12.3	4.5		回転ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 10YR6/4	明赤褐 2.5YR5/6	長石、石英	良		外面赤彩。 7C前～中
26	67	土師器	杯身（赤彩）	S049		No.1	12.3		4.7		ナデ後ミガキ、横ナデ後ミガキ	横ナデ後ミガキ、ケズリ（ヘラナデ？）後ミガキ	赤褐 2.5YR4/6	赤褐 2.5YR4/6	長石、石英、赤褐色粒	良		赤彩。7C中～8C中
26	68	須恵器	椀	S048	住居1層		（16.2）	（11.6）	5.5		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、ケズリ	灰 5Y4/1	灰N6、 暗赤灰5R4/1	長石、赤褐色粒	良		8Cでも新しくない
26	69	土師器	椀	S048	2層		（14.5）	10.0	4.2		回転ナデ後ヘラミガキ	回転ナデ後一部ヘラミガキ、回転ヘラケズリ後ナデ	浅黄橙 10YR8/4	橙 7.5YR7/6	長石、石英、赤褐色粒、角閃石	良		8C第4四半期
26	70	須恵器	蓋	S049			13.0		1.5～		横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	にぶい黄2.5Y6/3、灰10Y5/1	灰 10Y5/1	長石、黒色粒	やや不良	1/3	輪状つまみ。荒尾産。8C後？
26	71	土師器	杯	S050		No.1	（15.6）	（7.7）	3.7		回転ナデ、不定方向のナデ	回転ナデ、ヘラ削り後ナデ、回転ヘラ切り後ナデ	にぶい橙 5YR6/4	橙 5YR7/6	長石、褐色粒、黒色粒	良	約1/4	9C1/4
27	73	土師器	椀	S058		No.1	14.8	7.9	5.8		ヘラミガキ	ヘラミガキ、ナデ？	にぶい黄橙 10YR7/3	？	微細な石英、長石	良		黒斑あり。内外面剥離激しい。 11C非押出
27	74	須恵器	蓋	S059		No.1	15.0		2.8		回転ナデ、ヘラ切り後不定方向ナデ、回転ナデ	回転ナデ、不定方向ナデ	灰 N5/0	灰N5/0、 （釉）暗灰N3/0	長石、石英、黒曜石	良	ほぼ完形	つまみ無し。8C前。宇城産
27	75	須恵器	円面硯	S059 B-49						器高（2.70）～			灰 10Y4/1	灰白 5Y7/2	1㎜以下の長石、雲母、黒色粒		破片	外面一部に自然釉付着。8C前～中
27	76	土師器	杯	S060		No.2.4	16.1	9.6	4.6		回転ナデ後一部ミガキ	回転ナデ後一部ミガキ、回転ヘラケズリ後一部ミガキ	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	長石、石英	良		赤彩。8C第4四半期～9C第1四半期
27	77	須恵器	蓋	S060		No.9.10		底（裾）径（14.8）	20.0		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ、回転ヘラ切り後一部ナデ	にぶい黄 2.5YR6/3	灰 5Y6/1	長石	良		9C代
27	78	須恵器	杯	S060		No.1	11.8	7.4	4.1		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り後板状圧痕？（格子状）	灰 10Y5/1	灰 10Y5/1	長石、礫	良		煤付着（灯明皿） 9C中
27	79	土師器	椀	S080、081、087			12.8	（7.4）	6.8		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、貼り付け高台、回転ヘラ切り後ナデ	にぶい橙7.5YR6/4、橙2.5YR6/6	にぶい橙7.5YR7/4、橙5YR6/6	角閃石、赤褐色粒、褐色粒、黒色粒	良	ほぼ完形（底部1/2欠損）	外面の口縁部一部赤化。外面口縁と内面底部に黒斑あり。9C第4四半期
27	80	土師器	小皿	S075			（7.8）	（7.1）	1.1		横ナデ	横ナデ、糸切り	橙 2.5YR6/6	橙 5YR6/6	雲母、石英	良	1/2	13C代？
27	81	土師器	杯	S076	1層	No.5	（15.2）	（10.6）	3.2		横ナデ後ナデ	横ナデ後ナデ、糸切り、板目圧痕	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	石英、長石、褐色粒	良	約1/3	外面底部に板目圧痕あり。12C中？
27	82	土師器	小皿	S076	最下層	No.11	（9.4）	（7.4）	1.6		横ナデ	横ナデ、不定方向ナデ	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/4	赤褐色粒	良	口縁～底部1/6	底部に墨色がみられる。墨書は、糸切りの溝で薄れて不鮮明。12C中？

Tab.24　市電跡地土器・陶磁器類観察表（4）

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ	法量（cm）				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）				
28	87	土師器	高台付椀	Pit7	3層		（14.4）	8.7	5.9		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石、石英、赤褐色粒、角閃石	良		10C後
28	88	緑釉陶器	皿	Pit95	2･3層		（14.4）	7.0	3.0		回転ナデ後ヘラミガキ、回転ナデ後沈線、施釉	回転ナデ後施釉、高台貼り付け、施釉、ヘラミガキ	黄緑（土色帳にない色）、灰白10Y7/2	黄緑（土色帳にない色）、灰白2.5Y8/1	石英多い　胎土：にぶい黄橙10YR7/3	やや良	口縁～高台2/5	3層（包含層）出土の高台と接合。東海産か防長産　9C代？
28	89	須恵器	杯蓋	Pit530		No.1	13.7		2.8		回転ナデ	回転ヘラ切り離し、回転ナデ	灰 N5/	灰N6/、灰白7.5Y8/1	白色粒・黒色粒:多	良	ほぼ完形	灰かぶり。8C前　萩生型
28	91	土師器	椀	Pit169	2層	No.1	14.3	7.3	5.3		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、横ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石、石英、角閃石	良		10C後
28	92	青磁	越州窯系碗	Pit416･X²-58一括			（18.0）	（7.6）	7.0	0.5	回転ナデ後施釉（目痕あり）	回転ナデ後施釉、ヘラケズリ（目痕あり）	にぶい黄橙 10YR6/3・7/2	にぶい黄橙 10YR6/3・7/2	石、黒色粒	良	底部1/2	全体に施釉後高台畳付の釉を剥ぎ。見込み高台に目跡。越Ⅰ類
28	93	土師器	托	Pit366					1.6～		回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石、角閃石多い。石英、雲母、赤色粒少ない	良	口縁部破片	初期高麗青磁と同じピットから出土。小片のため口縁の傾きも推定
28	94	土師器	壷？甕	Pit366					1.6～		回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	石英多い	良	口縁部破片	初期高麗青磁と同じピットから出土。小片のため口縁の傾きも推定
28	95	青磁	初期高麗	Pit366	中層		（16.0）	（5.2）	6.1		回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉（目痕あり）、ヘラケズリ	黄褐 2.5Y5/3	黄褐 2.5Y5/3	石、砂粒	良	1/3	全体に施釉
28	96	製塩土器		Pit338	3層				4.5～		板状工具による調整痕跡、ナデ	指頭圧痕、全面被熱、ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	浅黄橙 7.5YR8/4	石英、角閃石、輝石、砂粒多い	良	底部のみ	古代。　器壁が一番厚い。1.8～1.9cm
28	97	製塩土器		Pit54	2層		（9.4）		（7.4）		板状工具による調整（削り？）痕跡、指頭圧痕、ナデ	指頭圧痕、ナデ、全面被熱	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR7/6	石英、砂粒多い。赤色粒所々に入る	良	口縁～底部約1/6～1/7	古代。　外面は熱により表面がもろくなっている
28	98	青磁	越州窯碗	3区北側	表土剥ぎ			（7.2）	3.10～	0.5	回転ナデ後施釉（目痕あり）	回転ナデ後施釉、ヘラケズリ（目痕あり）	黄褐 2.5Y5/4	黄褐 2.5Y5/4	褐色粒、石	良	底部1/4	全体に施釉後高台畳付の釉を剥ぎ取っている。越Ⅰ類
28	99	灰釉陶器	椀		2･3層		直径17cm?		5.0～		回転ナデ後全面施釉	回転ナデ後全面施釉	？	？	石英、長石、輝石	良	口縁部1/20	H72あたり？10C後～11C初。灰釉陶器は9C～11C。
28	100	縄文土器	浅鉢		2層	清掃			3.30～		ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	石英、角閃石、長石、小石	良	破片	縄文晩期。天城式？
28	101	貿易陶磁器	Ⅰ類合子身？鉢?香炉?	Y²-55			（13.2）		4.7～		回転ナデ（ミガキ？）後施釉、回転ナデヘラ削り後施釉	回転ナデ（ミガキ？）後施釉、回転ナデヘラ削り後施釉	灰黄褐10YR4/2、灰白2.5Y8/2	灰黄褐10YR4/2、灰白2.5Y8/2	微細な長石や石英を多く含む。　胎土：にぶい黄橙10YR6/3	良	口縁部1/8	施釉部が風化して全体的に白っぽくなっている。
28	102	製塩土器		Y²-55	3層				2.2～		ナデ	ナデ	橙 7.5YR7/6	淡黄 2.5Y8/3	砂粒（1～4㎜大）多い	良	口縁部1/20以下残存	7C後　飛鳥時代
28	103	須恵器	円面硯		2・3層				残存高5.6cm	脚の幅1.3cm			灰 5Y6/1		白色粒（長石・石英）黒色粒		脚部1本	8C後半代か？
28	104	緑釉陶器	香炉？（特殊な器形）	東カベV²-64・65	1･2層				3.9～		回転ナデ後施釉	回転ナデミガキ後、幾何学文様を線彫り、施釉	浅黄橙 10YR8/4	浅黄 5Y7/4	石英多い、長石まばら、砂粒まばらに入る。	やや良	？	防長産か？洛北産か？
28	105	須恵器	転用硯	S²T²-65・65		No.2	14.7	12.8	2.2		横ナデ（スミの痕あり）	ナデ、ヘラ切り後ナデ	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1		良	ほぼ完形	内面底部に硯に転用したと思われる。元は盤。8C後～9C前
28	106	須恵器	円面硯	Z²-55	3層下				1.30～		横ナデ	横・斜め方向ナデ	灰 5Y6/1	灰5Y5/1	石英、黒色粒、角閃石	良	破片	8C前
29	119	須恵器	風字硯	A-52	3層			長さ5.0～	幅5.5～	厚さ0.8～2.1					4㎜大の黒色粒、黒色砂粒：多、長石		破片	二面硯、海の一部に朱墨が残る

Tab.25　市電跡地瓦観察表

図版番号	遺物番号	器種	部位	出土地点	層位	取り上げ番号	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	色調	胎土	残存状況	備考
21	1	平瓦		S001 Pit4			7.1～	9.6～	2.0～	―	（内外）暗灰N3/1	石英、長石、黒色粒、褐色粒	破片	凸面に刻印あり。近代。柳川産。「筑、柳川、忠平」
21	2	平瓦		S001 Pit4			7.0～	10.9～	1.8～	―	（内外）暗灰N3/1	石英、長石、黒色粒、石	破片	凸面に刻印あり。近代。柳川産。「（筑）後、山門郡高椋製、柳（川）」

Tab.26　市電跡地土製品観察表

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	色調	胎土	残存状況	備考
27	85	土師器	土錘	Pit227	2層		2.6～	0.5（孔径）	1.0	2.36	にぶい黄橙10YR6/4	石英	2/3	
28	107		鞴の羽口		1・2層		5.6～	5.4～	2.7		（内外）にぶい橙5YR6/4	輝石、角閃石、黒曜石、長石、石英	一部	（孔径）1.7cm～。内外面被熱

Tab.27　市電跡地石製品観察表

図版番号	遺物番号	器種	出土地点	層位	取り上げ	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材・石質	備考
24	52	スクレイパー（彫器としても使用）	Pit454	3層		7.5	2.1	1.7		腰岳産黒曜石	腰岳産黒曜石製。先端に樋状剥離があるので彫器としても使用したと推定。両端は顕著な使用痕有。
27	86	砥石	Pit15			14.8	9.7	8.2～		砂岩、雲母が目立つ。細粒な感じの砂岩。砥面：灰白5Y7/1、新しい欠け：灰白N8/	研磨のみは使用しているか不明も砥ぎ面としたところより若干粗い。砥ぎ面は若干灰色みが強い傾向がある。
27	90	石鍋	Pit26	2層		6.0～	13.5～	3.5		滑石	穿孔（縦）1.35cm（横）1.1cm穿孔の中に鉄属が存在し、2ヶ所穿孔があるので、把手として使われた。上面部にも穿孔があり用途は不明。
29	108	丸鞆	B-49			1.8	2.9	0.2	3.23		表面に小穴5ヶ所、裏面鉄3ヶ所。田中編年で8C～9C初か
29	109	丸鞆	Pit（17）	上層確認面-2～3cm		2.3	1.6～	0.6	4.30	カクセン岩（黒色）	表ー裏の2段階研磨、表面は極上の鏡面仕上げ、縁は面取り加工（45度）。田中編年では9C代か
29	110	蛇尾	Pit213			3.1～	3.8	0.6	13.1	蛇紋岩製	表ー裏の2段階研磨、表面はツヤ消し仕上げ、縁は面取り加工（ほぼ垂直）。9C前か
29	111	巡方		1～3層	1回目清掃	2.4～	1.5～	0.8		カクセン岩（黒色）	潜り穴は1ヶ所2穴あり。田中編年では8C後～10C前か
29	120	滑石加工品	Z²-53	3層下層		3.5	3.4		17.8	滑石　胎土：小石、石英	スタンプ状石製品の下面にはすり痕。つまみ部に穿孔あり。残存度1/2。13C～14C代か
29	121	打製石斧	Pit454	3層		8.1～	5.7	2.5		角閃石、安山岩	先端部を欠損。縄文時代晩期のものか

Tab.28　市電跡地金属製品観察表

図版番号	遺物番号	種別	出土地点	層位	取り上げ番号	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
21	3	鉄、鉄釘	S003	最下層	350cm～木枠下	0.6	0.3	6.27	端部欠損か？
21	4	鉄、鉄釘	S003	最下層	350cm～木枠下	0.7	0.5	7.20	完品と考える
21	5	鉄、鉄釘？	S003	210～220cm下		0.6	0.4	7.43	頭部欠損
22	36	鉄、刀子の刃部	S021	埋2層より下	BB-51・52	0.7	0.2	3.89	
22	37	鉄、鉄釘	S080、081、087	2層	一括	0.6	0.4	8.40	
23	45	鉄、不明（鉄製品の一部）	S030	上層		1.9	0.3	12.06	
25	62	鉄、鉄鏃	S038	2層	No.3	0.6	0.6	10.80	先端部の一部と茎部欠損
25	63	鉄、刀子	S038		No.4	1.2～	0.2～	9.19	刃部・茎部欠損
26	72	刀子の基部？	S048		No.3	0.7～	0.3～	?	
27	83	鉄、不明（鉄製品の一部）	S080、081、087		No.4？	3.9～	0.1	7.10	遺物番号12と同一か
27	84	鉄、不明（鉄製品の一部）	S080、081、087		No.4？	4.0～	0.1	6.03	遺物番号11と同一か
29	112	鉄、刀子	Z²-52	3層追込み		1.1	0.3	4.09	
29	113	鉄、鉄鏃	Z-54	3層	No.52	0.8	0.4	13.43	
29	114	青銅製■子の一部	A-52			0.3	0.2	0.61	先端部に穿孔？紐留め金具か？
29	115	鉄釘	Pit90			0.6～1.4	0.6～1.4	?	下部欠損
29	116	鉄、鉄鑿	Z-54	3層	No.52	1.0	0.3	9.72	
29	117	鉄、槍?	S042	3層	U²-63	2.0	0.3	12.77	下部欠損
29	118	鉄、鉄鏃		3層掘り下げ		1.9	0.3	27.79	茎の先端を欠損か？

３．小結

【出土遺物】

調査区の遺物総出土量は、網コンテナ（46×62×19㎝）で45箱分であった。そのうち、127点の遺物を図化し、132点の遺物を写真のみで紹介した。

８世紀から９世紀の遺物がほとんどであるが、縄文時代の土器や石器、７世紀後半から８世紀前半の遺物、10～12世紀前半の遺物や中世以降の遺物も出土している。

ここでは主要な遺物を概観してみたい。

官衙域(1)に近いという特性からか硯片が７点出土した。円面硯が４点（47，49，75，103，106）出土しているが、当時の遺構から出土した遺物は75であり、S059（土坑）から８世紀前半の宇城産須恵器の杯蓋（74）と共に出土している。その他は後世の遺構や包含層からの出土である。なお、103，105は近接する溝（S030，31）から出土しており、透かしの幅はやや異なるものの同一固体と考えている。風字硯は２点（35、119）出土しているがいずれも後世の遺構や包含層からの出土である。119には右側に朱墨が残存しており、駅前調査３区出土の風字硯と同様、右側に朱墨を入れて使用する習慣があったものと考えられる。転用硯は１点（105：ST-65）のみの出土であった。

腰帯具は石製丸鞆１点（109：カクセン岩：P.17)、石製蛇尾１点（110：蛇文岩：P.213)、石製巡方１点（111：カクセン岩：１～３層)、青銅製丸鞆１点（108：B-49層位不明）の計４点出土している。腰帯具は銅製が８世紀前半に、石製が８世紀後半～末にかけて出現するというデータが示されている(2)。田中編年によれば石製丸鞆（109）と石製蛇尾（110）は９世紀代、石製巡方（111）は８世紀後～10世紀前、青銅製丸鞆（108）は８世紀後～９世紀初の範疇で把握可能と考えられる。また、青銅製■具（114：A-52：出土層位不明）の紐留め金具の可能性がある青銅品も出土している。

文字資料は２点の土師器の刻書土器（14、15）と１点の土師器の墨書土器（82）の計３点出土している。２点の刻書土器はいずれも８世紀末～９世紀中頃の竪穴住居跡（S006）から出土しており、「上」「大」と判読可能である。墨書土器は、12世紀代の井戸（S076）の最下層から出土しており、判読は不能である。文字ではない可能性がある。

ほぼ完形の須恵器のすり鉢（59）は内面下部に顕著な擦痕跡を残しており、８世紀後～９世紀中頃の竪穴住居跡（S044）から出土している。

滑石製石鍋（90）の破片には計１㎝程の孔が斜めに穿ってあり中には鉄が残存している。補修穴なのか別用途なのか詳細は不明である。

焼きが非常に良好な初期高麗青磁椀（95：11世紀後半～12世紀前半）はほぼ半分の形状でPit.366から出土している。同じPitから出土している土師器の甕（94：古代）と托片（93：～11世紀初頭）とは時期がややずれる。

鉄器・鉄鏃（62，113，118)、刀子（63，72)、鑿（116)、鉋（117）などが多く出土している。3，5，7，36，37，83，115以外は古代と考えられ、鉄鏃（62）と刀子（63）はS038（竪穴住居跡：８C第４四半期)、鉋（117）はS042（竪穴住居跡８後～９C中)、刀子の基部（72）は、S048（竪穴住居跡：８C第４四半～９C第１四半期）などは遺構に伴い出土している。

【遺構】

◆時期変遷（Fig.31～Fig.34参照）

出土遺物から遺構時期を決定する方法がとられるが、遺構が存在した時期そのものを示す遺物はほとんどなく、その多くが遺構廃絶後に入り込んだ遺物である。しかし、出土遺物の中で一番新しい遺物を見ることで廃絶後の限りなく近い時期推定は可能と考える。一つの遺構の時期が確定するとその切り合い関係にある遺構も自ずと時期が判明する。しかし、遺物ばかりに目を向けると危険であり、遺構埋土を考慮しなければ

Fig. 30遺構変遷図①

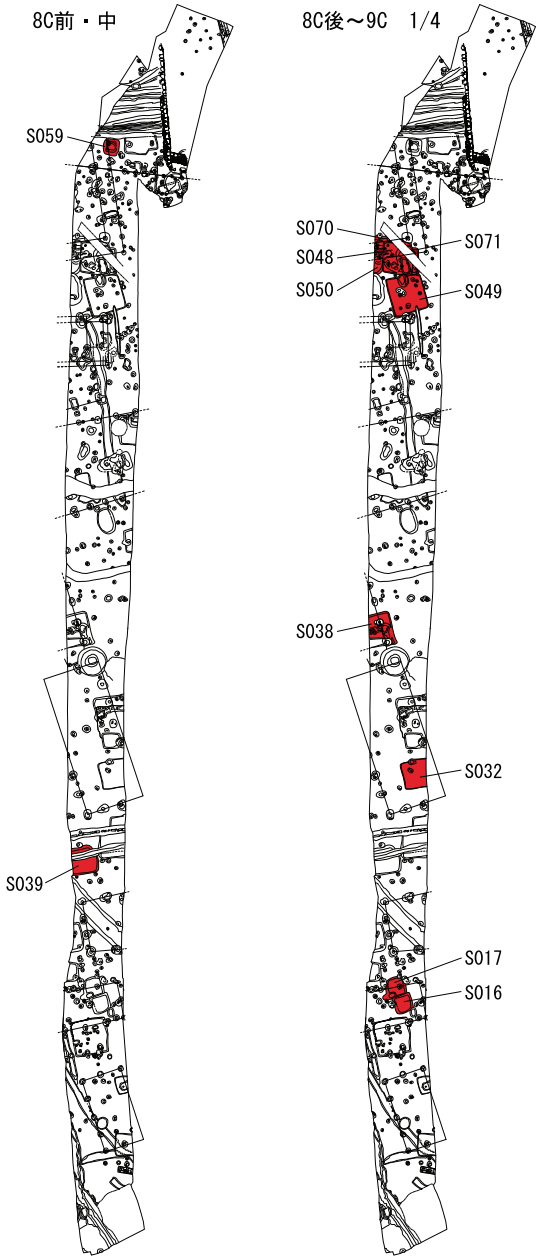
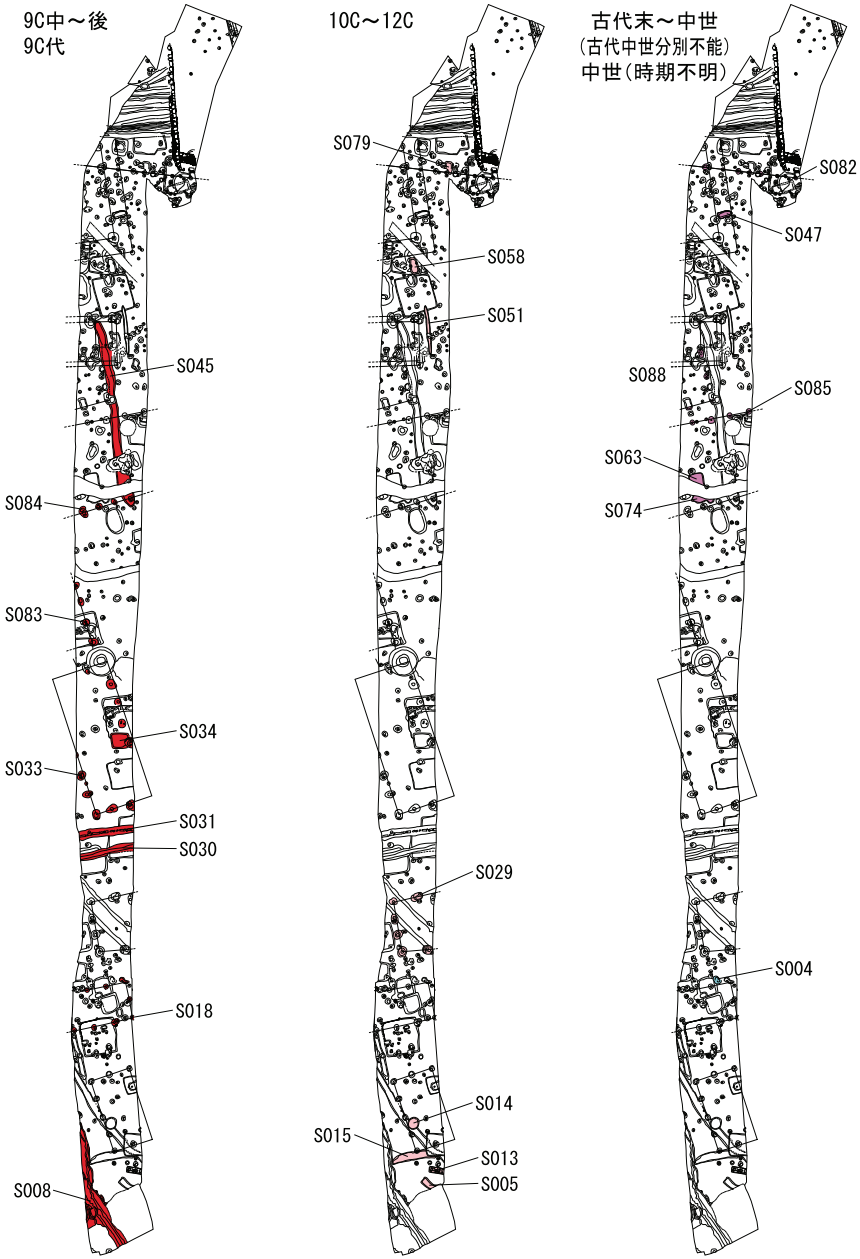


Fig. 31遺構変遷図②



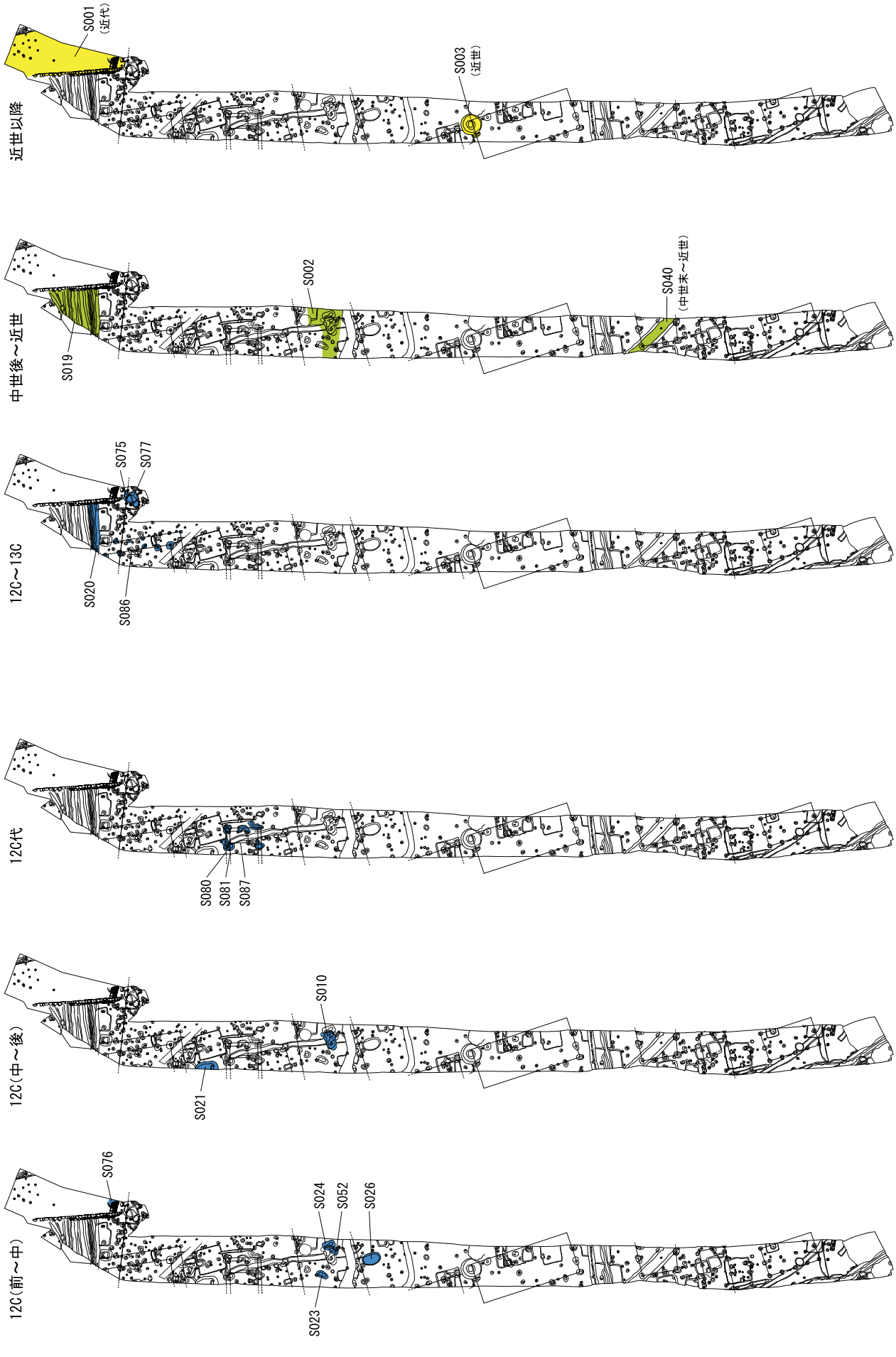


Fig. 32遺構変遷図③

Fig. 33遺構変遷図④

ならない。二本木遺跡群では埋土でおおよその時期が把握可能であり、「遺構埋土」「出土遺物」「切り合い関係」を考慮して遺構の時期を推定した。なお、出土遺物が無く切り合いも無い遺構やピットは埋土から、1層は中世末～近世以降、2層は主に中世、2～3層の不明瞭な層は古代末～中世、3層は古代と推定した。

これらの条件を基に遺構の時期変遷を示したのが、Fig.31～Fig.34である。

8世紀代と確定できる遺構は、竪穴住居を中心としている。9世紀になると竪穴住居が終焉を迎え、掘立柱建物が多く見られるようになる。10世紀後半～11世紀にかけては土壙墓が見られる。古代の遺構は調査区全面に見られるが、中世期の12世紀以降の遺構は、調査区の北側にほぼ集中している。土坑、土壙墓、溝や掘立柱建物群が見られる。中世後期から近世にかけては畑畦、溝や井戸など耕作に関する遺構が多い。

◆掘立柱建物群・柵列について（Fig.35参照）

遺構変遷図をさらに大まかにまとめたものがFig.35である。明確な時期を示す遺物はほとんどないが、遺構の切り合い関係から時期を決定した。

積極的に8世紀後半の掘立柱建物といえるものは無いと判断した。9世紀前までに消滅するとされる竪穴住居を切ることから、埋土が3層であり、南北軸から東へのズレがほぼ9度（8～10度）になる一群を9世紀代と想定した（S009，033，083，084）。

次に埋土が3層主体（柱穴に埋土2層もある）であり、南北軸から東へのズレがほぼ12～18度になる一群を9～12世紀代と想定した。S082は、7柱のうち5柱が3層で2柱が2層であることからこの群に含めたが軸のズレは34度と倍に近い。

更に埋土が完全に2層及び2層主体（柱穴に埋土2層もある）である建物群を12～13世紀の中世期に想定した。S080とS081は、建て替えと考えられ、S087はいずれかの付属施設の可能性がある。S086は、南面と東面に庇のついた建物であり5軒以上×2間以上の建物である。

◆S033の大型建物について

S033は、7間×3間（15.7m×6.4m）の大型掘立柱建物であり、S082とS084は軸がほぼ並行、垂直に並び明らかに同一時期であると考えられる。S033とS083は掘立柱建物で、S084は柵列と考えられるがS083とつながる可能性も考えられる。

S033は、熊本市13次調査区で確認された1号建物と同じ7間×3間の大型建物である。Tab.29は2つの建物の比較表であるが、長軸が1.5m短いこと、建物軸の向きやズレがあることを除けば遜色ない規模といえる。しかし、柱穴の掘削から建物の立替や根固めなどの情報は得ることはできなかった。

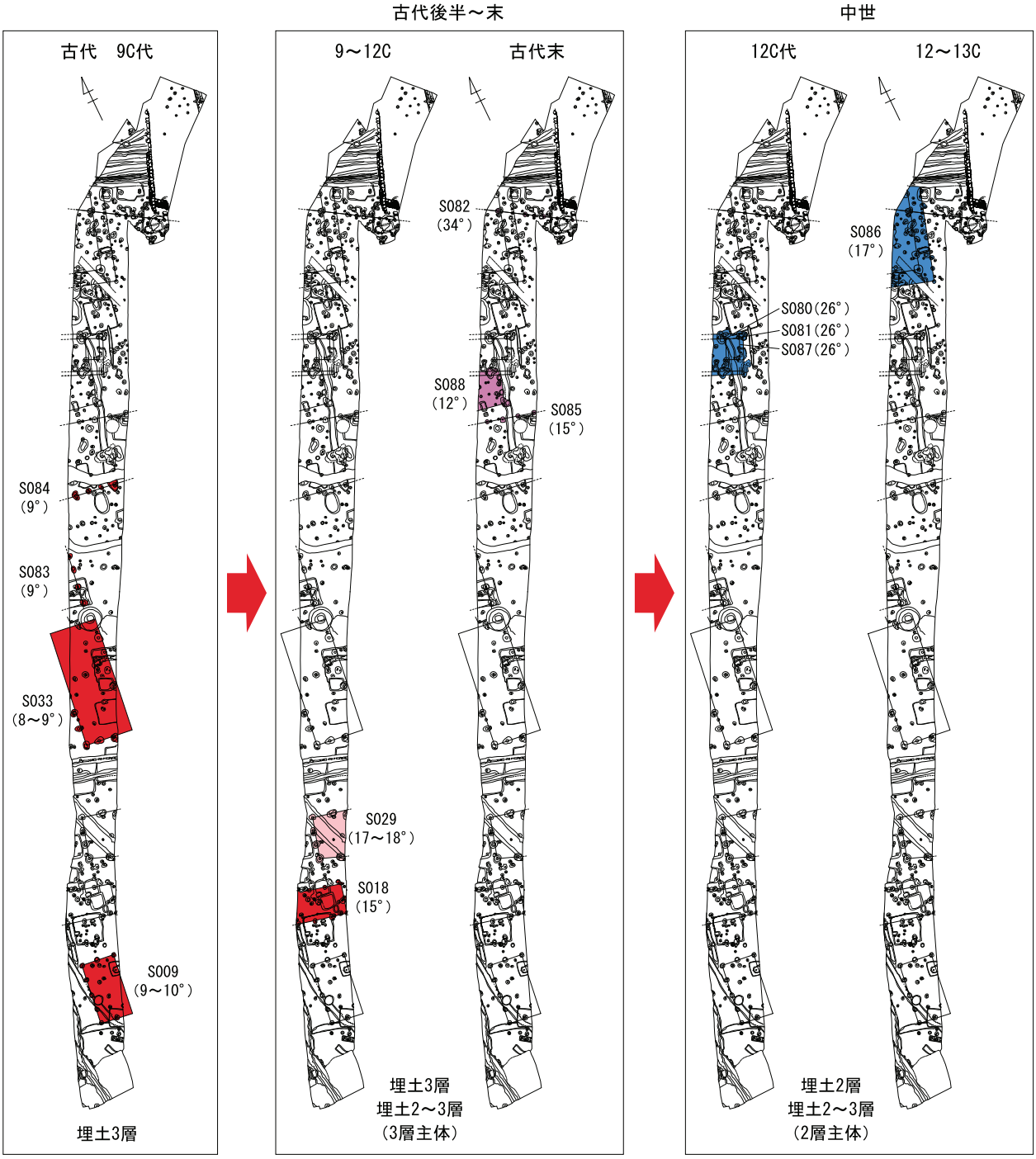
建物の時期が大幅に違うことから、13次調査区の官衙関連建物が9世紀前葉で終焉した後の曹司などの施設の可能性が考えられる。

◆S002（畑畦跡について）

表土剥ぎの際に1層を剥ぎ終わる深さで東西方向に走る溝状の筋が何本も確認された。これらの溝は市電調査区全域にわたっており、周辺の調査区でも確認される。ほとんどの溝には砂がかぶっており、これらの一部をS002という遺構番号をつけて掘削を行い、畝の土を採取後ウオーターフローテーションで炭化種子の検出[3]を行った。畑畦に1から8番までの番号をつけてベルトを残したまま掘り下げた平面図がFig.11である。トーンの状況で畦間溝、畑畝、洪水後の掘りこみを示している。断面図でもわかるように畦及び畦間溝を切る形で掘りこみが確認される。畦間溝には多量の川砂が堆積しており、洪水後再び畑地として活用するためには洪水前の耕作土を掘り起こすしかなかったため、耕作に適した土を獲得するための掘りこみが畑全面に広がっているものと考える。

炭化種子の内訳は、Tab.31に示した通りである。当初、近世期の畑畝の可能性を考えていたが、ウオーターフローテーションによる炭化種子の14C年代は概ね下層が12世紀後半～13世紀前半、上層が14世紀の年代を示している。古代住居のカマド周辺で検出された炭化種子の中には、上層からのコンタミ（動植物の影

Fig. 34掘立柱建物群の変遷



Tab.29　掘立柱建物比較表

	時期	規模(想定)		掘方の大きさ		柱間	面積	柱(想定)	軸のズレ	備考
(市13次) 1号建物	8世紀中～後	7間×3間	17.2m×6.4m	ほぼ方形	一辺95～ 125cm	2.4m	110.08㎡	35cm	東西より0度	Ⅰ期、Ⅱ期の掘り方や根固めあり。
S033	9世紀中	7間×3間	15.7m×6.4m	楕円形	90～110×80～90cm	2.1～2.4m	100.48㎡	30cm前後	南北から東へ8～9度	不明

Tab.30　二本木遺跡群　市電敷地：S002畑畦遺構　出土種子一覧表

採取場所	イネ	オオムギ	コムギ	ムギ類	ヒエ近似種	アワ近似種	マメ科	タデ属	アカネ科	双子葉類	シンジュガヤ属	タブノキ近似値	不明種実	不明	種子数	備考
1-1	1	9													10	
2-1	3	8						1	1						13	
3-1		5							1						6	
4-1	4	8	1				1			1				1	16	
5-1		2								1				2	5	
6-1	2	8	1						2	4					17	
7-1	2	9	2	5	1					1				5	25	14C：14C初～末
8-1	2	5	2	1											10	
1-2	1	6	1						1	2					11	
2-2	2	13							1	4				1	21	14C：13C末～14C末
3-2	1	2													3	
4-2	1	7	4											2	14	
5-2	4	5							1	1					11	
6-2	3	1					1		1	1					7	
7-2	2	7	2		1					2				2	16	
8-2	2	6	1	2					1	3					15	
1-3	5	7											2		14	
2-3	2	16												1	19	
3-3	3	7		1		1							3	4	19	
4-3	2	10										1		1	14	
5-3	4	9	2	5					3					9	32	
6-3	3	7												1	11	
7-3		7	2	1											10	
8-3	3	10	3							1					17	
1-4		6	1				1		1						9	
2-4	3	24	2	3					3				2		37	
3-4	4	12		2									1	1	20	
4-4	2	11	3				1						1	2	20	
5-4	3	4					1		1					1	10	
6-4	4	7		1			2							1	15	
7-4	2	11	2												15	
8-4	2	13	3							1					19	
1-5	2	9								2			1		14	
2-5	1	7													8	
3-5	5	17	3	16			1		3	3					48	14C：14C前～15C初
4-5	1	13		2					3	3			1	2	25	
5-5		15		2		1	1							1	20	
6-5	4	9	3						1	2					19	
7-5	4	10	1				1			3				1	20	
8-5	4	2	2	2						3					13	
1-6		9	1											1	11	
2-6															0	所在不明
3-6	5	13	6							3				1	28	
4-6		7	1				2			1				1	12	
5-6	4	1	6	5	1		1		1	6				4	29	14C：12C後～13C前
6-6	3	4	4		1		2		2	1				1	18	
7-6	7	8								2					17	
8-6	3	13													16	
1-7	1	10	2							2				1	16	14C：12C後～13C前
2-7	3	9	2												14	
3-7	2	8	1							2				1	14	
4-7	3	10													13	
5-7		7								1					8	
6-7	2	6	1												9	
7-7	1	5	2				1								9	
8-7	4	7	2							1				2	16	
1-8	2	11	3						1						17	
2-8		10	4							1					15	
3-8	5	4	2				1							2	14	
4-8	3	10				1			1	1				1	17	
5-8	5	11							1					2	19	
8-8	7	1		1			2			2	1				14	
1-9		4	1				1		1						7	
2-9	1	13		2										1	17	
3-9	4	12	2		1		1								20	
4-9	2	5	1												8	
4-10	7	7	1												15	
種子別総数	167	549	83	51	5	3	21	1	31	61	1	1	11	56	1041	

同定者：パリノ・サーヴェイ

Tab.31　S002（畝遺構）検出種子数と年代測定

列／袋	1	2	3	4	5	6	7	8	9・10	合計	出土種子による放射性炭素年代
1	10	11	14	9	14	11	16	17	7	109	14C：14C初～末
2	13	21	19	37	8	0	14	15	17	144	14C：13C末～14C末
3	6	3	19	20	48	28	14	14	20	172	
4	16	14	14	20	25	12	13	17	23	154	
5	5	11	32	10	20	29	8	19	0	134	14C：14C前～15C初
6	17	7	11	15	19	18	9	0	0	96	14C：12C後～13C前
7	25	16	10	15	20	17	9	0	0	112	14C：12C後～13C前
8	10	15	17	19	13	16	16	14	0	120	
列別合計	102	98	136	145	167	131	99	96	67	1041	

Tab.32　明治７年度調（1874年）肥後国飽田郡春日村

物産

穀物名	標　記　高	換算
米	264石2斗8升5合	82.2 t
大豆	14石8斗6升8合	2.2 t
裸麦	374石9斗4升5合	56.2 t
小麦	94石7升5合	14.1 t
粱（粟）	273石9斗2升	41 t
蚕豆	30石9斗6合	4.6 t
菜種	106石4斗6合	16 t

引用文献：熊本市　1993『新熊本市史』別冊　絵図地図　新熊本市史編纂委員会

響による）と考えられる炭化種子が混じる（第５章第３節を参照）と考えられることから、この年代が絶対的ではないが、これらの畦跡の下層には２層及びS010，23，24，52という12世紀代の遺構が確認され、畑畦内から近世の遺物は確認できないことから、近世より古い畑遺構と考える。

明治７年（1874）に春日村の沿革について書かれた記述の中に穀物の石高が示されている。この中で炭化種子として、検出可能な穀物名と石高を示したものがTab.32である。明治初期の表記であるが、少なくとも江戸後期から幕末の様相を示すものと考えられる。実際に同定された種子名と比較してみると、同じ穀物も存在するが粟が非常に少なく、菜種、蚕豆、大豆が存在しないことから少なくとも近世後期のものではないと考えられよう。

よってこの洪水による砂層が覆った畑址は、複数の炭化種子14Ｃ年代が重複する14世紀後半～末の年代の可能性が高いと考えられる。また、この場所では少なくとも12世紀後半から13世紀前半期には、オオムギやイネ（陸稲？）を中心とした穀物の栽培がされていたともいえよう。

なお、市電南側の断面観察によるとこれらの畑畦層より更に下層にも川砂層や畑畦層と考えられる遺構が観察されることから（Fig.18参照）、より古い畑址遺構があることも記述しておきたい。

【註】

⑴ 原田範昭・金田一精　2008「二本木遺跡群Ⅴ」
－二本木遺跡群第28次調査区（E～I･K･L･P地点）発掘調査報告書－　熊本市教育委員会

⑵ 田中広明　1995『官衙及び関連遺跡と腰帯』「地方官衙とその周辺：日本考古学協会1995年度大会シンポジウム」日本考古学協会

⑶ 熊本大学小畑弘己教授から指導をいただいた。

４．写真図版

PL.1　市電敷地北側空撮

PL.2　市電敷地南側空撮

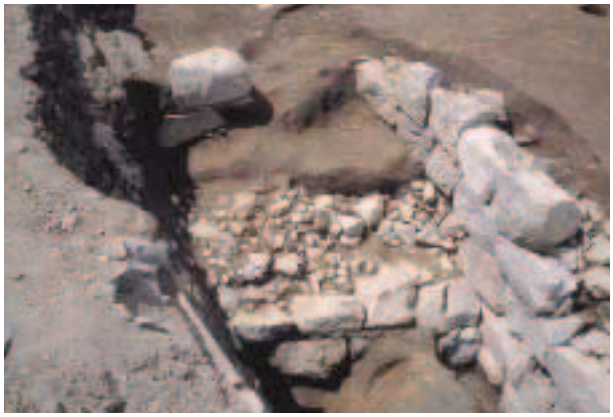
PL.3　完掘状況（南から）

PL.4　調査区全景（南から）

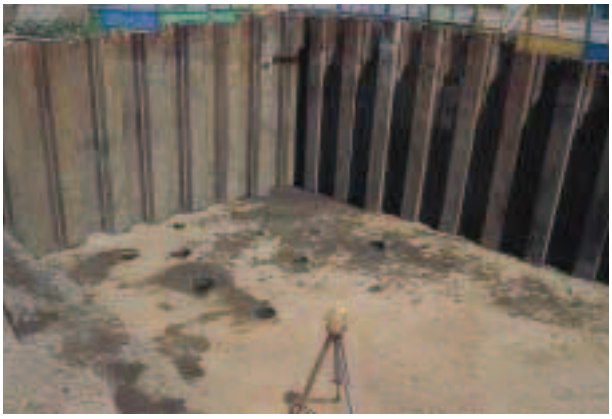
PL.5　市電全景

PL.6　市電調査南側水路

PL.7　S001石垣検出状況（南東から）



PL.8　S001石垣検出状況2



PL.9　S001完掘状況（南西から）

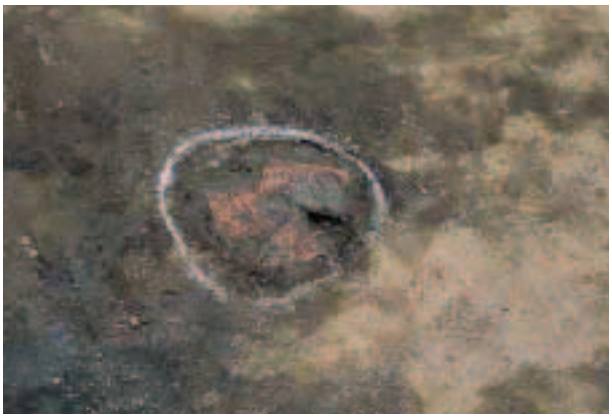
PL.10　S001石垣裏込め石状況1（北から）

PL.11　S001石垣裏込め石状況2(北から)

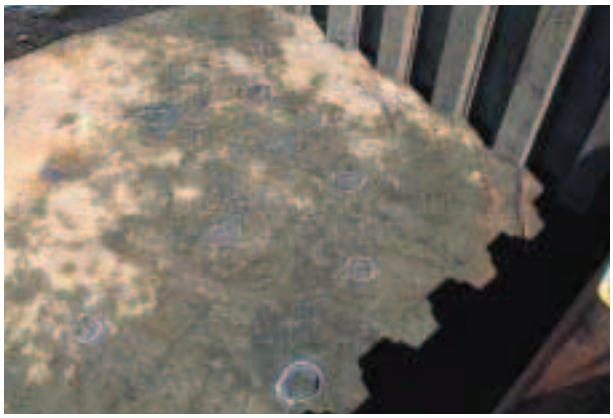
PL.12　S001石垣裏込め石状況(断面)1(南から)

PL.13　S001石垣裏込め石状況(断面)2(北西から)

PL.14　S001船材とピット検出状況1



PL.15　S001船材とピット検出状況2



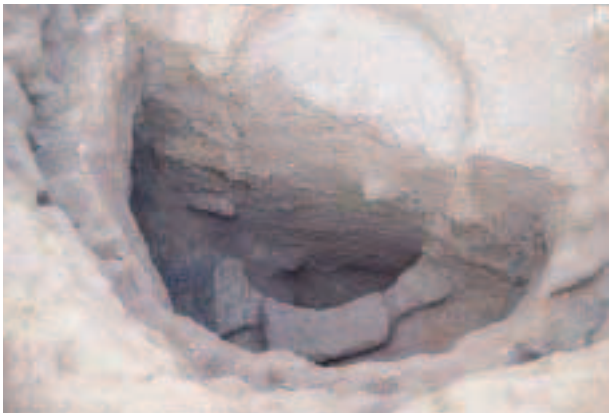
PL.16　S001船材とピット検出状況3

PL.17　S001石垣検出状況1

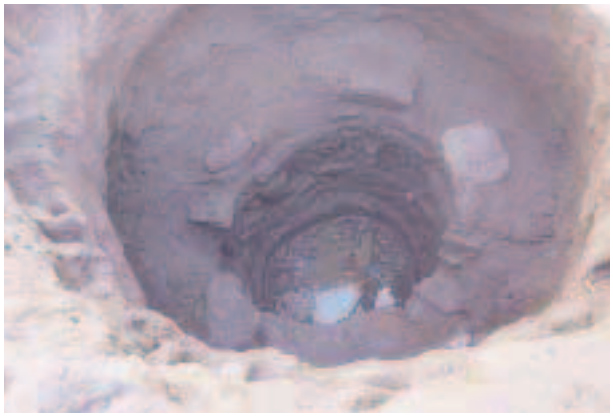
PL.18　S001石垣検出状況2

PL.19　S001石垣検出状況3

PL.20　S001石垣検出状況4



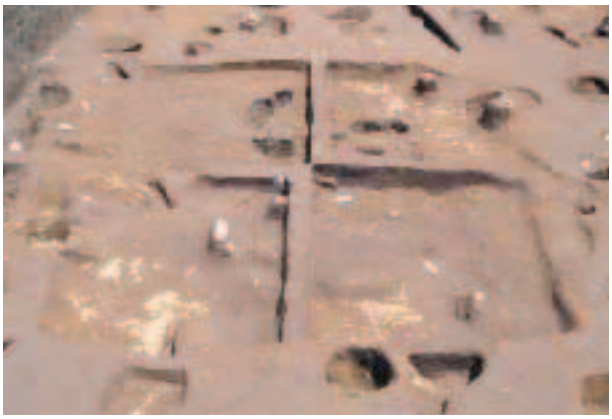
PL.21　S003井戸枠と半裁状況（南から）



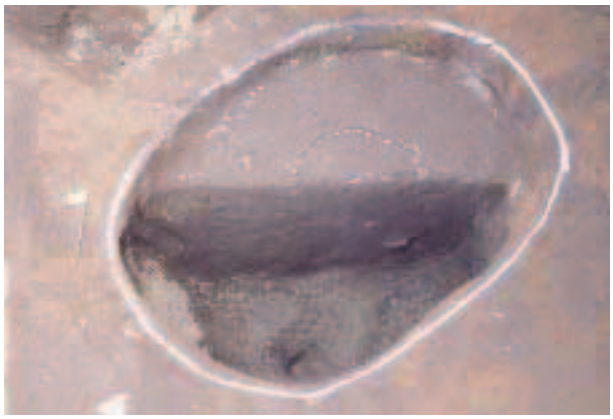
PL.22　S003完掘状況

PL.23　S007半裁状況（南から）

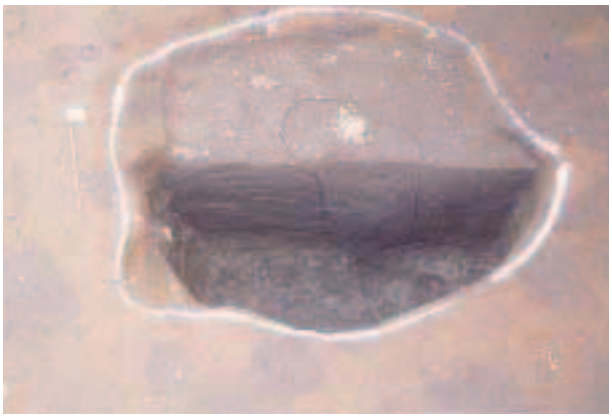
PL.24　S007完掘状況（東から）



PL.25　S009掘立跡（南から）

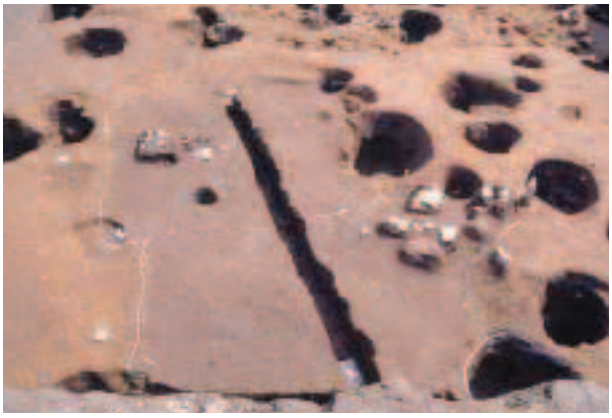


PL.26　S009ピット10柱痕検出状況（南から）



PL.27　S009ピット12柱痕検出状況（南から）

PL.28　S010遺物出土状況（東から）



PL.29　S016・017遺構切り合い状況

PL.30　S018掘立柱完掘状況

PL.31　S019検出状況（東から）

PL.32　S019完掘土層断面1（南から）

PL.33　S019完掘土層断面2（南から）

PL.34　S019・020土層断面（西から）

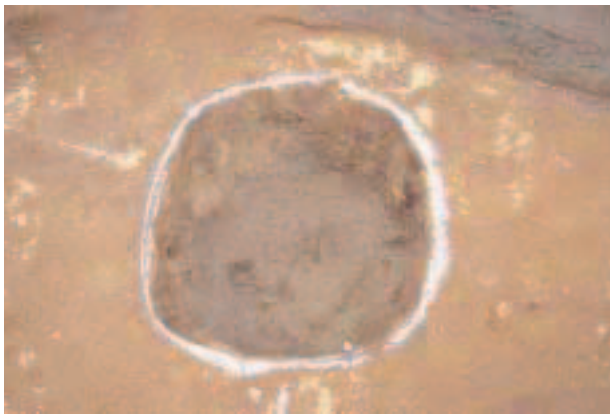
PL.35　S020完掘状況（西から）

PL.36　S024遺物出土状況

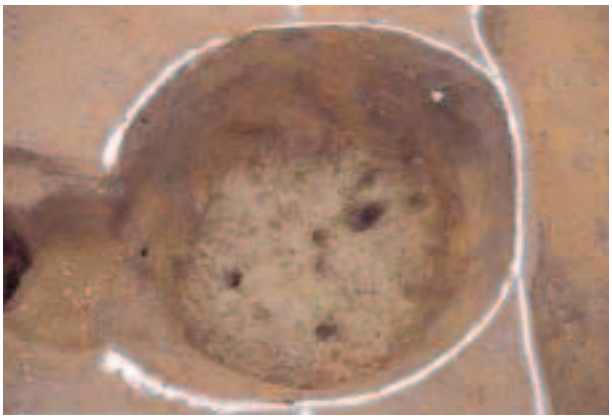
PL.37　S026遺物出土状況（北から）

PL.38　S029掘立柱（東から）

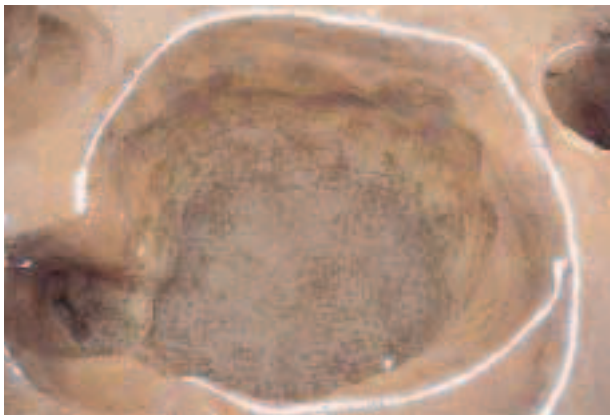
PL.39　S029掘立柱検出状況1



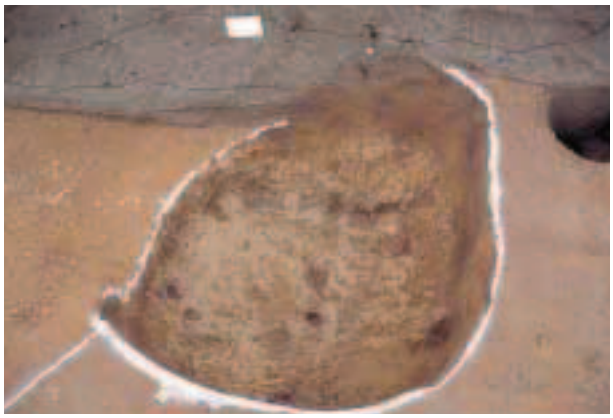
PL.40　S029掘立柱検出状況2



PL.41　S029掘立柱検出状況3



PL.42　S029掘立柱検出状況4



PL.43　S029掘立柱検出状況5

PL.44　S029掘立柱検出状況6

PL.45　S032カマド断面状況（東から）

PL.46　S035カマド検出状況

PL.47　S034・035・036検出状況（南から）

PL.48　S034・035土層断面（南西から）

PL.49　S031・043土層断面

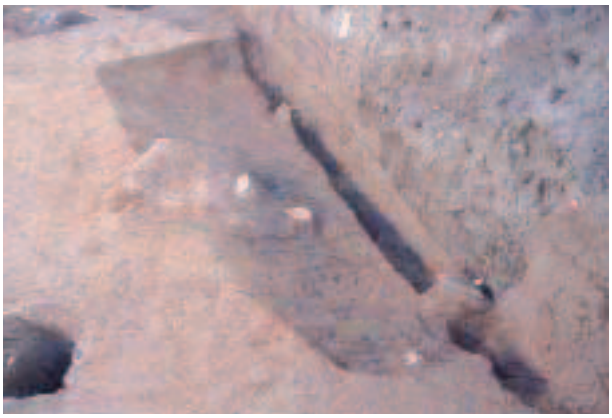
PL.50　S030・031・039土層断面（南から）

PL.51　S035完掘状況（東から）

PL.52　S040土層断面1

PL.53　S040土層断面2

PL.54　S041完掘状況と土層断面



PL.55　S044カマド検出状況

PL.56　S044カマド半裁状況（南から）

PL.57　ピット194遺物出土状況

PL.58　S047人骨検出状況（北から）

PL.59　S047完掘状況

PL.60　S048･049検出状況（東から）

PL.61　S054硬化面及び粘土検出状況（東から）

PL.62　S058人骨検出状況1（西から）

PL.63　S058人骨検出状況2（西から）

PL.64　S058完掘状況（東から）

PL.65　S059遺物出土状況（東から）

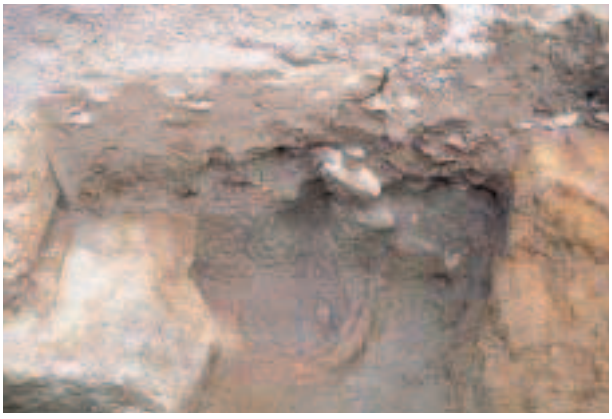
PL.66　S059土層断面

PL.67　S060遺物出土状況（西から）

PL.68　S060遺物出土状況と土層断面

PL.69　S080（ピット545）礎石検出状況

PL.70　S075完掘状況（東から）



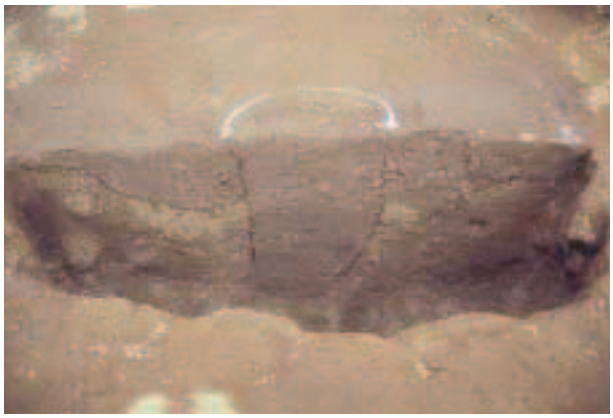
PL.71　S076（井戸）検出状況（北西から）

PL.72　S076（井戸）完掘状況1（北西から）

PL.73　S076（井戸）完掘状況2（北西から）

PL.74　S078 3層下面検出状況

PL.75　S078完掘状況（南から）



PL.76　3区ピット349柱痕検出状況（東から）

PL.77　S080・081礎石検出状況1

PL.78　S080・081礎石検出状況2

PL.79　S080・081礎石検出状況3

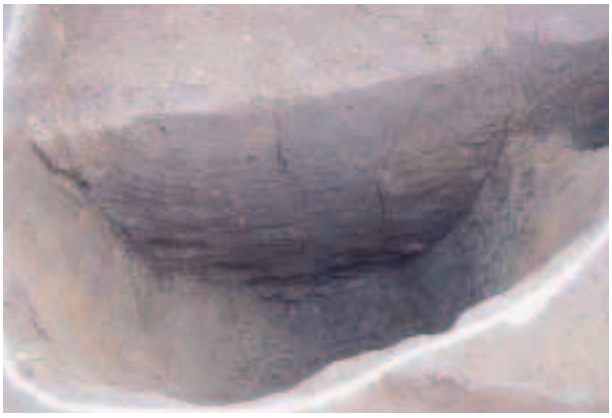
PL.80　S080・081礎石検出状況4

PL.81　S080・081礎石検出状況5

PL.82　ピット169遺物出土状況（西から）

PL.83　ピット342柱痕検出状況（東から）

PL.84　ピット352柱痕検出状況（西から）



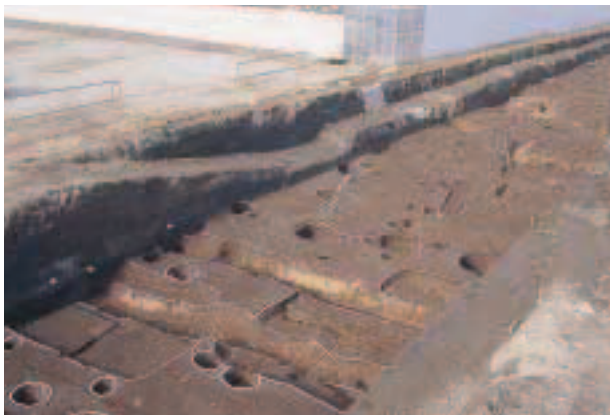
PL.85　ピット371柱痕検出状況（北から）

PL.86　1区中A-52遺物出土状況

PL.87　B･Cグリット石組検出状況と土層断面（西から）

PL.88　B･C－50グリット石組検出状況（東から）

PL.89　S029完掘状況（東南から）



PL.90　S033周辺完掘状況（東南から）

PL.91　S026周辺完掘状況（東から）

PL.92　S034・035・036完掘状況

PL.93　S003周辺完掘状況

PL.94　S032・033完掘状況

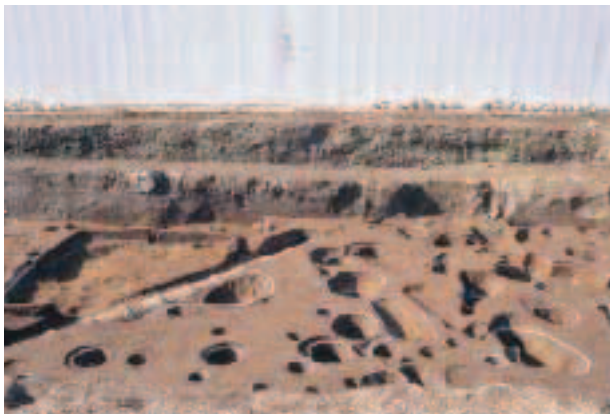
PL.95　S030・031完掘状況

PL.96　S040周辺完掘状況

PL.97　S045（Y^{2}-55）完掘状況（東から）

PL.98　S045（Y^{2}-56）完掘状況（東から）

PL.99　S059・060完掘状況（東から）

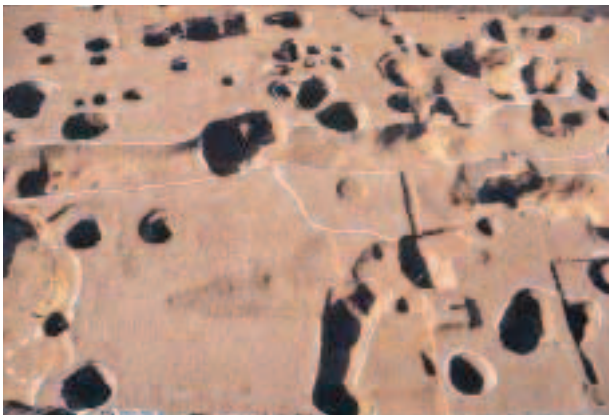


PL.100　S048・086完掘状況（東から）

PL.101　S086周辺完掘状況（東から）

PL.102　S048・049完掘状況（東から）

PL.103　S080・081・087周辺完掘状況（東から）



PL.104　S045・088周辺完掘状況（東から）

PL.105　市電調査区完掘状況（北から）

PL.106　S001完掘状況（南西から）

PL.107　S78完掘状況（西から）

PL.108　S001完掘状況（北から）

PL.109　S078周辺完掘状況（南から）

PL.110　S001・019完掘状況（東から）

PL.111　S019・020完掘状況（東から）

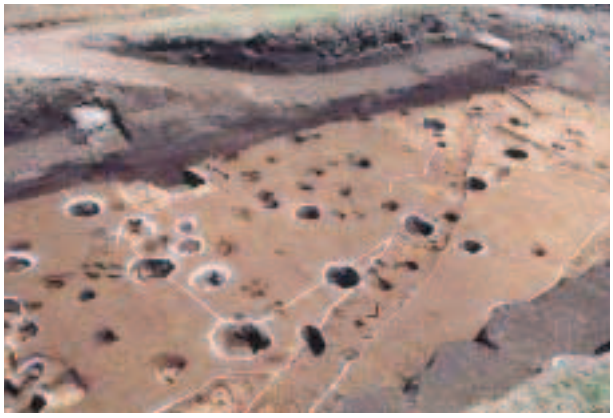
PL.112　S011・015遺構検出状況（東から）

PL.113　S007周辺遺構検出状況（東から）

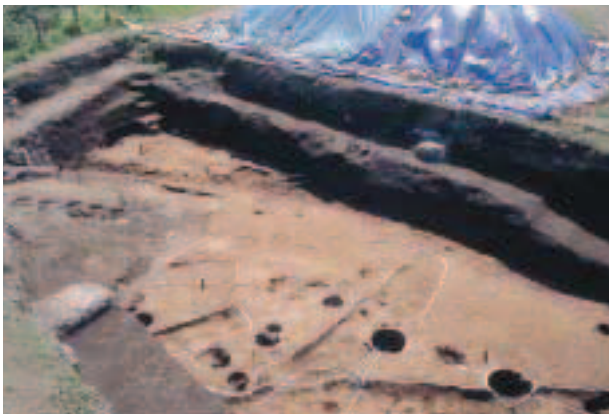
PL.114　S006遺物出土状況（南東から）

PL.115　S016・017遺構検出状況（南東から）

PL.116　S007・011周辺完掘状況（北東から）

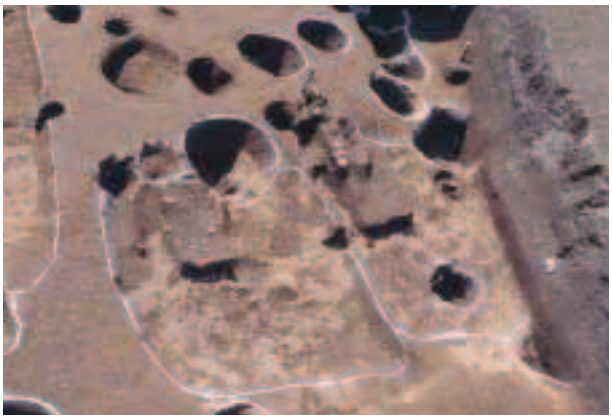


PL.117　S009周辺完掘状況（北西から）

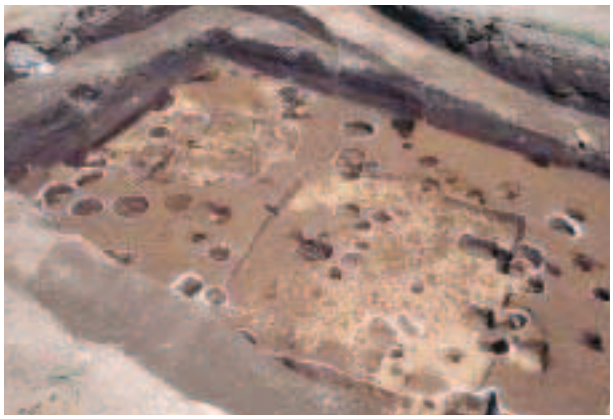


PL.118　S008完掘状況（北東から）

PL.119　S007・009・011完掘状況（東から）



PL.120　S016・017完掘状況（南東から）



PL.121　S016・017周辺完掘状況（南西から）

※（写）は写真撮影のみ

S001

S001

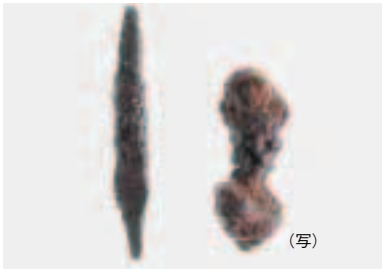
S001（写）

S002

S002

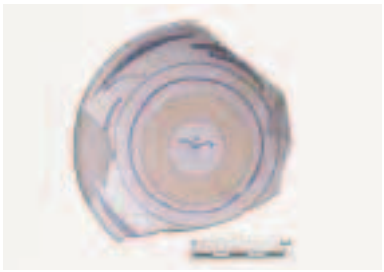
S002（写）

S003



S003・S019

S003



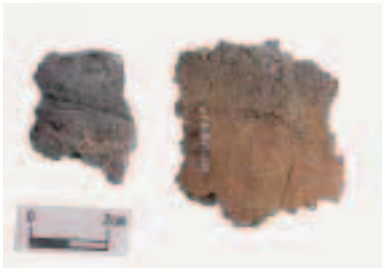
S003（写）

S006・S005

S006

S006

S006



S006・2層（写）

S008

S008（写）

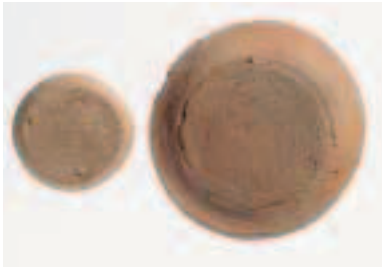
S008（写）

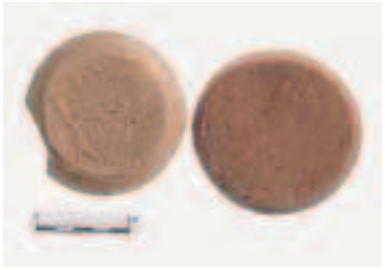
PL.123

S009

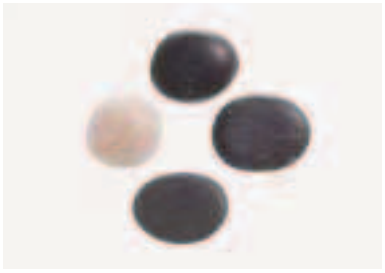
S010

S010・S019


S010（写）


S010（写）

S030・S010（写）

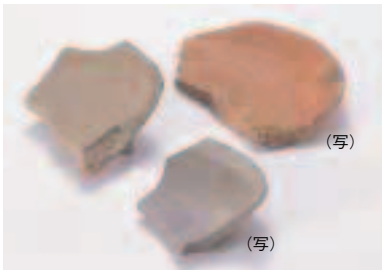

S010・S018・S075・ピット531（写）

S016

S016・S015

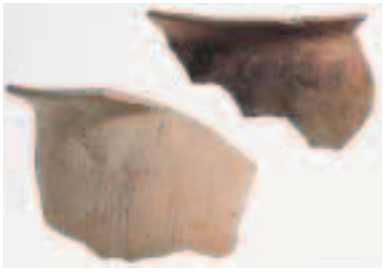
S016（写）

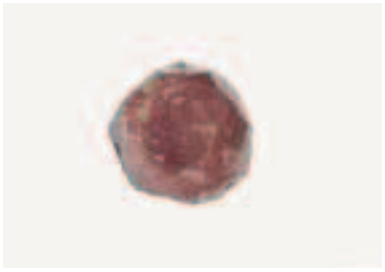
S017（写）



S017・S016

S017（写）


S017・ピット(50)（写）


S019

S019

S019（写）

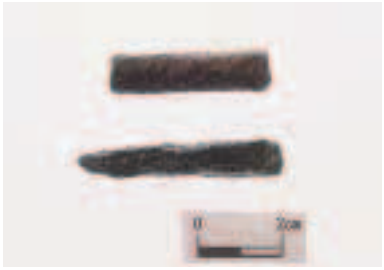
S019（写）

PL.124

S020

S021

S021



S021・S080、081、087

S021（写）

S080、081、087・Y²Z²－55

S024

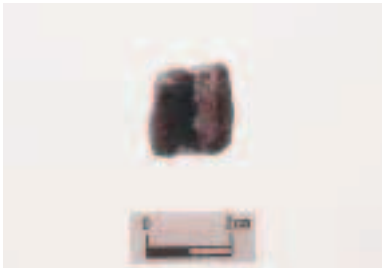
3層・S026

S028（写）

S030

S030（写）

S030



S030

V²－62・S031

S031・S028

S031（写）

S032

S033（ピット372）（写）

PL.125

S033（ピット423）（写）

ピット454

S035

S038

S038

S038・S048

S040・S039

S044

S044・S046（写）

S045・S042

S060・S045（写）

S045・S050

ピット194

ピット194

S048

S048

S048

S048（写）

PL.126

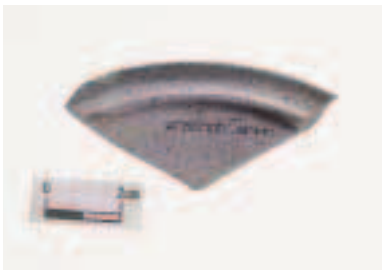
S048（写）

S048・S059（写）

S049（写）

S049

S049（写）

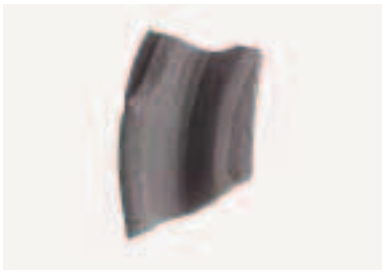


S050（写）

S053・S052（写）

S060・S053（写）

S058・S059



S059

S060

S060

S080・081・087

S080・081・087

S066（写）

S076・S075

S076

S075（写）

PL.127

ピット7

ピット15

ピット26

ピット(17)

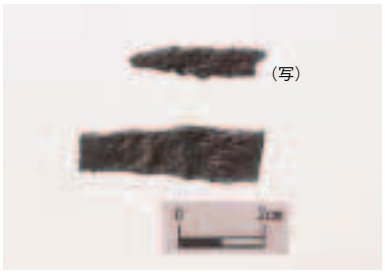
ピット213

ピット227

ピット366

ピット366

ピット35



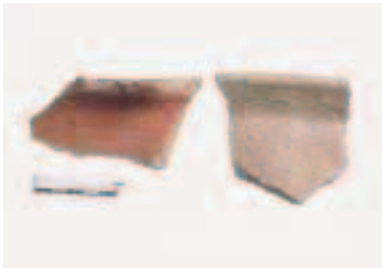
ピット298・Z²－52

ピット300・ピット49（写）

ピット492（写）

ピット331（写）

ピット169


ピット58・ピット240（写）

ピット154・ピット(59)（写）

ピット(8)・ピット134（写）

ピット193・ピット485（写）

PL.128

ピット105（写）

Y²－55

ピット266（写）

ピット530(実)・48（写）

ピット90

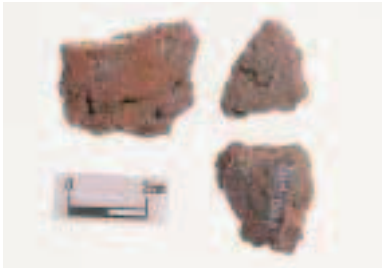
ピット398

ピット196・ピット362（写）

ピット154

ピット371（写）

S019・020・ピット12・2～3層（写）


ピット338・ピット(17)（写）

ピット416

1～3層

A－52

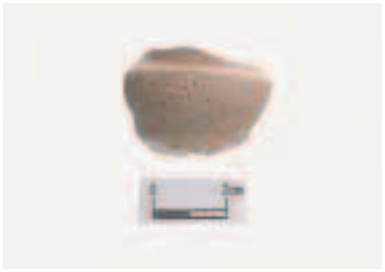
Z²－53

2・3層

Z－54 3層

3層

PL.129



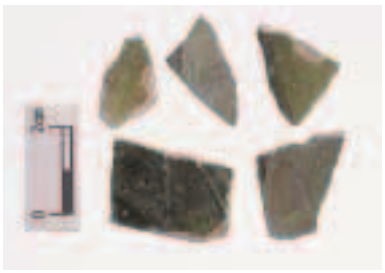
C、D－47、48（写）

Z²－55

3層

2・3層（写）

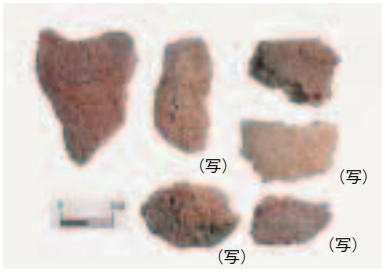
ピット(113)・1区上層（写）



南側1～3層一括（写）

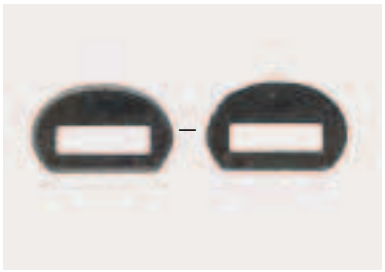
3層（写）

2・3層



1～3層

B、C－49・Z²－55・2～3層（写）



B－49

S²T²－65

1、2層

A－52

A－52X線写真

Y²－55

V²－63（写）

X²－56（写）

PL.130

A－51（写）

U²－63（写）

Z²－53（写）

ピット454・V²－62（写）

U²－53、62、63・Z²－54・2～3層（写）

2区1・2層・Y²－55（写）

V²－64、65

ピット73（写）

3区北側一括

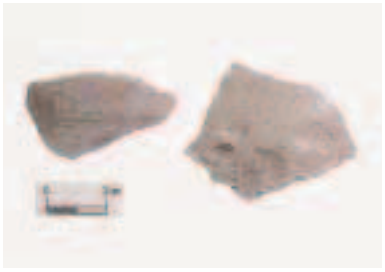
1層（写）

カクラン一括（写）

1層（写）

3区北2層・1区A－51（写）

D－47、48（写）


2、3層（写）

ピット337（写）

ピット271（写）

Y²－55、3層（写）

第５節　西部ガス跡地の調査

１．遺構と観察表

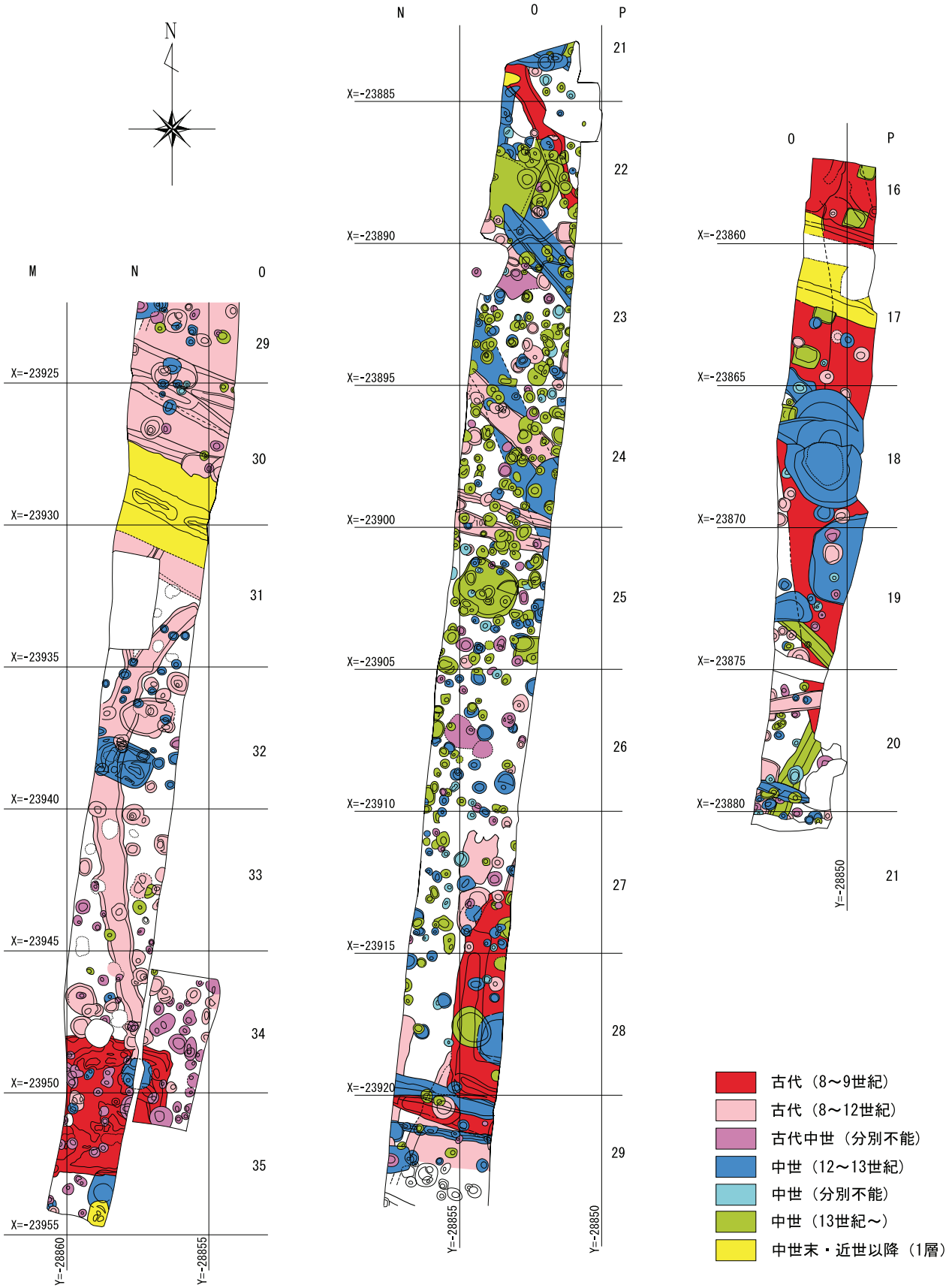


Fig.1　西部ガス跡地調査区時期別遺構配置図（S=1/200）

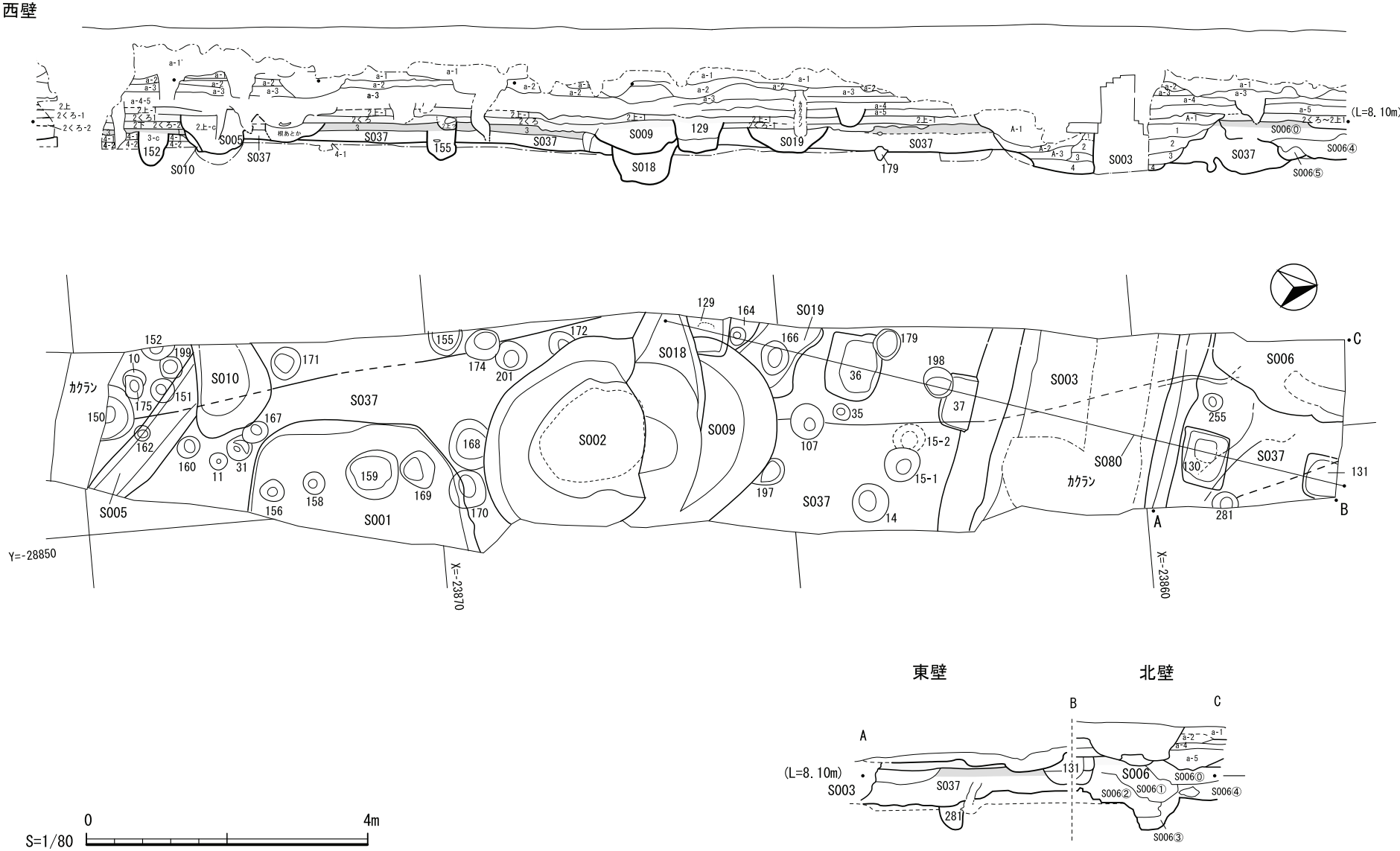


Fig.2　遺構配置図及び東西壁土層図【1】(S=1/80)

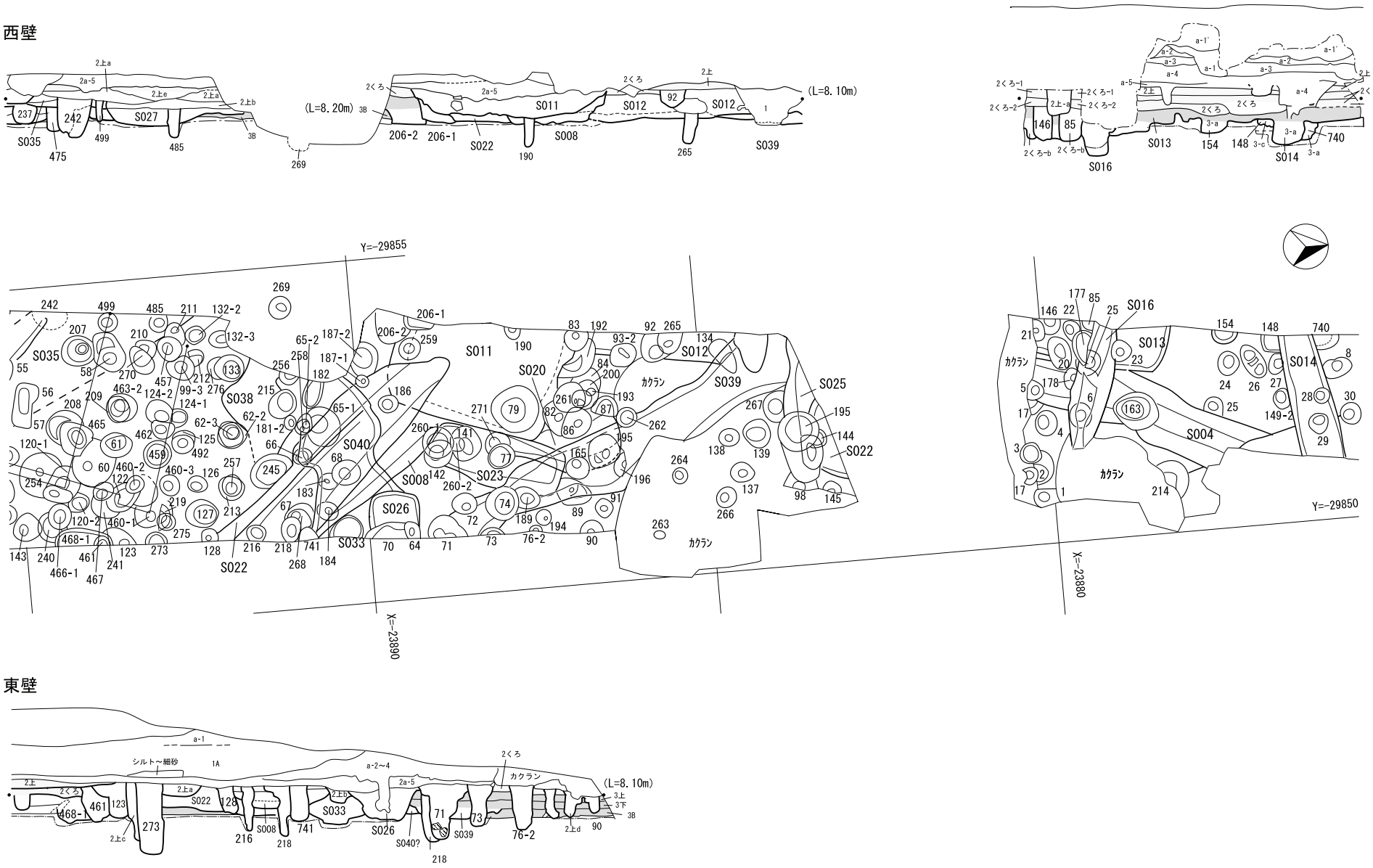


Fig.3　遺構配置図及び東西壁土層図【2】(S=1/80)

西壁

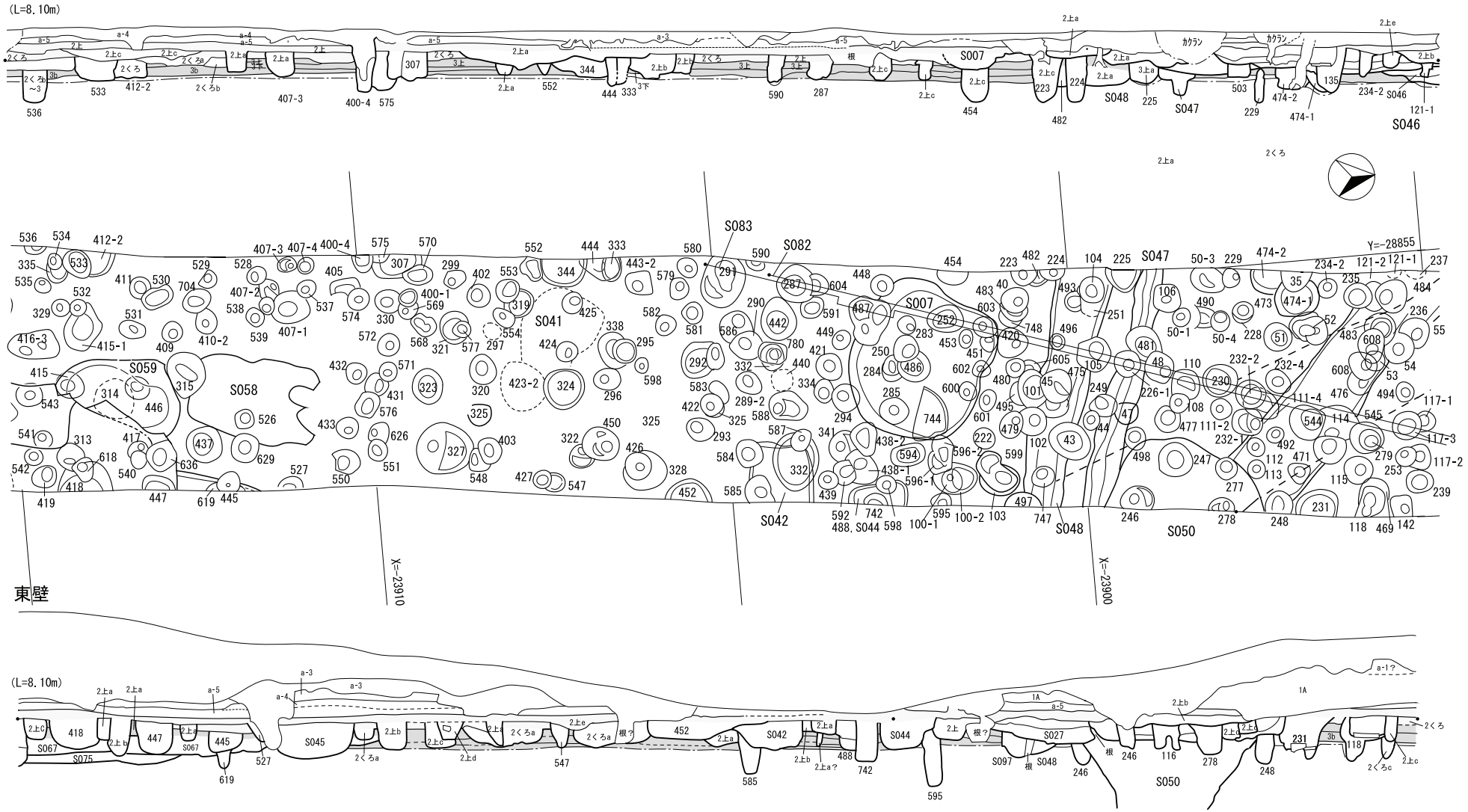


Fig.4　遺構配置図及び東西壁土層図【3】(S=1/80)

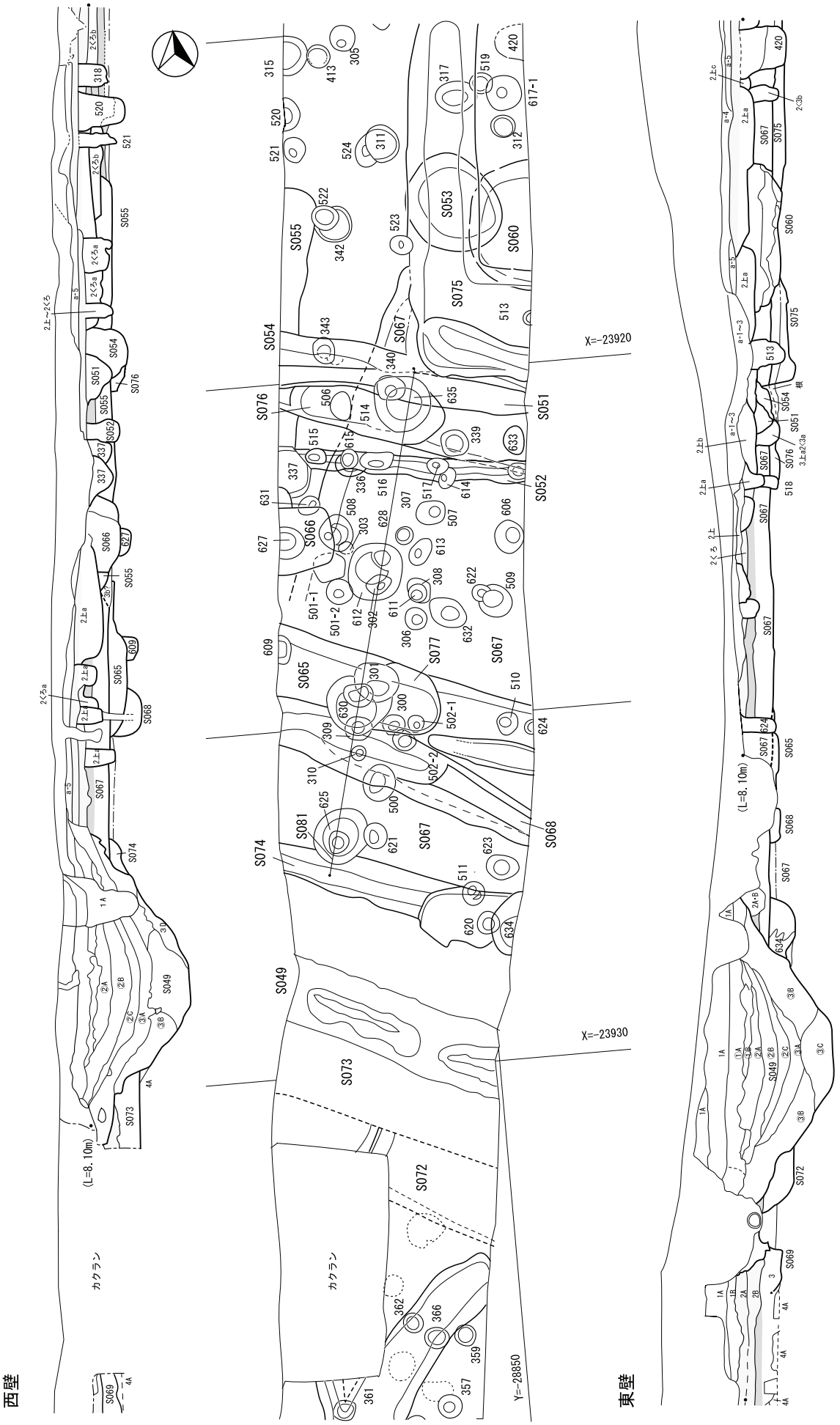


Fig.5　遺構配置図及び東西壁土層図【4】(S=1/80)

西壁

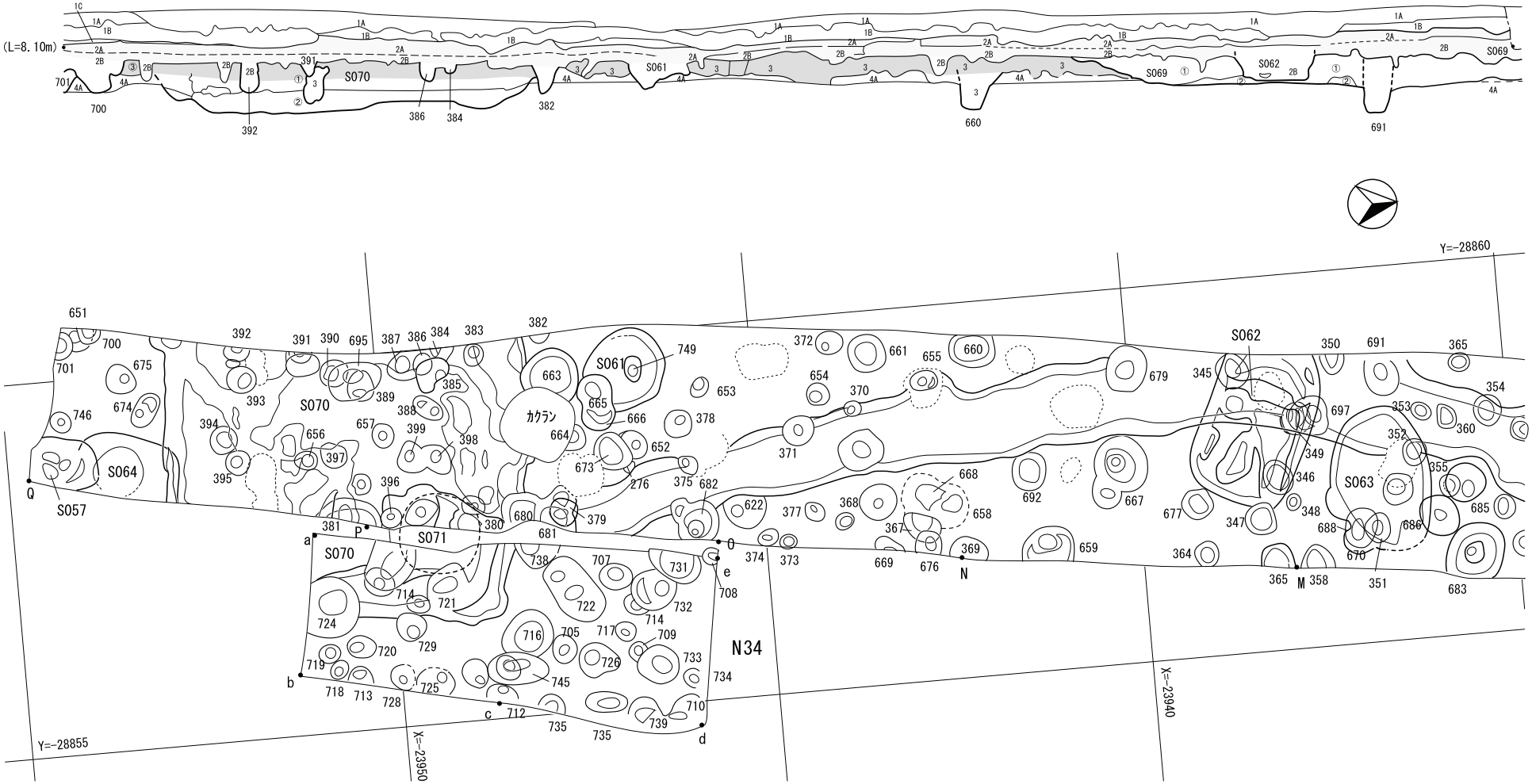


Fig.6　遺構配置図及び西壁土層図【5】(S=1/80)

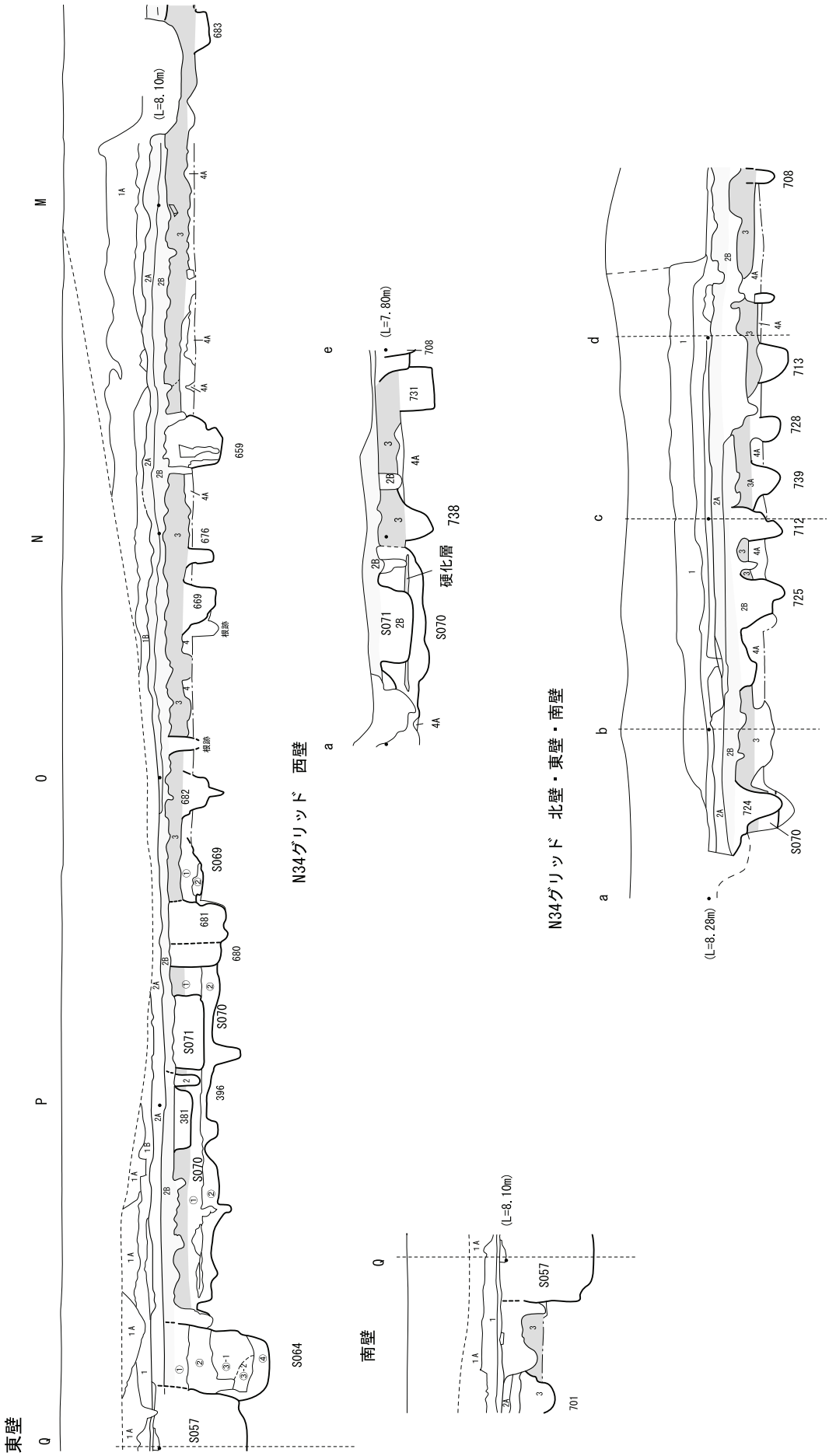


Fig.7　Fig.6東壁及びN34土層図【6】(S=1/80)

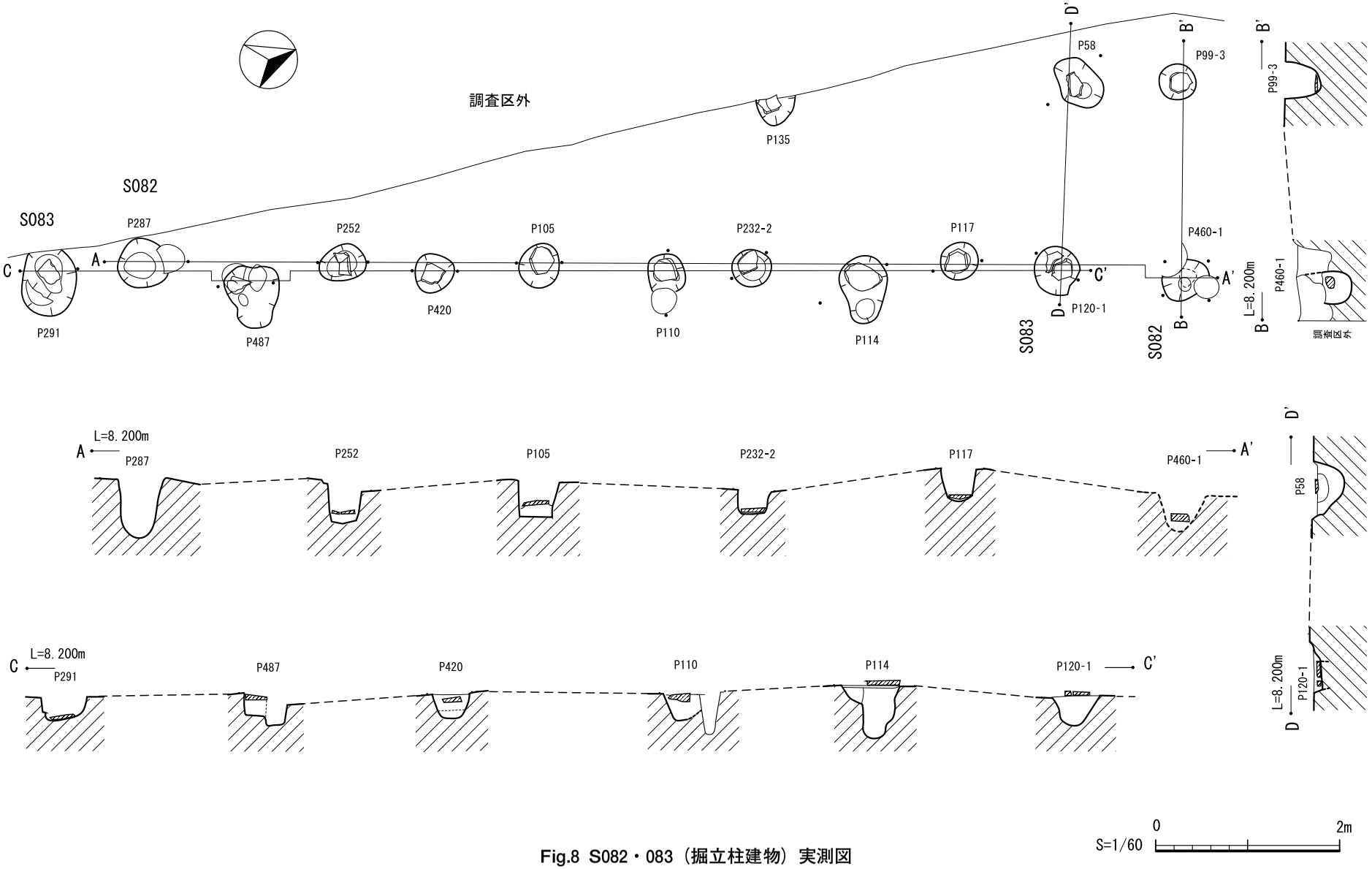


Fig.8 S082・083（掘立柱建物）実測図

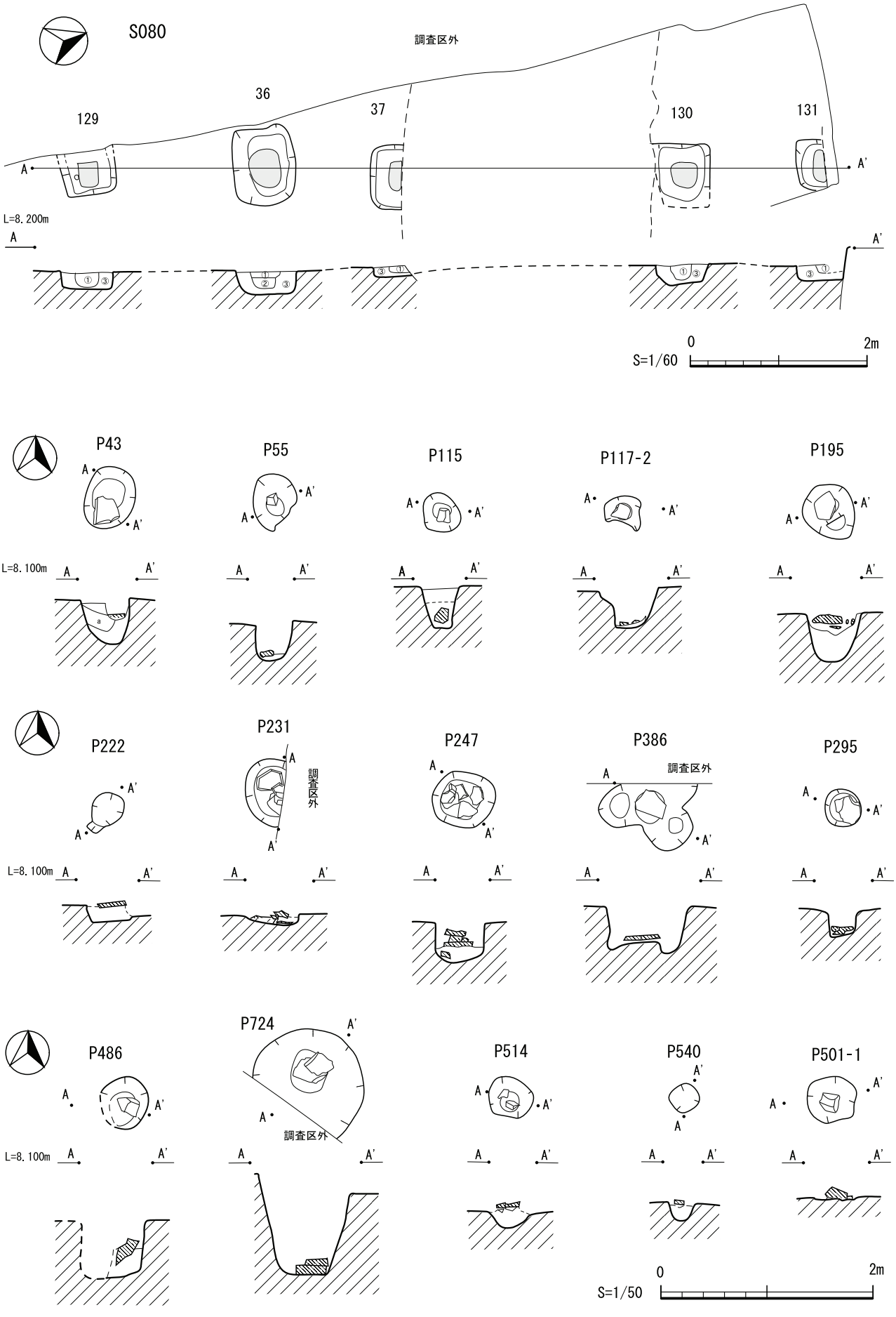


Fig.9　S080（ピット列）及び礎石・根石のあるピット実測図

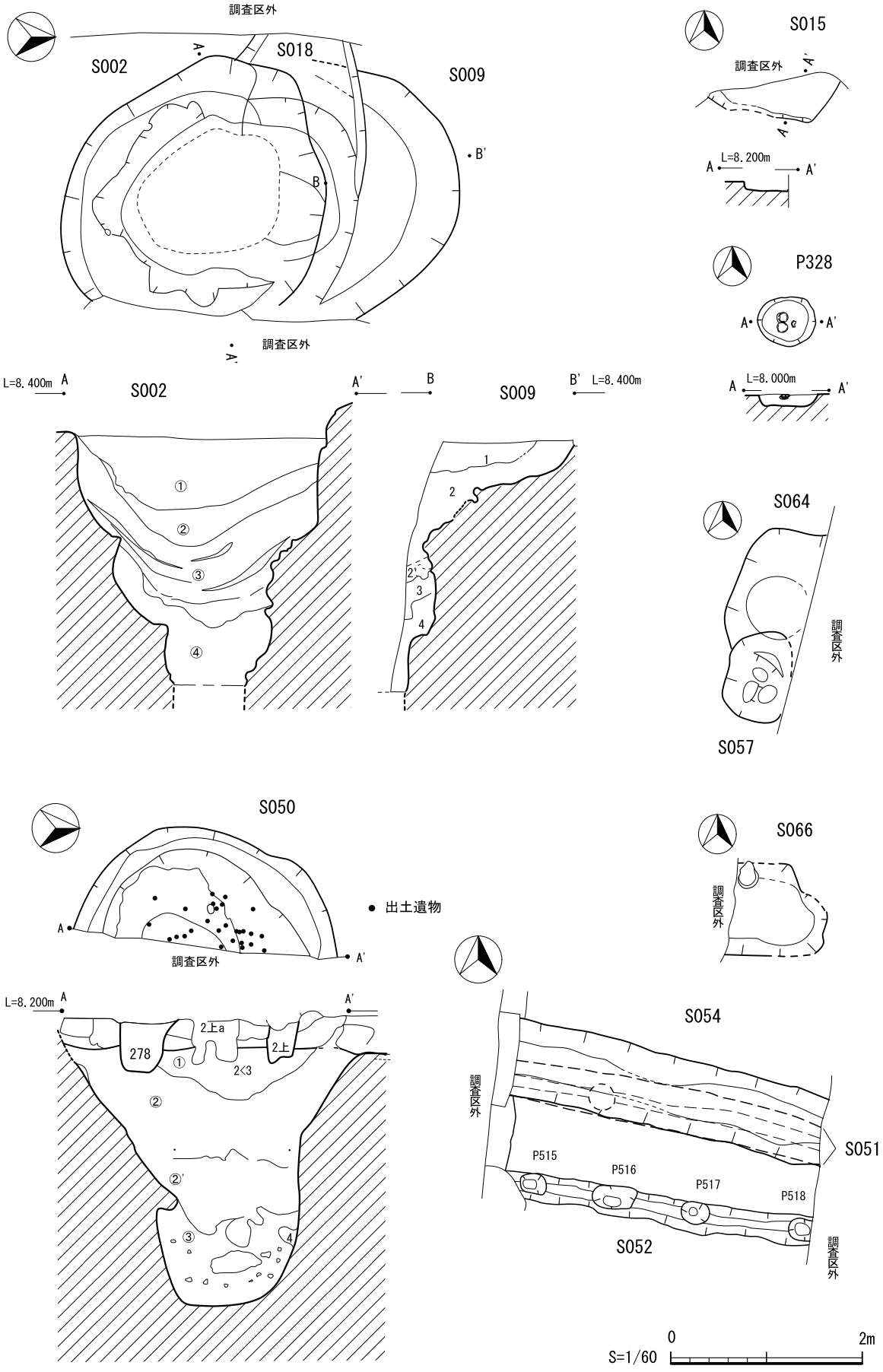


Fig.10　S002・009・050（井戸），S018・015・051・052・054（溝），S064・057・066（土坑），P328実測図

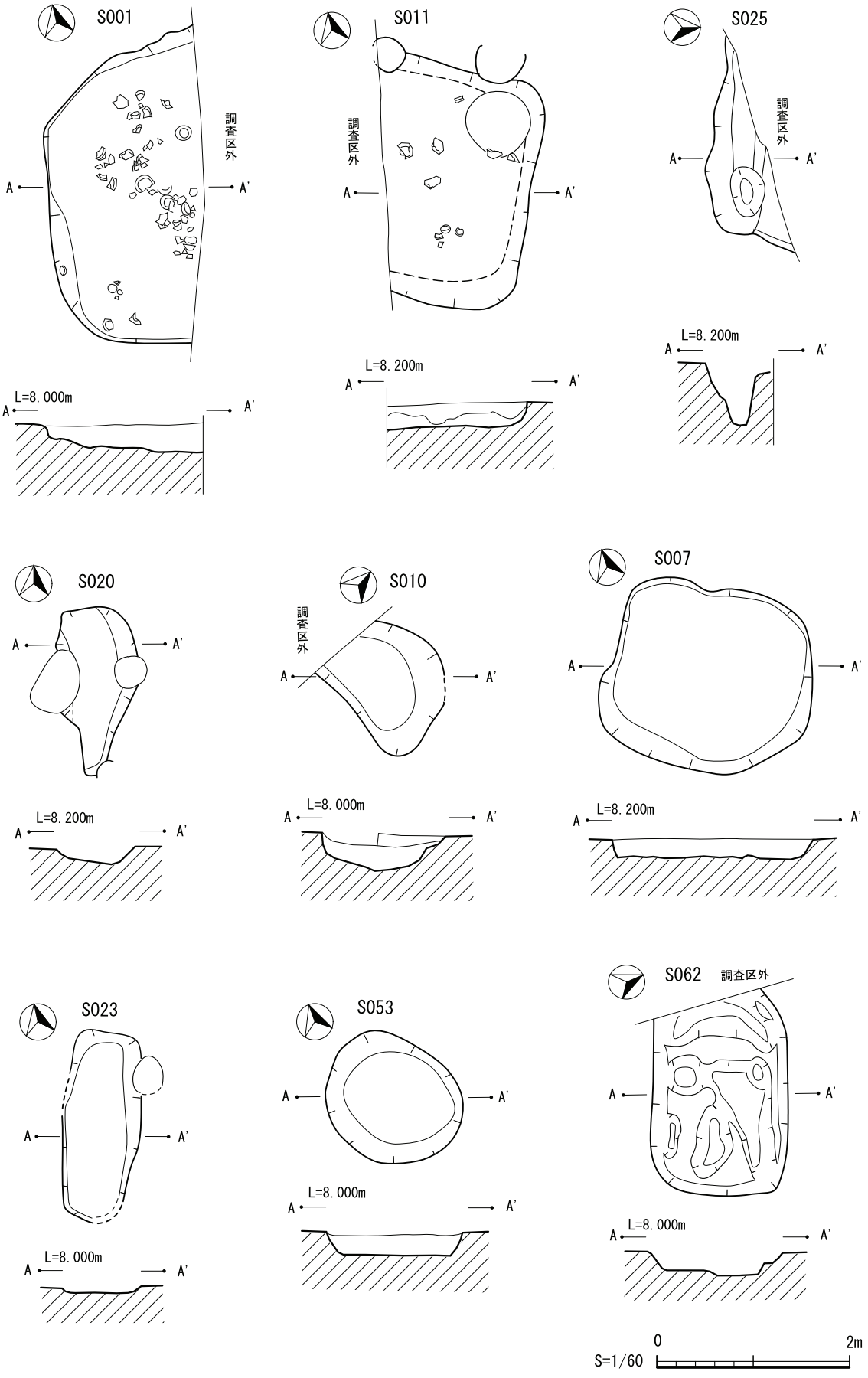


Fig.11　S001・011・020・010・007・023・053・062（土坑），S025（溝）実測図

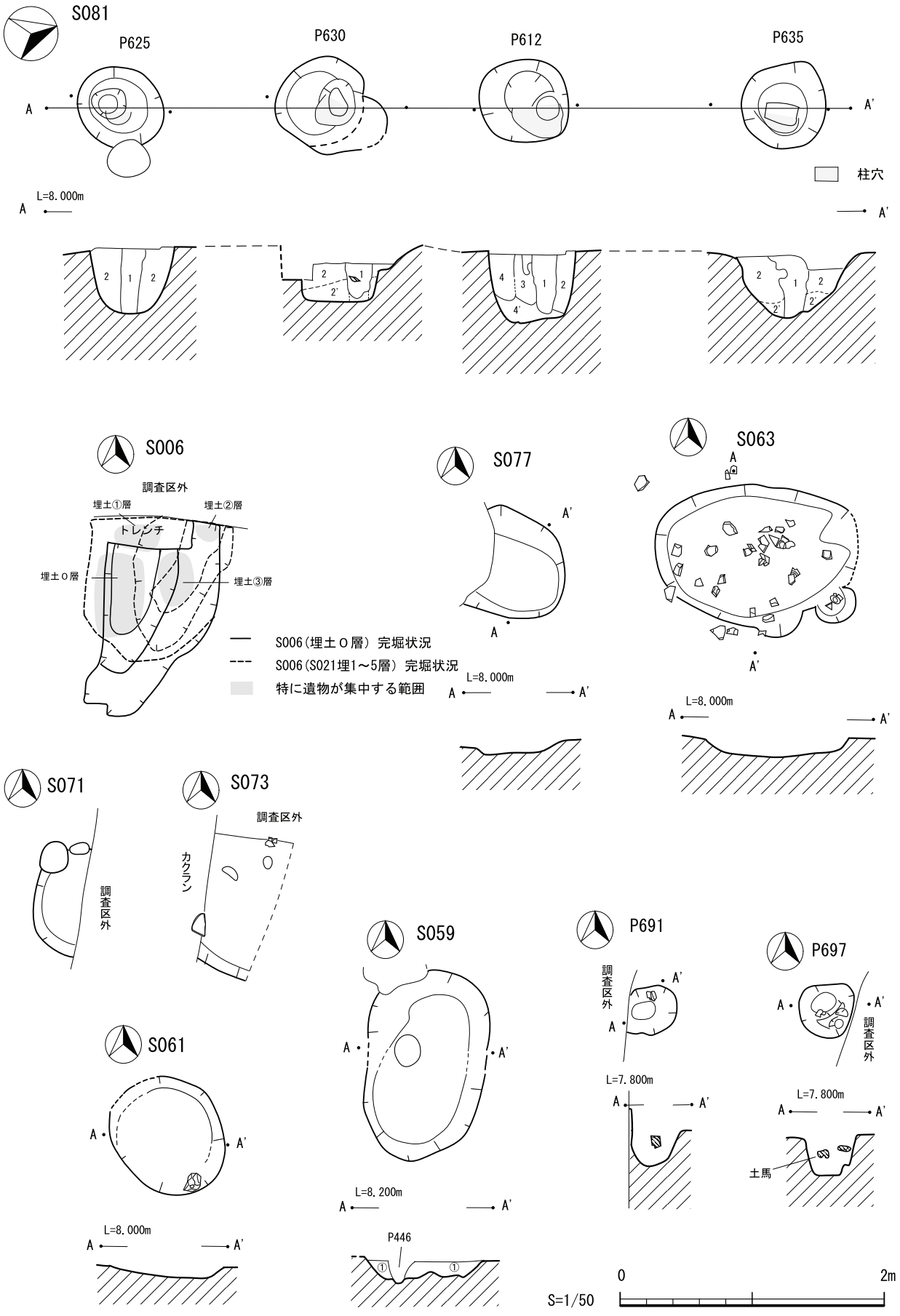


Fig.12　S081（ピット列）及びS006・077・063・071・073・061・059（土坑），P691・697実測図

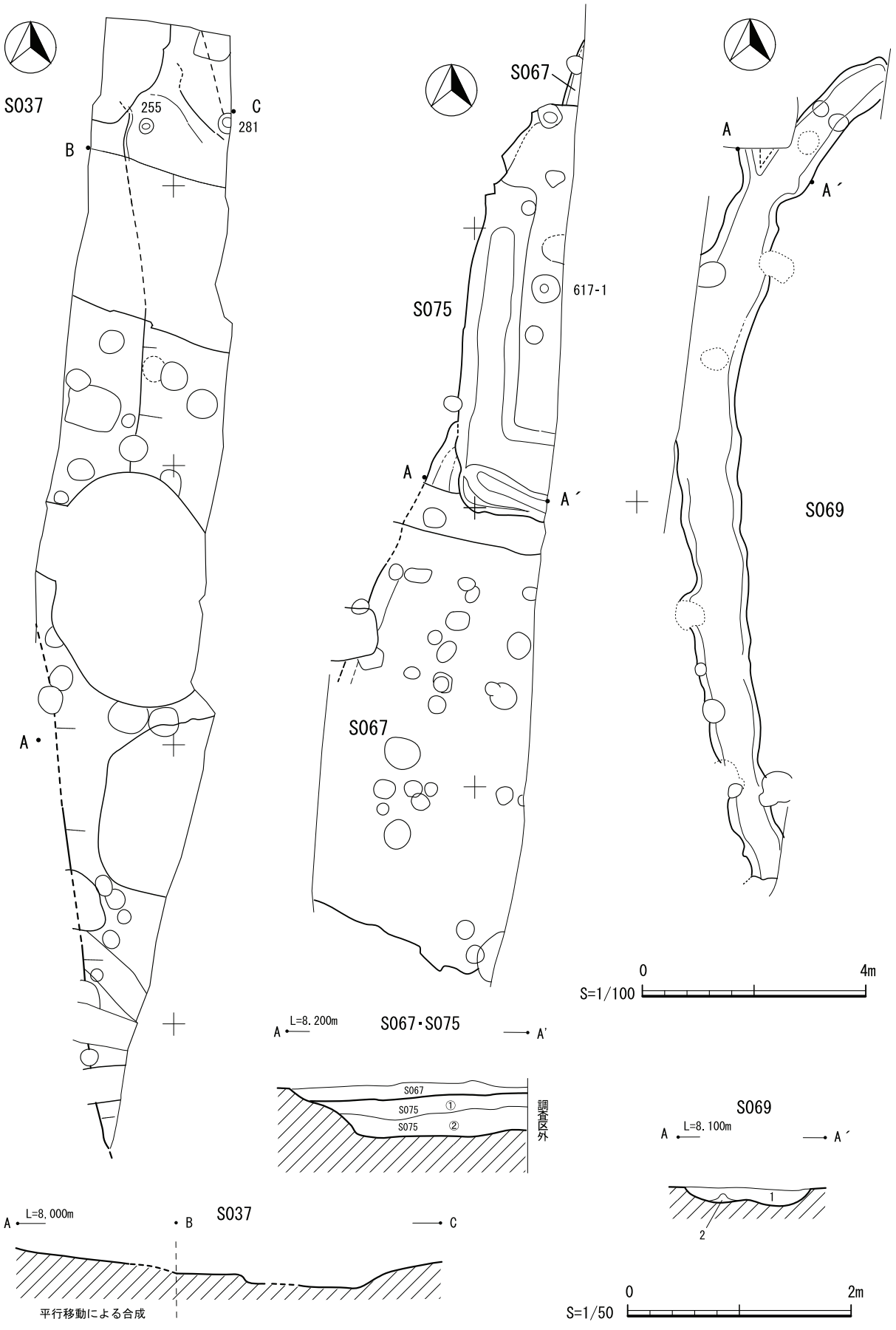


Fig.13　S037・067（落ち込み），S075（地業？），S069（溝）実測図

Tab.1　西部ガス跡地遺構観察表(1)

区	遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺構の性格	備考
2区	S001	土坑	中世(12世紀後半)	3.08	1.49～	0.37	変色、変質が著しい。熱を受けていると思われる　土師器杯小皿の完形品が広く散布する	S037・P156を切り調査区外にのびる
2区	S002	井戸	中世(12世紀後半)	2.86	2.68	2.56～	湧水のため掘りきれていない　掘削停止面から0.5m以上あると思われる　上部下部の境にゆるい平坦部がある　下部径1.5～1.8m　多くの土師器杯・小皿・研磨土師器が上部下部から出土し埋め戻しの際の祭祀と思われる	S009・018・037・P168・172を切り調査区外にのびる
2区	S003	溝	1層　近世以降	2.52～	3.20	0.66	底から獣骨が出土　掘り直しがある　擾乱・水成堆積・人為的な埋め戻し部分が数層ある　掘り始めは中世に遡る可能性あり	S037、P37を切り、調査区外にのびる
2区	S004	溝	中世(2層上13C～)	3.15～	0.72	0.16	遺構の輪郭がとらえづらく底付近の一部かもしれない	P5・39に切られ調査区外にのびる
2区	S005	溝	中世(2層上13C～)	2.8～	0.54	0.32	掘削は浅いが、断面は深い	図化後掘り残りあり　S010・037・P151を切り調査区外にのびる
2区	S006	土坑	古代(9C前葉)	1.91～	1.07～	0.27	0層：遺物が多量に折り重なるように出土　土器を割り埋めたと思われる　遺構の南に集中し西側に続く　①・②層は遺物が少ない　③層にはイヌの埋葬があるほか土器を割り埋めている　④層からは遺構に伴うような遺物の出土はない　⑤層は一部にしかなく遺構加工時のものと思われる	S037を切り調査区外にのびる
1区北	S007	土坑	中世(2層上13C～)	2.35	2.14	0.18	S001やS011と同じような大きさの土坑であるが　それらにはいるような遺物の出土はない	全ての遺構を切る
1区北	S008	溝	中世(2層黒12C～13C)	4.63～	1.01	0.48	S022と合わせS035と方向や埋土のあり方が似ている	S022・023・040・P260-1を切り調査区外にのびる
2区	S009	井戸	中世(12世紀後半)	2.54～	0.99～	2.63～	上部と下部の間に平坦面がある　下部径は推定1.8～2.0m　S018が下部に取り付くように始まるため関連するものと思われる。遺物も多く出土しているが　切る井戸S002と遺物からは同じ時期幅におさまる　湧水のため掘りきれていない　掘削停止面から0.5m以上あると思われる	S002・018・P129に切られ・S037・P197・202-1・-2に切られ・調査区外にのびる
2区	S010	土坑	中世(2層黒12C～13C)	1.22～	0.99～	0.32	形状はS053に似ている　中世土坑の中で小さい	S037を切り・S005に切られ・調査区外にのびる
1区北	S011	土坑	中世(2層上13C～)	2.45	1.75～		遺物は多くないが土器・石製品・石が入る　底を大きく掘り過ぎている	S012・008・022・023・P190・192・260-1・-2・259を切り調査区外にのびる
1区北	S012	溝？	中世(2層黒12C～13C)	3.21～	0.56～	0.39	調査区壁沿いに落ち込む　比較的長く続くことから溝?としている	S025・039・P192を切り調査区外にのびる
2区	S013	土坑	古代(3層8C～１０C)	1.97～	0.62～	0.33	竪穴住居の可能性もあるが土坑としている	調査区外にのびる
2区	S014	溝	古代(3層8C～１０C)	1.78～	0.58	0.37	四角い掘形	S037・118・740を切り調査区外にのびる
1区北	S015	溝？	中世(a-5層・14C～)?	0.66～	0.47～	0.15	浅い落ち込み	S025を切り・P95・98・144・145に切られ・調査区外にのびる
2区	S016	溝	中世(2層黒12C～13C)	1.83～	0.56	0.51	深くU形の掘形　近現代のカクランのため非常に埋土が暗色になっている	調査区外にのびる
2区	S018	溝？	中世(2層黒12C～13C)	1.2～	0.94	0.68	S009と連結した溝の可能性が高い　S009埋土②と切り合いを確認できなかった　遺構に伴う遺物はない点が若干ことなる	S037を切り調査区外にのびる
2区	S019	溝？	中世(2層黒12C～13C)	0.89～	0.70	0.29	底は丸く検出上浅いため向きが正確ではない可能性がある	調査区外にのびる
1区北	S020	土坑	中世(2層上黒12C～)	1.77～	0.83	0.22	長方形状の土坑であるが整った形をしていない　底は丸く中央付近が低くなる　墓の可能性があるかと考え掘削したがその証左はない	S023・039・P162を切り・S011・P77・82・84・86・87・165・193・195・206・261に切られる
2区	S021							S006と同一
1区北	S022	溝	中世(2層黒12C～13C)	3.73～	1.05	0.12	S008と方向が規模が似ており　S022の掘り直しがS008と思われる	S040・P258を切る
1区北	S023	土坑	中世(2層上黒12C～)	1.96	0.84	0.10	埋土中央底付近に安山岩の礫が散らばる　断面を適した位置に作ることができず　また浅いため埋土の観察が十分ではない　10C後半の完形遺物が出土しているこの遺構に伴うか不明である　墓の可能性を考えて掘削しており供献土器の出土状況はなかった	S039を切る

Tab.2　西部ガス跡地遺構観察表(2)

区	遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺構の性格	備考
1区北	S025	溝	中世(2層黒12C～13C)	1.89～	0.73～	0.63	平坦な底がある面と南端に溝状の低まりがある土坑　中世竪穴土坑の可能性があるかもしれない	P267を切り調査区外にのびる
1区北	S026	土坑	古代(3層8C～１０C)	0.71～	0.75	0.18	長方形状の土坑　ピットとすべきかもしれないが周囲のほかの3層ピットに比べ浅い	S040を切り調査区外にのびる
1区北	S027	溝	中世(2層黒12C～13C)	5.97	1.37	0.23	図化もれ　S035とは北にすこしずれる遺構であるが　S035と一緒に掘削している	
1区北	S033	土坑	古代(3層8C～１０C)	0.44	0.3～	0.50	大きな遺構の一部である	S040を切る
1区北	S035	溝	中世(2層黒12C～13C)				S027一緒に掘削してしまう	調査区外にのびる
2区	S037	落ち込み	古代(～9C前葉)	21～	3.02～	1.36	溝とすべきか？	調査区外にのびる
1区北	S038	鉱物の範囲		1.29～	0.9～		2層と3層の間に広がる鉱物の範囲　遺構ではなく土中で鉱物が生成したものの可能性がある（県　馬場正弘氏教示）　自然科学分析参照	
1区北	S039	溝	古代(3層8C～１０C)	5.18～	0.91	0.28	残存が悪いため向きが正確でないかもしれない　3層下の遺構としているが連続した良好な断面はないため3層遺構としておく	調査区外にのびる
1区北	S040	溝？	古代(3層8C～１０C)	2.38～	1.2～	0.13	浅い落ち込み　遺構ではなく自然の凹みの可能性がある	調査区外にのびる
1区中	S041	鉱物の範囲		1.22～	1.00		2層中に広がる鉱物の範囲　遺構ではなく土中で鉱物が生成したものの可能性がある（県　馬場正弘氏教示）　自然科学分析参照	
1区北	S042	土坑	古代(3層8C～１０C)	0.85～	0.93	0.41	長方形状の土坑	調査区外にのびる
1区北	S046	溝	古代(3層8C～１０C)	3.79～	1.09	0.26	底は全体的に丸い	調査区外にのびる
1区北	S047	溝	古代(3層8C～１０C)	3.45～	0.46	0.37	2段の掘形で下部は四角く掘られている	調査区外にのびる
1区北	S048	溝	古代(3層8C～１０C)	3.2～	0.68	0.42	U字形の掘形	調査区外にのびる
1区中 1区南	S049	溝	1層　近世以降	3.17～	3.94	1.63	大きな溝。	調査区外にのびる
1区北	S050	井戸	中世(12C後半)	2.26	0.99～	2.16	2段に掘られている　上部下部の境に平坦面がなく上部は強い傾斜面になる　下部径は1mを越える　底まで掘っているが使用時埋土はなくおそらく井戸の中心は調査区外にあるものと思われる　上部下部の移行付近から多くの土器が出土している	S046・047を切り調査区外にのびる
1区中	S051	溝	中世(2層黒12C～13C)	3.35～	0.45	0.30	S054を掘り直したものか	S054・055・067を切り調査区外にのびる
1区中	S052	溝	中世(2層黒12C～13C)	3.17～	0.29	0.35	ピットが溝の上から入る　布掘りの可能性があるか？	S067を切り調査区外にのびる
1区中	S053	土坑	中世(2層上13C～)	1.49	1.24	0.22	底は平らである　骨片が出土している	S060・067・075を切る
1区中	S054	溝	中世(2層黒12C～13C)	3.54～	0.79	0.29	U字形の掘形　下部は加工時埋土が厚い	S055・067を切り切られる
1区中	S055	土坑？	古代(3層8C～１０C)	4.62～	0.46～	0.24	検出上浅い落ち込み　一つのものか重なっているのかも不明	調査区外にのびる
1区南	S057	土坑	１層　近世以降	0.96	0.57	1.03	1層からの掘りこみで深い　調査区隅であるが全形が出ている	S064を切り
1区中	S058	土坑	古代(8C～12C前)	1.85	1.17		4層がしみでやや暗色になったような埋土で遺構でないかもしれない	下場なしP435を切り・P315・414・526・629に切られる
1区中	S059	土坑	古代(3層8C～10C)	1.91	1.12	0.25	底は平らであるが　しみか加工によるものか区別できずはっきり掘りすぎている	S075を切る

Tab.3　西部ガス跡地遺構観察表(3)

区	遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺構の性格	備考
1区中	S060	土坑	中世(2層黒12C～13C)	1.90	0.88～	0.57	下部に粉状の炭化物が著しく多い	S067を切り調査区外にのびる
1区南	S061	土坑	古代(2層下10C～12C前)	1.09	1.03	0.12	石・土器片はいる小さめで丸い掘形	
1区南	S062	土坑	中世(2層黒12C～13C)	2.02～	1.41	0.27	西側調査区壁では狭くなるので長軸は大きくのびる可能性は低い　底がいびつで凹凸強い	S069・P697を切り調査区外にのびる
1区南	S063	土坑	古代(2層下・3層8～13C前)	1.92	1.36	0.27	土器片・石が多くはいる　3層中の検出遺構	S069を切る
1区南	S064	土坑	中世(2層黒12C～13C)	1.51～	0.85～	1.13	土坑としては非常に深い	S070を切り・S057に切られ・調査区外にのびる
1区中	S065	溝	古代(10C～12C前)	3.89～	1.82	0.27	幅は広いが浅めの溝　東に細い溝状の部分があり異なる遺構かもしれない	S068・S077・S081P630を切る調査区外にのびる
1区中	S066	土坑？	中世(2層黒12C～13C)	1.01～	0.96	0.46	長方形状の土坑　埋土が明瞭に2つの層に分かれる	S055・067を切り調査区外にのびる
1区中	S067	溝？	古代(3層8C～10C)	12.62～	3.55～	0.43	整地層・下位遺構を切るため地業というべきか？　S049から南側は範囲が不明	S065・068・074～076・081調査区外にのびる
1区中	S068	溝	古代(3層8C～10C)	3.85～	0.75	0.45	西側が大きく低まる溝	S081P630を切る　調査区外にのびる
1区南	S069	溝	古代(3層8C～10C)	15.83～	0.93	0.31	検出前に遺物が上部より多く出土しているが別遺構のものとの分別が難しい	調査区外にのびる
1区南	S070	竪穴住居	古代(～9C)	4.94	3.6～	0.63	北辺中央付近に焼土・白い粘土ブロックが著しく集中する部分がありカマド位置である 約5mの大きな竪穴住居　掘形底は溝状土坑状にくぼみ凹凸が著しい	S064・071・P380・381・383～386・389・390～399・656・657・663・680・695に切られ・調査区外にのびる
1区南	S071	土坑	中世(2層黒12C～13C)	1.01	0.45～	0.42	平面での検出が難しく断面で確認している	S070を切り調査区外にのびる
1区南	S072	土坑	古代(3層8C～10C)	1.69～	0.88～	0.61	比較的深い土坑	調査区外にのびる
1区南	S073	土坑	古代(3層8C～10C)	1.35～	0.6～	0.55	数点の大きめの遺物片が出土している　比較的深い　切られている部分が多い	調査区外にのびる
1区中	S074	溝	古代(3層8C～10C)	3.5～	0.61～	0.17	東側が大きく低まる溝	調査区外にのびる
1区中	S075	地業?	古代(3層8C～10C)	7.43	1.76～	0.35	西・南に溝状の低まりがある掘り込み	S081P635を切り調査区外にのびる
1区中	S076	溝	古代(3層8C～10C)	3.6～	0.63	0.31	西側が大きく低まる溝	調査区外にのびる
1区中	S077	土坑	古代(3層8C～10C)	0.99	0.74～	0.24	小さめで丸い掘形	S049・065・P300・301・502-1・-2に切られる
2区	S080	ピット列	中世(2層上13C～)	9.8～			四角いピットが多い　P129-36　2.1m弱　そのほかは1.8m弱　柱痕は比較的明瞭　P129の掘形から完形の土器が1点出土	P129・36・37・130・131
1区中	S081	ピット列	古代(3層8C～10C)	6.4～			ピット間2.1m　径約0.8mのピット　柱痕は比較的明瞭で垂直に立つ　抜き取られた様子はない　P630は柱痕下に礎石がある　ピットの規模から掘立柱建物の一部かと推定する	P635・612・625・630
1区北	S082	掘立柱建物	中世(2層上13C～)	11.4～	2.2～		ピット間　北辺99-3:460-1　2m　東辺460-1:117-3　2.4m　117-3:232-2　2･3m　232-2～287　2.2m　平板な安山岩をピットの底に置き礎石としている　礎石上面の標高は7.7m～7.5m　P287には礎石はないがピットの並びS083を参考にし加えているがP252までがこの掘立柱建物の可能性がある	P99-3・460-1・117-3・232-2・105・252・287
1区北	S083	掘立柱建物	中世(2層上13C～)	11.28～	2.25～		ピット間　北辺58:120-1　2.1m　東辺466-1～110　2.1m　P110:42　2.5m　42～291　2･1m　全てのピットに平板な安山岩の礎石がある　標高は8.0～7.9　ピットの中位にあり　中位に置かれたものか建替えによるものか区別はできなかった　ピットの並びにはないP135は埋土・掘形・礎石の状況が同じであり参考にすると礎石を境に明らかに埋土が異なり　建替えによるものの可能性が高い　また礎石から東にずれて深くなる部分やピットがありこれらも建替えによるものの可能性がある（ピット間北辺2.4m　東辺2.1m）	P58・（120-1・466-1）・114・（110・108）・（42･480）・487・291

Tab.4　西部ガス跡地土層注記表(1)

	層名	色　調		註記
1層	1A	10YR2/2	黒色砂質土	きめ細かい砂質土　やわらかい部分とブロックが混じる　カクラン土である
1層	1B	10YR2/2	黒色砂質土	ガチガチし硬くしまる砂層　きめが細かく、ブロック状である　S049の砂層(2層)と同じステージか？この調査区南半に広がる
1層	1C	10YR3/2	黒褐色砂質土	酸化鉄の集中部　一部は4Bに似た砂質もはいる　ガチガチ砂層でしまる
1層	a-1	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	非常に砂質　全体的に粗いブロック状
1層	a-1’			層厚があるが分層できない　砂質でブロック状には含まない　盛土？天地返しか？1Aと同じ
1層	a-2	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	a-1に比べシルトが多くよく混ざる　色調が暗い
1層	a-3	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	非常に砂質　極細砂質シルトの～10㎜くらいのブロックが非常に多く混じる
1層	a-4	5Y4/1～3/1	灰色砂質土	粘質土に近い　極細砂まじりシルトの～10㎜くらいのブロックが多く混じる
1層	a-5’			a-5に比べ明らかに1層で、a-4に比べ混ざりが強く層界明瞭
2層	a-5	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	砂質土に近い　2層が擾乱を受ける感じ　根の部分を除けば、層界は明瞭　やや粗めのブロック状のところがある
2層上	2A	10YR2/2	黒色粘質土	粘質土・カーボン・焼土粒がはいる　やや黒色が強い
2層上	2上1	5Y3/1～4/1	オリーブ黒色粘質土	若干パサつく　2層黒の色調が明るくなり、粘質が低い　腐植質のようなべたつくところもある
(遺構埋土)	2上a	2.5Y3/2～4/2	黒褐色粘質土	シルト～細砂のブロック(4層ではない)　炭化物・橙色の粒・白い粘土塊・焼土混じる　全体的にブロック状
(遺構埋土)	2上b	2.5Y3/1～4/2	黒褐色粘質土	2上aに比べ粗い砂が入る
(遺構埋土)	2上c	2.5Y3/1～4/2	黒褐色粘質土	シルト～細砂のブロックが入らない
(遺構埋土)	2上ｄ	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	2層黒に比べ明るいが似る　大きなピットの一部になっているものがほとんど
(遺構埋土)	2上e		黒褐色粘質土	2上aに比べ炭化物・橙色の粒が非常に多く混じる
(遺構埋土)	2上ｆ	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	2上aに比べシルト～細砂のブロックが非常に多く入る　橙色の粒・炭化物多く入る
(遺構埋土)	2くろa	2.5Y3/1	黒褐色粘質土	やや粘り強く細かい砂が入る　ブロック状は目立たないものがある
(遺構埋土)	2くろb	2.5Y3/1～4/1	黒褐色粘質土	aに比べ明るく3層とのブロック状　a・bを分けることができるものもあるが分別不能のものが多い
2層黒	2B	10YR2/2	黒色粘質土	やや砂質土　カーボン・焼土がはいる　色調黒い
2層黒	2くろ1	2.5Y3/1～4/1	黒褐色粘質土	粘性あり、全体的に細粒　土壌化が強いと思われるがシルトブロックは見えない　ところにより炭化物・橙色の粒・白色粘土が入る
2層黒?	2くろ2	2.5Y3/1	黒褐色粘質土	1に比べ砂が若干多く、暗色が強い　粘りあり、炭化物が点々と入るところもある　遺構埋土と思われる　(この部分にしかなく層として連続する部分がない　2層下と同じ可能性がある)
2層黒～下	2B	10YR2/2	黒色粘質土	やや砂質土　カーボン・焼土がはいる　色調黒い
2層下	2下			2層黒に比べ暗色が弱い
3層	3	10YR2/3	黒褐色土	きめは細かく、やや土壌化している　所々2～3㎜大のカーボンや焼土を含む　全体的にやや色調中にごりあり　やや砂質である　色調は2層と比較すると明るい　古代の遺物が入る
3層	3上～3下	5Y4/1～3/1	灰色粘質土	3層上・下は分層できるところがあるが層の状況はほぼ同じ
(遺構埋土)	3a	5Y4/1	灰色粘質土	4層がブロック状にまじる全体的にブロック状
(遺構埋土)	3b	2.5Y3/2	黒褐色粘質土	4層がブロック状に混じる　はっきり指で感じる砂はない
(遺構埋土)	3c	2.5Y3/1～3/2	黒褐色粘質土	やや砂質　白い粘土ブロックまじるものがある
3B層	3B	5Y4/1	灰色粘質土	4層上部が暗色化した感じで、ややブロック状もはっきりしない
4A層	4A	10YR3/4	暗褐色砂質土	きめの細かい砂質土で下層へ行くほど、又は場所により砂質が強い　樹痕の関係等により、染み状に黒いところもある
4A層	4-1	5Y4/1～5/1	灰色粘質土	細粒の砂が混じる　4層の上部がやや暗色でしみのように入る　下の堺は不明瞭　上位からの根の影響で、若干擾乱している
4A層	4-2	5Y4/1～5/1	灰色粘質土	4-1とほぼ同じ　上位の根の影響が少なくやや明るくなる

Tab.5　西部ガス跡地土層注記表(2)

遺構番号	層名	色調		註記
S001		2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	やや腐植質　中位に粉状の炭化物が点々とラミナ状に入る　東側は変色のため橙色に変わる
S002	①	2.5Y3/1～4/1	黒褐色粘質土	粗いブロック状　はっきり2層黒　遺物・炭化物・橙色の粒が点々と多く混じる　骨片混じる
	②			粉状の黒色灰色の炭化物のラミナはいり焼土ブロックまじる
	③	2.5Y9/1～9/2	黄灰色粘質土	下層ブロック・炭化物ラミナ・粉状の炭化物集積部・4層の大きなブロック③のブロック状の部分などがある
	④		灰色粘質土	粗いブロック状　4層のブロックが多く混じる　やや腐植質　灰色炭化物集積部あり
S003	①	2.5Y4/2～3/2	暗灰黄色粘質土	やや砂質　粉状炭化物、炭化物がやや混じる　全体的に粗いブロック状で埋め戻されたと思われる
	②	2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土	①より粘質が強い　ブロックも若干みられるが、数層に分層できるところがあるため、溝の底の擾乱の可能性が高い
	③			②とほぼ同じ　上部は土壌化していると思われる　下部はブロック状が顕著で色調が明るくなる
	④	5Y4/1	灰色粘質土	③より色調が明るい　ブロック状の部分の上部にシルトの層が2枚入るところがある
S003	A-①	5Y4/1	灰色砂質土	粘質土に近い　よく混ざっている　溝下部は、シルト～極細砂のブロックが含まれている　ラミナはなく、上方に全体としてやや粗粒になる　数層に分離となるが不明瞭　堆積と撹乱を繰り返していると思われる
	A-②	5Y4/1～3/1	灰色粘質土	溝底の堆積物がゆるく撹乱受けていると思われる
	A-③	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	明るい2層という感じ　下部にブロック状が顕著な部分があり加工部と思われる　炭化物、橙色の粒を含む
S004			黄灰色粘質土	下位層に2層黒が混ざった感じ　上部は炭化物が混じり、分かりやすいが、下部は不明瞭なところが多い
S005	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	わずかに砂質3～4層のブロック状に2層黒が点々と入る　壁断面では2層黒の上から掘られている
S006	0	2.5Y3/1～4/1	黒褐色粘質土	極めて土器が多い部分あり　炭化物まじる　ブロック状ははっきりしない
	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	ねばりはほとんどない　土器が極めて多い部分がある
	②	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	①よりはっきり明るいやや砂質も、粗い砂は入らない　4層が多く混じると思われる
	③	2.5Y3/1～4/1	黒褐色粘質土	粉状の炭化物が非常に多く入っている　橙色の5㎜くらいの粒が目立つ　極めて粗いブロック状　イヌの埋葬あり
	④	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	やや砂質　この辺りの3層に近いと思われる
	⑤			④に4層のブロックがまじり粗いブロック状
S007	①	2.5Y3/1～4/1	黒褐色粘質土	ざらざらした砂が入る　橙色の粒、白粘土塊多く入る　炭化物・シルト～細砂のブロック混じる
S008		2.5Y3/1～3/2	黒褐色粘質土	下部は3層とのブロック状　炭化物・橙色の粒わずかに混じる　2層黒に相当すると思われる
S009	①	2.5Y3/1～4/1	黒褐色粘質土(2黒)	粉状の炭化物がラミナ状に混じる　ブロック状と思われる
	②	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土(3層に2層が混じる感じ)	4層ブロックが若干混じる
	②'			4層ブロックが主体
	③	5Y4/1～3/1	灰色粘質土	2より暗くやや腐植質　粉状炭化物の多く入る部分あり
	④	5Y4/1	灰色粘質土	ブロック状　4層ブロックが混じる
S010	①		黒褐色粘質土	全体的にブロック状　上部はほとんど2層黒に似る　最下部は3～4層がブロック状に混じる
S011			黄灰色粘質土	若干砂質　橙色の粒・炭化物多くはいっている　粗いブロック状
S012		5Y3/1～4/1	オリーブ黒色粘質土	粉状の炭化物多く混じる　極めて粗いブロック状　やや腐植質　2層黒と変わらないが腐植が多いため暗色と考えられる
S013				3aもS037に似るが4層とのブロック状
S014				3a　特に暗色の強い部分あり　粗いブロック状
S015		2.5Y4/1	黄灰色粘質土	砂質土に近い　2層a-5の遺構の可能性が高い
S016				2くろa　ブロック状　下部には4層ブロック多く含む
S018				2上a　粘土・焼土は入らない
S019				2くろa　下部に下層のブロックがたくさん入る　S037が暗色化した感じ
S022				2くろc
S025	①	2.5Y4/1		黄灰色粘質土(2下相当？2くろにしては明るい)と3～4層とのブロック状
	②			①とほとんど同じも層界は明瞭

Tab.6　西部ガス跡地土層注記表(3)

遺構番号	層名	色調		註記
S026				2くろb
S027	①			2くろaブロック状
	②			2くろb
S033				3上a
S037		2.5Y4/1～4/2	黄灰色粘質土	3層直下の染み込みと区別が難しいところが多い　遺物少ない　4層が粗いブロック状になり暗色になったような感じ
S039				3下a
S042				2上b　粗い砂が多く混じる
S046				3上a
S047				3上a
S048				3上a　4層とのブロック状
S049	①-A	10YR2/3	黒褐色	きめの細かいやや色調の明るい砂質土
	①-B	10YR2/3	黒褐色	極めて硬い層
	②-A			砂層
	②-B	10YR3/1～3/2	黒褐色	砂層とやや硬い層の互層
	②-C	10YR3/2	黒褐色	きめの細かいやや硬い砂層
	③-A	10YR3/2	黒褐色	砂質土　マンガン、カーボン、土器片含む
	③-B	10YR2/2	黒褐色	砂質土　カーボン、褐色粒含む
	③-C	10YR2/2	黒褐色	やや硬く、しまり粘質土　色調は黒い　4A、Bブロック、カーボン、土器片も含む
	③-D	10YR3/3	暗褐色	4A、B層に近い砂質土
S050	①			粉状炭化物と2くろが混じる
	②	2.5Y3/1～4/1	黒褐色粘質土	4層ブロック、炭化物混じる　ブロック状は目立たない　遺物多い
	②’			①と土質は変わらない　但し、色調は暗い　白い粘土状のものが見られる
	③	2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土	4層ブロックが非常に大きく多く混じる　遺物少ない
S051				2くろa　粗いブロック状
S052				2くろb　粗いブロック状
S053				2上A　炭化物やや多い
S054				2くろb　3層とのブロック状
S055				3上a
S057	①			3層
	②			4A層
	③			4B層
S059	①	2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土	砂質土に近い　4層とのブロック状
S060	①			2黒
	②			粉状｢炭化物に2黒が混じる
	③			下層がブロック状
S062				2B　カーボンと焼土は入る
S063				註記なし
S064	①	10YR3/3	暗褐砂	やや土壌化　2B層
	②	10YR3/3	暗褐砂	やや硬化する　少し黒色が強い
	③-1	10YR3/3	暗褐砂	4A、B、カーボン粒を所々含む　混入物が多い　ふかふか感あり
	③-2	10YR3/3	暗褐砂	ふかふか感なし
	④	10YR3/3	暗褐粘質土	粘性が強い　色調は黒色　混入物は少ない

Tab.7　西部ガス跡地土層注記表(4)

遺構番号	層名	色調		註記
S065				記載漏れ
S066	①			2くろa　炭化物多く混じる　はっきり2黒と分かる遺構
	②			3・4層とのブロック状
S067		10YR2/3	黒褐色土	きめが細かく焼土、カーボン粒所々に入る　色調は黒い
S068				3・4層とのブロック状
S069	①	10YR3/3	黒褐砂	きめ細かいが砂質に近い　1～3㎜大のカーボン、焼土粒が入る　ややしまる
	②	7.5YR3/3	暗褐砂	4Aとの混入が多い土　ブロック状に入る　色調も4A層に似てやや明るい
S070	①	10YR2/3	黒褐色土	やや粘性とざらざら感あり　カーボン、焼土、4ABブロック含む
	②	10YR2/3		上層とほとんど同じだが、境が硬化面と推定される　カーボン、焼土の多い層　上層と比較してやや硬く砂質がややある
S071			2層	カーボン、焼土
S074				3b
S075	①	10YR2/3	黒褐色粘質土	4層のブロックが多く入っている　②との層界は不明瞭
	②	10YR2/3	黒褐色粘質土	4層とのブロック状　①との層界は不明瞭
S076				3a
S077				記載漏れ　3層
S080	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	若干ざらざらした砂が入いる　②より暗い　粗く混ざったような感じ　②との層界不明瞭なところもある
	②	2.5Y4/1～3/1	黄灰色粘質土	ブロック状　2～3層とのブロック状と思われる　若干4層のブロックが混じる
	③	2.5Y4/1	黄灰色粘質土	4層とのブロック状　4層に染みのように上位層が入っているところがある
	①’			オリーブ黒色粘質土(2層黒)のブロックがほとんど
S081P612	1			3c
	2			4層とのブロック状
	3			3層a・4層ブロックの大きいもの含み点々と混じる
	4			3層a・4層の大きなブロックは入るが、他は3a
	4’			4層とのブロック状　4との層界ははっきりしない
S081P630	1			3c
	2			4層のブロックが大きく多い
	2’			4層のブロックが点々と混じる
S081P625	1			3c　暗い
	2			4層が多く混じるのか2.5Y4/2～3/2　粗いブロック状
S081P635	1			3c　白い粘土ブロック少ない　炭化物目立つ？
	2			4層ブロックが大きく目立つ　(3b)
	2’			4層ブロックが小さい　(3b)

Tab.8　西部ガス跡地ピット観察表(1)

※埋土は基本土層、上端・下端はレベル値

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
1	2区O20・21	2下	25.0	24.0	0.43	7.81	7.38	19	117	2	25											調査区外にのびる
2	2区O20・21	2黒	35.0	30.0	0.27	7.84	7.57	27	187	1	6											調査区外にのびる
3	2区O21	2黒	31.0	26.0	0.53	7.90	7.37	13	74	1	8											
4	2区O20・21	2黒下	33.0	33.0	0.42	7.87	7.44															
5	2区O20・21	2黒上	30.0	25.0	0.54	7.88	7.33	22	109													調査区外にのびる
6	2区O20	2上	45.0	45.0	0.40	7.79	7.38	13	94													
8	2区O20	2下～黒	49.0	25.0	0.67	7.88	7.22	17	504	3	32			4	14	1	55					ピット2個分と思われる。
10	2区O19	2黒	30.0	19.0	0.28	7.87	7.59	37	127	2	17			2	3	1	13					
11	2区O19	不明	24.0	24.0	0.14	7.84	7.70	1	5													
14	2区P17	3層？	52.0	51.0	0.27	7.94	7.67			5	104					1	63					
15-1	2区O・P17	2黒？	40.0	35.0	0.22	7.97	7.74	20	82	4	69											
15-2	2区O17	3層	41.0	35.0																		図化もれ。
17	2区O21	2上	21.0	21.0	0.09	7.60	7.52	53	269	1	79			1	6	1	42					調査区外にのびる。
19	2区O21	2下～3	30.0	20.0	0.21	7.87	7.66	1	8													調査区外にのびる。
20	2区O20・21	2黒	50.0	28.0	0.46	7.89	7.43	44	222	1	31			1	9	1	3	119				2つのピットの重なりだった。
21	2区O20・21	2上～黒	26.0	18.0	0.46	7.89	7.43															調査区外にのびる。
22	2区O20	2黒	24.0	23.0	0.55	7.88	7.33	10	46													
23	2区O20	2上～黒	70.0	40.0	0.11	7.63	7.52	12	80													
24	2区O20	2黒	32.0	29.0	0.22	7.86	7.64	4	25													P214と同一。石が出土しているが根石ではないと思われる。
25(北)	2区O20	2上	28.0	27.0	0.18	7.87	7.69	6	31	1	8											
25(南)	2区O20	2層	38.5	36.0	0.20	7.71	7.51															
26	2区O20	2上	60.0	28.0	0.41	7.88	7.47		610		26											ピット2個分と思われる。
27	2区O20	2上	27.0	26.0	0.17	7.85	7.68	8	83	1	10											
28	2区O20	2黒	24.0	23.0	0.30	7.89	7.59	5	23					1	2							
29	2区O20	2黒	28.0	27.0	0.70	7.89	7.19	7	18					1	5			1	14			極めて深い。
30	2区O20	2上	29.0	28.0	0.28	7.87	7.59															
31	2区O19	2上～黒	34.0	31.0	0.32	7.83	7.51	9	62	2	40											
35	2区O17	2上・2黒	24.0	23.0	0.46	7.91	7.45	6	20	1	7			1	34							
36	2区O17		96.0	80.0	0.33	7.95	7.62															S080。柱痕有り。
37	2区O17		75.0	45.0	0.11	7.97	7.87															S080。柱痕有り。
39	2区O20	2上	30.0	27.0				17	66													図化もれ
40	1区O25	2上白	35.0	33.0	0.63	7.93	7.31	22	119													
42	1区O25		38.0	36.0	0.31	7.96	7.65															礎石有り。

Tab.9　西部ガス跡地ピット観察表(2)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
43	1区O25	2上橙白	54.0	44.0	0.39	7.94	7.55	13	116	1	23											埋土の状況はS083と似ているが、P247とは礎石の状況がはっきり異なる。
44	1区O24	2上橙灰	23.0	23.0	0.19	7.95	7.76	2	15													
45	1区O25	2上白	37.0	35.0	0.71	7.93	7.22	23	121	1	117											
47	1区O24	2黒	28.0	28.0	0.47	7.94	7.46	49	246	2	85	1	3	3	9	1	8					
48	1区O24	2黒	35.0	33.0	0.47	7.93	7.46	65	317	2	8					1	11					
49-2	2区O20	2層	12.0	10.0	0.37	7.76	7.40															
50-1	1区O24	2上白多	60.0	30.0	0.49	7.88	7.38	29	176	3	117											
50-3	1区O24	2黒	40.0	28.0	0.18	7.95	7.76															調査区外にのびる。
50-4	1区O24	2上白	31.0	28.0	0.60	7.90	7.30															前の遺構の掘り残し。
51	1区O24	2上炭砂ブ白砂	38.0	37.0	0.33	7.95	7.62	18	28							1	63					
52	1区O24	2上橙	40.0	40.0	0.73	7.98	7.24	80	358													
53	1区O24	2下	38.0	35.0	0.15	8.01	7.86	15	96	1	14											
54	1区O24	2上	35.0	34.0	0.68	7.98	7.30	36	184													
55	1区O23	2上白橙炭	58.0	39.0	0.60	7.98	7.37	35	250	2	18											根石有。
56	1区O23	2上砂ブ	31.0	30.0	―	7.97	―	24	146	1	7											ピット2つ分をうまく掘れなかったため、下場なし。
57	1区O23		44.0	40.0	―	7.99	―	35	202		61											ピット2つ分をうまく掘れなかったため、下場なし。
58	1区O23		64.0	59.0	0.67	7.98	7.31															S083礎石有り。
60	1区O23	2下～3層	56.0	56.0	0.44	7.99	7.55	40	319	3	92					1	15					
61	1区O23	2下？	45.0	43.0	0.26	7.97	7.71	20	74													
62-2	1区O23	2上	35.0	30.0	0.31	7.97	7.67	78	376	1	29	1	2							1	2	
62-3	1区O23		61.0	53.0	0.19	7.85	7.66	2	135													
64	1区N22	2上	88.0	57.0	0.09	7.72	7.63	32	162							2	27					調査区外にのびる。
65-1	1区O23	2上	52.0	47.0	0.36	7.95	7.59	47	280	2	32					1	78					
65-2	1区O23	2上	23.0	20.0	0.66	7.93	7.26	2	36													
66	1区O23	2上	25.0	22.0	0.32	7.93	7.61			4	33											
67	1区O23	2上	40.0	33.0	0.53	7.96	7.44	87	398	4	38									1	3	
68	1区O23	2上	31.0	28.0	0.57	7.97	7.40	14	119	3	36											
70	1区O22・23	2上	75.0	26.0	0.35	8.03	7.68	83	578	4	47					2	40					
71	1区O22	2上	42.0	30.0	0.62	8.02	7.40	12	105													根跡を誤認？カクランではない。P195と根石の入り方が近いが全体を掘れていないためか。
72	1区O22	2上橙	33.0	32.0	0.34	8.05	7.71	37	156	4	28											
73	1区O22	2上橙	32.0	13.0	0.41	8.04	7.63															
74	1区O22	2上砂	50.0	46.0	0.47	8.03	7.56	19	134													
76-2	1区O22	2黒	19.0	17.0	0.40	8.02	7.62	1	16													調査区外にのびる

Tab.10　西部ガス跡地ピット観察表(3)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
77	1区O22	2上	35.0	34.0	0.37	8.05	7.68	152	741	3	36	2	4			1	44					
78	1区O22		86.0	80.0				54	259	2	5											位置確認できず。おそらくS020かS023の一部を半裁したもの。
79	1区O22	2上	81.0	69.0	0.14	7.98	7.84	87	452	1	19	1	3					1	30	1	2	
82	1区O22	2上	49.0	43.0	0.21	8.02	7.82	60	253			1	5									
83	1区O22	2上	33.0	30.0	0.35	8.04	7.69	9	74	1	21						104					調査区外にのびる。
84	1区O22	2黒	45.0	37.0	0.36	8.03	7.67	118	653	5	44					3	18					
85	2区O20	2黒	40.0	35.0				80	642	3	56											図化もれ
86	1区O22	2上ブ炭	68.0	47.0	0.27	8.03	7.75	27	205													
87	1区O22	2上黒	56.0	32.0	0.38	8.04	7.66	8	52													
89	1区O22	2上	53.0	42.0	0.32	8.06	7.75	60	279	1	3					1	125					
90	1区O22	2上	33.0	20.0	0.22	8.07	7.85	19	76													調査区外にのびる
91	1区O22	2上砂橙	27.0	27.0	0.19	8.07	7.87	29	115													
92	1区O22	2黒	33.0	28.0	0.46	8.16	7.70	19	209													S012、P265を切り、調査区外にのびる。
93-2	1区O22	2黒上	38.0	36.0	0.24	8.01	7.76	27	137	2	6			1	7	1	11					
95	1区O21	2黒4ブ	55.0	60.0	0.42	8.10	7.68	37	283	6	230					3	195					
97	1区O21	2黒																				図化もれ。
98	1区O21	2黒	48.0	29.0	0.26	8.10	7.84	2	12	1	62											
99-3	1区O23	2上	36.0	35.0	0.46	7.96	7.50	24	175	1	17					1	178					S082　礎石有り。
100-1	1区O25	2上	58.0	40.0	0.36	7.91	7.54	7	49	1	6							1	29			
100-2	1区O25	2上	26.0	37.0	0.19	7.88	7.69	3	19													
101	1区O25	2上砂多	46.0	18.0	0.73	7.90	7.16	63	446	3	21											
102	1区O25	2上白	42.0	18.0	0.58	7.95	7.37	76	296					1	7							
103	1区O25	2上白橙炭	37.0	37.0	0.47	7.94	7.47	33	209	3	89											P407-3、400-1、424、583、438-2、569と共にピット列の可能性あり。
104	1区O24	2上白橙炭	37.0	33.0	0.42	7.95	7.53															
105	1区O24	2上砂	45.0	35.0	0.61	7.95	7.34	1	1													S082　礎石有り。
106	1区O24	2上砂	40.0	33.0	0.71	7.94	7.23	23	119													
107	2区O17	3	49.0	46.0	0.50	7.92	7.43	16	116	4	48											
108	1区O24	2上白多	23.0	22.0	0.54	7.94	7.40															
109	1区O24	2黒	41.0	38.0				129	700	4	43			1	7	1	42					位置確認できず
110	1区O24		40.0	30.0	0.31	7.94	7.62															S083　礎石有り。
111-1	1区O24							36	185	1	14					1	2					P230と同一。
111-2	1区O24	2上	30.0	29.0	0.45	7.92	7.48	39	167													
111-4	1区O24	2橙砂ブ	48.0	37.0	0.48	7.96	7.48	1	11													根石有。

Tab.11　西部ガス跡地ピット観察表(4)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
112	1区O24	2上砂ブ炭	25.0	21.0	0.28	7.98	7.70	15	72	1	17											
113	1区O24	2上焼土	26.0	22.0	0.41	7.99	7.58	15	100	2	220											
114	1区O24		77.0	74.0	0.68	8.03	7.35	2	33													S083　礎石有り。
115	1区O24	2上白橙	38.0	30.0	0.51	8.04	7.53	49	31	1	25			1	3	1	10					礎石有り。
116	1区O24	2上a	31.0	30.0																		図化漏れ。全くうまく掘れていないので図化の必要なし。断面のみにする。
117-1	1区O24	2黒～3	31.0	29.0	0.22	7.86	7.64	12	88	4	56											
117-2	1区O24	2炭橙砂ブ	54.0	48.0	0.58	8.01	7.43	78	354													根石有。
117-3	1区O24	2上炭	40.0	39.0	0.41	7.98	7.57	3	31													S082　礎石有り。
118	1区O24	2上橙炭	40.0	28.0	0.55	8.06	7.51	47	271					1	7	2	56					ピット二つの重なり。P122に似る。根石有。P469、743を切り、調査区外にのびる。
120-1	1区O23		56.0	52.0	0.47	8.00	7.53	45	171	1	5											S083P8
121-1	1区O24	2上橙	24.0	13.0				103	583	3	79					1	10					破線で推定線のみ記載。調査区外にのびる。
121-2	1区O24	2上黒白	39.0	35.0	0.73	7.97	7.25	1	3													
122	1区O23	2上	41.0	35.0	0.46	7.99	7.53	13	161													P122に比して、P118のピットの根石は大きいがピットの浅さは良く似ている。
123	1区O23	2上橙炭	59.0	24.0	0.29	8.02	7.73	45	335	2	30					1	113					調査区外にのびる。
124-1	1区O23	2黒2上	28.0	26.0	0.33	7.98	7.64	11	40	1	120	1	7									
124-2	1区O23	2上砂	33.0	31.0	0.45	7.97	7.53	27	307													
125	1区O23	2黒上炭	28.0	28.0	0.42	7.97	7.55	27	103	2	61			1	10							
126	1区O23	2黒炭	18.0	16.0	0.37	7.98	7.61	3	30													
127	1区O23	2上～黒	37.0	36.0	0.30	7.97	7.67	35	180													
128	1区O23	2上炭橙	27.0	17.0	0.25	7.98	7.73	26	118			1	3									根石のような小さな石あり。調査区外にのびる。
129	2区O18		71.0	64.0	0.22	7.94	7.72															S080調査区外にのびる。柱痕有り。
130	2区P,O16		79.0	62.0	0.25	8.01	7.76															S080　柱痕有り。
131	2区P16		75.0	55.0	0.24	8.01	7.76															S080　柱痕有り。
132-2	1区O23	2上橙	32.0	29.0	0.28	7.94	7.66	58	253													
132-3	1区O23	2黒	22.0	20.0	0.23	7.91	7.68	1	13													
133	1区O23	2黒	44.0	40.0	0.37	7.96	7.58	10	68	1	6					1	5					
134	1区O21	2黒	27.0	24.0	0.22	8.09	7.87	15	51	1	33											
135	1区O24	2上	44.0	26.0	0.34	7.94	7.60															礎石有り。
137	1区O21	2上炭	34.0	30.0	0.35	7.74	7.38	8	50	1	10											
138	1区O21	2上	28.0	26.0	0.16	7.74	7.58	4	23													
139	1区O21	2上～黒	44.0	40.0	0.40	7.91	7.51	33	199	1	9											
141	1区O22	2上炭橙砂	46.5	45.5	0.38	8.04	7.66	44	373	4	78					1	40					P142と接する。
142	1区O22	2黒	17.0	15.0	0.38	8.02	7.64															

Tab.12　西部ガス跡地ピット観察表(5)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
143	1区O24	2下～3	42.0	38.0	0.31	8.02	7.72	11	49	1	15											
144	1区O21	2上	22.0	20.0	0.09	7.98	7.89	4	16													
145	1区O21	2上	23.0	20.0	0.15	7.99	7.84															
146	2区O21	2黒～2下	32.0	24.0	0.22	7.52	7.30	20	73													調査区外にのびる
148	2区O20	3層	46.0	27.0	0.27	7.88	7.61															調査区外にのびる
149-2	2区O20	2黒～下	25.0	22.0	0.37	7.78	7.40	3	32													P49-2の掘り残し。
150	2区O19	2黒～3層	78.0	46.0	0.33	7.79	7.46	11	88													コンクリートの礎石に切られる。
151	2区O19	3層	37.0	34.0	0.26	7.77	7.51	3	12							1	10					
152	2区O19	3層	44.0	20.0	0.38	7.85	7.47	1	9													調査区外にのびる
153	1区O20		43.0	38.0				3	232	3	64											遺構ではない。
154	2区O20	3層	60.0	25.0	0.15	7.80	7.65															調査区外にのびる
155	2区O18	3層	46.0	35.0	0.24	7.83	7.59	3	59	1	20											調査区外にのびる。
156	2区O19	2?不明	33.0	28.0	0.37	7.60	7.23			1	13											
158	2区O19	2層	26.0	26.0	0.34	7.58	7.24	2	7													
159	2区O19	3層	74.0	65.0	0.27	7.60	7.33	8	49													
160	2区O19	不明	36.0	32.5	0.21	7.65	7.44															
162	2区O19	2上	21.0	21.0	0.14	7.79	7.65	1	7													
163	2区O20	2上～2黒	45.0	37.0	0.05	7.34	7.29															
164	2区O18	2上橙	23.0	20.0	0.25	7.72	7.47	6	72	1	4											
165	1区O22	2上橙炭	33.0	27.0	0.44	8.04	7.60															
166	2区O17・18	2上～黒	50.0	30.0	0.39	7.72	7.34	4	32							1	66					
167	2区O19	2黒？	20.0	20.0	0.24	7.65	7.41															
168	2区O18	2黒	53.0	38.0	0.15	7.64	7.49	3	35													
169	2区O19	不明	50.0	43.0	0.15	7.59	7.44															
170	2区O18	3層	50.0	48.0	0.28	7.61	7.33															
171	2区O19	2黒	40.0	40.0	0.33	7.82	7.49	4	22													
172	2区O18	2上～黒	25.0	20.0	0.29	7.64	7.35															
174	2区O18	3層	40.0	28.0	0.33	7.78	7.44	7	91	1	8											
175	2区O19	2上	42.0	25.0	0.31	7.73	7.42	5	24													
177	2区O20	2上岩	52.0	23.0	0.36	7.58	7.23	8	72													
178	1区O20	2黒～3層	27.0	15.0	0.21	7.65	7.43															
179	2区O17	3層	43.0	40.0	0.21	7.73	7.52															
181-2	1区O23	2上砂橙炭	18.0	18.0	0.35	7.87	7.52	4	45													

Tab.13　西部ガス跡地ピット観察表(6)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
182	1区O23	2下～3	35.0	35.0	0.19	7.83	7.63	11	98			1	12									
183	1区O23	2上砂橙ゆるい	22.0	19.0	0.34	7.83	7.49	14	56	1	10											
184	1区O23	2上橙炭	28.0	26.0	0.26	7.83	7.57	15	59	3	37											
186	1区O22	2黒	26.0	25.0	0.34	7.86	7.52	160	942	8	106			4	16							
187-1	1区O22	2上砂炭	22.0	21.0	0.16	7.86	7.71	8	90													
187-2	1区O22	3層	48.0	41.0	0.20	7.87	7.67															
189	1区O22	2上炭	32.0	31.0	0.18	7.85	7.67															
190	1区O22	2上	22.0	18.0	0.36	7.72	7.36	24	152	1	45			1	3		15					調査区外にのびる
192	1区O22	2黒	38.0	16.0	0.17	7.86	7.68	13	46													
193	1区O22	2上	39.0	37.0	0.39	7.84	7.46	9	91	4	47											
194	1区O22	2黒白炭	24.0	22.0	0.30	7.85	7.55	4	17													
195	1区O22	2黒橙炭	52.0	48.0	0.50	7.86	7.36	96	482	4	45	2	5			2	7					礎石有り。石多い。
196	1区O22	2下～3	26.0	14.0	0.19	7.86	7.67															
197	2区O・P18	3層	(37.0)	(30.0)	0.02	7.64	7.62															
198	2区O17	2黒橙白	45.0	44.0	0.24	7.67	7.43															
199	2区O19	3層	46.0	44.0	0.09	7.63	7.53															
200	1区O22	2上炭	34.0	28.0	0.28	7.75	7.47															
201	2区O18	3層	40.0	38.0	0.18	7.70	7.53			1	13											
206-1	1区O22	2下	60.0	15.0	0.17	7.89	7.72	13	33							1	36					調査区外にのびる
206-2	1区O22	3層	57.0	50.0		7.90	-															調査区外にのびる
207	1区O23	2上砂	46.0	41.0	0.43	7.90	7.47	23	375	5	54	4	9			1	6					
208	1区O23	3層	47.0	44.0	0.50	7.90	7.40	9	44											1	11	
209	1区O23	2上橙炭焼土	43.5	31.5	0.50	7.90	7.40	60	251	3	28					2	36					
210	1区O23	2上	31.5	30.0	0.48	7.91	7.43	38	149	2	9	1	2									
211	1区O23	2上砂	34.0	30.0	0.30	7.92	7.61	26	50	1	3					3	31					
212	1区O23	2黒～3	20.0	19.0	0.19	7.91	7.72	9	90													
213	1区O23	2黒～3	35.0	33.0	0.21	7.88	7.66															
214	2区O20	2黒～3	63.0	30.0	0.53	7.83	7.29															
215	1区O23	2黒～2下	47.0	39.0	0.19	7.83	7.64	11	303	1	10											
216	1区O23	2上白粘	21.0	15.0	0.23	7.79	7.56	39	353	1	24			2	7							調査区外にのびる。
218	1区O23	2上砂	50.0	35.0	0.30	7.78	7.47	14	70													調査区外にのびる
219	1区O23	2上	43.0	41.0	0.21	7.81	7.60	21	103	1	26					1	8					
222	1区O25		47.0	45.0	0.15	7.87	7.72	8	33													根石が浅めで石をはずすとほとんど平坦になったため範囲と一部のみ図化。根石図化漏れ。

Tab.14　西部ガス跡地ピット観察表(7)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
223	1区O・N25	2上砂ブ橙	38.0	23.0	0.41	7.92	7.51	19	91	1	14					1	5					調査区外にのびる。
224	1区O・N25	2上白粘多砂	31.0	16.0	0.41	7.92	7.51	20	183													調査区外にのびる
225	1区O・N24	3層	48.0	35.0	0.19	7.91	7.72	3	38													調査区外にのびる。
226-1	1区O24	2上砂ブ	38.0	33.0	0.44	7.88	7.44	41	173	2	24					1	57					
228	1区O24	2上？かなり砂	30.0	28.0	0.21	7.84	7.63	5	47													
229	1区O24	2上砂ブ	24.0	22.0	0.41	7.87	7.46	9	43	1	10											調査区外にのびる
230	1区O24	不明	44.0	40.0	0.24	7.90	7.66															
231	1区O24	2上橙炭	56.0	33.0	0.23	7.90	7.67	25	177	2	47					1	116					231と247の根石の入り方は似ているが、他の根石ピットとは異なるため、これらで同一の遺構群を形成すると思われる。対応するとすればS083が考えられるが、根石の状況がはっきり異なる。調査区外にのびる。
232-1	1区O24	2上白橙 焼土炭砂	40.0	40.0	0.37	7.90	7.54	24	448	1	30					2	66	1	4			
232-2	1区O24	2上砂ブ白粘	40.0	40.0	0.42	7.89	7.47	1	50													S082　礎石有り。
232-3	1区O24	2上砂白粘	36.0	32.0	0.41	7.86	7.45	3	12													
232-4	1区O24	2黒～2下	40.0	32.0	0.38	7.89	7.51															
234-2	1区O24	2上	30.0	25.0	0.31	7.88	7.57	11	264	1	38											
235	1区O24	2上砂ブ炭	36.0	35.0	0.39	7.89	7.50	15	84	1	3											
236	1区O24	2上砂ブ	43.0	34.0	0.58	7.81	7.23	12	115													
237	1区O23・24	3層	37.0	25.0				8	49													調査区外にのびる
239	1区O24	2層	30.0	30.0	0.65	7.90	7.25	4	90													
240	1区O23	2黒	42.0	41.0	0.19	7.89	7.70	7	31													
241	1区O23	2層	43.0	23.0	0.22	7.86	7.64	10	53	2	31											
242	1区O23	2上d	44.0	27.0				26	104	3	17			1	7	1	5					
244	1区O25	2上白粘 （S007と同）	62.0	50.0				28	276			1	12	1	7	1	4					P744と同一。
245	1区O23	2下～3層	62.0	45.0	0.31	7.88	7.57	6	49	1	5					1	27					
246	1区O24	2上b	46.0	35.0	0.46	7.72	7.27	23	196	1	22	1	4			1	52					調査区外にのびる。
247	1区O24	2上砂ブ	51.0	47.0	0.48	7.88	7.40	66	375	1	5	1	6	1	4	1	4					P231と根石有り。石多い。
248	1区O24	2上白粘	37.0	34.0	0.41	7.91	7.50	18	137	5	82											調査区外にのびる
249	1区O24	2上砂橙	31.0	30.0	0.28	7.90	7.62															
250	1区O25	2上白粘	31.0	13.0	0.41	7.76	7.36	30	182	2	28	2	7	1	8	1	72					
251	1区O24	3層	52.5	39.0	0.37	7.89	7.52	21	110									1	4			
252	1区O25	2上砂ブ	49.0	37.0	0.38	7.78	7.40															S082　礎石有り。
253	1区O24	2上～2黒	26.0	23.0	0.50	7.89	7.40	11	51													
254	1区O23	2上砂炭橙	56.0	48.0	0.29	7.88	7.59	21	154													柱痕有り？

Tab.15　西部ガス跡地ピット観察表(8)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
255	2区O16	3層	25.0	23.0	0.28	8.47	8.19	3	26													
256	1区O23	2上～2黒	25.0	24.0	0.10	7.75	7.65	3	19													
257	1区O23	不明	30.0	30.0	0.11	7.75	7.65															
258	1区O23	2黒～3	25.0	22.0	0.48	7.73	7.24	1	16													
259	1区O22	3層	32.0	30.0	0.32	7.74	7.41															
260-1	1区O22	～2に切られる3層	46.0	37.0	0.11	7.74	7.63	2	14	1	54											
260-2	1区O22	2上	27.0	22.0	0.32	7.75	7.43															
261	1区O22	2上砂	43.0	39.0	0.48	7.75	7.27	4	28	2	53											
262	1区O22	3層	28.0	26.0	0.21	7.78	7.57															
263	1区O22	2上炭	17.0	16.0	0.04	7.67	7.62															段下げでなくなるが、明瞭な輪郭のため遺構にしておく。
264	1区O22	2黒白	22.0	20.0	0.22	7.68	7.47	11	45													
265	1区O22	2黒b	27.0	15.0	0.39	7.84	7.45	5	37	1	8											調査区外にのびる。
266	1区O21	2黒？	29.0	26.0	0.29	7.69	7.39	1	22													
267	1区O21	3層	38.0	42.0	0.24	7.79	7.56	8	95													
268	1区O23	2黒	25.0	11.0	0.40	7.75	7.35															調査区外にのびる。
269	1区O23	不明	33.0	30.0	0.21	7.53	7.32			1	68											
270	1区O23	2黒	40.0	28.0	0.44	7.85	7.41	1	25													
271	1区O22	2黒～2下	35.0	30.0	0.12	7.74	7.63															
273	1区O23	2上炭	36.0	16.5	0.58	7.81	7.23	12	54	2	23											調査区外にのびる
274	1区O24	2上砂ブ橙	37.0	19.0	0.46	7.89	7.43	2	18	1	20											
275	1区O23	2上	29.0	26.0	0.50	7.86	7.35	6	36							1	10					
276	1区O23	2黒	30.0	15.0	0.10	7.85	7.75	2	11					1	10							
277	1区O24	2上白粘多炭橙	28.0	26.0	0.21	7.69	7.48	11	59	1	5											
278	1区O24	2上橙炭	32.0	16.0	0.49	7.82	7.33	15	88	1	6					2	24					調査区外にのびる。
279	1区O24	2上橙焼柱						25	210	1	10					1	125					P470と同一。柱痕有り？
281	2区P16	3層	30.0	12.0	0.28	8.50	8.23															調査区外にのびる。
283	1区O25	2上～2黒	24.0	23.0	0.28	7.79	7.51	9	47													
284	1区O25	2上	30.0	28.0	0.28	7.77	7.50	8	74													P250と同一。
285	1区O25	2上白粘	28.0	24.0	0.31	7.79	7.48	8	62			1	8									
287	1区N25	2上炭砂ブ	60.0	58.0	0.66	7.91	7.25	153	776	2	43											S082　根石はないが規模、並び、S083から推定。
289-2	1区O25	2上	32.0	30.0	0.32	7.89	7.57	35	119	1	3					1	12					
290	1区N25	2上砂	40.0	40.0	0.67	7.88	7.20	47	657	1	3					1	8					
291	1区N25・26	2上砂ブ炭橙	57.0	46.0	0.28	7.90	7.63															S083　根石有り。調査区外にのびる。礎石有り。

Tab.16　西部ガス跡地ピット観察表(9)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
292	1区O26	2黒	56.0	46.0	0.26	7.88	7.62	50	261	2	27	1	3			1	3					
293	1区O26	2上砂ブ多	29.0	28.0	0.42	7.89	7.47	22	69													P318、533、572、324、438-1、417、540、539、(497)と共にピット列の可能性あり。
294	1区O25	2上橙	35.0	35.0	0.28	7.89	7.62	58	223	1	4											
295	1区O26	2上橙	30.0	29.0	0.21	7.84	7.63	21	81	1	8			1	12							P338、578を切る。礎石有り。
296	1区O26	2上	33.0	33.0	0.27	7.88	7.60	17	78									1	10			
297	1区O・N26	2上																				図化漏れ。
298	1区O26	2上砂																				図化漏れ。
299	1区N26	2上砂炭	30.0	28.0	0.48	7.80	7.33	8	68													
300	1区N29・30	2黒	27.0	26.0	0.46	7.89	7.43	25	102													
301	1区N29	2黒	59.0	54.0	0.35	7.90	7.55	44	151	2	29			1	3	1	23					
302	1区N29	2黒	30.0	23.0	0.25	7.94	7.69	8	82													
303	1区N29	2黒	21.0	21.0	0.24	7.92	7.69	9	14													
304	1区N27	2黒	37.0	24.0	0.22	7.93	7.71	48	347													
305	1区N28		36.0	33.0	0.25	7.88	7.64	30	74													P342、410、568、338、421と共にピット列の可能性あり。
306	1区N29	2黒	27.0	23.0	0.25	7.93	7.68	20	37							1	20					
307	1区N26	2黒	55.0	30.0	0.19	7.94	7.75	51	159													調査区外にのびる。
308	1区N29	2黒	34.0	33.0	0.23	7.93	7.70	13	91													根石か？
309	1区N29・30	2黒	35.0	32.0	0.39	7.90	7.51	38	96	3	18											
310	1区N30	2黒	20.0	18.0	0.40	7.89	7.49	32	54													
311	1区N28	2黒	57.0	51.0	0.28	7.87	7.58	40	200	1	14							1	25			
312	1区O28	2黒	33.0	33.0	0.10	7.86	7.75	12	43													根石有り。
313	1区O27	2黒	49.0	30.0	0.23	7.92	7.69	21	70					1	5							根石か？
314	1区N27	2黒	50.0	47.0				10	71	1	14			1	3							図化もれ
315	1区O27	2黒	69.0	54.0	0.36	7.92	7.56	43	291	3	37	1	3	12	71	3	216					
316	1区N27	2黒	52.0	37.0	0.13	7.96	7.83	36	68													調査区外にのびる。
317	1区O28	2黒	57.0	44.0	0.18	7.89	7.70	73	177							1	19					
318	1区N28	2黒	57.0	(31.0)	0.09	7.91	7.82	20	83							1	14					P533、572、324、293、438-1、417、540、539、(497)と共にピット列の可能性あり。P413と接し、調査区外にのびる。
319	1区N26	2黒	43.0	37.0	0.15	7.99	7.84	26	62													
320	1区O26	2黒	42.0	39.0	0.22	7.97	7.74	20	51													
321	1区N・O26	2黒	40.0	38.0	0.15	7.95	7.80	9	29													
322	1区O26	2黒	34.5	33.0	0.20	7.98	7.78	30	62	1	10											
323	1区O26	2黒	40.0	30.0	0.12	7.95	7.83	12	42													
324	1区O26	2黒	61.0	60.0	0.17	7.97	7.80	12	77	1	24						32					P318、533、572、293、438-1、417、540、539、(497)と共にピット列の可能性あり。

Tab.17　西部ガス跡地ピット観察表(10)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
325	1区O26	2黒	35.0	32.0	0.23	7.97	7.74	23	93							1	6					P422とほぼ同位置。
326	1区N26	2黒	34.0	32.0	0.15	7.96	7.81	29	83			1	2									
327	1区O26	2黒	70.0	65.0	0.30	7.94	7.64	18	310					1	17	1	6					
328	1区O26	2黒	63.0	54.0	0.14	7.98	7.84	20	427					1	4							
329	1区N27	2黒	24.0	24.0	0.26	7.90	7.64	4	10													
330	1区N26	2黒	36.0	32.0	0.17	7.93	7.76	6	19													
331	1区O25	2黒	32.0	30.0	0.31	7.99	7.68	31	83	1	25			1	3							
332	1区O25	2黒	70.0	64.0	0.18	7.97	7.79	102	379	3	13					2	20					
333	1区N26	2黒	36.0	29.0	0.16	8.00	7.84	20	75													調査区外にのびる。
334	1区O25	2黒	26.0	23.0	0.24	7.98	7.74	13	36													
335	1区N27	2黒	31.0	28.0	0.15	7.90	7.75	25	119													根石か？
336	1区N29	2黒	40.0	36.0	0.14	7.90	7.76	14	63							1	6					根石有。
337	1区N29	2黒	70.0	48.0	0.25	7.93	7.68	26	139	6	79	1	3			1	28					ピット2つの重なりと思われる。調査区外にのびる。
338	1区O26	2黒	42.0	40.0	0.17	7.96	7.80															P342、305、410、568、338、421、342と共にピット列になる可能性あり。
339	1区O・N29	2黒	35.0	32.0	0.11	7.90	7.79	10	36													根石有。
340	1区O・N28	2黒	32.0	30.0	0.15	7.89	7.74	12	63	6	101											
341	1区O25	2黒	36.0	32.0	0.41	7.96	7.55	341	726	3	31			1	13							
342	1区N28	2黒	52.0	49.0	0.25	7.89	7.64	10	65	2	44			1	40							P342、305、410、568、338、421、338と共にピット列になる可能性あり。
343	1区N28	2黒	43.0	42.0	0.39	7.92	7.53	3	782													根石か？
344	1区N26	2黒	69.0	(37.0)	0.11	7.99	7.89	52	160	7	53			1	3	1	6					調査区外にのびる。
345	1区N32	2黒	42.0	38.0	0.33	7.99	7.67	54	226	4	139			1	9							
346	1区N32	2黒	44.0	36.0	0.23	7.95	7.72	55	157	2	28											
347	1区N32	2黒	40.0	38.0	0.16	7.93	7.78	14	104													
348	1区N32	2黒	24.0	22.0	0.19	7.95	7.76	10	47	1	8											
349	1区N32	2黒	39.0	35.0	0.39	7.97	7.58	45	161	2	32					1	12					
350	1区N32	2黒	31.0	26.0	0.22	8.00	7.78	26	116	1	73											調査区外にのびる。
351	1区N32	2黒	32.0	31.0	0.25	7.93	7.68	11	34	1	3											
352	1区N32	2黒	30.0	29.0	0.24	7.95	7.71	24	304	1	3											
353	1区N32	2黒	26.0	21.0	0.27	7.96	7.69	7	27											1	26	
354	1区N32	2黒	36.0	34.0	0.32	7.98	7.66	19	122	4	41											
355	1区N32	2黒	28.0	26.0	0.22	7.95	7.73	9	92													
356	1区N32	2黒	30.0	24.0	0.22	7.96	7.75	12	56	1	4											
357	1区N31・32	2黒	35.0	30.0	0.27	7.94	7.67	7	21					1	4							

Tab.18　西部ガス跡地ピット観察表(11)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
358	1区N32	2黒	42.0	33.0	0.31	7.95	7.64	19	111	1	29											調査区外にのびる。
359	1区N31	2黒	27.0	26.0	0.14	7.93	7.79	3	15	1	5											
360	1区N32	2黒	31.0	26.0	0.34	7.97	7.63	21	179	1	14			2	24	2	14					
361	1区N31	2黒	31.0	31.0	0.18	7.96	7.78	10	41							1	10					
362	1区N31	2黒	29.0	29.0	0.41	7.95	7.54	21	73							1	2					
363	1区N32	2黒	28.0	22.0	0.26	8.01	7.75	23	148	2	33											
364	1区N32	2黒	30.0	29.0	0.30	7.96	7.66	18	66	1	6				92							
365	1区N32	2黒	40.0	32.0	0.26	7.96	7.70	9	144													調査区外にのびる。
366	1区N31	2黒	36.0	30.0	0.20	7.94	7.74	12	46	1	6				102							
367	1区N33	2A層	53.0	40.0	0.55	8.02	7.47	46	286	2	8	1	1	1	9							
368	1区N33	2A層	51.0	48.0	0.52	8.00	7.48	68	422	14	86											
369	1区N33	2B～3層	52.0	(32.0)		8.00	—	2	185													調査区外にのびる。根石有り。
370	1区N33	2A～2B層	29.0	22.0	0.47	7.95	7.48	14	113													
371	1区N33	2A層	66.0	48.0	0.82	7.91	7.09	95	520	10	76	1	3	1	7	3	34	1	22			
372	1区N33	2B	36.0	31.0	0.57	7.97	7.40	20	85	1	19											
373	1区N33	2B	23.0	20.0	0.34	7.95	7.61	7	41	1	9											
374	1区N33・34	2B	29.0	21.0	0.33	7.97	7.64	12	64													
375	1区N34	2B	34.0	21.0	0.40	7.91	7.52	16	69													
376	1区N34	2B	24.0	23.0	0.31	7.87	7.56	24	104	2	33											
377	1区N33	2A、B層	30.0	25.0	0.54	7.98	7.44	25	108	1	29			1	9							
378	1区N34	2A、B層	38.0	37.0	0.62	7.95	7.33	96	570	4	65			2	6	1	3					
379	1区N34	2A、B層	39.0	37.0	0.50	7.92	7.42	38	194	4	36					2	8					
380	1区N34	2B	32.0	27.0	0.31	7.85	7.54	14	107	3	17											
381	1区N35	2B(2層)焼・カ多	89.0	(35.0)	0.27	7.89	7.62	26	122	2	20					2	161					土壙状に大きい。P396と接し、調査区外にのびる。
382	1区N34	2B	26.0	(12.0)		7.86	—	21	63	1	4											調査区外にのびる。
383	1区N34	2B—3	30.0	26.0	0.33	7.86	7.53	21	128	1	11			2	15							
384	1区N34	2B	(40.0)	(20.0)	0.29	7.89	7.60	14	47					1	3							調査区外にのびる。
385	1区N34		43.0	(29.0)	0.41	7.86	7.45															
386	1区N34	2B			0.28	7.82	7.53	2	28													P385、387に切られ上場は計測できない。礎石有り。
387	1区N34		41.0	(33.0)	0.42	7.87	7.46	41	137	2	87	1	2		10							調査区外にのびる。
388	1区N34	(2黒)2B焼・カ	44.0	24.0	0.25	7.79	7.54	13	58	2	6							1	7			
389	1区N35	3層	41.0	35.0	0.22	7.85	7.63	8	27			3	24			1	126					ピットではない可能性あり。
390	1区N35	2A、B層	39.0	36.0	0.43	7.83	7.41	40	267	4	28							1	31			

Tab.19　西部ガス跡地ピット観察表(12)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
391	1区M35	2B焼・カ	30.0	(16.0)	0.21	7.83	7.62	3	12													調査区外にのびる。
392	1区M35	2B	32.0	(18.0)	0.41	7.86	7.45	22	141													調査区外にのびる。
393	1区N35	2B焼・カ	39.0	36.0	0.74	7.86	7.12	10	90	1	8					1	60	1	2			
394	1区N35	2B焼・カ	38.0	37.0	0.30	7.87	7.56	9	57	2	10											
395	1区N35	2B焼・カ	35.0	34.0	0.75	7.83	7.09	23	98	1	20											
396	1区N34・35		27.0	26.0	0.28	7.82	7.54	18	57	2	32			1	2							
397	1区N35		34.0	30.0	0.68	7.82	7.14	6	46	2	72											
398	1区N34		42.0	38.0	0.63	7.83	7.20	40	172					1	3							
399	1区N34		47.0	31.0	0.59	7.87	7.28	47	256	1	2											
400-1	1区N26	2上～3層	20.0	20.0	0.19	7.88	7.68															P407-3、424、583、438-2、103、569と共にピット列の可能性あり。
400-4	1区N26・27	2上ｃ	25.0	25.0	0.27	7.88	7.61															調査区外にのびる。
402	1区N26	2上砂ブ	28.0	28.0	0.39	7.89	7.50	15	54	1	16											
403	1区O26	2上	30.0	30.0	0.25	7.89	7.64	2	10	1	45											
405	1区N27	2上	45.0	36.0	0.37	7.86	7.48	28	208					1	8	2	17					
407-1	1区N27	2上砂	50.0	46.0	0.30	7.87	7.58	34	213			1	3									
407-2	1区N27	2上砂ブ	28.0	27.0	0.22	7.91	7.69															
407-3	1区N27	2上	30.0	25.0	0.15	7.86	7.71															P400-1、424、583、438-2、103、569と共にピット列になる可能性あり。
407-4	1区N27	2黒	25.0	22.0	0.14	7.87	7.73															
409	1区N27	2上黒	28.0	26.0	0.44	7.91	7.46	4	13			1	8									
410-1	1区N27	2上砂ブ																				図化漏れ
410-2	1区N27	2上炭	30.0	23.0	0.29	7.92	7.62	16	87													P342、305、568、338、421と共にピット列の可能性あり。
411	1区N27	2上	30.0	30.0	0.51	7.91	7.40	25	132	4	71					1	5					
412-1	1区N27		62.0	37.0				18	132	5	76					2	18					位置確認できず
412-2	1区N27		61.0	35.0	0.19	7.90	7.71															調査区外にのびる。
413	1区N28	2上砂炭	30.0	30.0	0.07	7.75	7.68	9	45													
414	1区O・N27	2上～2黒	30.0	30.0	0.18	7.94	7.76	2	21	1	60											
415	1区O27	2黒	37.0	34.0	0.27	7.89	7.62	8	76	1	2							1	34			
416-1	1区N27	2上	66.0	46.0	0.14	7.91	7.77	28	232	4	40											
416-3	1区N27	2上砂炭	25.0	18.0	0.28	7.90	7.62															416-1、3ともに樹痕の可能性が高い。2つのピットの重なり。
417	1区O27	2上橙	27.0	27.0	0.34	7.89	7.55	6	30	1	14											P318、533、572、324、293、438-1、540、539、(497)と共にピット列になる可能性あり。
418	1区O27	2上a	33.0	30.0	0.41	7.91	7.50	57	259	2	15					1	7					調査区外にのびる。
419	1区O27	2黒	33.0	31.0	0.32	7.90	7.58	12	86													
420	1区O28	2上	60.0	50.0	0.09	7.72	7.63	14	94													調査区外にのびる。

Tab.20　西部ガス跡地ピット観察表(13)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
421	1区O25	2上～2黒	37.0	35.0	0.27	7.91	7.64	18	101													P342、305、410、568、338と共にピット列の可能性あり。
422	1区O26	2上～2黒	30.0	28.0	0.42	7.89	7.47	5	25													P325の掘り残し部分。
423-2	1区O26		66.0	55.0				12	118													破線のプランのみで下場なし。
424	1区O26		26.0	24.0	0.21	7.89	7.67	4	10													P407-3、400-1、583、438-2、103、569と共にピット列の可能性あり。
425	1区O26	2上砂	26.0	25.0	0.35	7.85	7.50	9	48	1	8											
426	1区O26	2上砂	37.0	35.0	0.19	7.89	7.70															
427	1区O26	2上砂	24.0	13.0	0.23	7.90	7.67	5	13													
431	1区O26	2層	30.0	28.0	0.20	7.85	7.65															
432	1区O27	2上～2黒	30.0	28.0	0.30	7.86	7.56	1	12													
433	1区O27		27.0	25.0	0.29	7.85	7.56															
435	1区O27	2上～2黒	30.0	30.0		7.69	―	13	42													
437	1区O27	2黒～3層	52.0	47.0	0.24	7.89	7.65	1	5													
438-1	1区O25	2上白砂多2上炭砂	45.0	40.0	0.35	7.84	7.49	35	212													P318、533、572、324、293、417、540、539、(497)と共にピット列になる可能性あり。
438-2	1区O25		45.0	34.0	0.25	7.76	7.51															P407-3、400-1、424、583、103、569と共にピット列の可能性あり
439	1区O25	2上橙砂ブ	29.0	26.0	0.21	7.84	7.63	16	43													
440	1区O25	2上炭						4	14													図化漏れ
442	1区O25	2黒～3	53.0	43.0	0.28	7.90	7.62	19	13							1	133					
443-2	1区N26	2上炭砂ブ	33.0	32.0	0.39	7.84	7.46	10	42													
444	1区N26	2上ｃ	50.0	35.0	0.18	7.86	7.68	4	46													調査区外にのびる。
445	1区O27	2黒	37.0	24.0	0.16	7.83	7.67	24	207													調査区外にのびる。
446	1区O27	2層	34.0	32.0	0.45	7.89	7.44	3	19													
447	1区O27	2上	53.0	24.0	0.26	7.90	7.65	5	15													調査区外にのびる。
448	1区N25	2上白粘多	28.0	28.0	0.48	7.93	7.45	15	74									1	21			
449	1区O25	2黒	25.0	24.0	0.13	7.79	7.65	1	6					1	8							
450	1区O26		53.0	47.0	0.42	7.77	7.36	77	477			1	12	1	7			1	30			
451	1区O25	2上砂白粘	30.0	25.0	0.54	7.86	7.32	27	95	1	7	1	3									
452	1区O26	2黒	45.0	28.0	0.04	7.90	7.85	5	28							1	88					土坑とすべきもの。調査区外にのびる。
453	1区O25	2上	23.0	20.0	0.12	7.75	7.63	6	43													
454	1区N25	2上ｃ	45.0	24.0	0.29	7.79	7.50															調査区外にのびる。
457	1区O23	2上砂炭	30.0	33.0	0.16	7.75	7.59															
459	1区O23	3層	39.0	38.0	0.12	7.75	7.63															
460-1	1区O23	2上橙炭	29.0	27.0	0.53	7.72	7.20	5	41	1	3											S082　礎石有り。
460-2	1区O23	2上炭橙	24.0	16.0	0.23	7.72	7.48															

Tab.21　西部ガス跡地ピット観察表(14)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
460-3	1区O23	2上	30.0	30.0	0.18	7.71	7.53															
461	1区O23	2上A	17.0	7.0		7.73	―															下場なし。P468-1を切り、P123に切られ調査区外にのびる。
462	1区O23	2上炭橙	30.0	21.0	0.30	7.75	7.45	21	148							1	12					
463-2	1区O23	2上砂	40.0	40.0	0.36	7.75	7.40	2	8	1	14											
465	1区O23	2黒炭	46.0	42.0		7.72	(7.83)															
466-1	1区O23	2黒橙	35.0	30.0	0.39	7.76	7.37															
467	1区O23	2上砂ブ炭	24.0	20.0	0.12	7.73	7.62	3	25													
468-1	1区O23	3	70.0	20.0		7.75	―	13	75													調査区外にのびる。
468-2	1区O23	2黒	49.0	31.0				1	4													P254と同一
469	1区O24	2上砂ブ橙	40.0	37.0		7.77	―	2	12													下場なし
470	1区O24	2上砂炭橙	50.0	30.0	0.38	7.75	7.37	16	55													P279と同一。
471	1区O24	2上2黒炭	30.0	26.0	0.12	7.74	7.62															
472	1区O24	2上～2黒	22.0	21.0	0.21	7.72	7.52	4	13					1	5							
473	1区O24	2上砂ブ	28.0	27.0	0.15	7.77	7.63	1	18													
474-1	1区O24	3層	62.0	51.0	0.14	7.75	7.61			1	23											
474-2	1区O24	3層	44.0	29.0	0.15	7.80	7.65															調査区外にのびる。
475	1区O23	2黒	22.0	12.0	0.10	7.72	7.61	3	20													調査区外にのびる。
476	1区O24	3層	32.0	36.0	0.57	7.77	7.20	4	28													
477	1区O24	2上炭砂ブ	33.0	32.0	0.30	7.77	7.47	25	151	2	35			1	3							
479	1区O25	2上砂	32.0	30.0	0.28	7.76	7.48															
480	1区O25	2上砂	31.0	26.0	0.19	7.73	7.54															
481	1区O24	3層	49.0	39.0	0.25	7.78	7.53	4	26													
482	1区N25	3層	23.0	(20.0)	0.04	7.76	7.72															調査区外にのびる。
483	1区O24	2黒	33.0	42.0	0.51	7.71	7.20	10	79													
484	1区O24	2黒	31.0	44.0	0.50	7.71	7.21	7	57	1	13											
485	1区O23	2黒	28.0	26.0	0.31	7.75	7.45	5	24													調査区外にのびる。
486	1区O25		40.0	33.0	0.48	7.76	7.27	1	14													根石有。
487	1区O25		68.0	41.0	0.35	7.93	7.57															S083
488	1区O25	2上A	48.0	20.0	0.16	7.91	7.75	2	99													調査区外にのびる。
490	1区O24	2上橙	26.0	23.0	0.17	7.78	7.61															
491	1区O25	2上橙	(29.0)	(5.0)		7.74	―															下場なし。
492	1区O23	2上橙	33.0	32.0	0.17	7.74	7.57	1	18							1	7					
493	1区O24・25	2黒～3層	24.0	24.0	0.11	7.69	7.58															

Tab.22　西部ガス跡地ピット観察表(15)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
494	1区O24	2黒	27.0	25.0	0.22	7.75	7.53															
495	1区O25	2上砂ブ白粘	25.0	25.0	0.14	7.68	7.54	7	60	2	25											
496	1区O25	2上砂	20.0	19.0	0.11	7.71	7.60															
497	1区O25	2黒	41.0	(18.0)	0.14	7.76	7.62	4	696													瓦だったが、根石の可能性あり。P318、533、572、324、293、438-1、417、540、539と共にピット列の可能性あり。調査区外にのびる。
498	1区O24	2上砂ブ炭	31.0	29.0	0.26	7.75	7.50	5	30													
499	1区O23	2上	28.0	26.0	0.33	7.73	7.41															
500	1区N30	2黒	45.0	40.0	0.29	7.81	7.52	5	64	10	223					1	11					
501-1	1区N29		40.0	40.0		7.80	―	1	36									1	5			根石有り。
501-2	1区N29	2上橙	35.0	31.0	0.20	7.80	7.60	12	110													
502-1	1区N29・30	2上～2黒	21.0	20.0	0.25	7.81	7.57	3	29	3	54											
502-2	1区N30	2上～2黒	27.0	26.0	0.31	7.80	7.49															
503	1区N32		42.0	40.0	0.22	7.96	7.74	13	126													
506	1区N29	2上砂	30.0	29.0	0.33	7.79	7.45															
507	1区N29	2上炭	30.0	30.0	0.17	7.79	7.61	3	34			1	1									
508	1区N29	2黒炭	47.0	40.0	0.16	7.78	7.63	6	98													
509	1区O29	2上砂炭	43.0	42.0	0.28	7.79	7.51	40	228	5	62											
510	1区O30	2上砂	46.0	40.0	0.16	7.78	7.62	6	35													
511	1区N30	2上砂ﾌﾞ	31.0	30.0	0.25	7.80	7.55	16	118					1	5	1	79					
513	1区O28	2上c	19.0	17.0	0.36	7.76	7.40	5	64	1	15											調査区外にのびる。
514	1区N29		40.0	30.0	0.19	7.72	7.53	8	44													
515	1区N29		27.0	19.0	0.12	7.72	7.60															S052に付属
516	1区N29		45.0	23.0	0.28	7.71	7.43															S052に付属
517	1区N29		27.0	23.0	0.32	7.73	7.41															S052に付属
518	1区O29	2下	28.0	25.0	0.22	7.75	7.53															S052に付属し調査区外にのびる。
519	1区O28	2上～2黒	30.0	28.0	0.27	7.74	7.47	2	25													
520	1区N28	2上砂	44.0	22.0	0.20	7.75	7.55															調査区外にのびる。
521	1区N28	2上	36.0	19.0	0.41	7.75	7.34	6	44													調査区外にのびる。
522	1区N28	2上灰炭橙	37.0	32.0	0.21	7.74	7.52	3	14						42							
523	1区N28	2上～2黒	31.0	25.0	0.33	7.70	7.37															樹痕の可能性あり。
524	1区N28	2上～2黒	40.0	21.0	0.23	7.73	7.51															
526	1区O27	2上砂	23.0	23.0	0.12	7.71	7.59															
527	1区O27	2上	37.0	17.0	0.30	7.67	7.36															調査区外にのびる。
528	1区N27	2黒	26.0	23.0	0.17	7.77	7.60	1	7	1	53											

Tab.23　西部ガス跡地ピット観察表(16)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
529	1区N27	2黒	26.0	22.0	0.21	7.79	7.58	1	7													
530	1区N27	2上炭砂ブ	47.0	29.0	0.12	7.78	7.65	5	50					1	8							
531	1区N27	2上～2黒	35.0	22.0	0.36	7.74	7.37															
532	1区N27	2上炭	23.0	22.0	0.11	7.74	7.63	4	33	1	3											
533	1区N27	2上炭橙	37.0	37.0	0.28	7.74	7.46															P318、572、324、293、438-1、417、540、539、(497)と共にピット列の可能性あり
534	1区N27	2黒	20.0	20.0	0.19	7.74	7.55	4	20					1	7							
535	1区N27	2上～2黒	20.0	20.0	0.21	7.74	7.53															
536	1区N27	2黒～3層	31.0	(16.0)	0.23	7.74	7.51															調査区外にのびる。
537	1区N27		27.0	24.0	0.13	7.78	7.65															
538	1区N27	2不明	23.0	19.0	0.13	7.77	7.64															P318、533、572、324、293、438-1、417、540と共にピット列になる可能性あり。
539	1区N27	2上～2黒	26.0	23.0	0.11	7.78	7.66	3	9													P318、533、572、324、293、438-1、417、540、(497)と共にピット列の可能性あり。
540	1区O27	2黒b	24.0	22.0	0.16	7.72	7.56	1	568													下場なし。P318、533、572、572、324、293、438-1、417、539、(497)と共にピット列の可能性あり。
541	1区O27	2黒	24.0	23.0	0.33	7.74	7.41															
542	1区O27	2上～2黒	24.0	24.0	0.22	7.75	7.53	5	15													
543	1区O27	3層	36.0	30.0	0.35	7.73	7.37															
544	1区O24	2上砂	47.0	45.0	0.70	7.72	7.02	9	283	1	55											
545	1区O24	2上	49.0	47.0	0.36	7.74	7.38	3	32													
547	1区O26	2～2上	24.0	23.0	0.09	7.75	7.66	6	29													
548	1区O26	3層	36.0	30.0	0.17	7.77	7.60															
550	1区O27	3層	36.0	32.0	0.12	7.75	7.63															
551	1区O26・27	2上	30.0	24.0	0.28	7.74	7.46															
552	1区N26	2黒炭	36.0	30.0	0.32	7.79	7.47	15	77													調査区外にのびる。
553	1区N26	2上砂	33.0	32.0	0.19	7.80	7.61															
554	1区N26	2上砂ブ	24.0	20.0	0.18	7.81	7.64	2	20													
568	1区O26	2上～2黒	21.0	17.0	0.18	7.77	7.59	1	50													P342、305、410、338、421と共にピット列になる可能性あり。
569	1区N26	2上橙	29.0	22.0	0.23	7.78	7.55															P407-3、400-1、424、583、438-2、103、569と共にピット列の可能性あり。
570	1区N26	2上砂ブ炭	41.0	27.0	0.08	7.78	7.70	4	17													
571	1区O26	2上～2黒炭	24.0	24.0	0.22	7.77	7.54															
572	1区O26	2上砂ブ炭	29.0	29.0	0.25	7.78	7.53															P318、533、324、293、438-1、417、540、539、(497)と共にピット列の可能性あり。
574	1区N26・27	2黒	35.0	(25.0)	0.47	7.80	7.33															
575	1区N26	2黒炭	33.0	20.0	0.18	7.72	7.54	20	167			1	7			2	22					P307に切られ、調査区外にのびる。
576	1区O26・27	2黒	34.0	28.0	0.19	7.76	7.58															
577	1区N・O26	2黒	21.0	20.0	0.11	7.80	7.69															

Tab.24　西部ガス跡地ピット観察表(17)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
578	1区N・O26	2上砂炭	22.0	18.0	0.18	7.77	7.59															
579	1区N26	2黒？	27.0	23.0	0.29	7.77	7.48	6	30													
580	1区N26	2層	26.0	22.0	0.19	7.77	7.58															
581	1区N・O26	2黒	29.0	25.0	0.13	7.74	7.62	17	59													
582	1区O26	2～3層	25.0	21.0	0.14	7.78	7.64															
583	1区O26	2上炭橙砂	34.0	(21.0)		7.79	—	1	8													P407-3、400-1、424、438-2、103、569と共にピット列の可能性あり。
584	1区O25		40.0		0.44	7.76	7.32	3	21													
585	1区O25	2上炭橙砂	38.0	38.0	0.35	7.73	7.38	30	135					1	2	1	5					調査区外にのびる。
586	1区O25	3層	43.0	38.0	0.43	7.81	7.38	2	10	1	40											
587	1区O25	2上炭橙砂ブ	36.0	31.0	0.25	7.77	7.52	6	31							1	34					
588	1区O25	2黒～3層	56.0	42.0	0.44	7.77	7.33	12	111													
589	1区O25	2黒	43.0	34.0	0.40	7.80	7.40															
590	1区N25	2上c	26.0	(12.0)	0.09	7.82	7.73															調査区外にのびる。
591	1区N・O25	2黒？～3層	30.0	29.0	0.40	7.90	7.51	7	36													
592	1区O25	2黒	32.0	29.0	0.13	7.72	7.59															
594	1区O25	2黒～3	45.0	31.0	0.16	7.76	7.60															
595	1区O25	2黒炭	26.0	18.0	0.56	7.76	7.20	24	130	2	6											調査区外にのびる。
596-1	1区O25	2上～2黒	29.0	20.0		7.78	—	8	134													下場なし。根石有。
596-2	1区O25	2上砂	31.0	22.0	0.25	7.78	7.53															
597	1区O26	2上砂ブ	34.0	20.0	0.20	7.80	7.60															
598	1区O25	2黒	26.0	24.0	0.22	7.74	7.52	4	73													
599	1区O25	2黒炭	36.0	34.0	0.26	7.75	7.49															
600	1区O25	2黒炭橙砂	24.0	22.0	0.34	7.77	7.42		40													
601	1区O25	2黒灰黄	25.0	20.0	0.40	7.75	7.35	6	18													
602	1区O25	2層	26.0	20.0	0.15	7.75	7.60															
603	1区O25	2黒	30.0	22.0	0.58	7.87	7.29	9	69													
604	1区N25	2上～黒炭	29.0	24.0	0.28	7.81	7.53	1	1													
605	1区O25	2黒	30.0	(21.0)	0.16	7.74	7.58			2	27											
606	1区O29	2黒	44.0	39.0	0.30	7.79	7.49	3	14													
607	1区O24																					位置確認できず
608	1区O24	3層	30.0	38.0	0.64	7.65	7.02															
609	1区N29	3b	36.0	20.0	0.20	7.52	7.32															調査区外にのびる。
610	1区N29	2黒																				図化漏れ

Tab.25　西部ガス跡地ピット観察表(18)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
611	1区N29	2黒	25.0	25.0	0.15	7.64	7.49	1	7													
612	1区N29		80.0	75.0	0.65	7.64	6.99			1	9											S081　柱痕あり。
613	1区N29	2層	30.0	29.0	0.42	7.61	7.19															
614	1区N・O29	2層	22.0	21.0	0.14	7.63	7.49	8	28													
615	1区N・O29	2上砂ブ	25.0	23.0	0.16	7.66	7.50	1	10													
617-1	1区O28	3層4ブ多	47.0	46.0	0.36	7.50	7.14	2	11													
618	1区O27	2黒	33.0	25.0	0.37	7.63	7.26	25	111													
619	1区O27	2黒	30.0	29.0	0.35	7.73	7.38															
620	1区N・O30	2層	27.0	27.0	0.60	7.61	7.01	4	46	1	20											断面図取りもれ。根石あり。
621	1区N30	2層	35.0	32.0	0.36	7.64	7.28	3	18	3	21											
622	1区O29	2層	22.0	20.0	0.14	7.64	7.49	5	39													
623	1区O30	2～3層	30.0	29.0	0.08	7.60	7.52	1	3	1	14											
624	1区O29・30	2上	40.0	19.0		7.56	―															破線で上場のみ記載。下場なし。
625	1区N30		83.0	76.0	0.65	7.65	7.00															S081　柱痕有り。
626	1区O27・26	2上砂	29.0	27.0	0.23	7.74	7.51															根石有。
627	1区N29	2層	39.0	33.0	0.16	7.64	7.47	1	14													根石有。調査区外にのびる。
628	1区N29	2黒	24.0	24.0	0.11	7.62	7.51															
629	1区O27	3層	39.0	38.0	0.30	7.70	7.40	2	10	1	4											
630	1区N29・30		83.0	90.0	0.45	7.51	7.06	1	17													
631	1区N29	2上橙	30.0	26.0	0.18	7.73	7.55	3	55	1	14											
632	1区O・N29	3下か？	52.0	44.0	0.19	7.63	7.43															
633	1区O29	2層	28.0	28.0		7.55	―															掘り過ぎのため下場なし。根石あり。
634	1区O30		43.0	35.0	0.34	7.61	7.28															調査区外にのびる。
635	1区N29		100.0	88.0	0.20	7.47	7.27															S081　礎石柱痕あり。
636	1区O27	3層	40.0	37.0	0.27	7.68	7.40	1	7													
651	1区南M35	2B黒砂	45.0	(35.0)	0.38	7.88	7.50	38	133	1	9					6	60					調査区外にのびる。
652	1区南N34	2B黒	37.0	32.0	0.48	7.85	7.37	33	197	1	10			1	6			1	3			
653	1区南N34	2上4Aブ	30.0	21.0	0.44	7.87	7.43	9	59													
654	1区南N33	2B-3	30.0	30.0	0.26	7.84	7.58															
655	1区南N33	2B	38.0	25.5	0.33	7.86	7.53	1	22													
656	1区南N35	2B焼・カ	30.0	24.0	0.47	7.86	7.39	6	27	3	17					1	8					
657	1区南N34・35	2B焼多・カ	35.0	29.0	0.39	7.84	7.45	5	23													
658	1区南N33	3層	(60.0)	(44.0)	0.52	7.65	7.14	5	30	1	9											

Tab.26　西部ガス跡地ピット観察表(19)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
659	1区南N33	3層	69.0	(45.0)	0.56	7.64	7.09	23	137	4	42											調査区外にのびる。
660	1区南N33	3層焼・カ	61.0	(43.0)	0.34	7.60	7.26	11	119	2	36											調査区外にのびる。
661	1区南N33	2B	50.0	50.0	0.31	7.61	7.30	20	82	4	74			1	6							
662	1区南N34	3層	53.0	(45.0)	0.33	7.64	7.31	3	18													
663	1区南N34	3層	78.0	77.0	0.56	7.62	7.05	5	125	1	22											
664	1区南N34	2B	35.0	(20.0)	0.47	7.62	7.15	2	15													
665	1区南N34	3層	58.0	46.0	0.52	7.63	7.11	17	133													
666	1区南N34	3層焼・カ	45.0	(21.0)	0.28	7.63	7.35	5	30													
667	1区南N34	3層中央やや黒	78.0	71.0	0.54	7.66	7.12	21	328	1	88			1	6		233					
668	1区南N33	3層	(55.0)	(45.0)	0.38	7.65	7.27	30	234	6	39			2	8					1	6	
669	1区南N33	3層	39.0	(16.0)	0.32	7.65	7.33	5	61													調査区外にのびる。
670	1区南N32	2B-3層	32.0	—	0.10	7.80	7.70	19	107	3	38					1	40					
671	1区南N32	3層																				位置確認できず
672	1区南N34	3層	37.0	(25.0)	0.27	7.62	7.36															
673	1区南N34	3層	56.0	47.0	0.40	7.61	7.21	1	83													
674	1区南N35	2B	49.0	28.0	0.52	7.60	7.07	11	233	1	32											
675	1区南N35	3層	42.0	37.0	0.42	7.58	7.16	6	53													
676	1区南N33	3層	36.0	(31.0)	0.30	7.64	7.34															調査区外にのびる。
677	1区南N32	3層	42.0	40.0	0.34	7.63	7.29	22	110	4	18											
678	1区南N34	3層																				位置確認できず
679	1区南N32・33	3層	62.0	53.0	0.55	7.64	7.09	17	68	3	30											
680	1区南N34	3層	(43.0)	(35.0)	0.27	7.53	7.26															
681	1区南N34	3層	53.0	(33.0)	0.47	7.59	7.12															調査区外にのびる
682	1区南N34	3層中心焼土	(55.0)	53.0	0.42	7.64	7.22															調査区外にのびる。
683	1区南N32	3層中心焼土	77.0	75.0	0.53	7.64	7.11	25	144											1	7	調査区外にのびる。
684	1区南N31	3層中心焼土																				位置確認できず
685	1区南N32	3層中心焼土	54.0	52.0	0.56	7.63	7.07	13	163	8	55											
686	1区南N32	3層カーボン・焼土	58.0	53.0	0.42	7.63	7.21	27	365													
687	1区南N32	3層																				位置確認できず
688	1区南N32	3層	53.0	42.0	0.32	7.60	7.28	22	127	2	19			1	5		204					
689	1区南N32	2B黒																				位置確認できず
690	1区南N33	3層																				位置確認できず
691	1区南N32	3層カーボン・焼土	45.0	44.0	0.37	7.57	7.20	40	481	8	129					1	164					調査区外にのびる。

Tab.27　西部ガス跡地ピット観察表(20)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
692	1区南N33	3層カーボン	51.0	45.0	0.43	7.66	7.22	10	74	1	5											
695	1区南N35	2B-3	70.0	53.0	0.32	7.42	7.09	4	19	1	22											
696	1区南N35	おそらく3層																				位置確認できず
697	1区南N32	3層	52.0	50.0	0.38	7.58	7.20	22	155													
698	1区南N32	3層						2	14					1	3							
700	1区南M35	2B	31.0	(20.0)	0.16	7.59	7.43															調査区外にのびる。
701	1区南M35	3層	37.0	(19.0)	0.31	7.60	7.29															調査区外にのびる。
704								29	162	3	33											欠番　P445と同一
705	1区南N34	2B	38.0	31.0	0.43	7.86	7.43	14	59	1	9											
707	1区南N34	2B	45.0	36.0	0.55	7.85	7.30	24	111	4	49	1	2									
708	1区南N34	2B	27.0	27.0	0.58	7.96	7.37	12	361	1	23			1	22							調査区外にのびる。石も入るが遺物も多い。根石ではないかもしれない。
709	1区南N34	2B	26.0	25.0	0.57	7.90	7.32	9	91	1	21											
710	1区南N34	2B	(38.0)	(10.0)	0.60	7.80	7.20	12	100	2	9											調査区外にのびる。
711																						位置確認できず
712	1区南N34	2B	42.0	(21.0)	0.61	7.85	7.24	10	208							1	272					調査区外にのびる。
713	1区南N34	2B	35.0	(23.0)	0.37	7.84	7.47	5	48													調査区外にのびる。
714(北)	1区南N34	2B	32.0	29.0	0.30	7.84	7.54	3	110													
714(南)	1区南N34		38.0	33.0	0.52	7.79	7.27	16	66	2	45			1	4							
715	1区南N34	2B	42.0	35.0		7.36	—	32	674	1	8			1	5							P739と同一
716	1区南N34	2B	70.0	59.0	0.24	7.86	7.63	16	133	6	87			1	9							
717	1区南N34	2B	28.0	26.0	0.54	7.86	7.32	11	68	1	6			1	8	1	9					
718	1区南N34	2B	26.0	21.0	0.29	7.83	7.53															
719	1区南N34	2B	28.0	23.0	0.28	7.81	7.53															
720	1区南N34	2B	38.0	30.0	0.35	7.81	7.46	3	47													
721	1区南N34	2B	32.0	22.0	0.53	7.82	7.29	7	41	1	5											
722	1区南N34	2B	99.0	55.0	0.50	7.55	7.05	42	418	9	130											
724	1区南N34	2B	104.0	76.0	0.76	7.81	7.04	42	470	2	90			1	7	2	104					中世礎石あり。規模が特に大きい。
725	1区南N34	2B	45.0	(20.0)	0.55	7.80	7.25	28	334			1	5									調査区外にのびる
726	1区南N34	不明	55.0	48.0	0.78	7.87	7.09	2	11													
728	1区南N34	2B	33.0	32.0	0.46	7.83	7.37															
729	1区南N34	3層	39.0	36.0	0.46	7.56	7.10			11	53											
731	1区南N34		33.0	(35.0)	0.39	7.58	7.20	10	70	1	3											調査区外にのびる
732	1区南N34	3層	62.0	54.0	0.38	7.59	7.21	8	58	2	8									1	13	

Tab.28　西部ガス跡地ピット観察表(21)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(m)	上端(m)	下端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
								数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
733	1区南拡張部	3層						2	11													
734	1区南拡張部		26.0	(20.0)	0.18	7.57	7.40	1	5													調査区外にのびる。
735	1区南拡張部	3層	36.0	(13.0)	0.24	7.57	7.33															調査区外にのびる。
738	1区南拡張部	3層	53.0	(20.0)	0.37	7.54	7.17															調査区外にのびる。
739	1区南拡張部	3層	55.0	27.0	0.26	7.56	7.30	18	82	2	29	1	3									調査区外にのびる。礎石？あり。
740	2区O20	3層	(38.0)	(21.0)		7.72	―															下場なし調査区外にのびる。
741	1区北O23		(25.5)	(13.0)		7.77	―															調査区外にのびる
742	1区O25		34.0	―	0.18	7.72	7.54															調査区外にのびる。(P575の重複した一つを変更)
743	1区O24		40.0	―	0.49	8.04	7.55															調査区外にのびる。(P142の重複した一つを変更)
744	1区O25		70.0	―	0.44	7.87	7.43															(P249の重複した一つを変更)
745	1区南拡張部		79.0	44.0	0.42	7.54	7.12															(P715とP704をあわせたP712を変更)
746	1区南N35		30.0	27.0	0.49	7.82	7.33															(P387の重複した一つを変更)
747	1区O25		33.0	32.0	0.14	7.64	7.51															(P499の重複した一つを変更)
748	1区O25		46.0	37.0	0.46	7.79	7.33															(P483の重複した一つを変更)
749	1区N34		34.0	23.0	0.58	7.66	7.07															
750	1区N33		43.0	38.0	0.59	7.64	7.04															
751	1区N33		61.0	50.0	0.23	7.56	7.34															
752	1区N33		26.0	24.0	0.30	7.66	7.36															

2．遺物と観察表

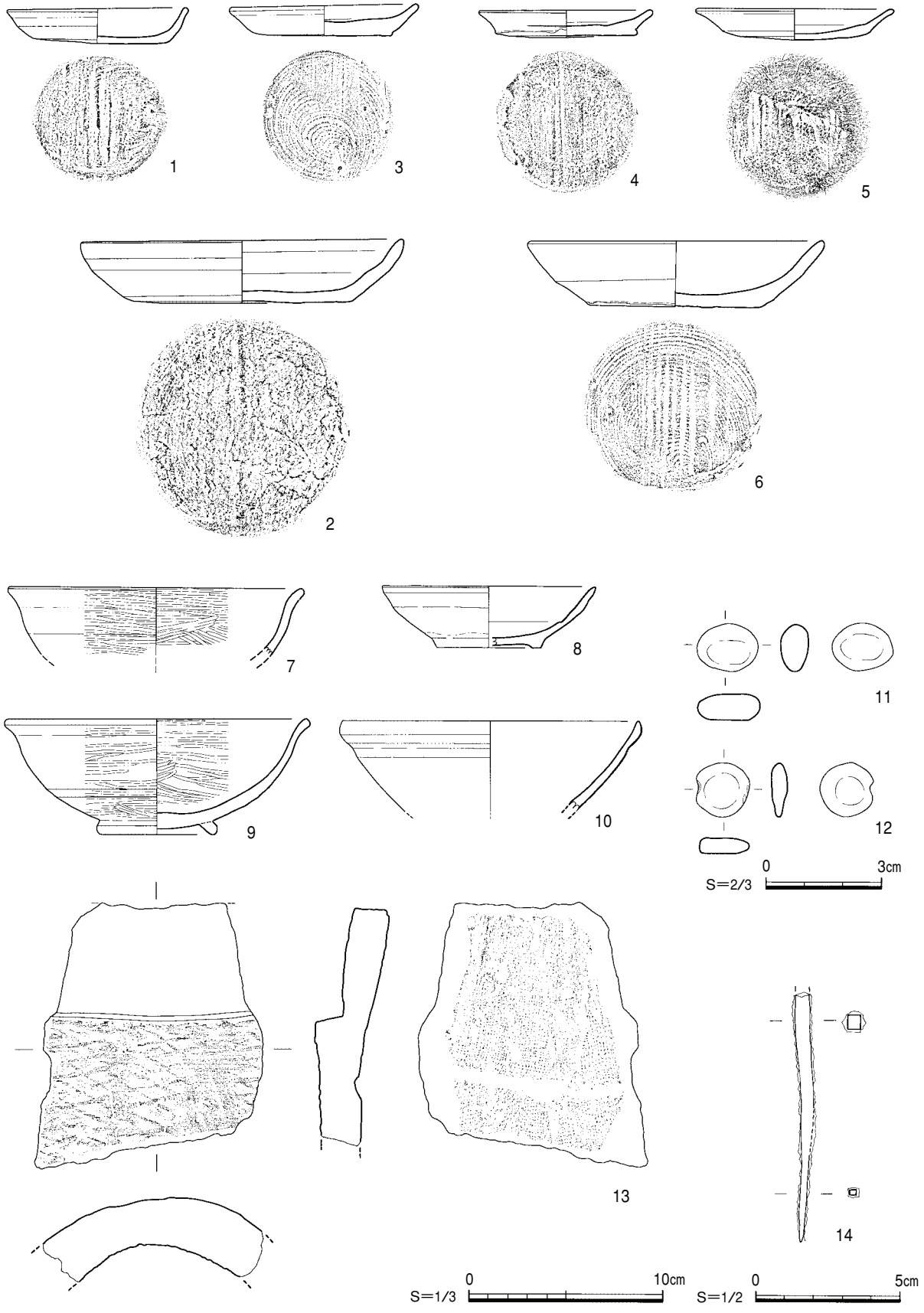


Fig.14　S001・002出土遺物実測図

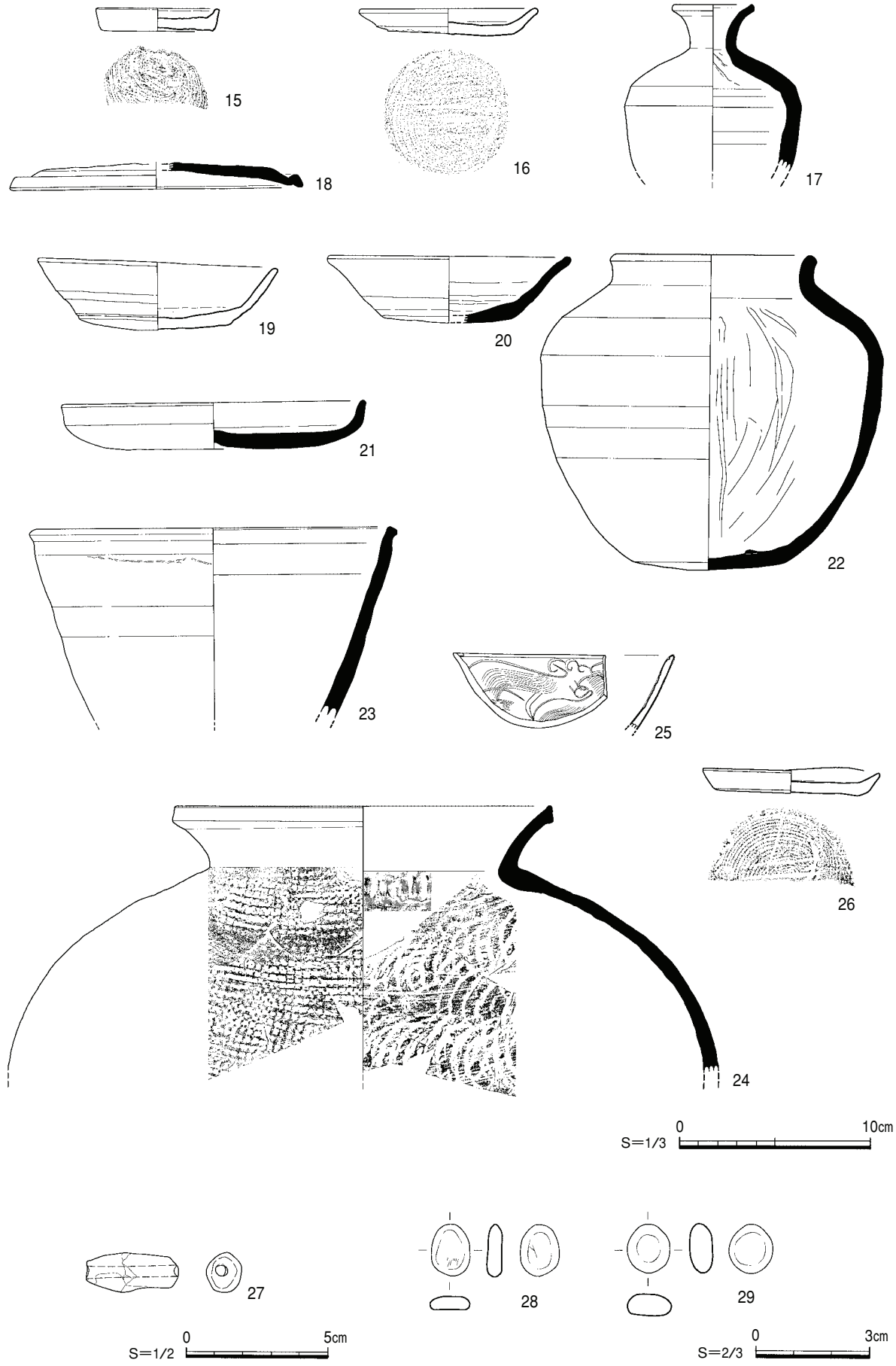


Fig.15　S003・004・006（1）・007出土遺物実測図

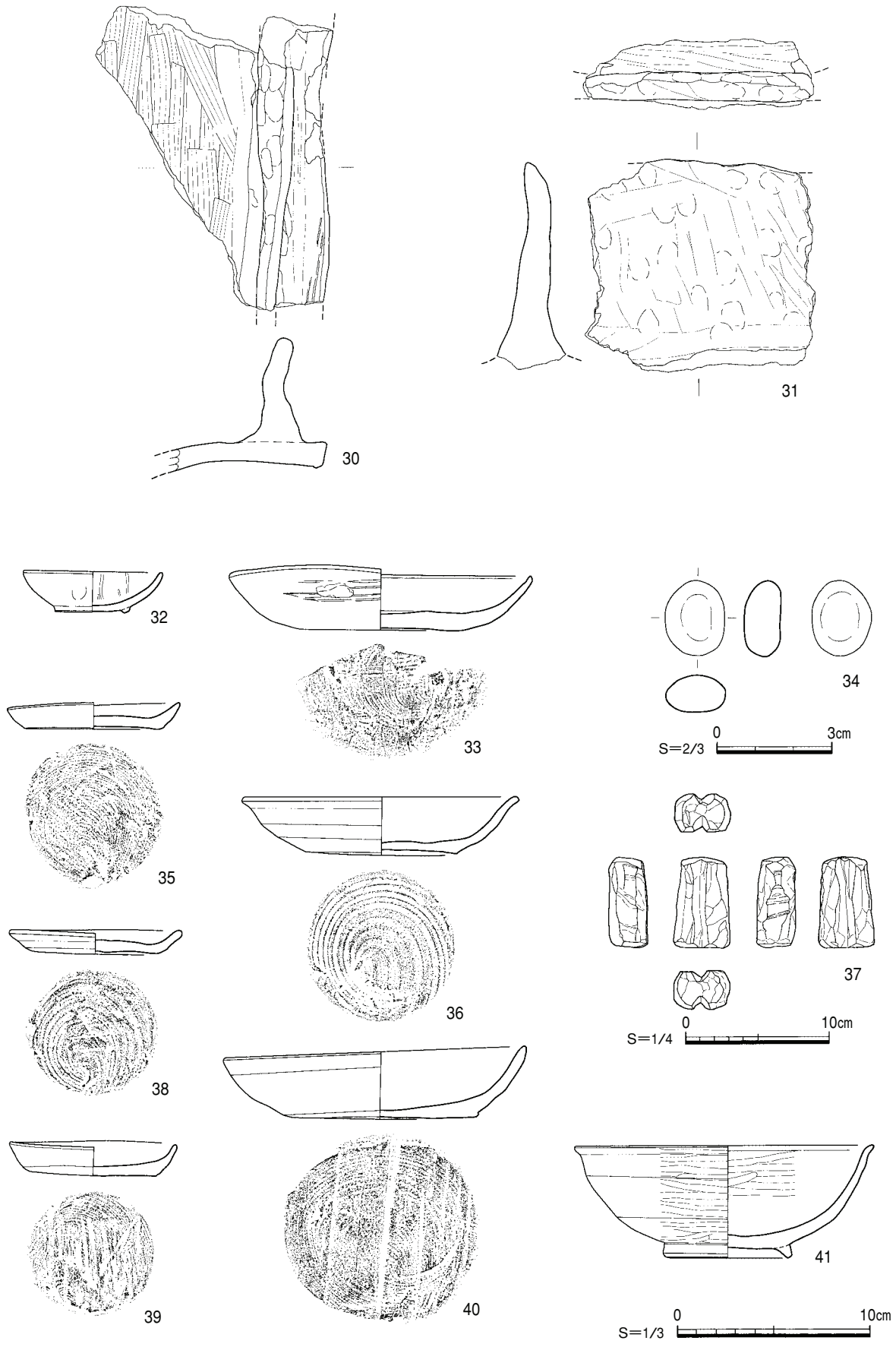


Fig.16　S006（2）・008・009・011出土遺物実測図

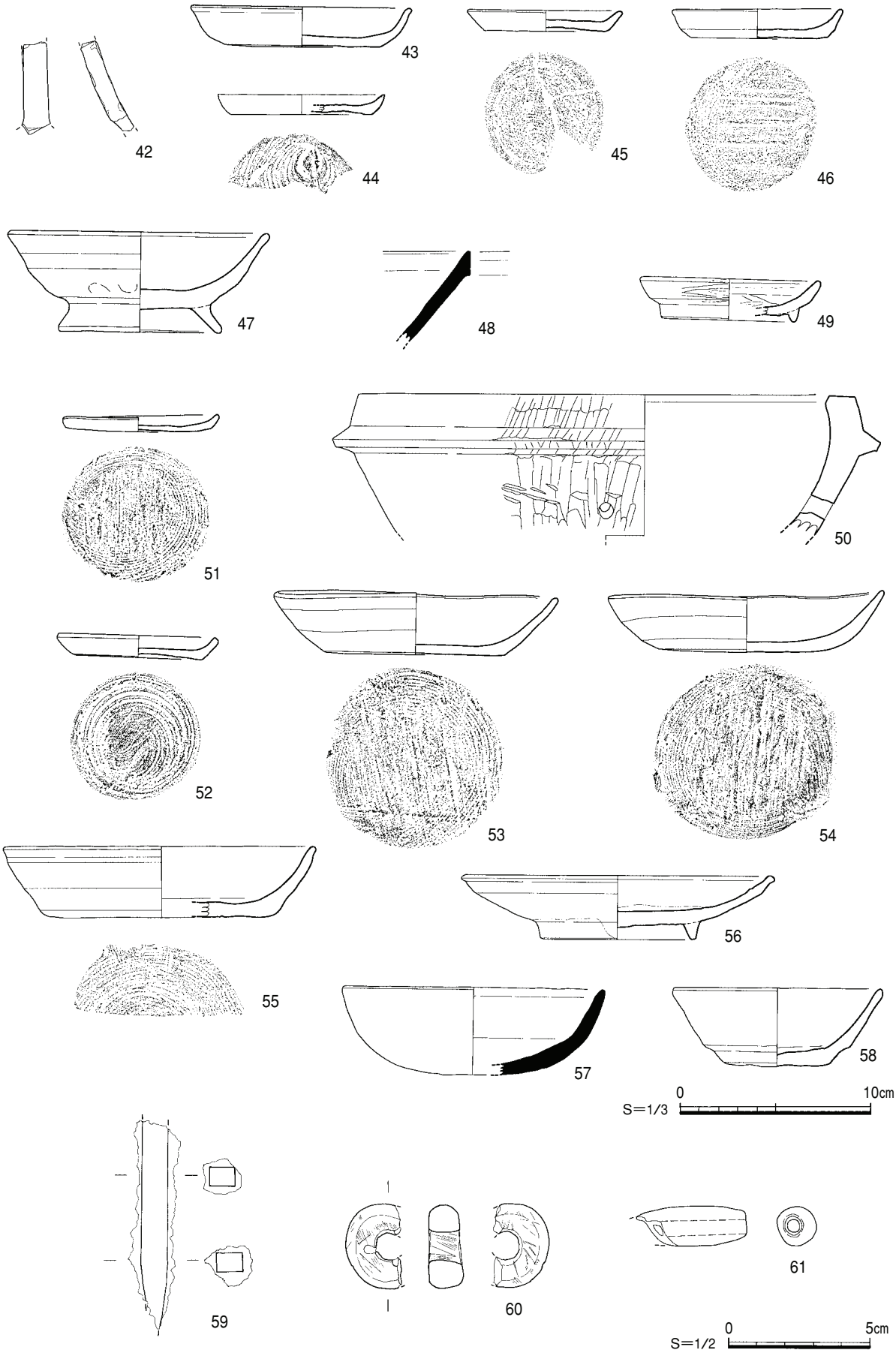


Fig.17　S013・023・027・035・039・049・050・060・061・063出土遺物実測図

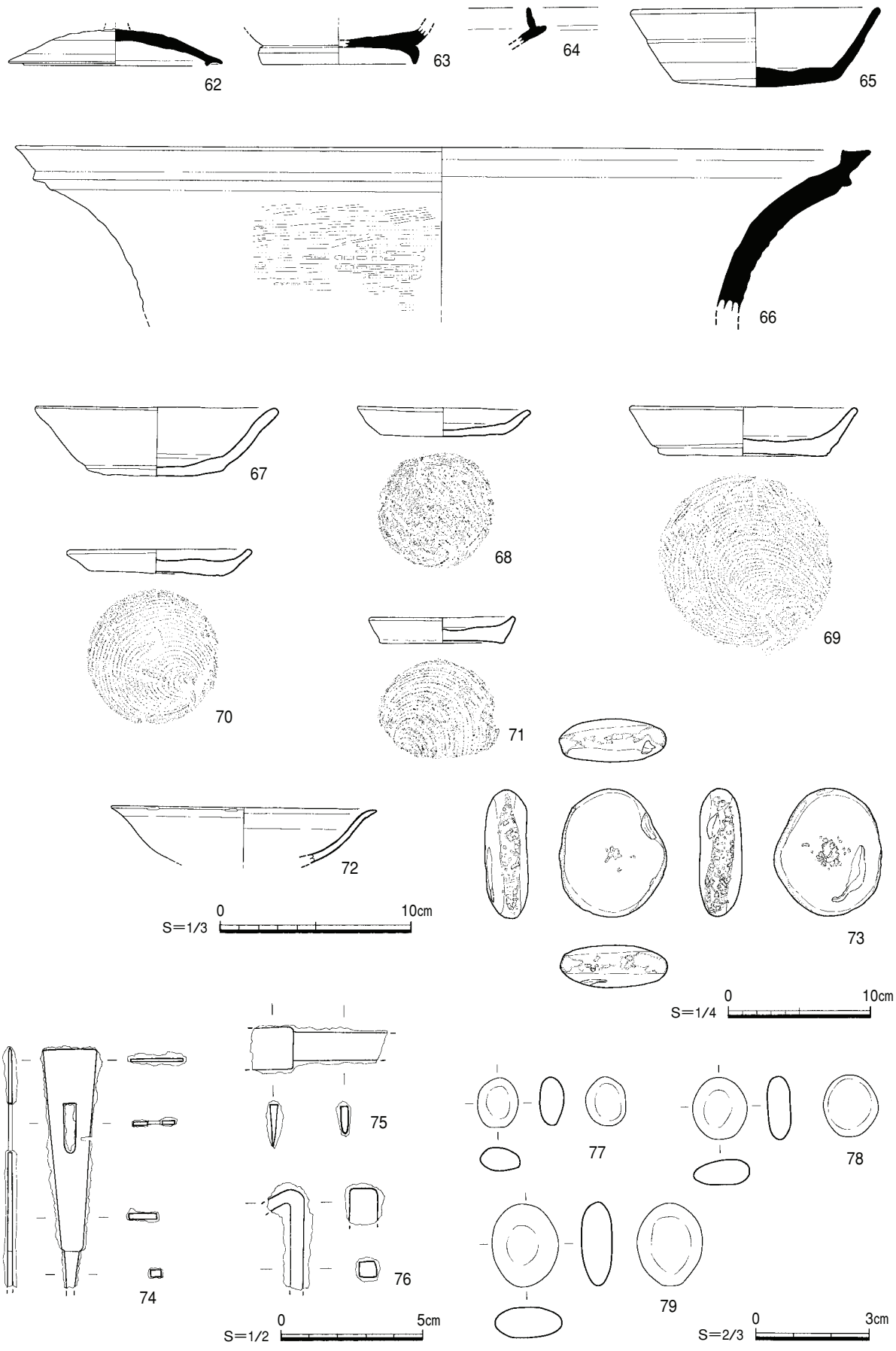


Fig.18　S062・063・064・065・067・069・073・080・ピット（1）出土遺物実測図

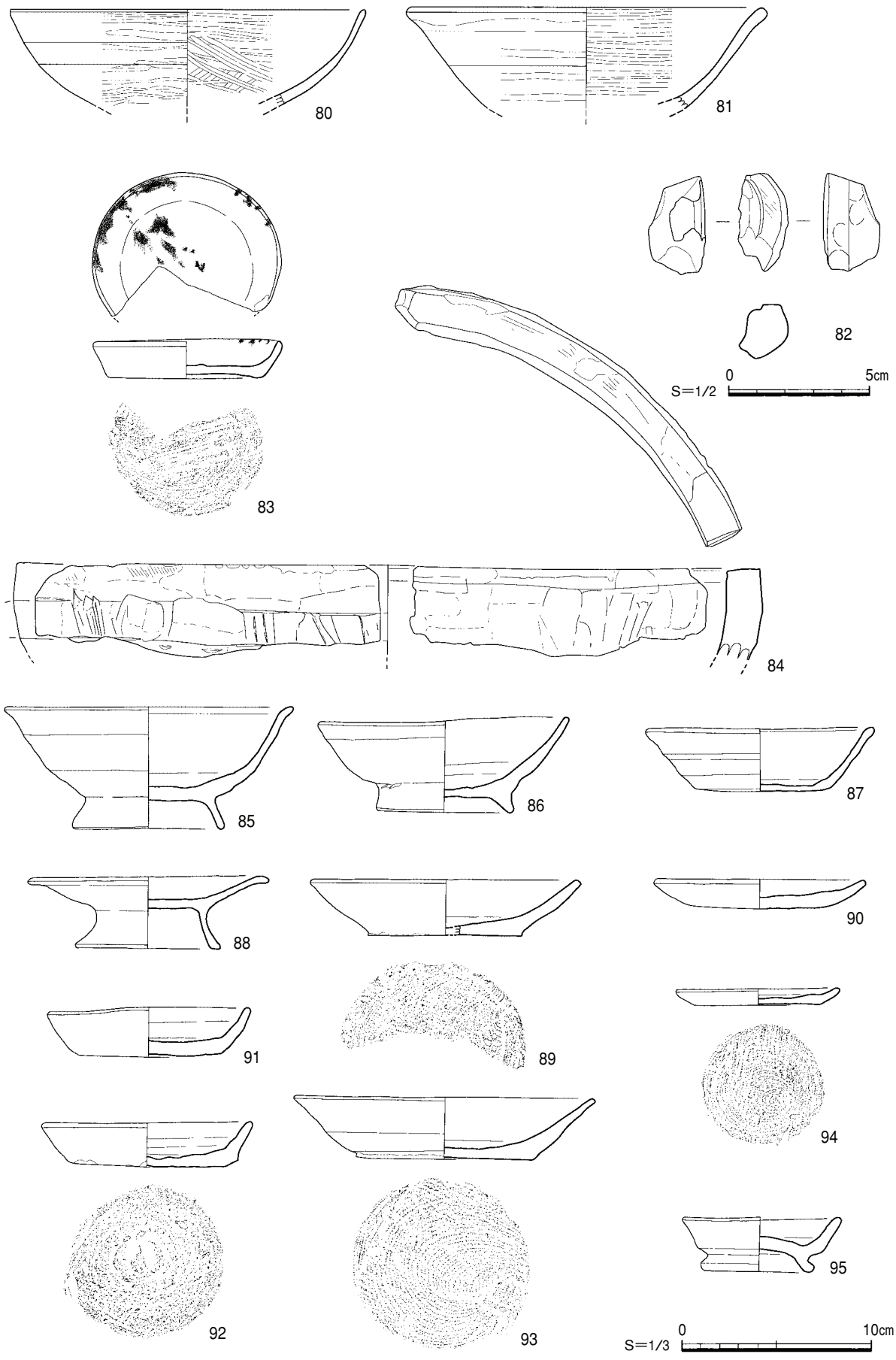


Fig.19　ピット（2）出土遺物実測図

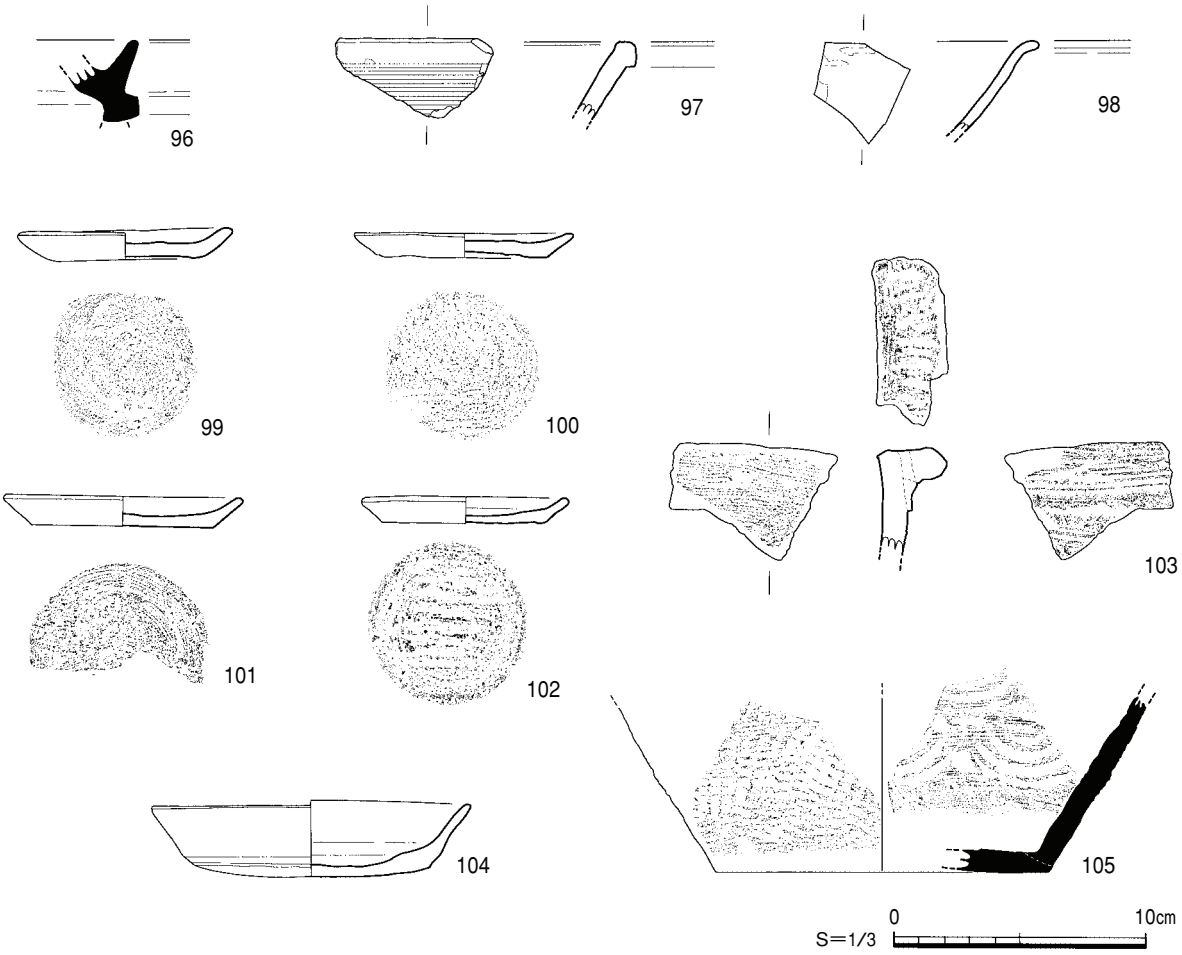


Fig.20　ピット（3）・包含層（1）出土遺物実測図

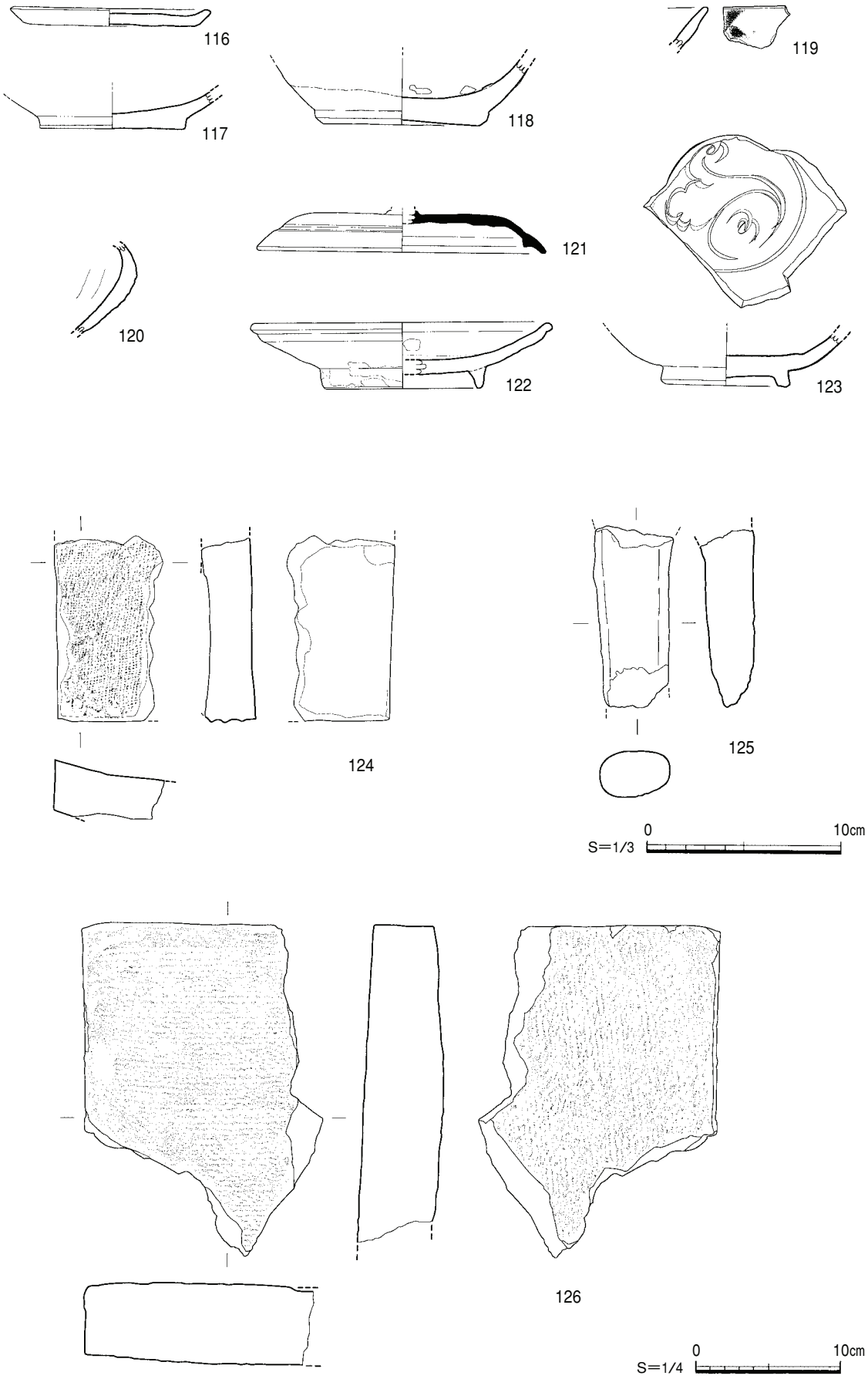


Fig.21　包含層（2）出土遺物実測図

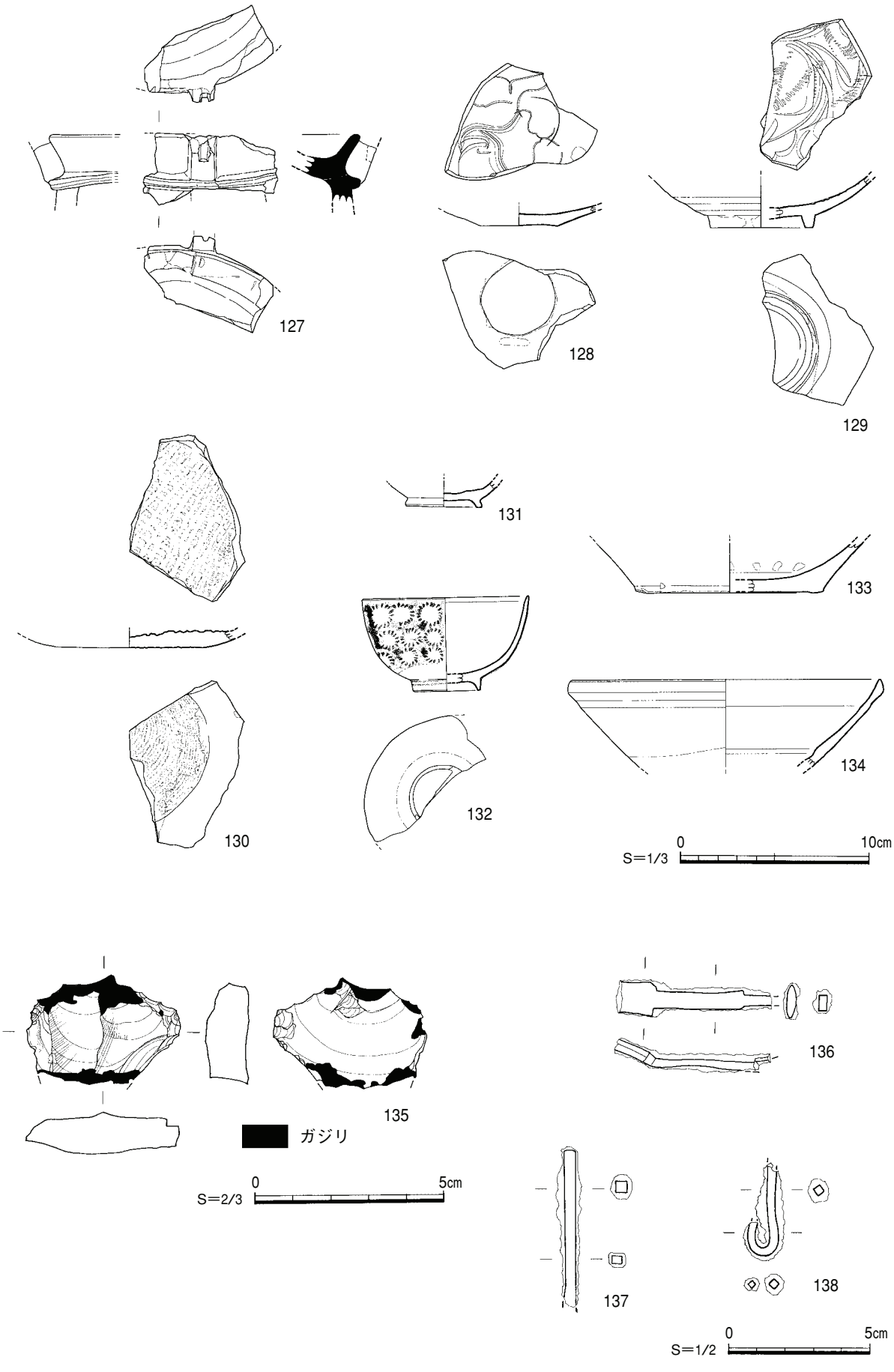
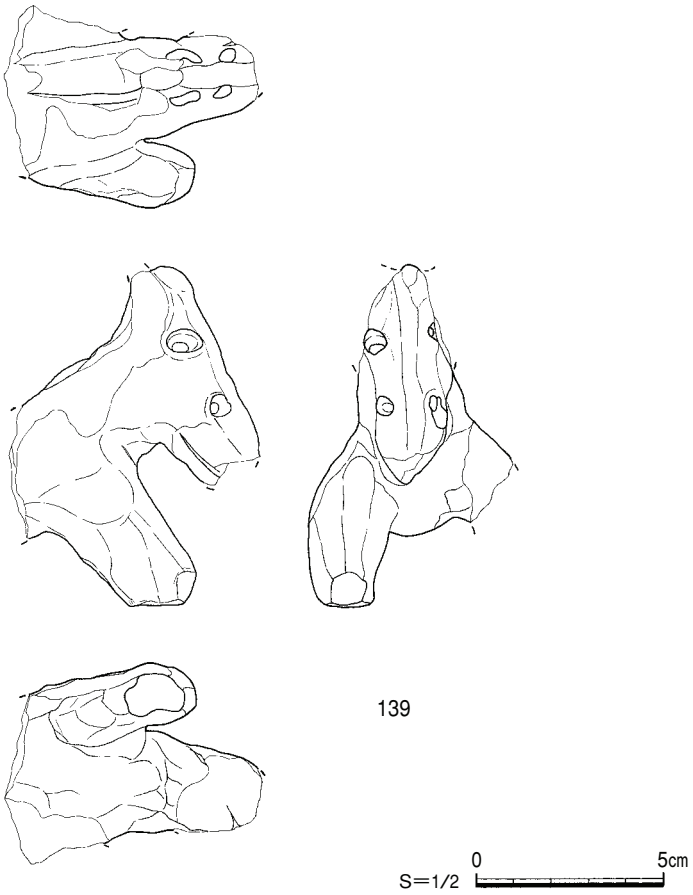
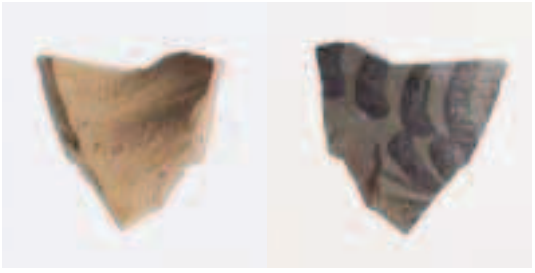
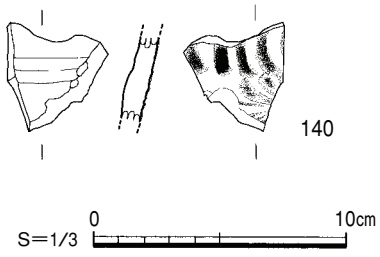
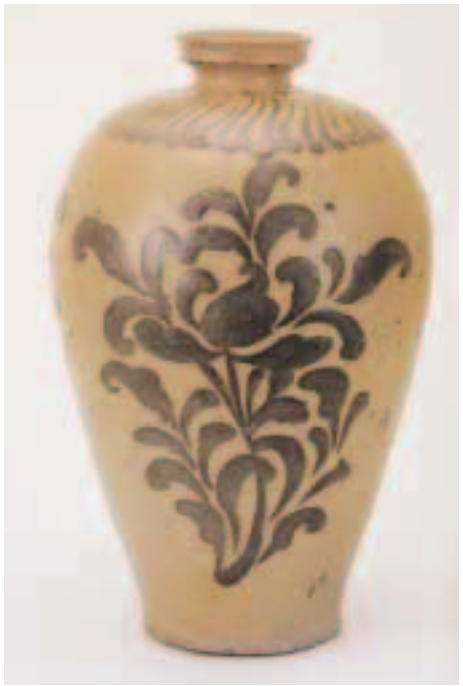


Fig.22　包含層（3）出土遺物実測図









青磁鐵繪牡丹文梅瓶
（莞島海底遺物報告書1985より）

Fig.23　包含層（4）出土遺物実測図

Tab.29　西部ガス跡地土器・陶磁器類観察表(1)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
14	1	土師器	小皿	S001	2層		9.2	7.1	1.9		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石、石英、赤褐色粒	良	完形	
14	2	土師器	杯	S001		No.2	16.5	11.0～11.2	3.3		回転ナデ、ナデ、赤彩？	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石、石英	良		赤彩？細切り径から6～7期
14	3	土師器	小皿	S002	2層		9.5	7.0	1.7		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい褐 7.5YR5/4	長石、角閃石	良	完形	
14	4	土師器	小皿	S002	3層	No.4	8.8	7.2	1.4		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り後板状圧痕	灰黄褐 10YR4/2	暗灰黄 2.5Y4/2	長石、石英	良	完形	
14	5	土師器	小皿	S002	2層	No.11	10.0	6.7	1.6		回転ナデ(粘土塊付着有)、ナデ	回転ナデ(粘土塊付着有)、ナデ、切り離し技法不明後板状圧痕	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	長石、石英	良	完形	
14	6	土師器	杯	S002	2層	No.14	15.1	9.8	3.6		回転ナデ	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石、石英、赤褐色粒、黒色砂	良	完形	5.6期
14	7	黒色土器B	椀	S002	2層		(15.0)		3.5		ミガキ、黒色	ミガキ、黒色	黒 N1.5/	黒 N1.5/	長石、石英、角閃石？	良	口縁1/8	
14	8	白磁	皿	S002 断面1		O-18 一括	(11.0)	(5.4)	3.2	0.2	回転ヘラケズリ後施釉	回転ヘラケズリ後施釉、釉どまりあり	灰白 5Y7/2(釉)	灰白 5Y8/1(生地)	精製された胎土、黒色粒子	良	口縁1/6、底部1/2	皿Ⅱ-1a類
14	9	土師器	椀	S002	埋3層下～30cm		(15.5)	6.0	6.0		回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR6/3	黒褐 10YR3/1	長石、石英、赤褐色粒、角閃石	良	口縁1/12 底部1/1	研磨土師器椀
14	10	白磁	椀	S002	2層		(15.2)		4.2～		横ナデ、施釉	横ナデ後ヘラケズリ、施釉	灰白 2.5GY8/1	灰白N8/1	灰色～褐色の小さな粒やや多い。隙間も若干目立つ	良	1/8	Ⅳ類(Ⅳ-C類　扁平な玉縁) C期11C後～12C前
15	15	土師器	小皿	S003	2層?		(6.2)	(5.9)	1.2		不定方向ナデ	横ナデ、糸切り、板状圧痕	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/4	砂は少ない。暗褐色粒含む	良	1/2	持つと軽く感じる。
15	16	土師器	小皿	S004			9.1	6.4～6.6	1.4		口縁ナデ後一方向ナデ	横方向ナデ、回転？ナデ、糸切り(板目状圧痕)	橙 2.5YR7/8	橙 2.5YR7/8	細、粗砂の白色砂が入るが少ない。赤褐色の粒が入る。断：浅黄橙7.5YR8/4	良	底100% 口縁1/6	
15	17	須恵器	小型壷	S006			(4.1)		(8.8)		回転ナデ、シボリ痕	回転ナデ	灰 N6/	灰 N6/	長石、石英、黒色粒	良	口縁1/12 頸1/1胴1/4底なし	まだらに自然釉
15	18	須恵器	蓋	S006		No.12	(15.2)		1.4～		横ナデ	横ナデ、ナデ、ヘラ切り	暗灰 N3/	暗青灰 5B4/1	石英、小石	良	1/4	中世須恵器のような焼き。宇城産　9C
15	19	土師器	杯	S006		No.12	(12.6)	(8.0)	3.6		横ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ナデ？	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	雲母、石英、褐色粒、黒曜石、小石	良	3/4	赤彩か？9C前葉
15	20	須恵器	杯	S006		No.8	(12.6)	(7.0)	(推定) 3.5～3.6		回転ナデ後ナデ	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	灰7.5Y6/1～灰N5/	灰7.5Y6/1～灰N5/	微細な雲母多い。石英、長石	良	1/3～1/4	古代の須恵器、9C代。内側から外側へやや押し出し気味
15	21	須恵器	盤	S006			(16.6)	(15.6)	2.6		横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、ヘラ切り、(部分的に)ナデ・ケズリ	灰 N5/	灰 N5/	黒曜石、黒色粒、石英、小石	良	1/2	蓋の可能性あり。宇城産？8C
15	22	須恵器	短頸壷	S006	1層		(10.2)	(8.0)	16.6		横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	黄灰 2.5Y5/1	灰 N5/	長石、石英	良	口縁1/2弱 底部1/2強	
15	23	須恵器	広口鉢	S006	1層	No.2.3	(18.5)		10.1～		横方向ナデ	横方向ナデ	灰 N6/～N5/	灰N6/～N5/	細、極ソ砂の白色砂、灰色粒多めに混じる。黒色、白色細レキがある。	良	約5/12	内外面にひだすき状の痕あり。9C
15	24	須恵器	甕	S006		No.6	19.6		(14.0)		横ナデ、当て具痕の地横ナデ	横ナデ、タタキ	にぶい赤褐 2.5Y4/3	灰 5Y6/1	長石、石英	良		自然釉
15	25	龍泉窯系青磁	椀 Ⅰ-3a	S007 O-25	2層		直径16cm		3.9～		回転ナデ後ミガキ？片彫りと櫛目。施釉	回転ナデ後施釉	(釉)オリーブ灰 10Y6/2	(釉)オリーブ灰 10Y6/2	微細な黒色粒と白色粒を多く含む、カオリン質の陶石土。　胎土：灰白5Y7/1	良	口縁部1/6	D期(12C中～後)内面に片彫りで雲文状の文様を施し、空白部を櫛目で埋める。

Tab.30　西部ガス跡地土器・陶磁器類観察表(2)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
15	26	土師器	小皿	S007	2層		9.2	7.1	1.2		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石、赤褐色粒	良	1/2	
16	32	瓦器	椀	S008	2層		(7.1)	3.6	2.1		回転ナデ、ナデ、ミガキ	回転ナデ、ナデ、指頭圧痕	灰白 5Y7/1	灰白 2.5Y8/2	長石、石英	良	口縁1/8 底部1/1	いぶしはないが瓦器らしい焼き。非常に小型
16	33	土師器	杯	S008	2層		(15.8)	(8.0)	2.9～3.4		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、回転糸切り後板状圧痕	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	長石、石英、赤褐色粒	良	1/3	条痕有(糸切り時のものか？)、一部粘土痕付着。とても歪んでいる。
16	35	土師器	小皿	S008	溝	No.2	8.9	6.8	1.4		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石、赤褐色粒	良	1/1少し欠け	
16	36	土師器	杯	S009	1層		14.0～	7.8	3.1		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り	灰黄 2.5Y6/2	黄灰 2.5Y5/1	長石、石英	良	ほぼ完形	
16	38	土師器	小皿	S009	1層		8.6	6.6	1.3		回転ナデ	回転ナデ、ケズリ、回転糸切り後板状圧痕	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、石英、赤褐色粒	良	完形	
16	39	土師器	小皿	S011		No.7	8.6	6.6	1.9		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	長石、石英、赤褐色粒	良	ほぼ完形	
16	40	土師器	杯	S011		No.2	15.4	10.1	4.0		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	長石、石英、赤褐色粒	良	口縁2/3 底部1/1	6-8期
16	41	土師器	椀	S009	3層下		15.4	6.4	5.9		ヘラミガキ、磨耗の為詳細不明	回転ナデ、ヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、石英、角閃石、赤褐色粒、礫が目立つ	良	口縁少し欠け	
17	42	須恵器	円面硯	S013 O-20		清掃			残存高 4.9～	脚幅1.2		回転ナデ後スカシ部を切りとり		赤灰色 2.5YR4/1	石英、長石	良	脚部1本	8C後半？色調は酸化鉄の影響で赤灰色
17	43	土師器	杯	S023	1層		11.4	8.2	2.1		回転ナデ	回転ナデ、糸切り？後ケズリ	灰白 2.5Y8/2	橙 7.5YR7/6	長石、石英、赤褐色粒	良	口縁3/4 底部1/1	焼き白っぽい。第7段階
17	44	土師器	小皿	S023			(8.7)	(7.5)	1.1		横ナデ	横ナデ、糸切り	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	石英、褐色粒、黒く光る石	良	1/3	内面口縁部、沈線状になっているが石か何かを引いたもの
17	45	土師器	小皿	S027			7.9	6.3	1.1		不定方向ナデ	横ナデ、糸切り	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	石英、褐色粒、黒く光る石を含む。やや砂が多い	良	5/6	
17	46	土師器	小皿	S035			8.7	7.2	1.6		横ナデ	横ナデ、糸切り後板状圧痕	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	雲母、赤褐色粒、黒く光る砂を含む。黒～灰色の砂多い	良	完形	口径、底径歪みあり
17	47	土師器	高台付丸底杯	S039			(13.5)		5.4		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、指頭圧痕、横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	長石、石英、角閃石、赤褐色粒	良	2/3	4期高台杯丸底杯
17	48	須恵器	?	S049		N-30	不明				横方向ナデ	粗い横方向ナデ	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	黒色粒、長石	良	破片	東播系須恵器。 第II期2段階(12C末～13C初)
17	49	瓦器	小皿	S049			(9.5)		3.2		ナデ？、ヘラミガキ	ナデ？、ヘラミガキ、高台貼り付け後ナデ	灰 N6/～N5/	灰 N6/～N5/	砂粒はほとんど混じらず、白く細く灰銀色に光るものあり	良	約1/6	高台断面が四角いところがあるがゆがみによるもの。13C以降
17	51	土師器	小皿	S050		No.22	8.1	7.6	1.0		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石、石英、赤褐色粒	良	完形	非常に浅い
17	53	土師器	杯	S050		No.33	14.3～	9.4	3.4		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石、赤褐色粒	良	完形	歪み強め
17	52	土師器	小皿	S050		No.1	8.2	6.6	1.2		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り	にぶい黄橙 10YR7/4	?	長石、赤褐色粒	良	完形	
17	54	土師器	杯	S050		No.33	14.4	9.0	3.3		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後板状圧痕	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石、赤褐色粒	良	完形	
17	55	土師器	杯	S060	2層		(15.9)	(10.4)	3.8		横ナデ	横ナデ、糸切り	にぶい橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	石英、黒曜石？褐色粒	良	1/6	12C後半
17	56	灰釉陶器	皿	S061			(16.4)	(8.2)	3.4		回転ナデ、ミガキ、施釉	口縁部外面のみヘラ削り、回転ナデ、高台貼り付け	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	石英、輝石多い 無釉部：灰2.5Y8/1	良	口縁～底部	灰釉はツケガケ？10C中～11C前？

Tab.31　西部ガス跡地土器・陶磁器類観察表(3)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
17	57	須恵器	杯	S063			(13.6)	(8.6)	4.6		横・斜め方向ナデ	横ナデ、ヘラケズリ後ナデ？、ヘラケズリ	灰白 5Y8/1	灰 N6/	石英、長石？、黒色粒、小石	良	1/4	8C～9C
17	58	土師器	杯	S063	1層	No.46	(10.8)	(5.6)	4.2		横ナデ(黒斑あり)	横方向ナデ、ヘラ切り	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	角閃石、石英、褐色粒、黒色粒	良	1/3	10C
18	62	須恵器	坏蓋	S067	2層		(11.2)		(2.0)		縦・斜め方向ナデ、横ナデ、かえり貼り付け時のナデ？	つまみ貼り付け後ナデ、ヘラケズリ、横ナデ	灰白 2.5YR7/1	灰黄褐10YR6/2、灰白2.5YR7/1	黒色粒、長石、石英	良	1/4	径小さめでシャープなつくり。元米ノ山より古いと思われる。7C
18	63	須恵器	椀	S067				(6.9)	1.9～	0.9	回転ナデ	横方向ナデ、高台貼り付け時ナデ	灰 5Y6/1	灰 10Y6/1	4㎜以下の長石、雲母、黒色粒、褐色粒。砂やや多め	良	胴～底部の一部	萩尾型碗　8C前葉
18	64	須恵器	杯	S069	3層	N32	最大径10.4前後		1.8～		横ナデ	横ナデ	灰 5Y5/1	灰 N5/	1㎜以下の長石、黒色粒	良	口縁～胴部の一部	6C
18	65	須恵器	杯	S069 Pit690上			(12.8)	(8.7)	4.2		横ナデ(底部に粘土輪づみ痕あり)	横ナデ、ヘラ切り後ナデ(粘土痕あり)	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	石英、角閃石、黒色粒、石	やや不良	底部完形	9C前葉
18	66	須恵器	甕	S073	2層	No.1	(44.8)		8.7～		横方向ナデ	横方向ナデ、沈線、タタキ	にぶい黄褐10YR 4/3、灰かぶり 灰白2.5GY8/1	赤灰 2.5YR4/1	極ソ砂、白色、黄灰色、灰色、透明砂多く混じる。レキは目立たない。断：明青灰5B7/1と青灰5B5/1の間	良	口縁1/7～1/8	中世陶器のような色合い。口縁のつくりが非常にシャープ。口縁内側、少し灰かぶり。色調から荒尾産。9C
18	67	土師器	杯	S069		No.1	12.5	7.2	3.7		横ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ナデ(粘土痕あり)	橙 2.5YR6/6	橙 5YR6/6	雲母、石英、褐色粒	良	2/3	6段階後半中心
18	68	土師器	小皿	Pit101			8.7	6.3	1.5		横ナデ	横ナデ、糸切り、板状圧痕	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	褐色粒、石	良	3/4	
18	69	土師器	杯	Pit062-1			(11.4)～(11.8)	8.8	2.6		横方向ナデ、一方向ナデ	横方向ナデ、糸切り	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色粒、黒曜石、砂粒。非常に砂っぽい胎土	良	1/2弱	ラベルはPit062-1もPit062-2の遺物である。13C後半以降
18	70	土師器	小皿	S080 Pit129			9.3	7.0	1.3		横ナデ	横ナデ、糸切り、板状圧痕	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	石英、赤褐色粒	良	完形	柱状掘形に伴う遺物
18	71	土師器	小皿	Pit122	2層上層		(7.5)	6.5	1.5		横ナデ	横ナデ、糸切り、板状圧痕	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	石英、長石、黒色粒、褐色粒	良	1/2強	
18	72	白磁	碗	Pit54	2層		(13.9)		2.9～		回転ヘラケズリ後施釉、沈線	回転ヘラケズリ後施釉	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	黒色粒子	良	口縁～胴部の一部	白磁碗Ⅷ-2a。輪花
19	80	瓦器	椀	Pit123	2層上層		(18.6)	—	(5.1)		回転ナデ後ヘラミガキ	回転ナデ・ヘラケズリ・指頭圧痕後ヘラミガキ	灰 N 4 /	灰白 5Y8/1	長石	良		
19	81	土師器	黒色土器A	Pit155	1層		(18.5)		5.3～		ヘラミガキ	回転ナデ、ケズリ、ヘラミガキ	黒 10YR1.7/1	にぶい黄橙 10YR6/3	長石、石英、雲母、赤褐色粒	良		内黒。10C頃6段階後半～第1期
19	83	土師器	小皿(灯明皿に転用)	Pit092	2黒		9.6	8.0	2.0		横ナデ、一方向ナデ	横ナデ、糸切り後板状圧痕	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	石英、褐色粒、石	やや良	2/3	煤付着。小皿を灯明皿として使用。12C後
19	85	土師器	椀	Pit215			(14.9)		6.5	1.5	横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、高台貼り付け後ナデ、ナデ(工具痕あり)	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	石英、長石、角閃石、石	良	2/3(口縁～胴部欠損)底部1/1	高台径8.0　10C後
19	86	土師器	高台付丸底杯	Pit234-2			13.1	6.9	5.2		横方向ナデ、ナデ	横ナデ、接合痕、多数の工具痕あり、ヘラ切り後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	石英、雲母、角閃石、黒色粒、石	良	2/3	11C末～12C前半
19	87	土師器	杯	Pit365			11.7	7.0	3.4		縦方向ナデ、横ナデ、赤色顔料	横ナデ、板状圧痕後ナデ(赤色顔料)	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	長石、石英、黒色粒	良	完形	全体に赤色顔料を施す。9C中葉
19	88	土師器	托	Pit239	2層		(12.0)	7.6	(3.8)	2.1	横・縦方向ナデ	横ナデ、赤色顔料	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	石英、褐色粒	良	底部1/2、口縁部1/3	高台外面中ほど～底面赤彩。(5?)～6段階前半か？9C後半
19	89	土師器	杯	Pit265			(15.4)	(9.5)～(9.9)	3.0		横方向ナデ	横ナデ、糸切り、板目圧痕	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	褐色粒、黒色粒	良	2/3	外面下部に粘土塊が付着。12C後半

Tab.32　西部ガス跡地土器・陶磁器類観察表(4)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
19	90	土師器	小皿	Pit332		No.1	(10.8)	(7.4)	1.6		横・斜め方向ナデ	横ナデ、ヘラ切り、ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	石英、長石、褐色粒、黒色粒	良	1/2弱	12C
19	91	土師器	小皿	Pit328		No.3	10.3	7.5	3.2		回転ナデ、横ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ナデ、ヘラ切り後ケズリ	橙 2.5YR7/6	橙 2.5YR7/6	石英、長石、角閃石、黒曜石	良	ほぼ完形	10C後半
19	92	土師器	小皿	Pit328		No.1	10.5～10.8	8.5	2.5		横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ後ナデ？、ヘラ切り後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	角閃石、雲母、石英、長石、黒曜石	良	ほぼ完形	外面一部にスス、粘土付着。底部に黒斑あり。　7段階～(第3期？)共伴遺物1点あり。10C後半
19	93	土師器	小皿	Pit450			(8.4)		(0.9)		横ナデ、横・斜め方向ナデ	横・斜め方向ナデ、糸切り、板状圧痕	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	石英、黒色粒。銀色砂多く含む	良	1/3(口縁～胴部)欠損	
19	94	土師器	杯	Pit327			(15.6)	9.3	3.3		横ナデ、横・縦方向ナデ	横ナデ、糸切り	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	黒色粒、褐色粒、石英、小石	良	口縁部1/8	内外面の口縁～胴部に黒褐色の部分があり(焼きによるものではない)。 第6～7期を中心。12C後半
19	95	土師器	高台付小皿	Pit407	1・2上層		8.0～	6.0	3.0	0.9	横ナデ、ナデ	横ナデ、高台貼り付け後ナデ	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	石英、黒色粒、砂粒、石	良	完形	白っぽい焼き。10C～11C
20	96	須恵器	円面硯	N-29, Pit612					3.2～		ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	灰 5Y5/1	灰 N5/	1.5㎜以下の長石、角閃石、黒色粒	良	口縁～胴部の一部	8C
20	97	須恵器	鉢？	Pit501-1	2層上層				3.1～		横ナデ	横ナデ、カキ目	灰 N6/	暗灰 N3/	石英	良	口縁　破片1/8弱	復元径16～16.5cm
20	98	緑釉陶器	碗	N-33 Pit658	2B～3層				3.6～		ヘラケズリ後施釉	ヘラケズリ後施釉	土色帳に該当しない。緑色	土色帳に該当しない。緑色	黒色粒	良	口縁～胴部の一部	内面口縁近く緑彩か
20	99	土師器	小皿	Pit568	2層上層2黒		8.2	約5.7	1.3		横・縦方向ナデ	横ナデ、糸切り	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 5YR7/6	角閃石、黒色粒、褐色粒、砂粒	良	完形	
20	100	土師器	小皿	Pit708		No.3	8.5	6.5	1.0		横ナデ	横ナデ、糸切り、板状圧痕	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	褐色粒、黒色粒、小石	良	完形	
20	101	土師器	小皿	Pit575		No.11	(9.0)	(7.1)	1.2		横・縦方向ナデ	横ナデ、糸切り、板状圧痕	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	石英、黒色粒、褐色粒、銀色砂	良	1/2	
20	102	土師器	小皿	Pit598	2黒		7.9	5.5	1.1		横ナデ	横ナデ、糸切り、板状圧痕、ナデ	橙 5YR7/6	にぶい橙 5YR7/5	角閃石、黒色粒、褐色粒	良	完形	
20	103	土師器	土鍋	Pit708	拡張部				4.3～		ハケ目	ハケ目後ナデヘラ状、、ハケ目、ヘラ状工具によるナデ	黒 10YR2/1	黒 10YR2/1	石英、角閃石、石	良	破片	全体に煤付着。肥前系　13C～
20	104	土師器	小皿	Pit150			12.4	9.3	2.9		ナデ	ナデ、横方向ナデ、ヘラ切り	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	雲母、小石、石	良	完形	9C中葉か？
20	105	須恵器	壷	南 Pit697		No.2		(13.1)	6.7～		同心円文当て具痕後横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ、格子目叩き、ハケ目	灰 7.5YR4/1	灰 7.5YR5/1	石英、石、長石、砂粒、黒色粒	良	底部1/4弱	9C
20	106	須恵器	風字硯	Pit697			長さ 4.0～	幅 2.6～	厚さ 3.4		ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ			細砂の白色・半透明・黒色砂混じる。キラッと光る砂、黒色粒混じる	良	不明	墨のあとは残っていない
21	116	土師器	小皿	O18			10.0	8.7	0.9		横ナデ(指頭圧痕あり)	横ナデ(指頭圧痕あり)、ヘラ切り後ナデ、板状圧痕後ナデ	灰褐 7.5YR6/2	明黄褐 7.5YR7/2	石英、長石、角閃石、黒色粒、砂粒	良	2/3	12C　非常に浅い。4期くらいか
21	117	緑釉陶器	椀	O15 P15	撹乱	一括		(7.4)	1.9～		施釉、目痕あり	施釉	明るい薄黄緑色	内面よりさらに薄い色調	長石、黒色粒。やや砂粒感がある　断：灰N8/	良	胴～底部の一部	洛北産。円盤状高台ケズリ出し
21	118	青磁	越州窯系椀	O29 P29				(8.0)	3.0～		施釉、目痕あり、重ね焼きの粘土跡あり	回転ヘラケズリ後施釉	黄灰2.5Y6/1、(釉)オリーブ灰 5GY5/1～4/1	にぶい赤褐 5YR5/4	精製された胎土、灰色味がかり暗い発色。0.5㎜以下の長石、黒色粒。やや砂粒目立つ	良	底部1/2	Ⅰ-5類　Ⅴ～Ⅸ期　8末～10C中頃
21	119	土師器	椀か坏	N33	2層上		直径約15～16		2.1～		回転ナデ	回転ナデ	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	石英、長石、輝石、角閃石多い	良	口縁一部	外器面に墨書？

Tab.33　西部ガス跡地土器・陶磁器類観察表(5)

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
							口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
21	120	製塩土器		N32	3層				4.4～		ナデ、板状工具による調整痕跡	ナデ、板状工具による調整痕跡	灰黄 2.5Y6/2	淡黄 2.5Y8/3	砂粒多い(1～2㎜大主体で5～7㎜大まれに入る)、石英、長石、雲母極少入る	良	体部　約1/6～1/7	天草式製塩土器。7C後。藤本編年では3類か？他の形態は3類。二本木は3類が主体？
21	121	須恵器	蓋		2層表土剥ぎ	一括	(14.5)		2.2		ヘラケズリ、横方向ナデ	ヘラケズリ、横方向ナデ、沈線	灰 5Y4/1	褐灰 10YR6/1	精製された胎土、長石	良	口縁部～つまみ1/4	内外面とも灰かぶり。外面は自然釉のところ多い。7C後半
21	122	灰釉陶器	皿	N34	2層～3層		(15.4)	(8.0)	3.9		回転ナデ、ミガキ、施釉	回転ナデ、施釉、口縁部外面のみヘラケズリ、高台貼り付け、回転ナデ後回転ヘラケズリ	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	石英、輝石多い。 無釉部：灰白2.5Y8/1	良	口縁～底部約1/4	灰釉はツケガケか？10C中～11C前
21	123	青磁	碗	N33	2層	No.8		6.1	2.8～	0.8	回転ナデ後刻文後施釉	ヘラケズリ後施釉、ケズリ出し高台、ヘラケズリ	灰オリーブ 7.5Y5/2	灰オリーブ 7.5Y5/3	精製された胎土、長石、灰色粒	良	底部のみ完形	龍泉窯系　Ⅰ-4類　D期12C中頃～後半
21	125	不明	脚	O26･27 N26･27	3層		長さ 9.4～	幅 3.6～	厚さ 2.7～		ナデ	ナデ、指頭圧痕	灰黄褐 10YR5/2	褐灰 7.5YR4/1	石英、褐色粒、砂粒、黒色粒、石		破片	
22	127	須恵器	円面硯	N33	2～3層		(16.6)		3.7～		貼り付け後回転ナデ	貼り付け・ヘラ切り後ナデ、貼り付け後回転ナデ(工具による調整)	灰色N6/に近い	灰色N6/に近い(フリモノ)灰色N8/～灰白5Y8/2	石英、長石、輝石多い	良	口径～海の部分	普段の円面硯には見られない凹形の飾り？がつく。スカシ部を切ったヘラ痕残存。上面にフリモノ多い。ゆがみあり。8C
22	128	白磁	皿 Ⅷ-1b		2層表土剥ぎ			4.0	1.3～		回転ナデ、ヘラ削り後ヘラ描き、白化粧土塗布、施釉、ヘラ描きで草花文	回転ナデ、ヘラ削り、白化粧土塗布、施釉、釉部の削りとり	灰白7.5Y7/2に近い	灰白7.5Y7/2に近い	微細な白色粒、カオリン質の陶石土	良	底部～体部下部	D期(12C中～後)内面見込みにヘラ描きで草花文を施す。 露胎部：灰白5Yに近い
22	129	青磁	同安窯 椀Ⅰ-1		2層表土剥ぎ			(5.4)	2.8～		回転ナデ、ヘラケズリ(ミガキ？)、ヘラ状の花文とジグザグ状の点描文後施釉	回転ナデ、回転ヘラ削り後施釉、回転ヘラ、高台削り出し	灰オリーブ 5Y5/3	灰オリーブ 5Y5/3	微細な黒色粒と白色粒を多く含む、カオリン質の陶石土。	良	底部～体部下部	D期(12C中～12C後) 露胎部：灰白2.5YR8/2
22	130	灰釉陶器	おろし皿 瀬戸産	南側	東壁一括		(7.8)		1.3～		回転ナデ・ヘラケズリ後格子目状のカキ目、施釉	回転ナデ、ヘラケズリ後施釉、回転糸切り	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	石英多い。砂粒混じる	良	底部約1/3	露胎部：淡黄2.5Y8/3
22	131	緑釉陶器	小形の椀・皿	N33・34	2B～3層	土器集中区		4.0	1.4～	0.4	施釉	高台貼り付け後ナデ、施釉	浅黄橙 10YR8/3(釉)	浅黄橙 10YR8/3(釉)	0.5㎜以下の長石、石英、雲母、黒色粒	良	底部のみ	防長。ミガキなく時期が下るかもしれない
22	132	磁器	茶碗 (染付)	南側と中部	表土剥ぎ	一括	(8.8)	(3.6)	5.0	0.6	型押し成形	型押し成形				良	1/3	雪輪文　18C前　肥前
22	133	青磁	椀	南側と中部	不明			(9.8)	2.7～	0.1	施釉、目痕あり	施釉	(釉)灰 7.5Y5/2	(生地)にぶい黄 2.5Y6/3～灰N6/	若干白色～透明の砂混じる	良	底部1/4弱	越州窯系Ⅰ-5類　A期(8C末～10C中頃)
22	134	白磁	碗	南側と中部	表土剥ぎ	一括	(16.1)		4.6～		ナデ後施釉(一部釉溜まり)、工具痕あり	ナデ後施釉、ヘラケズリ	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1	黒色粒、白色粒含む。青みがかるところ多く精良ではない	良	口縁～胴部の一部	口縁は肥厚する？玉縁状口縁か？ 白磁碗Ⅳ-bc　11C後～12C前
23	140	青磁鉄絵	梅瓶	南側と中部	表土剥ぎ一括				3.5～		回転ナデ	回転ナデ後鉄絵、施釉	鉄釉：黒10YR1.7/1　青磁釉：灰10Y6/1	内側の胎土部：にぶい黄橙 10YR7/4	石英、長石、所々に輝石	良	胴部下部破片	初期高麗青磁と同時期の青磁鉄絵　。 11C後～12C

Tab.34　西部ガス跡地石製品観察表

図版番号	遺物番号	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法（cm）			重さ（g）	石材・石質	備考
						長さ	幅	厚さ			
14	11	碁石（白）	S002	埋2層	O-18一括	1.6	1.3	0.7	2.10	石英	
14	12	碁石（黒）		3層		1.4	1.4	0.4	1.10	灰色	扁平
15	28	碁石	S007	埋2層	O-25	1.4	1.1	0.4	0.80	蛇紋岩？（緑）	裏面は平たい
15	29	碁石	S007	埋2層	O-25	1.3	1.2	0.6	1.10	（白）	両面とも丸みがある
16	34	碁石	S008清掃	2層	O-22	2.0	1.6	1.0	4.00	（白）	裏面は平たい（片面のみ研磨か？）
16	37	錘	S011		No.10	6.4	3.9	2.7	123.80	滑石	滑石製品の転用と思われるが、旧面がどれかの区別がつかない。
17	50	石鍋	S049		N-30	器高7.4～	口径（26.1）		？	滑石	ノミケズリ痕、工具痕、穿孔2箇が90度の位置に確認できる。（孔に錆びた遺物が付着する）
17	60	石製品（ドーナツ状）	S049			3.0	2.0～	1.2	10.20	黒雲母片岩	孔径：1.2～1.3cm 最小1.0cm　装飾品？？擦痕がはっきり残るので装飾品ぽくない。平らな面をもつので何か組み合わせて物になるか？側面にしている所は、擦痕があまり目立たず使用時の磨耗なら連ねて使用されたのか？
18	73	叩き石	S065			9.1	7.6	3.0	299.10	安山岩のように見えるが、不明	縦長の敲打痕も目立つ
18	77	碁石	S067・074清掃			1.3	1.1	0.6	1.30	（白）	両面とも丸みがある。小さい
18	78	碁石	S069溝端	（樹痕）？と2B層との境		1.6	1.5	0.7	2.40	粘板岩？（茶？）茶色味がかった灰色	裏面は平たい。非常に滑らかな面を持つ
18	79	碁石	S067・074清掃			2.2	1.8	0.8	4.50	（緑）。緑色の部分に膜状に黄緑の部分が混じる	丸みがある
19	84	石鍋転用	拡張	2・3層		（35.8）		4.9～	？	滑石	
20	112	碁石	Pit5		O-21一括	1.4	1.2	0.4	1.00	わずかに緑色味がかった黒色。薄い黄緑色の部分が多く混じる	薄く小さい
20	113	碁石	N32	2B～3層上	一括	1.4	1.3	0.4	0.80	蛇紋岩	薄く小さい
20	114	碁石	Pit697		No.3	1.8	1.7	0.7	3.30	わずかに緑色味のある黒色。白い線状・点状の部分が少しある	
20	115	碁石	Pit701	3層		1.9	1.5	0.8	3.30	（黒）	
22	135	2次加工剥片	西側壁削り			2.9	4.0	1.2		黒曜石	風化がかなり激しいので古い石器の可能性大。カジリも激しい。

Tab.35　西部ガス跡地土製品観察表

図版番号	遺物番号	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	色調	胎土	残存度	備考
15	27	土錘	S007	埋2層	O-25	3.3	1.4	1.2		にぶい橙10YR6/3	角閃石、褐色粒、長石	完形	表面が2/3ほど黒くなっている。形は悪いが全体的に長い楕円の両端を切ったような形。
16	30	移動式カマド　左庇	S006		No.62	（15.9）	（12.4）	（1.0）		（内）橙7.5YR6/6 （外）にぶい黄橙10YR7/4	長石、石英		31と同一固体か？
16	31	移動式カマド　上庇	S006		No.59	（11.2）	（12.0）	1.6～		（内）灰黄褐10YR6/2 （外）にぶい黄橙10YR6/3	長石、石英、角閃石		全体的に作りが粗くカマド庇と思われる。30と同一固体か？
17	61	土錘	S029		No.30	3.4～	1.4	1.4		にぶい橙7.5YR7/4	雲母、黒色粒、褐色粒	一部欠損	一部黒くなっている
19	82	土製品　型か？	Pit405			3.5～	1.8～	2.0～			細砂くらいの白色、黒色砂が混じる。キラッと光る極細砂くらいのもの混じる。	不明	外型か土製品の型か？
20	107	土錘	Pit347			5.2	1.8	1.6		浅黄橙10YR8/3	黒色粒、雲母	完形	長くずん胴
20	108	土錘	Pit350	2黒		4.8	2.0	2.0		にぶい黄褐10YR5/3	褐色粒、黒色粒、雲母	完形	
23	139	土馬	Pit697		No.1	6.6～	5.4～	9.0～		にぶい橙7.5YR7/4	石英、角閃石、砂粒多い。長石、輝石も含む	頭部と胴部約1/3残存	土師質。古代。

Tab.36　西部ガス跡地金属製品観察表

図版番号	遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法（cm）			重さ（g）	備考
							長さ	幅	厚さ		
14	14	鉄製品	釘	S002			9.7～	0.5	0.5	8.09	
17	59	鉄製品	釘	S050	検出面-40cm下層	O-24	7.2～	0.9	0.7	26.80	
18	74	鉄製品	鉄鏃（方頭式）	S064		No.1	8.5～	1.9	0.3	8.84	下部の先端を欠損する、中央部に長方形の孔。※茎部欠損
18	75	鉄製品	刀子	S062	2層	No.4	4.7～	～1.5	～0.3	―	先端部、基部欠損
18	76	鉄製品	釘	S063	2層	No.39	3.4～	1.2～	～1.0	―	下部欠損
20	109	鉄製品	釘	（遺構内）	2層相当 2回目		5.5～	0.4	0.4	6.38	
20	110	鉄製品	不明 （鎌の刃の一部？）	O23・24、117-1？			2.1～	3.8～	0.1	3.88	
20	111	鉄製品	不明 （鉄製品の一部）	Pit371		一括	5.2～	1.9～	0.2	6.94	
22	136	鉄製品	槍?		2層		5.5～			6.79	刃部及び茎先端を欠損
22	137	鉄製品	不明鉄器	Pit37　O17			2.7～	0.6	0.5	4.01	
22	138	鉄製品	釣針	Pit111-4	2層上層		3.2～	0.4	0.4	―	上下端部欠損

Tab.37　西部ガス跡地瓦観察表

図版番号	遺物番号	器種	部位	出土地点	層位	取り上げ番号	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	色調	胎土	備考
14	13	丸瓦	玉縁～胴	S002	2層		（13.3）	（11.4）	2.8		（内面）灰5Y4/1 （外面）灰5Y5/1	2mm以下の長石、角閃石。5～10mmの灰色礫	
21	124	布目瓦・軒平瓦	瓦当の一部	0・N29・30			9.5～	5.5～	2.6		灰4N/	長石多い。角閃石少ない	剥落激しい。表面のみ布目跡残存。軒平瓦5亜類？
21	126	?		N32	3層	No.10	23.1～	16.6～	4.3～5.6		（左図面）灰白2.5Y8/2 （右図面）にぶい黄橙10YR7/3	石英、角閃石、石、砂粒、黒色粒	破片

３．小結

西部ガス跡地調査区は幅２mから3.5m、長さ約100mと細長く、また、遺構が稠密なため遺構の関連を捉えることが難しい。層位的に遺構を把握することに心がけて調査したが２層に属する遺構については誤認しているところも少なからずあるかもしれない。当調査区の各時期の性格については触れることを避け、層や遺構・遺物の補足を中心にまとめにかえたい。

【１層】

１層は他の調査区と同じ灰色砂質土でａ－１～ａ－５’の５つに分けている。ａ－１より上部は現代の撹乱を受け残っているところはない。ａ－１の下部にO23グリッドから南の全体に広がる落ち込みがある。約40～50㎝の厚みがあり、擾乱をうけた砂質がつよい砂質シルトで、下部は粗いブロック状の部分やラミナが残る部分やそれらが著しく硬くなった部分がある。ラミナのある部分は落ち込みの底に堆積しブロックとして入っているものではない。O30・31グリッドのS049は大きく深い溝で、道を挟んだ西側の熊本市35次調査区に続くと思われる。ａ－１の落ち込みで切られているため存続の層位は分からない。掘削層位も分からないが一度に埋められた状況になく深さが減じながら埋まっていくため数層にわたる可能性がある。第４章第２節の自然化学分析の動物遺存体のなかで西部ガス出土地不明・ラベルなし資料はこの遺構の可能性が高い。OP16－17グリッドのS003はS049に比べ規模が半分程度の溝である。ａ－５’の時に規模が縮小している。ともに方向性はほぼ同じといえる。ａ－５’はS003の北側にのみ広がる層である。O21グリッドにも撹乱が著しく図化をしていないが溝状の落ち込みがあった。O35グリッドのS054は調査区隅であるが全形が出ている。大きなピットのような形をしている。

【２層】

２層はａ－５、２層上、２層黒、２層下の４層に分けた。２層下は時間幅が古代になるため３層のところで記述する。２層黒は調査区の中央が典型的で２層から３層の中でもっとも暗色細粒で分かりやすくの鍵層となる。２層黒より上位が２層上、下位が２層下に分かれる。２層上の上位に全体的によくまじり暗色がより弱い部分が明瞭に層をなすため２層ａ－５とした。O32グリッドより南側は1層ａ－１の落ち込みのためなくなるか、２層上と分けることができず２Ａとしている。２層ａ－５に属する可能性がある遺構はS015のみで調査区壁断面でもほかにピットの可能性があるような落ち込みは確認できなかった。２層上の遺構の多さに比べて、その少なさは際立ち、明らかに土地利用が変化している。

２層上はO27グリッドから南は２層黒の細粒暗色の特徴が明瞭でなくなり分別しにくくなる。またこの辺りから２層上の遺構が少なくなるが、不明瞭になることに加え重機掘削時に２層黒を掘っているため平面での遺構の確認も難しくなること、３層が厚みを増し深さが４層までとどく遺構が少なくなることによると考えられる。しかしながらO19－27グリッドのピットが極めて多い状況から少しは減る傾向が調査区壁断面よりうかがえる。この層に属する遺構の大半がピットで浅めの土坑や溝はほとんどないが確認することが困難であるという理由によるものである。２層上の遺構の判断は次の通りである。O22－23グリッドでは２層黒が残存しておりこの層の上から確認したもの、２層黒がないところで２層下が残るところでは比較的分かりやすい２層黒の遺構との対比により分別したもの、他の層位にはない特徴でシルト～細砂のブロックが入るもの、また砂礫が明らかに多く含まれるもの、これらの遺構より切り合い関係で上位のものをこの層位の遺構としている。シルト～細砂のブロックが入るものは中央部に多く見受けられる。ラミナが残るものもあり、砂礫が明らかに多くまじることがあるため４層起源と考えづらい。２層中に水成堆積が残るところは遺構を含め皆無であるが、氾濫堆積物が残るときに遺構を埋め戻したものがある可能性を考えておきたい。時期を示す遺物はS080P129とP62－2から13世紀中葉以降の土師器坏が出土しており、おおむね13世紀以降を想定している。遺構の多さから比較的長い時間幅が考えられるが推定することは難しい。

2層上ではピットが極めて多く見つかっているものの遺構のまとまりを考えることができたものはS080・S082・S083のみである。ほかにも直線状に並ぶものが多数ある。しかし、S081のようにピットの間隔が一定でなく、また調査区壁断面から平面で確認できなかったピットも多数あることから、明確に関連づけることが可能なもののみを取り上げている。S080は調査区北端にあり、ピット5基からなるピット列である。平面形は隅丸方形で柱痕は方形に近いものから楕円のものまである。ほかのピットより明らかに大きく形も異なることから掘立柱建物の可能性があるかもしれない。S080P129の掘形から完形で糸キリ底の土師器坏が1点出土している。S082とS083はO23～25グリッドにある。礎石があるピット群で掘立柱建物となるものと思われる。ともにほぼ位置・方向・規模を同じくし建替えを想定しているが新旧は分からない。S083はピットの底に平らな面がある石を置く。ピットの規模は周囲のものと同じ程度である。S082は礎石が他のピットに比べ高い位置にあるものである。またピット・礎石ともに若干大きいことが特徴である。礎石の位置は高いが礎石の上下で埋土が明瞭に異なることから、建替えに伴いピットを掘り直したあと礎石を底に敷いているものと思われる。また西にわずかにずれてピットか並ぶが建替えによるものか2つで一組の柱穴となるか判断できなかった。ピットの並びと合わないがP135は礎石の特徴、埋土・掘形の様相が同じであり、関連するピットである可能性が高い。

S023（O22グリッド・土坑)は埋土に特徴があり長方形の掘形から10～20㎝ほど離れたところの底付近に安山岩の約3～5㎝の礫が多くあった。びっしり敷き詰められているわけではないが一面にまじる。形状から墓の可能性があるかと想定して掘削したが遺物は確認できなかった。P111－4より鉄製品の釣り針が出土しているが、遺物の時期を推定することはできない。

O20～25グリッドは2層黒を手掘りにより掘削している。2層黒の遺構埋土は比較的分かりやすいものが多い。O27グリッドより南側はこの層の特徴が薄れるため区別が難しくなる。S001（OP18－19グリッド）は規模が大きめの土坑でまっすぐ下に掘られている。遺物は土師器杯・小皿が多くはいり、石は少数、研磨土師器は1点のみで遺構内全般に広く散布しているような状態で出土している。東に接してレンガ構造物があり、この影響と思われる変色・変質が著しく、2層黒の層位であるにかかわらず埋土の色調が橙色から黄褐色であった。遺物の状態も悪いものが多い。井戸は3基見つかりS002・S009（OP18グリッド）・S050（O24グリッド）がある。粉状の炭化物の集積層や薄層がはいり、また点々とまじるところや腐植質になっているところがある。大量の草木とともに埋め戻されていると思われる。S050の最下部は段状にすぼまるところで止まっており調査区の外に中心部があると思われる。ともに多くの完形の土師器杯・小皿が出土し、底部ヘラ切り・糸キリがまじる12世紀後半に埋められている。S001と井戸3基がこの層位の中心となる時期を示しており、この層位の年代を12世紀から13世紀と想定している。S018（O18グリッド）はS009掘形下部に取り付くように存在することから関連する遺構と推定できる。断面が台形状に掘られ、溝のようになりそうであるがどのような遺構群になるか明らかにすることができなかった。S064は非常に深い土坑である。層位は異なるがS057も同様である。多い形態でもない遺構が同じ位置に作られているが、場所に意味があるのであろうか。遺構に関係があるものかは不明であるがほぼ完形の方頭式鉄鏃が出土している。中央に長方形の孔がある。全体的に残りがよく茎部の先端が少し欠損している。S052は溝としているが溝の幅に収まるようにピット（P515～P518）が並んでいる。溝の埋没後ピットが掘られたのか布掘りかは明らかではない。ピットはおおむね調査区全般から見つかっている。O19～27グリッドでは2層上のピットが極めて多い状況からは明らかに少なくなっている。

【3層】

2層下は2層黒と3層の中間的な様相である。層が厚いと分けることができるが、薄いと認識することが困難になり2層黒を含む2Bとしているところがある。3層は上・下・Bの3つの層に分けている。3層上･

下は他の調査区同様に古代の包含層としたものを分層したもので層界も比較的明瞭なところもあるが遺構埋土の分別ができないため他調査区との対比もまた不明である。３層Ｂは東横イン北側調査区の３層Ａ・Ｂでない黒褐色土を念頭に分けたものであるが、４層上部がやや暗色になったものであり、上層からのしみ込みや根あと状の落ち込みのようなところも多く土壌層といえるものかどうか分からないため別のものと判断している。

２層下を掘削してその層位の遺構を見つけることができることから、層の認識はできているものと思われる。この層位の遺構は埋土の層位分別と合わないものもあるが、10世紀から11世紀の遺物が出土しているP150（O19グリッド・埋土を２層下から３層)、P328（O26グリッド・埋土を２層黒)、S061（N34グリッド)・S063（N32グリッド・３層を残した状態で検出し古代の遺構と認識している）が該当し、10世紀から12世紀を想定している。なお、11世紀末から12世紀前半の遺物が出土しているP234－2は埋土を２層黒から２層下と判断しており、２層黒と２層下の時間幅は流動的である。P328は完形の土師器小皿２点と椀の３点がまとまって出土している。遺物の時期は10世紀後半である。

当調査区の２層上から２層下の遺構のうち埋土や遺物の出土状況が似ているものをまとめておく。２層上(S007・S011・S053)、２層黒（S010・S060・S062・S066・S071)、２層下（S061・S063）である。埋土は炭化物を多く含み、粉状の炭化物がまじるか腐植質になっている。形や大きさはさまざまであるが深さは層の下面から20～30㎝以上ある。検出している土坑のうち、これらの遺構が多いが、埋土が特徴的であり分かりやすいことによるものと思われる。完形の遺物が入ることもあるが大きな破片の遺物は多くない。なおS061からは大きな破片の灰釉陶器皿（Ｆig.17　56）が出土している。包含層より出土した遺物（Ｆig.21　122）も図に載せているが接合し同一個体である。釉は薄く透明感のない淡く薄い緑色で、焼きによるか風化によるのか白くなっているところがおおい。内面底部、高台から底部は釉が掛けられていない。内面には重ね焼いた痕跡がある。10世紀中葉から11世紀前半の遺物である。

３層の遺構は当調査区全般に広がる。竪穴住居は１軒のみで北半にはピットが少ない。遺構から図化にたえる遺物の出土が少なく、３層が10世紀を含むかどうか検証できないため時代区分は古代分別不能が多くなっている。２層下が10世紀後半を含むことや９世紀後半の遺物は少ないことから、この区分の大部分は古代（～９世紀）と考えることができるかもしれない。

S081（O29－30グリッド）は４基のピットからなり、ピットの径は80～100㎝と大きく、他のピットに比べ明らかに深く規模が大きい。柱痕もすべて見つかっている。S081P635からのみ柱痕の下部から阿蘇熔結凝灰岩の礎石が見つかっている。ピットの規模から掘立柱建物になる可能性が高い。これより北にはのびないが東西のどちらに展開するか不明である。S006（O16グリッド）は遺物の出土状況から祭祀土坑と思われる。埋土０～⑤に分けて掘削している。埋土０層は多量の土器片が折り重なるように出土し、土器が割られ埋められたと思われる。著しい遺物の集中は調査区の西にのびる。破片点数は多いが接合できないものが多い。埋土０層の遺物に比べると量は少ないが埋土①～②層からも少なからず出土している。調査区北に接する立会調査区の土器溜りの遺物と接合し、土器の集中は北へのびるようである。埋土③層中にイヌの埋葬が見られる（第４章第２節　自然化学分析の熊本市二本木遺跡群の動物遺存体　を参照)。溝状の土坑の南端に頭を南東に脚を北東に横たえられていた。土坑は北側へ深くなるため脚が低く頭部から胴部が高い。古代のイヌの全身骨格は珍しいのではないかと人骨の調査を依頼し来熊された土井ヶ浜人類学ミュージアムの松下孝幸氏から教示をいただき、骨を崩さないように土ごと取り上げた。そのため下の遺構を壊している。イヌの下位からも遺物がまとまって出土している。埋土④層では遺物の集中はなく、埋土⑤層は一部にあるのみで遺構全体に広がらない。各埋土間での接合は埋土①と②に一点あるのみで、遺物が集中する地点が少しずつずれていること、埋土③層から埋土０層に向けて浅くなっていることから一度の行為が数回に分かれた

と考えていた。しかし、別個体のイヌの骨が出土し、沖田絵麻氏が複数回の埋葬を指摘している。土器を割り埋める行為とイヌの埋葬を伴う祭祀が同じ地点で何度か行われたと考えている。遺構の時期は遺物からは埋土0層と埋土③層とは変わらず9世紀前葉の遺物と8世紀にはいる遺物がまじることから遺構の年代は9世紀初頭と推定している。各埋土にかかわらず遺物は壺・甕が多く土師器・須恵器の坏・椀は少ない。P697（N32グリッド）から土馬が出土している。須恵器壺・風字硯の破片もまた出土している。埋土中位からのものであり祭祀遺構となるかどうかは判断できない。他の遺物は9世紀代のものである。

S037（OP16－20グリッド）・S067（ＮO27－30グリッド）は落ち込みである。人為的に埋められており、直線的な部分がある。掘りこみや成形が行われている。整地や地業のようなものであろうか。S037は北と東は調査区外にのびる。西半はゆるく落ち始めOPグリッド付近が最も低い。西半は4層がわずかに暗色になりブロック状になっているのみで、遺構の範囲に不安があるがこれを掘削して見つかる遺構P197があり、人為的な埋土と確認した。最も低い部分は3層と4層が混ざったような埋土で比較的分かりやすい。S067の北西側は4層が地山となっており明瞭である。南端は分かっていない。S069（N31－34グリッド）は検出上浅い溝であるが調査区壁断面より3層のなかで上位の部類にはいる遺構であることがS067と同じであり、S069はS067の溝状の低まりの一部と考えられるかもしれない。S075（N27－28グリッド）長方形状に検出しており、北から中央は平坦部となり西側南側に溝状の低まりがある。溝状の低まりは平坦部より先に埋められており地業ではなかろうかと考えているが、関連するほかの遺構は確認できなかった。S070（OP34－35）は長軸ほぼ5ｍの大きな竪穴住居である。北辺中央に白い粘土ブロックや焼土が非常に多く集中する部分がありカマド位置と考えられるが、本体はカクランでなくなっている。掘形の底の凹凸が激しいが、カマドの下は特に低く土坑状になっていたと思われる。カマドから出土した炭化種実の放射性炭素年代測定を行っている。補正値で1020±30ＢＰ、暦年較正年代値が測定誤差σでcalAD989-1026であり、２σの値でも遺構の想定の年代より新しい値が出ている。

S038とS041は石膏の結晶が広がる範囲である。深さは約2㎝と浅い。土中で生成したものと考えている。遺構検出の際に何かあると一目で分かるほど含まれており異常な状況であった。

【遺物について】

当調査区で遺物がまとまって出土しているものは3層の祭祀土坑のS006や2層黒に属するS001・S002・S005である。これらは多くの一括性がある遺物が出土しているが、図化を行っているものはわずかであり、またその分析もできていない。

碁石は12点（黒８・白４）である。調査面積に比して多く出土している印象がある。中世の遺構から5点、古代の遺構・層から7点である。碁石は厚みが薄く大きいところでも2㎝に満たない小さな遺物で埋没後に自然に移動することも考えられる遺物である。また上位遺構の掘り残しや見つけることができなかった遺構も十分考えられ資料の閉鎖性に欠けるが、中世遺構からの出土遺物も遺構に伴うものでないことを考慮すると古代のものも含まれている可能性が高いと考えらよう。

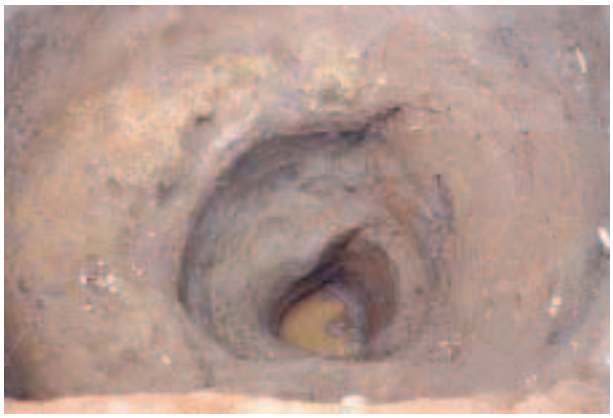
すでに触れた灰釉陶器のほか越州窯系青磁・白磁Ⅰ類・緑釉陶器など輸入・他地域産陶磁器が少量出土している。中でも層位不明ではあるが初期高麗青磁の鉄絵壺（梅瓶　Fig.23　140）の小片が出土している。失透色の緑みがある灰色の釉下に濃緑色で草花状の文様が描かれている。胎土は灰黄色で緻密である。全国的にも出土例は少ないものと思われる。須恵器の硯では小破片ながら側面に凹字形の装飾がある円面硯（Fig.22　127）や風字硯の脚部（Fig.20　106）が出土している。灰釉陶器の卸皿（Fig.22　130）は底が3分の1弱の残存である。おろし目は格子に鋭く刃物状のもので切るように付けられている。釉色はわずかに緑みがかり施釉は薄い。糸キリ底で胎土は灰白色で若干隙間が目立つ。

４．写真図版

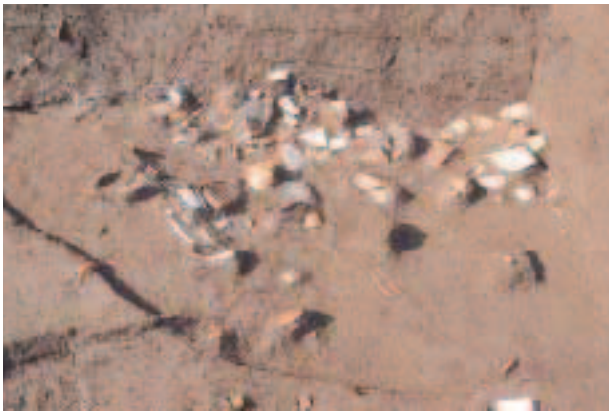
PL.1　西部ガス跡地1区 空撮

PL.2　西部ガス跡地2区 空撮

PL.3　S001遺物出土状況（東から）



PL.4　S002掘削状況（東から）



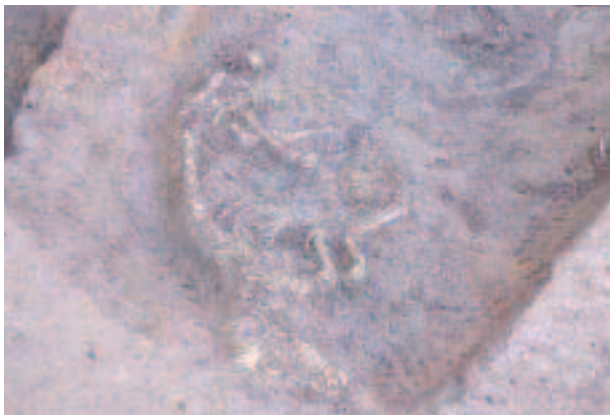
PL.5　S006遺物出土状況（東から）

PL.6　S006遺物出土状況（北から）

PL.7　S006埋土2層掘削（南から）

PL.8　S006イヌ出土状況（北から）

PL.9　S006イヌ出土状況（北東から）



PL.10　S006イヌ出土状況（南から）

PL.11　S003完掘出状況（西から）

PL.12　S011遺物出土状況（北東から）

PL.13　S023埋土1層掘削状況（西から）

PL.14　S025完掘状況（南から）

PL.15　S049土層断面・完掘状況（東から）

PL.16　S053・060完掘状況（南西から）

PL.17　S064・057完掘状況（西から）

PL.18　S063遺物出土状況（北から）

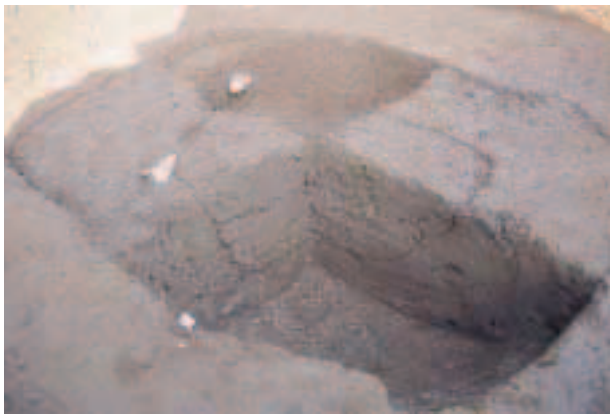
PL.19　S062完掘状況（南東から）

PL.20　S067完掘状況（南西から）

PL.21　S070カマド検出状況（東から）

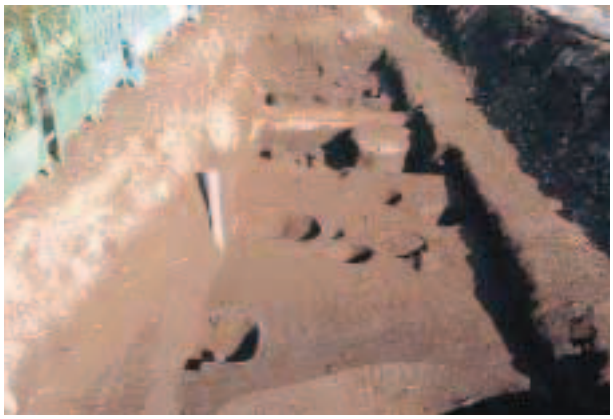
PL.22　S080ピット36掘削状況（西から）

PL.23　S080ピット129完掘状況（東から）



PL.24　S080ピット36（南東から）

PL.25　S080ピット131土層断面（南から）



PL.26　S080完掘状況（南から）

PL.27　S081ピット635土層断面（西から）

PL.28　S081ピット635礎石出土状況（西から）

PL.29　S081ピット612土層断面（西から）

PL.30　S081ピット630土層断面（西から）

PL.31　S082ピット99-3礎石出土状況（西から）

PL.32　S082ピット117-3礎石出土状況（西から）

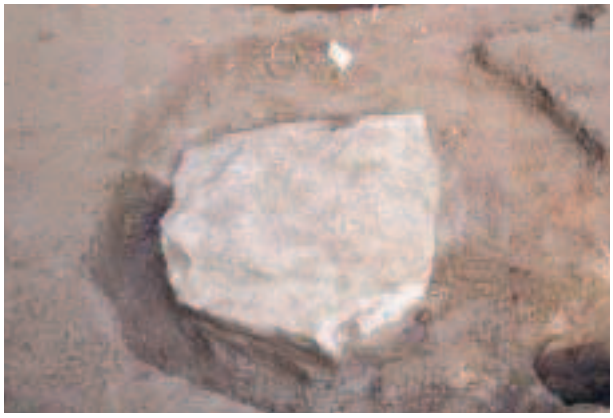
PL.33　S082ピット105礎石出土状況（南西から）

PL.34　S082ピット252礎石出土状況（北から）

PL.35　S083ピット58礎石出土状況（西から）

PL.36　S083ピット120-1礎石出土状況（南から）

PL.37　S083ピット114断面（東から）



PL.38　S083ピット110礎石出土状況（南から）

PL.39　S083ピット487礎石出土状況（北東から）

PL.40　S083ピット291礎石出土状況（東から）

PL.41　礎石・根石ピット群 S082・083周辺（南東から）

PL.42　礎石・根石ピット群 S082・083周辺（北から）

PL.43　ピット43礎石・断面検出状況（東から）

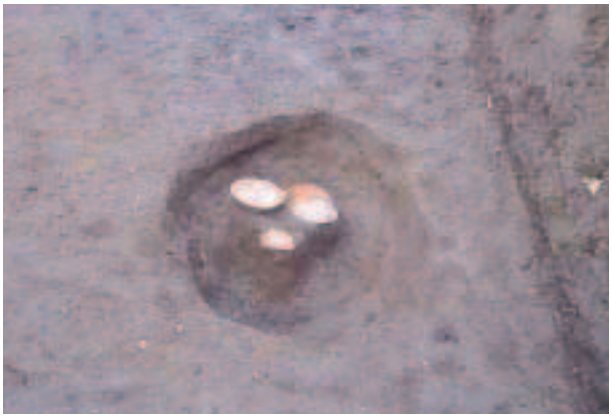
PL.44　ピット115断面・根石検出状況（南から）

PL.45　ピット117-2断面・根石検出状況（南から）

PL.46　ピット135断面（東から）

PL.47　ピット222礎石検出状況（南西から）

PL.48　ピット247礎石？出土状況（南西から）



PL.49　ピット328遺物出土状況（南から）

PL.50　ピット697遺物出土状況（東から）

PL.51　ピット708遺物出土状況（南から）

PL.52　ピット724検出状況（北東から）

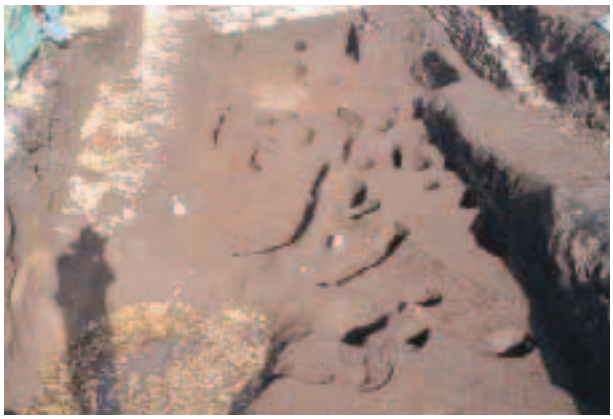
PL.53　ピット739礎石出土状況（西から）

PL.54　N34東壁断面（西から）

PL.55　N34調査区風景（北から）

PL.56　N34遺構検出状況（南から）

PL.57　N34完掘状況（南から）



PL.58　2層掘削後完掘状況O21～O22（南から）

PL.59　3層上掘削後完掘状況O28～O30（南から）

PL.60　3層上掘削後完掘状況O28～O29（北東ら）

PL.61　3層上掘削後完掘状況O23～O24（北東から）

PL.62　3層上掘削後完掘状況O23～O24（南から）

PL.63　完掘状況全景（南から）

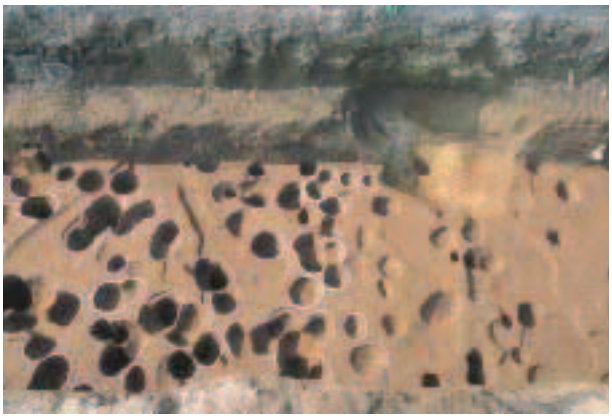
PL.64　完掘状況全景

PL.65　完掘状況O16～O20（北から）

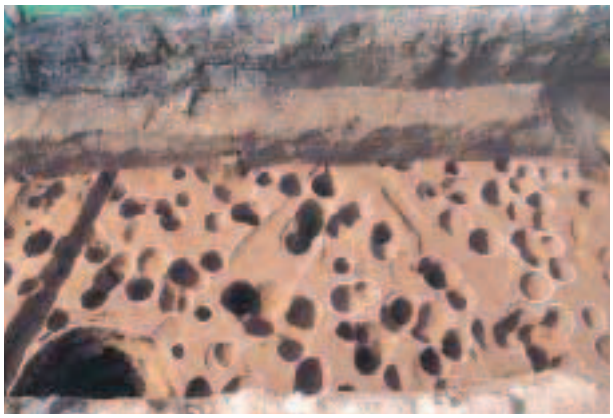
PL.66　完掘状況O17～O19（南東から）

PL.67　完掘状況O19～O20（南東から）

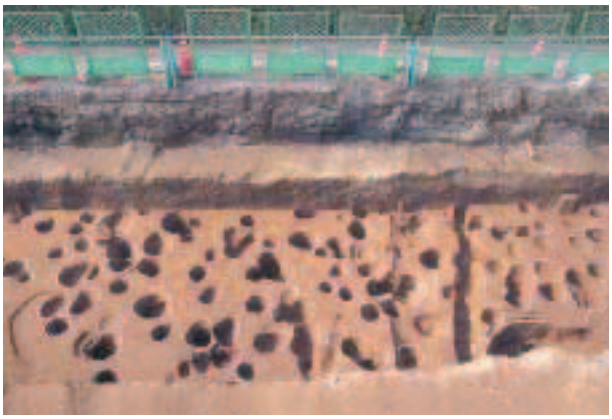
PL.68　完掘状況O21～O22（北東から）



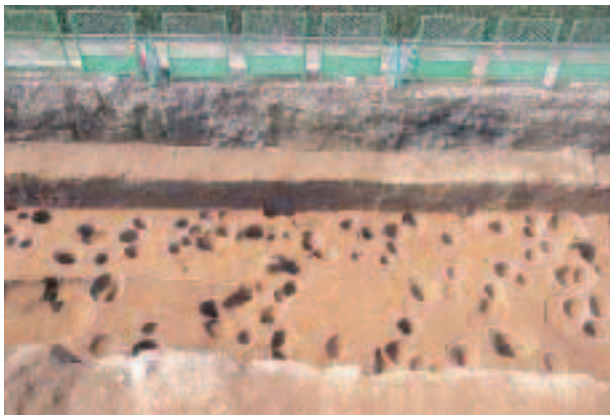
PL.69　完掘状況O23（東から）



PL.70　完掘状況O23～O24（東から）



PL.71　完掘状況O24～O25（東から）



PL.72　完掘状況O26～N27（東から）

PL.73　完掘状況O27～N28（東から）

PL.74　完掘状況O29～N30（東から）

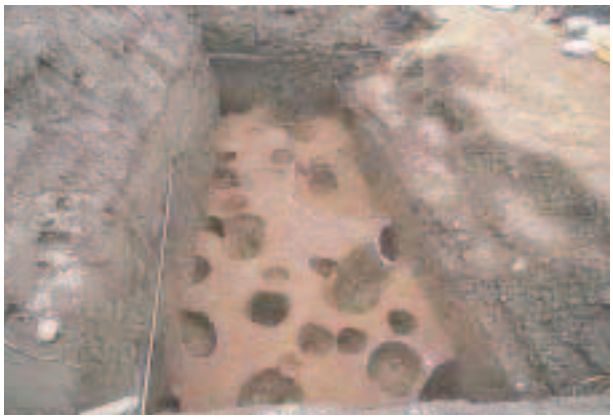
PL.75　完掘状況N30～N31（東から）

PL.76　完掘状況N31～N32（東から）

PL.77　完掘状況N33～N34（東から）

PL.78　完掘状況（東から）

PL.79　完掘状況南拡張N34～N35（南から）



PL.80　完掘状況南拡張N34～N35（北から）

PL.81

※（写）は写真撮影のみ

S001

S002

S002

S002

S002

S002

S002・S003

S008・S002

S002・ピット150

S002（写）

S006・S004

S006

S006

S006

S002・S050

S006

S006

PL.82

S006

S006

S005・S006（写）

S006（写）

S006（写）

S006（写）

S006（写）

S006（写）

S006（写）

S006（写）

S008・S006（写）

S007

S007・S049

S008・S007

S007

S008

S009

S009

PL.83

S009（写）

S011

S011

S011（写）

S013

S023

S039・S024

S035

S049

S042

S049

S050

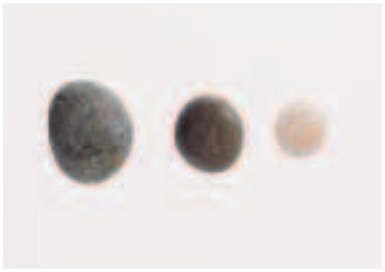
S050

S063・S060

S061

S063

S065


S067・S069

PL.84

S063（写）

S071・S060（写）

S067

S063・ピット111

S069

S069

S073

S080

ピット365・ピット327

ピット407・ピット450

ピット405

ピット37・2層

1区

ピット371・S062

S064

ピット117

S064X線写真

PL.85

ピット347・ピット350

ピット127（写）

ピット697・701・15・N32

ピット501

ピット568・ピット575

ピット708・ピット598

O・P―15カクラン

ピット697

ピット697・ピット612

ピット708

O・P―16・ピット731（写）

ピット101・ピット122

ピット123・ピット155

ピット62―1・ピット92

ピット54・表土はぎ

ピット114

ピット215・ピット234

ピット267

PL.86

ピット239・ピット332

ピット328

ピット635（写）

ピット114（写）

ピット398（写）

ピット704・O・P―26（写）

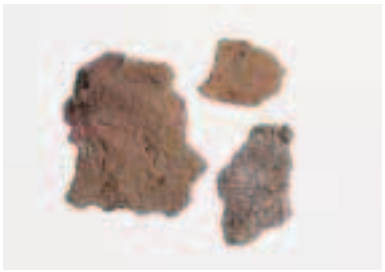
ピット215・ピット71（写）

ピット352（写）

2層（写）

ピット370（写）

ピット114（写）


2b層・ピット128・ピット387（写）

ピット169

ピット328

O・P―29・ピット378（写）

表土はぎ

O・P―29

N33

PL.87

O・N―26・27

N33

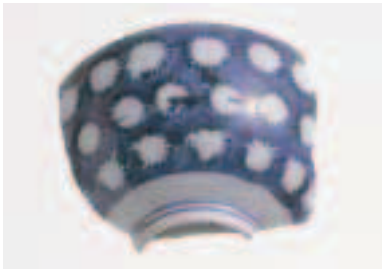
N34

O13・2層

N32

2層

層位不明

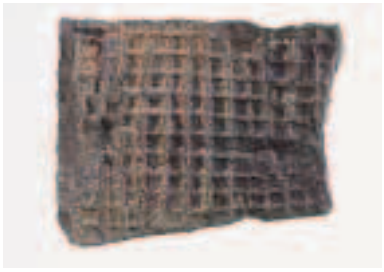

層位不明

層位不明

層位不明

N32

N27（写）


O・P―29（写）

O・N―29、30

O22（写）

表土はぎ・O26（写）

O24・N33（写）

N32（写）

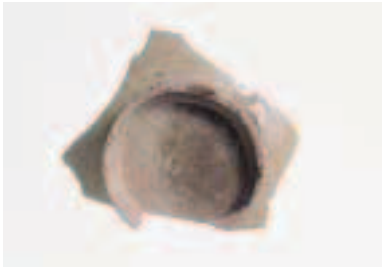
PL.88

表土はぎ（写）

N32・ピット396（写）

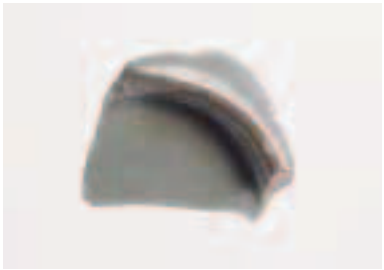
ピット658

ピット544（写）

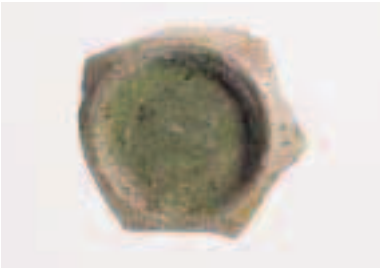

1区2層（写）

O22（写）

O17（写）


層位不明（写）

N54（写）


N33

2区2層・O34、35（写）

層位不明（写）

O・P―29（写）

層位不明（写）

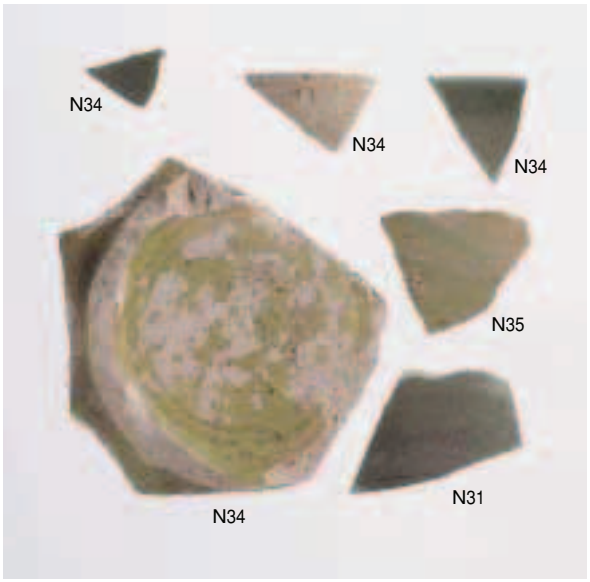
O・P―23（写）

N33

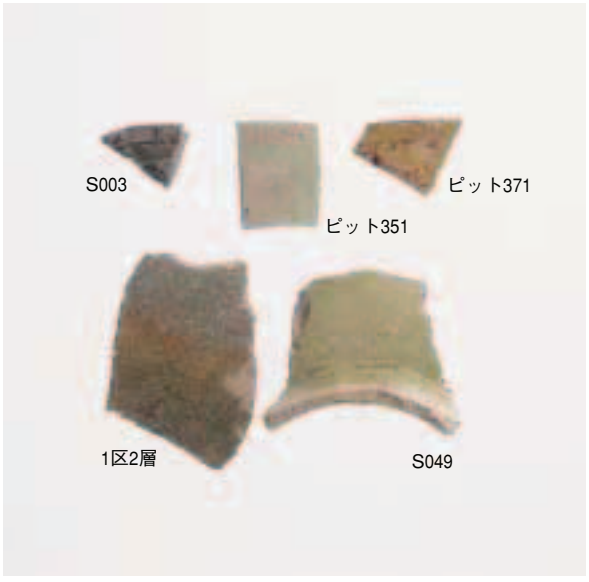
N33（写）

N32・O34、35・N34（写）

PL.89



緑釉陶器（写）



緑釉陶器（写）

ピット内出土被熱レキ（写）

ピット内出土被熱レキ（写）

ピット内出土被熱レキ（写）

ピット内出土被熱レキ（写）

第 6 節　熊本駅前の調査

１．遺構と観察表

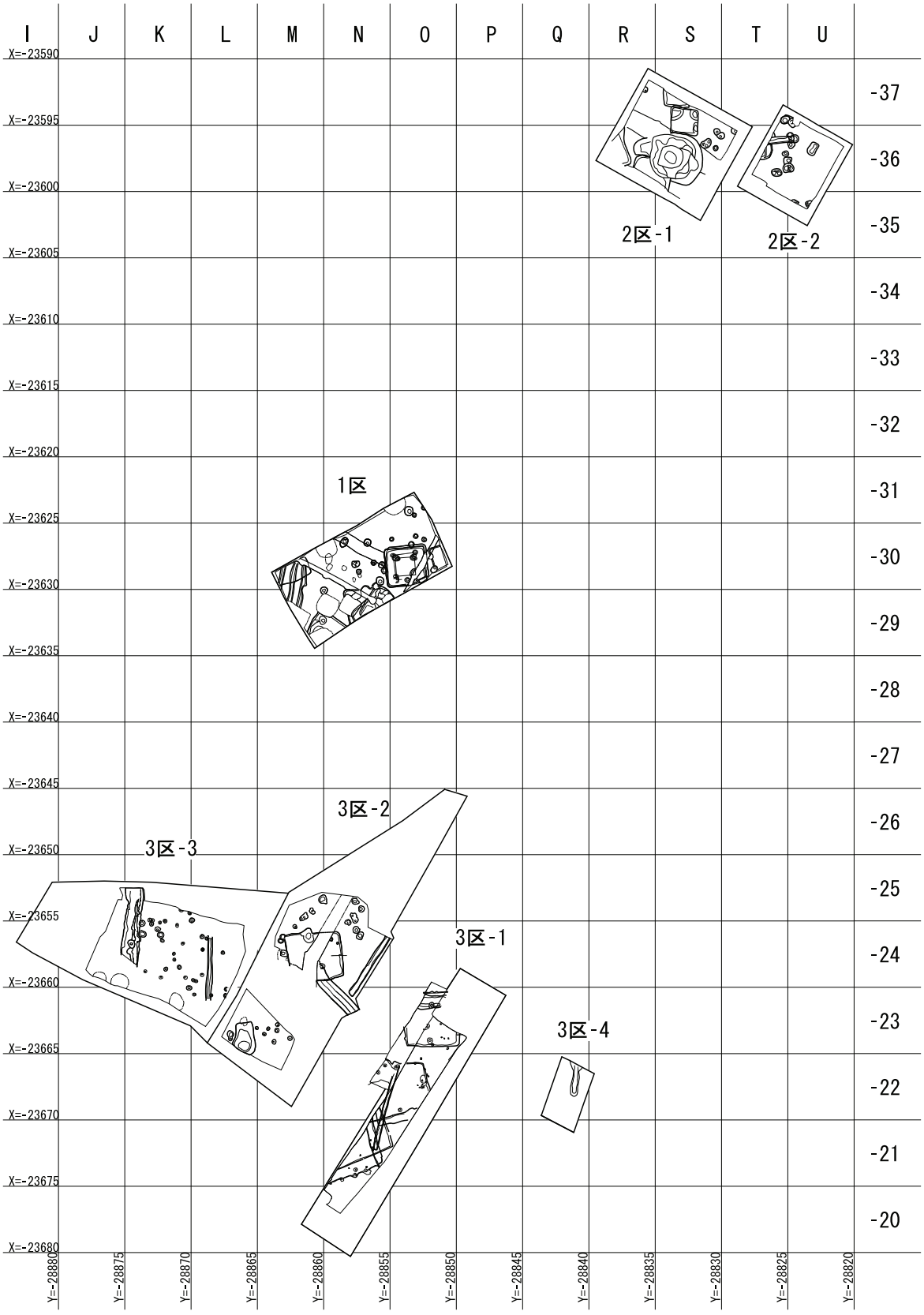


Fig.1　駅前調査区全体図（S＝1/450）

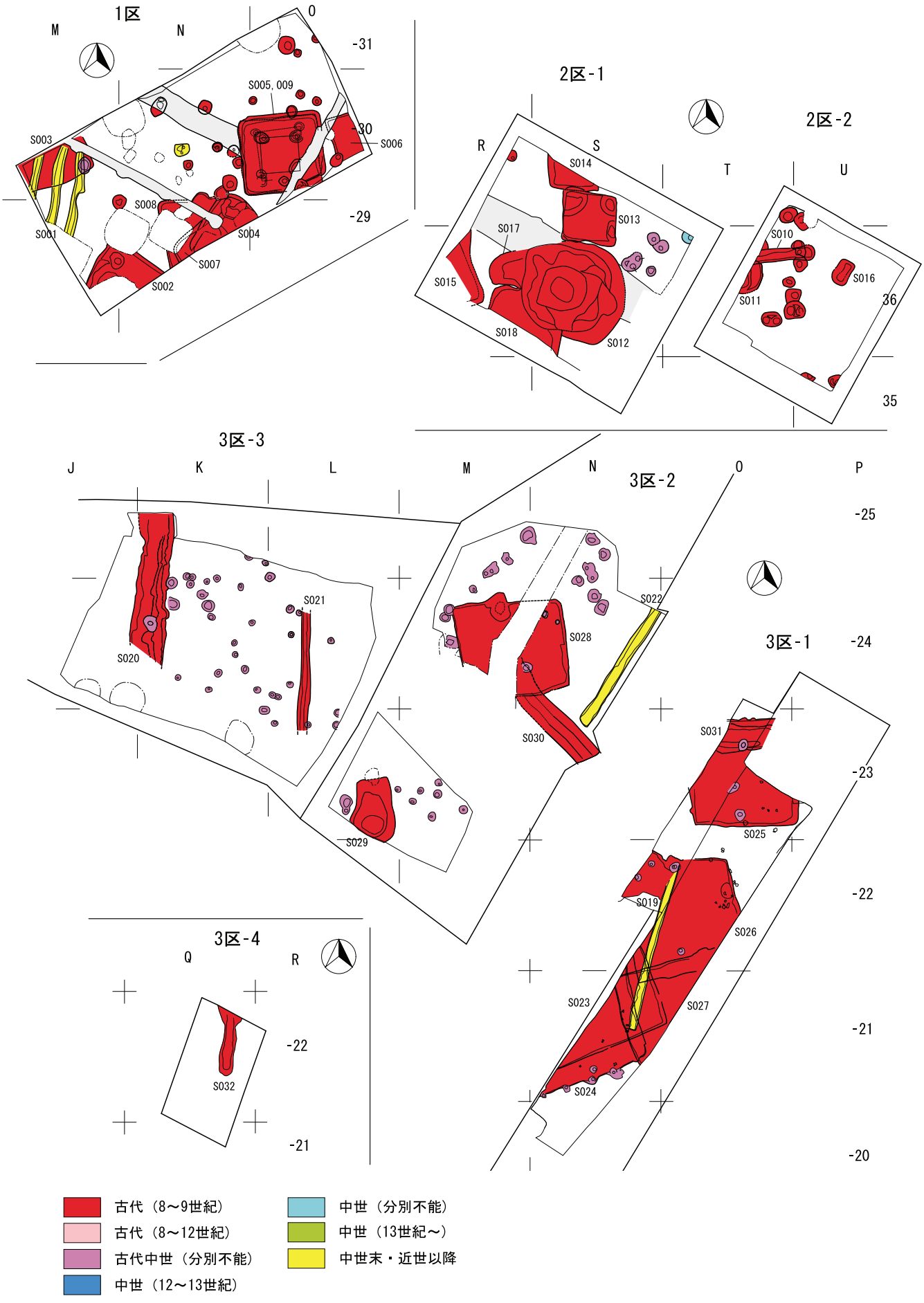


Fig.2　時期別遺構配置図（S＝1/200）

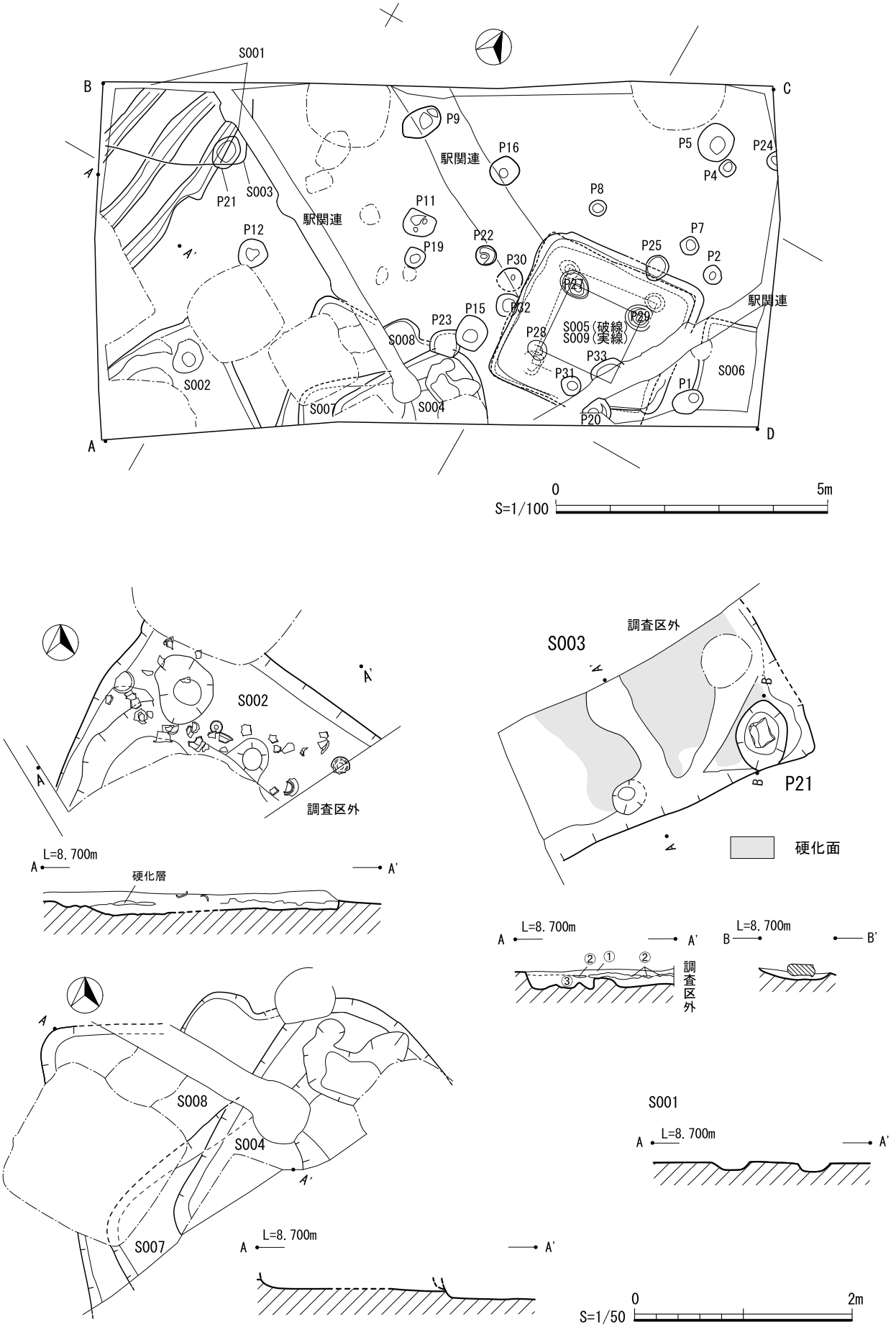


Fig.3　1区遺構配置図及びS002～004・007・008（竪穴住居），S001（溝群），P21実測図

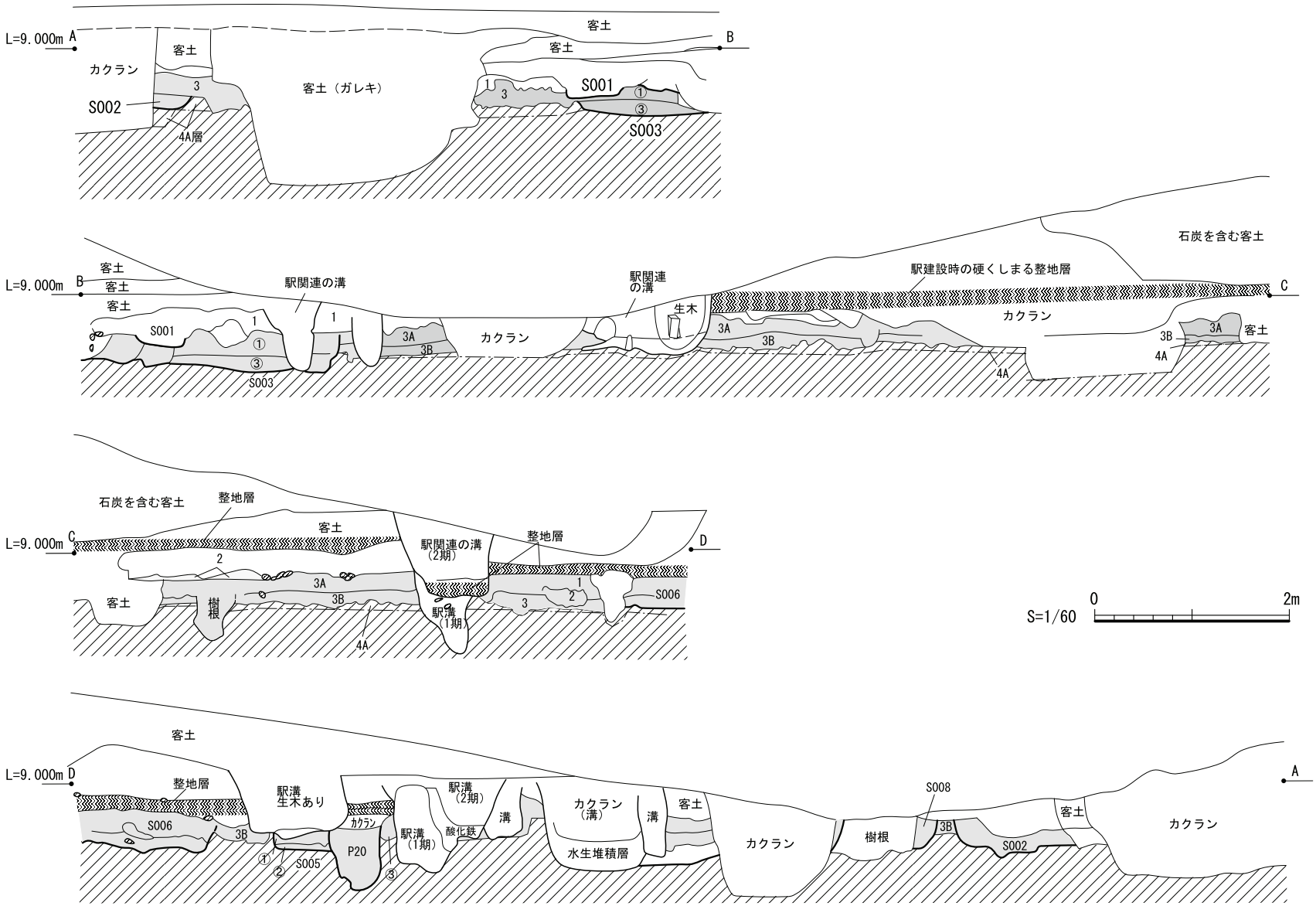


Fig.4　1区壁土層断面図（S=1/60）

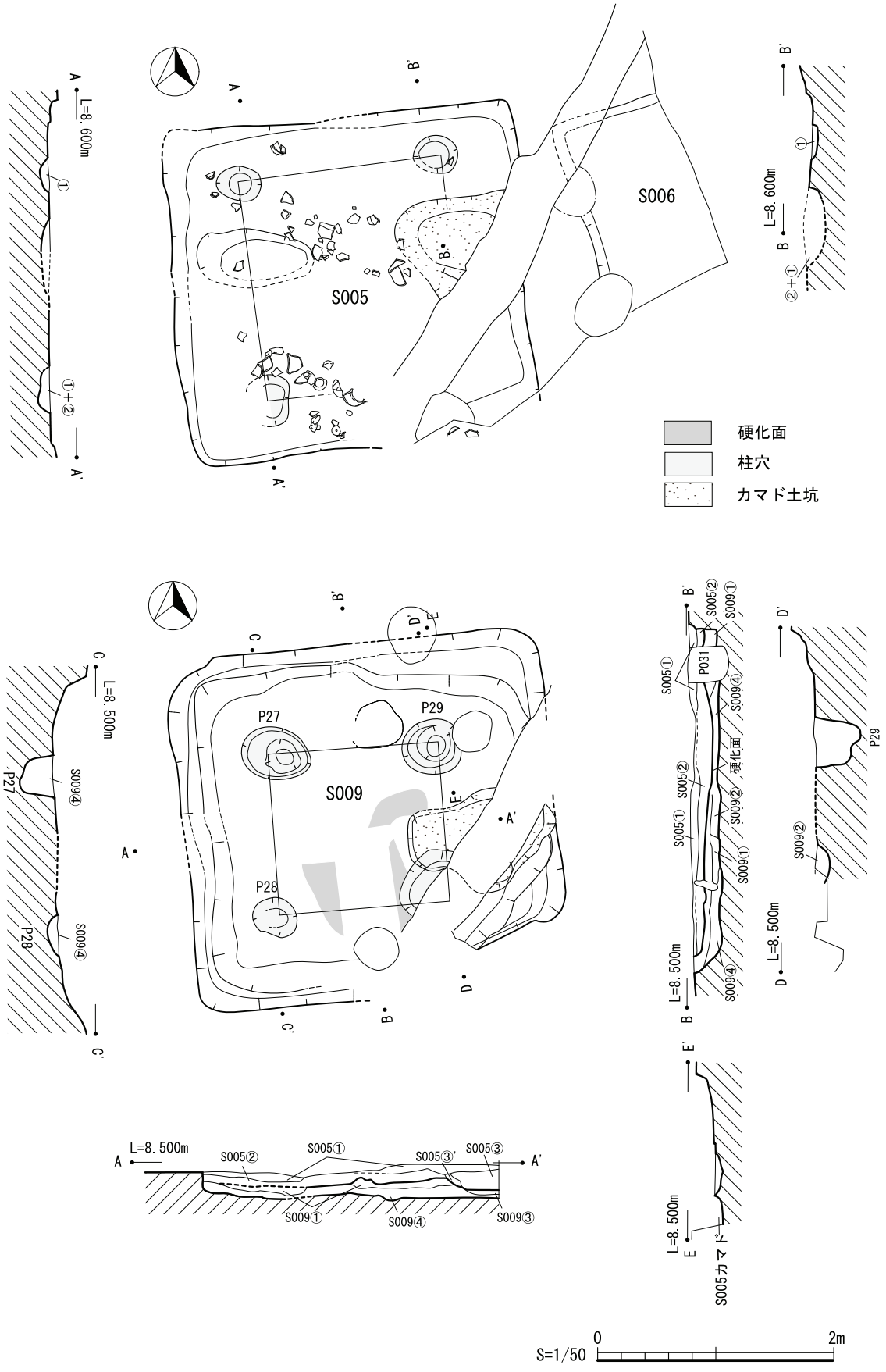


Fig.5　S005・009（竪穴住居）実測図

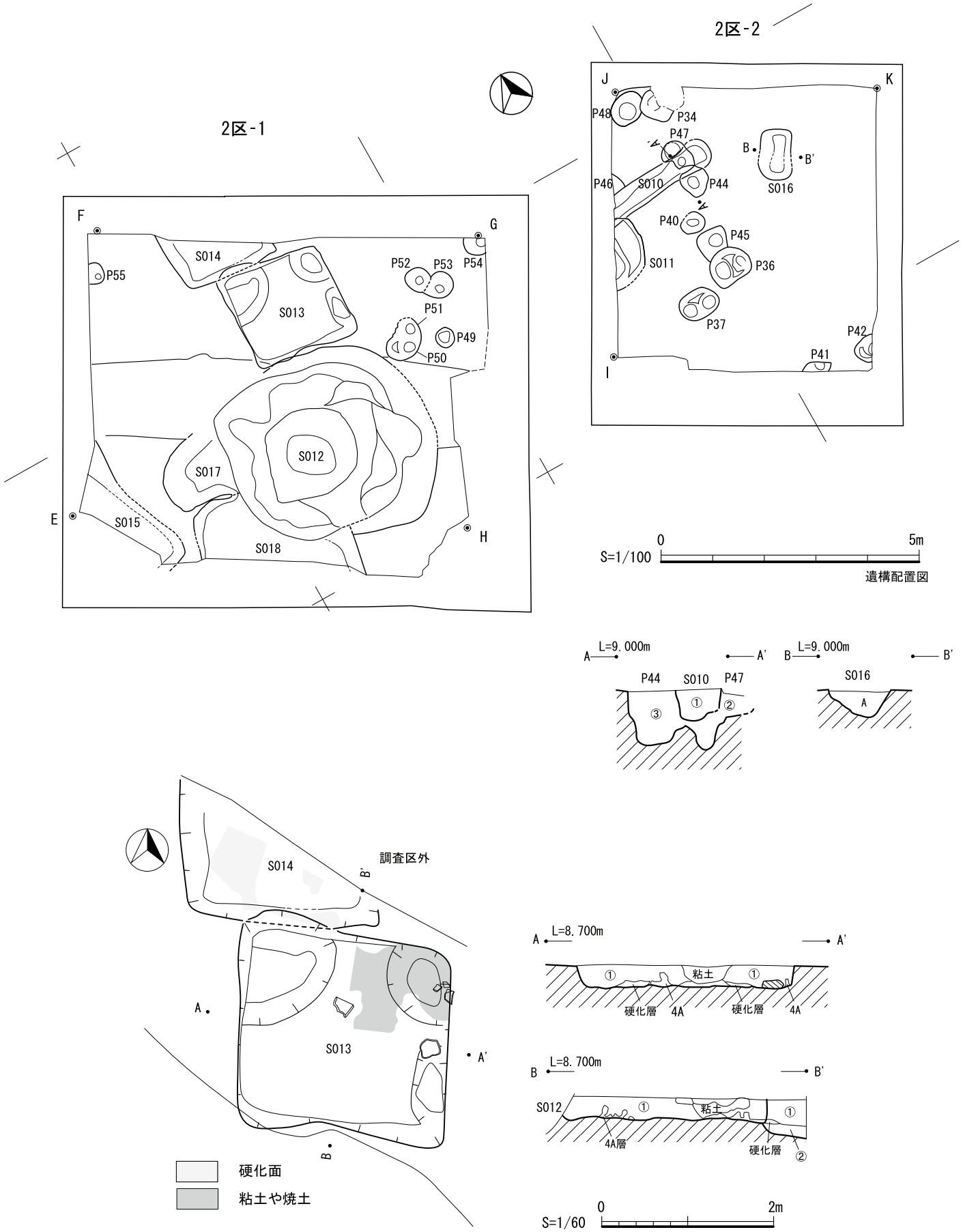


Fig.6　2区-1・2遺構配置図及びS010（溝），S013・014（竪穴住居），P44・47実測図

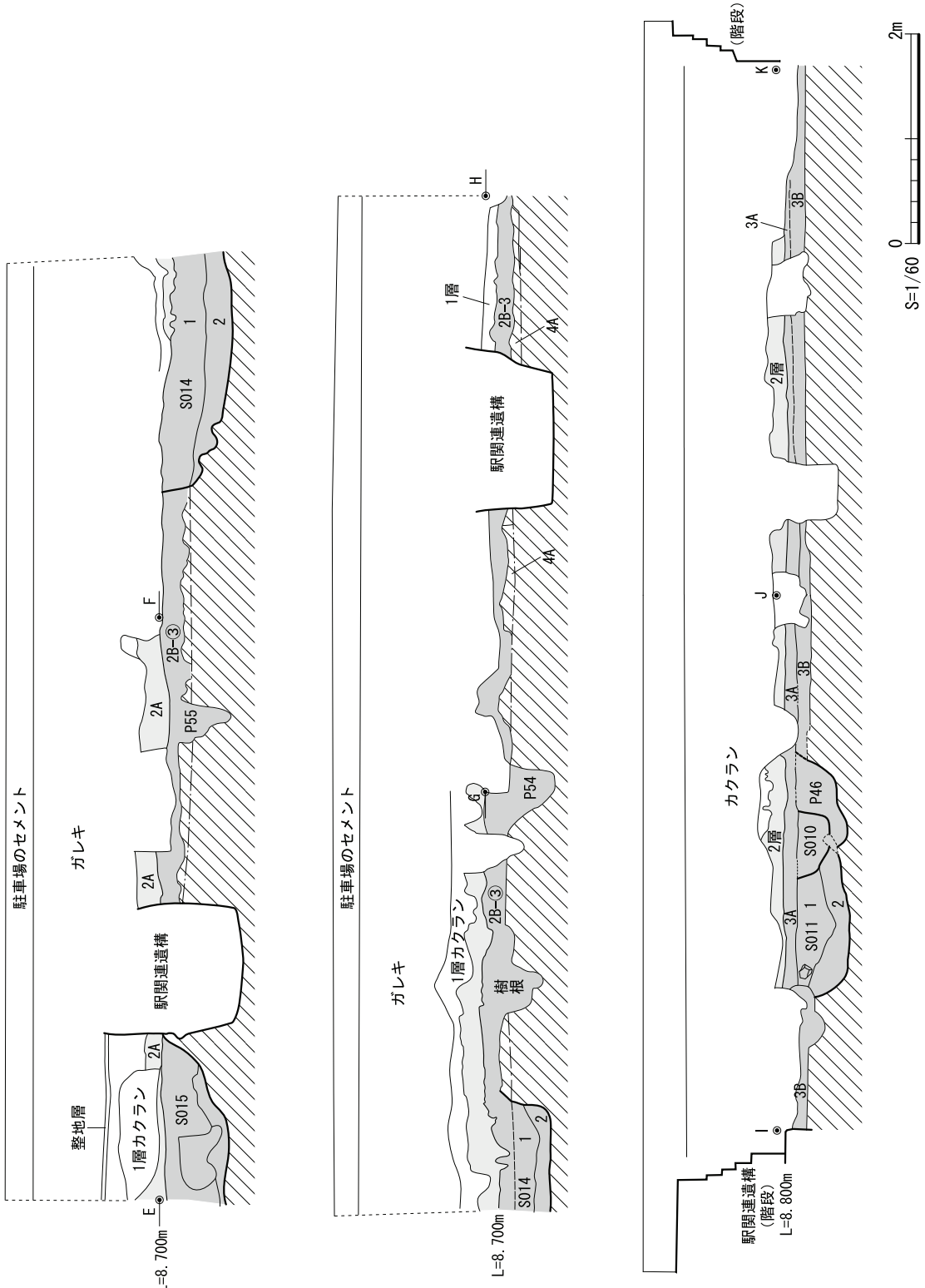


Fig.7　2区-1・2壁土層断面図（S=1/60）

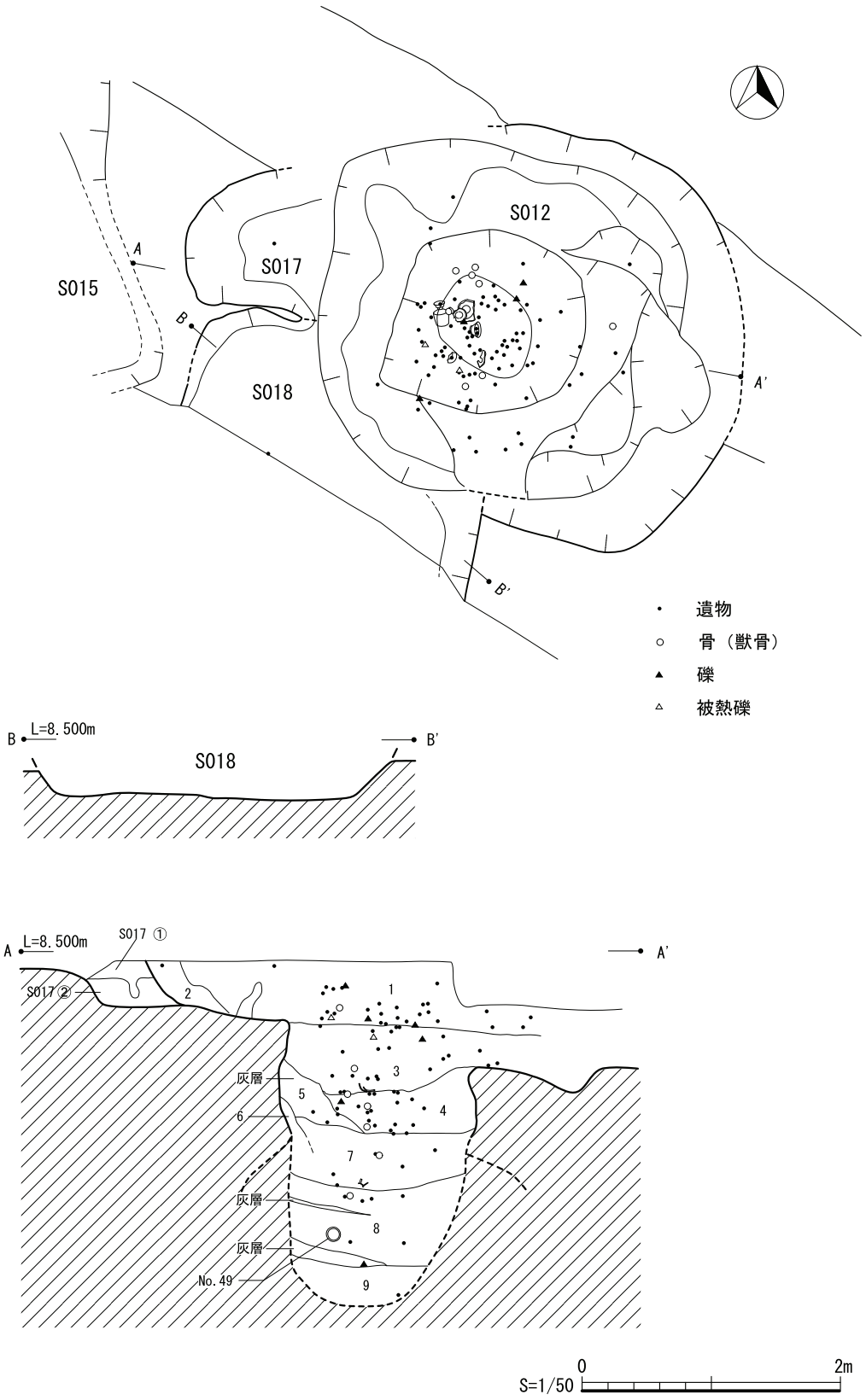


Fig.8　S012（井戸），S015・017（竪穴住居），S018（土坑）実測図

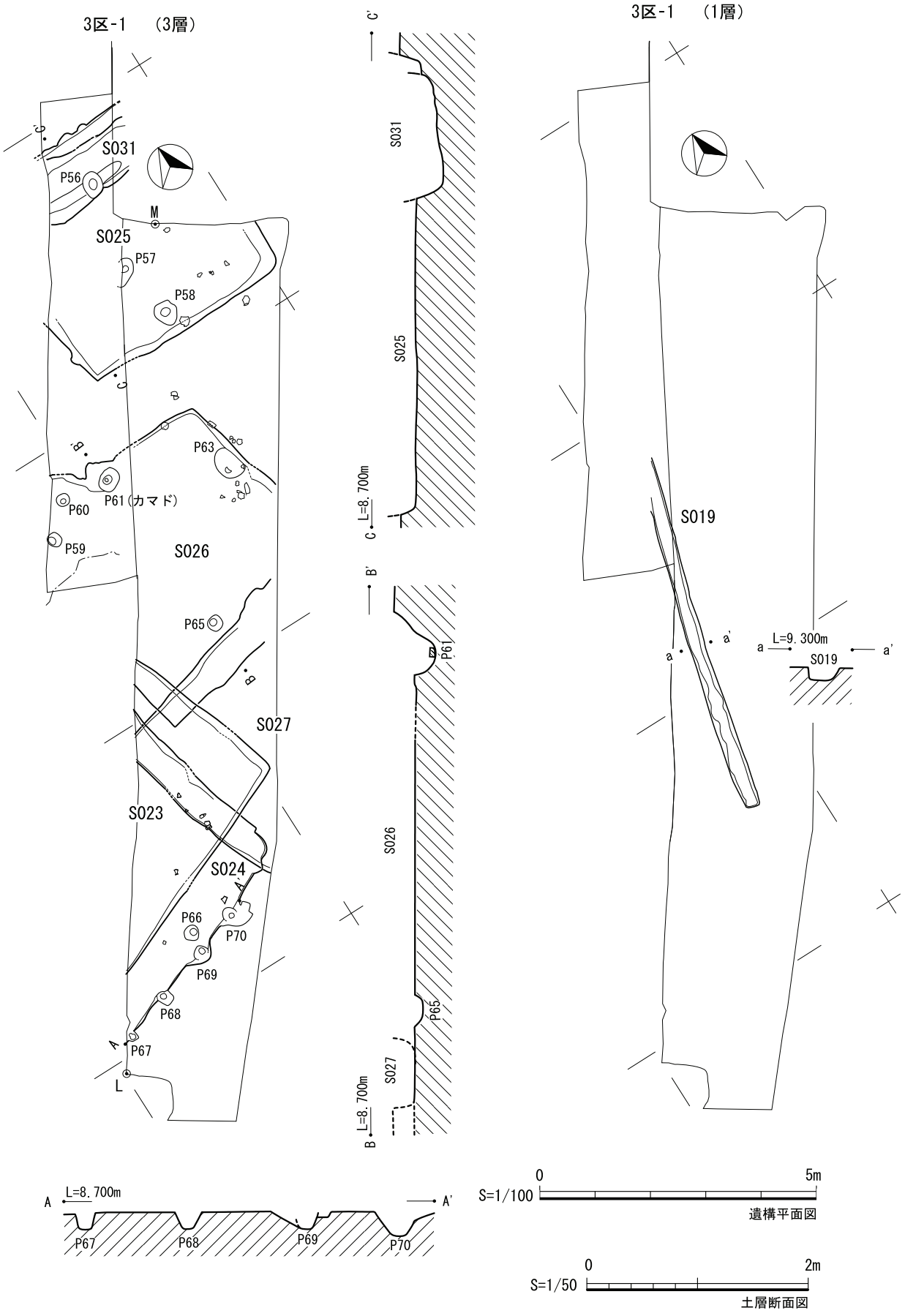


Fig.9　3区-1　遺構配置図及びS025・026・027（竪穴住居），S031（溝），ピット断面図

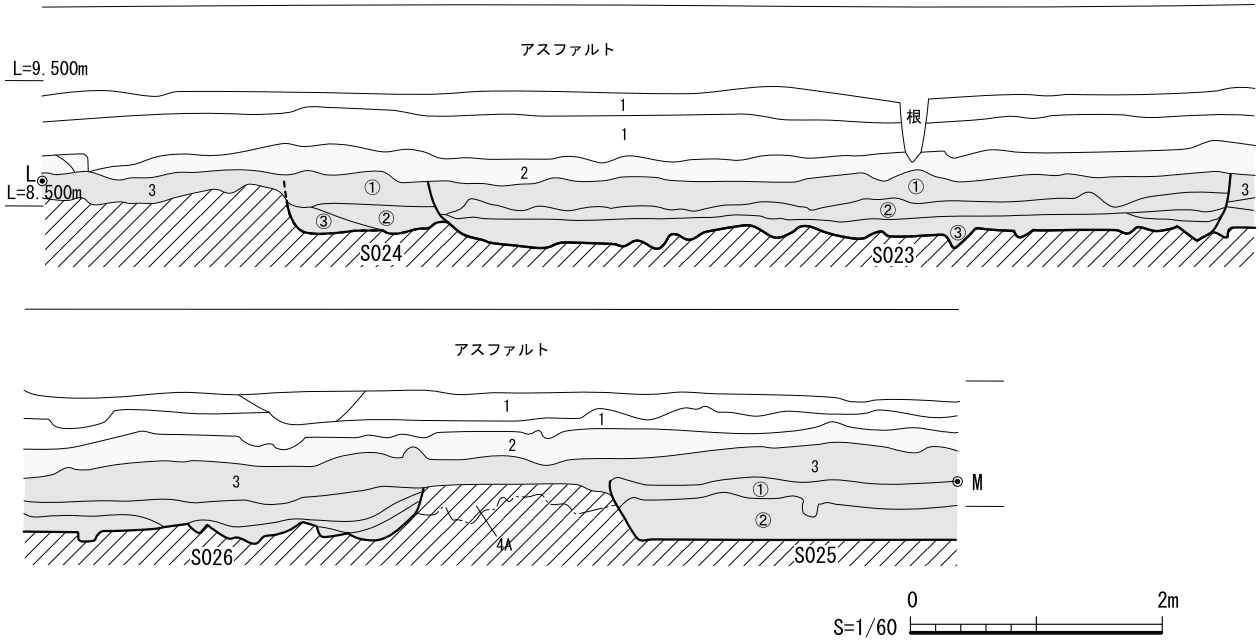


Fig.10　3区-1　壁土層断面図（S＝1/60）

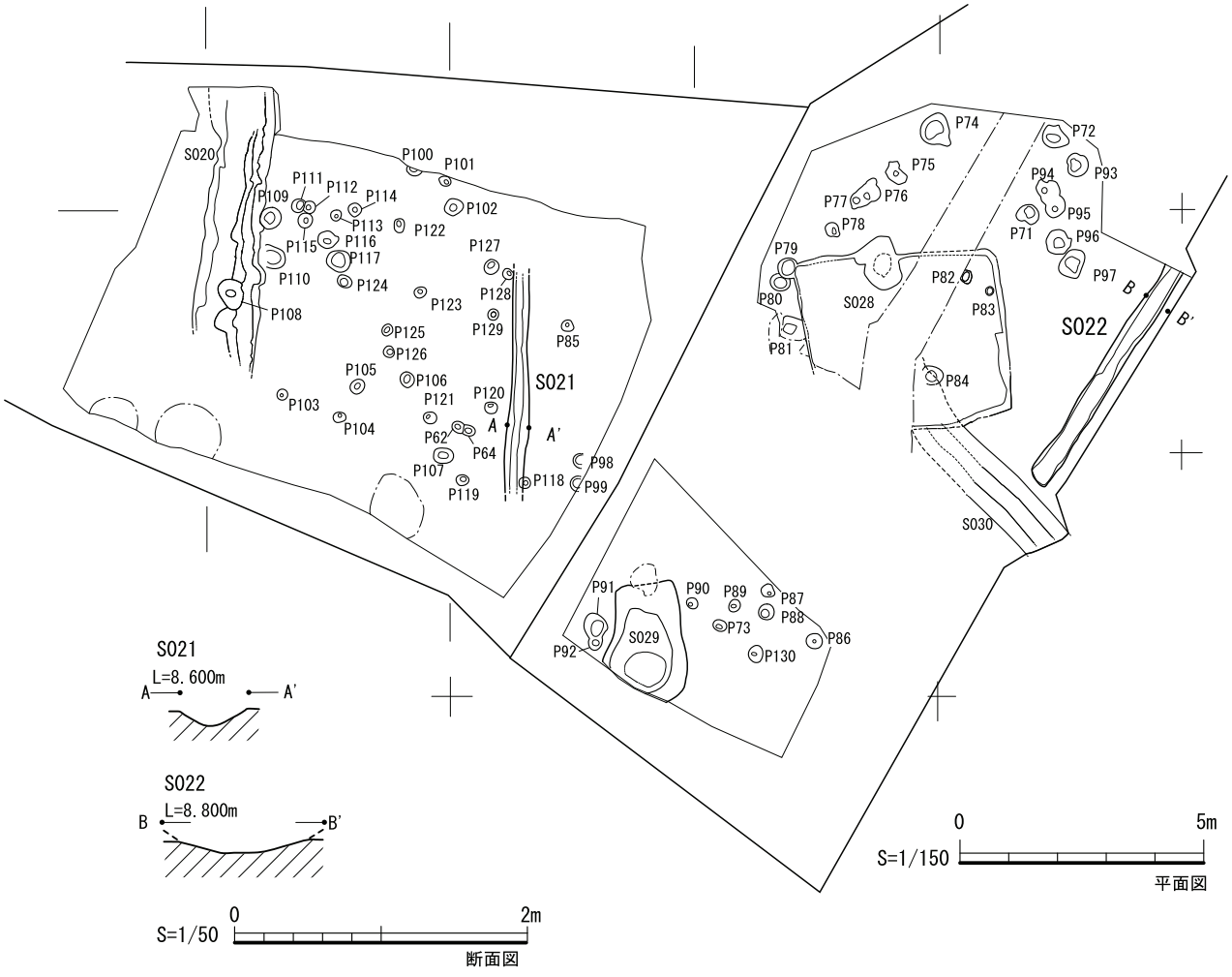


Fig.11　3区-2・3遺構配置図及びS021・022（溝）断面図

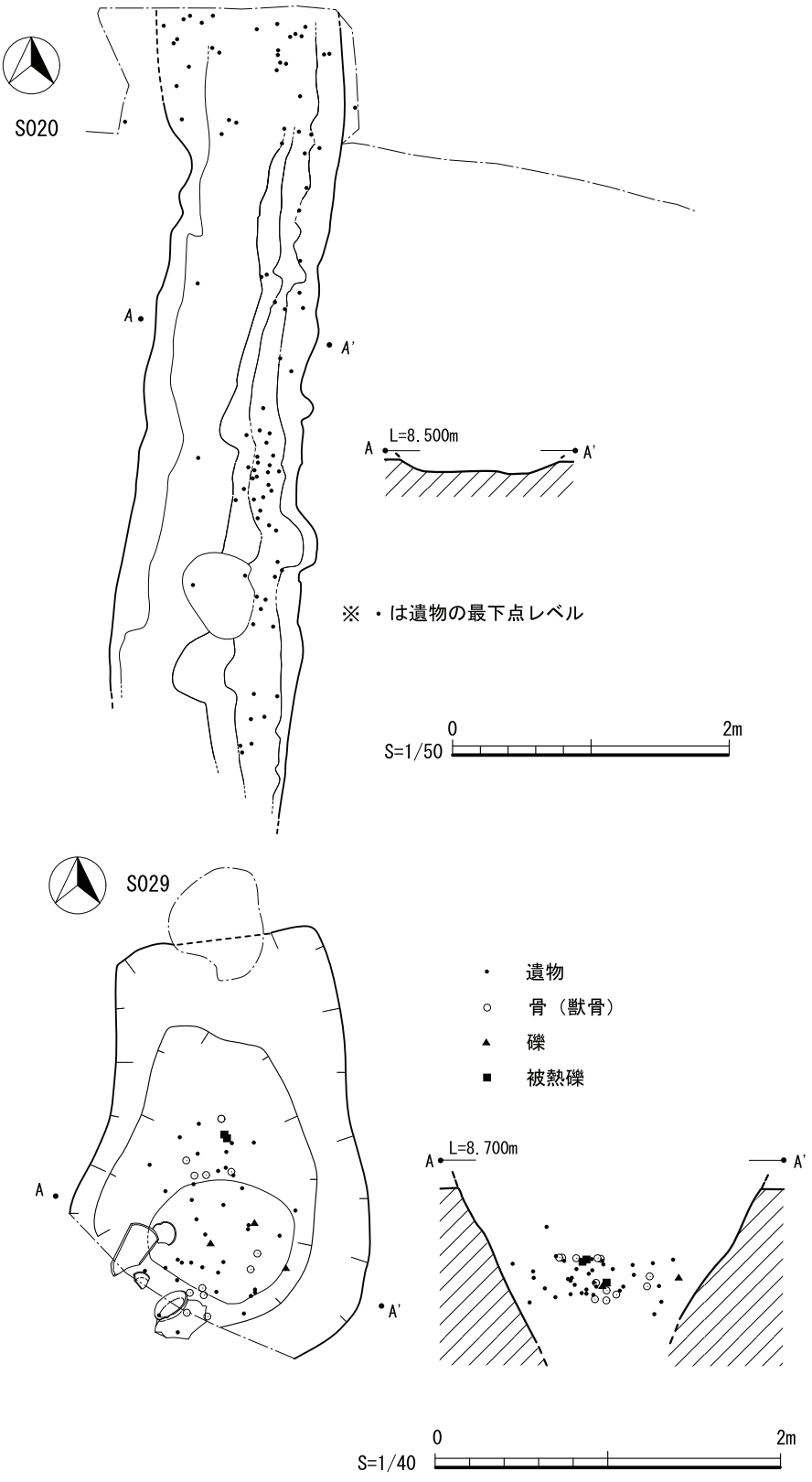


Fig.12　S020（溝），S029（井戸）実測図及び遺物出土状況

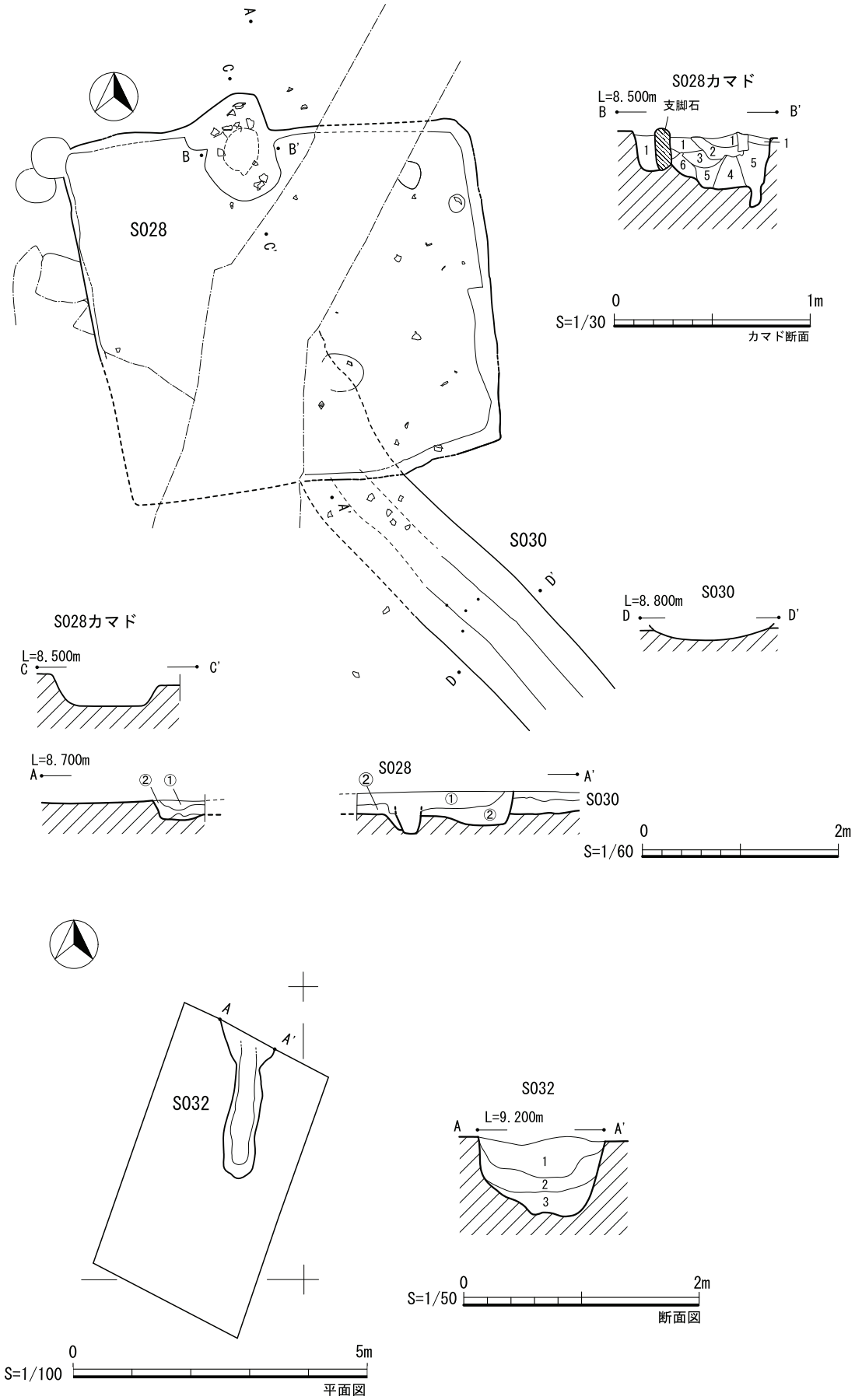


Fig.13　S028（竪穴住居），S030（溝）実測図及び3区-4　S032（溝）実測図

Tab.1　駅前遺構観察表(1)

区	遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物と出土量	遺構の所見	切り合い関係等
1	S001	溝群	中世～近世？	1.55～	0.3～	0.10	※時期判定の遺物なし。古代、縄文の土器427g。	埋土は1層。畑の畝間溝と考えられる。古代の遺構を切る。中世に遡る可能性あり。	S003、P21を切る南北方向の溝。
1	S002	竪穴住居	古代(8C後)	2.2～	2.15～	0.30	※8世紀後半、荒尾産、遺物多し。須恵器、土師器3959g。	遺構の本来の大きさは不明。	カクランに切られ、調査区外にのびる。
1	S003	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	2.62	1.36～	0.30	※遺物は355g、小片40点、うち赤彩土師器片10点を含む。	遺構の本来の大きさは不明。埋土より古代であることは明確。	S001、P21を切り、調査区外にのびる。
1	S004	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	2.70	1.19～	0.18	※遺物は909g、赤彩土師器片含む。土錘2点出土。	遺構の本来の大きさは不明。切り合い関係複雑。	(古)S008→S004→S007(新)P23から切られる。
1	S005	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	3.01	2.76	0.06	※8C後～9C前半の遺物多し。須恵器、土師器など7237g。	柱穴4本あり。S009の建て直しと考えられ、ほぼ同じ形状。遺物は床面から20cmほど浮いた状況で出土。	(古)S009→S005(新)P20.25.32から切られる。
1	S006	竪穴住居？	古代(8C後～9C中代)	1.76～	1.62～	0.36	※赤彩土師器：2点のみ79g。	遺構の本来の大きさは不明。	P1に切られ、調査区外にのびる。
1	S007	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	2.08～	0.72～	0.12	※須恵器、土師器3点のみ、218g。	遺構の本来の大きさは不明。	(古)S008→S004→S007(新)
1	S008	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	2.55～	2.26～	0.08	※須恵器、土師器2点のみ、184g。	遺構の本来の大きさは不明。	(古)S008→S004→S007(新)
1	S009	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	3.20	3.00	0.35	※須恵器、土師器など754g。	P27、28、29、33は柱穴。S005より深い。S005との切り合い関係からほぼ同時期と判断。	(古)S009→S005(新)P20.25.32から切られる。
2-2	S010	溝	古代(8C後～9C代)	2.1～	0.64	0.30	※須恵器、土師器550g。	2区一1では未確認、短い溝か。	S011,P44,46,47を切る。
2-2	S011	土坑	古代(8C後～9C代)	1.40	0.57～	0.52	※須恵器、土師器599g。	竪穴住居の可能性もある。	S010に切られ、調査区外にのびる。
2-1	S012	井戸	古代(9C第3四半期)	4.01	3.66	3.20	※9C代の遺物多し。須恵器、土師器、瓦など92197g。	上層、中層に遺物集中区あり、灰・焼土層や獣骨も伴い出土。井戸にまつわる祭祀の様相。	S013、018-1、018-2を切る。
2-1	S013	竪穴住居	古代(9C第3四半期以前)	2.02	1.85	0.20	※須恵器、土師器など1339g。	小型の住居跡。9世紀代か。	(古)S014→S013→S012(新)
2-1	S014	竪穴住居	古代(9C第3四半期以前)	2.65	1～	0.37	※須恵器、土師器614g。	8世紀中葉の須恵器椀出土。	(古)S014→S013→S012(新)
2-1	S015	竪穴住居？	古代(8C～9C代)	2.78以上	0.95～	0.43	※土師器65g。	床面わずかに残存。	調査区外にのびる。
2-2	S016	土坑	古代(8C後～9C代)	0.99	0.59	0.37	※土師器1点：20g。	埋土が特異なため土坑とした。	切り合い無し。
2-1	S017	竪穴住居	古代(9C第3四半期以前)	2.94	1.3～	0.36	※須恵器、土師器、黒色土器1665g。	1辺およそ3mのやや小型の住居跡。	S012に切られるが、S017との切り合い関係は不明。調査区外にのびる。
2-1	S018	土坑	古代(9C第3四半期以前)	1.38～	1.14～	0.39	※土師器1点：45g。	井戸のステップの可能性もあるが、断面で分層できるため、別遺構とした。	S012に切られるが、S017との切り合い関係は不明。

※遺物は、ビニール11号袋(８分目)で約650g、13号袋(８分目)で約1200g、【46×62×19】cmの大きさの網コンテナ(８分目)で約15000gの重量。

Tab.2　駅前遺構観察表(2)

区	遺構番号	遺構名	遺構時期	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物と出土量	遺構の所見	切り合い関係等
	S019	溝	中世～近世？	6.1～	3	0.13	出土遺物なし。	遺物なく、確実な時期決定要素はないが、埋土が1層。耕作に伴うものか？S022に酷似。	S023,24,26,27を切る。
	S020	溝	古代(8C後～9C代)	5.72	1.17	0.34	※須恵器、土師器など2037g。	南北方向に伸びる溝で遺物多い。	P108～110に切られ、調査区外にのびる。
	S021	溝	古代	4.52	0.31	0.11	出土遺物なし。	南北方向に伸びる溝。S020に平行するが出土遺物なし。	P118に切られる。
	S022	溝	中世～近世？	5.9～	0.4	0.16	※白磁片1点：6g。	遺物なく、確実な時期決定要素はないが、埋土が1層。耕作に伴うものか？S019に酷似。	調査区外にのびる。
3-1	S023	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	4.4	2.9～	0.14	※出土遺物は19g。	方形の大型住居。8C後～9C初か。	(古)S027→S024.26→S023(新)
3-1	S024	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	4.9	1.8～	0.22	※出土遺物は36g。	方形のやや大きな住居。8C後～9C初か。	(古)S027→S024.26→S023(新)
3-1	S025	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	4	4	0.21	※出土遺物は301g。	方形のやや大きな住居。8C後～9C初か。	S031から切られる。
3-1	S026	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	4.1	4.2	0.20	※出土遺物は2653g。	方形のやや大きな住居。8C後～9C初か。カマド残存。	(古)S027→S024.26→S023(新)
3-1	S027	竪穴住居	古代(8C後～9C中)	2.7～	1.2～	0.16	※出土遺物は654g。	方形のやや大きな住居。8C後～9C初か。	(古)S027→S024.26→S023(新)
3-2	S028	竪穴住居	古代(8C末～9C初)	3.5	4.1	0.16	※出土遺物は2519g。	出土遺物は8世紀末～9世紀初頭。カマド残存。	S030、ピットを切り、撹乱・溝から切られる。
3-1	S029	井戸	古代(8C後～9C代)	2.13	1.72	1.8～	※出土遺物は656g。	7世紀後半～8世紀中の遺物多い。牛の歯も出土。危険性高く未完掘。	調査区外にのびる。
3-3	S030	溝	古代(9C初以前)	4.8	1.1	0.21	※出土遺物は70g。	S028から切られるため9世紀初頭以前。	S028kara切られる。
3-3	S031	溝	古代	1.2	2～	0.2～	出土遺物なし。	埋土から古代。東西に伸びるが全容不明。	S025を切り、調査区外にのびる。
3-2	S032	溝	古代	0.5	2.3～	0.65 (壁面確認)	出土遺物なし。	埋土から古代。南北に伸びるが全容不明。	調査区外にのびる。

※遺物は、ビニール11号袋(８分目)で約650g、13号袋(８分目)で約1200g、【46×62×19】cmの大きさの網コンテナ(８分目)で約15000gの重量。

Tab.3　駅前遺構土層注記表(1)

遺構番号	層名	色調		備考
S001	1	5YR4/1	灰色砂質土	基本土層1層と同じ
S002	3	5YR1/3～4/1	オリーブ黒色砂質土	基本土層3層と同じだが硬化層を境に分層。
S003	①	10YR2/2	黒褐色土	きめが細かく砂質というよりやや土壌化が進んでいる。2～3㎜大のカーボン、焼土、カマドの粘土のブロック(1～5㎜大)を所々含む。
	②	10YR2/2	黒褐色土	硬化層
	③	10YR2/2	黒褐色土	やや砂質が強い。4A層の褐色と混じる層。
S004	1	10YR3/3	暗褐色砂質土	きめが細かく、部分的に10YR4/6褐色砂質土が混じっている。
	2	10YR3/3	暗褐色砂質土	きめが細かく、部分的に10YR4/6褐色砂質土が混じっている。
	3	10YR2/3	黒褐色砂質土	きめが細かく10YR4/6褐色砂質土が入っている部分あり。
S005	①	2.5Y3/1～3/2	黒褐色砂質土	比較的よく混ざる。粗い砂が入る。
	②	2.5Y3/1	黒褐色砂質土	①より暗く砂質強い。ブロック状の部分が多い。下部はブロック状目立つ。①層との層界不明瞭。
	③		黒褐色砂質土	粗いブロック状に明瞭に焼土、4層、白粘土塊、炭化物多く混じる。カマドの覆土。
	③'			③に比べ、砂質の割合が高く、③と層界明瞭。カマド加工部と思われる。
S006	①	10YR2/2	黒褐色砂質土	やや目が粗い砂質土。1～2㎜大の褐色粒を所々に含む。
	②	10YR2/2	黒褐色砂質土	3～20㎜大のカマドの粘土ブロックを多く含む層。
	③	10YR2/2	黒褐色砂質土	目が細かく砂質土。その他は①と酷似。
S007	1	5Y3/1～4/1	オリーブ黒色砂質土	基本土層3層と同じ。
S008	1	10YR2/3	黒褐色砂質土	きめが細かい砂質土。2～3㎜大の4A、カーボン粒が所々に入る。
S009	①		オリーブ砂質土	砂質が強く、粗砂が多く入る。全体的にブロック状。
	②		黒褐色砂質土	S009ピット埋土。粗い砂が入るらず、粉っぽい土。上下層と明らかに異なる。
	③	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	S009カマド埋土。かなり砂質が強く、粗いブロック状。焼土は殆どなく、白粘土塊4層が多く入る。
	④			S009掘り方埋土。4層黒褐色砂質土とのブロック状。著しく砂質(4層が殆ど)の部分より。
S010	①	2.5Y4/1～3/1	黄灰色砂質土	粘質はないが、細かい感じで若干粗い砂が入っている。根跡が著しくよく観察できない。
S011	①	2.5Y3/1	黒褐色砂質土	全体的にブロック状で、4層の5～20㎜のブロックが目立つ。下部に炭化物が点々と入る。遺構埋土の中で、最も暗い埋土。他に比べ若干粘りあり。
	②	2.5Y3/1～4/1	黒褐色砂質土	5㎜くらいの4層ブロックが多く入る。上層に4層が混ざったような印象。
S012	1	10YR2/2	黒褐色砂質土	S017と比較すると砂質が強く、つぶすとボロボロになる。5～10㎜大のカーボン、2～3㎜大の褐色粘土を多く含む。遺物は古代の9世紀中ごろ。
	2	〃	〃	1層と同じだが2A、Bブロック(1～2㎝大多く含む。稀に5～7㎝大)を多く含む。
	3	10YR2/2	黒褐色砂質土	粘性はあるが、砂質が強い土。遺物多し。
	4	10YR2/2	黒褐色粘質土	きめが細かくて粘性が強い。しかし、若干の砂質もある。
	5	10YR2/2	黒褐色粘質土	灰を含む層(4層が基調)遺物多し。
	6	10YR2/2	黒褐色砂質土	4Bブロックを含み、やや色調が明るく、砂質が強い。
	7	10YR2/2	黒褐色粘質土	粘性強いが、やや砂質がある土。
	8	〃	黒褐色砂質土	上層と比較して、砂粒を多く含む層。しかし粘性がある。下層の灰を含む層あり。
	9	〃	黒褐色砂質土	最下層の砂質土。下層はプライマリーの砂質との区別がつきにくい。
S013	1	10YR2/3	黒褐色砂質土	きめがやや粗く、砂質が強い。他の1層を基調に混入物や硬さが異なる1～2㎜大のカーボンや褐色粒を所々に含む。
S014	1	10YR3/2	黒褐色砂質土	S013と比較して色調以外あまり相違ない。色調はより黒く、1～2㎜程度のカーボン褐色粒もやや少ない。
	2	10YR3/2	黒褐色砂質土	1層と比較してやや色調が明るい。4A、Bの影響。
S015	1	10YR2/2	黒褐色砂質土	
	2	10YR2/3	黒褐色土	褐色粒、カマドの粘土を含む層
S016	A		灰色砂質土	砂質強い。4層に3層がしみのように混ざる。上から下まで同じ。層界は比較的明瞭。

Tab.4　駅前遺構土層注記表(2)

遺構番号	層名	色　調		備　　考
S017	①		黒色砂質土	
	②			ブロックを含む砂質土。
S018	①	5Y3/1～4/1	オリーブ黒色砂質土	基本土層3層を基調とした砂質土。
S019	1	10YR5/4	にぶい黄褐色砂質土	粘性小、しまり小、遺物はほとんどないが、数点の小土器片が含まれる。
S020		7.5YR3/2	黒褐色土	黒褐色土に下層にいくほど4/6赤みのある褐色土が斑紋状に含まれる。
S021		5YR3/1～4/1	オリーブ黒色砂質土	基本土層3層を基調とした砂質土。
S022		5YR3/1～4/1	オリーブ黒色砂質土	基本土層3層を基調とした砂質土。
S023	①		灰褐色土	
	②	7.5YR5/2	灰褐色土	部分的に層から落ち込む。
	③	7.5YR4/2	灰褐色土	土色は②よりやや黒い、粘性小。①よりは少し砂が多い。しまり小、部分的に7.5YR4/4の土が混じる。
S024	①～③	5Y3/1～4/1	オリーブ黒色砂質土	基本土層3層
S025	①	10YR3/3	暗褐色砂質土	粘性はなく、粒はやや小さい。東側のみピンク色の土塊がブロック状に入る箇所がある。
	②	7.5YR3/2	黒褐色砂質土	粘性はほとんどなく、粒の大きさは1とほぼ同じ。部分的に黄褐色砂質土(10YR5/6)の混ざる部分がある。
S026	①	7.5YR4/2	灰褐色土	しまり小、粘性大。
	②	7.5YR3/3	暗褐色土	粘性ややあり、しまり小。
	③	7.5YR3/2	黒褐色土	粘性大、しまりややあり、橙色土が混じる。
	④	7.5YR8/2	灰白色土	粘性小、しまり大、カマドの一部分と思われる。
S027	1	5Y3/1～4/1	オリーブ黒色砂質土	基本土層の3層
S028	①	2.5YR4/2	灰赤色土	粘性ややあり、しまりやや大。燃焼土(おそらくカマドのもの)を含む。
	②	7.5YR3/3	暗褐色シルト	粘性小、しまり小、黄色土を多く含む。
	③	7.5YR5/4	にぶい褐色土	粘性小、しまり小、ピットの可能性あり。
S028カマド	1	7.5YR3/4	暗褐色砂質土	粘性小、しまり小
	2	7.5YR8/2	灰白色砂質土	粘性小、しまり小、灰混じり。
	3	10YR5/8	赤色土	粘性小、しまり大。
	4	7.5YR4/2	灰褐色土	粘性大、しまり小。
	5	7.5YR3/2	黒褐色土	粘性大、しまり小。
	6	7.5YR4/6	褐色土	
S029		5YR3/1～4/1	オリーブ黒色砂質土	基本土層3層を基調とした砂質土。
S030		5YR3/1～4/1	オリーブ黒色砂質土	基本土層3層を基調とした砂質土。
S031		5YR3/1～4/1	オリーブ黒色砂質土	基本土層3層を基調とした砂質土。
S032	1		暗褐色土	炭化物、土器片混ざる
	2		灰褐色土	炭化物混ざる。
	3		黄褐色土混じり 灰褐色土	

※S021・22・29・30・31は基本土層3層(オリーブ黒色砂質土：5YR3/1～4/1)

Tab.5　駅前ピット観察表(1)

※埋土は基本土層、上端・下端はレベル値

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
1	1区O-30	3層	57.5	42.0	0.54	8.56	8.02	―	12	367	3	65											S006、009を切る。
2	1区O-30	3層	35.5	32.5	0.26	8.44	8.18	―	2	33	2	58											
4	1区O-31	3層	31.5	29.5	0.51	8.46	7.95	―	7	48	1	9											
5	1区O-31	3層	70.0	68.0	0.35	8.47	8.12	―	19	290	7	98							軽石1	3			
7	1区O-30	3層	35.5	35.5	0.44	8.45	8.02	―	7	55	1	6											
8	1区O-30	3層	32.5	29.5	0.44	8.39	7.94	―	16	145	1	43											
9	1区N-30	3層	79.0	49.5	0.32	8.45	8.12	8.28															
11	1区N-30	カクラン	58.0	45.5	0.43	8.42	7.99	8.12	37	110													
12	1区M～N-29～30	3層	54.5	53.0	0.46	8.42	7.96	―	13	87	3	40											測量杭がのる。
15	1区N-30	3a層、少々カクラン入る	62.5	55.0	0.41	8.43	8.02	―	32	245	7	161											
16	1区N-30	3a層	52.5	49.0	0.54	8.43	7.88	―															
19		3a層	36.0	32.0	0.21	8.43	8.22	―	1	5													
20	1区O-30	3a層	47.5	―	0.45	8.39	7.93	8.01	28	238	2	19											S005を切り、調査区外にのびる。
21	1区N-30	2層～3層	56.5	54.5	0.07	8.39	8.32	―															根石あり。P17と同一。S003の礎石あり。
22	1区O-30	3層	38.0	37.0	0.33	8.42	8.09	8.41															
23	1区N-30	3層	55.5	―	0.10	8.35	8.25	―	2	118											縄文1	20	P15に切られる。
24	1区O-31	3層	35.0		0.37	8.45	8.08	―	5	42													調査区外にのびる。
25	1区O-30	3層	48.5	41.5	0.38	8.40	8.02	―	9	366	7	64											S009に切られる。
27	1区O-30	3層	49.0	44.5	0.17	8.16	7.99	8.00	1	17													S009に切られる。
28	1区O-30	3層	38.5	32.0	0.10	8.20	8.09	―															S009に切られる。
29	1区O-30	3層	49.5	46.5	0.45	8.20	7.75	7.95															S009に切られる。
30	1区O-30	3層	46.5	45.0	0.47	8.44	7.97	―	18	228	2	121											炭化物、粗い砂多く混ざる。S009に切られる。柱痕有り
31	1区O-30		38.5	36.5	0.32	8.24	7.91	―															S005の上から掘られる。
32	1区O-30	3層	42.0	38.5	0.27	8.35	8.08	―	21	185	3	33											炭化物、粗い砂多く混ざる。S009に切られる。
33	1区O-30	3層	64.5	―	0.16	8.24	8.08	―															S009に付す。
34	2区U-36～37	3層	―	―	0.23	8.46	8.23	―	8	52													P48を切る。
36	2区T～U-36	3層	82.0	65.5	0.52	8.50	7.98	8.10	17	121	10	159											2つのピットのような形状。根が多すぎて境界不明で平面でも輪郭がわからない。
37	2区U-36	3層	78.0	55.5	0.48	8.50	8.02	8.09	18	473	6	141											根跡のため柱痕不明。二つのピットの重なり。
40	2区T-36	3層	47.5	40.5	0.39	8.48	8.09	―	2	56	3	25											全体に著しい根跡。形状がピット状なのでそのままにしているが、根跡の可能性あり。
41	2区U-35	3層	45.0	―	0.45	8.51	8.06	―			1	41											歪な形も比較的境界明瞭。根跡の可能性も高いがピットとしておく。調査区外にのびる
42	2区U-35	3層	53.5	―	0.64	8.50	7.87	8.12	11	125													若干暗い。2つのピットの重なり、または抜き取り跡と思われる。調査区外にのびる
44	2区U-36	3層	54.0	54.0	0.55	8.46	7.91	―	21	193	6	63											P45と形状が似る。不正な形状も下端は丸い。S010に切られ、P47と切り合い不明。

Tab.6　駅前ピット観察表(2)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
45	2区T～U-36	3層	71.0	60.0	0.44	8.51	8.07	―	11	121	2	16											平面上端が歪だが深いしっかりしたピット。P36に切られる。
46	2区T-36	3層	78.0	―	8.49	8.49		―	2	23													根跡が多すぎて埋土の観察できず。確実性低いがP47と対応するかも。共に同じような形状でS010と関連するかも。下端部掘り過ぎのため深さ不明。調査区外にのびる
47	2区U-36	3層	66.5	―	0.20	8.41	8.20	―	7	47	1	15											P46と対応か。S010に切られる。P44を切る。
48	2区T-37	3層	71.5	56.0	0.52	8.45	7.93	―	15	226	2	12											P34に切られる。 他に比べ4層ブロックがかなり多く入り、全体的に色調が明るいが、3層ブロックは黒褐色2.3Y5/1。P34に切られ、調査区外にのびる。
49	2区S-36	2b層～3層	39.5	36.5	0.37	8.43	8.06	―	1	32													
50	2区S-36	3層	61.0	51.5	0.46	8.44	7.98	―	39	224	6	55			1	2			1	4			P51と切り合い不明。
51	2区S-36	3層	―	―	0.66	8.60	7.94	―															P50と切り合い不明。
52	2区S-36	3層	50.5	48.5	0.58	8.48	7.91	―	4	43	2	23	1	6									P53と切り合い不明。
53	2区S-36	3層	52.5	47.5	0.29	8.46	8.16	―															P52と切り合い不明。
54	2区T-36	2b層	―	―	0.42	8.45	8.03	―	16	90											碁石1	6	調査区外にのびる。
55	2区R-37	3層	41.0	―	0.42	8.38	7.96	―	1	7													調査区外にのびる。
56	3区O-23	2～3層	47	35	0.39	8.26	7.87	―															SI03に切られる。
57	3区O-23	2～3層	―	37	0.39	8.30	7.91	―															SI03に切られ、調査区外にのびる。
58	O-23	2～3層	46	41	0.32	8.26	7.94																
59	3区N-23	2～3層	26	24	0.33	8.31	7.98	―															SI04に切られる。
60	3区N-23	2～3層	24	22	0.22	8.27	8.05	―															SI04に切られる。
61	3区O-23	2～3層	42	34	0.23	8.30	8.07	―															支脚石出土のピット。SI04に切られる。
62	3区L-24	2～3層	―	23	0.09	8.37	8.28	―															P45と切り合い不明。
63	O-22	2～3層	60	40		8.30																	
64	3区L-24	2～3層	―	22	0.13	8.36	8.23	―															P44と切り合い不明。
65	O-22	2～3層	28	26	0.08	8.30	8.22																
66	N-21	2～3層	28	28	0.18	8.32	8.14																
67	N-21	2～3層	18	18	0.28	8.46	8.18																
68	N-21	2～3層	28	25	0.31	8.50	8.19																
69	N-21	2～3層	31	28	0.30	8.51	8.21																
70	N-21	2～3層	30	26	0.46	8.51	8.05																
71	3区N-24～25	2～3層	43	34	0.44	8.46	8.02	―	1	4													
72	3区N-25	2～3層	55	44	0.40	8.48	8.08	―	21	133	1	13			1	6							P7と接する
73	M-23	2～3層	28	22	0.12	8.40	8.28																
74	3区M～N-25	2～3層	71	64	0.41	8.40	7.99	―	10	56													
75	3区M-25	2～3層	51	30	0.21	8.43	8.22	―	4	22	3	81											
76､77	3区M-25	2～3層	65	35	0.29	8.43	8.14	―															
78	3区M-24	2～3層	33	26	0.17	8.45	8.28	―															
79	3区M-24	2～3層	―	43	0.50	8.46	7.97	―	5	23	3	27											P15を切り、SI06に切られる。

Tab.7　駅前ピット観察表(3)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
80	3区M-24	2～3層	―	41	0.32	8.47	8.15	―	4	56													P14に切られる。
81	3区M-24	2～3層	―	45	0.22	8.30	8.08	―	5	35	2	31											SI06に切られる。
82	3区N～M-24	2～3層	―	20	0.06	8.32	8.26	―															SI06P7に切られる。
83	N-24	2～3層	19	18	0.11	8.33	8.22																
84	M-24	2～3層	48	42	0.27	8.31	8.04																
85	3区L-24	2～3層	23	23	0.20	8.46	8.25	―															
86	3区M-23	2～3層	34	32	0.20	8.42	8.22	―	1	14													
87	3区M-23	2～3層	29	24	0.35	8.38	8.03	―															
88	3区M-23	2～3層	33	32	0.33	8.38	8.05	―	4	23	1	4											
89	3区M-23	2～3層	27	22	0.15	8.41	8.26	―			1	22											
90	3区M～N23	2～3層	24	22	0.20	8.40	8.20	―															
91、92	3区L-23	2～3層	76	28	0.26	8.41	8.16	―			1	2											
93	N-25	2～3層	47	46	0.39	8.44	8.05																
94	N-25	2～3層	45	43	0.28	8.43	8.15																
95	N-24	2～3層	44	38	0.43	8.45	8.02																
96	N-24	2～3層	50	50	0.39	8.44	8.05																
97	N-24	2～3層	59	43	0.25	8.44	8.19																
98	3区L-23	2～3層	―	27	0.10	8.45	8.35	―															調査区外にのびる。
99	3区L-23	2～3層	―	31	0.11	8.45	8.35	―															調査区外にのびる。
100	3区K-25	2～3層	―	31	0.37	8.46	8.09	―															調査区外にのびる。
101	3区K-25	2～3層	26	20	0.20	8.43	8.24	―															
102	3区K～L 24～25	2～3層	40	36	0.22	8.45	8.22	―															
103	3区K-24	2～3層	22	21	0.11	8.31	8.20	―															
104	3区K-24	2～3層	26	20	0.27	8.34	8.07	―															
105	3区K-24	2～3層	31.5	27	0.11	8.36	8.25	―															
106	3区K-24	2～3層	33	29	0.16	8.37	8.21	―															
107	3区K23～24 3区L-23	2～3層	40.5	31	0.15	8.36	8.20	―															
108	3区K-24	2～3層	―	65	0.25	8.22	7.96	―															SD02を切る。
109	3区K-24	2～3層	45	42.5	0.13	8.36	8.23	―															SD02を切る。
110	3区K-24	2～3層	―	46	0.03	8.35	8.32	―															SD02を切る。
111	3区K-24～25	2～3層	―	29	0.14	8.42	8.28	―															P68を切る。
112	3区K-24～25	2～3層	―	25	0.10	8.42	8.32	―															P69を切る。
113	3区K-24～25	2～3層	23	21	0.10	8.43	8.33	―															
114	3区K-24～25	2～3層	28	28	0.13	8.43	8.30	―															
115	3区K-24	2～3層	31	29	0.22	8.40	8.18	―															

Tab.8　駅前ピット観察表(4)

ピット番号	確認地点	埋土	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	上端(m)	下端(m)	中端(m)	(土師器)		(須恵器)		(陶磁器)		(黒色土器)		(瓦)		(石器)		(その他)		備　考
									数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	数	量(g)	
116	3区K-24	2～3層	42	36	0.33	8.42	8.09	―															
117	3区K-24	2～3層	49	44	0.20	8.40	8.20	―															
118	3区L-23	2～3層	24	23	0.14	8.43	8.29	―															SD03を切る。
119	3区L-23	2～3層	26	23	0.08	8.39	8.31	―															
120	3区L-24	2～3層	26	25	0.21	8.39	8.18	―															
121	3区K-24	2～3層	28	25	0.17	8.38	8.21	―															
122	3区K-24	2～3層	29	21	0.20	8.43	8.23	―															
123	3区K-24	2～3層	26	22	0.13	8.42	8.29	―															
124	3区K-24	2～3層	31	24	0.18	8.39	8.22	―															
125	3区K-24	2～3層	24	20.5	0.09	8.43	8.34	―															
126	3区K-24	2～3層	24	22	0.12	8.41	8.29	―															
127	3区L-24	2～3層	31	28	0.17	8.44	8.28	―															
128	3区L-24	2～3層	23	21	0.19	8.45	8.26	―															SD03を切る。
129	3区L-24	2～3層	23	22	0.15	8.44	8.28	―															
130	M-23	2～3層	35	29	0.18	8.38	8.20																

２．遺物と観察表

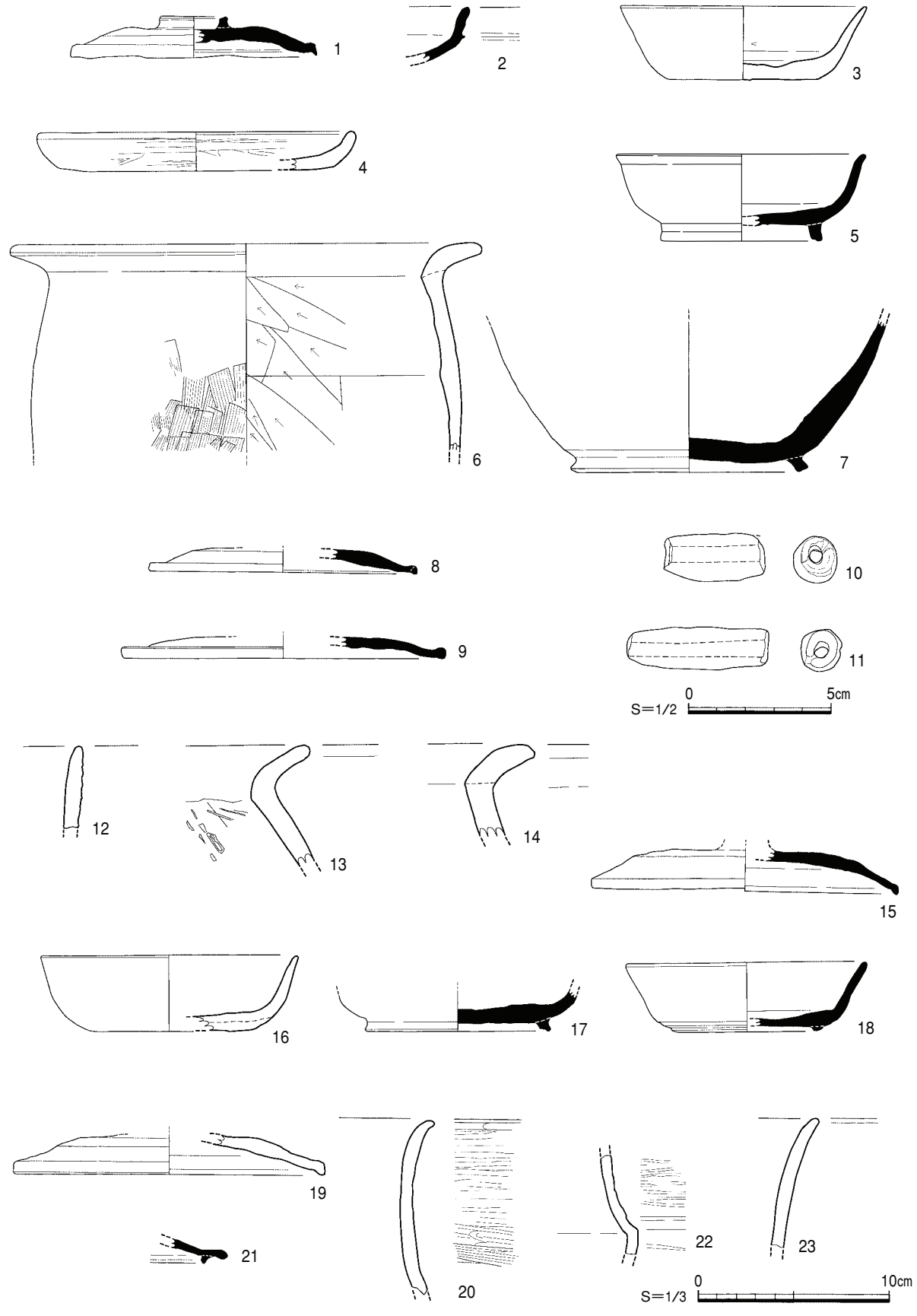


Fig.14　S002・004・005・007・009出土遺物実測図

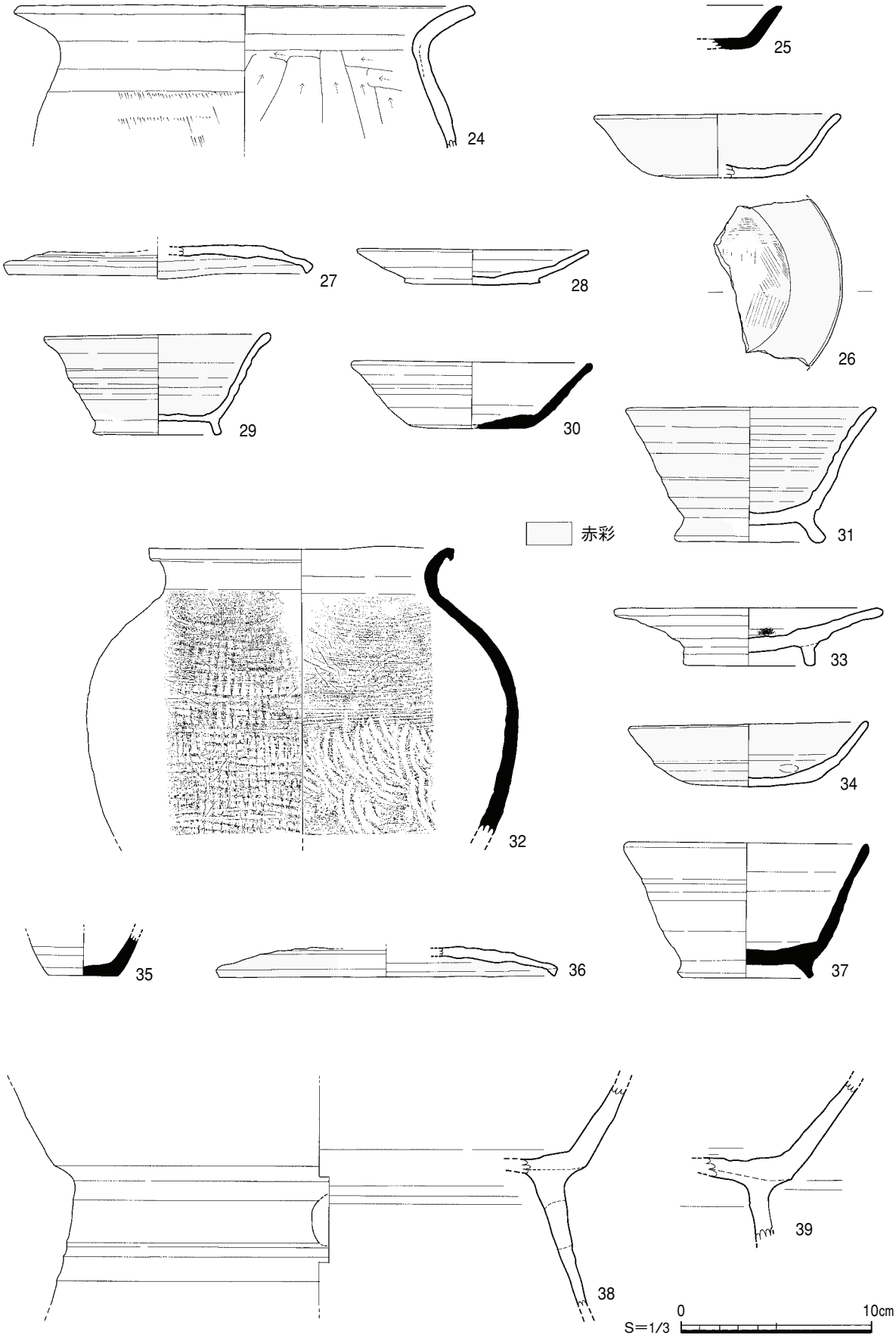


Fig.15　S010・011及びS012（1）出土遺物実測図

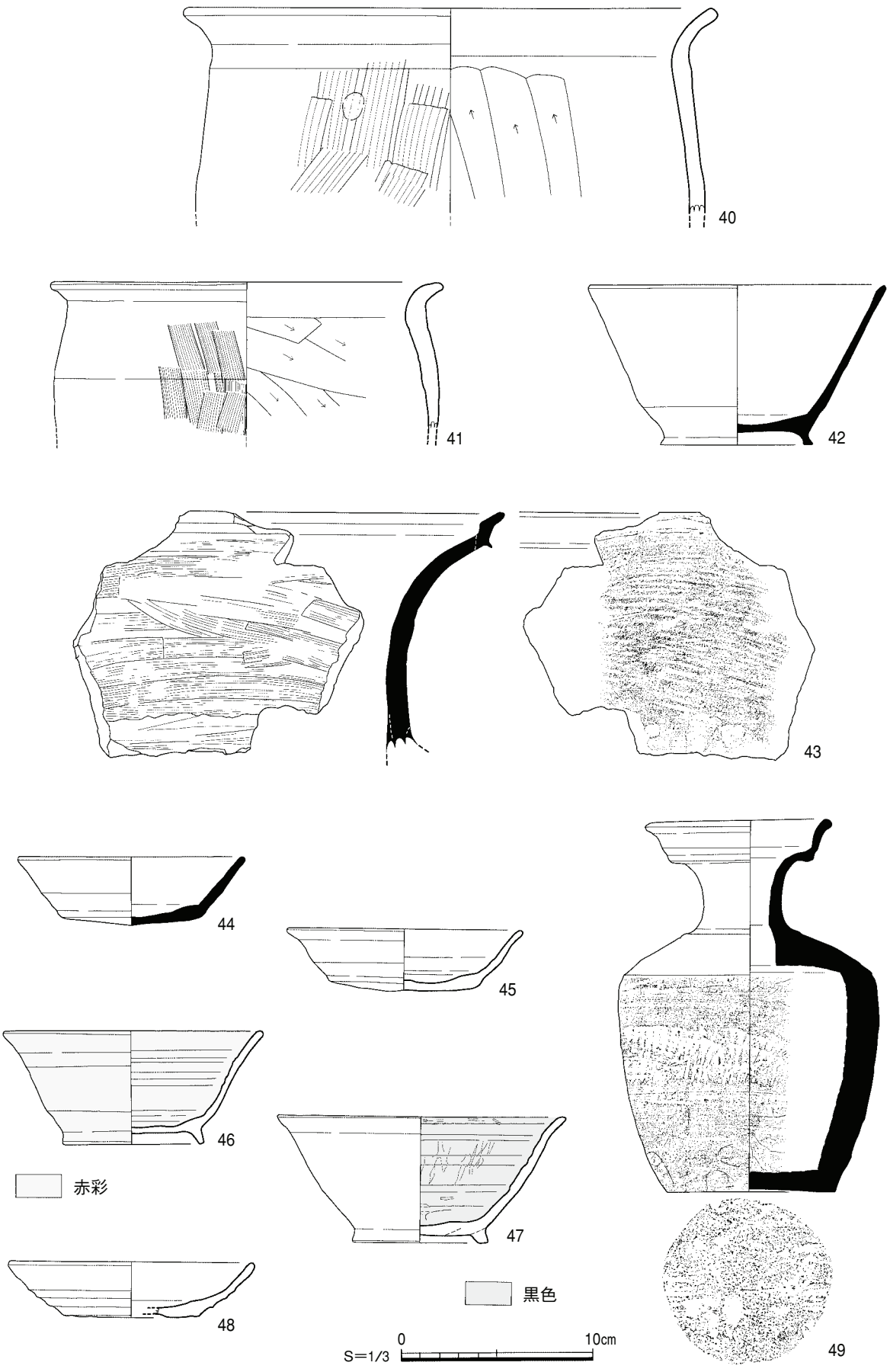


Fig.16　S012（2）出土遺物実測図

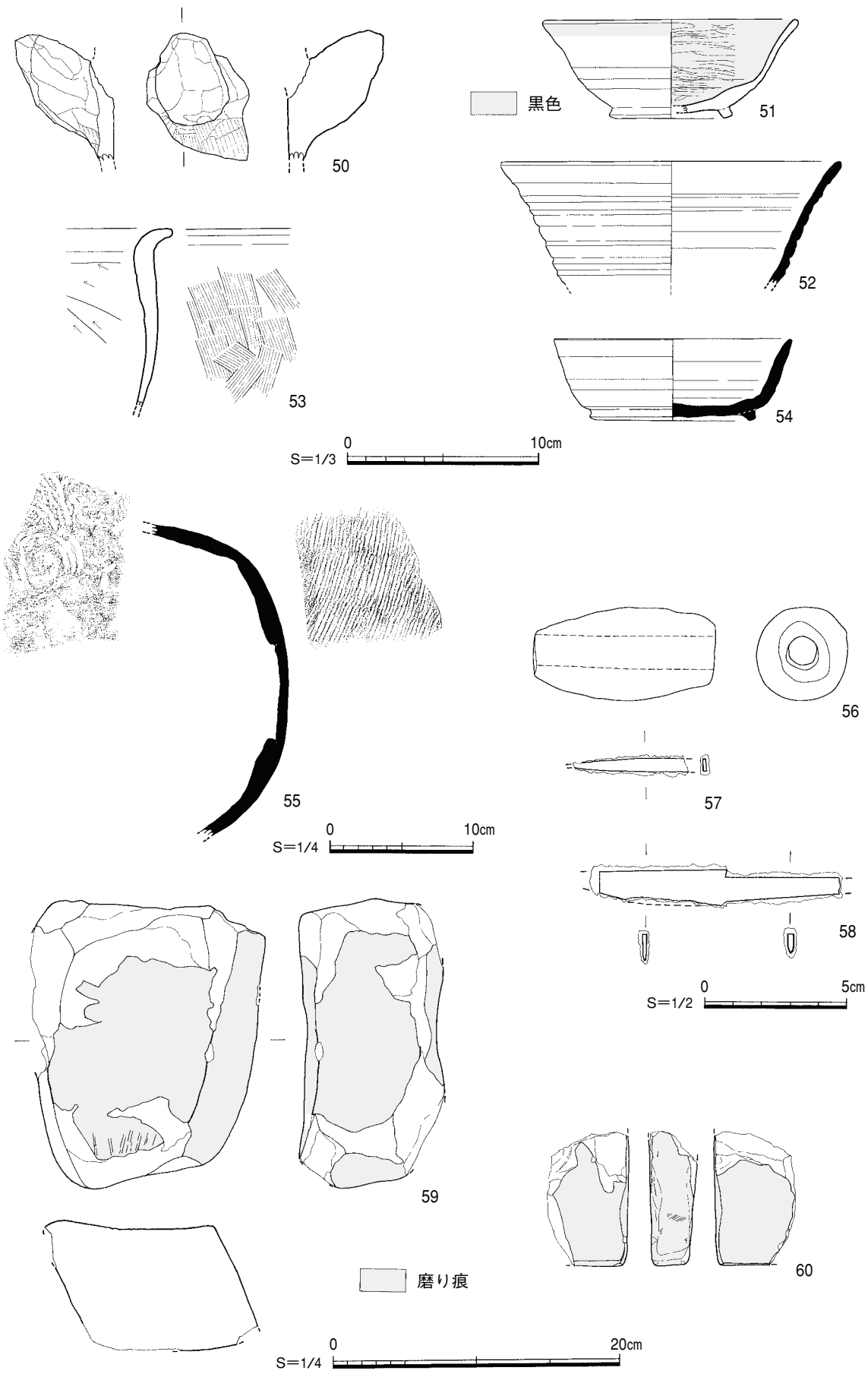


Fig.17　S012（3）・013・014出土遺物実測図

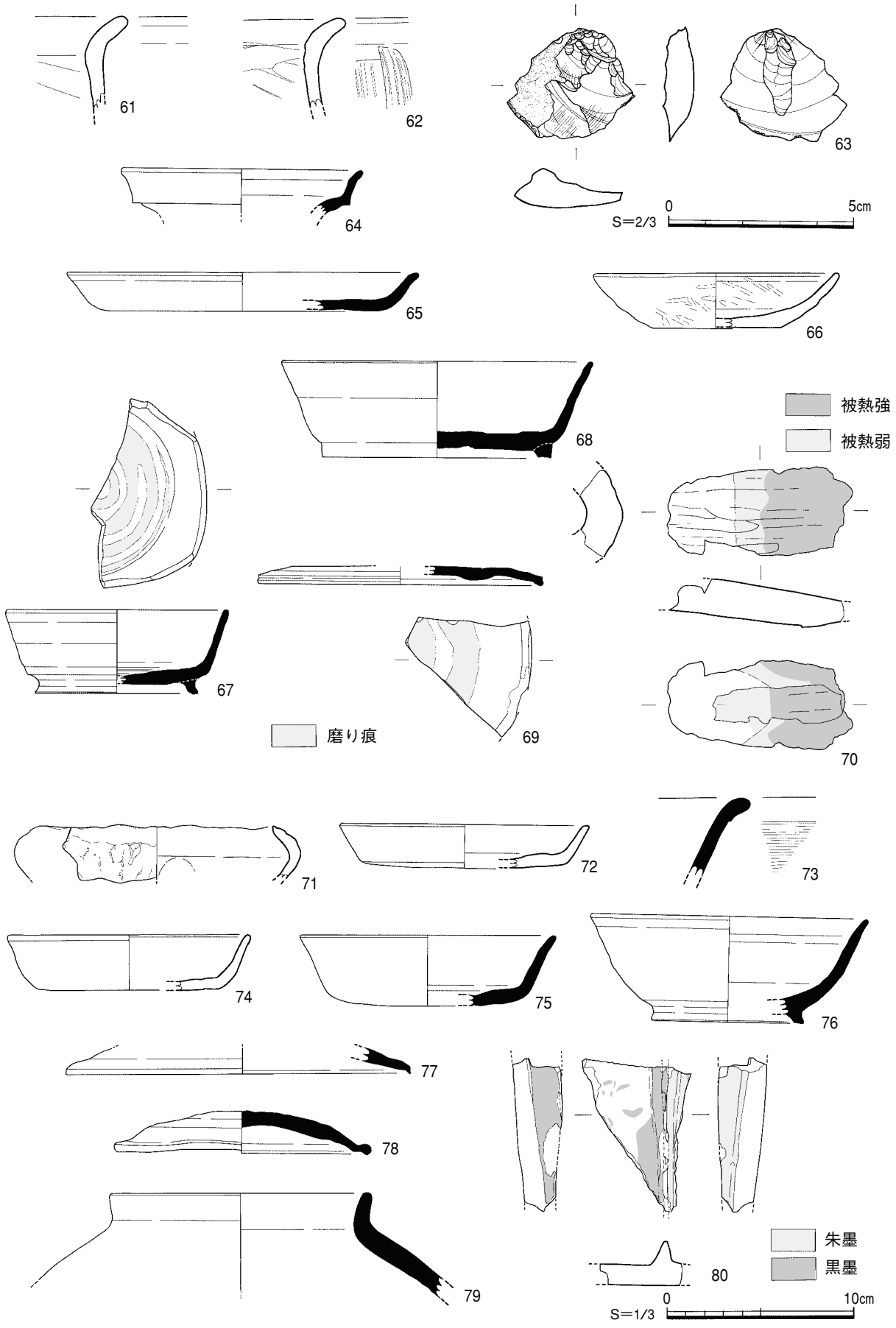


Fig.18　S020・023・024・026出土遺物実測図

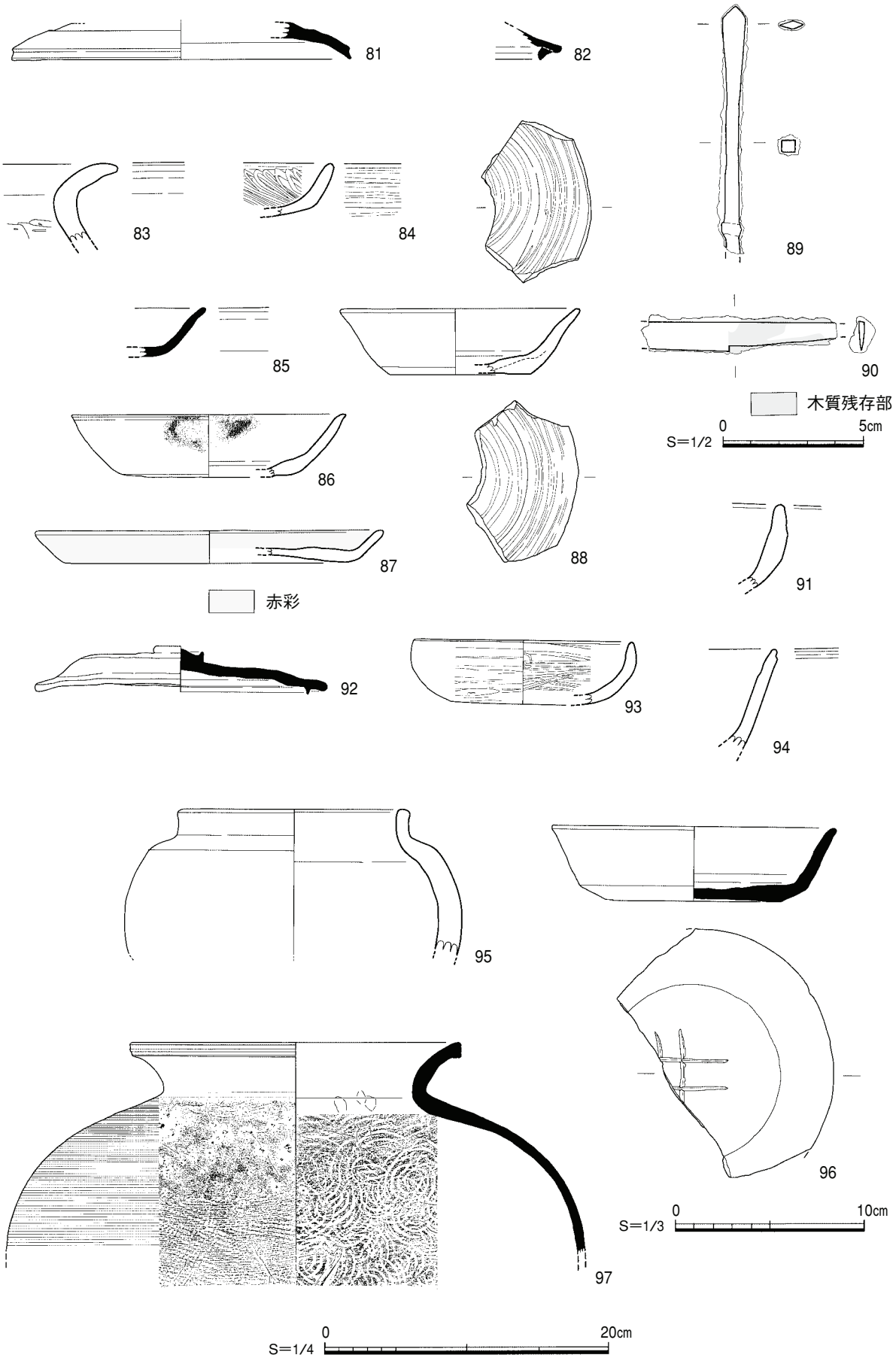
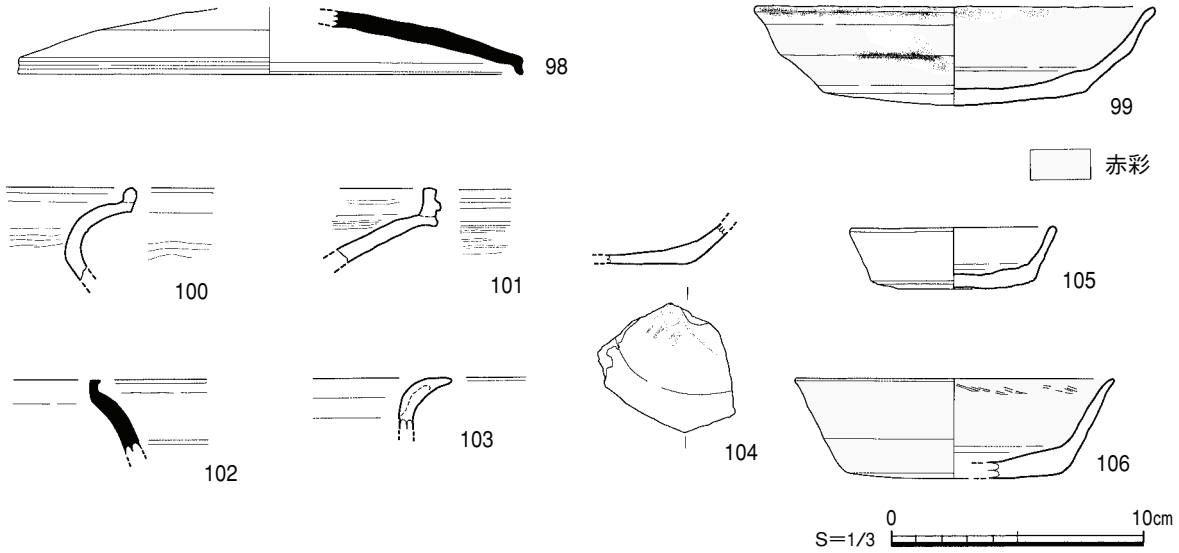


Fig.19　S027・028・029出土遺物実測図



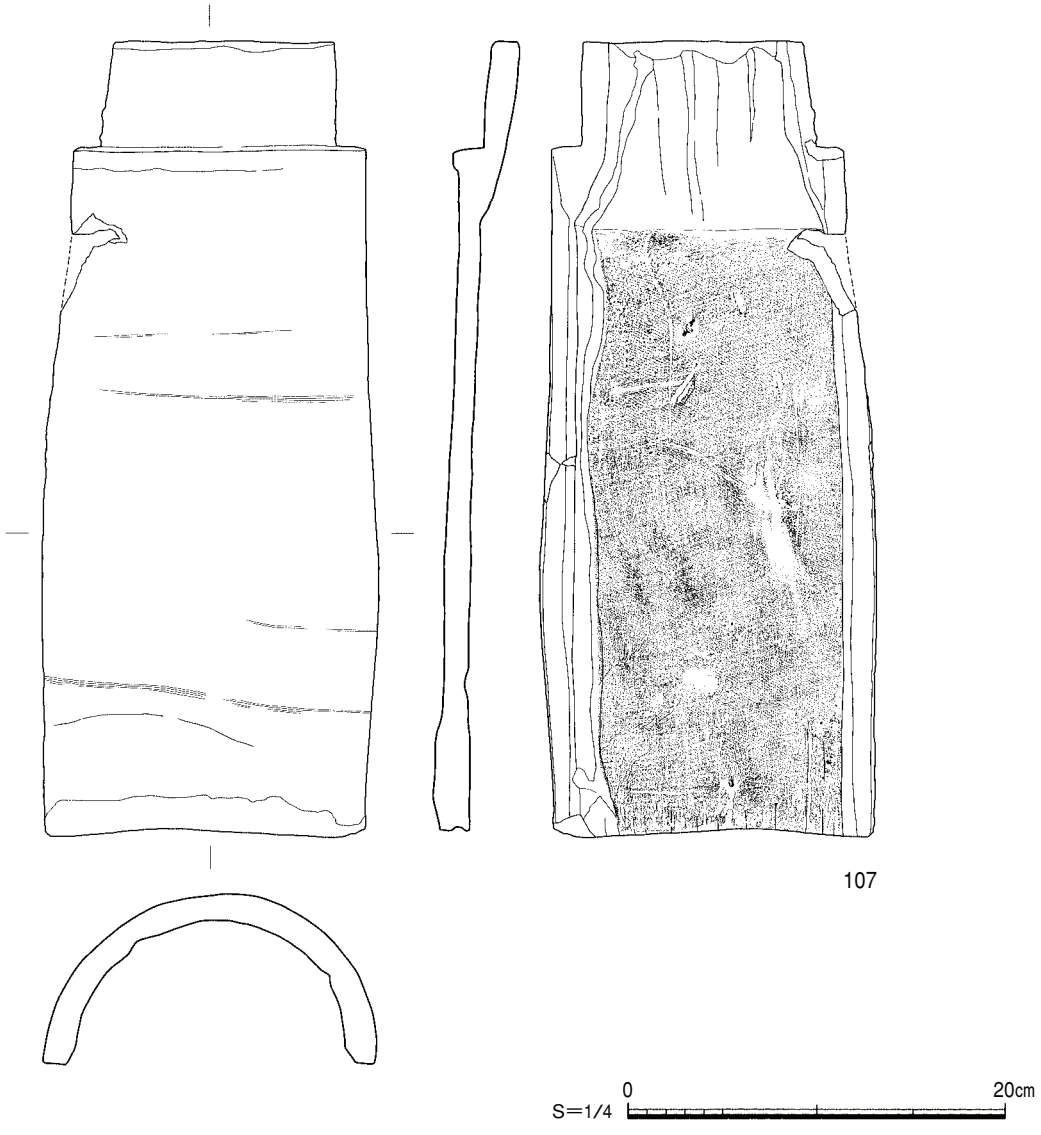


Fig.20　S030・ピット・包含層（1）出土遺物実測図

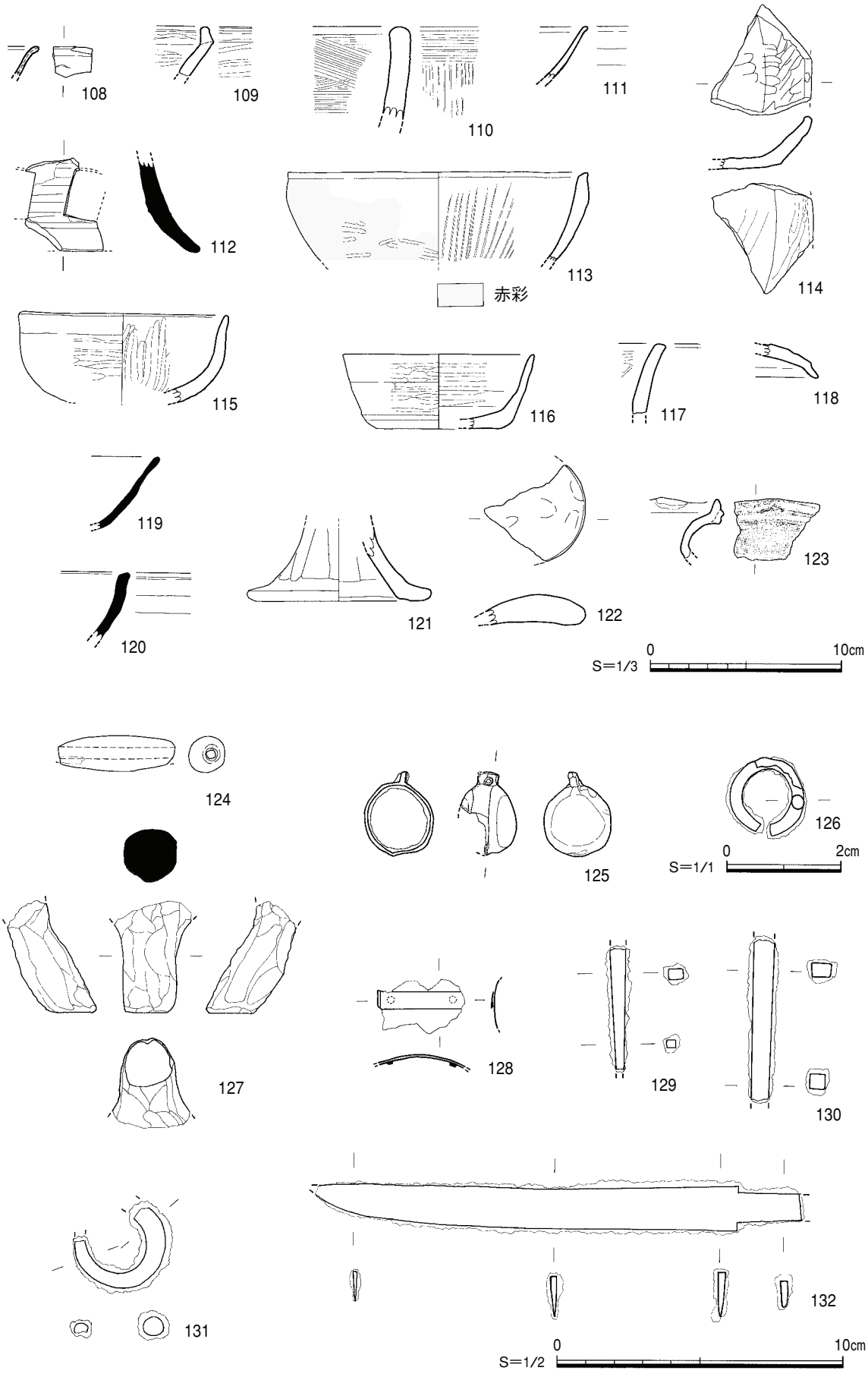


Fig.21　包含層（2）出土遺物実測図

Tab.9　駅前　土器・陶磁器類観察表(1)

図版番号	遺物番号	種別	器種	調査区	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
								口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
14	1	須恵器	蓋	1区	S002		住・カベ一括	(12.8)		2.7		ヘラケズリ	ヘラケズリ後ナデ	暗褐7.5YR3/4、暗灰黄2.5Y5/2	にぶい橙5YR6/3	褐色粒、黒色粒、透明粒	良	1/2	口縁部に歪みあり　8C後　荒尾産
14	2	須恵器	高杯	1区	S002		一括			1.9～		横ナデ、多方向のナデ	横ナデ・ヘラケズリ後ナデ	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y6/2	白色粒、黒色粒	良	破片	8C後？
14	3	土師器	杯	1区	S002		No.17	(12.8)	約7.8	3.9		回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り後粗いナデ	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	赤褐色粒、黒色粒：多い　断：にぶい橙7.5YR7/4	良	底部約1/3　口縁1/12	飽田郡産の土師器。　8C第3四半期
14	4	土師器	盤	1区	S002			(16.2)	(14.3)	2.0		ナデ、ミガキ	回転ナデ後ヘラミガキ、ヘラケズリ後ミガキ	灰黄褐10YR5/2～6/2	浅黄橙7.5YR8/6～7/6	石英、長石、雲母、輝石	良	1/8	手持ち整形。　8C中以前
14	5	須恵器	高台付椀	1区	S002		No.4	(12.3)	(8.5)	4.5	0.9	横ナデ	横ナデ、高台はり付け後ナデ、ヘラ切り離し	灰黄褐10YR5/2	灰褐7.5YR6/2	石英、赤褐色粒、砂粒	良	2/3	焼きひずみあり　8C後、荒尾産
14	6	土師器	甕	1区	S002		No.20	(23.5)	(24.6)最大口径	10.95～		横ナデ、多方向のケズリ	横ナデ、ハケ目後横ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	石英、長石、雲母：多い　角閃石、砂粒	良	1/4(口縁～胴部)	外面胴部に黒斑あり。口縁部外反。器壁薄い
14	7	須恵器	壷	1区	S002		No.22		(12.4)	7.9～	0.8	横・斜め方向ナデ、指頭圧痕、ヘラケズリ後ナデ	横ナデ、ナデ、指頭圧痕	黄灰2.5Y5/1	暗赤褐5YR3/3、黒2.5Y2/1	黒色粒、褐色粒、白色粒	良	3/4(底部)	8C後？　荒尾産か？
14	8	須恵器	杯蓋	1区	S004			(14.0)		1.25～		ナデ	横方向ナデ	灰N5/	灰N5/	細砂くらいの白色粒：多	良	口縁1/12	8C～9C
14	9	須恵器	杯蓋	1区	S004			(16.4)		1.1～		ナデ	横方向ナデ、(ヘラ切り後？)ナデ	灰N6/	灰N6/	白色粒、黒色粒　断：灰N6/	やや良	1/8	口縁部のみ灰N5/　9C前
14	12	縄文土器	深鉢	1区	S005					3.65～		条痕後横ナデ	条痕後横ナデ	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙7.5YR5/4	角閃石、石英、長石、砂粒、黒色粒	良	破片	貝殻条痕。縄文後期～晩期
14	13	土師器	甕	1区	S005	1層				6.4～		ヘラケズリ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙10YR7/4～8/4	にぶい黄橙10YR7/4～8/4	石英、長石、角閃石、砂粒	良	口縁で1/10くらいか?	器壁やや厚い。　9C中以前
14	14	土師器	甕	1区	S005		No.25			4.9～		横ナデ、ケズリ	ヘラケズリ後ナデ、ハケ目後ナデ	橙5YR7/6	淡橙5YR8/3	石英、長石	良	破片	口唇部に黒斑あり。厚い。　9C前以降
14	15	須恵器	蓋	1区	S005		No.28	(15.9)		2.3～		横ナデ後不定方向のナデ	横ナデ、ヘラケズリ、ツマミ取付後ナデ、回転ヘラ削り後ナデ	灰N5/	灰N6/	白色粒、黒色粒など	良	1/2	器壁うすい。　8C後～9C前
14	16	土師器	杯	1区	S005	1層		(13.2)	(9.0)	4.0		横方向ナデ、一方向ナデ	横方向ナデ、ナデ	橙5YR7/6	橙5YR7/8	雲母、石英、長石、褐色粒	良	口縁部約1/24	飽田郡産の土師器。　8C第4四半期
14	17	須恵器	椀？	1区	S005		No.44		(9.8)最大底径	2.2～	0.5	ナデ	横ナデ、ナデ、ケズリ出し高台	橙5YR7/6	橙5YR7/6	石英、長石、黒色粒、砂粒	良	1/4(底部)	荒尾産。　8C後～9C前
14	18	須恵器	椀	1区	S005		No.33	(12.3)	(7.8)	3.7	0.3	回転ナデ	回転ナデ、高台貼り付け、ヘラ切り	灰N6/	明青灰5B7/1	極ソ砂の白色砂：多、黒色粒、透明粒：少	良	底部1/3　1/18強	高台より径を復元しているので誤差あり。高台のすわりよし。　8C第3～4四半期
14	19	土師器	蓋	1区	S007	3層	清掃一括	(16.2)		2.05～		横ナデ	横ナデ	橙5YR7/8	橙5YR7/8	石英、長石、雲母、黒色粒、赤褐色粒	良	1/6	赤彩。　9C第1四半期
14	20	縄文土器	深鉢	1区	S009	1層				8.5～		ナデ	分割状ヘラミガキ	黄灰2.5Y5/1	褐灰10YR4/1～3/1	角閃石、長石、石英：非常に多い。粗砂多く含む	良	?	口径30cmを越えるか？　縄文晩期　御領式～天城式
14	21	須恵器	杯蓋	1区	S009	1層				1.3～		ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	灰5Y5/1	灰5Y5/1	長石、褐色粒	良	破片	かえし有り。　7C後～8C初？
14	22	縄文土器	深鉢	1区	S009	2層	O-30			5.3～		ナデ	ミガキ	褐灰10YR6/1	橙5YR6/6、褐灰7.5YR4/1	石英、角閃石、長石、小石、黒色粒	良	破片	縄文晩期　御領式～天城式
14	23	縄文土器	深鉢	1区	S009	1層	O-30			6.9～		横ナデ	横・斜め方向のナデ	浅黄橙10YR8/4	褐灰10YR5/1	角閃石、長石、石英、輝石	良	破片	内面に黒斑あり　外面にスス付着　縄文晩期　御領式～天城式か
15	24	土師器	甕	2区-2	S010			(23.2)		7.5～		回転ナデ、ヘラケズリ(縦・横方向)	回転ナデ、ハケ目後ナデ	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	石英、長石：多い　褐色粒、角閃石まばら	良	約1/4	外面に縦方向のハケ目調整を施しているがナデ消している為、単位が不明。器壁うすい。　9C中～
15	25	須恵器	盤	2区-2	S011	上部				2.3～		横ナデ	横・縦方向ナデ	にぶい橙7.5YR6/3	黄灰2.5YR6/1	石英、褐色粒、黒色粒、長石	良	破片	9C代
15	26	土師器	杯	2区-2	S011	上部		(12.6)	(4.8)	3.3		横ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ハケ目のちナデ、部分的に赤彩	明赤褐2.5YR5/6	明赤褐2.5YR5/6	石英、褐色粒、雲母	良	1/4	底部中心より外側にハケ目あり。全体に赤色顔料あり。　9C～中

Tab.10　駅前 土器・陶磁器類観察表(2)

図版番号	遺物番号	種別	器種	調査区	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
								口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
15	27	土師器	蓋	2区-1	S012		No.54	(15.8)		1.4～		横ナデ、指頭圧痕	横ナデ後工具によるナデ	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	長石、石英、褐色粒、黒色粒	良	3/4	内外面赤彩。 9C第3四半期
15	28	土師器	托	2区-1	S012		No.25	(12.0)	(7.1)	1.9		回転ナデ、横ナデ	ナデ	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6	長石、角閃石、赤褐色粒、輝石	良	2/3	高台のない托。 10C後～？
15	29	土師器	椀	2区-1	S012		No.53	11.8	6.8	5.4	0.8	横ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ナデ	浅黄橙 7.5YR8/4	橙 2.5YR6/8	長石、石英、黒色粒	良	1/2(口縁～胴部欠損)	高台以外は赤彩　9C後
15	30	須恵器	杯	2区-1	S012		No.73	(12.5)	(6.6)	3.5		横ナデ、斜め方向ナデ(指頭圧痕)	横ナデ、粘土つぎ足し後ナデ、板状圧痕	灰白 2.5YR7/1	灰白2.5YR7/1	長石、石英、黒色粒	良	1/4	9C中
15	31	土師器	椀	2区-1	S012		No.72	12.8	7.9	7.1	1.3	ヘラ横ナデ切り	ヘラ切り後ナデ、高台はりつけ後ナデ	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	石英、雲母、黒曜石、褐色粒、小石	良	ほぼ完形(一部欠損)	赤彩。 9C第3四半期
15	32	須恵器	甕	2区-1	S012		No.74・76	(15.7)最大口径(15.9)	(22.6)最大胴径	15.2～		横ナデ、指頭圧痕、青海波状文の当て具痕後横ナデ	ナデ、格子目文の当て具痕後横ナデ	褐灰 10YR4/1	黒褐 10YR3/1	石英、長石	良	1/5	荒尾産時期は不明
15	33	土師器	托	2区-1	S012		一括	(13.5)最大口径(14.3)	7.0	3.1	1.0	横ナデ	ヘラケズリ後ナデ、ヘラ切り	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	石英、長石：多い 角閃石、輝石、赤褐色粒	良	1/5	内面にスス付着　9C第3四半期
15	34	土師器	杯	2区-1	S012	3層下	No.78	12.2	7.1	3.5		横ナデ、指頭圧痕	横ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	雲母、石英:多い 赤褐色粒	良	完形	9C第3四半期
15	35	須恵器	小型瓶	2区-1	S012	1層			(3.6)	2.4～		横・斜め方向ナデ、指頭圧痕	回転ヘラ削り後縦方向の工具によるナデ、ヘラ削り後ナデ	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	白色粒、黒色粒、砂粒	良	3/4	木升の可能性あり。
15	36	土師器	蓋	2区-1	S012	3層		(17.6)		1.6～		ヘラケズリ後部分的なミガキ、赤彩塗布	回転ナデ後部分的なミガキ、赤彩塗布	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	長石、輝石、褐色粒	良	1/4(口縁～体部)	赤彩。 9C第3四半期
15	37	須恵器	椀	2区-1	S012	3層中	No.65	(12.6)	7.2	7.1	1.0	横ナデ、ヘラケズリ後ナデ	横ナデ、ヘラ切り	黄灰 2.5YR6/1・5/1	黄灰 2.5YR6/1・5/1	雲母、石英、長石：多い 褐色粒、黒色粒：まばら	良	底部・口縁～胴部1/4	9C第3四半期
15	38	土師器？	不明(脚台付)	2区-1	S012	3層中	No.64	-	-	11.5～	6.6～	横ナデ	横ナデ後ヘラケズリ	浅黄橙 7.5YR8/4・8/6	にぶい黄橙 7.5YR7/4	石英、雲母：多い、長石、輝石：まばら、褐色粒	良	体部～脚部	脚部にスカシが一部分みられる　脚部に布目。 9C第3四半
15	39	土師器	脚台付？	2区-1	S012		一括			8.5～	3.3～	横ナデ	ヘラケズリ後ナデ、ナデ、脚台はり付け後ナデ、ナデ	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/3	長石、石英、輝石、雲母	良	破片	内面に部分的に赤色顔料付着。 9C代
16	40	土師器	甕	2区-1	S012	4層下	No.80	(27.2)	(27.7)最大口径	10.7～		横ナデ、ケズリ	横ナデ、ハケ目(指頭圧痕？)	淡橙 5YR8/4	橙 5YR6/6	石英、角閃石、雲母、長石、砂粒	良	口縁～胴部の一部	内外面に煤が付着している。 9C後以降
16	41	土師器	甕	2区-1	S012	北5層	No.87	(20.1)	(20.6)最大口径	7.6～		横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ハケ目	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 2.5YR6/6	石英、角閃石、長石、赤褐色粒	良	口縁～胴部の一部	口縁～胴部にかけて黒斑がみられる。器壁うすい。 9C代
16	42	須恵器	椀	2区-1	S012	5層	No.82	(15.2)	7.9	8.4	0.5	回転横ナデ	回転横ナデ、ヘラ切後ナデ	黄灰 2.5Y6/1	灰黄 2.5Y6/2	石英、小石	やや不良	3/4	9C第3四半期
16	43	須恵器	壺	2区-1	S012	7層上北	No.90			13.1～		横ナデ、横・斜め方向のハケ目後ナデ、粘土貼付	横ナデ、タタキ	灰赤 2.5YR4/2	暗赤灰 2.5YR3/1	小石、褐色粒、砂粒	良	口縁～頸部の一部	波状文なし。 9C代？
16	44	須恵器	杯	2区-1	S012	北7層上	No.86	(11.6)	(7.2)	3.6		横ナデ	横ナデ、粘土つぎ足し後ナデ、ヘラ切り後ナデ	褐灰 10YR6/1	褐灰 5YR5/1	黒色粒、白色粒	良	1/2	9C中　内外面スス付着
16	45	土師器	杯	2区-1	S012	7層	No.95	(12.2)	7.7	3.2		横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、ヘラ切り後ナデ	橙 5YR6/6	明赤褐 2.5YR5/6	長石、石英、黒色粒	良	3/4	9C第3四半期
16	46	土師器	椀	2区-1	S012	7層下	No.100	13.2	7.3	6.0	8.0	横ナデ	横ナデ、高台はり付け後ナデ、ヘラ切り後ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	雲母、長石、石英、角閃石	良	完形	全体に赤彩、外面に煤付着　井戸の祭祀の際にスス付着？　9C第3四半期
16	47	黒色土器	椀	2区-1	S012	7層		(14.8)	(7.0)	6.6	7.0	ヘラミガキ、横ナデ後縦方向ミガキ、ナデ・ミガキ(指頭圧痕)	回転ヘラ削り後ナデ、高台はりつけ後ナデ	黒 N1.5	にぶい橙 7.5YR6/4	雲母、褐色粒、黒曜石、小石	良	1/2	黒色土器A類　内黒　9C後
16	48	土師器	杯	2区-1	S012	最下層		(12.7)	(7.2)	2.9		横・斜め方向ナデ	横ナデ・縦方向ナデ回転切り離し後ナデ	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	金雲母、石英、長石、黒色粒、赤褐色粒	良	1/3	酸化鉄？。 9C中～後
16	49	須恵器	壷	2区-1	S012	最下層(8層下)	No.105	最大口径9.7cm	8.7	19.5		横ナデ、ヘラケズリ	ヘラケズリ後横ナデ、ナデ、横方向のヘラケズリ、タタキ痕、指頭圧痕	黄灰 2.5Y5/1	灰褐7.5YR5/2、橙5YR6/6	石英、長石：多い 小石、黒曜石、砂粒	良	完形	外面にタタキ痕。火ぶくれ2ヶ所。荒尾・北山浦産に酷似　9C第3四半期

Tab.11　駅前 土器・陶磁器類観察表(3)

図版番号	遺物番号	種別	器種	調査区	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
								口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
17	50	土師器	甑	2区-1	S012	7層・8層		5.8～幅		7.2～長さ		横ケズリ後ナデ	ヘラケズリ、ナデ、ハケ目	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石、石英、角閃石、砂粒		把手	瓶の把手。 8C～9C
17	51	黒色土器	杯	2区-1	S012	最下層		(13.0)	6.4	5.2	6.0	ミガキ、ナデ	ヘラケズリ後ナデ	黒 N1.5	橙 5YR6/6	雲母、長石多い	良	1/5	黒色土器A類　9C後
17	52	須恵器	椀	2区-1	S012	最下層		(17.7)		6.4～		ヘラケズリ後横ナデ	ヘラケズリ後横ナデ	灰白 2.5YR7/1	灰白 2.5YR7/1	石英、長石	良	1/6	9C中～後
17	53	土師器	甕	2区-1	S013		No.10			9.4～		ケズリ、横ナデ	ハケ目、横ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	にぶい橙 7.5YR7/3	石英、角閃石、長石、砂粒 雲母、褐色粒まばら	良	破片	外面の一部黒く変色。器壁うすい。 9C中～
17	54	須恵器	椀	2区-1	S014		No.12・14	(12.2)	(8.0)	4.3		横ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ナデ	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	角閃石、長石、石英	良	1/2	8C中
17	55	須恵器	横瓶	2区-1	S012	最下層	No.104			15.2～		青海波状文の当て具痕、格子目文の当て具痕後横ナデ(指頭圧痕あり)、粘土貼付	タタキ、タタキ後ナデ	褐灰 7.5YR5/1	褐灰 10YR5/1	黒曜石、黒色粒、石英、砂粒		2/3	8C後～9C前
18	61	土師器	甕	3区-3	S020	拡張				5.5～		横方向ナデ、ケズリ	被熱のため不明	灰黄褐 10YR6/2	にぶい橙 2.5YR6/4	石英、長石、角閃石 断：にぶい橙2.5YR6/4、にぶい褐7.5YR6/3	良？	破片(口縁部)	器壁うすい。 9C中～
18	62	土師器	甕	3区-3	S020		No.3			4.8～		横方向ナデ、ヘラケズリ	横方向ナデ、ハケ目、ナデ	浅黄橙 10YR8/3	褐灰 10YR5/1	長石、石英、輝石、砂粒 断：浅黄橙10YR8/3と灰N5/との間	良	破片(口縁部)	器壁うすい。 9C中～
18	64	須恵器	壷	3区-3	S020			(12.8)		3.3～		回転ナデ？	横方向ナデ・回転ナデ？	にぶい赤褐2.5YR5/4～暗赤褐2.5YR3/2	にぶい赤褐2.5YR5/4～暗赤褐2.5YR3/2	粗砂の白色砂僅かに混じる。 断：橙2.5YR6/6	良	口縁部 約1/7	端部が均整でないため復元口径の誤差は大。荒尾産　8C～9C
18	65	須恵器	盤	3区-3	S020		No.95	(18.7)	(15.0)	2.0		回転成形後ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り後、ハケ目、ナデ	明青灰 5B7/1	明青灰 5B7/1	1㎜に満たない黒色粒が非常に多い。白色粒まばらに入る。	良	約1/8	黒色粒が目立ち、よくある須恵器の感じではない。 9C代
18	66	土師器	杯	3区-3	S020		No.87	(8.0)	(7.0)	3.0		横ナデ・ミガキ	ミガキ後不定方向ナデ、ヘラ切り後ナデ横ナデ・ミガキ	暗赤褐 2.5YR5/6	暗赤褐 2.5YR5/6	石英、長石：多い 黒色粒：少ない	良	1/4	赤彩。手持ちヘラミガキ。 8C末？
18	67	須恵器	転用硯(椀)	3区-3	S020		No.92	(11.9)	(8.9)	4.5	0.6	回転ナデ　磨り痕	回転ナデ、回転ヘラ削り後ナデ、貼り付け高台後ナデ、回転ヘラ切り	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	石英、長石、黒色粒、褐色粒	良	約1/4程度	外面口縁部から貼り付け高台迄、自然釉あり。すり痕あり。荒尾産　8C後
18	68	須恵器	椀	3区-3	S020		No.80・88	(16.4)	(12.4)	5.2	0.8	横ナデ	横ナデ、ヘラ削り後ナデ、高台取付後ナデ、ヘラ切り、削り	灰 N5	灰 N5	長石、石英、黒色粒	良	1/4	8C第2～3四半期
18	69	須恵器	杯蓋	3区-3	S020		No.55	(15.0)		1.0～		回転ナデ	ナデ、回転ナデ、ヘラケズリ、ヘラ削り後回転ナデ	灰 N6/～7/	灰 N6/～7/	細～粗砂の白色砂少し混じる	良	口縁1/7弱	口縁端部の欠けが大きく、中心が残っていないので反転復元の誤差は大。 8C後～9C前
18	71	土師器	製塩土器	3区-1	S023	1層		(12.6)		2.8～	復元最大径15.4	ナデ、指頭圧痕	ナデ、被塾による剥落あり	橙 7.5YR7/6	浅黄橙 10YR8/4	輝石、白色及び赤色砂粒多い。石英まれに入る。	良	口縁部破片	天草式製塩土器　7C後半　飛鳥時代。 藤本氏編年では椀部3類。 被熟により表面が剥落
18	72	土師器	盤	3区-1	S024		No.46	(13.2)	(11.1)	2.3		横ナデ	横ナデ、ヘラ切り後縦方向ナデ	橙 5YR6/6	明赤褐 5YR5/6	石英、長石、黒色粒	良	1/6	赤彩あり　9C前～中
18	73	須恵器	甕？壺？	3区-4	S025	2層				4.3～		横方向ナデ	ハケ横方向(カキ目になる可能性あり)	青灰 5B5/1	灰 N5/～4/	長石、白色粒 断：褐灰5YR4/2	良	破片(口縁部)	器種不明。古代？
18	74	土師器	杯	3区-1	S025		No.25	(12.7)	(9.6)	3.0		回転ナデ、回転成形後一方向のナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	石英、長石、角閃石、褐色粒細～極ソ砂の白色砂含む。0.5～2㎜の褐色粒少し含む	良	口縁約1/6	8C後～9Ｃ前？
18	75	須恵器	杯	3区-1	S025	2層		(13.5)	(10.1)	3.8		回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	浅黄橙7.5YR 8/6～灰白2.5Y7/1	浅黄橙7.5YR 8/6～灰白2.5Y7/1	細砂の白色砂混じる。細レキの白色粒僅かに混じる。 断：橙7.5YR7/6	良	口縁約1/8	ひだすき状の焼き色のむらがある。意図したものかは不明　8C後
18	76	須恵器	椀	3区-1	S026		No.60	(14.4)	(8.2)	5.7	0.5	回転ナデ、不定方向ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、高台はり付け後横ナデ	灰 10Y5/1	灰 10Y5/1	石英、長石、砂粒、黒色粒:多い　赤褐色粒：まばら	良	口縁1/4	宇城産？　8C中～後
18	77	須恵器	杯蓋	3区-1	S025	2層		(19.1)		1.0～		？	横方向ナデ(回転？)	灰 N5/～5B6/1	灰 N5/～5B6/1	黒色粒、白色粒、灰色粒の細砂が多く混じる。砂っぽい胎土	良	口縁1/9	8C後～9C

Tab.12　駅前 土器・陶磁器類観察表(4)

図版番号	遺物番号	種別	器種	調査区	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
								口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
18	78	須恵器	蓋	3区-1	S026		No.45	13.5		2.3		回転ナデ、不定方向ナデ	回転ナデ	灰 5Y5/1	灰 5Y4/1	白色粒、黒色粒、砂粒	良	ほぼ完形・口縁3/4残存	口縁に歪み。口縁端部に自然釉。つまみ無し。 8C中～後
18	79	須恵器？	壷	3区-1	S026		No.43	(13.3)		5.7～		回転ナデ	回転ナデ	橙 7.5YR7/6	橙 5YR7/6	白色粒、黒色粒 断：灰黄褐10YR6/2	良	口縁部 約1/6	古代
18	80	須恵器	風字硯	3区-1	S026		No.90	長さ 8.3～	幅 5.9～	厚さ 2.4～				にぶい褐7.5YR5/3 墨→黒7.5YR2/1、朱→赤10R4/6	褐灰 10YR5/1	長石、黒色粒：多い 石英	不良	？	9C 右：朱墨 左：黒墨
19	81	須恵器	蓋	3区-1	S027		No.113	(17.8)		1.9～		横ナデ	横ナデ、回転ヘラ削り	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1	黒色粒、長石	良	1/6	8C後～9C
19	82	須恵器	杯蓋	3区-1	S027					1.7～		横ナデ、貼付痕あり	ヘラケズリ	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR4/1	石英、長石、黒色粒	良	破片	カスレ有り。 7C後～8C初
19	83	土師器	甕	3区-2	S028	2層				4.1～		横方向ナデ、ヘラケズリ	横方向ナデ	灰褐 7.5YR6/2	にぶい褐 7.5YR6/3	長石、角閃石、砂粒 断橙5YR7/6 灰黄褐10YR6/2の間	良	破片（口縁部）	器壁うすい。 9C中～
19	84	土師器	皿？	3区-2	S028		No.26			2.8～		横方向ナデのち暗文状ヘラミガキ	横方向ナデのちヘラミガキ、ヘラケズリ後ヘラミガキ	暗灰黄 2.5Y4/2～暗灰N3/	暗灰黄 2.5Y4/2～暗灰N3/	粗砂の白色、灰色砂、褐色粒混じる。0.1～0.2㎜の白色、半透明、黒色砂混じる。断：浅黄2.5Y8/3	良	破片（口縁部）	手持ち整形。暗褐土師器。均整でなく復元困難。 8C中以前
19	85	須恵器	盤	3区-2	S028		No.14			2.6～		横方向ナデ(回転か？)、回転ナデ	ナデ(ヘラ切り後か？)	灰 10Y6/1	灰 7.5Y6/1	石英、長石、白色粒、黒色粒 断：灰7.5Y6/1	良	破片（口縁部）	9C中～後
19	86	土師器	杯	3区-2	S028		No.15	(14.2)	(9.2)	3.3		横ナデ、指頭圧痕	横・斜め方向ナデ、ヘラ切り後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	黄灰 2.5Y5/1	石英、黒曜石、褐色粒	良	1/4（口縁部）	全体に黒斑あり。口縁内外面煤付着,灯明皿として使用 8C末～9C初
19	87	土師器	盤	3区-2	S028		No.17	(18.1)	(15.1)	1.8		横ナデ、指頭圧痕	ヘラきり後、横・縦方向ナデ	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/6	石英、小石、長石、黒色粒	良	1/6	赤彩。 8C後～9C前
19	88	土師器	杯	3区-2	S028		No.24	(12.6)	(7.5)	3.5		回転ナデ後回転ヘラミガキ	回転ナデ後回転ヘラミガキ、ヘラ切り後ヘラミガキ	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	石英、褐色粒、長石、雲母、黒色粒	良	1/4	内外面に黒斑あり。ヘラミガキ 9C第1四半期
19	91	土師器	杯	3区-2	S029		No.23			4.5～		ミガキ後、横・縦方向ナデ、横ナデ	ミガキ後斜め方向ナデ、横ナデ、ヘラ削り後ミガキ・ナデ	黒褐 2.5Y3/1	黒褐 2.5Y3/1	長石、石英、角閃石：多い 雲母、小石	良	破片	全面スス付着。手持ち整形 ～8C中
19	92	須恵器	杯蓋	3区-2	S029		No.17	15.2		2.5		回転ナデ後指ナデ	回転ナデ	灰 5Y5/1	灰 5Y4/1	長石、黒色粒	良	口縁～つまみ部3/4	器面に強い歪みがある。 7C第4四半期
19	93	土師器	杯	3区-2	S029	1層		(11.3)		3.4～		ナデ	ヘラケズリ後ヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR4/1	石英、長石、角閃石 断：にぶい黄橙10YR7/4	良	口縁約1/6	手持ち整形
19	94	土師器	椀か杯	3区-2	S029		No.78			5.4～		横ナデ、接合	ヘラケズリ、横ナデ、接合	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	黒色粒、長石、小石	良	1/8	口縁外側～へこみに特徴あり 9C代？
19	95	土師器	壷	3区-2	S029		No.1	(10.4)		7.7～		回転ナデ	回転ナデ	橙2.5YR7/8～にぶい黄橙 10YR7/4	橙2.5YR7/8～にぶい黄橙 10YR7/4	長石、黒色粒粒	良	口縁1/7弱 胴約1/4	古代
19	96	須恵器	杯	3区-2	S029		No.102	(14.8)	(9.3)	3.9		横ナデ後不定方向のナデ	横ナデ、ヘラ削り後ヘラ記号、灰かぶり	灰 5Y5/1	灰 5Y6/1	長石、黒色粒など	良	1/2	外面底部に「井」？のヘラ記号あり。7C第4～8C前
19	97	須恵器	壷	3区-2	S029		No.111	(23.3)		(14.9)		横ナデ、ナデ、工具痕、当て具痕	凹線、横ナデ、カキ目、タタキ	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y5/1	長石、石英、角閃石	良		
19	98	須恵器	杯蓋	3区-2	S030		No.16	(20.0)		2.55～		回転ナデ後ナデ、工具による強い回転ナデ	ヘラ起こし後回転ナデ、工具による強い回転ナデ	灰 5Y4/1	灰オリーブ 5Y6/2	長石、角閃石	不良	1/5弱	口縁の一部に指頭圧痕、歪みあり(成形後のつまみ上げ痕と思われる) 8C後～9C
20	99	土師器	杯	1区	pit1			(16.0)	10.6	4.9		回転ナデ後赤彩	回転ヘラ切り後ナデ、赤彩	?	?	雲母、石英、角閃石多く入る	良	1 1/3	赤彩は底部以外全面塗布、スス付着状況から灯明皿として使用した可能性大。9C第1四半期
20	100	縄文土器	浅鉢	1区	O-30	2･3層				3.2～		ナデ後ミガキ(不明確)	ナデ後ミガキ(不明確)	褐灰 7.5YR5/1	にぶい黄橙7.5YR･褐灰10YR4/1	長石、角閃石、黒色粒、小石	良	破片	全体に黒斑あり 縄文晩期 天城式
20	101	縄文土器	浅鉢	1区	O-30 ジュコン					2.95～		ナデ後ミガキ	ナデ後ミガキ、沈線	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	石英、長石、角閃石、輝石、砂粒	良	破片	縄文晩期 黒斑あり 天城式

Tab.13　駅前　土器・陶磁器類観察表(5)

図版番号	遺物番号	種別	器種	調査区	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)				調整		色調		胎土	焼成	残存状況	備考
								口径	底径	器高	高台高	(内面)	(外面)	(内面)	(外面)				
20	102	須恵器	壷	1区	O-30	2･3層				3.0～		回転ナデ	回転ナデ	浅黄2.5Y7/4～にぶい黄橙10YR7/4	灰N5/～灰褐7.5Y4/2	1㎜前後の黒褐から褐色粒目立つ。細砂の白色砂など多く混じる。長石、黒色粒	良	約1/12	還元も瓦質のような感じになっている 8C後？
20	103	縄文土器	浅鉢	1区	O-30	2･3層				2.8～		ナデ	ナデ	明黄褐10YR6/6～にぶい橙7.5YR7/4	明黄褐10YR6/6～にぶい橙7.5YR7/4	角閃石、輝石、：多い 長石、砂粒	良	破片	縄文時代位～晩期
202	104	土師器	杯	2区		3層				1.55～		多方向にナデ、指頭圧痕	横ナデ、ヘラ切り後ナデ	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	石英、褐色粒、砂粒	良	1/4(底部)	外面底部に「藤」の字の墨書あり 9C代
20	105	土師器	小杯	1区	O-30	2･3層		(8.0)	(6.0)	2.5		横･縦方向ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ハケナデ、指頭圧痕	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	石英、長石、角閃石、小石輝石、雲母	良	1/2	9C代
20	106	土師器	杯	1区	O-30	2･3層		(12.4)	(8.5)	4.0		回転ナデ、ハケ状の調整痕が所々あり	回転ナデ、ナデ、ヘラ切り後ナデ	橙 5YR7/8	橙 7.5YR7/6	石英、長石、輝石	良	口縁約1/8	赤彩　底部は部分的。 赤彩のない部分：橙5YR7/8。 9C代
21	108	青磁	初期高麗椀　III類	3区	B-1	1b層				1.6～		回転ナデ後ミガキ、施釉	回転ナデ後ミガキ、線彫り(or鏨)、施釉	オリーブ灰 10Y5/2	オリーブ灰 10Y5/2	黒色粒を所々に含むカオリン中心の灰色陶石土。 胎土：灰5Y6/1	良	口縁部破片	C期(11C後～12C前)
21	109	縄文土器	浅鉢	3区	B-1	1b層				2.55～		ミガキ	ミガキ	黒褐 2.5Y3/1	黒褐 2.5Y3/1	角閃石、石英、砂粒	良	破片 (口縁部)	縄文晩期　天城式
21	110	瓦質土器	火鉢？	3区	B-1	1b層				約 4.9～		密にハケ	ハケ、ナデ	灰 N4/～5/	灰 N6/	石英、長石	良	破片 (口縁部)	内外面すり目あり。中世
21	111	青磁	初期高麗椀　III類？	3区	B-2	3a層				2.8～		回転ナデ後施釉	回転ナデ後ヘラケズリ、施釉	(青磁釉)オリーブ灰10Y4/2、(淡青色釉)青灰10BG6/1	(青磁釉)オリーブ灰10Y4/2、(淡青色釉)青灰10BG6/1	微細な黒色粒を所々に含むカオリン質の灰色陶石土。 胎土：灰5Y6/1	良	口縁部破片	C期(11C後～12C前)。青磁釉の上に青灰色釉薬がかかる。
21	112	須恵器	円面硯	3区	B-2	3b層				残存高 4.8～		横ナデ	横ナデ、灰かぶり	褐灰 10YR5/1	褐灰 10YR5/1	石英、長石	良	？	スカシ部がややひずんだ方形。 8C後？
21	113	土師器	杯	3区	B-1	3b層		(15.8)		4.6～		暗文	横ナデ、ミガキ(赤色顔料)	にぶい黄橙 10YR6/3	橙 2.5YR6/6	石英、長石、黒色粒など	やや良	1/6	外面に黒斑、赤色顔料の跡がみられる 暗文土師器(都城系土器)　7C後～8C初
21	114	土師器	盤	3区	B-1	3b層				2.7～		横ナデ後縦･斜め方向ミガキ	横ナデ後ミガキ、ヘラ切り後ミガキ･ナデ	黒褐 10YR3/1	黒褐 10YR3/1	石英、長石：多い 輝石、褐色粒、砂粒	良	破片	9C代か？
21	115	土師器	杯	3区	B-2	3b層		(10.8)		4.6～		横ナデ後ミガキ(縦方向)	ナデ、横方向のミガキ、剥落が激しく調整不明	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	石英、長石、黒色粒、褐色粒	良	約1/3	内面に放射状の暗文ミガキあり
21	116	土師器	杯	3区			No.9	(10.0)	(6.4)	4.9		回転ナデ後ヘラミガキ	回転ヘラ削り後ヘラミガキ、回転ヘラ切り後ヘラミガキ	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	石英、黒色粒多く、長石、褐色粒まばらに入る	良	1/2	8C第4四半期～9C第1四半期
21	117	縄文土器	深鉢	3区-2	Pit8					3.2～		ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3	石英、角閃石、砂粒	良	破片 (口縁部)	縄文時代後～晩期
21	118	土師器	杯蓋	3区-2	Pit21					1.2～		横ナデ	ヘラケズリ	橙 5YR6/6	橙 2.5YR6/6	長石、石英、雲母、輝石	良	破片	外面に工具痕あり。 8C後
21	119	須恵器	椀	3区-2	Pit3	埋土				1.6～		回転ナデ	回転ナデ	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	白色粒、石英	良	破片	9C中
21	120	須恵器	鉢	3区-2	Pit21					3.5～		回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	にぶい橙7.5YR7/4～明褐灰7.5YR7/1～6/1	橙 2.5YR7/8～灰褐7.5YR6/2	輝石：多い 長石：まばら	良	口縁 約1/12	8C～9C代
21	121	土師器	脚台(高坏)	3区-2	Pit21				(8.6)	3.9～		工具によるナデ、ナデ	工具によるナデ、端部横方向ナデ、ナデ	橙 2.5YR7/8	橙 2.5YR7/8	長石、砂粒 断：橙7.5YR7/6	良	1/4弱	8C第4四半期以降
21	122	土製品	円板状の不明製品	3区-4	立会	3b層				5.3～		指ナデ、指頭圧痕、ナデ	横･縦方向ナデ、指頭圧痕	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	黒色粒、石英：多い 長石、褐色粒：まばら	良	1/2強	祭祀用か？　最大厚1.4㎝
21	123	縄文土器	浅鉢	3区-4	立会	3b層				3.3～		ミガキ、粘土はり付け痕	二条の沈線後ミガキ	にぶい黄橙 10YR6/4	灰黄褐 10YR5/2		良	破片	縄文晩期　御領式～天城式

Tab.14　駅前土製品観察表

図版番号	遺物番号	種別	器種	調査区	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)			重さ(g)	色調	胎土	残存状況	備考
								長さ	幅	厚さ					
14	10	土師器	土錘	1区	S004			3.50	1.75	孔径0.6	8.37	褐灰10YR6/1	長石、石英角閃石、輝石	完形	
14	11	土師器	土錘	1区	S004			5.0～	1.50	孔径0.6	9.23	橙5YR6/6	長石、角閃石、石英　2～3㎜大の砂粒含む	一部欠損	
17	56	土師器	土錘	2区-1	S012	7層		6.40	3.3	孔径1.2		にぶい橙7.5YR6/4	石英、長石、黒色粒	完形	棒に粘土をはりつけナデ
18	70	土師器	鞴：羽口	3区-3	S020		№11	9.9～	5.3～				細レキ、白色、半透明、黄灰色、灰色、黒色、角閃石、褐色粒	不明	古代？
21	124	土師器	土錘	2区-2	U-36	3b層		4.10	1.30	孔径0.3		にぶい橙7.5YR7/4	黒色粒、長石、雲母	ほぼ完形	
21	127	須恵器	脚部	2区-		北3層		3.95～	2.15	1.80		黒10YR2/1、灰褐7.5YR4/1	石英、黒色粒、小石	脚部	指頭圧痕有り。不明容器の脚

Tab.15　駅前金属製品観察表

図版番号	遺物番号	種別	器種	調査区	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)			重さ(g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
17	57	鉄製品	刀子？	2区-	S012	上層		4.0			1.47	刀子の基部のみか？
17	58	鉄製品	刀子	2区-	S012	8層	一括	8.8			8.50	先端、基部が欠損
19	89	鉄製品	鉄鏃	3区-2	S028		№16	8.7～	0.5～0.9			基部欠損
19	90	鉄製品	刀子	3区-2	S028		№21	6.9～			9.76	刃部か？一部欠損
21	125	銅製品	鈴	3区-	B-2	3A層		2.9	2.3	0.3	11.95	下位半分を欠損、紐座あり(孔は錆で塞がる)、鍍金なし。鋳型の左右あわせ。約1/4欠損
21	126	青銅製品	耳環	3区-	B-1	3A層	№5	1.4	0.4		0.49	ほとんど腐食している(地肌の青銅は一部のみ確認)
21	128	青銅製品	仏壇具？	3区-	TU-36	3層						2枚の青銅板を鋲で留めてある。一部残存
21	129	鉄製品	釘	3区-	B-1			4.4～			3.94	
21	130	鉄製品	釘？	3区-	B-2	3B層	№7	5.8～			13.32	上下端部欠損
21	131	鉄製品	耳環？	3区-	B-2		№82	3.3～			10.19	両端部欠損
21	132	鉄	刀子	3区-	B-1			17.0～	1.9	0.6	29.22	切先一部を欠損、茎を欠損

Tab.16　駅前石製品観察表

図版番号	遺物番号	器種	調査区	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)			重さ(g)	石材・石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
17	59	砥石	2区-1	S012	最下層	№108	20.1	16.5	10.1		砂岩。雲母が目立ち砂粒は殆ど目立たない	敲打底と線状のすり痕あり。被熱により表面が剥落。4面を使用
17	60	砥石	2区-1	S012	最下層		9.5～	3.4	5.6		白銀色の雲母(？)が目立つ。砂粒が肉眼ではっきり分かるものが少なく細粒な砂岩	部分的に被熱。4面すり痕あり。欠損あり
18	63	剥片	3区-3	S020			2.9	3.3	1.1		腰岳産黒曜石	縄文時代後～晩期

Tab.17　駅前瓦観察表

図版番号	遺物番号	器種	出土地点	層位	取り上げ番号	寸法(cm)			重さ(g)	色調	胎土	残存状況	備 考
						長さ	幅	厚さ					
20	107	丸瓦	S029		№64, №112	42.1	17.7	1.4					

３．小結

【出土遺物】

調査１区～３区の遺物の総出土量は、網コンテナ（46×62×19cm）で30箱出土した。遺構では、最も多かったのがS012の井戸で総量約9.2kgあり、９世紀の第３四半期と推定される遺物が中心であった。

全体的に８世紀後半から９世紀の遺物がほとんどであるが、縄文土器、７世紀後半から８世紀前半の遺物や11世紀以降の遺物も少なからず出土している。

８世紀後半から９世紀の中で特筆すべき出土遺物として、３点の硯と２点の不明土師器が挙げられる。円面硯（№112：８世紀後半？）は透かしのある脚の一部、風字硯（№80：９世紀）は仕切りと朱墨が残存、転用硯（№67：８世紀後半）は荒尾産須恵器の杯蓋を転用である。風字硯は竪穴住居跡から出土しているが床面から浮いていることから流れ込みであろう。２点の不明土師器はS012の３層出土から出土しており、透かしがあり大型の脚台付き盤と考えられる。

７世紀後半から８世紀前半の遺物では、ワイングラス型の製塩土器（№71：７世紀後半）、返しのある杯の蓋（№82：７世紀後半）、手持ち成形土師器の杯（№93：８世紀中以前）、外面に赤彩、内面に暗文がある都城系土師器（№113：８世紀前半）である。

縄文土器は、後期～晩期の御領～天城式の深鉢や浅鉢片であり全てプライマリ―層からの出土ではなかった。本来のプライマリ―層は、３B層～４A層の漸位層と推定される。

11世紀以降の遺物では、２点の初期高麗青磁（№108，111）で山本編年では椀Ⅲ類ⅢでC期（11世紀後半～12世紀前半）にあたる。

その他の遺物では、鈴の鋳型（№125）、不明青銅製品（№128）、耳環（№126）、木質部が残存した刀子（№90）がある。不明青銅製品は仏具の一部である可能性が考えられる。

【遺構】（Fig.22～24参照）

◆時期変遷

出土遺物から遺構時期を決定する方法がとられるが、遺構が存在した時期そのものを示す遺物はほとんどなく、その多くが遺構廃絶後に入り込んだ遺物である。しかし、廃絶後の限りなく近い時期推定は可能と考える。ここでも同様な考えで時期推定をしてみたい。

出土遺物から推定される遺構の時期について、S002（竪穴住居）が８世紀後半、S012（井戸）が９世紀第３四半期、S028（竪穴住居）が８世紀末～９世紀初頭とした。切り合い関係からS013.14.17.18は９世紀第３四半期、S030（溝）は８世紀末～９世紀初頭以前と推定した。

また竪穴住居が９世紀前半で消滅する例が多い(1)ことからその他の竪穴住居を８世紀後半～９世紀中葉と推定した。出土遺物が無い場合は埋土から１層は中世～近世、３層は古代と推定した。

S029（井戸）は数点の遺物を除き、７世紀後半から８世紀中葉の遺物が多いことから８世紀前～中の時期に遡る可能性がある。

これらの条件を基に遺構の時期変遷を示したのが、Fig.22～24である。

◆S012（井戸）について（Fig.25参照）

S012（井戸）からは多量の土器、鉄器、砥石、獣骨や礫が出土した。しかも礫の多くが被熱しており、3.2ｍに及ぶ埋土中の３層にわたり焼土や灰の層が観察された。また、井戸使用時の最下層と推定される場所からは須恵器の壺が完全な形で出土した。この様な事例は良く見受けられるが、発掘担当者として私見を述べてみたい。

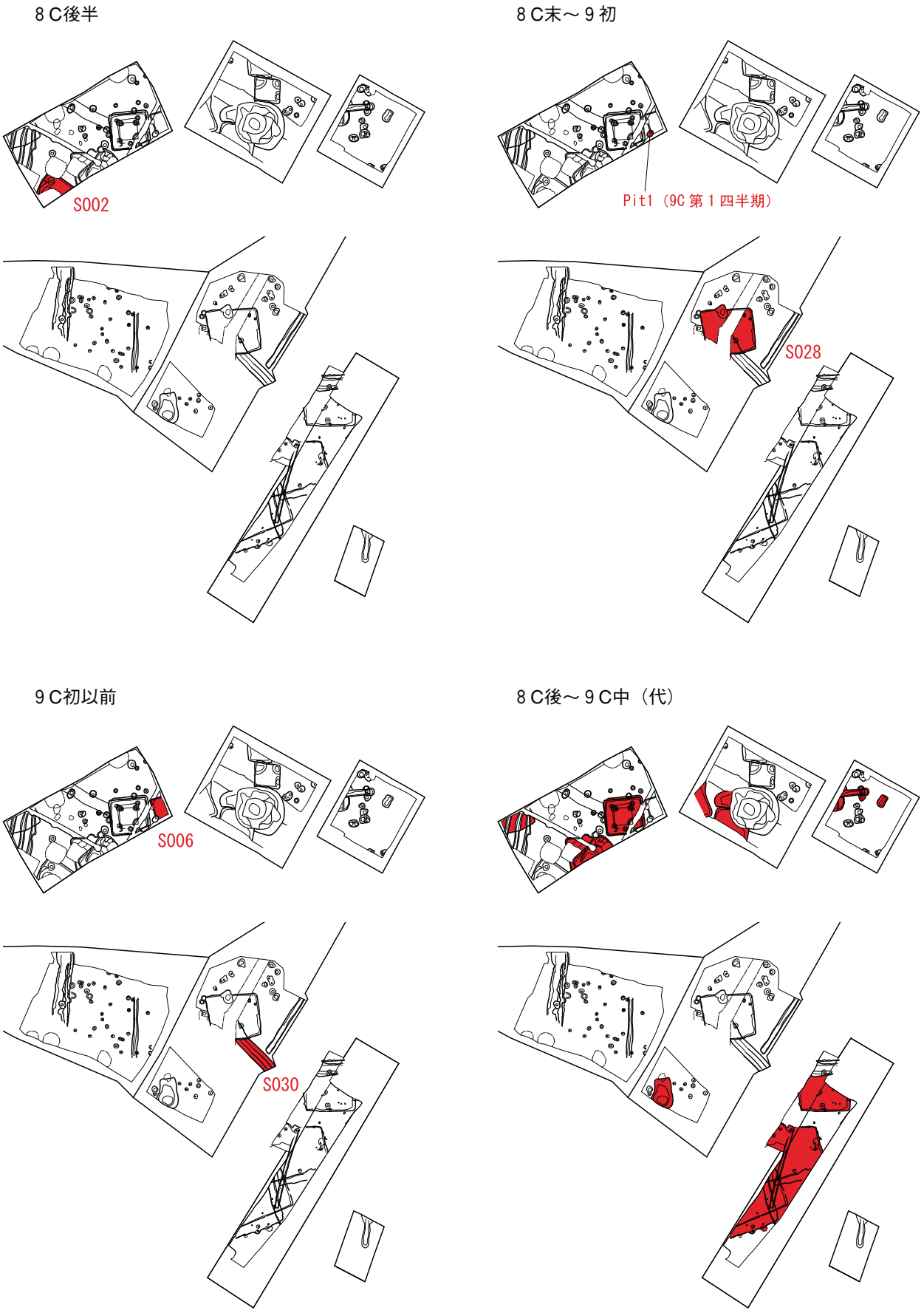
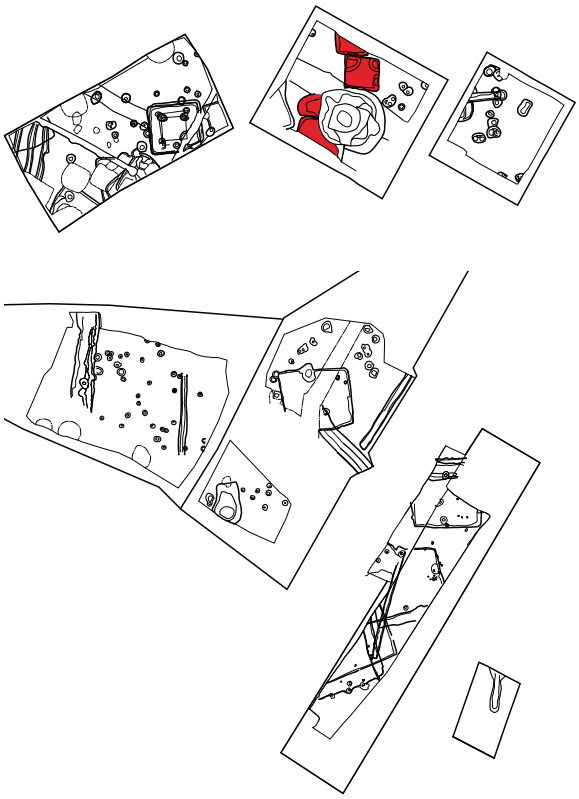
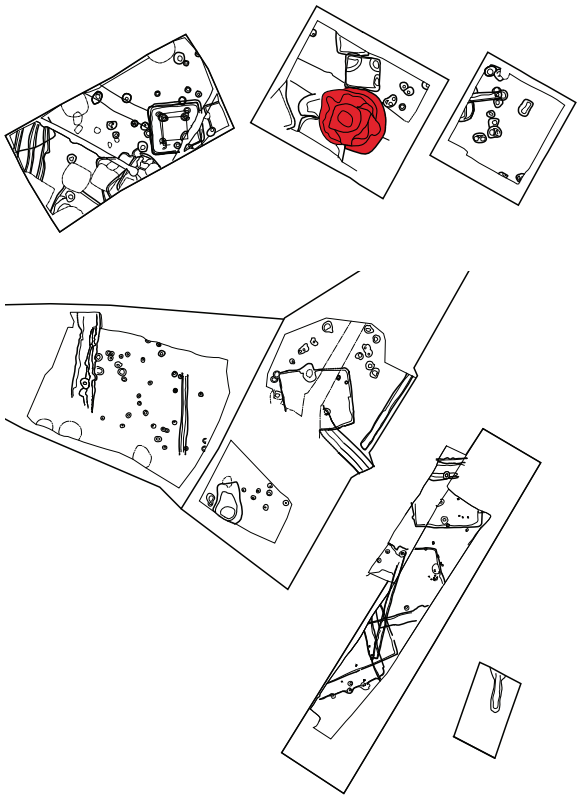


Fig.22　遺構変遷図（1）

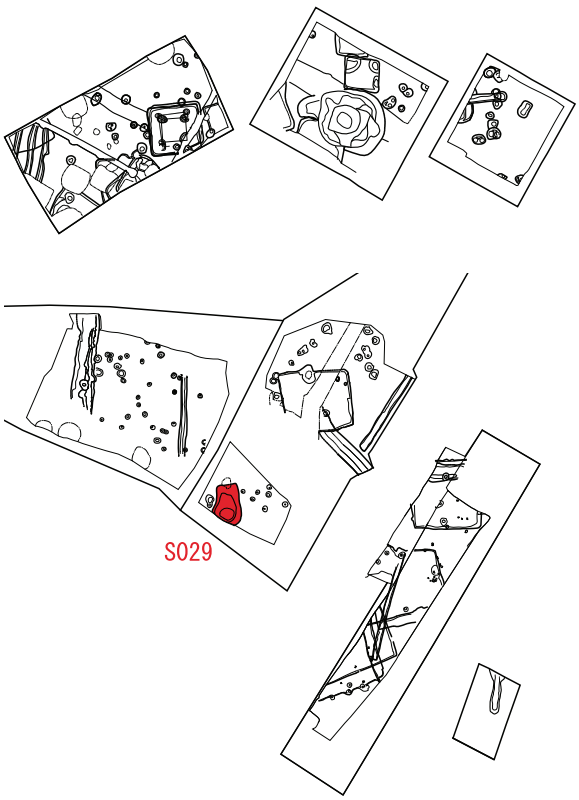
９C第３四半期以前



９C第３四半期



８C～９C



古代（８C～12前）

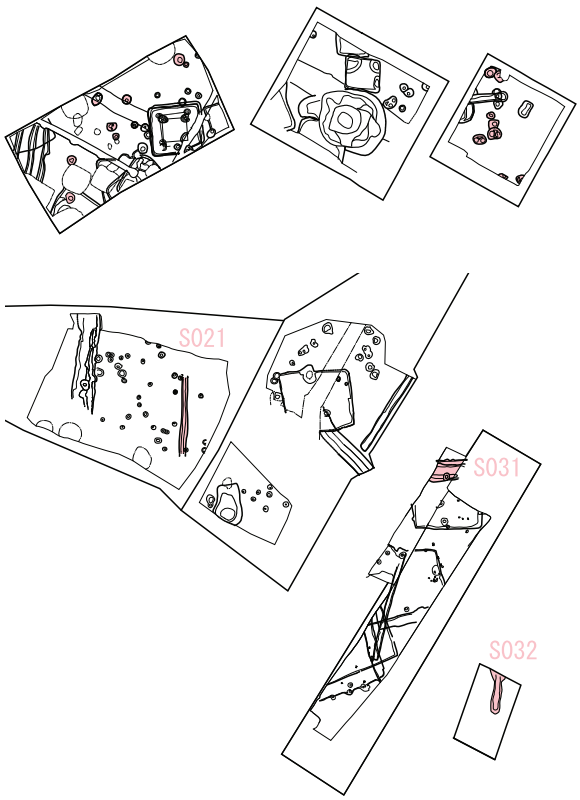


Fig.23　遺構変遷図（2）

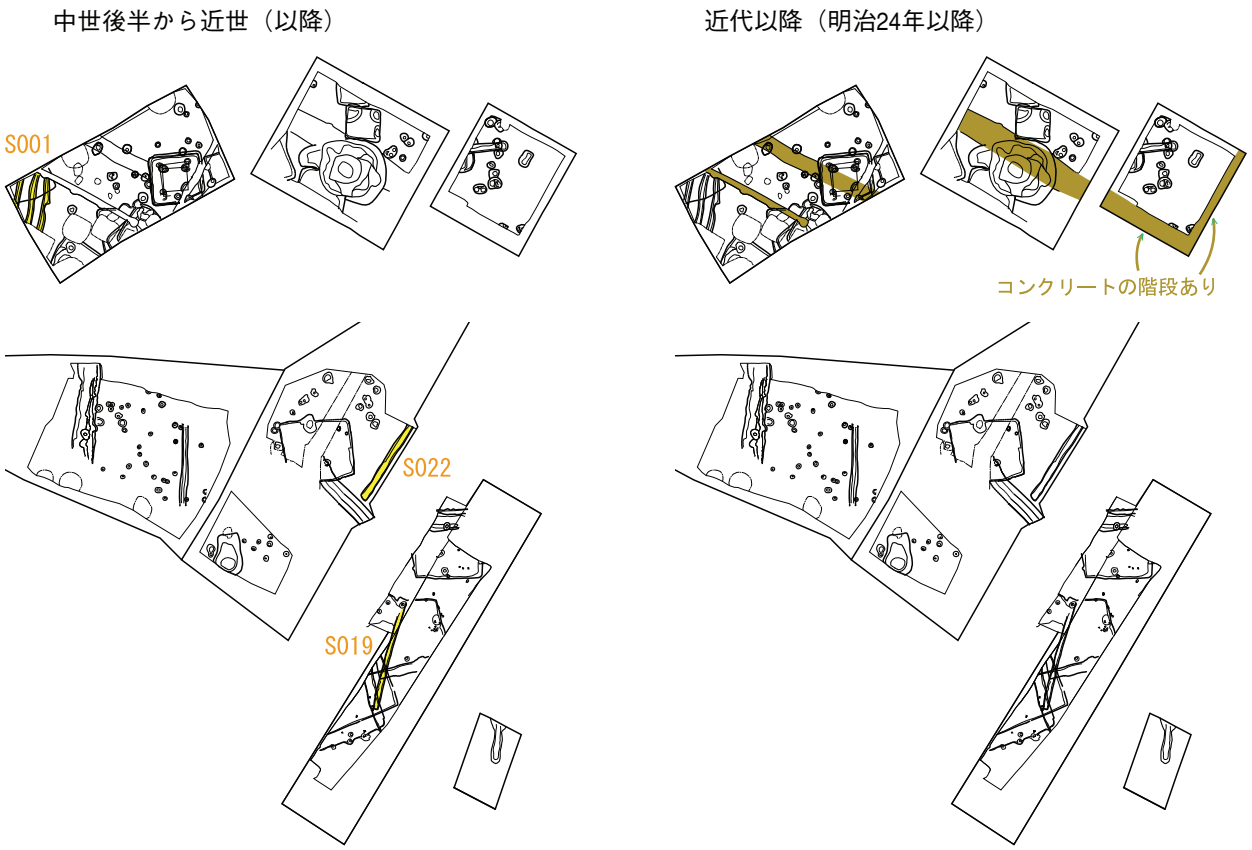


Fig.24　遺構変遷図（3）

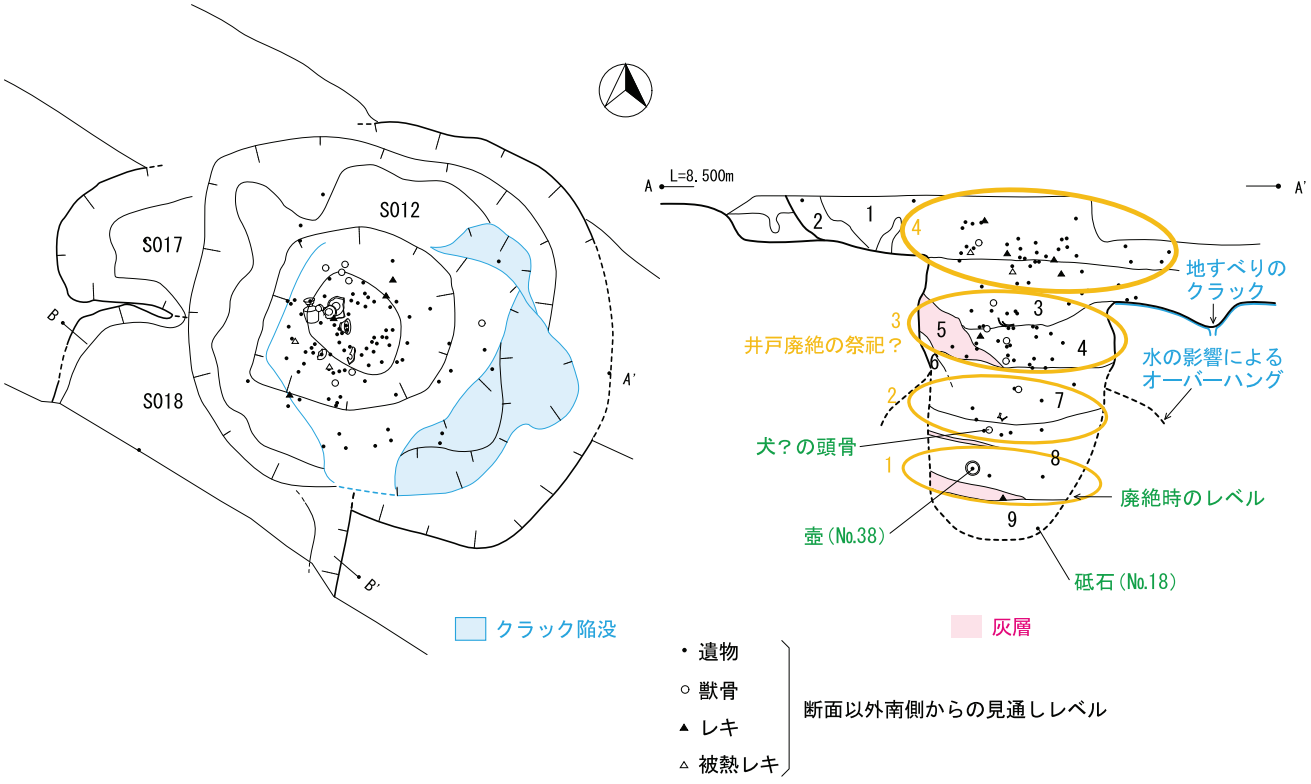


Fig.25　S012平断面図

〔埋土〕

埋土は８層に分層した。黒褐色の粘質土や砂質土が主体だが、所々に焼土・灰やブロック土を含んでいた。土層観察から９層が使用時の埋土、即ち井戸廃絶時の堆積土層、１～８層が井戸廃絶に伴い埋めた土と判断した。１～８層には部分的にブロック土は含まれているものの一気に埋めたとは言い難い。しかし、そう長い時間をおかないうちに埋めたものではないかと考えられる。

〔出土遺物〕

出土遺物は、須恵器、土師器、鉄器、獣骨（牛馬、犬？など)、砥石や礫（ほとんどが被熱した拳大から人頭大礫）などで、礫の総重量が47.6kg、須恵器・土師器類が9.2kgであった。上下層の遺物とも９世紀の第３四半期の範疇で捉えられる須恵器や土師器が主体であることからほぼ同時期に埋められたと考えられる。特筆すべき遺物として井戸廃絶時の完形の須恵器壺（№49)、２回目の灰層上に伴う犬と考えられる頭骨、最下層にあった被熱した砂岩の砥石（№59・60）などが挙げられる。

灰層が３層にわたり観察され、上層に行くに従い遺物の量が多くなっており、礫を含めた遺物の総重量は１（8.2kg)、２（5.4kg)、３（13.4kg)、４（29.8kg)、総重量56.8kgであった。

〔祭祀行為〕

井戸から出土する遺物の性格には①意識的埋納、②偶然の混入、③井戸廃棄後の投棄、④湧水濾過という３種類のパターン(2)が考えられると言われている。

私の結論は、③が無かったとはいえないが①の可能性が高いと考える。遺物集中４は③の意味合いが高いかもしれないが、３回目の灰層投棄の際２回にわたり土器等の投棄行われた可能性も否定できない。

焼土や灰層が３回にわたり西側から見られ、それと共に遺物、獣骨や被熱した礫が伴って出土、しかも上層になるに従い多量になる。井戸廃絶に伴う火を使った祭祀行為が少なくとも３回にわたり行われたと推察される。特に１層目の灰に伴う層から完形の須恵器壺が出土したことは圧巻であった。また、２回目には犬の頭骨、３回目には牛馬の骨が多数出土したことや被熱した礫が多かったことも興味深かった。

久世康博氏は「井戸に土器を入れる例は弥生時代から連綿と続いているが、江戸時代になるとその痕跡はほとんど途絶えてしまう」と述べておられる。土器を入れる儀式はなくなったとしても、現在でも井戸を埋める際には様々な儀式が伴う。仏式の場合井戸の水を川に流してから埋める例(3)があり、神式の場合お祓いした石を井戸に投げ込んだ後埋める例(4)がある。

久世氏は井戸に多量の土器を入れる理由として、①井戸（神）に奉献するで五穀を入れた土器埋納の例、②井戸（神）を介して祈願する例（墨書土器や木簡や人形など)、③井戸に蓋をする（多量の石も含まれる）－封をすることは、井戸（神）に対して、強固な意志で以って対峙する姿勢か－と述べている。

私は、井戸の水神様に井戸を廃絶するための許可を得るための儀式を行ったのではないのかと思う。

〔地すべりの痕跡〕

S012の井戸を切る形で長さ2.8m、幅0.8mのクラックが東側に弧を描く形状で確認された。井戸のステップから深さ20㎝ほど落ち込み、更に２～５㎝の幅でクラックが深部まで続いていた。

地震の影響と思っていたが、地下水位の低下による地すべり(5)の可能性が高いとの所見を得た。なるほど東側には坪井川や白川があり、坪井川は近現代に大幅な川底掘削を行っている。地下水の汲み上げ等による地下水位が低下していることもその一つの要因であろう。

◆駅関連遺構

明治24年（1891年）に熊本駅が開業してから後の遺構と考えられるのが、Fig.24の緑色の部分である。２区－１からは解体して埋め戻された溝の中から鉄道のレール(6)が出土しており、２区－２からはコンクリートの階段がＬ字状に検出された。１区でも階段に平行する様に瓦礫を含んだ溝が検出されている。詳細は不

明だが、旧熊本駅前の遺構と考えられる。

【註】

(1) 網田龍生1997「肥後における竪穴住居の終焉」『肥後考古 6 号』肥後考古学会

(2) 桜井秀雄1992「井戸から出土する牛馬遺存体について－動物犠牲との関係－」『考古学研究』154考古学研究

末永雅雄1958『橿原』奈良県教育委員会

久世康博2001「井戸はどうしてうめたのか（土器を入れる）」『研究紀要』第 7 号　財団法人京都市埋蔵文化財研究所

(3) 天台宗の例だが熊本市春日に所在する清水寺住職西川妙輝氏のご教示による。

(4) 熊本市天明地区の例として林田和人氏のご教示による。

(5) 馬場正弘氏と林田和人氏のご教示による。

(6) 藤崎正人氏、畑中儀介氏のご教示により、以下のことが判明した。

出土したレールは底部幅107.9㎜×高さ107.9㎜×頭部幅60.2㎜。これを1909（明治42）年 7 月12日付鐵道院達第623号『軌条及付属品ノ件』による分類をすると、第 7 類に該当する。第 7 類の規格は、底部幅107.95㎜×高さ107.95㎜×頭部幅60.33㎜とあり、車輌通過による磨耗や腐食等の要因を考慮に入れても、この分類で間違いないと考えられる。今回出土した軌条は 1 mあたりの重さが30kgであることから一般的に「30kg軌条」ともいわれ、通常 1 本の長さは10m、断面の形状から「双頭型軌条」といわれる軌条である。銘や刻印等は確認できていないので、製造国及び製鉄所は不明。30kg軌条の使用時期は、明治24年 7 月 1 日、九州鉄道高瀬（現玉名）－熊本間が開通し、開通当初はドイツ製24.5kg軌条が用いられていたが、明治36年以降博多を中心に順次30kg軌条に交換されていった様だ。明治40年の九州鉄道国有化を経て昭和 2 年 3 月迄には順次長崎線の一部と鹿児島線のうち門司－熊本、人吉－鹿児島が37.5kg軌条に置き換えれられていったので、この間を熊本駅付近における30kg軌条の使用時期と考えられる。間近に迫る対露戦（後の日露戦争）とそれ以降の兵員・物資輸送の観点から車輌、軌条共に拡充させる必要性が時代背景としてあったのではないかと想定される。

４．写真図版

PL.1　駅前1区 完掘状況（空撮状況）

PL.2　駅前2区ー1 完掘状況（南東から）

PL.3　駅前3区ー2･3 完掘状況（南東から）

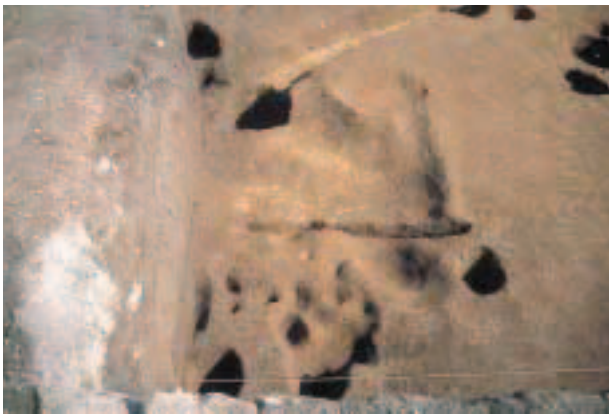
PL.4　駅前3区ー1 完掘状況（北東から）

PL.5　1区 調査区全景（西から）

PL.6　1区 S002遺物出土状況（北東から）

PL.7　1区 S002完掘状況（北西から）

PL.8　1区 S003検出状況（北東から）



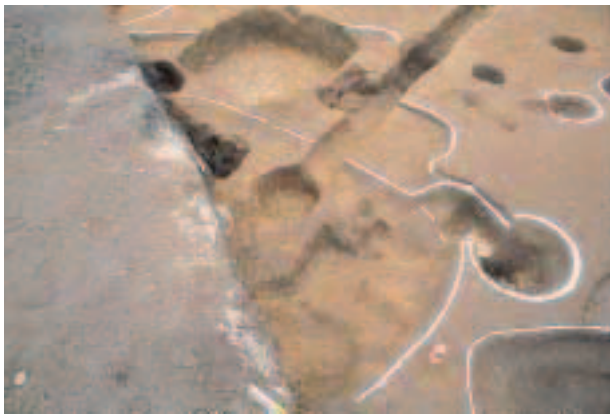
PL.9　1区 S003完掘状況（南西から）

PL.10　1区 S003完掘状況（南から）

PL.11　1区 S003完掘状況（南東から）

PL.12　1区 南西側土層断面（北東から）

PL.13　1区 S004完掘状況（北西から）



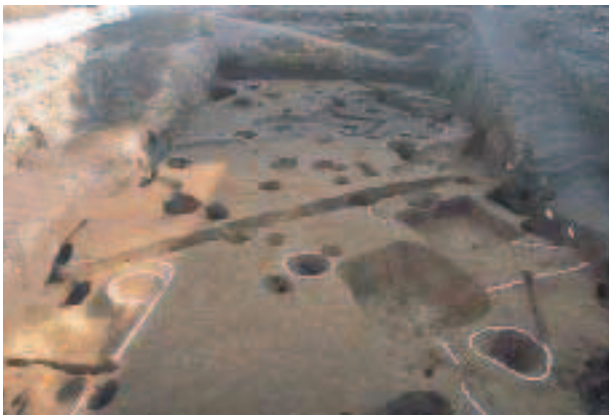
PL.14　1区 S004・007・008完掘状況（東から）

PL.15　1区 S005・009の切り合い状況

PL.16　1区 S005・009の土層断面

PL.17　1区 S005上層遺物出土状況（南東から）

PL.18　1区 S009完掘状況（東から）



PL.19　1区 完掘状況1（南西から）

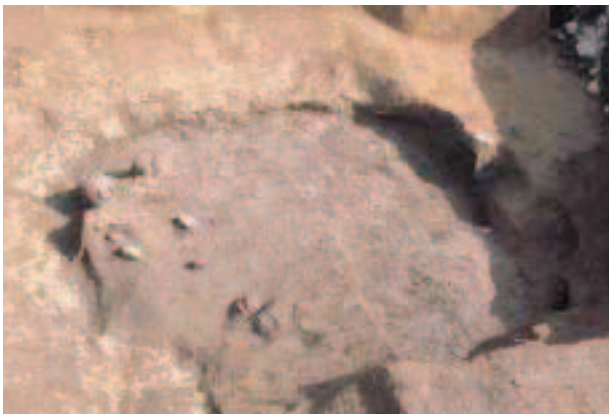
PL.20　1区 完掘状況2（北東から）

PL.21　2区－1･2 調査区全景（北東から）

PL.22　2区－1 遺構検出状況

PL.23　2区－1 S012検出状況（南西から）

PL.24　2区－1 S012掘り下げ状況1（南西から）



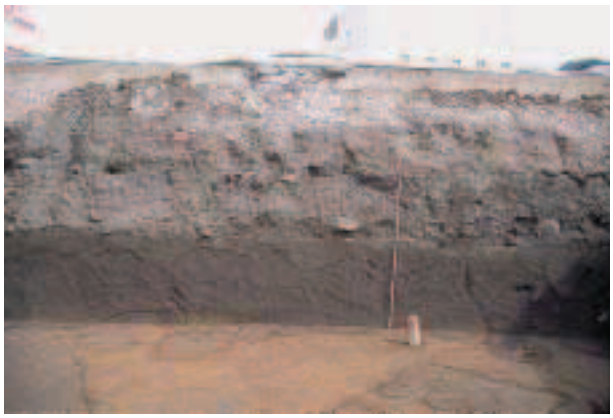
PL.25　2区－1 S012掘り下げ状況2（北西から）

PL.26　2区－1 S012最下層遺物出土状況（北から）

PL.27　2区－1 S013硬化面礫検出状況

PL.28　2区－1 S013完掘状況（北から）

PL.29　1区 ピット1遺物出土状況(西から)



PL.30　2区ー1 北東側土層断面(南西から)

PL.31　2区ー2 S010土層断面(北東から)

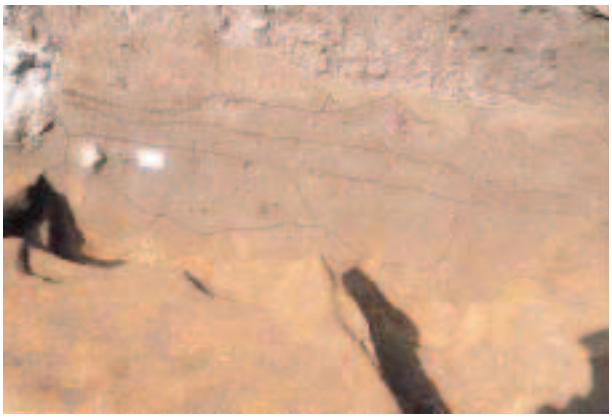
PL.32　2区ー2 完掘状況1(南西から)

PL.33　2区ー2 完掘状況2(北東から)

PL.34　2区ー2 ピット44･47断面(東から)

PL.35　2区ー2 南西壁基礎 駅の遺構(北東から)

PL.36　2区ー2 北東側土層断面



PL.37　2区－2 北西壁断面（南東から）

PL.38　3区－1 調査前（北東から）

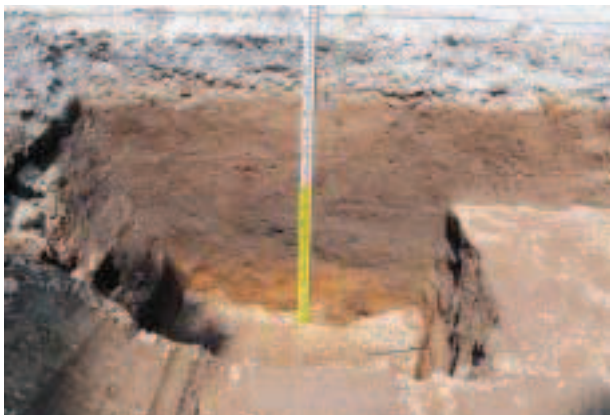
PL.39　2区－2 遺構検出状況

PL.40　3区－1 S019検出（南から）

PL.41　3区－3 S021検出状況

PL.42　3区－2 S022検出状況（北東から）

PL.43　3区－4 S032掘削状況（北西から）



PL.44　3区－2 S022土層断面（南から）

PL.45　3区－1 S031完掘状況（北東から）

PL.46　3区－1 S031検出状況（北東から）

PL.47　3区－1 S023･024検出状況（南から）

PL.48　3区－1 S023･024検出状況

PL.49　3区－1 S025検出状況（南東から）

PL.50　3区－1 S025風字硯検出状況（南から）

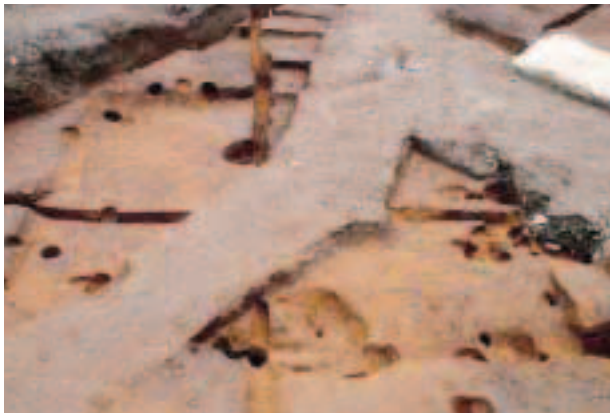
PL.51　3区－1 S025南側完掘状況（東から）

PL.52　3区－1 S025完掘状況（南東から）

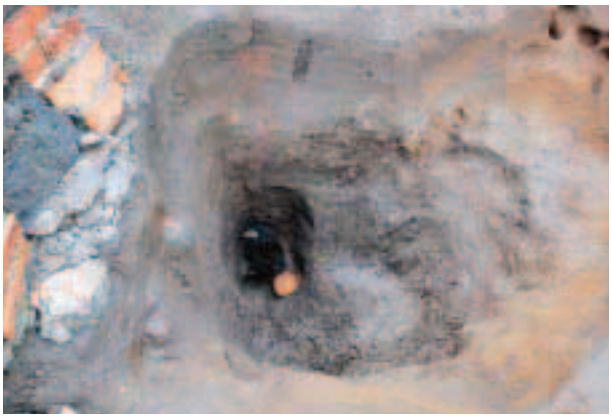
PL.53　3区－1 S026カマド検出状況（南から）

PL.54　3区－2 S028検出状況（北から）

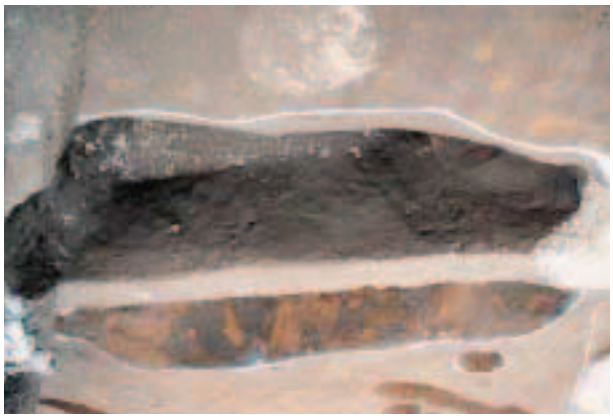
PL.55　3区－2 S028遺物出土状況（南から）



PL.56　3区－2 S028完掘状況（北から）



PL.57　3区－2 S029上層遺物出土状況（東から）



PL.58　3区－2 S029掘り下げ状況（西から）

PL.59　3区－2 S030遺物出土状況（南西から）

PL.60　3区－1 実測状況（南西から）

※（写）は写真撮影のみ

S002

S002

S002

S002

S002

S002（写）

S002（写）

S002（写）

S002・S005（写）

S004

S004

S005

S005

S005

S005

S005（写）

S005（写）

S014・S005（写）

PL.62

S005（写）

S005（写）

S007

S009・S007

S009

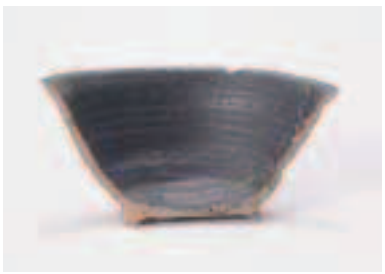
S010

S011

S012

S012

S012


S012

S012

S012

S012

S012

S012

S012

S012

PL.63

S012

S012

S012

S012

S012

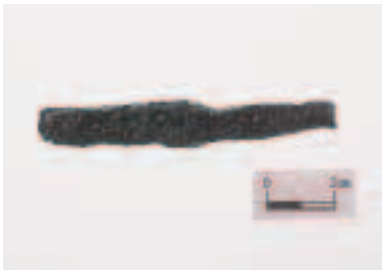
S012

S012

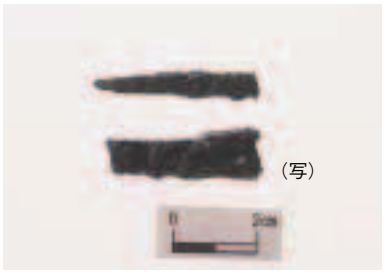
S012

S012

U−36・S012



S012



（写）

S012・S028

S013

S013（写）

S014

S018（写）

S020

S020

PL.64

S020

S020

S020

S020

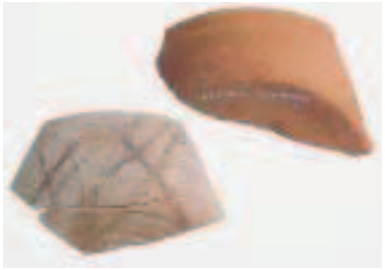
S020

S024・S020

B―2・S020・S026（写）

S020（写）

S023


S025

S025

S025（写）

S025・S027

S026・S025（写）

S026

S026

S026

S023（写）

PL.65

S027

S028

S028

S028

S028

S028（写）

S028（写）

S029・S028（写）

S028

S029

S029

S029

S029

S029

S029

S029

S029・3b層（写）

S030

PL.66

ピット1・ピット34

ピット54（写）

O―30

O―30

O―30

O―30

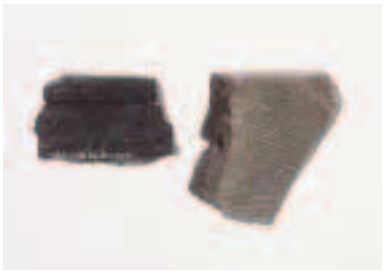
3層

3層

3b層

ピット3・ピット8

ピット21


B―1

B―1

B―2・B―1

B―1（写）

B―1（写）

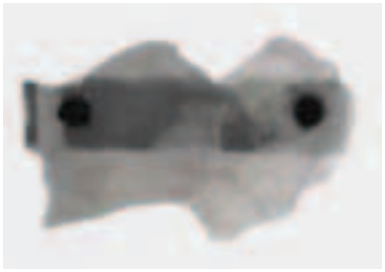
B―2

B―1・3b層

PL.67

B－1

TU－36


TU－36X線写真

B－2

B－2

B－2（写）

B－2（写）

B－2（写）

B－2（写）

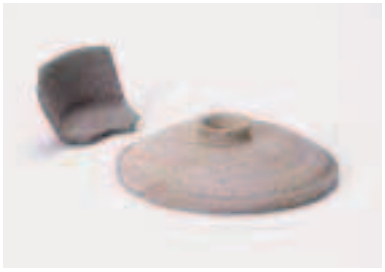
B－2（写）

B－2（写）

B－2

B－2

3区　No.9


3区3b層（写）

3区表土はぎ（写）

3区　No.10（写）

2区3b層（写）

第７節　工事立会の調査

１．立会調査区

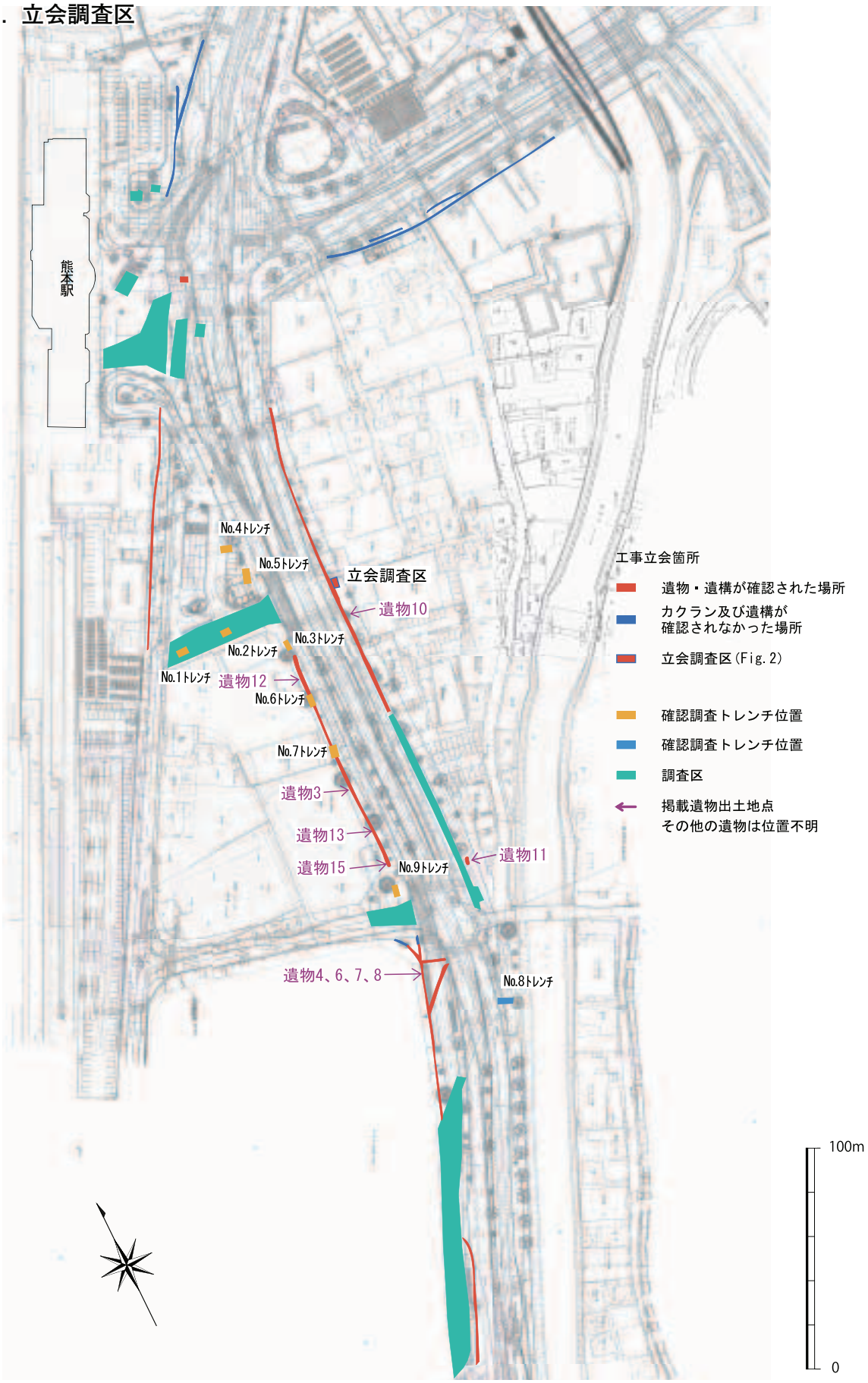
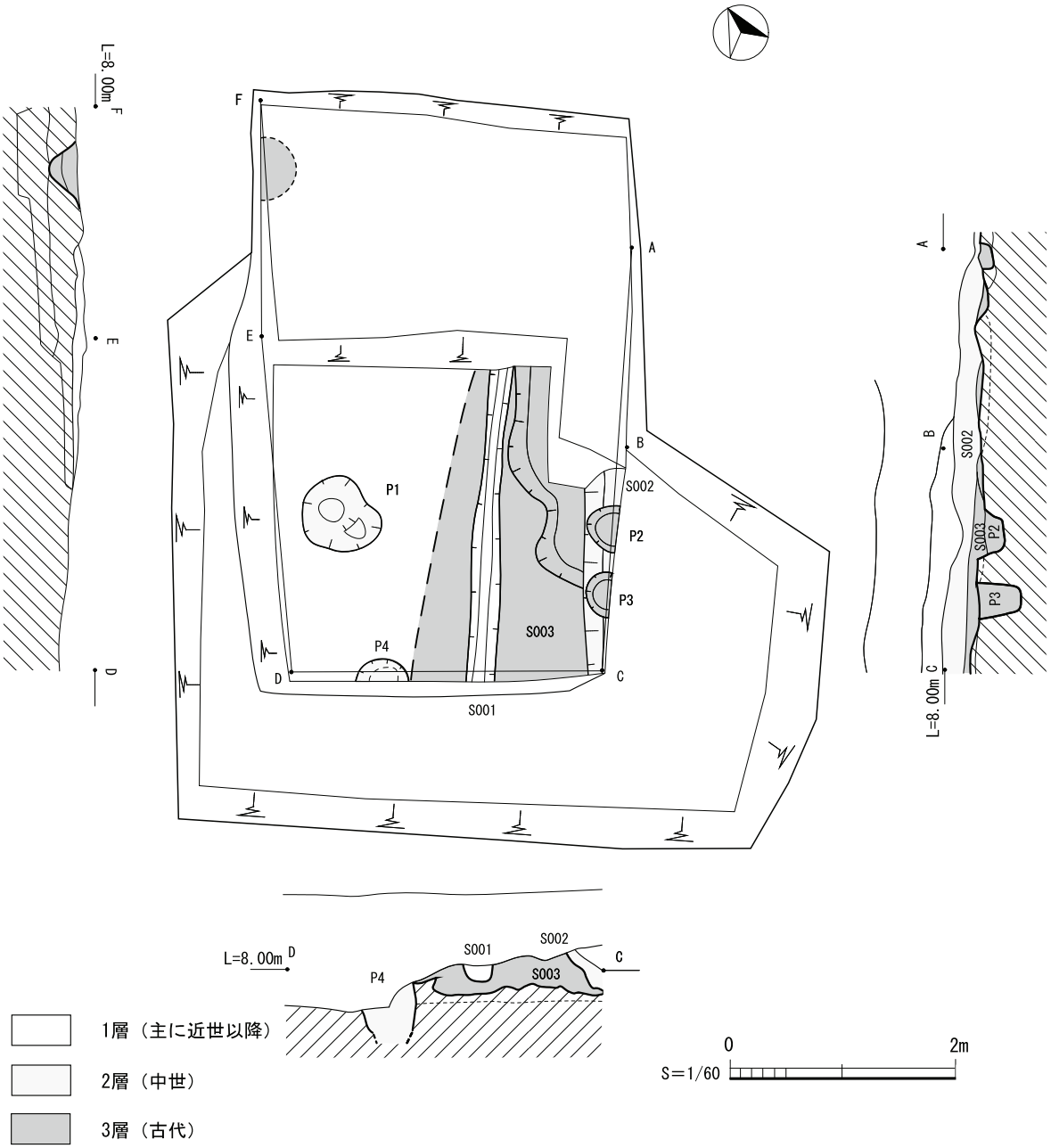


Fig.1　工事立会全体配置図



S001	溝	1層カクランの溝（明治以降） 明治時代の印判手の染付磁器片が出土
S002	溝	2B層主体 （中世～古代）
S003	溝	2B～3層主体で4ABブロック土含む いずれも古代の遺物のみ

※S002とS003は同一の溝の掘りかえと推定される。

Fig.2　立会調査区遺構実測図（S=1/60）

２．遺物と観察表

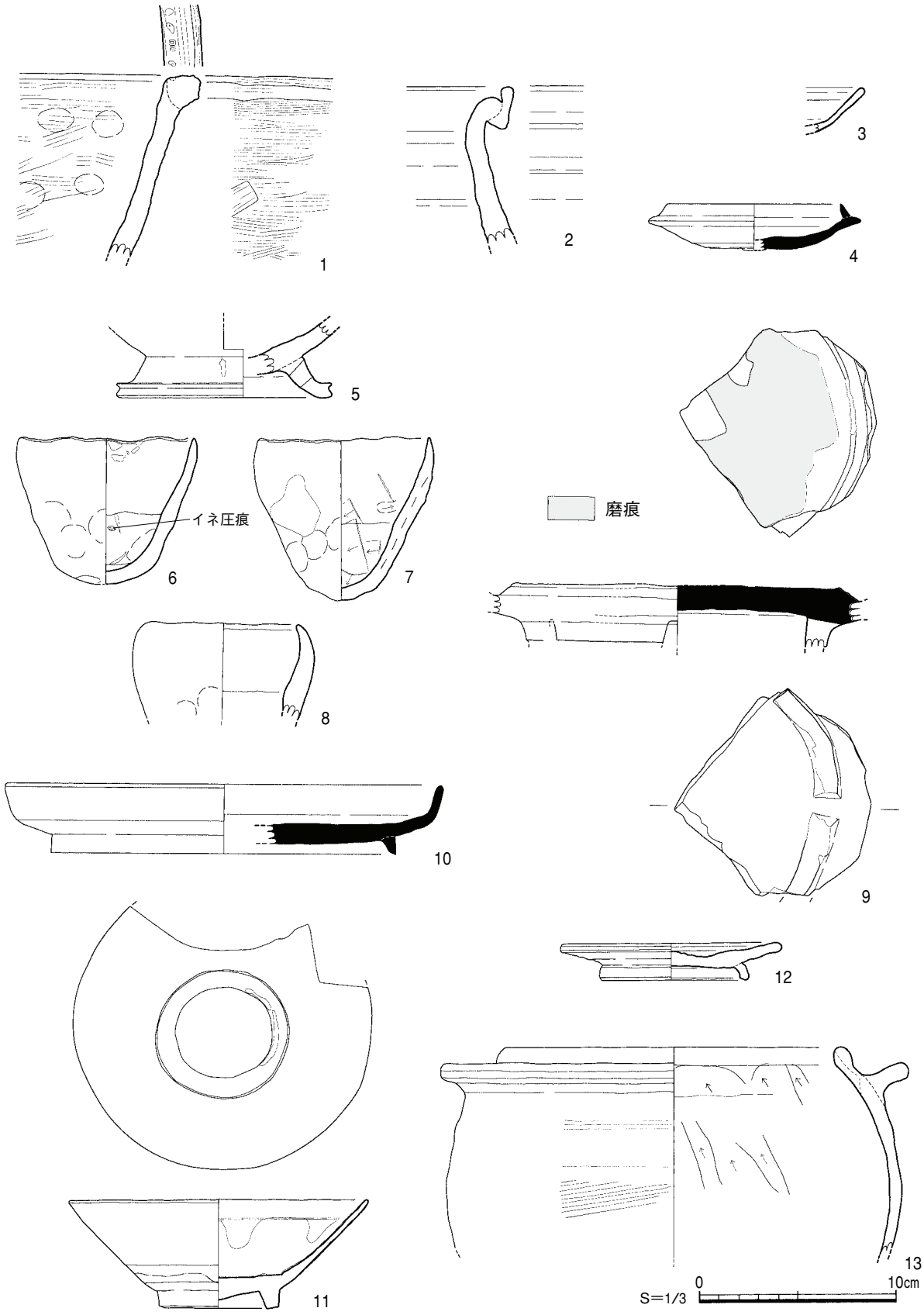


Fig.3　工事立会出土遺物実測図（1）

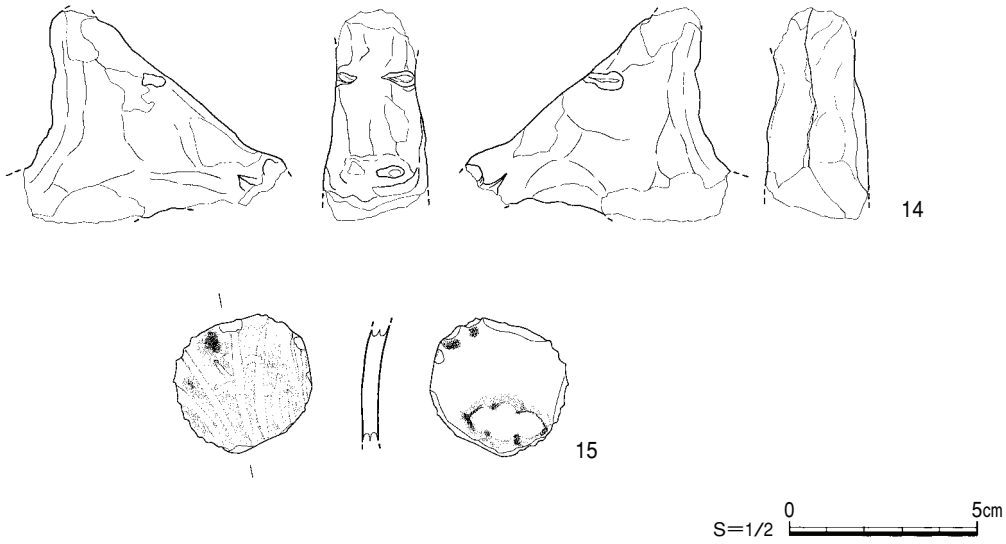


Fig.4　工事立会出土遺物実測図（2）

Tab.1　立会調査区土製品観察表

図版番号	遺物番号	種別	器種	調査場所	調査区	出土地点	層位	取り上げ	寸法（cm）			重さ（g）	色調	胎土	残存度	備考
									長さ	幅	厚さ					
4	14	土師器	土馬	駅前立会				№56	6.9～	2.7～	5.6～	－	橙7.5YR6/6	角閃石：多、赤色粒、石英、長石	破片	頭部のみ　　古代
4	15	染付	染付磁器片転用品（おはじき）	さつま荘側工事立会			撹乱		3.7	3.4	0.4	－		褐色粒	完形	原形は、肥前系染付磁器、八角形の外返りの鉢(1820ー1860)の一部と考えられる。遊具(おはじき)として使用されたものであろう。 内面：墨はじきの草文 外面：雲文

Tab.2　立会調査土器・陶磁器類観察表

図版番号	遺物番号	種別	器種	調査場所	出土地点	層位	取上げ番号	寸法（cm）				調整		色調		胎土	焼成	残存度	備考
								口径	底径	器高	高台高	（内面）	（外面）	（内面）	（外面）				
3	1	土師器	土鍋	駅周立会			清掃			9.3～		ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ後刺突、ハケ目	にぶい黄橙 10YR7/4	明褐 7.5YR5/6	輝石:多い 石英、長石まばら	良	口縁～体部 1/8	口縁～体部にスス付着 口縁～刺突？　13C？
3	2	陶器	甕	駅周立会			清掃			8.0～		回転ナデ	回転ナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	長石・黒色粒：多い	良		中世の常滑焼　6a型式(1)か？(13C中？)
3	3	磁器	皿	駅周立会			No.55	(10.0)		2.3～		回転ナデ後施釉	回転ナデ後施釉	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	長石・石英・砂粒	やや不良	口縁部 1/9	李朝青磁の可能性大(初期高麗青磁の可能性も残る)。李朝なら1644～1910年(2)
3	4	須恵器	坏	駅周立会	掃除		No.57	(8.8)		2.4～		ヘラ切り	横ナデ、ヘラ削り後ナデ、ヘラ切り離し	灰N4/0	灰N4/0	長石・白色粒・黒色粒	良		外面天井部に自然釉有。外面口縁部付近に鉄分付着か？7C後
3	5	須恵器	台付き椀	駅周立会					(10.8)	3.9～	2.1	表面は剥落、横ナデ後指頭圧痕	横ナデ、高台はり付け後ナデ	赤褐5YR5/2・ 黒褐5YR3/1	にぶい褐 7.5YR5/3	ガラス質の粒子、黒色粒	良	1/4	脚部に穿孔1箇所、外面から内面へ刺突する形で
3	6	土師器	製塩土器	駅周立会	住居跡		No.57	(9.0)	胴径 (9.2)	(7.5)		板状、棒状工具による調整、ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕、	橙5YR6/6	橙5YR7/6	石英・長石・砂粒・輝石、赤色粒:多	良	口縁部～底部 1/5	古代。全体に被熱。内面口縁部に粘土痕残る。イネ(種子)圧痕有。
3	7	土師器	製塩土器	駅周立会	住居跡		No.57	(8.8)	胴径 (9.1)	8.2		板状、棒状工具による削り、ナデ	指頭圧痕	橙5YR6/6	橙5YR7/6	長石・砂粒・輝石:多、石英・赤色粒	良	底部～口縁 1/2	古代。外面全面被熱、黒斑有、指紋も残存。
3	8	土師器	製塩土器	駅周立会	住居跡		No.57	(7.8)		4.9～		ナデ(工具痕は不明)	指頭圧痕、ナデ	橙5YR6/6	橙5YR6/6	長石・赤色粒・砂粒・輝石:多、石英まばらに入る	良	口縁部 1/6	古代
3	9	須恵器	円面硯	駅周立会			清掃	(16.2)			2.8～	すり痕		灰5Y4/1	灰白2.5Y7/1	2.5㎜以下の石英・長石・黒色粒	良		スカシ有　8C前
3	10	須恵器	盤	西部ガス立会	3～6m	2･3層		(22.0)	(17.6)	3.6	1.0	横・斜め方向ナデ(部分的に灰かぶりあり)	横・斜め方向ナデ(部分的に灰かぶりあり)回転ヘラ削り横ナデ、高台はり付け後横ナデ	赤灰 2.5YR4/1	赤灰 2.5YR4/1	白色粒、黒色粒	良	1/4	一部自然釉あり　8C後
3	11	白磁	椀	西部ガス立会	拡張部北側		排土中	15.2	6.3	5.6	1.0	回転ナデ後の施釉回転ナデ後蛇の目釉剥ぎのための削り施釉・無釉、回転ナデ後ミガキ　施釉	回転ナデ後ミガキ施釉、回転ナデ後ヘラ削り背釉、無釉	灰白7.5Y7/2	灰白7.5Y7/2	灰白色のカオリン主体の陶石土。 微細な黒色粒：多	良	3/4	D期 12世紀中～後期(3)。釉は全体にかかる。露胎部：灰白5Y7/1
3	12	土師器	托	駅周立会	S-6	2層		10.9	7.6	2.0	0.7	横ナデ	横ナデ、ヘラ切り後ナデ	橙5YR6/6	橙5YR6/6	雲母：多い　長石、角閃石、輝石、褐色粒まばら	良	完形	10C後
3	13	土師器	羽釜	駅周立会	S-7	3b層		(17.0)	胴径 (23.2)	10.6～		ケズリ後ナデ	横ナデ、横方向のハケ目、ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石、砂粒:多い　輝石、褐色粒まばら	良		古代

〔註〕(1) 中野晴久　1998「常滑・渥美」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編より。
(2)(3) 山本信夫氏のご教示による。

3．小結

【概要】

工事立会いは、上下水道、通信管、ガス管、NTTケーブルなどの埋設や植木の移植工事に伴い実施した。掘削幅が狭小であること、深さが工事内容や場所により異なることから包含層や遺構面に達する箇所にのみ立会いを行った。また、新幹線開通前の切迫した期間の中での立会いであり、工事業者の都合に合わせて実施したため、夜間の立合いを含め充分な記録保存ができず、遺構の有無や出土した遺物の採集が中心とならざるをえなかった。唯一調査が可能であった場所については記録保存を行った（Fig.2）が、日本測地系の座標には載っておらず、おおよその場所でしかない。

確認調査は、平成19年７月21日、９月25日～26日に廣田静学（参事）と後藤克博（文化財保護主事）が行った。Fig1にトレンチ位置を図示した。

工事立会いは平成21年４月～10月の６ヶ月間に中村幸弘（主任学芸員)、布田智久・後藤克博（文化財保護主事)、稲葉洋一・藤崎・多賀・波多野・桑島（非常勤職員)、岡本が担当した。

【調査成果】

◆遺構

Fig.1は、本調査区や確認調査トレンチ位置を示した他に工事立会い箇所のトレンチ位置を色別に示している。赤は遺物・遺構が確認された場所であり、青は撹乱等により既に遺構や包含層が破壊されていたり、遺構が確認されなかった場所を示している。

熊本駅前の長いトレンチでは旧熊本駅前の遺構と思われる階段状のセメントや石垣が検出され、既に遺構や遺物包含層は破壊され、ほとんど残存していなかった。熊本駅前から白川方面のトレンチでも撹乱が多く見られた。以前、大規模スーパーであるユニードが建っていたことや川側であり堤防建設や災害復旧による原因などが考えられる。

熊本駅より南側のトレンチでは部分的な撹乱以外は遺構・遺物は多く確認された。トレンチが狭小のため断言はできないが竪穴住居、溝、土坑、ピット等が確認された。本調査と同様、後世の撹乱等が無い限り遺物包含層や遺構は残存していることが判明した。

◆遺物

工事立会いによる出土遺物は、網コンテナ（62×46×18cm）に15箱分あった。その中から7世紀後半から19世紀までの15点の遺物を図示し、各々のデータは観察表に記載した。（Fig.3－4、Tab.1－2参照）

本調査の結果と同様、古代の８世紀後半～12世紀前半を中心とした遺物が多く出土した。

竪穴住居跡と思われる遺構内から古代の製塩土器（Fig.3－6～7）が多く出土していることは特筆すべきであろう。

４．写真図版

PL.1　西部ガスアクセス設備工事立会

PL.2　西部ガス北側立会調査区遺構検出状況（東から）

PL.3　西部ガス工事立会

PL.4　西部ガス工事立会土層断面

PL.5　さつま荘工事立会

PL.6　さつま荘工事立会土層断面①

PL.7　さつま荘工事立会土層断面②

※（写）は写真撮影のみ

駅周立会No.56一括

駅周立会

駅周立会通信管路一括

駅周立会No.55

駅周立会通信管路

駅周立会No.57住居跡（写2点）

駅周立会No.57住居跡

駅周立会No.57

駅周立会通信管路

駅周立会No.57住居跡

駅周立会No.57住居跡（写）

駅周立会No.54（写）

駅周立会土器集中部（写）

駅周立会No.56土器集中部一括（写）

駅周立会No.56土器集中部（写）

駅周立会No.56土器集中部一括（写）

駅周立会通信管路（写）

駅周立会No.56（写）

PL.9

駅周立会No.56土器集中部（写）

駅周立会通信管跡3（写）

駅周立会No.57住居跡（写）

駅周立会No.56土器集中部一括（写）

駅周立会No.56土器集中部一括（写）

駅周立会No.57住居跡（写）

駅周立会No.56土器集中部（写）

駅周立会通信管路3土器溜一括（写）

駅周立会水道管サブトレー括（写）

駅周立会No.57一括（写）

駅周立会No.54（写）

駅周立会No.54一括（写）

駅周立会通信管路（写）

駅周立会No.55ソウジ（写）

駅周立会通信管路(十五建)（写）

駅周立会通信管路一括（写）

駅周立会No.27（写）

駅周立会S−7　3b層

PL.10

駅周立会2層　S－6

駅周立会G－1　3b層（写）

駅周立会S－7　3b層（写）

駅周立会S－11　3b層（写）

駅周立会S－10・11　3b層（写）

駅周立会N－9　3b層（写）

駅周立会S－6・8　3層（写）

西部ガス立会3～6m　2・3層

さつま立会カクラン層

西部ガス立会拡張部北側

西部ガス立会（写）

さつま立会集合マス（写）

西部ガス立会0～9m　2・3層（写）

西部ガス立会12～19m　2・3層（写）

西部ガス立会0～6m　2・3層（写）

さつま立会9～12m　2・3層（写）

さつま立会3～9m　2・3層（写）

駅周立会水道管一括（写）

第４章　自然科学分析

二本木遺跡群の自然科学分析調査

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

熊本市二本遺跡群は、白川下流右岸の沖積地に立地する。これまでの発掘調査により、８世紀中頃～９世紀にかけての大規模な建物群が検出されており、古代の国府跡である可能性が指摘されている。

今回の分析調査では、市電敷地、東横イン北側、西部ガス跡地、さつま荘跡地、熊本駅前の各地区の発掘調査で出土した遺物を対象として、遺構の年代確認のために炭化材・種実遺体を用いた放射性炭素年代測定を、遺構の機能推定のために寄生虫卵分析を、植物利用を明らかにするために種実同定を、土坑底出土の不明ガラス粒子状物質の性状や由来を検討するために薄片作製・鑑定およびX線回折分析を実施する。

Ⅰ．放射性炭素年代測定

１．試料

試料は、東横イン北側（東横）のS060pit1埋土1から出土した炭化材、同S068住居カマド中位から出土した炭化種実、市電敷地（市電）のS006住居焼土半裁から出土した炭化種実、同S017住居カマド南半分から出土した炭化種実、西部ガス跡地（西部ガス）のS070住居カマド（西）から出土した炭化種実の合計5点である。炭化材は、観察できる中で最外部の２～３年分の年輪を採取して試料とする。炭化種実については、それぞれ多数ある中から２粒を選択して試料とする。

２．分析方法

試料に土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、１gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（２時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径１㎜の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。なお、放射性炭素年代は、δ13Cの値を用いて同位体効果の補正を行った値（補正値）と、補正前の値を併記する。

補正年代を用いて、暦年較正を実施する。暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5730±40年）を較正することである。暦年較正には、RADIOCARBON CALIBRA

TION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用いる。その際、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表す。いずれも炭化材や炭化種実を試料としていることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ１とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

３．結果

放射性炭素年代測定結果を表１、暦年較正結果を表２に示す。同位体効果の補正を行った年代値は、東横イン北側S060pit1埋土1から出土した炭化材が1,150±30BP、市電敷地のS006住居焼土半裁から出土した炭化種実が1,320±30,BP、同S017住居カマド南半分から出土した炭化種実が920±30BP、西部ガス跡地のS070住居カマド（西）から出土した炭化種実が1,020±30BP、東横イン北側S068住居カマド中位から出土した炭化種実が1,340±30BPを示す。また、測定誤差をσとして計算させた暦年較正結果は、東横イン北側S060pit1

表１．放射性炭素年代測定結果

地点	遺構	位置	層位	番号	種類	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code No.	Measurement No.
東横	S060	pit1	埋土1		炭化材(コナラ属クヌギ節)	1,150±30	−26.96±0.67	1,180±30	10375-1	IAAA-83210
市電	S006住居	焼土半裁			炭化種実(２粒)	1,320±30	−24.97±0.34	1,320±30	10375-2	IAAA-83211
市電	S017住居	カマド南半分		No.1	炭化種実(２粒)	920±30	−23.31±0.58	890±30	10375-3	IAAA-83212
西部ガス	S070住居	カマド（西）			炭化種実(２粒)	1,020±30	−22.52±0.68	980±30	10375-4	IAAA-83213
東横	S068住居	カマド	中位		炭化種実(２粒)	1,340±30	−27.35±0.67	1,380±30	10375-5	IAAA-83214

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表２．暦年較正結果

地点・遺構	補正年代 (BP)		暦年較正年代(cal)									相対比	Code No.
東横　S060pit1埋土１ 炭化材(コナラ属クヌギ節)	1,145±33	σ	cal	AD	830	–	cal	AD	837	cal	BP	1,120 – 1,113	0.043	10375-1
			cal	AD	868	–	cal	AD	905	cal	BP	1,082 – 1,045	0.348	
			cal	AD	912	–	cal	AD	970	cal	BP	1,038 – 980	0.609	
		2σ	cal	AD	780	–	cal	AD	792	cal	BP	1,170 – 1,158	0.038	
			cal	AD	804	–	cal	AD	979	cal	BP	1,146 – 971	0.962	
市電 S006住居焼土半裁 炭化種実	1,320±33	σ	cal	AD	657	–	cal	AD	694	cal	BP	1,293 – 1,256	0.714	10375-2
			cal	AD	702	–	cal	AD	706	cal	BP	1,248 – 1,244	0.044	
			cal	AD	748	–	cal	AD	765	cal	BP	1,202 – 1,185	0.242	
		2σ	cal	AD	651	–	cal	AD	728	cal	BP	1,299 – 1,222	0.740	
			cal	AD	736	–	cal	AD	772	cal	BP	1,214 – 1,178	0.260	
市電 S017住居カマド南半分 No.1 炭化種実	918±32	σ	cal	AD	1,044	–	cal	AD	1,101	cal	BP	906 – 849	0.613	10375-3
			cal	AD	1,119	–	cal	AD	1,143	cal	BP	831 – 807	0.253	
			cal	AD	1,146	–	cal	AD	1,159	cal	BP	804 – 791	0.134	
		2σ	cal	AD	1,029	–	cal	AD	1,186	cal	BP	921 – 764	0.987	
			cal	AD	1,200	–	cal	AD	1,205	cal	BP	750 – 745	0.013	
西部ガス S070住居カマド(西) 炭化種実	1,023±32	σ	cal	AD	989	–	cal	AD	1,026	cal	BP	961 – 924	1.000	10375-4
		2σ	cal	AD	900	–	cal	AD	917	cal	BP	1,050 – 1,033	0.033	
			cal	AD	966	–	cal	AD	1,046	cal	BP	984 – 904	0.910	
			cal	AD	1,092	–	cal	AD	1,121	cal	BP	858 – 829	0.046	
			cal	AD	1,140	–	cal	AD	1,148	cal	BP	810 – 802	0.011	
東横 S068住居カマド中位 炭化種実	1,337±30	σ	cal	AD	652	–	cal	AD	688	cal	BP	1,298 – 1,262	0.976	10375-5
			cal	AD	755	–	cal	AD	756	cal	BP	1,195 – 1,194	0.024	
		2σ	cal	AD	645	–	cal	AD	718	cal	BP	1,305 – 1,232	0.855	
			cal	AD	743	–	cal	AD	769	cal	BP	1,207 – 1,181	0.145	

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用した。
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)１桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、１桁目を丸めていない。
4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である
5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

埋土1から出土した炭化材がcalAD830-970、市電敷地のS006住居焼土半裁から出土した炭化種実がcalAD657-765、同S017住居カマド南半分から出土した炭化種実がcalAD1,044-1,159、西部ガス跡地のS070住居カマド（西）から出土した炭化種実がcalAD989-1,026、東横イン北側S068住居カマド中位から出土した炭化種実がcalAD652-756である。

なお、東横イン北側S060pit1埋土１から出土した炭化材については、分割して残った試料を利用して樹種同定を実施し、広葉樹のコナラ属クヌギ節に同定された。

Ⅱ．寄生虫卵分析

１．試料

試料は、東横イン北側地区で検出された、古代のトイレ遺構の可能性が指摘される土坑S023のベルト埋土３層J8から採取された土壌１点である。この土壌試料の２箇所から試料を採取して分析を実施するため、試料名を便宜上J8-1、J8-2とする。

２．分析方法

試料10ccを正確に秤り取る。これについて水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重2.3）による有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し、寄生虫卵および花粉・胞子を分離・濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての寄生虫卵と花粉・胞子化石について同定・計数する。

結果は、寄生虫卵については堆積物１ccあたりに含まれる寄生虫卵の個数を一覧表として、花粉・胞子化石については同定および計数結果の一覧表として表示する。

３．結果

結果を表３に示す。J8-1、J8-2の２試料からは、寄生虫卵は１個体も検出されなかった。各試料から花粉化石、シダ類胞子が検出されたものの、その種類数・個体数は少なく、保存状態も良好とは言えない。検出された種類は、木本花粉ではマツ属、スギ属、コナラ属アカガシ亜属、ツツジ科、草本花粉ではイネ科が１－２個体認められるのみである。プレパラート内の状況写真を図版に示す。

表３．寄生虫卵分析結果

分類群＼試料名	東横イン北側 S038 ベルト埋土３層 J3-1	J3-2
寄生虫卵		
寄生虫卵[個/cc]	0	0
木本花粉		
マツ属	−	1
スギ属	2	2
コナラ属アカガシ亜属	1	−
ツツジ科	1	−
草本花粉		
イネ科	−	1
シダ類胞子		
シダ類胞子	8	3
合　計		
木本花粉	4	3
草本花粉	0	1
シダ類胞子	8	3
総計	12	7

４．考察

寄生虫は、それに感染した中間宿主、あるいは寄生虫卵に汚染されたものなどを摂取することで、終宿主（ヒト）に感染する。寄生虫卵は普通の土壌中にも含まれるが、糞便などの堆積物で多産する調査事例も報告されている（例えば金原・金原，1992，1993；金原ほか，1995など）。しかし、S023の覆土中では寄生虫卵が１個体も検出されず、トイレ遺構の可能性を検証することは困難である。

今回の寄生虫卵分析では、同時に検出される花粉化石についても計数しているが、花粉化石はほとんど検出されておらず、検出された花粉化石の保存状態も良好とはいえない。花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている（中村，1967；徳永・山内，1971；三宅・中越，1998など）。検出された花粉化石のほとんどは、腐蝕に対する抵抗性の強い種類や分解が進んでも同定可能な種類であることから、S023では堆積後の経年変化により花粉化

石が分解・消失していると考えられる。寄生虫卵の分解に対する抵抗性は、花粉化石と同程度とされていることから（黒崎ほか，1993)、寄生虫卵も花粉化石同様に分解の影響を受けている可能性があり、本来遺構内に堆積していた可能性も否定できない。

Ⅲ．種実同定

１．試料

試料は駅前地区の15試料24点、市電敷地の92試料440点、西部ガス跡地の８試料20点、さつま荘跡地の３試料17点、東横イン北地点の54試料190点の合計172試料691点である。この中には、名称が同一で区別ができない試料も認められるため、作業の便宜上当社で№1～172の通し番号を付している。

２．分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実や炭化材などを分類する。現生標本および石川（1994)、中山ほか（2000）等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。分析後は、種実等を分類群毎に容器に入れて保管する。

３．結果

種実同定結果を表４に示す。木本５分類群10個（タブノキ近似種１個、サカキ１個、モモ３個、サンショウ属１個、センダン４個)、草本14分類群501個（イネ159個、アワ近似種７個、アワ－ヒエ１個、ヒエ近似種２個、キビ近似種１個、オオムギ178個（オオムギ？１個含む)、オオムギ－コムギ33個、コムギ89個、イネ科１個、カヤツリグサ科１個、タデ属２個、ソバ１個、アカザ科１個、マメ類８個、マメ科６個、アカネ科11個)、計511個の種実が同定された。その他に、不明種実、炭化材、不明炭化物、不明植物片、酸化鉄？、土塊、不明が確認された。

本分析で得られた種実遺体群には、栽培種のモモ、イネ、アワ、ヒエ、キビ、オオムギ、コムギ、ソバ、マメ類が確認され、計482個と全体の94%を占める。特に、オオムギ（全体の35%)、コムギ（同17%）などのムギ類が全体の59%を占め、イネ（同31%）が次ぐ。

種実の遺存状態は、摩耗や表面に土が付着しているなど、不良である。このため、正確な同定が難しいものに関しては、「？」を付している。また、火熱による変色（黒色化)、萎縮、膨潤、表面の焼けただれ、発泡、脆弱性等がみられる状態を「炭化」とした。この基準によると、明らかに炭化している分類群は、栽培種のモモ、イネ、アワ、ヒエ、キビ、オオムギ、コムギ、ソバ、マメ類と、タブノキ近似種、センダン、マメ科である。明らかに炭化していない分類群は、サカキ、カヤツリグサ科、アカザ科である。これらは後代の混入の可能性が高いと判断され、考察からは除外する。なお、サンショウ属、タデ属、アカネ科は、元々黒色で硬い種実であることから、炭化の判断は困難である。以下に、種実の形態的特徴等を記す。

＜木本＞

・タブノキ近似種（*Persea cf. thunbergii*（Sieb. et Zucc.）Kostermans）　クスノキ科タブノキ属

子葉の破片が検出された。炭化しており黒色、長さ5.0㎜、径7.5㎜程度の横楕円体。破片は２枚からなる子葉の合わせ目に沿って縦半分以下に割れている。頂部中心部は径３㎜程度の円状にやや突出し、その中心に突起状の臍がある。子葉は硬く緻密で、表面はやや深く大きな不定形の凹点が密布し網目模様をなす。子葉合わせ目表面は平滑で、正中線上の頂部から１㎜程度に長さ1.5㎜、幅１㎜程度の楕円-卵形の孔がある。沖縄県前原遺跡のタブノキの子葉（高宮，1999)、伊礼原遺跡のクスノキ科の子葉（大松・辻，2001；辻ほ

か，2007）に似る。

・サカキ（*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.）　ツバキ科サカキ属

種子が検出された。黒褐色、完形ならば長さ1.5㎜、幅1.8㎜、厚さ0.7㎜程度の歪な両凸レンズ状円形で、基部の臍の窪みに向かいやや薄くなる。種皮表面は平滑で光沢があり、臍を中心に円形や楕円形の凹みによる網目模様が発達する。

・モモ（*Prunus persica* Batsch）　バラ科サクラ属

核（内果皮）が検出された。炭化しており黒色。やや偏平な広楕円体。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。１本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。仮番号172は、縫合線に沿って半割した２個で接合し、長さ2.0cm、幅1.5㎜程度。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状にみえる。内側表面は平滑で、種子１個が入る長さ1.5cm、幅0.8cm程度の楕円状の窪みがみられる。

・サンショウ属（*Zanthoxylum piperitum*（L.）DC.）　ミカン科

種子が検出された。黒色、長さ3.0㎜、幅2.0㎜、厚さ1.5㎜程度のやや偏平な倒卵体。腹面正中線上にある臍を欠損する。種皮は厚く硬く、表面には浅く細かな網目模様があることから、サンショウ（*Z. piperitum* (L.)DC.）と思われるが、同定根拠となる臍を欠損するため、サンショウ属にとどめている。

なお、本地域に分布するサンショウ属は、イヌザンショウ亜属（Subgen. *Fagara*）の落葉高木のカラスザンショウ、落葉低木のイヌザンショウ、両者の雑種と考えられている落葉小高木のコカラスザンショウ（*Z. fauriei*（Nakai）Ohwi）と、サンショウ亜属（Subgen. *Zanthoxylum*）の常緑低木のフユザンショウ、落葉低木のサンショウの5種がある。いずれも伐採地や崩壊地や林縁などの明るく開けた場所に先駆的に侵入する樹種で、生育地に大きな差異はない。

・センダン（*Melia azedarach L. var. subtripinnata* Miq.）　センダン科センダン属

核（内果皮）、果実が検出された。炭化しており黒色、核は灰褐色、長さ1.0cm、径7.5cm程度の楕円体で、基部には大きく深い孔がある。背面は浅く広い５－６個の縦溝と縦隆条が交互に並び、上面観は星型。表面は粗面で、果実破片が付着する個体がみられる（仮番号75）。果皮は厚さ1.0㎜程度の海綿状。縦隆条に沿って割れた内部に長さ0.8cm、幅0.4cm程度のやや偏平な非対称長楕円体の種子が残存する個体もみられる（仮番号75）。種皮表面は粗面。

＜草本＞

・イネ（*Oryza sativa* L.）　イネ科イネ属

胚乳と穎の破片が検出された。炭化しており黒色。長楕円形でやや偏平。胚乳は長さ3.5-5㎜、幅2.0-3.0㎜、厚さ1.0-1.5㎜程度。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、２－３本の隆条が縦列する。表面に穎が付着する個体がみられる（仮番号7，78，92，140）。穎は、完形ならば長さ6.0-7.5㎜、幅3.0-4.0㎜、厚さ2.0-2.5㎜程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と１対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は５脈、内穎は３脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲籾を構成する。穎は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・アワ近似種（*Setaria cf. italica*（L.）P.Beauv.）　イネ科エノコログサ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ1.2㎜、幅1.2㎜、厚さ0.8㎜程度の半偏球体。背面は丸みがあり、基部正中線上に径0.4㎜程度の馬蹄形の胚の凹みがある。腹面は平ら。胚乳表面はやや平滑。

・ヒエ近似種（*Echinochloa cf. utilis* Ohwi et Yabuno）

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ1.5㎜、幅1.2㎜、厚さ１㎜程度のやや偏平な広卵体で背面は

丸みがあり、腹面は平ら。基部正中線上に長さ1.0㎜、幅0.4㎜程度の馬蹄形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面またはやや平滑で、微細な縦筋がある。

・キビ近似種（*Panicum cf. miliaceum* L.）　イネ科キビ属

胚乳、穎が検出された。炭化しており黒色、胚乳は、長さ1.8㎜、幅1.6㎜、厚さ1.0m程度のやや偏平な広卵体で、背面は丸みがあり腹面は平ら。基部正中線上に径0.8㎜程度の半円形の胚の凹みがある。表面はやや平滑で、微細な縦筋がある。表面に付着した穎は、破片で薄く、表面には光沢と縦筋がある。

・オオムギ（*Hordeum valgare* L.）　イネ科オオムギ属

胚乳、穎が検出された。炭化しており黒色、長さ4.5-5.5㎜、径2.5-3.5㎜程度のやや偏平な紡錘状長楕円体。両端は尖る。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑で、微細な縦筋がある。穎の破片が付着する個体もみられる。穎は薄く、表面には縦筋がある。

・コムギ（*Triticum aestivum* L.）　イネ科コムギ属

胚乳、穎が検出された。炭化しており黒色、長さ2.5-4.0㎜、径2.0-3.0㎜程度の楕円体。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑で、微細な縦筋がある。穎の破片が付着する個体もみられる。穎は薄く、表面には縦筋がある。なお、頂部を欠損するなど遺存状態が悪く、オオムギとの判別が難しい個体をオオムギ－コムギとしている。

・イネ科（Gramineae）

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ4.5㎜、径1.6㎜程度のやや偏平な長楕円体。背面は丸みがあり、基部正中線上に胚の痕跡があり、径0.3㎜程度の楕円状に窪む。腹面は偏平。表面はやや平滑で、微細な縦筋がある。

・カヤツリグサ科（Cyperaceae）

果実が検出された。黒色、長さ1.5㎜、幅1.3 ㎜程度の偏平な広倒卵体。頂部はやや尖り、基部は切形。果皮表面には微細な網目模様がある。

・タデ属（*Polygonum*）　タデ科

果実が検出された。黒色、長さ2.0㎜、径1.5㎜程度のやや偏平な広卵体。頂部は尖り、花柱を欠損する。基部は切形で萼がある。果皮表面には微細な網目模様がある。

・ソバ（*Fagopyrum esculentum* Moench）　タデ科ソバ属

果実の破片が検出された。炭化しており黒色、完形ならば長さ0.5-0.6cm、径0.4-0.5cm程度の三稜状広卵体。三稜と頂部は鋭く尖り、面は凹む。基部は切形で径1㎜程度の萼がある。破片は上半部を欠損し、大きさ2.5㎜程度。果皮表面はやや平滑。

・アカザ科（Chenopodiaceae）

種子が検出された。黒色、径1.3㎜程度のやや偏平な円盤状。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が放射状に配列し、光沢がある。

・マメ類（Leguminosae）　マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色、楕円体または偏平な楕円体と、形状にばらつきがあり、複数の系統が含まれている可能性がある。完形個体の仮番号89は、長さ5.6㎜、幅3.6㎜、厚さ3.3㎜程度。仮番号110は、長さ6.3㎜、幅4.1㎜、厚さ3.3㎜程度で状態。仮番号42は、子葉の合わせ目から割れた半分２個で、長さ4.0㎜、幅2.8㎜程度。状態良好な完形個体には、腹面子葉の合わせ目上に長楕円形で縁が隆起する細長い臍が確認される。仮番号42の子葉内面には、北大基準（吉崎,1992）の「アズキグループ（幼根が臍の終わり程から急に立ち上がり、胚珠中央に向けて伸びる）」に該当する幼根や初生葉の状態が確認される（仮番号4

2)。種皮表面はやや平滑で、焼け膨れ、表面が崩れているものもある。

・マメ科（Leguminosae）

種子が検出された。炭化しており黒色、長さ2.5㎜、幅２㎜、厚さ1.5㎜程度のやや偏平な長楕円体。腹面の子葉合わせ目上にある長さ1.3㎜、幅0.3㎜程度の細長い長楕円形の臍がある。種皮は薄く表面はやや平滑だが、焼き崩れており、状態は悪い。小型で細長い臍をもつことから、現時点では上記栽培植物のマメ類とは区別し、今後の資料の蓄積を待ち検討したいと考える。

・アカネ科（Rubiaceae）

核が検出された。黒色、長さ1.3㎜、径1.6㎜程度の偏球体。腹面中央に径0.5㎜程度の楕円体の深い孔がある。表面には微細な網目模様が発達する。

４．考察

種実同定の結果、モモ、イネ、アワ、ヒエ、キビ、オオムギ、コムギ、ソバ、マメ類などの栽培種の炭化種実482個が確認された。栽培種全体の62%をムギ類（オオムギ37%、コムギ18%）が占め、イネがこれに次ぐ（33%）。

モモは、観賞用の他、果実や核の中にある仁（種子）などが食用、薬用等に広く利用される。穀類のイネ、アワ、ヒエ、キビ、オオムギ、コムギは胚乳が、ソバは種子が食用され、マメ類は種子が食用や油料、調味料等に利用される。これらの栽培植物の種実が検出されたことから、二本木遺跡群でこれらの栽培植物が植物食糧として利用されていたことが推定される。種実は、住居跡のカマド等から炭化した状態で出土しているが、可食部であるイネ、アワ、ヒエ、キビ、オオムギ、コムギ、ソバ、マメ類は、表面の状態が良好で、イネ、オオムギ、コムギには穎付着個体が確認されることから、調理前の生米、生麦等の段階で火を受けたことが推定される。また、非可食部であるモモの核は、果実を利用後の廃棄段階の可能性がある。

一方、栽培種を除いた分類群は、タブノキは、暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）を構成する常緑高木であることから、落葉高木のサンショウ属、センダンとともに、本遺跡周辺の照葉樹林に生育していたものに由来すると考えられる。草本のタデ属、マメ科、アカネ科は、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群で、調査区周辺の草地に生育していたものに由来すると考えられる。ただし、サンショウ属、タデ属、アカネ科は上記の理由より炭化しているか不明であり、後代の混入の可能性もあることから、その由来を慎重に検討する必要があると考えている。

Ⅳ．X線回折分析および薄片作製・鑑定

１．試料

試料は、西部ガス跡地の中世土坑１区北S038底部付近で検出された、不明ガラス粒子状物質１点である。試料は覆土土壌中に多数混在しており、最大径約７㎜で２～５㎜ほどの粒子が多く、外形は角柱状、板状、不定形角礫状を呈する。粒子全体では灰褐色を呈するが、個々の粒子をみると透明～半透明の部分も認められる。これらの外観から、鉱物の結晶であることが予想される。

２．分析方法

(1)X線回折分析

メノウ乳鉢で微粉砕した試料を無反射試料板に充填し、測定試料とする。作成したＸ線回折測定試料について、以下の条件で測定を実施する。

検出された物質の同定解析は、Materials Data,Inc．のX線回折パターン処理プログラムJADEを用い、該

当する化合物または鉱物を検索する。

装置：理学電気製MultiFlex　Divergency Slit：1°	
Target：Cu（Kα）	Scattering Slit：1°
Monochrometer：Graphite湾曲	Recieving Slit：0.3㎜
Voltage：40kV	Scanning Speed：2°/min
Current：40mA	Scanning Mode：連続法
Detector：SC	Sampling Range：0.02°
Calculation Mode：cps	Scanning Range：5～60°

(2)薄片作製・鑑定

薄片の顕微鏡鑑定は、岩石などの試料を0.03ｍｍの厚さに薄く研磨し、顕微鏡下で観察すると、構成する鉱物の大部分が透光性となり、鉱物の性質・組織などが観察できるようになるということを利用している。試料は微小のため、エポキシ系樹脂により包埋処理を施し、薄片用のチップとする。＃180～#800の研磨剤を用いて研磨機上で研磨した後、そのチップをプレパラートに貼り付ける。プレパラートに貼り付いたチップをダイヤモンドカッターにて薄く切断した後、切断面を＃180～#800の研磨剤を用いて研磨機上で厚さ0.1㎜以下まで研磨する。さらにメノウ板上で、＃2500の研磨剤を用いて正確に0.03㎜の厚さに調整する。プレパラート上で薄くなった岩石薄片の上にカバーガラスを貼り付け、観察用の薄片とする。薄片は偏光顕微鏡を用い、下方ポーラーおよび直交ポーラー下において観察・記載を行う。

３．結果

(1)X線回折分析

Ｘ線回折図を図１に示す。図中下段には、参照鉱物の回折プロファイルを掲げている。不明ガラス粒子状物質試料から検出された鉱物は、石膏（gypsum）である。

(2)薄片作製・鑑定

顕微鏡鑑定に際しては、下方ポーラーおよび直交ポーラー下で撮影した写真を添付した。肉眼で無色透光性を示す結晶粒子は、鏡下では粒径0.35～3.5㎜の石膏と鑑定される。自形～他形で六角柱状～粒状を呈する。無色透光性を示し、一部、明瞭な劈開を有するものもある。粒径0.07～0.25㎜の砕屑片が包有されており、単斜輝石、斜長石、不透明鉱物、植物珪酸体などが認められる。その他、結晶内部には周囲の褐色を呈する粘土が不規則に散在している。これらの砕屑片や粘土を包有する状況から、本試料は土壌中で結晶成長した自生鉱物と考えられる。

４．考察

石膏の化学組成は$CaSO_4 \cdot 2H_2O$であり、すなわちカルシウムと硫黄の化合物である。二本木遺跡の位置する熊本平野という地形・地質条件から見れば、硫黄は有明海の干潟堆積物や海底堆積物に硫酸イオンとして多く含まれており、カルシウムは海棲の石灰質生物遺骸などに由来を求めることができる。

今回の薄片観察結果から、この石膏は土壌中で結晶が成長したと推定されたが、現時点では出土した土坑の覆土について分析・検討を行っていないため、結晶が成長した際にとりこまれた「土壌」が本土坑の覆土であるかどうかは判断できない。仮に土坑覆土であった場合には、土坑内に石膏が自生鉱物として成長しうる環境条件があったことになるが、これについては覆土・地山等の成分分析を経て判断されるべきと考える。

また別の場所で成長した結晶であった場合には、何らかの理由や用途により結晶を土坑内に入れたことになる。その場合、やはり石膏が自生鉱物として成長しうる環境条件をもった土壌中で生成されこと推定され

る。いずれにしても、これらの試料が出土した土坑には、低部付近を中心に石膏の結晶を多量に使用するという用途があった、あるいは土坑内へ石膏の結晶が大量に投棄されたものと考えられる。

いずれの場合にしても、石膏は天然鉱物として存在しうる結晶鉱物であることから、出土した遺構の時代時期を判定する資料とはならないと考えられる。本遺跡群をはじめとした類例の発見やその分析例の蓄積をまって、今後さらに時代や由来・用途などについて検討されることがのぞまれる。

引用文献

石川　茂雄，1994，原色日本植物種子写真図鑑．石川茂雄図鑑刊行委員会，328p.

金原　正明・金原　正子，1992，花粉分析および寄生虫．「藤原京跡の便所遺構　－右京七条一坊西北坪－」，奈良国立文化財研究所，12-15.

金原　正明・金原　正子，1993，史跡松江城二ノ丸番所跡SK-04内堆積土の分析．「史跡松江城発掘調査報告書」，松江市教育委員会，51-56.

金原　正明・金原　正子・中村　亮仁，1995a，大宮坊跡（厠跡）における自然科学的分析．「史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ」，石川県鹿島町教育委員会，51-70.

黒崎　直・松井　章・金原　正明・金原　正子，1993，糞便堆積物の分析　－特に寄生虫卵分析について－．日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集，日本文化財科学会，115-115.

三宅　尚・中越　信和，1998，森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態.植生史研究，6，日本植生史学会，15-30.

中村　純，1967，花粉分析．古今書院，232p.

中山　至大・井之口　希秀・南谷　忠志，2000，日本植物種子図鑑．東北大学出版会，642p.

徳永　重元・山内　輝子，1971，花粉・胞子．「化石の研究法」，共立出版株式会社，50-73.

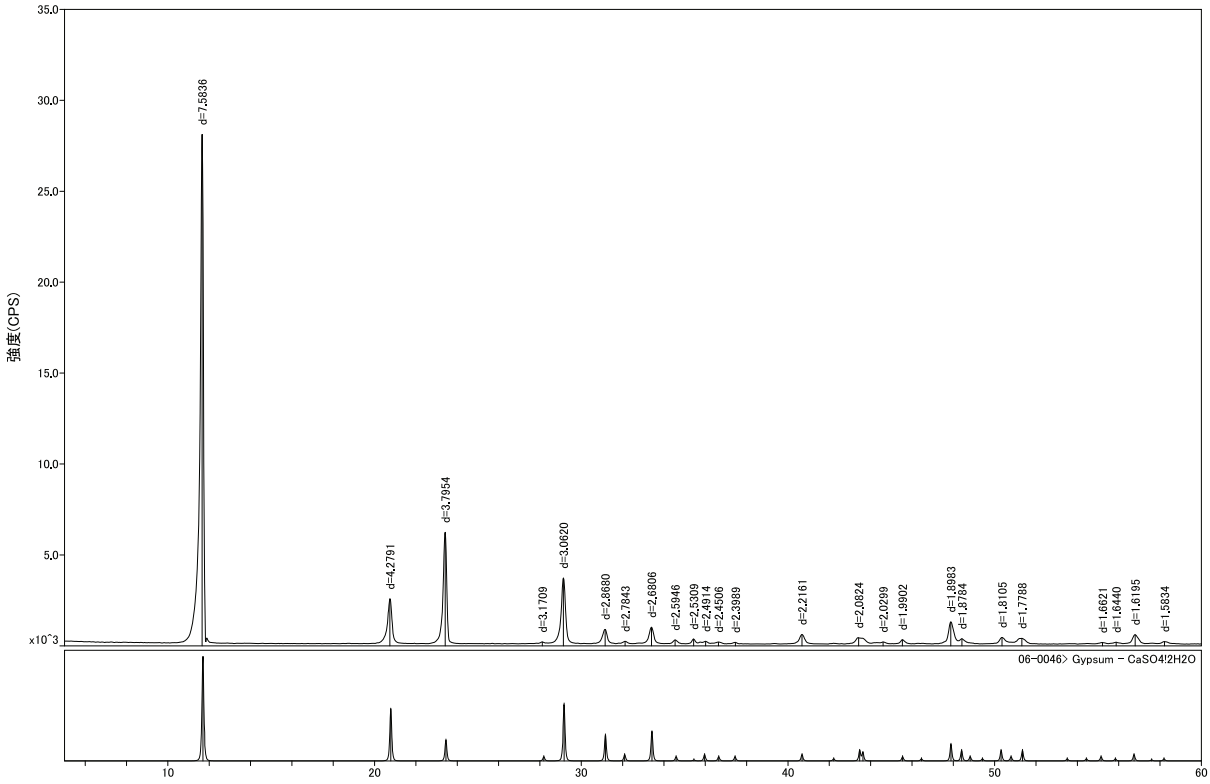
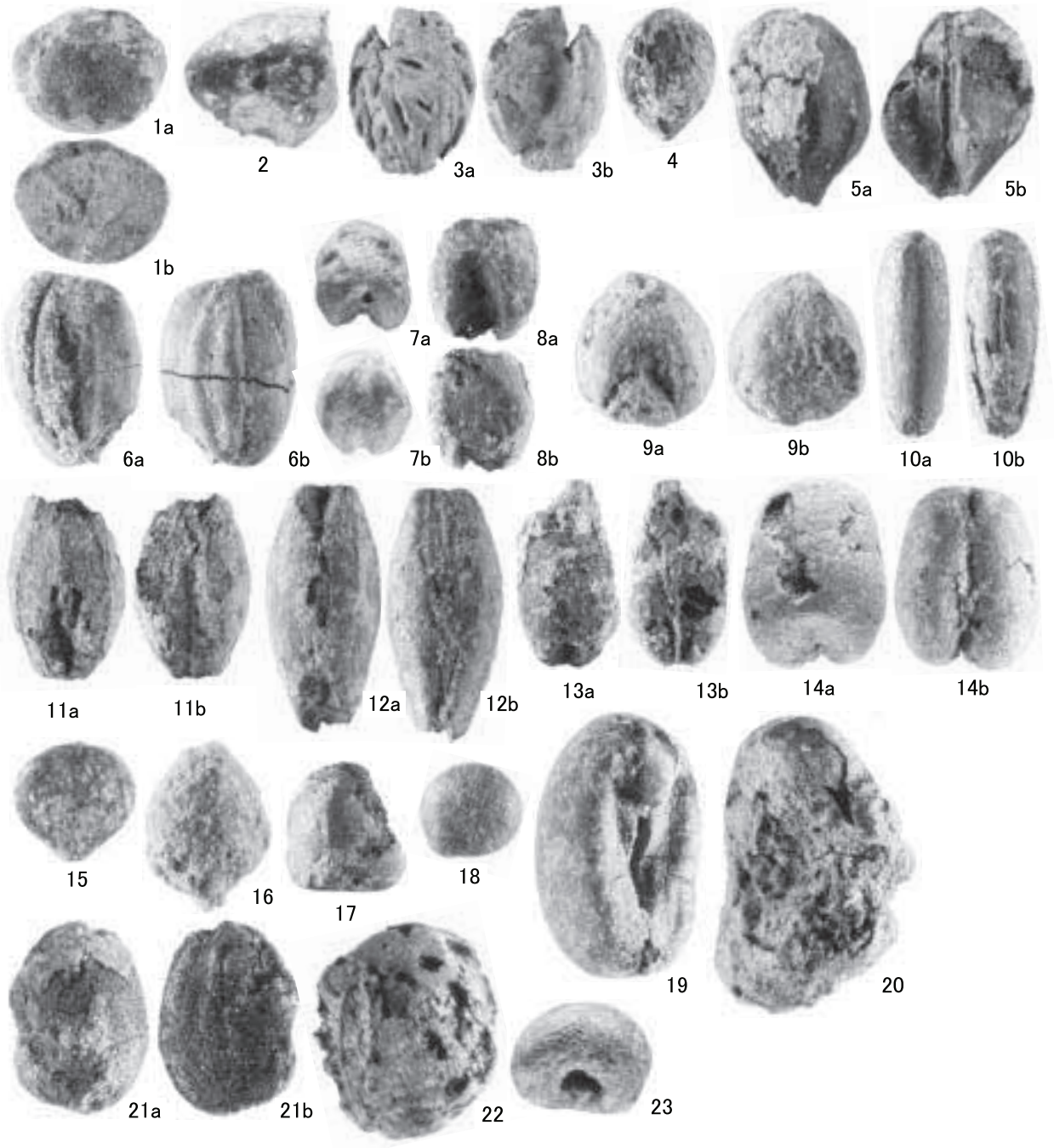


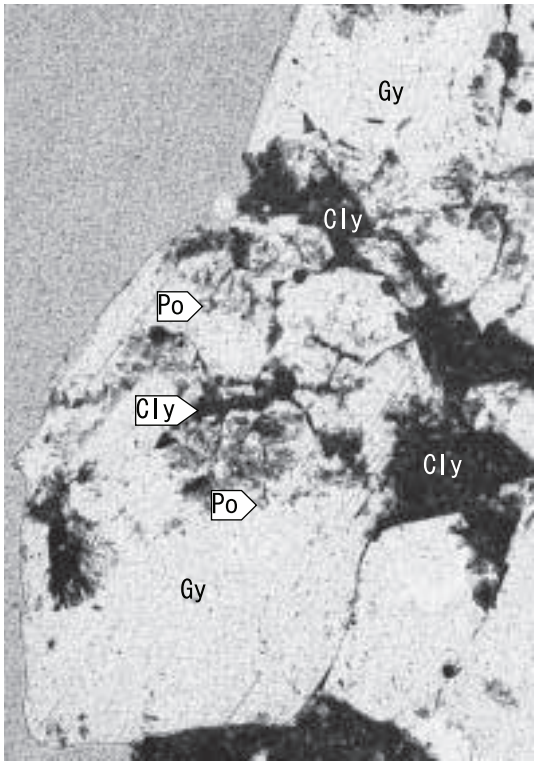
図１．不明ガラス粒子状物質（西部ガス１区北 S038）のＸ線回折図

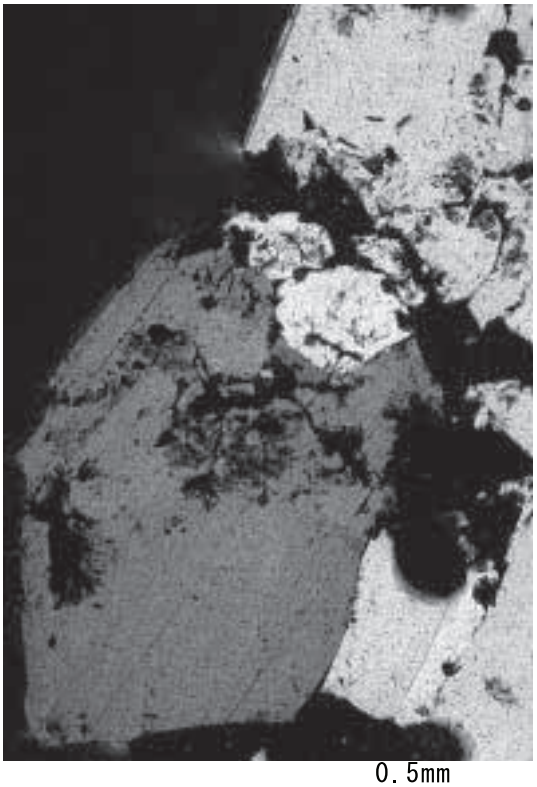
図版1　種実遺体



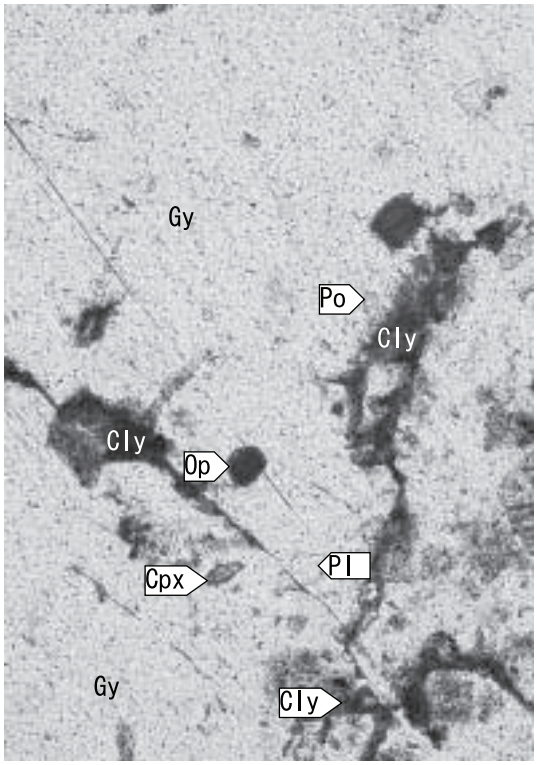
1．タブノキ近似種 子葉(仮番号22)
2．サカキ 種子(仮番号125)
3．モモ 核(仮番号172)
4．サンショウ属 種子(仮番号101)
5．センダン 果実(仮番号75)
6．イネ 胚乳・穎(仮番号140)
7．アワ近似種 胚乳(仮番号20)
8．ヒエ近似種 胚乳(仮番号116)
9．キビ近似種 胚乳・穎(仮番号133)
10．イネ科 果実(仮番号66)
11．オオムギ 胚乳・穎(仮番号9)
12．オオムギ 胚乳(仮番号16)
13．コムギ 胚乳・穎(仮番号93)
14．コムギ 胚乳(仮番号125)
15．カヤツリグサ科 果実(仮番号129)
16．タデ属 果実(仮番号114)
17．ソバ 果実(仮番号80)
18．アカザ科 種子(仮番号66)
19．マメ類 種子(仮番号89)
20．マメ類 種子(仮番号110)
21．マメ類 種子(仮番号42)
22．マメ科 種子(仮番号34)
23．アカネ科 核(仮番号17)

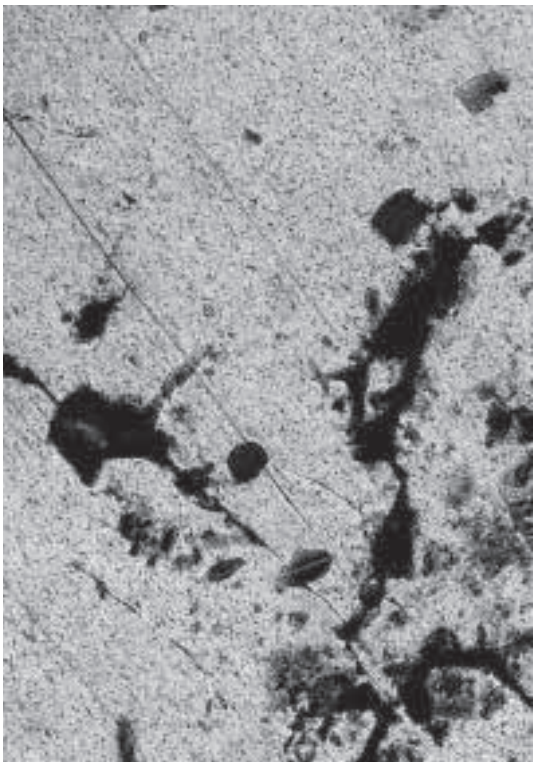
図版２　薄片





1.西部ガス1区北S038





2. 西部ガス1区北S038 拡大

Pl：斜長石　Cpx：単斜輝石　Gy：石膏　Op：不透明鉱物　Po：植物珪酸体　Cly：粘土

表４．種実同定結果(1)

通しNo.	調査地	区	遺構	場所	層位	取り上げ日	点数	分類群	部位	状態	個数	備考
1	駅前	1区	S002	住居一括カマド外の土①		090128	1	イネ	胚乳	完形	1	
2	駅前	1区	S002	住居カマド内②		090127	1	イネ	胚乳	完形	1	
3	駅前	1区	S002	住居カマド内③		090127	1	コムギ	胚乳	完形	1	
4	駅前	1区	S002	住居カマド内④		090127	1	アワーヒエ	胚乳	完形	1	
5	駅前	1区	S002	住居カマド内⑥		090127	1	イネ	胚乳	完形	1	
6	駅前	1区	S003	住居、焼土周辺①		090123	3	イネ	胚乳	完形	1	
								アワ近似種	胚乳	完形	1	
								土塊			1	
7	駅前	1区	S003	住居、焼土周辺①		090123	2	イネ	胚乳・穎	完形	1	
								不明炭化物			1	
8	駅前	1区	S003	住居、焼土周辺①		090123	2	イネ	胚乳	完形	2	
9	駅前	1区	S005	埋土カマド土坑	2層	090204	1	オオムギ	胚乳・穎	完形	1	
10	駅前	1区	S005	埋土北側(カマド土坑)	1層	090202	2	イネ	胚乳	完形	1	
								不明炭化物			1	
11	駅前	1区	S005？	カマド土坑周囲0-30	2層	090204	1	コムギ	胚乳	完形	1	
12	駅前	1区	S005	カマド埋土0-30		090205	3	コムギ	胚乳	完形	1	
								不明			2	
13	駅前	1区	S005	カマドの土坑下部0-30		090128	2	イネ	胚乳	完形	1	
								コムギ	胚乳	完形	1	
14	駅前	1区	S008	カマド？焼土まじりの部分No.29		090202	2	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
15	駅前	1区	S009	カマド土坑前埋土0-30	2層	090205	1	コムギ	胚乳	完形	1	
16	市電		S002(畝)	②-3		080717	20	イネ	胚乳	完形	2	
								オオムギ	胚乳	完形	15	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								不明炭化物			1	
								炭化材			1	
17	市電		S002(畝)	②-4		080717	40	イネ	胚乳	完形	3	
								オオムギ	胚乳	完形	15	
								オオムギ	胚乳	破片	9	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	3	
								コムギ	胚乳	完形	2	
								アカネ科	核	完形	3	
								不明種実		完形	2	マメ科？
								不明炭化物			2	
								炭化材			1	
18	市電		S002(畝)	①-3 旧耕作土	下層	080606	13	イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	4	
								オオムギ	胚乳	完形	7	
								不明種実		完形	2	
19	市電		S002(畝)	①-4 旧耕作土	下層	080717	10	オオムギ	胚乳	完形	6	
								コムギ	胚乳	完形	1	
								マメ科	種子	完形	1	
								アカネ科	核	完形	1	
								不明炭化物			1	
20	市電		S002(畝)	③-3 炭化物			19	イネ	胚乳	完形	3	
								アワ近似種	胚乳	完形	1	
								オオムギ	胚乳	完形	4	
								オオムギ	胚乳	破片	3	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	1	
								不明種実		完形	3	
								不明炭化物			4	
								炭化材			2	
21	市電		S002(畝)	③-4 炭化物			21	イネ	胚乳	完形	3	
								イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳	完形	7	
								オオムギ	胚乳	破片	5	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	2	
								不明種実			1	完形果実
								不明炭化物			1	
								炭化材			1	
22	市電		S002(畝)	④-3 炭化物	1層		14	タブノキ近似種	子葉	破片	1	
								イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳	完形	9	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								不明炭化物			1	
23	市電		S002(畝)	④-4	1層		19	イネ	胚乳	完形	2	
								オオムギ	胚乳	完形	10	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								コムギ	胚乳	完形	3	
								マメ科	種子	完形	1	
								不明種実		完形	1	
								不明炭化物			2	
24	市電		S002(畝)	⑤-3	1層		34	イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	3	
								オオムギ	胚乳	完形	5	
								オオムギ	胚乳	破片	4	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	2	
								オオムギ－コムギ	胚乳	破片	3	
								コムギ	胚乳	完形	1	
								コムギ	胚乳	破片	1	
								アカネ科	核	完形	3	
								不明炭化物			9	
								炭化材			4	
25	市電		S002(畝)	⑤-4 炭化物	1層		10	イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	2	
								オオムギ	胚乳	完形	4	
								マメ科	種子	完形	1	臍確認
								アカネ科	核	完形	1	
								不明炭化物			1	
26	市電		S006	カマド⑤		080717	1	イネ	胚乳	完形	1	
27	市電		S006	焼土半裁土、水洗用の水		080630	3	イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								不明植物片			1	
28	市電		S006竈(北)	焼土半裁土、炭化物		080717	3	イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	2	
29	市電		S016	カマド		080724	1	マメ類	種子	破片	1	
30	市電		S016	カマド南		080724	1	イネ	胚乳	完形	1	
31	市電		S016	カマド南側No.2		080724	3	イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
								炭化材			1	
32	市電		S016	カマド南側No.3		080724	3	オオムギ	胚乳・穎	完形	1	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
								コムギ	胚乳・穎	完形	1	
33	市電		S016	カマド南側No.4		080724	4	イネ	胚乳	完形	2	
								イネ	胚乳	破片	1	
								不明種実		完形	1	マメ科？

表４．種実同定結果(2)

通しNo.	調査地	区	遺構	場所	層位	取り上げ日	点数	分類群	部位	状態	個数	備考
34	市電		S016	カマド南側No.5		080724	1	マメ科	種子	完形	1	臍確認
35	市電		S016竈(北)	焼土・カーボン	上層		1	炭化材			1	
36	市電		S017	カマド北半分③	2層	080724	2	イネ	胚乳	完形	1	
								不明種実		完形	1	マメ科？
37	市電		S017	カマド北半分⑤	4層	080725	1	イネ	胚乳	完形	1	
38	市電		S017	カマド北半分②	1層	080725	2	イネ	胚乳	完形	2	
39	市電		S017	カマド南半分No.1		080724	2	オオムギ	胚乳	完形	1	
								オオムギ－コムギ	胚乳	破片	1	
40	市電		S032	カマド内の土		081128	5	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ	胚乳	完形	2	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								炭化材			1	
41	市電		S032	カマド外		081204	1	不明炭化物			1	
42	市電		S032	カマド外の土		081128	3	イネ	胚乳	完形	1	
								マメ類	種子	破片	2	アズキグループ1(吉崎,1992)
43	市電		S032	住居、カマド内		081202	1	イネ	胚乳	完形	1	
44	市電		S035	カマド南半①-1	1層	081216	2	炭化材			2	
45	市電		S035	カマド南半①-2	1層	081216	1	炭化材			1	
46	市電		S035	カマド南半①-3	1層	081216	1	酸化鉄？			1	
47	市電		S035	カマド南半②-1	2層	081216	2	イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	1	
48	市電		S035	カマド南半②-2	2層	081216	3	オオムギ	胚乳	破片	2	
								マメ類	種子	完形	1	臍欠損
49	市電		S035	カマド南半②-3	2層	081216	4	イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	1	
								不明炭化物			3	
								炭化材			1	
50	市電		S035	住居カマド			2	イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳？	完形	1	
51	市電		S035	住居カマド(？)			3	オオムギ	胚乳	完形	1	
								炭化材			1	
52	市電		S035	住居カマド		080812	1	イネ	胚乳	破片	1	
53	市電		S035	住居カマド(？)			2	オオムギ	胚乳	完形	1	
								炭化材			1	
54	市電		S036	カマド北側半②		081218	1	イネ	胚乳	破片	1	
55	市電		S036	カマド北半①		081218	1	イネ	胚乳	破片	1	
56	市電		S036	カマド南半分		081218	2	不明			3	土塊？
								土塊			1	
57	市電		S038	カマド北側	1層	081217	2	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	1	
58	市電		S038	カマド北側②-1	1層	081217	1	イネ	胚乳	完形	1	
59	市電		S038	カマド北側②-2	2層	081217	1	オオムギ	胚乳	完形	1	
60	市電		S038	焼土②		081216	2	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ？	穎	完形	1	
61	市電		S038	焼土③		081216	1	炭化材			1	
62	市電		S038	焼土⑨		081216	1	オオムギ－コムギ	胚乳	破片	1	
63	市電		S038	焼土⑪		081216	3	イネ	胚乳	破片	1	
								炭化材			1	
								土塊			1	
64	市電		S038	焼土周辺①		081216	1	イネ	胚乳	完形	1	
65	市電		S038	焼土周辺⑤		081216	2	イネ	胚乳	完形	1	
								不明			1	
66	市電		S042	粘土(南半分)No.1		081212	6	イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	1	
								コムギ	胚乳	完形	1	
								イネ科	果実	完形	1	
								アカザ科	種子	完形	1	
								不明			1	
67	市電		S042	粘土(南半分)No.2		081212	4	オオムギ	胚乳	完形	3	
								炭化材			1	
68	市電		S042	焼土		081215	2	イネ	胚乳	破片	1	
								アワ近似種	胚乳	完形	1	
69	市電		S044	カマド北側	1層		2	イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
70	市電		S044	カマド北側	2層	081216	2	オオムギ	胚乳	破片	1	
								不明炭化物			1	
71	市電		S044	カマド北側	3層	081216	2	イネ	胚乳	破片	2	
72	市電		S044	カマド南側半分No.1			1	炭化材			1	
73	市電		S044	カマド南側半分No.2			2	オオムギ	胚乳	完形	1	
								不明植物片			1	
74	市電		S044	カマド南半		081216	2	不明炭化物			2	
75	市電		S049	カマド			3	センダン	果実	完形	1	
								センダン	果実	破片	2	
								イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	1	
76	市電		S049	カマド内埋土		081220	1	オオムギ	胚乳	完形	1	
77	市電		S049	カマド埋土		081226	2	コムギ	胚乳	完形	2	
78	市電		S049	カマド内			3	イネ	胚乳・穎	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
79	市電		S049	カマド内④		0812	3	イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	1	
								不明炭化物			1	
80	市電		S049	カマド内⑤			6	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ	胚乳	完形	2	
								コムギ	胚乳	完形	2	
								ソバ	果実	破片	1	
81	市電		S049	カマド内西側		081225	1	不明種実		完形	1	マメ科？
82	市電		S049	住居カマド内床面付No.1		081225	1	イネ	胚乳	完形	1	
83	市電		S049(？)	カマド焼土？		081226	2	オオムギ	胚乳	完形	1	
								炭化材			1	
84	市電		S049				1	酸化鉄？			1	
85	市電		S049				2	不明			2	
86	市電		S049				2	オオムギ	胚乳	完形	1	
								炭化材			1	
87	市電		S049	カマド内			1	イネ	胚乳	完形	1	
88	市電		S050	③			15	コムギ	胚乳	完形	5	
								コムギ	胚乳	破片	2	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	1	
								不明炭化物			6	
								炭化材			1	
89	市電		S050	カマド①		081226(？)	11	オオムギ	胚乳	完形	1	
								コムギ	胚乳	完形	8	
								マメ類	種子	完形	1	
								不明炭化物			1	
90	市電		S050	カマド内粘土No.④			7	コムギ	胚乳	完形	6	
								不明炭化物			1	

表４．種実同定結果(3)

通しNo.	調査地	区	遺構	場所	層位	取り上げ日	点数	分類群	部位	状態	個数	備考
91	市電		S050	カマド内粘土No.6		0812	15	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ	胚乳	完形	2	
								オオムギ－コムギ	胚乳	破片	1	
								コムギ	胚乳	完形	8	
								コムギ	胚乳	破片	2	
								炭化材			1	
92	市電		S050	カマド粘土⑤		0812	16	イネ	胚乳・穎	完形	1	
								イネ	胚乳	完形	2	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	2	
								コムギ	胚乳	完形	10	
								不明			1	
93	市電		S050				11	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	2	
								コムギ	胚乳・穎	完形	4	
								コムギ	胚乳	完形	2	
								コムギ	胚乳	破片	1	
								不明種実			1	
94	市電		S055	竈内粘土		0812	4	イネ	胚乳	完形	2	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
								不明炭化物			1	
95	市電		S060	カマド周辺の焼土①-7		081226	3	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	1	
96	市電		S060	カマド周辺の焼土⑤-7		081226	1	イネ	胚乳	破片	1	
97	市電		S060	カマド周辺焼土③-7		081226	2	オオムギ	胚乳	完形	1	
								不明炭化物			1	
98	市電		S060	カマド周辺焼土④-7		081226	2	オオムギ－コムギ	胚乳	完形	1	
								コムギ	胚乳	完形	1	
99	市電		S060	カマド周辺焼土⑥-7		081226	2	イネ	胚乳	完形	2	
100	市電		S060	住居、カマド・粘土		081226	2	イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
101	市電		S060	住居、カマド2-⑦			4	サンショウ属	種子	完形	1	
								イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ－コムギ	胚乳	破片	1	
								炭化材			1	
102	西部ガス	1区	S070	カマド（西）	1層-1	090116	4	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
								不明			2	
103	西部ガス	1区	S070	カマド壁③	2層	090116	1	イネ	胚乳	破片	1	
104	西部ガス	1区	S070	カマド壁	3層-1	090116	3	イネ	胚乳	破片	1	
								コムギ	胚乳	破片	1	
								不明			1	
105	西部ガス	1区	S070	カマド外	3層-2	090116	3	イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ－コムギ	胚乳	破片	1	
								不明炭化物			1	
106	西部ガス	1区	S070	住居、カマド		090116	2	イネ	胚乳	完形	2	
107	西部ガス	1区	S070	住居、カマド外①-3		090116	4	炭化材			1	
								土塊			3	
108	西部ガス	1区	S070	住居、カマド内No.3		090116	1	炭化材			1	
109	西部ガス	1区	S070	住居、カマド内③-1		090116	2	イネ	胚乳	完形	2	
110	サツマ荘		S002	埋土②スクラブ入りの浅い土坑		080826	11	イネ	胚乳	完形	3	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	1	
								コムギ	胚乳	完形	3	
								コムギ	胚乳	破片	2	
								マメ類	種子	完形	1	
111	サツマ荘		S002	埋土①スラグ入りの浅い土坑		080826	3	炭化材			2	
								土塊			1	
112	東横		S002	①			1	不明炭化物			1	
113	東横		S002	③-2			2	炭化材			2	
114	東横		S002	③-3			2	タデ属	果実	完形	1	
								炭化材			1	
115	東横		S002	④			4	アワ近似種	胚乳	破片	1	
								不明種実			2	
								炭化材			1	
116	東横		S002	④-2		080708	2	ヒエ近似種	胚乳	完形	1	
								不明炭化物			1	
117	東横		S002	④-3		080708	3	センダン	核	完形	1	
								炭化材			2	
118	東横		S002	⑤			2	コムギ	胚乳	破片	1	
								炭化材			1	
119	東横		S002	⑦-2			1	オオムギ	胚乳・穎	完形	1	
120	東横		S002	⑧-3		080708	1	土塊			1	
121	東横		S002	⑧-4		080708	2	イネ	胚乳	完形	2	
								不明植物片			2	
122	東横		S002	⑩			1	不明種実		破片	1	半分,マメ科？
123	東横		S002	⑪-3			2	イネ	胚乳	完形	1	
								イネ	胚乳	破片	1	
124	東横		S002	⑫-10		080708	5	イネ	胚乳	完形	1	
								アワ近似種	胚乳	完形	2	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								不明炭化物			1	木の芽？
125	東横		S002	⑫-11		080708	6	サカキ	種子	完形	1	
								イネ	胚乳	完形	1	
								コムギ	胚乳	完形	1	
								不明種実			1	
								不明炭化物			1	
								炭化材			1	
126	東横		S002	⑫-12		080708	2	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ－コムギ	胚乳	破片	1	
127	東横		S002	⑫-14		080708	6	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ	胚乳	完形	2	
								不明種実		完形	1	マメ科？
								炭化材			2	
128	東横		S002	⑫-15		080708	5	イネ	胚乳	完形	2	
								アワ近似種	胚乳	完形	1	
								ヒエ近似種	胚乳	完形	1	
								コムギ	胚乳	完形	1	
129	東横		S002	⑫-16		080708	10	イネ	胚乳	破片	4	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	1	
								カヤツリグサ科	果実	完形	1	
								マメ科	種子	完形	1	
								アカネ科	核	完形	1	
								炭化材			2	
130	東横		S002	⑫-16		080708	5	イネ	胚乳	完形	2	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								不明炭化物			1	

表４．種実同定結果(4)

通しNo.	調査地	区	遺構	場所	層位	取り上げ日	点数	分類群	部位	状態	個数	備考
131	東横		S002	⑫-17		080708	6	イネ	胚乳	完形	2	
								イネ	胚乳	破片	3	
								不明種実				破片
132	東横		S002	⑫-18		080708	3	イネ	胚乳	破片	2	
								オオムギ－コムギ	胚乳	破片	1	
133	東横		S002	⑫-2		080707	2	イネ	胚乳	完形	2	
								キビ近似種	胚乳・穎	完形	1	
134	東横		S002	⑫-3			11	オオムギ	胚乳	完形	3	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								コムギ	胚乳	完形	4	
								コムギ	胚乳	破片	1	
								炭化材			1	
135	東横		S002	⑫-4		080708	21	イネ	胚乳	完形	5	
								イネ	胚乳	破片	2	
								オオムギ	胚乳	破片	2	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	1	
								コムギ	胚乳	完形	2	
								マメ科	種子	完形	1	
								不明種実		完形	1	
								不明炭化物			4	
								炭化材			2	
136	東横		S002	⑫-4		080708	4	オオムギ	胚乳	完形	2	
								不明種実		完形	3	マメ科？
137	東横		S002	⑫-5		080708	4	イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								コムギ	胚乳	完形	1	
								不明炭化物			1	
138	東横		S002	⑫-6		080708	3	オオムギ	胚乳	完形	1	
								アカネ科	核	完形	1	
								不明種実		完形	1	
139	東横		S002	⑫-7		080708	12	イネ	胚乳	完形	4	
								イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
								コムギ	胚乳	完形	1	
								不明種実		完形	2	
								不明種実		破片	2	
								炭化材			1	
140	東横		S002	⑫-8			3	イネ	胚乳・穎	完形	1	
								イネ	胚乳	完形	1	
								炭化材			1	
141	東横		S002	⑫-9			7	イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳・穎	完形	2	
								オオムギ	胚乳	破片	1	
								コムギ	胚乳	破片	1	
								アカネ科	核	完形	1	
								不明種実		完形	1	
142	東横		S006	D1、土坑⑦		080714	2	不明			1	
								炭化材			1	
143	東横		S006	D-1埋土下部		080715	2	コムギ	胚乳	完形	1	
								不明炭化物			1	
144	東横		S006	D-1土坑③		080714	1	不明			1	
145	東横		S010	D1		080722	1	マメ類	種子	破片	1	半分
146	東横		S010	D1		080722	3	不明炭化物			1	
								炭化材			1	
147	東横		S010	D-1		080722	2	イネ	胚乳	完形	1	
								炭化材			1	
148	東横		S010	D		080922	4	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	2	
								コムギ	胚乳	破片	1	
149	東横		S010			080722	3	イネ	胚乳	完形	1	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
								炭化材			1	
150	東横		S027	ベルトくずし		080922	7	イネ	胚乳	破片	1	
								オオムギ	胚乳	完形	1	
								マメ類	種子	破片	1	
								不明種実		完形	2	
								炭化材			1	
151	東横		S042	D1、カマド		080922	2	オオムギ	胚乳	完形	1	
								不明炭化物			1	
152	東横		S047	カマド下部		080908	1	オオムギ	胚乳	完形	1	
153	東横		S047	カマド最下部		080908	1	コムギ	胚乳	完形	1	
154	東横		S051	カマド土？03		080909	1	イネ	胚乳	完形	1	
155	東横		S051	カマド土？05		080909	1	コムギ	胚乳・穎	完形	1	
156	東横		S067	③-1		080908	8	コムギ	胚乳	完形	2	
								コムギ	胚乳	破片	1	
								不明種実			2	
								炭化材			2	破片
								土塊			1	
157	東横		S067	③-2		080908	1	炭化材			1	
158	東横		S068	01		080912	1	不明種実			1	
159	東横		S068	カマド		080909	3	オオムギ	胚乳	完形	1	
								オオムギ－コムギ	胚乳	完形	1	
								土塊			1	
160	東横		S068	カマド中位		080926	2	不明炭化物			1	
								炭化材			1	
161	東横		S080	カマド、8？		080908	1	イネ	胚乳	完形	1	
162	東横		S086	カマド前			1	オオムギ	胚乳	完形	1	
163	東横		S108			080918	1	タデ属	果実	完形	1	
164	東横		S108			080911	1	コムギ	胚乳	完形	1	
165	市電		S043	カマド(西側)内No.2		081225	3	オオムギ－コムギ	胚乳	完形	1	
								不明種実			1	破片
								不明			1	
166	市電		S043	カマド外側①		081203	1	オオムギ	胚乳	完形	1	
167	市電		S043	カマド外②			1	コムギ	胚乳	完形	1	
168	市電		S043	カマド外No.3		081204	2	イネ	胚乳	破片	1	
								炭化材			1	
169	市電		S043	カマド外④		081204	6	イネ	胚乳	完形	1	
								不明種実		完形	1	マメ科？
								不明種実		破片	1	半分,マメ科？
								炭化材			3	
170	市電		S043	カマド外⑤		081204	4	オオムギ	胚乳	完形	1	
								不明炭化物			2	
								炭化材			1	
171	市電		S048	住居北西区　桃？	下層	081225	1	モモ	核	破片	1	
172	サツマ荘	1区	Pit11	2B下-3上		080910	2	モモ	核	破片	2	接合し1個

通し番号は、分析の便宜上、研究所にて付けた

二本木遺跡群出土種実遺体の自然科学分析調査

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

二本木遺跡群（熊本県熊本市春日３丁目所在）は、白川下流右岸の沖積地上に立地する。これまでの発掘調査の結果、８世紀中頃～９世紀にかけての大規模な建物群が検出されており、古代の国府跡である可能性が指摘されている。今回の分析調査では、市電敷地の調査で検出された中近世の畑畝より出土した種実遺体を対象として、年代資料作成を目的とした放射性炭素年代測定と、当時の植物利用状況の把握を目的とした種実遺体分析を実施する。

１．試料

試料は、市電敷地のS002（畝）の各地点（①～⑧）、層位の土壌から水洗検出された、種実遺体56点908個である。このうち、①-7の下層、②-2、③-5、⑦-1より出土したオオムギの炭化胚乳各３個と、⑤-6の１層より出土したコムギの炭化胚乳３個の計５点を、放射性炭素年代測定対象とする。

２．分析方法

(1)放射性炭素年代測定

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N）により、不純物を取り除いたあと、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS・1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIO-CARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

(2)種実遺体分析

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な種実を抽出する。現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種実等を分類群毎に容器に入れて保管する。

３．結果

(1)放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を、表１に示す。①-7の下層のオオムギが860±20BP、②-2のオオムギが640±20BP、③-5のオオムギが585±20BP、⑤-6の１層のコムギが840±20BP、⑦-1のオオムギが615±20BPである。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5,730 40年）を較正することである。今回は、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表す。

暦年較正は、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ１と

表1．放射性炭素年代測定結果

試料名	分類群･部位･状態(個数)	補正年代 BP	δ13C (‰)	Code No.
市電敷地S002(畝) ①-7 下層	オオムギ 炭化胚乳(3個)	860±20	−26.69±0.11	10937-1
市電敷地S002(畝) ②-2	オオムギ 炭化胚乳(3個)	640±20	−28.67±0.13	10937-2
市電敷地S002(畝) ③-5	オオムギ 炭化胚乳(3個)	585±20	−29.29±0.14	10937-3
市電敷地S002(畝) ⑤-6 1層	コムギ 炭化胚乳(3個)	840±20	−25.55±0.20	10937-4
市電敷地S002(畝) ⑦-1	オオムギ 炭化胚乳(3個)	615±20	−26.82±0.10	10937-5

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表2．暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)		暦年較正年代（cal）			相対比	Code No.
市電敷地S002(畝) ①-7 下層	858±18	σ	cal AD 1,174 − cal AD 1,212	cal BP 776 − 738	1.000	10937-1
		2σ	cal AD 1,156 − cal AD 1,223	cal BP 794 − 727	1.000	
市電敷地S002(畝) ②-2	642±19	σ	cal AD 1,294 − cal AD 1,309	cal BP 656 − 641	0.345	10937-2
			cal AD 1,361 − cal AD 1,386	cal BP 589 − 564	0.655	
		2σ	cal AD 1,287 − cal AD 1,320	cal BP 663 − 630	0.411	
			cal AD 1,350 − cal AD 1,391	cal BP 600 − 559	0.589	
市電敷地S002(畝) ③-5	583±18	σ	cal AD 1,321 − cal AD 1,349	cal BP 629 − 601	0.733	10937-3
			cal AD 1,391 − cal AD 1,402	cal BP 559 − 548	0.267	
		2σ	cal AD 1,309 − cal AD 1,361	cal BP 641 − 589	0.702	
			cal AD 1,386 − cal AD 1,410	cal BP 564 − 540	0.298	
市電敷地S002(畝) ⑤-6 1層	840±19	σ	cal AD 1,178 − cal AD 1,222	cal BP 772 − 728	1.000	10937-4
		2σ	cal AD 1,164 − cal AD 1,252	cal BP 786 − 698	1.000	
市電敷地S002(畝) ⑦-1	613±19	σ	cal AD 1,303 − cal AD 1,324	cal BP 647 − 626	0.416	10937-5
			cal AD 1,345 − cal AD 1,366	cal BP 605 − 584	0.394	
			cal AD 1,383 − cal AD 1,393	cal BP 567 − 557	0.190	
		2σ	cal AD 1,297 − cal AD 1,373	cal BP 653 − 577	0.791	
			cal AD 1,377 − cal AD 1,398	cal BP 573 − 552	0.209	

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。
5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

した場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

暦年較正結果は、①-7の下層のオオムギがcalAD1,174-1,212（σ）、calAD1,156-1,223（2σ）、②-2のオオムギがcalAD1,294-1,386（σ）、calAD1,287-1,391（2σ）、③-5のオオムギがcalAD1,321-1,402（σ）、calAD 1,309-1,410（2σ）、⑤-6の1層のコムギがcalAD1,178-1,222（σ）、calAD1,164-1,252（2σ）、⑦-1のオオムギがcalAD1,303-1,393（σ）、calAD1,297-1,398（2σ）である（表2）。

(2)種実遺体分析

結果を表3に示す。草本12分類群（イネ139個、アワ近似種2個、エノコログサ属1個、ヒエ近似種5個、オオムギ443個、コムギ73個、ムギ類40個、シンジュガヤ属1個、ヒゴクサ節1個、タデ属1個、マメ類14個（？1個含む)、マメ科5個（？2個含む)、アカネ科23個)、計748個の種実が同定された。その他に、双子葉類、不明種実、炭化材、不明植物、不明、不明物質（膠結物質？）が確認された。

今回の分析で得られた種実遺体群には、栽培種のイネ、アワ、ヒエ、オオムギ、コムギ、マメ類が確認され、計716個と全体の96%を占める。特に、オオムギ（全体の59%)、コムギ（同10%）などのムギ類が全体の74%を占め、イネ（同19%）が次ぐ。種実遺体の遺存状態は、摩耗や表面に土が付着しているなど、概して不良である。このため、正確な同定が難しいものに関しては、「？」を付している。また、火熱による変色（黒色化)、萎縮、膨潤、表面の焼けただれ、発泡、脆弱性等がみられる状態を「炭化」とした。この基準によると、明らかに炭化している分類群は、栽培種のイネ、アワ、ヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類、マ

メ類と、シンジュガヤ属、タデ属、マメ科、双子葉類、不明種実である。明らかに炭化していない分類群は、エノコログサ属、ヒゴクサ節、マメ科（②-1）である。これらは後代より混入した可能性が高いと判断され、考察からは除外する。アカネ科は、元々黒色で硬い種実であることから、炭化の判断は困難であるが、考察では炭化種実と共に取り扱うこととした。以下に、炭化種実各分類群の形態的特徴等を記す。

・イネ（*Oryza sativa* L.）　イネ科イネ属

胚乳と穎（果）の破片が検出された。炭化しており黒色。胚乳は長さ 4 -5.5㎜、幅2.5- 3 ㎜、厚さ1.5- 2 ㎜程度のやや偏平な長楕円体。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、 2 - 3 本の隆条が縦列する。表面に穎の破片が付着する個体がみられる（⑥-2の 1 層，⑥-3の 1 層，⑧-8）。胚乳を包む穎（果）は完形ならば長さ 6 -7.5㎜、幅 3 - 4 ㎜、厚さ 2 ㎜程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と 1 対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は 5 脈、内穎は 3 脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲籾を構成する。果皮は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・アワ近似種（*Setaria cf. italica*（L.）P.Beauv.）　イネ科エノコログサ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、径1.3㎜、厚さ0.8-1.0㎜程度の半偏球体。背面は丸みがあり、基部正中線上に径0.5㎜程度の馬蹄形の胚の凹みがある。腹面は平ら。胚乳表面はやや平滑。

・ヒエ近似種（*Echinochloa cf. utilis* Ohwi et Yabuno）　イネ科ヒエ属

胚乳と穎が検出された。炭化しており黒色、胚乳は長さ1.8- 2 ㎜、幅1.6-1.7㎜、厚さ0.8㎜程度の半偏球体で、背面は丸みがあり腹面はやや平ら。基部正中線上に、胚乳の長さの 2 / 3 以上を占める縦長で馬蹄形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面で、穎の破片が付着する。穎は薄く、表面は平滑で光沢があり、微細な縦長の網目模様が縦列する。

実体顕微鏡下観察では、栽培種のヒエと周辺域に生育していた可能性がある野生種ヒエ属やその雑種等との厳密な区別は困難であるが、供伴する多くの栽培種を考慮すると、ヒエの可能性が高い。

・オオムギ（*Hordeum valgare* L.）　イネ科オオムギ属

胚乳と穎が検出された。炭化しており黒色、長さ4.5- 5 ㎜、径2.3-2.5㎜程度のやや偏平な紡錘状長楕円体。両端は尖る。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑で、微細な縦筋がある。表面には質の薄い穎が付着する個体も確認される。

・コムギ（*Triticum aestivum* L.）　イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ3.5-4.2㎜、径2.5- 3 ㎜程度の楕円体。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面には微細な縦筋がある。なお、状態が悪くオオムギとの区別が難しい胚乳をムギ類としている。

・シンジュガヤ属（*Scleria*）　カヤツリグサ科

果実が検出された。炭化しており黒色、長さ1.9㎜、径1.7㎜程度の広楕円体。頂部の短い花柱基部を欠損する。基部には 3 裂する基盤がある。果皮は核状で堅く、表面には長楕円形の凹みによる格子状網目模様がある。

・タデ属（*Polygonum*）　タデ科

果実が検出された。炭化しており黒色、長さ2.5㎜、径2.2㎜程度の広卵体。頂部は尖り、 3 稜がみられる。基部は切形。果皮表面には微細な網目模様がある。

・マメ類（Leguminosae）　マメ科

種子の破片が検出された。炭化しており黒色、完形ならば長さ3.8-4.2㎜、幅 3 ㎜、厚さ2.5- 3 ㎜程度の楕円体。破片は子葉の合わせ目から半分以下に割れており、⑧-8の破片 2 個は接合し 1 個体となる。腹面の子

葉合わせ目上にある細長い長楕円形の臍を欠損する。子葉内面に北大基準（吉崎,1992）の「アズキグループ（幼根が臍の終わり程から急に立ち上がり、胚珠中央に向けて伸びる）」に該当する幼根や初生葉の状態が確認される個体がみられる（①-9の下層，③-5，⑧-8）。種皮表面は粗面で、焼け膨れ、表面が崩れている個体もある。

・マメ科（Leguminosae）

種子が検出された。炭化しており黒色、長さ２㎜、径1.7㎜程度の楕円体。腹面の子葉合わせ目上の中央にある細長い長楕円形の臍が確認される個体がみられる（⑤-5の１層）。種皮は薄く表面はやや平滑だが、焼き崩れており、状態は悪い。小粒であることから、現時点では上記栽培種のマメ類と区別しているが、今後の検討の余地がある。

・アカネ科（Rubiaceae）

核が検出された。黒色、長さ１㎜、径1.3㎜程度の偏球体。腹面中央に径0.4㎜程度の楕円形の深い孔がある。表面には微細な網目模様が発達する。

４．考察

市電敷地の中近世の畑畝S002①～⑧の各層からは、炭化した栽培種のイネ、アワ、ヒエ、オオムギ、コムギ、マメ類が計716個確認された。①-7の下層出土オオムギと⑤-6の１層出土コムギは12世紀後半～13世紀前半、②-2出土オオムギは13世紀末～14世紀末、⑦-1出土オオムギは14世紀初頭～末、③-5出土オオムギは14世紀前半～15世紀初頭の年代値（暦年）を示し、発掘調査所見の年代観を支持する結果といえる。

栽培種の炭化種実群は、78%をムギ類（オオムギ62%、コムギ10%）が占め、イネがこれに次ぐ（19%）。当社が実施した昨年度の分析調査結果でも、これらの栽培種が同様の種類構成で確認されていることから、当時これらの種類が植物質食糧として広く利用されたものと推定される。また、イネ、ヒエ、オオムギには穎が付着した個体が確認されることから、穎（籾）がついた生米、生麦の状態で火を受け炭化した可能性が高い。

栽培種を除いた分類群は、シンジュガヤ属、タデ属、マメ科、アカネ科は、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群であることから、本遺構周辺の草地環境に由来すると考えられる。なお、マメ科は栽培種に由来する可能性もあることから、食料としての利用状況の評価については、今後の課題としたい。

引用文献

石川　茂雄，1994，原色日本植物種子写真図鑑．石川茂雄図鑑刊行委員会，328p.

中山　至大・井之口　希秀・南谷　忠志，2000，日本植物種子図鑑．東北大学出版会，642p.

吉崎　昌一，1992，古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナル，№355，2-14

表３．種実遺体分析結果(1)

調査地	遺構	場所	層位	分類群	部位	状態	個数	備考
市電	S002(畝)	①-1	下層	イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	7	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
市電	S002(畝)	①-2	下層	イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	5	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				コムギ	胚乳	破片	1	
				アカネ科	核	完形	1	
				双子葉類		破片	2	半分
市電	S002(畝)	①-5	下層	イネ	胚乳	完形	1	
				イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	3	
				双子葉類		破片	2	半分
				不明種実		完形	1	
市電	S002(畝)	①-6	下層	オオムギ	胚乳	完形	7	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				炭化材			1	
				不明		完形	1	
市電	S002(畝)	①-7	下層	イネ	胚乳	完形	1	
				オオムギ	穎・胚乳	完形	2	
				オオムギ	胚乳	完形	4	３個年代測定(10937-1)
				オオムギ	胚乳	破片	4	
				コムギ	胚乳	完形	2	
				双子葉類		破片	2	半分
				不明			1	
市電	S002(畝)	①-8	下層	イネ	胚乳	完形	2	
				オオムギ	胚乳	完形	8	
				オオムギ	胚乳	破片	3	
				コムギ	胚乳	完形	3	
				アカネ科	核	完形	1	
市電	S002(畝)	①-9	下層	オオムギ	胚乳	完形	2	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				マメ類	種子	破片	1	半分，初生葉欠損，アズキグループ(吉崎，1992)
				アカネ科	核	完形	1	
市電	S002(畝)	②-1		イネ	胚乳	完形	1	
				イネ	胚乳	破片	2	
				オオムギ	胚乳	完形	8	
				タデ属	果実	完形	1	三稜状広卵体
				マメ科	種子	破片	1	非炭化，種皮表面斑模様
				アカネ科	核	完形	1	
市電	S002(畝)	②-2		イネ	胚乳	完形	2	
				オオムギ	穎・胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	完形	12	３個年代測定(10937-2)
				アカネ科	核	完形	1	
				双子葉類		完形	3	
				双子葉類		破片	1	半分
				不明			1	
市電	S002(畝)	②-5		イネ	胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	完形	7	
市電	S002(畝)	②-7		イネ	胚乳	完形	3	
				オオムギ	胚乳	完形	9	
				コムギ	胚乳	完形	2	
市電	S002(畝)	②-8		オオムギ	胚乳	完形	8	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	4	
				双子葉類		破片	1	半分
				炭化材			3	
市電	S002(畝)	②-9(止)	下層	イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	10	
				オオムギ	胚乳	破片	3	
				ムギ類	胚乳	破片	2	
				不明		破片	1	
市電	S002(畝)	③-1		オオムギ	胚乳	完形	5	
				アカネ科	核	完形	1	
				不明物質			1	膠結物質?
市電	S002(畝)	③-2		イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	2	
市電	S002(畝)	③-5		イネ	胚乳	完形	5	
				オオムギ	胚乳	完形	12	３個年代測定(10937-3)
				オオムギ	胚乳	破片	5	
				コムギ	胚乳	完形	3	
				ムギ類	胚乳	完形	7	
				ムギ類	胚乳	破片	9	
				マメ類	種子	破片	1	アズキグループ
				アカネ科	核	完形	3	
				双子葉類		完形	3	
				炭化材			2	

表 3．種実遺体分析結果(2)

調査地	遺構	場所	層位	分類群	部位	状態	個数	備考
市電	S002(畝)	③-6		イネ	胚乳	完形	5	
				オオムギ	胚乳	完形	11	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	6	
				双子葉類		破片	3	半分
				不明		破片	1	
				炭化材			1	
市電	S002(畝)	③-7		イネ	胚乳	完形	2	
				オオムギ	胚乳	完形	3	
				オオムギ	胚乳	破片	5	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				双子葉類		完形	2	
				不明		完形	1	
				不明物質			1	膠結物質?
市電	S002(畝)	③-8		イネ	胚乳	完形	4	
				イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	2	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	2	
				マメ類	種子	破片	1	半分未満
				不明		破片	2	
				炭化材			1	
市電	S002(畝)	③-9		イネ	胚乳	完形	2	
				イネ	胚乳	破片	2	
				ヒエ近似種	胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	完形	10	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	2	
				マメ類?	種子	完形	1	
市電	S002(畝)	④-1		イネ	胚乳	完形	3	
				イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				マメ類	種子	破片	1	半分
				双子葉類		完形	1	
				不明		完形	1	
				炭化材			1	
				不明物質			1	膠結物質?
市電	S002(畝)	④-2		イネ	胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	完形	3	
				オオムギ	胚乳	破片	4	
				コムギ	胚乳	完形	3	
				コムギ	胚乳	破片	1	
				不明		完形	2	
				不明物質			1	膠結物質?
市電	S002(畝)	④-5		イネ	胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	完形	7	
				オオムギ	胚乳	破片	6	
				ムギ類	胚乳	完形	2	
				アカネ科	核	完形	3	
				双子葉類		完形	3	
				不明種実		完形	1	
				不明		破片	2	
市電	S002(畝)	④-6	下層	オオムギ	胚乳	完形	7	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				マメ類	種子	破片	2	半分
				双子葉類		完形	1	
				不明		完形	1	
市電	S002(畝)	④-7	下層	イネ	胚乳	完形	2	
				イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	4	
				不明物質			2	膠結物質?
市電	S002(畝)	④-8	1層	イネ	胚乳	完形	3	
				アワ近似種	胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	完形	10	
				アカネ科	核	完形	1	
				双子葉類		完形	1	
				不明		完形	2	
市電	S002(畝)	④-9		イネ	胚乳	完形	2	
				オオムギ	胚乳	完形	3	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				炭化材			1	
市電	S002(畝)	④-10(止)	1層	イネ	胚乳	完形	5	
				イネ	胚乳	破片	2	
				オオムギ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				炭化材			1	

表３．種実遺体分析結果(3)

調査地	遺構	場所	層位	分類群	部位	状態	個数	備考
市電	S002(畝)	⑤-1	1層	オオムギ	胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				双子葉類		破片	1	半分
				炭化材			5	
				不明		完形	1	
				不明		破片	1	
				不明物質			1	膠結物質？
市電	S002(畝)	⑤-2	1層	イネ	胚乳	完形	4	
				オオムギ	胚乳	完形	4	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				アカネ科	核	完形	1	
				双子葉類		完形	1	
市電	S002(畝)	⑤-5	1層	アワ近似種	胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	完形	12	
				オオムギ	胚乳	破片	3	
				ムギ類	胚乳	破片	2	
				マメ科	種子	完形	1	臍確認
				不明		完形	1	
市電	S002(畝)	⑤-6	1層	ヒエ近似種	胚乳	完形	1	
				イネ	胚乳	完形	3	
				イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	1	
				コムギ	胚乳	完形	5	３個年代測定(10937-4)
				コムギ	胚乳	破片	1	
				ムギ類	胚乳	完形	2	
				ムギ類	胚乳	破片	3	
				マメ類	種子	破片	1	半分
				アカネ科	核	完形	1	
				双子葉類		完形	3	
				双子葉類		破片	3	半分
				不明		破片	4	
市電	S002(畝)	⑤-7	1層	オオムギ	胚乳	完形	4	
				オオムギ	胚乳	破片	3	
				双子葉類		完形	1	
市電	S002(畝)	⑤-8(止)	1層	イネ	胚乳	完形	4	
				イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	4	
				オオムギ	胚乳	破片	7	
				アカネ科	核	完形	1	
				不明		破片	2	
				炭化材			2	
市電	S002(畝)	⑥-1	1層	イネ	胚乳	完形	2	
				オオムギ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				アカネ科	核	完形	2	
				双子葉類		完形	3	
				双子葉類		破片	1	半分
				不明物質			1	膠結物質？
市電	S002(畝)	⑥-2	1層	イネ	穎・胚乳	完形	1	
				イネ	胚乳	完形	2	
				エノコログサ属	果実	完形	1	非炭化
				オオムギ	胚乳	完形	1	
				マメ類	種子	破片	1	半分未満
				アカネ科	核	完形	1	
				双子葉類		完形	1	
				不明物質			2	膠結物質？
市電	S002(畝)	⑥-3	1層	イネ	穎・胚乳	完形	1	
				イネ	胚乳	破片	2	
				オオムギ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				不明		破片	1	
市電	S002(畝)	⑥-4	1層	イネ	胚乳	完形	2	
				イネ	胚乳	破片	2	
				オオムギ	胚乳	完形	4	
				オオムギ	胚乳	破片	3	
				ムギ類	胚乳	完形	1	
				マメ類	種子	破片	1	半分未満
				マメ科	種子	完形	1	臍確認
				不明		破片	1	
				不明物質			2	膠結物質？
市電	S002(畝)	⑥-5	1層	イネ	胚乳	完形	2	
				イネ	胚乳	破片	2	
				オオムギ	胚乳	完形	7	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	2	
				コムギ	胚乳	破片	1	
				アカネ科	核	完形	1	
				双子葉類		完形	2	
				不明物質			1	膠結物質？

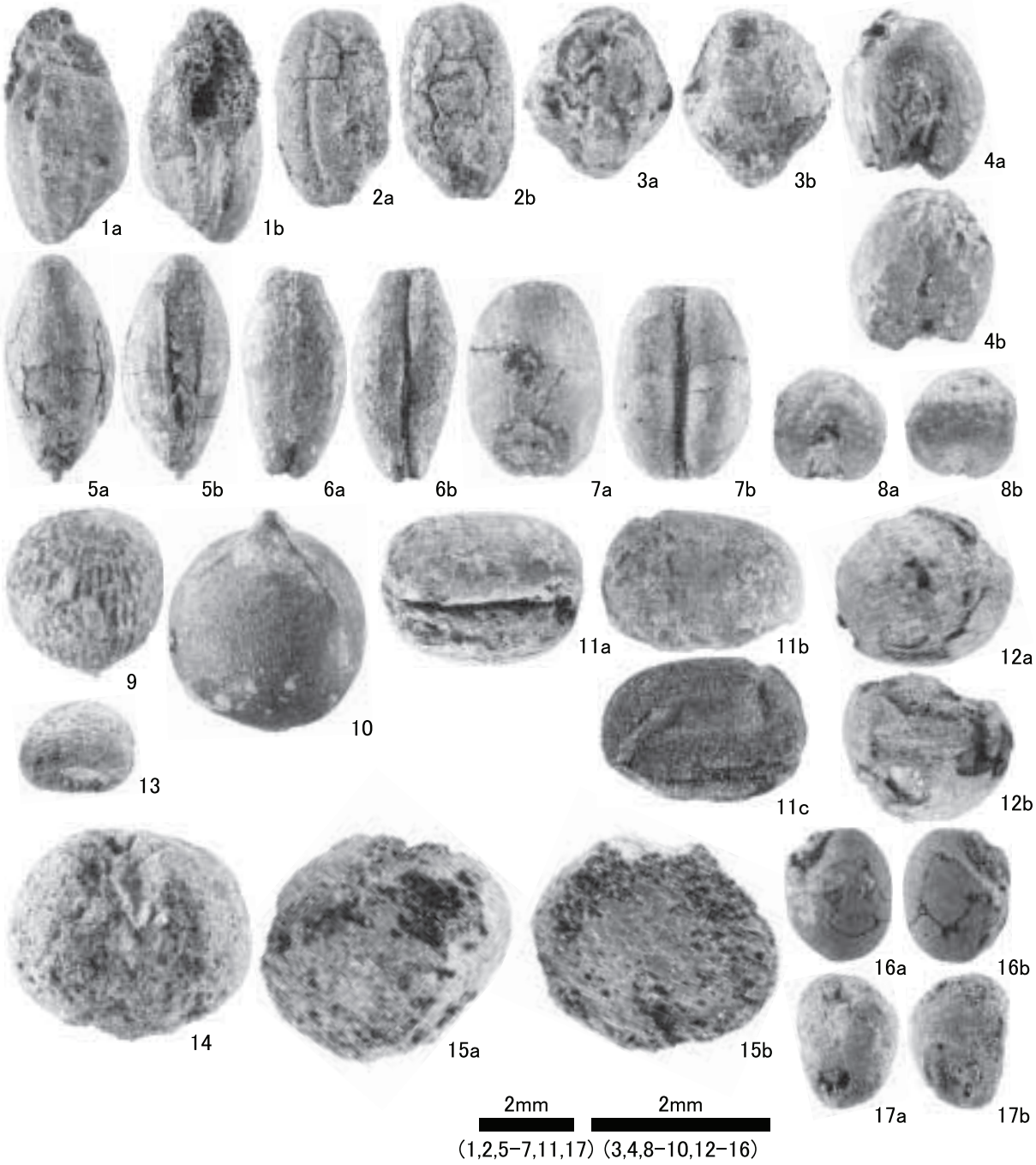
表 3．種実遺体分析結果(4)

調査地	遺構	場所	層位	分類群	部位	状態	個数	備考
市電	S002(畝)	⑥-6	1層	イネ	胚乳	完形	2	
				イネ	胚乳	破片	1	
				ヒエ近似種	穎･胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	完形	4	
				コムギ	胚乳	完形	3	
				コムギ	胚乳	破片	1	
				マメ科?	種子	完形	2	別種？，１個臍確認
				アカネ科	核	完形	2	
				双子葉類		完形	1	
				不明			1	
市電	S002(畝)	⑥-7(止)	1層	イネ	胚乳	完形	2	
				オオムギ	胚乳	完形	3	
				オオムギ	胚乳	破片	3	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				炭化材			1	
市電	S002(畝)	⑦-1		ヒエ近似種	果実	完形	1	
				イネ	胚乳	破片	2	
				オオムギ	穎･胚乳	完形	3	
				オオムギ	胚乳	完形	4	３個年代測定(10937-5)
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				コムギ	胚乳	破片	1	
				ムギ類	胚乳	完形	2	
				ムギ類	胚乳	破片	3	
				双子葉類		破片	1	半分
				炭化材			5	
				不明			5	
市電	S002(畝)	⑦-2		イネ	胚乳	完形	2	
				ヒエ近似種	胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				コムギ	胚乳	完形	2	
				双子葉類		完形	1	
				双子葉類		破片	1	
				不明		完形	1	
				不明		破片	1	
				炭化材			1	
市電	S002(畝)	⑦-3		オオムギ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				コムギ	胚乳	完形	2	
				ムギ類	胚乳	破片	1	
				炭化材			7	
市電	S002(畝)	⑦-4		イネ	胚乳	完形	1	
				イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	11	
				コムギ	胚乳	完形	2	
				ヒゴクサ節	果実	完形	1	非炭化
市電	S002(畝)	⑦-5		イネ	胚乳	完形	2	
				イネ	胚乳	破片	2	
				オオムギ	胚乳	完形	7	
				オオムギ	胚乳	破片	3	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				マメ類	種子	破片	1	半分未満
				双子葉類		完形	2	
				双子葉類		破片	1	
				不明		破片	1	
				不明植物		破片	1	
市電	S002(畝)	⑦-6		イネ	胚乳	完形	4	
				イネ	胚乳	破片	3	
				オオムギ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				双子葉類		完形	2	
				炭化材			1	
市電	S002(畝)	⑦-7		イネ	胚乳	完形	1	
				オオムギ	胚乳	完形	3	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				コムギ	胚乳	破片	1	
				マメ類	種子	破片	1	半分未満
				炭化材			1	
				不明物質			1	膠結物質？
市電	S002(畝)	⑧-1		イネ	胚乳	完形	1	
				イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	4	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				コムギ	胚乳	完形	2	
				ムギ類	胚乳	破片	1	
				不明物質			2	膠結物質？

表３．種実遺体分析結果(5)

調査地	遺構	場所	層位	分類群	部位	状態	個数	備考
市電	S002(畝)	⑧-2		イネ	胚乳	完形	2	
				オオムギ	胚乳	完形	5	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				コムギ	胚乳	完形	1	
				ムギ類	胚乳	完形	2	
				アカネ科	核	完形	1	
				双子葉類		完形	2	
				双子葉類		破片	1	
				炭化材			1	
市電	S002(畝)	⑧-3		イネ	胚乳	完形	3	
				オオムギ	胚乳	完形	8	
				オオムギ	胚乳	破片	2	
				コムギ	胚乳	完形	3	
				双子葉類		完形	1	
市電	S002(畝)	⑧-4		イネ	胚乳	完形	2	
				オオムギ	胚乳	完形	12	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				コムギ	胚乳	完形	3	
				双子葉類		完形	1	
				不明物質			1	膠結物質？
市電	S002(畝)	⑧-5		イネ	胚乳	完形	4	
				オオムギ	胚乳	完形	2	
				コムギ	胚乳	完形	2	
				ムギ類	胚乳	完形	2	
				双子葉類		完形	1	
				双子葉類		破片	2	
				不明		破片	1	
				炭化材			1	
				不明物質			1	膠結物質？
市電	S002(畝)	⑧-6		イネ	胚乳	完形	1	
				イネ	胚乳	破片	2	
				オオムギ	胚乳	完形	12	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
市電	S002(畝)	⑧-7		イネ	胚乳	完形	3	
				イネ	胚乳	破片	1	
				オオムギ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				コムギ	胚乳	完形	2	
				双子葉類		完形	1	
				不明		完形	1	
				不明		破片	1	
市電	S002(畝)	⑧-8		イネ	穎・胚乳	完形	1	
				イネ	胚乳	完形	6	
				オオムギ	胚乳	破片	1	
				ムギ類	胚乳	完形	1	
				シンジュガヤ属	果実	完形	1	
				マメ類	種子	破片	2	接合し１個体，アズキグループ
				双子葉類		完形	2	
				炭化材			1	

図版1　種実遺体



1．イネ 穎・胚乳(S002(畝);⑧-8)
2．イネ 胚乳(S002(畝);⑧-8)
3．ヒエ近似種 穎・胚乳(S002(畝);⑦-1)
4．ヒエ近似種 胚乳(S002(畝);③-9)
5．オオムギ 穎・胚乳(S002(畝);①-7 下層)
6．オオムギ 胚乳(S002(畝);③-5)
7．コムギ 胚乳(S002(畝);②-8)
8．アワ近似種 胚乳(S002(畝);⑤-5 1層)
9．シンジュガヤ属 果実(S002(畝);⑧-8)
10．タデ属 果実(S002(畝);②-1)
11．マメ類 種子(S002(畝);⑧-8)
12．マメ科 種子(S002(畝);⑤-5 1層)
13．アカネ科 核(S002(畝);③-5)
14．双子葉類(S002(畝);⑤-6 1層)
15．双子葉類(S002(畝);⑤-6 1層)
16．不明種実(S002(畝);①-5 下層)
17．不明種実(S002(畝);④-5)

熊本市二本木遺跡群（市電敷地）出土の古代人骨

松下真実*・松下孝幸**

【キーワード】：熊本県、古代人骨、平安時代、土壙墓、側臥、女性骨

はじめに

熊本県熊本市春日２丁目に所在する二本木遺跡群市電敷地の発掘調査が区画整備事業に伴って、2008年度（平成20年度）におこなわれ、２基の土壙墓から２体の古代人骨が出土した。2008年の上半期には、本地区に隣接する同遺跡群市電敷地南下の発掘調査がおこなわれ、２基の土壙墓（S004、S005）から、中世と古代に属する人骨が検出されている。また、近接しているさつま荘跡からも中世と古代に属する人骨が出土した。

熊本県では古代に属する古人骨の出土例が次第に増加している。2003年（平成15年）に熊本市教育委員会が調査をおこなった二本木遺跡の第18次調査区から古代に属する人骨が１体出土した（松下、2005）。この人骨は溝から出土した四肢骨の骨片にすぎなかった。2006年（平成18年）におこなわれた第28次調査においても古代末の人骨が２体出土したが、これは大腿骨片と歯のみであった。熊本県教育委員会が2005年度と06年度に実施した二本木遺跡群（合同庁舎）の調査でも12世紀初頭の人骨が出土している。その他に、2005年度には、大江遺跡群第97次調査区から９世紀後半の男性人骨が、また古町遺跡第5次調査区では10世紀初頭に属する男性人骨が多くの副葬品（土師器など）を伴って出土したが、ともに保存状態は著しく悪いものであった。

今回出土した２体の人骨の保存状態は悪かったが、現場でできる限りの観察をおこない、計測や観察に耐えられた人骨については、人類学的観察や計測をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資　料

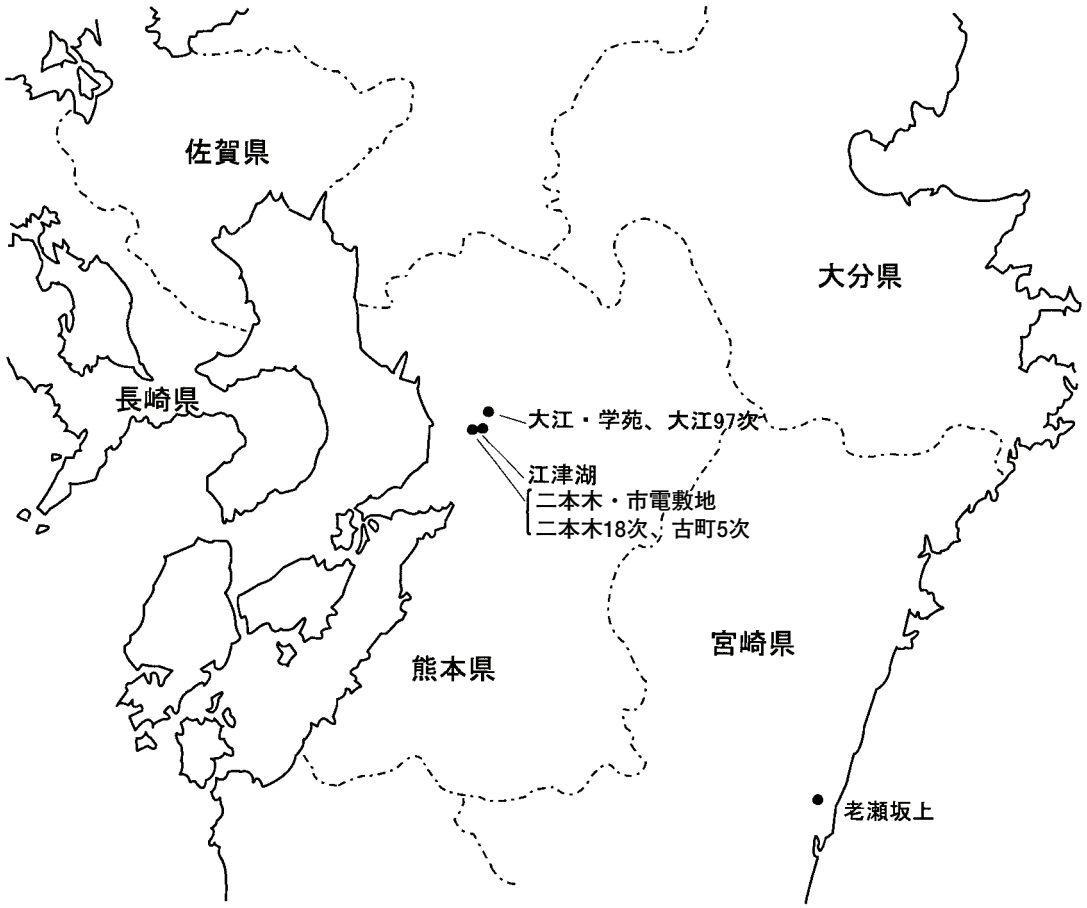
本遺跡からは２体の人骨（S047、S058）が出土した。各人骨の性別・年齢は表１のとおりである。この人骨は考古学所見から10世紀（古代末）に属する人骨と推定されている。

計測方法は、Martin-Saller（1957）によったが、脛骨の横径はオリビエの方法で計測した。年齢区分に関しては表２を参照されたい。

表１　出土人骨一覧（Table 1.　List of skeletons）

人骨番号	性別	年令	埋葬姿勢
S047	女性	壮年	側臥（左を下）
S058	女性	不明	仰臥伸展（下肢伸展）

＊ Masami　MATSUSHITA、＊＊ Takayuki　MATSUSHITA
The Doigahama Site Anthropological Museum〔土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム〕



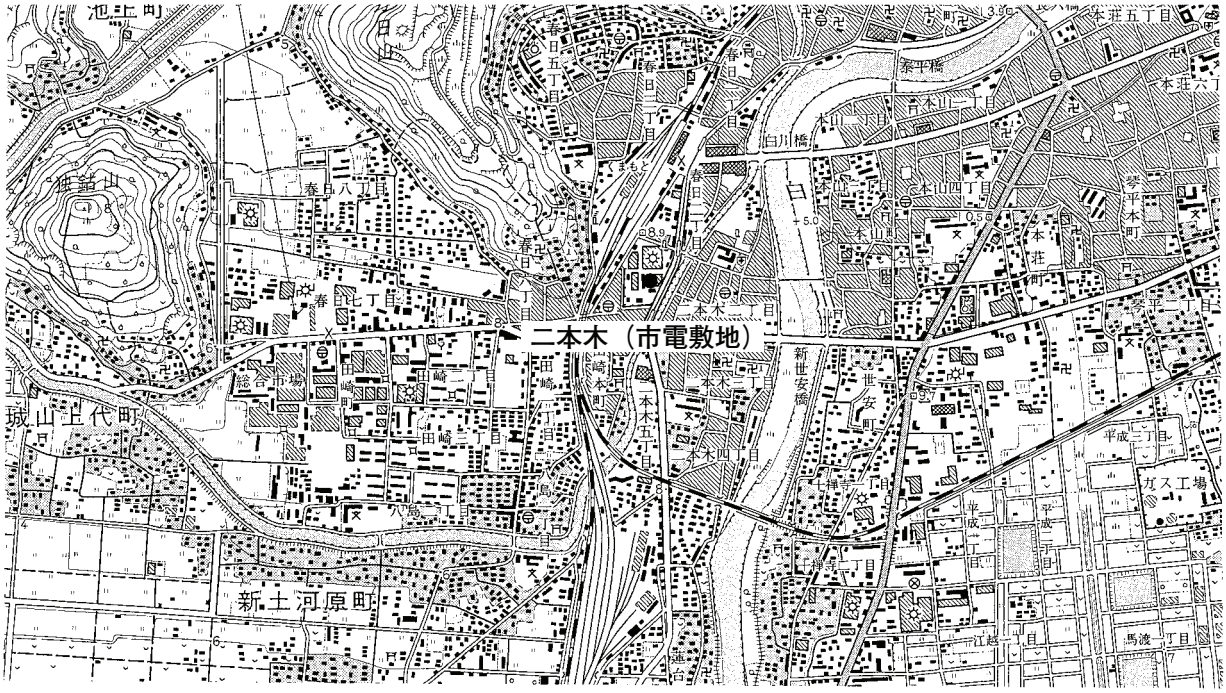


図 1　遺跡の位置（1/25,000）
（Fig.1 Location of the Nihongi sites（Shiden-shikichi）, Kumamoto Prefecture）

表２　年齢区分（Table 2.　Division of age）

年齢区分		年　齢
未成人	乳児	１歳未満
	幼児	１歳～５歳（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児	６歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	成年	16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人	壮年	21歳～39歳（40歳未満）
	熟年	40歳～59歳（60歳未満）
	老年	60歳以上

注）成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次調査報告書（1996）を参照されたい。

所　見

A　埋葬姿勢

Ｓ０４７（３号人骨）（女性・壮年）

埋葬遺構は土壙墓。墓坑は長楕円形。埋葬姿勢は左を下にした側臥である。頭位は東。顔の向きは南。残存していたのは頭蓋、左右の上腕骨、橈骨、尺骨、左側の寛骨の一部、左右の大腿骨、脛骨、腓骨および足の骨、右側の肋骨の一部である。保存状態は悪い。肋骨はほとんど泥化寸前状態であった。膝関節の屈曲の程度は両側とも弱く、右側は約90度に、左側は約100度に曲げられていた。右側の上肢は腕を上げた状態で、肘関節を約90度に曲げており、左側は約60度に曲げた状態であった。上肢をこのように上げた状態で埋葬することは珍しい。上腕骨、大腿骨、脛骨の径は細い。大腿骨の粗線や両側面の後方への発達も弱い。左側大腿骨の最大長を現場で計測することができた。その最大長は約375㎜であった。四肢骨が細いことから、性別を女性と推定した。副葬品はない。

Ｓ０５８（４号人骨）（女性・年齢不明）

埋葬遺構は土壙墓。埋葬姿勢は仰臥。頭位はほぼ北。肘関節は右側は約150度に屈曲。左側は約100度に屈曲しており、肘は「く」の字状である。膝関節は左右とも伸展状態であった。残存していたのは、頭蓋、左右の上腕骨、橈骨、尺骨、左右の寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨のほかに右側の肩甲骨の一部、左側鎖骨の一部、足の骨の一部、右側肋骨の一部である。保存状態は全般的によくなく、脆い。頭蓋のうち後頭部は発掘調査時に削り取られており、頭型は不明である。歯槽性突顎の傾向がうかがえる。下顎枝の幅は広い。左側寛骨の大坐骨切痕の観察ができた。この角度は広い。また、四肢骨はやや細い。大腿骨の長さはどう見積もっても最大長が37㎝を超えることはなさそうである。左側寛骨の大坐骨切痕の角度が大きいことから、性別を女性と推定した。

なお、頭蓋の右側に土器（碗）が１個副葬されていた。

B　人骨の形質

各人骨の残存部は図２に示すとおりである。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

Ｓ０４７（女性・壮年）

１．頭蓋

前頭骨と頭頂骨、後頭骨の一部と上顎骨、下顎骨が残存していた。保存状態は悪く計測はできない。眉上

弓の隆起は弱く、前頭結節の発達は良好である。鼻根部は扁平である。三主縫合のうち矢状縫合とラムダ縫合が確認できた。両縫合は内外両板ともに開離している。下顎骨は左側半分も残存していた。右側枝幅と右側枝高が計測できた。前者は37㎜、後者は53㎜で、下顎切痕は浅い。下顎骨には歯が釘植していた。

２．歯

残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／	1 2 3 4 5 6 7 ／
／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／	／ ／ 3 4 5 6 7 8

〔○：歯槽開存 ●：歯槽閉鎖 ／：不明〕

（1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯）

咬耗度はBrocaの２度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。

３．四肢骨

上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

(1)上肢骨

①上腕骨

両側の骨体が残存していたが保存状態が悪く、右側のみ計測できた。三角筋粗面の発達は悪く、骨体の長さは短くて、径は小さい。

計測値は、中央最大径が20㎜（右）で、中央最小径は15㎜（右）、骨体断面示数は75.00（右）となり、骨体には扁平性は認められない。中央周は58㎜（右）で、骨体は細い。

(2)下肢骨

左寛骨と大腿骨、脛骨、右腓骨が残存していた。

①大腿骨

両側の骨体が残存していた。骨体は細い。粗線の発達は悪いが、骨体両側面の後方への発達は良好である。

計測値は、骨体中央矢状径が25㎜（右）で、骨体中央横径が25㎜（右）、骨体中央断面示数は100.00（右）となり、柱状性は認められない。骨体中央周は78㎜（右）である。上骨体断面示数は71.43（左）で骨体上部には扁平性が認められる。

②脛骨

両側の骨体が残存していたが、保存状態が悪く、計測できたのは左側のみである。

骨体は細く、ヒラメ筋線の発達は悪く、骨体は著しく扁平である。左側骨体の断面形はヘリチカのＶ型を呈しているが、右側は不明である。

計測値は、中央最大径が29㎜（左）、中央横径が17㎜（左）で、中央断面示数は58.62（左）となり、骨体はこの時代としては珍しく扁平である。骨体周は77㎜（左）で、骨体は小さい。

４．推定身長

現場で左側大腿骨の最大長を計測することができた。最大長は約375㎜である。この値からPearsonおよび藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ145.78㎝（Pearson、左）、145.22㎝（藤井、左）となり、低身長である。

５．年令・性別

性別は、大腿骨の骨体が短くて小さく、粗線の発達は悪く、脛骨のヒラメ筋線の発達も悪いことから女性と推定した。年齢は、矢状縫合とラムダ縫合の内外両板が開離しているので、壮年と考えられる。

Ｓ０５８（女性・年齢不明）

１．頭蓋

前頭骨と頭頂骨、後頭骨、上顎骨と下顎骨が残存していた。眉上弓の隆起は弱く、前頭結節の発達は良好である。また、鼻根部は扁平である。保存状態は著しく悪く、計測はできなかった。

２．歯

残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8 7 6 5 ／ 3 2 1	1 2 3 4 5 6 7 ／
8 7 6 5 4 3 ② ①	① ② 3 4 5 6 7 8

〔○：歯槽開存 ●：歯槽閉鎖 ／：不明〕

（1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯）

咬耗度はBrocaの２度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。

３．四肢骨

(1)上肢骨

右肩甲骨の一部と上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

①上腕骨

両側の骨体が残存していた。骨体は小さく、短い。三角筋粗面の発達は悪く、計測はできなかった。

(2)下肢骨

左寛骨の腸骨体の一部と大腿骨、脛骨、腓骨が残存していた。

①寛骨

腸骨体の一部が残存していた。大坐骨切痕が確認できた。大坐骨切痕の角度は大きい。

②大腿骨

両側の骨体が残存していた。骨体は短くて細い。粗線の発達は弱く、骨体両側面の後方への発達はややよい。

計測値は、骨体中央矢状径が26㎜（右）、25㎜（左）で、骨体中央横径が25㎜（右）、26㎜（左）で、骨体中央断面示数は104.00（右）、96.15（左）となり、右側は骨体の後方への発達はやや良好である。骨体中央周は80㎜（左右）で骨体は細い。上骨体断面示数は70.00（右）、64.52（左）で、骨体上部には扁平性が認められる。

③脛骨

両側の骨体が残存していた。骨体は短くて細い。ヒラメ筋線の発達は弱く、骨体は著しく扁平である。骨体の断面形は左右ともヘリチカのⅡ型を呈している。

計測値は、中央最大径が27㎜（右）、中央横径は17㎜（右）で、中央断面示数は62.96（右）となり、骨体は著しく扁平である。骨体周は73㎜（右）で、骨体は細い。

４．推定身長値

現場で観察したところ右側大腿骨の長さはどう見積もっても最大長が37㎝を超えることはなさそうであった。37㎝からの推定身長値は、144.81㎝（Pearson、右）、143.92㎝（藤井、右）となり、本被葬者はどんなに高く見積もっても145㎝程度であったとみられる。

５．性別・年齢

性別は、大坐骨切痕の角度が大きいこと、四肢骨の骨体が小さいことから女性と推定した。年齢は頭蓋の縫合が観察できないので不明である。

考　察

計測ができた上腕骨と大腿骨、脛骨について、熊本県内などの古代人、中世人と比較してみた。

表３は、女性上腕骨の計測値比較表である。中央周は58㎜でジーコンボと二本木13次と大差ない。骨体断面示数は75.00で、ジーコンボに一致し、二本木13次よりも大きく、骨体には扁平性は認められない。

表４は、女性大腿骨の計測値比較表である。骨体中央周は79.00㎜（２例）で、二本木13次よりも大きく、骨体はやや太い。骨体断面示数は102.00（２例）で、二本木13次よりも小さく、粗線や骨体両側面の後方への発達はよくない。上骨体断面示数は二本木13次よりも小さく、骨体は上部は扁平である。

表５は、女性脛骨の計測値比較表である。骨体周は73㎜（右）と77㎜（左）で、１例は二本木13次とほとんど大差ないが、もう１例は大きい。骨体断面示数は２例とも二本木13次よりも小さく、古代人としては珍しく、脛骨体は扁平である。

表６は推定身長値の比較表である。２例の平均値は（145.30㎝）で、尾窪の平均値145.98㎝と大差ない値で、身長は低い。

要　約

熊本市春日２丁目に所在する二本木遺跡群市電敷地の発掘調査で、出土例数の少ない古代末に属する人骨２体が出土した。熊本市では近年新幹線開業にともなう駅周辺の再開発事業に係る発掘調査がおこなわれており、古代に属する人骨や中世人骨が出土する例が増加しているが、人骨の保存状態はあまりよくない。本例も保存状態はあまりよくはなかったが、人類学的観察と計測をおこない、以下の結果を得た。

１．本調査では２基の土壙墓から２体の人骨が出土した。ともに成人の女性骨である。埋葬姿勢は１例（S047）が左を下にした側臥で、もう１例（S058）は仰臥の伸展状態であった。
２．この２体の人骨は考古学所見から、古代末（10世紀）の人骨である。
３．頭蓋の保存状態は悪く、頭形も顔面の形態も明らかにはできなかったが、２体とも鼻根部は扁平で、１例（S058）には歯槽性突顎の傾向がみられた。
４．上腕骨は太いが、骨体に扁平性は認められない。
５．大腿骨は径が大きく、骨体両側面の後方への発達はあまり良くない。
６．脛骨は著しく扁平である。
７．推定身長は１例が145.78㎝（大腿骨、Pearson）、もう１例は145㎝（大腿骨、Pearson）程度で、ともに低身長であった。

謝辞

擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本県教育委員会の皆様に感謝致します。

≪参考文献≫

1．Martin-Saller，1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fischer Verlag，Stuttugart：429-597.

2．松下孝幸・他、1983：山口県萩市見島ジ－コンボ古墳群出土の平安時代人骨。見島ジ－コンボ古墳群（山口県埋蔵文化財調査報告73）：32-36.

3．松下孝幸、1985：山口県見島ジ－コンボ古墳群出土の人骨－山口大学埋蔵文化財資料館所蔵の資料－。山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ：83-90.

4．松下孝幸、2005：熊本市二本木遺跡群第18次調査出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群Ⅰ－第18次調査区発掘調査報告書－：41-46.

5．松下孝幸、2007a：熊本市古町遺跡第5次調査区出土の平安時代人骨。熊本市埋蔵文化財調査年報第9号：148-152.

6．松下孝幸、2007b：熊本市大江遺跡群第97次調査区出土の平安時代人骨。大江遺跡群Ⅵ（－第97次・第106次調査区発掘報告書－）：114-117.

7．松下孝幸、2007c：熊本市二本木遺跡群第13次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅱ（二本木遺跡群第13次調査区発掘調査報告書）：381-393.

8．松下孝幸・他、2008a：熊本市二本木遺跡群第28次調査区出土の古代・中世以降人骨。二本木遺跡群Ⅴ〔二本木遺跡群第28次調査区（E～I･K･L･P地点）発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告（2）〕：178-183.

9．松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群40次調査区Ｆ地点出土の古代・中世人骨。（投稿中）

10．松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群春日地区第11次調査区出土の古代・中世人骨。（投稿中）

11．松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群（合同庁舎）出土の古代・中世人骨。(投稿中)

12．松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群（さつま荘跡）出土の古代・中世人骨。(投稿中)

13．松下真実・他、熊本市二本木遺跡群（市電敷地）出土の古代・中世人骨。(投稿中)

表 3　上腕骨計測値（女性、右、㎜）（Table 3.　Comparison of measurements snd indices of female right humeri）

		市電敷地 古代人 熊本県 熊本市 （松下・他）	ジーコンボ 平安人 山口県 萩市 （松下）	二本木13次 中世人 熊本県 熊本市 （松下）
		S047	155号墳A	1号人骨
5.	中央最大径	20	20(左)	22(左)
6.	中央最小径	15	15(左)	15(左)
7.	骨体最小周	−	52(左)	55(左)
7(a).	中央周	58	59(左)	59(左)
6/5	骨体断面示数	75.00	75.00(左)	68.18(左)

表 4　大腿骨（女性、右、㎜）（Table 4. Comparison of measurements and indices female right femora）

		市電敷地 古代人 熊本県 熊本市 （松下・他）				二本木13次 中世人 熊本県 熊本市 （松下）
		S047	S058	n	M	1 号人骨
6.	骨体中央矢状径	25	26	2	25.50	25
7.	骨体中央横径	25	25	2	25.00	24
8.	骨体中央周	78	80	2	79.00	76
9.	骨体上横径	28(左)	30	1	30	29
10.	骨体上矢状径	20(左)	21	1	21	24
6/7	骨体中央断面示数	100.00	104.00	2	102.00	104.17
10/9	上骨体断面示数	71.43(左)	70.00	1	70.00	82.76

表 5　脛骨（女性、右、㎜）（Table 5. Comparison of measurements and indices of female right tibiae）

		二本木市電敷地 古代人 熊本県 熊本市 （松下・他）				二本木13次 中世人 熊本県 熊本市 （松下）
		S047	S058	n	M	1 号人骨
8.	中央最大径	29(左)	27	1	27	26(左)
9.	中央横径	17(左)	17	1	17	19(左)
10.	骨体周	77(左)	73	1	73	74(左)
10b.	最小周	−	−		−	66(左)
9/8.	中央断面示数	58.62(左)	62.96	1	62.96	73.08(左)
10b/1	長厚示数	−	−		−	−

表 6　推定身長値（女性、右、㎝）（Table 6. Comparison of estimated male statures）

		二本木市電敷地 古代人 熊本県 熊本市 （松下・他）				尾　窪 中世人 熊本県 熊本市 （内藤）				
		S047	S058	n	M	№3	№25	№83	n	M
Pearsonの式	上腕骨	−	−		−	145.01	141.98		2	143.50
	橈骨	−	−		−	−	−	−		−
	大腿骨	145.78	(144.81)	2	(145.30)	145.78	143.84	148.31	3	145.98
	脛骨	−	−		−	147.69	142.75	−	2	145.22
藤井の式	上腕骨	−	−		−	−	−	−		−
	橈骨	−	−		−	−	−	−		−
	大腿骨	145.22	(143.92)	2	(144.57)	−	−	−		−
	脛骨	−	−		−	−	−	−		−

表 7　下顎骨（㎜、度）（Mandibula）

		市電敷地 S047 女性
65	下顎関節突起幅	−
65(1).	下顎筋突起幅	−
66	下顎角幅	−
67	前下顎幅	−
68	下顎長	−
68(1).	下顎長	−
69	オトガイ高	−
69(1).	下顎体高(右)	−
	(左)	−
69(2).	下顎体高(右)	−
	(左)	−
70	枝高(右)	53
	(左)	−
70(1).	前枝高(右)	−
	(左)	−
70(2).	最小枝高(右)	−
	(左)	−
70(3).	下顎切痕高(右)	−
	(左)	−
71(1).	下顎切痕幅(右)	−
	(左)	−
71	枝幅(右)	37
	(左)	−
71a.	最小枝幅(右)	−
	(左)	−
79	下顎枝角(右)	−
	(左)	−
66/65	下顎幅示数	−
68/65	幅長示数	−
68(1)/65	幅長示数(右)	−
69(2)/69	下顎高示数(右)	−
	(左)	−
71/70	下顎枝示数(右)	69.81
	(左)	−
71a/70(2)	下顎枝示数(右)	−
	(左)	−
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)	−
	(左)	−

表 8　上腕骨（㎜）（Humerus）

		市電敷地 S047 女性 (右)
1.	上腕骨最大長	−
2.	上腕骨全長	−
3.	上端幅	−
3(1).	横上径	−
4.	下端幅	−
5.	中央最大径	20
6.	中央最小径	15
7.	骨体最小周	−
7(a).	中央周	58
8.	頭周	−
9.	頭最大横径	−
10.	頭最大矢状径	−
11.	滑車幅	−
12.	小頭幅	−
12(a).	滑車幅および小頭幅	−
13.	滑車深	−
14.	肘頭窩幅	−
15.	肘頭窩深	−
6/5	骨体断面示数	75.00
7/1	長厚示数	−

表 9　大腿骨（㎜）（Femur）

		市電敷地 S047 女性	市電敷地 S058 女性	平均値	
				n	M
1.	最大長(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
2.	自然位全長(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
3.	最大転子長(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
4.	自然位転子長(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
6.	骨体中央矢状径(右)	25	26	2	25.50
	(左)	23	25	2	24.00
7.	骨体中央横径(右)	25	25	2	25.00
	(左)	−	26	1	26
8.	骨体中央周(右)	78	80	2	79.00
	(左)	−	80	1	80
9.	骨体上横径(右)	−	30	1	30
	(左)	28	31	2	29.50
10.	骨体上矢状径(右)	−	21	1	21
	(左)	20	20	2	20.00
15.	頚垂直径(右)	−	−		−
	(左)	28	−	1	28
16.	頚矢状径(右)	−	−		−
	(左)	22	−	1	22
17.	頚周(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
18.	頭垂直径(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
19.	頭横径(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
20.	頭周(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
21.	上顆幅(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
8/2	長厚示数(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
6/7	骨体中央断面示数(右)	100.00	104.00	2	102.00
	(左)	−	96.15	1	96.15
10/9	上骨体断面示数(右)	−	70.00	1	70.00
	(左)	71.43	64.52	2	67.98

表10　脛骨（㎜）（Tibia）

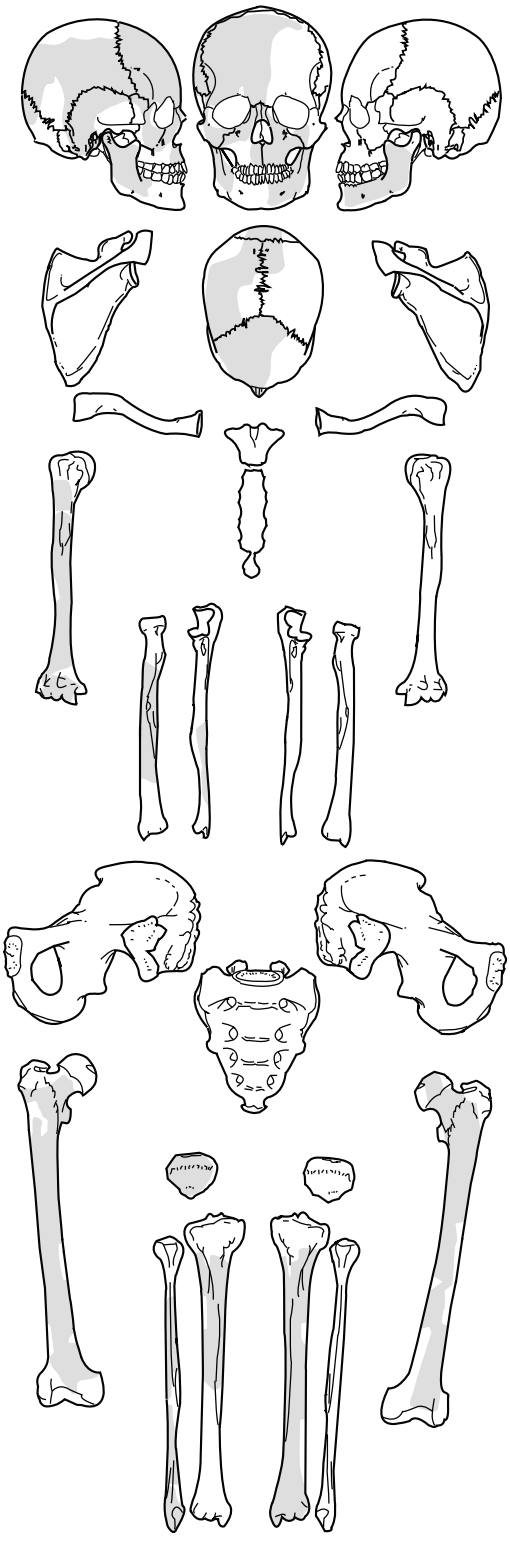
		市電敷地 S047 女性	市電敷地 S058 女性	平均値 n	平均値 M
1.	脛骨全長(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
1a.	脛骨最大長(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
1b.	脛骨長(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
2.	顆距間距離(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
3.	最大上端幅(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
3a.	上内関節面幅(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
3b.	上外関節面幅(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
4a.	上内関節面深(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
4b.	上外関節面深(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
6.	最大下端幅(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
7.	下端矢状径(右)	−	−		−
	(左)	34	−	1	34
8.	中央最大径(右)	−	27	1	27
	(左)	29	−	1	29
8a.	栄養孔位最大径(右)	31	30	2	30.50
	(左)	35	−	1	35
9.	中央横径(右)	−	17	1	17
	(左)	17	−	1	22
9a.	栄養孔位横径(右)	−	17	1	17
	(左)	−	−		−
10.	骨体周(右)	−	73	1	73
	(左)	77	−	1	77
10a.	栄養孔位周(右)	−	78	1	78
	(左)	86	−	1	86
10b.	最小周(右)	−	−		−
	(左)	−	−		−
9/8.	中央断面示数(右)	−	62.96	1	62.96
	(左)	58.62	−	1	58.62
9a/8a	栄養孔位断面示数(右)	−	56.67	1	56.67
	(左)	−	−		−
10b/1	長厚示数(右)	−	−		−
	(左)	−	−		

表11　中央周の比

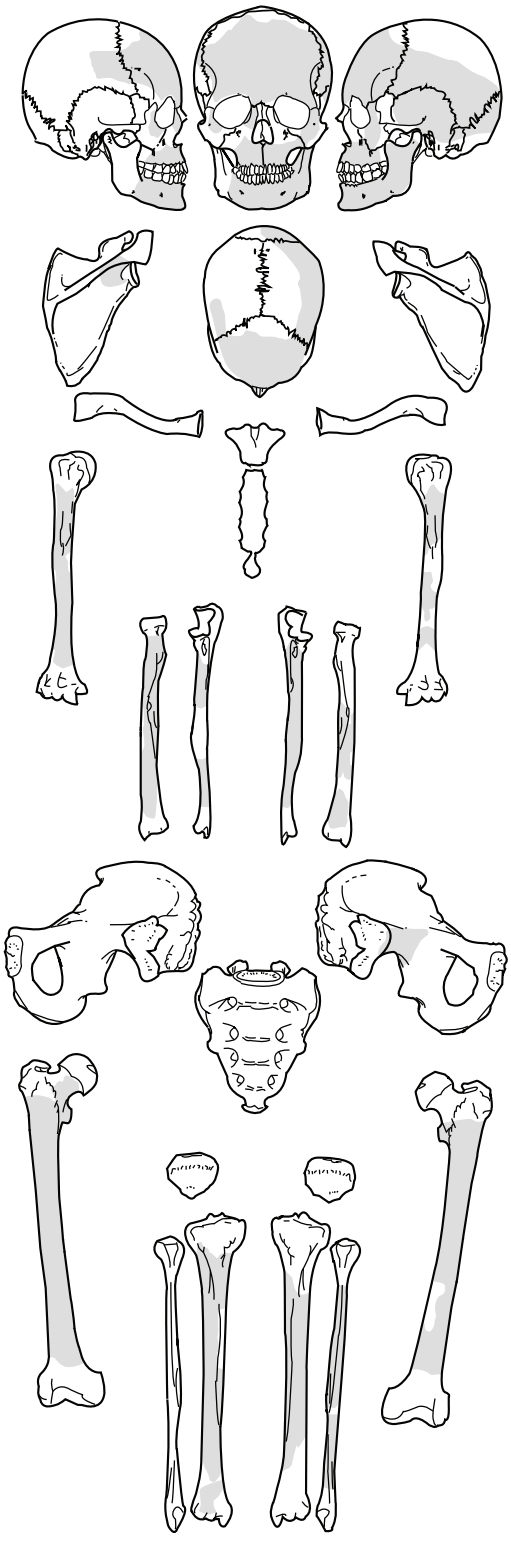
	市電敷地 S047 女性	市電敷地 S058 女性
橈骨/尺骨(右)	−	−
(左)	−	−
橈骨/上腕骨(右)	−	−
(左)	−	−
鎖骨/上腕骨(右)	−	−
(左)	−	−
上腕骨/大腿骨(右)	74.36	−
(左)	−	−
上腕骨/脛骨(右)	−	−
(左)	−	−
脛骨/大腿骨(右)	−	91.25
(左)	−	−
腓骨/脛骨(右)	−	−
(左)	−	−

表12　形態小変異（Non-metoric crania variants）

		市電敷地 S047 女性 右	市電敷地 S047 女性 左	市電敷地 S058 女性 右	市電敷地 S058 女性 左
1.	Medial palatine canal（内側口蓋管）	/	/	/	/
2.	Pterygospinous foramen(翼棘孔)	/	/	/	/
3.	Hypoglossal canal bridging(舌下神経管二分)	/	/	/	/
4.	Clinoid bridging(床状突起間骨橋)	/	/	/	/
5.	Condylar canal absent(顆間欠如)	/	/	/	/
6.	Tympanic dehiscence,Foramen of Huschke(>1㎜)（フシュケ孔、鼓室骨裂孔）	/	/	/	/
7.	Jugular foramen bridging	/	/	/	/
8.	Precondylar tubercle	/	/	/	/
9.	Supra-orbital foramen(incl.frontal foramen)(眼窩上孔)	/	/	/	/
10.	Accesory infraorbital foramen(副眼窩下孔)	/	/	/	/
11.	Zygo-facial foramen absent	/	/	/	/
12.	Aural exostosis(外耳道骨腫)	/	/	/	/
13.	Metopism(前頭縫合)		/		/
14.	Os incae(インカ骨)		/		/
15.	Ossicle at the lambda(ラムダ小骨)		/		/
16.	Parietal notch bone(頭頂切痕骨)	/	/	/	/
17.	Transverse zygomatic suture(>5㎜)	/	/	/	/
18.	Asterionic ossicle	/	/	/	/
19.	Occipitomastoid ossicle	/	/	/	/
20.	Epipteric ossicle	/	/	/	/
21.	Frontotemporal articulation	/	/	/	/
22.	Biasterionic suture(>10㎜)	/	/	/	/
23.	Mylohyoid bridging(顎舌骨筋神経溝骨橋)	/	/	/	/
24.	Accessory mental foramen(副オトガイ孔)	/	/	/	/
25.	Mandibular torus(下顎隆起)	/	/	/	/
26.	滑車上孔（上腕骨）	/	/	/	/



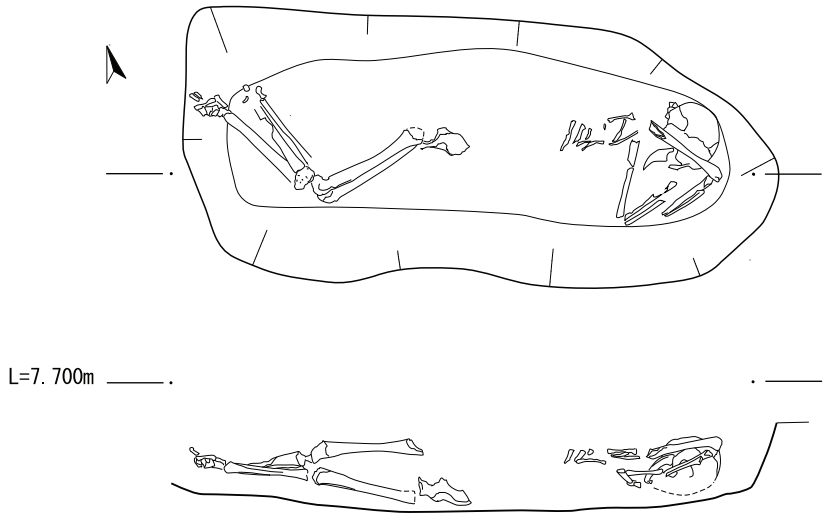
二本木遺跡群市電敷地S047（女性・壮年）



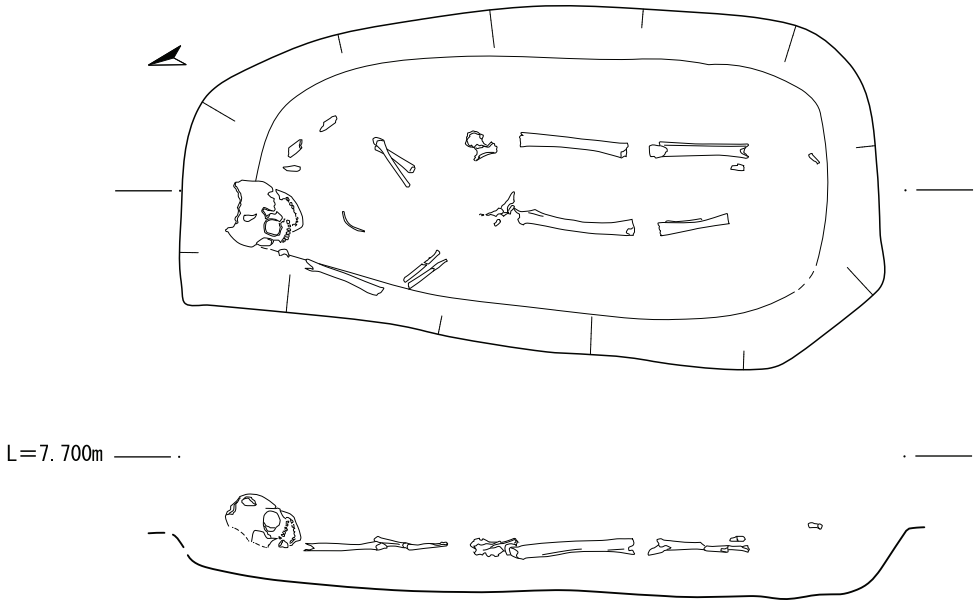
二本木遺跡群市電敷地S058（女性・年齢不明）

図２　人骨の残存図（アミかけ部分）
（Fig.2 Regions of preservasion of the skeleton. Shaded areas are preserved.）

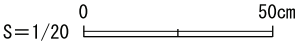
二本木(市電敷地)
S047(3号人骨)実測図



二本木(市電敷地)
S058(4号人骨)実測図



※供献遺物は第３章第４節に記載。



四肢骨（The limb bones）
二本木遺跡群 S058人骨（女性）
（The Nihongi skeleton S058, female）

四肢骨（The limb bones）
二本木遺跡群 S047人骨（女性・壮年）
（The Nihongi skeleton S047, young adult female）

熊本市二本木遺跡群（市電敷地）出土の古代・中世人骨

松下真実*・松下孝幸**

【キーワード】：熊本県、古代人骨、中世人骨、土壙墓、男性、側臥、保存不良

はじめに

熊本市春日２丁目に所在する二本木遺跡群（市電敷地）の発掘調査が庁舎改築に伴って、2008年度（平成20年度）におこなわれ、古代に属する人骨と中世人骨が出土した。

熊本県では古代に属する古人骨の出土例が次第に増加している。2003年（平成15年）に熊本市教育委員会が調査をおこなった二本木遺跡の第18次調査区から古代に属する人骨が１体出土した（松下、2005）。この人骨は溝から出土した四肢骨の骨片にすぎなかった。2006年（平成18年）におこなわれた第28次調査においても古代末の人骨が２体出土したが、これは大腿骨片と歯のみであった。熊本県教育委員会が2005年度と06年度に実施した二本木遺跡群（合同庁舎）の調査でも12世紀初頭の人骨が１体出土した。その他に、2005年度には、大江遺跡群第97次調査区から９世紀後半の男性人骨が、また古町遺跡第5次調査区では10世紀初頭に属する男性人骨が多くの副葬品（土師器など）を伴って出土したが、ともに保存状態は著しく悪いものであった。

二本木遺跡群からはこれまでに、熊本市教育委員会が調査をおこなった第８次調査区、第13次調査区、第14次調査区、第26次調査区、第27次調査区、第35次調査区の１区と２区、第32次調査区R地点、第40次調査区から中世人骨が、第28次調査区では中世以降の人骨が出土している。熊本県教育委員会の調査では、春日地区、合同庁舎区から中世人骨が出土している。

また、熊本市内では、二本木遺跡群の他に上高橋遺跡、南新宮遺跡からも中世人骨が出土している。

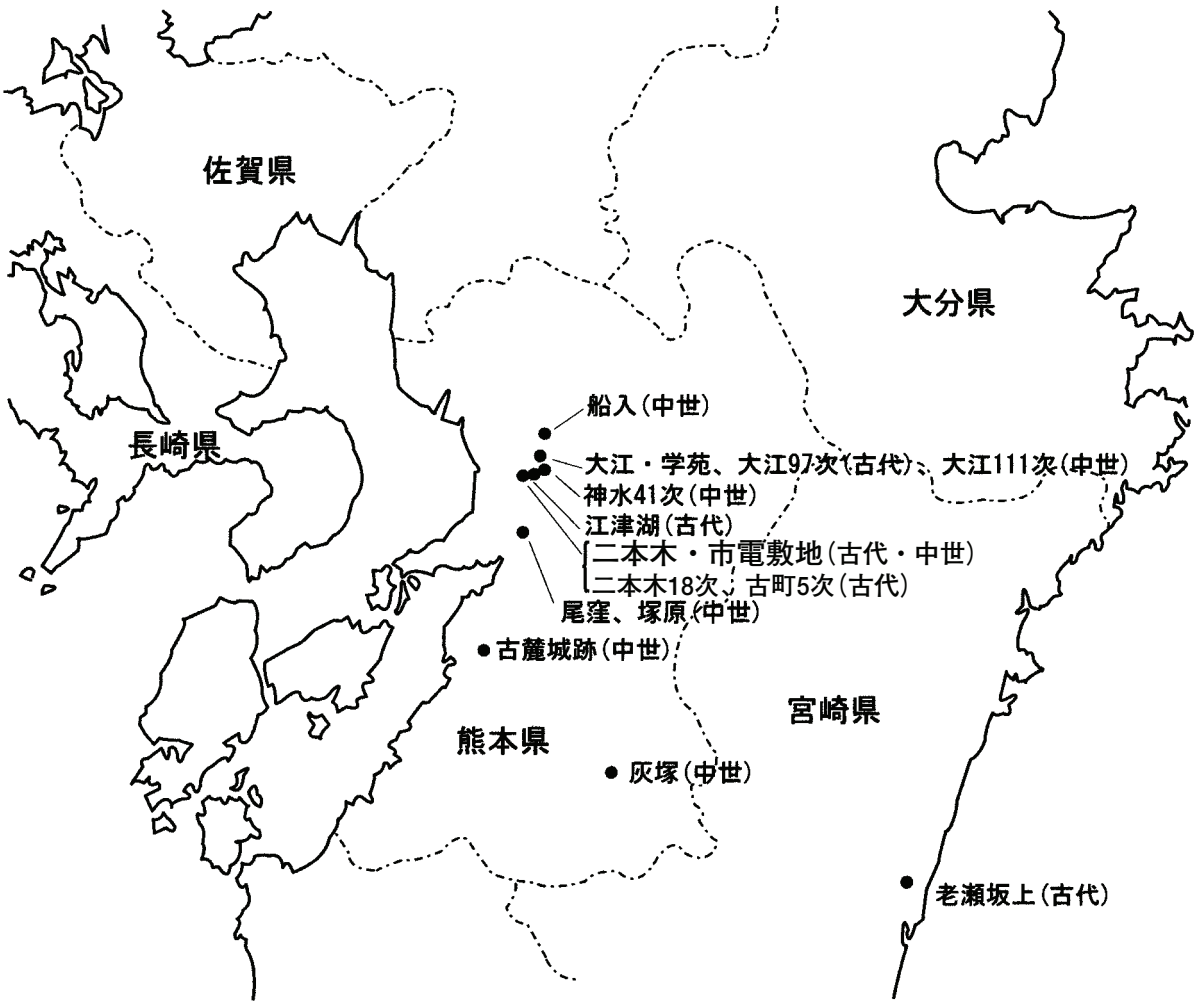
熊本県での中世人骨の報告例としては、荒尾市浄業寺（永井、1965）、宇土市緑川（故松野・他、1970）、城南町尾窪中世墳墓群（内藤、1973）、塚原中世墳墓（内藤、1975）、荒尾市杉谷遺跡（内藤・他、1978）、興善寺町馬場遺跡（松下、1980）、深田村灰塚遺跡（松下、2001）、西合志町船入遺跡（松下、2004）のほかに、植木町の松山遺跡や芦北町の花岡木崎遺跡、花岡古町遺跡からも中世人骨が出土している。

尾窪中世墳墓群から出土した中世人骨は、比較的保存状態も良好で、神奈川県鎌倉市の材木座遺跡でみられた中世人骨の特徴である、長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎がみられることがわかり、長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎は関東地方だけにみられる地域的特徴ではなく、汎日本的な中世人の時代的特徴であることを示した貴重な例である。

今回出土した人骨の保存状態はけっして良好なものではなかったが、現場でできる限りの観察などをおこない、取り上げが可能であった人骨については、人類学的観察や計測をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資　料

＊ Masami　MATSUSHITA、＊＊ Takayuki　MATSUSHITA
The Doigahama Site Anthropological Museum 〔土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム〕



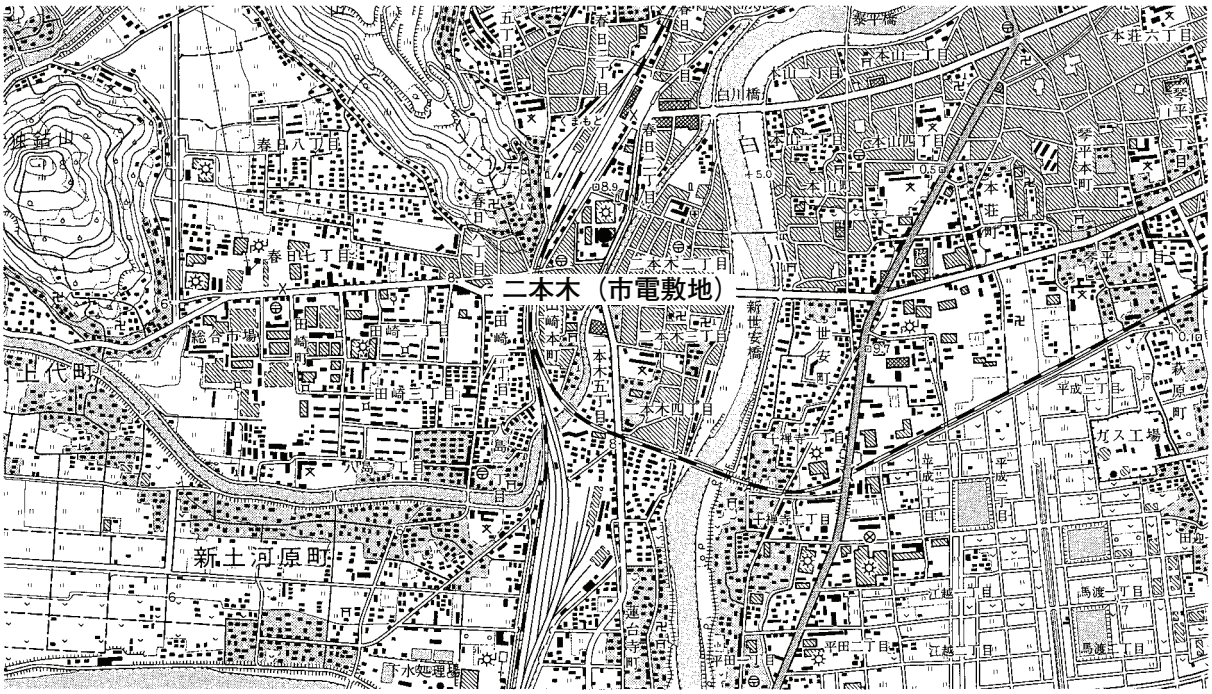


図１　遺跡の位置（1/25,000）

（Fig.1 Location of the Nihongi sites（Shiden-shikichi）, Kumamoto Prefecture）

今回の調査で、２遺構から２体の人骨が出土した。２基とも埋葬遺構は土壙墓と推測されている。

２体の人骨はそれぞれ所属時代が異なり、埋葬姿勢・遺構・遺物の考古学的所見から、１体（S004〔１号人骨〕）は中世の、残りの１体（S005）〔２号人骨〕は10世紀後半の古代末の人骨と推定されている。なお、性別は２体とも成人の男性である。各人骨の性別・年齢などは表１に示すとおりである。年齢区分は表２を参照されたい。

表１　出土人骨一覧（Table 1. List of skeletons）

人骨番号	性別	年齢	備　　考
S004（１号人骨）	男性	壮年	土壙墓、中世、側臥屈葬(右を下)
S005（２号人骨）	男性	不明	土壙墓、10世紀後半、仰臥伸展葬

なお、年齢区分は表２のとおりである。

表２　年齢区分（Table 2. Division of age）

年齢区分		年　　齢
未成人	乳児	１歳未満
	幼児	１歳～５歳（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児	６歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	成年	16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人	壮年	21歳～39歳（40歳未満）
	熟年	40歳～59歳（60歳未満）
	老年	60歳以上

注）成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（1996）を参照されたい。

所　見

Ａ　埋葬姿勢

Ｓ００４人骨（男性・壮年）

埋葬遺構は土壙墓。埋葬姿勢は右を下にした側臥。頭位はほぼ北。肘関節は、右側は約80度に屈曲。左側は上腕骨と前腕の骨が平行状態になるくらいの強屈状態。膝関節は、左側は強屈状態で、右側は約60度に曲げていた。すなわち、肘関節も膝関節も屈曲した姿勢である。ほぼ全身の骨が残存していたが、椎骨、肋骨、寛骨の遺存状態はかなり悪い。頭蓋の保存状態も悪く、脳頭蓋の大部分を欠損している。頭蓋は顔面を伏せた状態であったが、保存状態はよくない。寛骨はほとんど残存していなかったが、左右の大腿骨近位部の距離がかなり近いことや左側大腿骨が右側大腿骨の上に位置していることから、埋葬姿勢を側臥と判断した。

Ｓ００５人骨（男性・年齢不明）

埋葬遺構は土壙墓。埋葬姿勢は伸展。左右の肘関節は伸展状態。頭位はほぼ北であるが、わずかに西にずれている。左右の膝関節も伸展状態。保存状態は悪く、残存していたのは、頭蓋、左側の上腕骨、右側の前腕の骨、左右の大腿骨、左右の脛骨、左側の腓骨である。右側大腿骨はわずかな破片に過ぎないが、左側骨体はある程度形をとどめていた。脛骨は両側ともごく一部が残っていたに過ぎず、右側腓骨は痕跡的に残存していた。頭蓋はやや左側に傾いた状態で検出された。墓坑の南端は後世の撹乱のために切られており、両側の脛骨の遠位部は切断されていたが、残存していたのはこの切断部分のみである。割れた土師皿１枚が、

左側大腿骨の内側から検出された。左側大腿骨を取り上げる際に観察したところ、土師皿は骨の下に位置していたので、これは土壙底に置かれていた可能性が強い。

Ｂ　人骨の形質

各人骨の残存部は図２に示すとおりである。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

Ｓ００４人骨（男性・壮年）

ほぼ全身の骨が残っていたが、見た目以上に骨質はもろく、検出状態を保ったまま人骨を取り上げることはできなかった。

１．頭蓋

前頭骨の一部と上顎骨、下顎骨、右頬骨が残存していた。保存状態は悪く計測はできない。眉上弓の発達は比較的良好である。三主縫合は冠状縫合のみ確認できた。この縫合は内外両板ともに開離している。

２．歯

残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／ ／ ／ 5 4 ③ ② ①	① 2 3 4 5 6 7 ／
❽ ❼ ❻ ❺ 4 ③ 2 1	❶ 2 3 ❹ ❺ ❻ ❼ ／

〔○：歯槽開存 ●歯槽閉鎖 ／：不明〕

（1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯）

咬耗度はBrocaの２度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。風習的抜歯は認められない。

３．四肢骨

(1)上肢骨

上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

①上腕骨

両側の骨体が残存していた。骨体の径は大きいが、三角筋粗面の様態は不明である。

計測値は、中央最大径が22㎜（右）で、中央最小径は18㎜（右）、骨体断面示数は81.82（右）となり、扁平性は認められない。中央周は68㎜（右）、64㎜（左）で、骨体は太い。

②橈骨・尺骨

ともに左側の骨体が残存していたが、保存状態は悪い。尺骨の骨体は太い。

(2)下肢骨

大腿骨、脛骨、腓骨が残存していた。

①大腿骨

両側の骨体が残存していたが、骨体の変形が著しい右側は計測できない。骨体は太く、粗線や骨体両側面の後方への発達も良好である。

計測値は、骨体中央矢状径が30㎜（左）、骨体中央横径は25㎜（左）で、骨体中央断面示数は120.00（左）とかなり大きく、骨体両側面の後方への発達はきわめて良好である。骨体中央周は89㎜（左）で、骨体は太い。

②脛骨

両側の骨体が残存していたが、保存状態が悪く、計測できたのは右側のみである。骨体は太く、ヒラメ筋線がよく発達しており、骨体は扁平である。骨体の断面形は両側ともヘリチカのⅣ型を呈している。

計測値は、中央最大径が31㎜（右）、中央横径は20㎜（右）で、中央断面示数は64.52（右）となり、骨体は中世人としては扁平である。骨体周は81㎜で、骨体は大きい。

③腓骨

左側の骨体が残存していたが、保存状態は悪く、様態は不明である。

４．性別・年齢

大腿骨体が太く、粗線や骨体両側面の後方への発達も良好で、脛骨のヒラメ筋線の発達も良好であることから、性別を男性と推定した。年齢は、冠状縫合が内外両板とも開離しているので、壮年と思われる。

Ｓ００５（男性・年齢不明）

頭蓋と下顎骨の一部、歯、左大腿骨体を取り上げることができたが、いずれも保存状態が悪く計測はできなかった。

１．歯

上下両顎の歯が歯槽に釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／ ／ 6 5 4 3 2 1	1 2 ／ 4 ／ ／ ／ ／
／ ／ ／ 5 4 3 ／ ／	／ ／ 3 4 5 6 ／ ／

〔○：歯槽開存 ●歯槽閉鎖 ／：不明〕

(1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの２度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。

２．性別・年齢

計測はできなかったが、大腿骨体の径が大きいことから、性別を男性と推定した。年齢は不明である。

考　察

計測ができた中世人の上腕骨、大腿骨、脛骨について、周辺の資料と比較してみた。

１．上腕骨

表３は男性上腕骨の比較表である。S004の中央周は68㎜で、小倉城二の丸２号と一致し、表３では小倉城二の丸１号の73㎜、深堀61-1の72㎜に次いで大きい。骨体断面示数は81.82で、表３では最大値となり、本例には骨体の扁平性は認められない。

２．大腿骨

表４は男性大腿骨の比較表である。S004の骨体中央周は89㎜で、小倉城二の丸１号と一致し、塚原20号、小倉城代米御蔵跡２号、立石の90㎜に次いで大きい。骨体断面示数は120.00で、この示数値は表４では最大値となり、骨体には柱状性が認められ、示数値は縄文人に匹敵する。

３．脛骨

表５は男性脛骨の比較表である。S004の骨体周は81㎜で、表５では小倉城二の丸１号と大江111次１号の83㎜に次いで大きく、骨体の径は大きい。中央断面示数は64.52となり、表５では最小値を示し、本脛骨は中世人としては扁平な脛骨である。

要　約

熊本市春日２丁目に所在する二本木遺跡群（市電敷地）の発掘調査が2008年度（平成20年度）におこなわれ、古代に属する人骨と中世人骨が出土した。古代人骨の保存状態は悪かったが、中世人骨は観察や計測ができた。その結果は次のように要約することができる。

１．今回の調査では２体の人骨が検出された。１体は中世人骨（S004）で、もう１体は10世紀後半の古代末の人骨（S005）である。埋葬遺構は両者とも土壙墓で、前者は右を下にした側臥屈葬（肘・膝関節を

屈曲)、後者は仰臥の伸展葬（肘・膝関節を伸展）である。

2．2体とも成人の男性骨である。

3．頭型や顔面の特徴は両時代人骨とも不明である。本中世人は、四肢骨の径が大きく、上腕骨には扁平性はみられないが、脛骨は中世人としては扁平である。また、大腿骨の両側面は後方へよく発達しており、柱状大腿骨を呈している。

4．二本木遺跡群からは中世人骨が出土するが、計測ができるほど保存状態がよいものは少ない。本中世人の四肢骨は太く、筋の発達もよかったことがうかがえる。二本木地区に居住していた中世人の特徴の一端がみえてきた。

謝辞

擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本県教育委員会の皆様に感謝致します。

≪参考文献≫

（古代人骨）

1．松下孝幸、2005：熊本市二本木遺跡群第18次調査出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群Ⅰ－第18次調査区発掘調査報告書－：41-46.

2．松下孝幸、2007：熊本市古町遺跡第5次調査区出土の平安時代人骨。熊本市埋蔵文化財調査年報第9号：148-152.

3．松下孝幸、2007：熊本市大江遺跡群第97次調査区出土の平安時代人骨。大江遺跡群Ⅵ（－第97次・第106次調査区発掘報告書－）：114-117.

4．松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群第28次調査区出土の古代・中世以降人骨。二本木遺跡群Ⅴ〔二本木遺跡群第28次調査区（Ｅ～Ｉ・Ｋ・Ｌ・Ｐ地点）発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告（2)〕：178-183

5．松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群（合同庁舎）出土の古代・中世人骨。(投稿中)

（中世人骨）

6．松下孝幸、1980：熊本県興善寺馬場遺跡出土の中世人骨。興善寺Ⅰ（熊本県文化財調査報告第45集）：145-159.

7．松下孝幸、2001：熊本県深田村灰塚遺跡出土の中世人骨。灰塚遺跡（Ⅱ）(熊本県文化財調査報告第197集)：239-245.

8．松下孝幸、2004：熊本県西合志町船入遺跡出土の中世人骨。船入遺跡　一般国道3号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財の調査（熊本県文化財発掘調査報告第217集)：91-97.

9．松下孝幸、2007：熊本市二本木遺跡群第26次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅲ－二本木遺跡群第26次調査区発掘調査報告書－：126-129.

10．松下孝幸、2007：熊本市二本木遺跡群第13次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅱ－二本木遺跡群第13次調査区発掘調査報告書－：381-393.

11．松下孝幸・他、2009：熊本市大江遺跡群第111次調査区出土の中世人骨。熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集－平成20年度－：117-124

12．故松野茂・他、1970：熊本県宇土市緑川の中世時代早期の遺跡出土の頭骨について。熊本医学会雑誌、44：999-1016.

13．永井昌文、1965：荒尾市浄業寺中世人骨について。浄業寺と小代氏（荒尾市文化財報告第1集)：51-53.

14. 内藤芳篤、1973：人骨。尾窪－熊本県下益城郡城南町尾窪中世墳墓群の調査（熊本県文化財調査報告12）：62-78.

15. 内藤芳篤、1975：塚原中世墳墓・丸尾 5 号墳出土の人骨について。塚原（熊本県文化財調査報告第16集）：317-322.

16. 内藤芳篤・他、1978：杉谷遺跡出土の中世人骨。大園山・杉谷遺跡（熊本県荒尾市文化財調査報告第 3 集）：116-122.

（その他）

17. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fischer Verlag, Stuttugart：429-597.

表 3　上腕骨計測値（男性、右、㎜）（Table 3. Comparison of measurements snd indices of male right humeri）

		二本木(市電敷地) 中世人 熊本県 熊本市	大江111次 中世人 熊本県 熊本市 (松下・他)	深　堀 中世人 長崎県 長崎市 (松下・他)	立　石 中世人 大分県 (内藤)		小倉城二の丸 中世人 福岡県 北九州市 (松下)		小倉城代米御蔵跡 中　世　人 福　岡　県 北　九　州　市 (松　下)			由比ヶ浜南 中世人 神奈川県 (松下)	
		S004	1 号	61-1	n	M	1号	2号	1号	2号	K-4	n	M
5.	中央最大経	22	21	25	1	21	25	24	19(左)	20	19(左)	41	22.22
6.	中央最小径	18	15	17	1	15	18	17	14(左)	15	15(左)	41	17.10
7.	骨体最小周	64	−	67	1	58	66	61	53(左)	56	56(左)	39	62.15
7(a).	中央周	68	62	72		−	73	68	57(左)	60	58(左)	42	66.00
6/5	骨体断面示数	81.82	71.43	68.00	1	71.43	72.00	70.83	73.68(左)	75.00	78.95(左)	41	77.04

表 4　大腿骨計測値（男性、右、㎜）（Table 4. Comparison of measurements and indices of male right femora）

		二本木(市電敷地) 中世人 熊本県 熊本市	塚　原 中世人 熊本県 城南町 (内藤)			小倉城代米御蔵跡 中世人 福岡県 北九州市 (松下)				小倉城二の丸 中世人 福岡県 北九州市 (松下)		立　石 中世人 大分県 (内藤)		由比ヶ浜南 中世人 神奈川県 鎌倉市 (松下)	
		S004	1号	20号	45号	1号	2号	K-2	K-3	1号	2号	n	M	n	M
6.	骨体中央矢状径	30(左)	25.5	27	27	25	30	26	26(左)	30	28	1	29	81	27.32
7.	骨体中央横径	25(左)	25	28	27.5	22	28	27	30(左)	26	26	1	29	81	26.27
8.	骨体中央周	89(左)	80	90	85	73	90	85	87(左)	89	85	1	90	81	84.90
6/7	骨体中央断面示数	120.00(左)	102.00	96.43	98.18	113.67	107.14	96.30	86.67(左)	115.38	107.69	1	100.00	81	104.49

表 5　脛骨（男性、右、㎜）（Table 5. Comparison of measurements and indices of male right tibiae）

		二本木(市電敷地) 中世人 熊本県 熊本市	大江111次 中世人 熊本県 熊本市 (松下・他)	塚　原 中世人 熊本県 城南町 (内藤)	立　石 中世人 大分県 宇佐市 (内藤)		小倉城代米御蔵跡 中世人 福岡県 北九州市 (松下)		小倉城二の丸 中世人 福岡県 北九州市 (松下)		由比ヶ浜南 中世人 神奈川県 鎌倉市 (松下)	
		S004	1 号	1号	n	M	2号	Y-1	1号	2号	n	M
8.	中央最大径	31	30	25	1	30(左)	30	29	31(左)	28(左)	73	29.26
9.	中央横径	20	23	20	1	22(左)	20	21	21(左)	19(左)	73	21.05
10.	骨体周	81	83	75		−	80	77	83(左)	75(左)	73	79.63
9/8	中央断面示数	64.52	76.67	80.00	1	75.33(左)	66.67	72.41	67.74(左)	67.86(左)	73	72.12

表6　下顎骨（㎜、度）（Mandibula）

		市電敷地 S004 男性
65	下顎関節突起幅	−
65(1).	下顎筋突起幅	−
66	下顎角幅	−
67	前下顎幅	48
68	下顎長	−
68(1).	下顎長	−
69	オトガイ高	30
69(1).	下顎体高(右)	29
	(左)	−
69(2).	下顎体高(右)	−
	(左)	−
70	枝高(右)	−
	(左)	−
70(1).	前枝高(右)	−
	(左)	−
70(2).	最小枝高(右)	−
	(左)	−
70(3).	下顎切痕高(右)	−
	(左)	−
71(1).	下顎切痕幅(右)	−
	(左)	−
71	枝幅(右)	−
	(左)	−
71a.	最小枝幅(右)	−
	(左)	−
79	下顎枝角(右)	−
	(左)	−
66/65	下顎幅示数	−
68/65	幅長示数	−
68(1)/65	幅長示数(右)	−
69(2)/69	下顎高示数(右)	−
	(左)	−
71/70	下顎枝示数(右)	−
	(左)	−
71a/70(2)	下顎枝示数(右)	−
	(左)	−
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)	−
	(左)	−

表7　上腕骨（㎜）（Humerus）

		市電敷地 S004 男性 (右)
1.	上腕骨最大長	−
2.	上腕骨全長	−
3.	上端幅	−
3(1).	横上径	−
4.	下端幅	−
5.	中央最大径	22
6.	中央最小径	18
7.	骨体最小周	64
7(a).	中央周	68
8.	頭周	−
9.	頭最大横径	−
10.	頭最大矢状径	−
11.	滑車幅	−
12.	小頭幅	−
12(a).	滑車幅および小頭幅	−
13.	滑車深	−
14.	肘頭窩幅	−
15.	肘頭窩深	−
6/5	骨体断面示数	81.82
7/1	長厚示数	−

表8　橈骨（㎜）（Radius）

		市電敷地 S004 男性 (左)
1.	最大長	−
1b.	平行長	−
2.	機能長	−
3.	最小周	−
4.	骨体横径	16
4a.	骨体中央横径	15
4(1).	小頭横径	−
4(2).	頚横径	−
5.	骨体矢状径	12
5a.	骨体中央矢状径	12
5(1).	小頭矢状径	−
5(2).	頚矢状径	−
5(3).	小頭周	−
5(4).	頚周	−
5(5).	骨体中央周	43
5(6).	骨下端幅	−
3/2	長厚示数	−
5/4	骨体断面示数	75.00
5a/4a	中央断面示数	80.00

表9　尺骨（㎜）（Ulna）

		市電敷地 S004 男性 (左)
1.	最大長	−
2.	機能長	−
2(1).	肘頭尺骨頭長	−
3.	最小周	−
6.	肘頭幅	−
6(1).	上幅	−
7.	肘頭深	−
8.	肘頭高	−
11.	尺骨矢状径	15
12.	尺骨横径	15
S	中央最小径	13
L	中央最大径	16
C	中央周	45
3/2	長厚示数	−
11/12	骨体断面示数	100.00
S/L	中央断面示数	81.25

表10　大腿骨（㎜）（Femur）

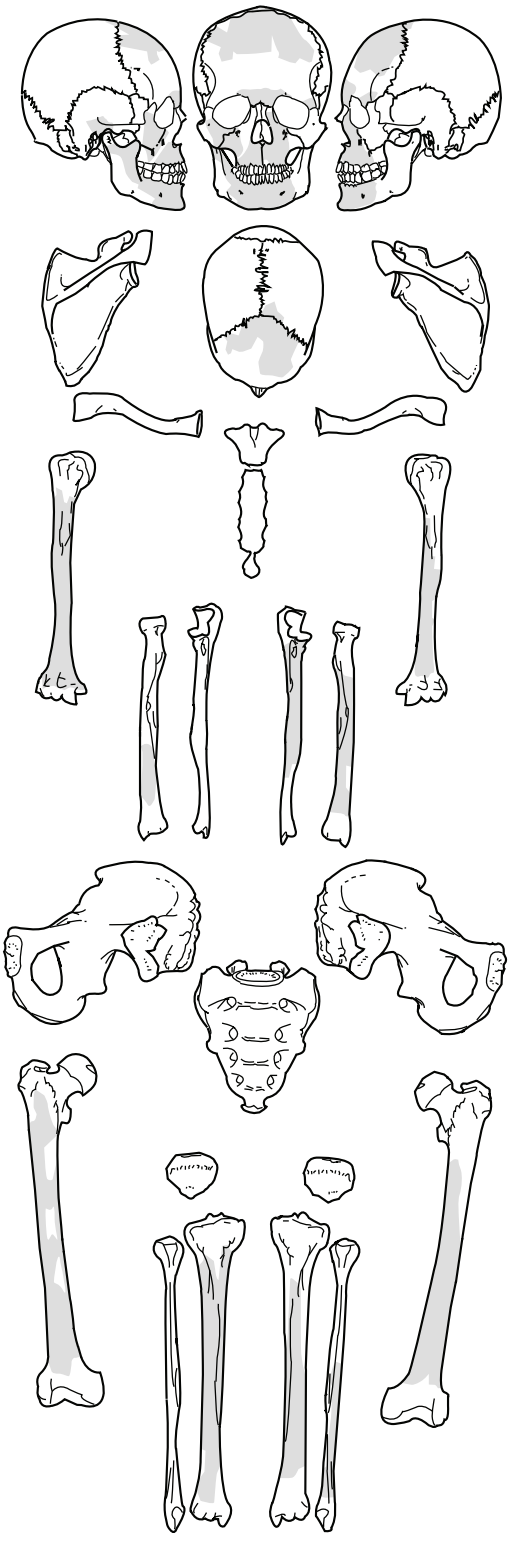
		市電敷地 S004 男性 （右）
1.	最大長（右）	−
2.	自然位全長（右）	−
3.	最大転子長（右）	−
4.	自然位転子長（右）	−
6.	骨体中央矢状径（右）	30
7.	骨体中央横径（右）	25
8.	骨体中央周（右）	89
9.	骨体上横径（右）	−
10.	骨体上矢状径（右）	−
15.	頚垂直径（右）	−
16.	頚矢状径（右）	−
17.	頚周（右）	−
18.	頭垂直径（右）	−
19.	頭横径（右）	−
20.	頭周（右）	−
21.	上顆幅（右）	−
8/2	長厚示数（右）	−
6/7	骨体中央断面示数（右）	120.00
10/9	上骨体断面示数（右）	−

表11　脛骨（㎜）（Tibia）

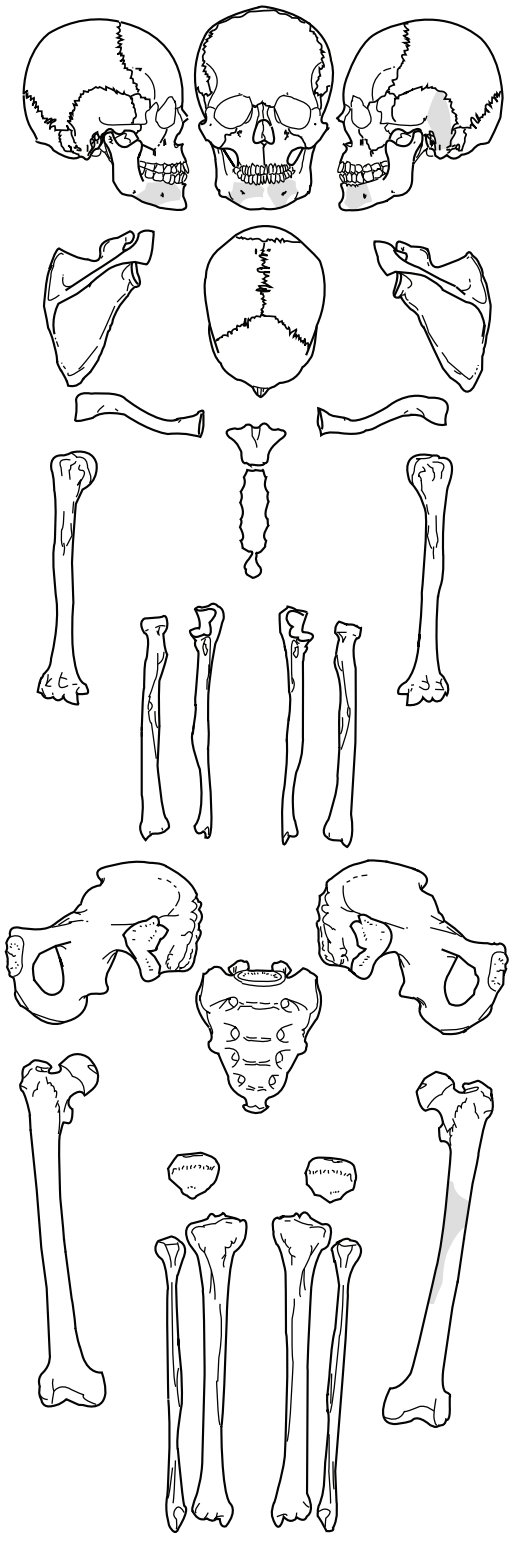
		市電敷地 S004 男性 （右）
1.	脛骨全長	−
1a.	脛骨最大長	−
1b.	脛骨長	−
2.	顆距間距離	−
3.	最大上端幅	−
3a.	上内関節面幅	−
3b.	上外関節面幅	−
4a.	上内関節面深	−
4b.	上外関節面深	−
6.	最大下端幅	−
7.	下端矢状径	−
8.	中央最大径	31
8a.	栄養孔位最大径	−
9.	中央横径	20
9a.	栄養孔位横径	−
10.	骨体周	81
10a.	栄養孔位周	−
10b.	最小周	−
9/8.	中央断面示数	64.52
9a/8a	栄養孔位断面示数	−
10b/1	長厚示数	−

表12　形態小変異（Non-metoric crania variants）

		市電敷地 S004 男性	
		右	左
1.	Medial palatine canal（内側口蓋管）	／	／
2.	Pterygospinous foramen（翼棘孔）	／	／
3.	Hypoglossal canal bridging（舌下神経管二分）	／	／
4.	Clinoid bridging（床状突起間骨橋）	／	／
5.	Condylar canal absent（顆間欠如）	／	／
6.	Tympanic dehiscence,Foramen of Huschke（＞1㎜）（フシュケ孔、鼓室骨裂孔）	／	／
7.	Jugular foramen bridging	／	／
8.	Precondylar tubercle	／	／
9.	Supra-orbital foramen（incl.frontal foramen）（眼窩上孔）	−	−
10.	Accesory infraorbital foramen（副眼窩下孔）	／	／
11.	Zygo-facial foramen absent	−	／
12.	Aural exostosis（外耳道骨腫）	／	／
13.	Metopism（前頭縫合）	−	
14.	Os incae（インカ骨）	／	
15.	Ossicle at the lambda（ラムダ小骨）	／	
16.	Parietal notch bone（頭頂切痕骨）	／	／
17.	Transverse zygomatic suture（＞5㎜）	／	／
18.	Asterionic ossicle	／	／
19.	Occipitomastoid ossicle	／	／
20.	Epipteric ossicle	／	／
21.	Frontotemporal articulation	／	／
22.	Biasterionic suture（＞10㎜）	／	／
23.	Mylohyoid bridging（顎舌骨筋神経溝骨橋）	／	／
24.	Accessory mental foramen（副オトガイ孔）	−	−
25.	Mandibular torus（下顎隆起）	−	−
26.	滑車上孔（上腕骨）	／	／



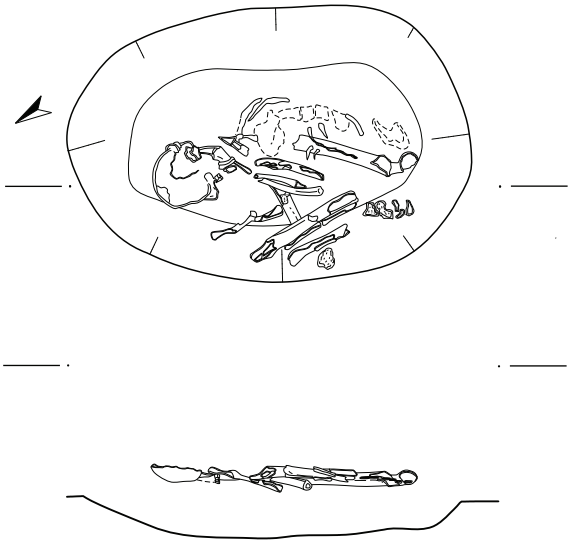
二本木遺跡群市電敷地S004（男性・壮年）



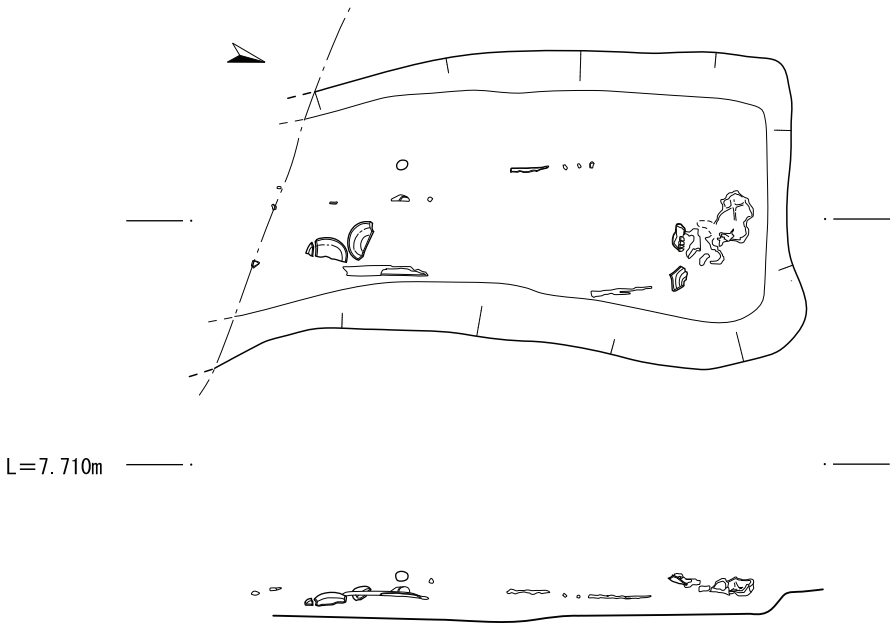
二本木遺跡群市電敷地S005（男性・年齢不明）

図 2　人骨の残存図（アミかけ部分）
（Fig.2 Regions of preservasion of the skeleton. Shaded areas are preserved.）

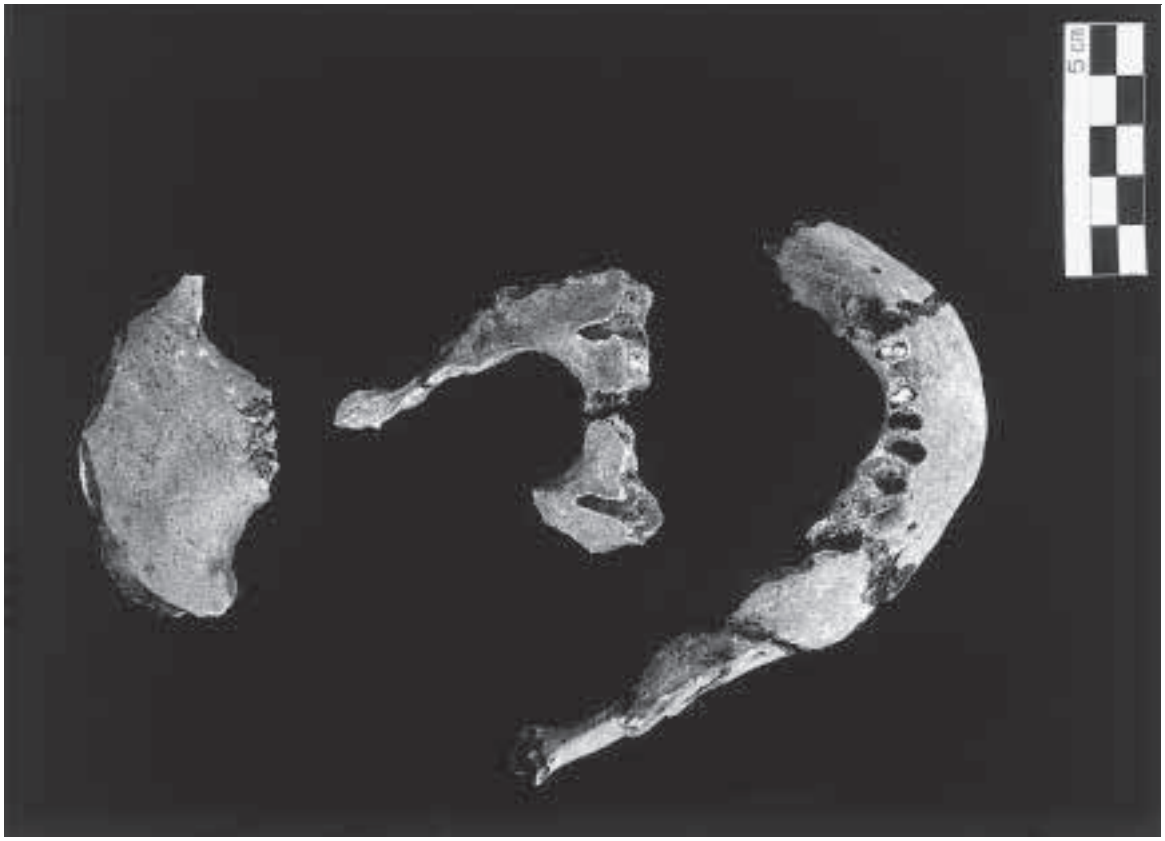
二本木(市電敷地)
S004(1号人骨)実測図



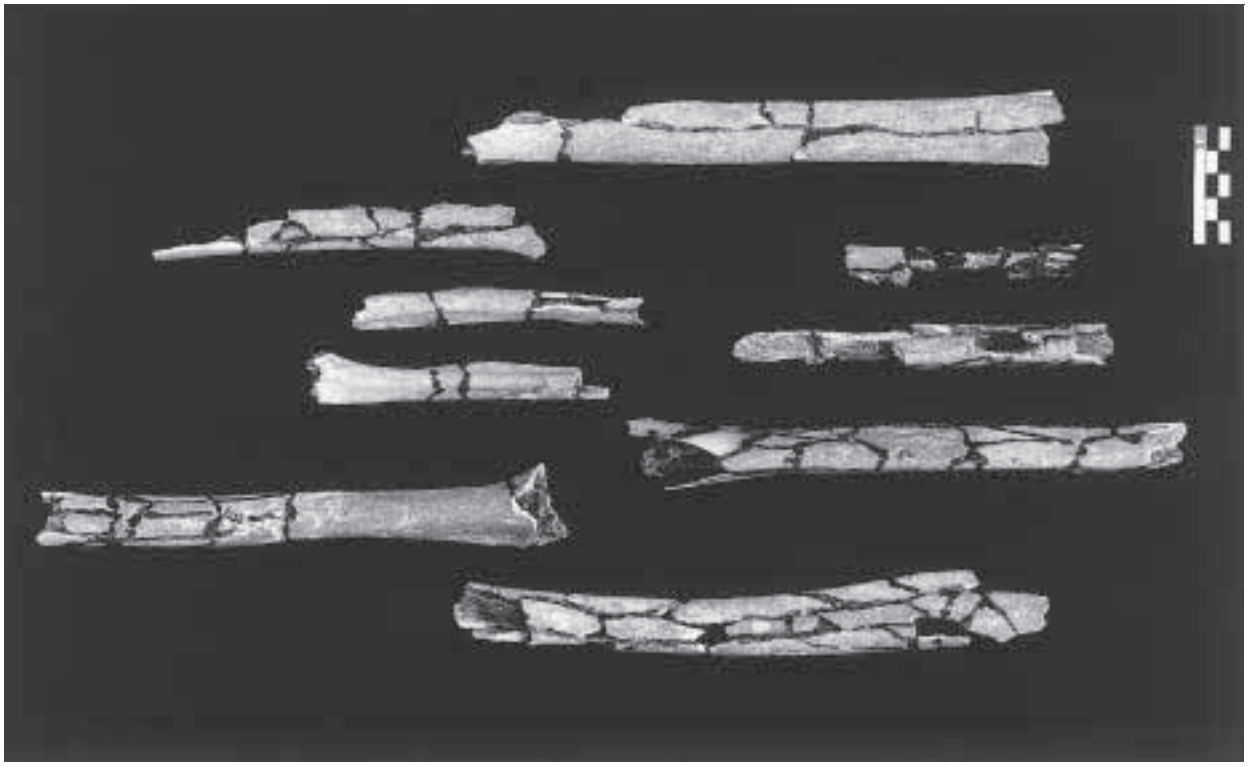
二本木(市電敷地)
S005(2号人骨)実測図



S＝1/20　0　50cm



頭蓋（The Skull）



四肢骨（The limb bones）
二本木遺跡群（市電敷地）S004人骨（男性・壮年）
（The Nihongi S004, young adult male）

熊本市二本木遺跡群（さつま荘跡）出土の古代・中世人骨

松下孝幸*・松下真実**

【キーワード】：熊本県、古代人骨、中世人骨、土壙墓、男性、高身長

はじめに

熊本駅周辺整備事業に伴って、熊本市春日２丁目に所在する二本木遺跡群（さつま荘跡）の発掘調査が、2008年度（平成20年度）におこなわれ、古代と中世に属する人骨が出土した。

熊本県では二本木遺跡群から古代と中世に属する古人骨の出土例が熊本駅周辺整備事業に伴う発掘調査で増加している。2003年（平成15年）に熊本市教育委員会が調査をおこなった二本木遺跡の第18次調査区から古代に属する人骨が１体出土した（松下、2005）。この人骨は溝から出土した四肢骨の骨片にすぎなかった。2006年（平成18年）におこなわれた第28次調査においても古代末の人骨が２体出土したが、これは大腿骨片と歯のみであった。熊本県教育委員会が2005年度と06年度に実施した二本木遺跡群（合同庁舎）の調査でも12世紀初頭の人骨が１体出土しており、08年度の市電敷地における発掘調査では10世紀後半の人骨が出土した。その他に、2005年度には、大江遺跡群第97次調査区から９世紀後半の男性人骨が、また古町遺跡第５次調査区では10世紀初頭に属する男性人骨が多くの副葬品（土師器など）を伴って出土したが、ともに保存状態は著しく悪いものであった。

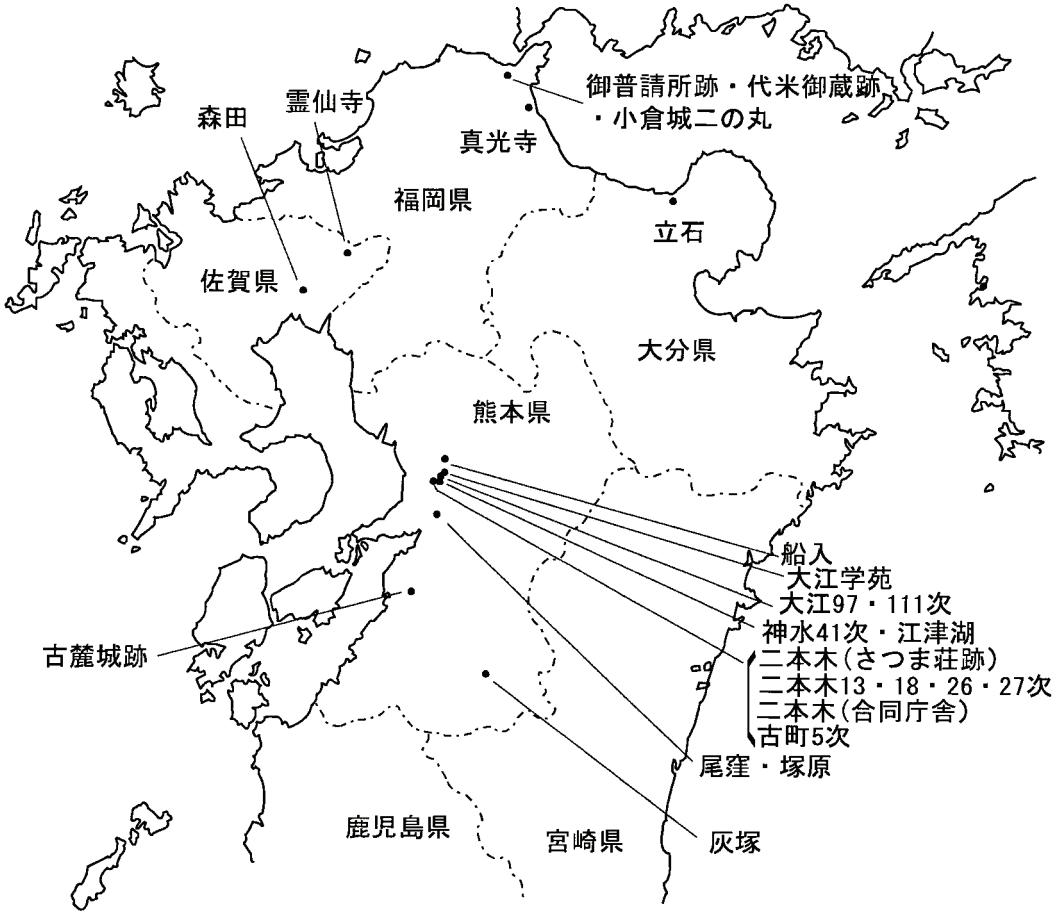
二本木遺跡群からはこれまでに、熊本市教育委員会が調査をおこなった第８次調査区、第13次調査区（松下、2007d）、第14次調査区、第26次調査区（松下、2007c）、第27次調査区（松下、2007e）、第35次調査区の１区と２区、第32次調査区R地点、第40次調査区から中世人骨が、第28次調査区では中世以降の人骨が出土している。熊本県教育委員会の調査では、春日地区、合同庁舎区、市電敷地から中世人骨が出土している。

また、熊本市内では、二本木遺跡群の他に神水（くわみず）遺跡（松下・他、2008）、上高橋遺跡、南新宮遺跡からも中世人骨が出土している。

そのほかに熊本県内での中世人骨の報告例としては、荒尾市浄業寺（永井、1965）、宇土市緑川（故松野・他、1970）、城南町尾窪中世墳墓群（内藤、1973）、塚原中世墳墓（内藤、1975）、荒尾市杉谷遺跡（内藤・他、1978）、興善寺町馬場遺跡（松下、1980）、深田村灰塚遺跡（松下、2001）、西合志町船入遺跡（松下、2004）があるが、植木町の松山遺跡や芦北町の花岡木崎遺跡、花岡古町遺跡からも中世人骨が出土している。

尾窪中世墳墓群から出土した中世人骨は、比較的保存状態も良好で、神奈川県鎌倉市の材木座遺跡でみられた中世人骨の特徴である、長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎がみられることがわかり、長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎は関東地方だけにみられる地域的特徴ではなく、汎日本的な中世人の時代的特徴であることを示した貴重な例である。

＊ Takayuki　MATSUSHITA、＊＊ Masami　MATSUSHITA
The Doigahama Site Anthropological Museum 〔土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム〕



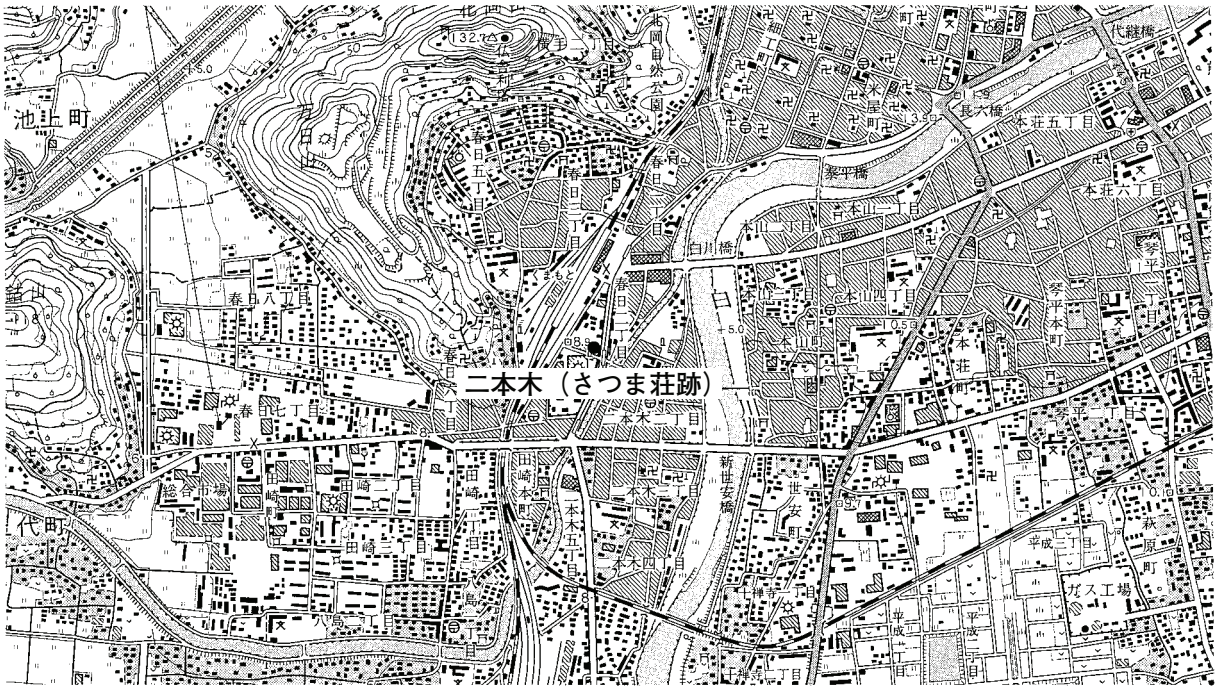


図１　遺跡の位置

(Fig.1 Location of the Nihongi sites(Satsumaso-ato), Kumamoto City, Kumamoto Prefecture)

今回出土した中世人骨の保存状態はかなり悪く、計測や観察はほとんどできなかったが、古代人骨の保存状態は中世人骨よりも良好で、大腿骨と脛骨は計測もできた。計測が可能な古代人骨はきわめて珍しく、また興味ある所見が得られたので、その結果を報告しておきたい。

資　料

今回の調査では2体の人骨（さつま荘跡1号人骨、2号人骨）が出土した。埋葬遺構は、S003（1号人骨）は土壙墓、S005（2号人骨）は土壙墓か木棺墓と考えられている。

本人骨は表1に示すとおり、2体とも男性骨である。年齢区分については表2を参照されたい。なお、本人骨は考古学的所見から、1号人骨は中世に、2号人骨は10世紀代の古代に属する人骨と推測されている。

表1　出土人骨一覧（Table 1. List of skeletons）

人骨番号	性別	年齢	所属時代	備　　考
S003（1号人骨）	男性	熟年	中世	土壙墓、中世、仰臥
S005（2号人骨）	男性	熟年	10世紀	土壙墓か木棺墓、仰臥、身長164.97㎝

計測方法は、Martin-Saller（1957）によったが、脛骨の横径はオリビエの方法で計測した。なお、人骨の整理・復元・計測値の計算などは、磯部美恵子、松下玲子、中野江里子が担当した。

表2　年齢区分（Table 2. Division of age）

年齢区分		年　　齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児	6歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	成年	16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人	壮年	21歳～39歳（40歳未満）
	熟年	40歳～59歳（60歳未満）
	老年	60歳以上

注）成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（1996）を参照されたい。

所　見

Ｓ００３（1号人骨）（男性・熟年）

埋葬遺構は土壙墓で、埋葬姿勢は仰臥である。頭位は北東。残存していたのは頭蓋、左側上腕骨、左側鎖骨、左側肩甲骨、左側肋骨である。右側の上肢骨の残存を現場で確認することができなかった。本人骨は胸部に発掘調査のために設置された矢板が打ち込まれており、胸部から下の部分の残存状況は不明である。左側前腕の骨を確認することができなかったので、左側の肘関節の様態は不明である。また、右側の肘関節と膝関節の様態も不明である。頭蓋は仰臥状態、左側の肋骨や肩甲骨も仰臥状態であったので、本被葬者は仰臥で埋葬されていたものと思われる。人骨の残存状態はきわめて悪く、人骨の特徴を把握することがきわめて困難な状況であった。

冠状縫合の右側半分の観察ができたが、内外両板とも癒合閉鎖していた。下顎骨の径は大きく、歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／／／／／／／１	／／／／／／／／
／７／５／／／／	／／／４５／７／

〔／：不明　番号は歯種〕

〔１:中切歯、２：側切歯、３：犬歯、４：第一小臼歯、５：第二小臼歯、６：第一大臼歯、７：第二大臼歯、８：第三大臼歯〕

咬耗度はBrocaの１度（咬耗がエナメル質のみ）である。なお、歯の咬合形式は不明である。

左側鎖骨の観察ができたが、径はそれほど大きいものでない。左側上腕骨はかなり保存状態が悪く、大きさや三角筋粗面などの様態は不明である。

下顎骨の径が大きいことから、性別を男性と推定した。観察できた冠状縫合の右側半が内外両板とも癒合閉鎖していることから、年齢は熟年と思われる。

Ｓ００５（２号人骨）（男性・熟年）

Ⅰ　埋葬姿勢

埋葬遺構は土壙墓か木棺墓と推測されている。埋葬姿勢は仰臥。頭位は北東。残存していたのは頭蓋、左側の鎖骨の一部、左右の上腕骨、右側の前腕の骨、左右の寛骨、左右の大腿骨、右側の脛骨と腓骨および痕跡的に右側の肋骨である。右側の肘関節は約140度曲げていたが、左側の様態は不明。右側の膝関節は約130度曲げられていたが、左側の様態は不明。頭蓋は右側を下にした状態で右側に倒れていた。

本例は、からだ全体が右側へやや傾いていた。あたかも右を下にした側臥状態にしようとでもしたかのように右側に捻転していた。もし、木棺があったとすれば木棺の床板が右側へ傾斜していたことになる。副葬品として、土師器が４点（うち黒色土器１点）と鉄製品２点が残っていた。鉄製品の１点は鎌かもしれない。時代は10世紀後半と推測されている。

Ⅱ　人骨の形質

１．頭蓋

頭蓋は眉上弓の隆起がかなり強く、額は後方へ傾斜している。また、観察したところ、頭型は長頭型に傾いていた。縫合は頭蓋の保存状態が悪いので、詳細には観察できないが、冠状縫合と矢状縫合では外板が癒合している可能性が強い。顔面頭蓋の保存状態は著しく悪く、その特徴は不明である。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／／／／／／２／	／／／／／／／／
／／／５４３／／	／／／／／／／／

〔／：不明　番号は歯種〕

〔１:中切歯、２：側切歯、３：犬歯、４：第一小臼歯、５：第二小臼歯、６：第一大臼歯、７：第二大臼歯、８：第三大臼歯〕

咬耗度はBrocaの２度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。なお、歯の咬合形式は不明である。

２．四肢骨

(1)上肢骨

計測はできないが、観察によれば、尺骨と橈骨の径はやや大きい。

(2)下肢骨

①大腿骨

両側が残存していたが、右側の方が残りがよい。長さは長く、粗線の発達は良好で、骨体は大きい。骨体上部の様態は不明である。

計測値は、骨体中央矢状径が34㎜（右）、35㎜（左）、横径は27㎜（右）、24㎜（左）で、骨体中央断面示数は125.93（右）、145.83（左）となり、粗線や骨体両側面の後方への発達はきわめて良好で、骨体両側面は

後方へ突出しており、その程度は縄文早・前期人並みである。骨体中央周は98㎜（右）、97㎜（左）で、骨体は太い。

現場で、右側大腿骨最大長が計測できた。推定長は445㎜で、長さは長い。

②脛骨

右側のみが残存していた。長さは不明であるが、骨体の径は大きく、扁平である。ヒラメ筋線の発達はやや良好である。骨体の断面形はヘリチカのＶ型を呈している。

計測値は、中央最大径が32㎜（右）、中央横径は21㎜（右）で、中央断面示数は65.63（右）となり、骨体は古代人（平安時代人）としては扁平である。骨体周は84㎜（右）で、骨体は大きい。

３．推定身長値

大腿骨最大長から、Pearsonおよび藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ164.97㎝（Pearson、右）、164.82㎝（藤井、右）となり、高身長である。

４．性別・年齢

眉上弓の隆起がかなり強く、額も後方へ傾斜していることと四肢骨の径が大きいことから、性別を男性と推定した。年齢は、縫合の詳細な観察はできないが、冠状縫合と矢状縫合では外板が癒合している可能性が強いことから熟年とみておきたい。

考　察

古代に属する人骨で、計測ができたものはかなり少なく、二本木遺跡群（合同庁舎）と山口県萩市にある見島ジーコンボ古墳群出土人骨があるぐらいである。従って、本例をこの２遺跡出土人骨と比較してみることにした。

１．大腿骨

表３は男性大腿骨の計測値の比較表である。骨体中央周で骨体の太さを比較してみると、本例は98㎜もあり、合同庁舎の87㎜、ジーコンボ72号墳１号人骨と115号墳Ａ人骨の83㎜よりも大きく、表３では最大値を示しており、骨体がかなり太いことがわかる。骨体断面示数は本例が125.93もあり、表３では最大値である。しかも125.93という値は縄文早・前期人の示数値に匹敵するほど大きい値であるが、左側は145.83にもなる。このように本例の大腿骨は骨体が大きく、強い柱状性が認められる、屈強な大腿骨である。

２．脛骨

表４は男性脛骨の計測値比較表である。本例の骨体周は84㎜で、合同庁舎の87㎜よりは小さい。中央断面示数は65.63で、合同庁舎の71.88よりも小さく、平安時代の人骨としては骨体がやや扁平である。すなわち、脛骨は大腿骨が太かった割には、それほど大きいものではないが、骨体はやや扁平である。

要　約

熊本市春日２丁目に所在する二本木遺跡群（さつま荘跡）の発掘調査が、2008年度（平成20年度）におこなわれ、古代と中世に属する人骨が出土した。中世人骨の保存状態は著しく悪かったが、古代に属する人骨はこの時期の人骨としては保存良好で、四肢骨の計測などが可能であった。人類学的観察や計測をおこない、以下の所見を得た。

１．今回の発掘調査で出土した人骨は古代（10世紀後半）と中世に属する人骨がそれぞれ１体ずつ、合計２体で、２体とも男性骨である。

２．埋葬姿勢は両者とも仰臥であった。

３．中世人骨の保存状態は著しく悪く、頭型、顔面の形態、四肢骨の特徴を明らかにすることができなかっ

た。

４．古代人（平安時代人）の頭蓋も保存状態が悪く、顔面の特徴は明らかにできなかったが、頭型は長頭型に傾いていた。大腿骨は長く、骨体も太く、著しい柱状性が認められた。また、脛骨は平安時代人としては扁平な脛骨であった。

５．古代人（平安時代人）の推定身長値は164.97㎝で、この時期としては高身長である。

６．土師器４点と鉄製品２点を副葬されていた被葬者は、人骨から屈強でたくましい男性像が浮かび上がった。平安時代人の身体的特徴については保存良好な例数が少なく、まだ全体像を明らかにすることができない。本被葬者は下肢骨の特徴から下肢の筋をかなり酷使していたようである。副葬品からみてある程度社会的地位が高い男性とみられるが、副葬品の質は合同庁舎出土の被葬者よりは貧弱である。副葬品にみられる差と人骨形質の差が相関するのか、興味ある課題である。今後の例数の増加を期待したい。

謝辞

擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本県教育委員会の皆様に感謝致します。

参考文献

≪古代人骨≫

１．松下孝幸・他、1983：山口県萩市見島ジ－コンボ古墳群出土の平安時代人骨。見島ジ－コンボ古墳群（山口県埋蔵文化財調査報告73）：32-36.

２．松下孝幸、1985：山口県見島ジ－コンボ古墳群出土の人骨－山口大学埋蔵文化財資料館所蔵の資料－。山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ：83-90.

３．松下孝幸、2005：熊本市二本木遺跡群第18次調査出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群Ⅰ－第18次調査区発掘調査報告書－：41-46.

４．松下孝幸、2007a：熊本市古町遺跡第５次調査区出土の平安時代人骨。熊本市埋蔵文化財調査年報第９号：148-152.

５．松下孝幸、2007b：熊本市大江遺跡群第97次調査区出土の平安時代人骨。大江遺跡群Ⅵ（－第97次・第106次調査区発掘報告書－）：114-117.

６．松下孝幸・他、2008：熊本市二本木遺跡群第28次調査区出土の古代・中世以降人骨。二本木遺跡群Ⅴ〔二本木遺跡群第28次調査区（Ｅ～Ｉ・Ｋ・Ｌ・Ｐ地点）発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告（2)〕：178-183

７．松下孝幸・他、熊本市二本木遺跡群（合同庁舎）出土の古代・中世人骨。（投稿中）

≪中世人骨≫

８．松下孝幸、1980：熊本県興善寺馬場遺跡出土の中世人骨。興善寺Ⅰ（熊本県文化財調査報告第45集）：145-159.

９．松下孝幸、2001：熊本県深田村灰塚遺跡出土の中世人骨。灰塚遺跡（Ⅱ）（熊本県文化財調査報告第197集）：239-245.

10．松下孝幸、2004：熊本県西合志町船入遺跡出土の中世人骨。船入遺跡　一般国道３号熊本北バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財の調査（熊本県文化財発掘調査報告第217集）：91-97.

11．松下孝幸、2007c：熊本市二本木遺跡群第26次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅲ－二本木遺跡群第26次調査区発掘調査報告書－：126-129.

12．松下孝幸、2007d：熊本市二本木遺跡群第13次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅱ－二本木遺跡群

第13次調査区発掘調査報告書－：381-393.
13. 松下孝幸、2007e：熊本市二本木遺跡群第27次調査区出土の中世人骨。二本木遺跡群Ⅳ（二本木遺跡群第27次調査区発掘調査報告書）：79-84.
14. 松下孝幸・他、2008：熊本市神水遺跡群第41次調査区出土の中世人骨（歯）。神水遺跡Ⅹ（第41次調査区発掘調査報告書）（都市計画道路船場・神水線建設に伴う埋蔵文化財調査報告９）：103-105.
15. 松下孝幸・他、2009：熊本市大江遺跡群第111次調査区出土の中世人骨。熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集－平成20年度－：117-124
16. 松下真実・他、熊本市二本木遺跡群（市電敷地）出土の古代・中世人骨。（投稿中）
17. 故松野茂・他、1970：熊本県宇土市緑川の中世時代早期の遺跡出土の頭骨について。熊本医学会雑誌、44：999-1016.
18. 永井昌文、1965：荒尾市浄業寺中世人骨について。浄業寺と小代氏（荒尾市文化財報告第１集）：51-53.
19. 内藤芳篤、1973：人骨。尾窪－熊本県下益城郡城南町尾窪中世墳墓群の調査（熊本県文化財調査報告12）：62-78.
20. 内藤芳篤、1975：塚原中世墳墓・丸尾５号墳出土の人骨について。塚原（熊本県文化財調査報告第16集）：317-322.
21. 内藤芳篤・他、1978：杉谷遺跡出土の中世人骨。大園山・杉谷遺跡（熊本県荒尾市文化財調査報告第３集）：116-122.
（その他）
22. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fischer Verlag, Stuttugart：429-597.

表 3　大腿骨計測値（男性、右、mm）（Table 3. Comparison of measurements and indices of male right femora）

		二本木（さつま荘跡） 古代人 熊本県 熊本市	二本木(合同庁舎跡) 古代人 熊本県 熊本市 （松下・他）	ジーコンボ 古代人 山口県 萩市 （松下・他）		ジーコンボ 古代人 山口県 萩市 （松下）
		S005	S040	16号墳	72号墳1	155号墳A
6.	骨体中央矢状径	34	28　（左）	−	26（左）	28
7.	骨体中央横径	27	27　（左）	−	27（左）	25
8.	骨体中央周	98	87　（左）	−	83（左）	83
9.	骨体上横径	−	31　（左）	31	29	28
10.	骨体上矢状径	−	24　（左）	24	21	24
6/7	骨体中央断面示数	125.93	103.70（左）	−	96.30（左）	112.00
10/9	上骨体断面示数	−	77.42（左）	77.42	72.41	85.71

表 4　脛骨（男性、右、mm）（Table 4. Comparison of measurements and indices of male right tibiae）

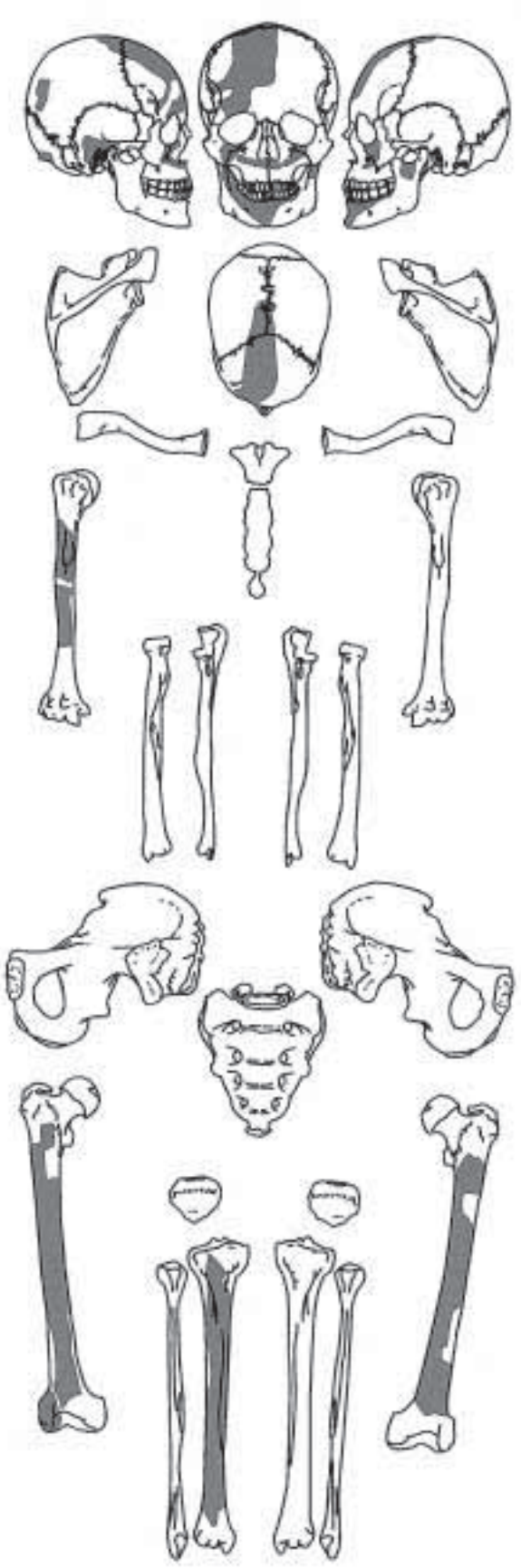
		二本木（さつま荘跡） 古代人 熊本県 熊本市	二本木（合同庁舎跡） 古代人 熊本県 熊本市 （松下・他）
		S005	S040
8.	中央最大径	32	32　（左）
8a.	栄養孔位最大径	37	36　（左）
9.	中央横径	21	23　（左）
9a.	栄養孔位横径	22	23　（左）
10.	骨体周	84	87　（左）
10a.	栄養孔位周	92	94　（左）
10b.	最小周	−	81　（左）
9/8	中央断面示数	65.63	71.88（左）
9a/8a	栄養孔位断面示数	59.46	63.89（左）

表 5　大腿骨（㎜）（Femur）

		二本木（さつま荘跡） S005 男性
1.	最大長（右）	−
	（左）	−
2.	自然位全長（右）	−
	（左）	−
3.	最大転子長（右）	−
	（左）	−
4.	自然位転子長（右）	−
	（左）	−
6.	骨体中央矢状径（右）	34
	（左）	35
7.	骨体中央横径（右）	27
	（左）	24
8.	骨体中央周（右）	98
	（左）	97
9.	骨体上横径（右）	−
	（左）	−
10.	骨体上矢状径（右）	−
	（左）	−
15.	頚垂直径（右）	−
	（左）	−
16.	頚矢状径（右）	−
	（左）	−
17.	頚周（右）	−
	（左）	−
18.	頭垂直径（右）	−
	（左）	−
19.	頭横径（右）	−
	（左）	−
20.	頭周（右）	−
	（左）	−
21.	上顆幅（右）	−
	（左）	−
8/2	長厚示数（右）	−
	（左）	−
6/7	骨体中央断面示数（右）	125.93
	（左）	145.83
10/9	上骨体断面示数（右）	−
	（左）	−

表 6　脛骨（㎜）（Tibia）

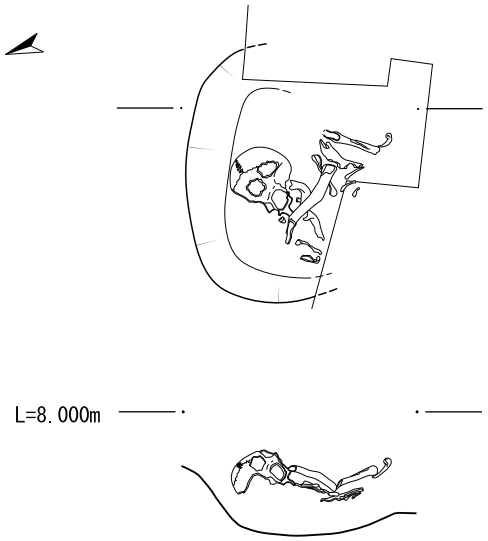
		二本木（さつま荘跡） S005 男性
1.	脛骨全長	−
1a.	脛骨最大長	−
1b.	脛骨長	−
2.	顆距間距離	−
3.	最大上端幅	−
3a.	上内関節面幅	−
3b.	上外関節面幅	−
4a.	上内関節面深	−
4b.	上外関節面深	−
6.	最大下端幅	−
7.	下端矢状径	−
8.	中央最大径	32
8a.	栄養孔位最大径	37
9.	中央横径	21
9a.	栄養孔位横径	22
10.	骨体周	84
10a.	栄養孔位周	92
10b.	最小周	−
9/8.	中央断面示数	65.63
9a/8a	栄養孔位断面示数	59.46
10b/1	長厚示数	−



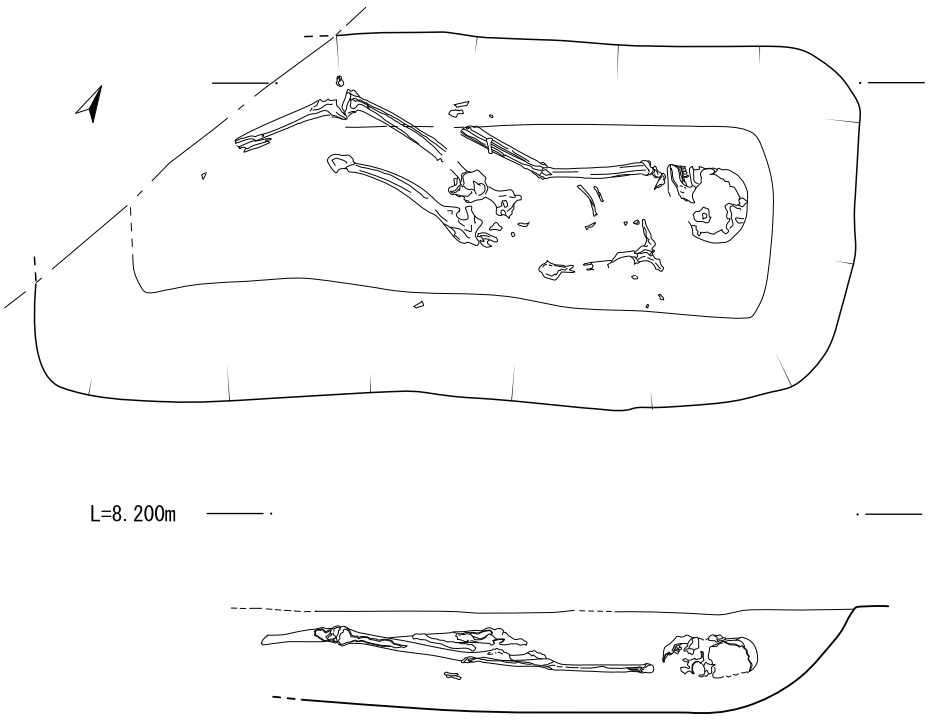
二本木遺跡群さつま荘跡S005（男性）

図 2　人骨の残存図（アミかけ部分）
（Fig.2 Regions of preservasion of the skeleton. Shaded areas are preserved.）

二本木(さつま荘跡)
S003(1号人骨)実測図

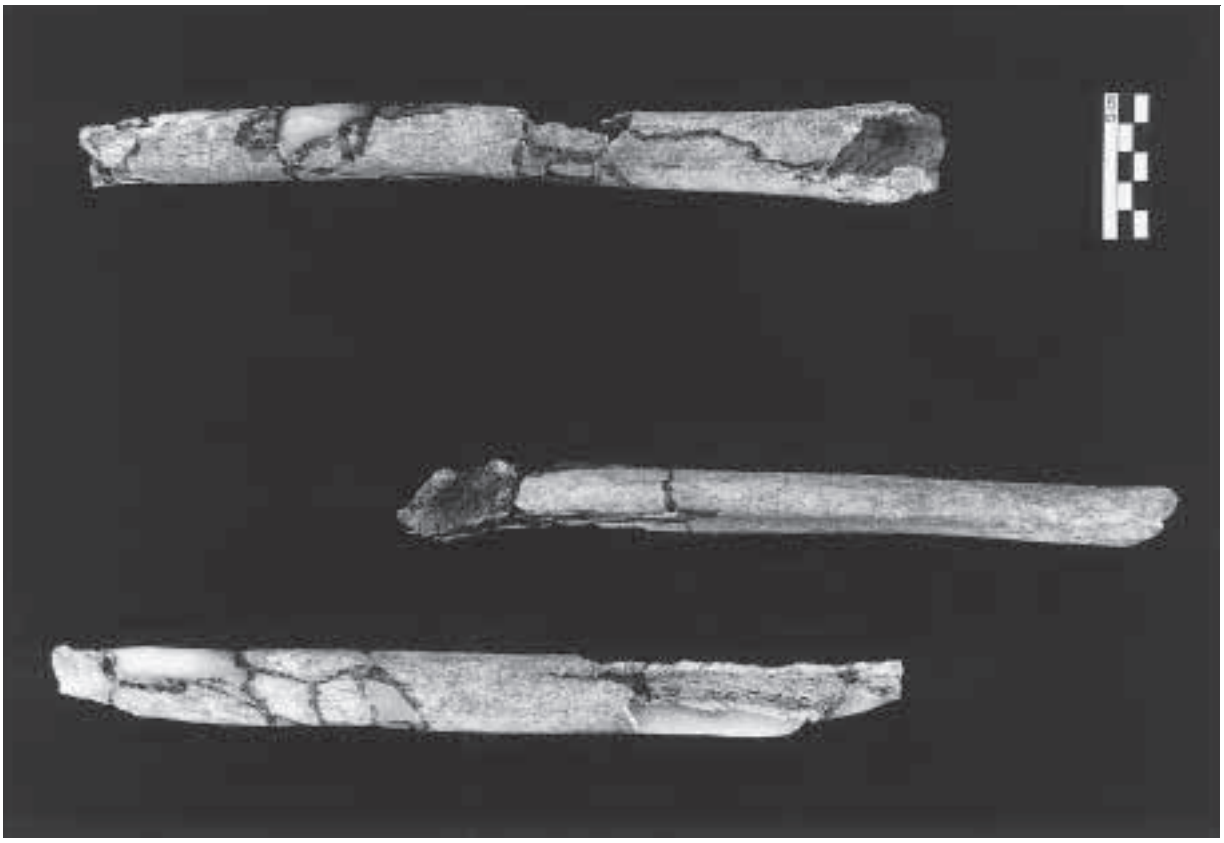


二本木(さつま荘跡)
S005(2号人骨) 実測図



※供献遺物は第３章第３節に記載。

S=1/20 0 50cm



下肢骨（Bones of the lower limb）
二本木遺跡群（さつま荘跡）S005人骨（男性）
（The Nihongi skeleton S005, male）

大腿骨（The femur）
二本木遺跡群（さつま荘跡）S005人骨（男性）
（The Nihongi skeleton S005, male）

熊本県熊本市二本木遺跡出土の動物遺存体

沖田　絵麻

はじめに

二本木遺跡群は熊本市のJR熊本駅周辺に所在し、島原湾に注ぐ白川の右岸に形成された標高８～10mの扇状地に立地する。これまでに複数回にわたり熊本県教育委員会や熊本市教育委員会による発掘調査がおこなわれ、弥生時代後期から中世にかけての人々の営みが明らかにされつつある。特に、８・９世紀には官衛関連の遺構とされる建物群をはじめとする多量の遺構・遺物が確認され、当時の政治的中心地であったことが明らかになり、注目されている遺跡群である。

本稿は、2008年に熊本県教育委員会により発掘調査された、市電敷地・さつま荘跡地・西部ガス跡地から出土した動物遺存体について分析した結果を報告する。

１．資料と分析方法

資料は、2008年度の発掘調査において市電敷地・さつま荘跡地・西部ガス跡地の３地区から出土した動物遺存体33点である。現場段階で周囲の土壌ごと切り取られており、紙袋などに入れた状態であった。

資料は脆弱で、乾燥が進み土塊ごとひび割れているものもあるため、可能な資料にのみ水洗をおこない、その他は乾燥状態でのクリーニングをおこなった。なお、土塊からの取出しが不可能な資料は、露出した表面のみクリーニングをおこない、土塊状のままで分析せざるを得なかった。

クリーニングした資料は、破片の接合とパラロイドB72による補強処理をおこなったのち、現生骨格標本との比較により種と部位を同定する。同時に、受熱痕跡や切創（解体などに伴う刃物傷、カットマーク）などの破損痕跡を観察する。骨の計測はノギスを用い、計測方法はDrieasch（1976）や茂原（1986）に従う。ウマ・ウシの破片からの骨全長推定と体高推定は、西中川ほか（1991）の計算式を用いる。イヌの体高推定は山内（1958）および西中川ほか（2008）の計算式を用いる。

なお、分析中に３点の資料が人骨であることがわかったため、これらは分析から除外した。

２．出土した動物遺存体の概要

同定した動物の種名を表１に、資料同定結果一覧を表２に示す。全て哺乳綱であり、３目５科５種が確認された。出土した遺存体は全て褐色系の色調で、火を受けた痕跡は認められなかった。

以下、各地区ごとに出土内容を概説する。なお、出土地区不明資料およびラベルなし資料は、最後に一括した。また、取り上げ番号は表記方法が様々であったため、遺存体に添付されたラベル記載内容をそのまま記入し、文中では〔獣骨１〕のようにカッコ表記する。

(1)市電敷地

市電敷地南上の３層から、ウシの左上顎第３後臼歯〔№４〕が１点出土したのみである。顎骨を伴わない遊離歯である。歯根部が欠損するため、年齢査定はおこなえなかった。

(2)さつま荘地区

さつま荘跡地からは、多数の骨が出土する。地区名の表記がない資料もあるため、遺構などで一括して述べたい。

G31の２層中からは、ウシの左上腕骨〔獣骨６〕と、ウマあるいはウシの右寛骨〔獣骨12〕が出土した。ウシ上腕骨は骨幹部～遠位端部で

表１　出土した動物

脊椎動物門　VERTEBRATA
哺乳綱　Mammalia
ネコ目　Carnivora
イヌ科　Canidae
イヌ　*Canis familiaris*
ウマ目　Perissodactyla
ウマ科　Equidae
ウマ　*Equus caballus*
ウシ目　Artiodactyla
イノシシ科　Suidae
イノシシ類　*Sus* sp. indet.
シカ科　Cervidae
ニホンジカ　*Cervus nippon*
ウシ科　Bovidae
ウシ　*Bos taurus*

ある。中型獣類の齧り痕が残る。ウマ／ウシの寛骨は、寛骨臼部分の破片である。

G32の２層下～３層上からは、ニホンジカの角と哺乳綱目不明の四肢骨〔共に獣骨11〕が出土した。ニホンジカの角は左側の角座から第１枝より下の角幹の破片であり、自然に落ちた落角である。

S008は１・２・３区にまたがる大溝で、動物遺存体が散在して出土した。遺存体は層ごとに取り上げられている。

２層下～３層上では、ウシの右橈骨〔骨14（獣骨）〕が出土した。近位端～近位部の破片である。

３層上からは、ウシの右脛骨〔骨11（獣骨）〕が出土した。近位端～近位部の破片であり、外側面に切創が見られる。

３層からは、ニホンジカの左下顎骨〔獣骨15〕、ニホンジカ右下顎骨〔獣骨17〕が出土した。このうち、左下顎骨は、第３後臼歯萌出途中の若い個体である。

３層下からは、ウマの左下顎骨〔獣骨19〕が出土した。骨体中央部の破片で、第３前臼歯～第３後臼歯が植立する。舌側面を上に向けた状態で出土している。

４C層からは、ウマの左脛骨〔獣骨21〕、ニホンジカの左肩甲骨・左尺骨、イノシシ類の右下顎骨と遊離歯〔いずれも獣骨22〕が出土した。ウマ脛骨は骨幹部のみであり、ネズミ類などの小型獣類の齧り痕が見られる。骨幹中央部の計測値から推定される体高は130㎝前後である。ニホンジカ遺存体はいずれも破片であり、左尺骨には切創が認められる。イノシシ類の右下顎骨は切歯部～P３近心までの骨体片である。犬歯の形態は雄であり、切歯の萌出状態から生後1.5歳の若い個体であることが確認できた。遊離歯は左の第３後臼歯の歯冠部であり、推定される年齢に差があるため、右下顎骨とは別個体である。

S008からは、この他にも、出土遺構や取り上げ番号の記載がないウシの左中手骨やニホンジカの左下顎骨が出土した。ウシの左中手骨は、接合できない破片が多数あるため、本来は完全な状態で出土した可能性がある。

S002上層からは、ウマあるいはウシの左寛骨〔番号なし〕が出土した。分析時にはすでに大きなひび割れが生じていたため、土塊からの取出しができず、種同定や表面観察はできなかった。

(3)西部ガス地区

S029からは、ウマの左下顎第２切歯〔番号なし〕が１点出土する。

S006の３層からは、ほぼ完全な１個体のイヌと、これとは別個体のイヌの部分骨が２点出土した。１個体分のイヌは、解剖学的位置関係を保って出土した点や、骨に破損や切創が見られない点などから、埋葬されたものと捉えられる。この埋葬イヌは、四肢骨の骨端の骨化が終了した成犬である。骨格の計測値は表３に示す。歯牙の磨耗が弱く、生前柔らかな餌を与えられていたか、比較的若い個体の可能性がある。このイヌは、長谷部（1952）によるイヌの大きさの分類によれば、最も小さい小級に相当する。山内（1958）および西中川ほか（2008）の方法による体高推定の結果は、表４に示す。推定体高には幅があるが、体高40㎝以下の小型犬であることは明らかである。

なお、この埋葬イヌを土塊から掘り出す作業中に、埋葬個体の下から別個体のイヌの大腿骨と脛骨を検出した。いずれも破片である。

(4)出土地不明・ラベルなし資料

ウマの左下顎骨・左橈骨・左脛骨、イノシシ類の右大腿骨、ニホンジカの右下顎骨が出土した。いずれも破片である。このうち、ウマの左脛骨〔ラベルなし№４〕は骨幹遠位部～遠位端で、前面と内側面に切創が見られる。また、計測値から、体高は125～130㎝程度と推定される。

３．まとめと考察

二本木遺跡群の市電敷地・さつま荘跡地・西部ガス跡地から出土した動物遺存体を分析した結果、イヌ・ウマ・ウシ・イノシシ類・ニホンジカが同定された。これらの動物遺存体から読み取れる当時の動物利用について、若干考察してみたい。

イヌは、西部ガス地区S006から、１体の埋葬個体が出土した。日本国内におけるイヌの埋葬址は、縄文時代早期初頭の上黒岩岩陰遺跡の事例が最古である。その後、縄文時代を通じて見られるが、弥生時代に入るとその事例数は減り、中世～近世に再び事例数が増えてくる。しかし、本例のような古代の遺跡からの出土は稀であり、この時代におけるイヌの利用や死後の扱われ方を知る上で貴重な資料といえる。また、埋葬址の発掘例が少ないゆえに研究が進んでいなかった古代のイヌの形質を探るうえでも貴重な資料である。

イヌは本来、家畜として人間と共に移動し、特定の人物あるいは集団に帰属するが、その一方で、特定の飼い主を持たずに野犬化するものもおり、出土骨からの区別は困難である。しかし、本例のように埋葬された個体の場合は、帰属する人物あるいは集団をもつ飼い犬であった可能性が非常に高い。S006の埋葬個体は、前後の脚が接するように体軸を丸めた姿勢をとらせ、丁寧に埋葬された印象を受ける。

この埋葬個体は歯の磨耗が少なく、骨表面に老齢と判断できるような変化は見られないため、成犬ではあるが比較的若い可能性がある。各骨を観察した結果、第13胸椎とそれに関節する第1腰椎の椎体下縁に骨棘が見られ、生前に変形性脊椎症を患っていたことがわかった。変形性脊椎症は、古人骨によく見られる退行性変化であり、加齢と共に骨棘形成の頻度が高くなることや、重労働に従事する人に頻度が高いこと、女性より男性に頻度が高いことが知られており、生前の生活や労働様式について知る資料とされている（小方1981、福島1988）。イヌの場合も古人骨と同様に、肉体労働量や環境の厳しさの指標になると考えられる。しかし、全国的にみても、遺跡出土のイヌ遺存体では変形性脊椎症の症例はあまり知られていない（沖田1999）。類似例が少ない現状では、変形性脊椎症を引き起こした要因を検討できないが、少なくともS006に埋葬されたイヌが生前に過酷な労働に従事していた可能性は指摘できる。

西本豊弘（2008）によれば、古代～中世においてイヌを主に飼育したのは支配者層であり、狩猟用やペットとして飼育していた。S006の埋葬イヌの場合も、身体に負担や衝撃が加わる狩猟などに使われていた可能性がある。

なお、埋葬個体の下部から、別個体のイヌの部分骨が出土した。このことは、同じ地点が以前にもイヌの埋葬場所となっていた可能性を示唆する。当時、飼い犬の埋葬がある程度習慣化されていた可能性がある。

イヌに対して、ウマ・ウシ・イノシシ類・ニホンジカは、各地点・各遺構に共通して、不完全な部分骨が散乱状態で出土する。中には切創が見られるものもあるため、人間により毛皮や肉が利用されたあと、廃棄されたものと捉えられる。獣類の齧り痕が観察されたことからは、土坑などに埋めて廃棄するのではなく、イヌや野生動物などに荒らされるような露出した状態で廃棄されていたことがうかがえる。さつま荘地区のS008のような大溝は、多数の動物骨が出土し、こうした骨が頻繁に廃棄されたようである。このため、本調査地点は、異臭を放つ生ごみの廃棄が許される環境であったと考えられ、公的な施設からは少し距離を隔てていた可能性もある。

ウマやウシは、古代には各地に設置された牧で生産・調教され、主に公的・軍事的な目的に利用されていた。中世においても、ウマやウシは軍事・農耕・運搬などを始めとして様々な役割を担っていた。一方で、古代にはたびたびウマ・ウシの殺生・肉食を禁止する勅旨が出されていることから、裏返せば殺生・肉食がおこなわれていたのだと考えられている（末崎2008）。中世も引き続き肉食はタブーとされたが、これも表向きであり、実際には獣肉食がおこなわれていたことを示す考古学的な証拠が、各地の遺跡で見つかっている。

二本木遺跡群においては、過去の調査でもウマ・ウシの遺存体が出土しており（西中川2005・2007、沖田2009）、ウマやウシに深く関連した施設の存在が伺われる。今回の調査でも、当地にある程度の頭数のウマ・ウシが存在していたことがわかり、死後は皮革や肉を利用したと考えられる。ウマやウシが生前にどのような役割を担っていたかは、遺跡の性格とも深く関係するため、今後の調査による資料の蓄積が望まれる。

おわりに

二本木遺跡群から出土した、古代～中世の動物遺存体を調査した。その結果、①小型犬が飼育されその死後は丁寧に埋葬されていたこと、②周辺においてある程度の数のウマやウシが飼われていたこと、③ウマ・

ウシ・イノシシ類・ニホンジカなどの皮や肉を消費し、その骨は大溝などに廃棄していたこと、等が明らかになった。特に、全国的に事例数の少ない古代のイヌの埋葬址の発見は、当該期のイヌの役割・飼養状況・形質などを研究する上で重要な資料となった。また、ウマやウシの利用状況や役割の解明は、遺跡の位置づけに深く関わる課題である。今後の発掘調査の継続によって各地点の空間利用が明らかになり、こうした動物利用の実態解明が進み、遺跡全体の解釈をおこなう際の材料として活用されることを願う。

謝辞

貴重な資料の分析機会を与えていただいた熊本県教育庁文化課の岡本真也氏、人骨について教示を頂くと共に写真撮影に便宜を図って頂いた土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム館長の松下孝幸氏・小林善也氏に感謝申し上げます。

参考文献

1．阿部　永ほか　2005 『日本の哺乳類（改訂版）』財団法人 自然環境研究センター編，東海大学出版会．
2．小方岳彦　1981 「日本古人骨の疾患と損傷」『人類学講座５　日本人Ⅰ』雄山閣出版：189-227．
3．沖田絵麻　1999 「イヌ遺存体の古病理に関する基礎的研究」『日本文化財科学会　第16回大会研究発表要旨集』 日本文化財科学会：206-207．
4．沖田絵麻　2009 「熊本市二本木遺跡群第34次調査出土の動物遺存体」『二本木遺跡群　二本木遺跡群第34次調査区発掘調査報告書』熊本市教育委員会：145-149．
5．久保和士・松井　章　1999 「家畜その２　ウマ・ウシ」『考古学と自然科学２　考古学と動物学』同成社：169-208．
6．斎藤弘吉　1963 『犬科動物骨格計測法』（私版）
7．茂原信生　1986 『東京大学総合研究資料館所蔵　長谷部言人博士収集犬科動物資料カタログ』東京大学総合資料館，187p.
8．末崎真澄　2008 「ウマと日本人」『人と動物の日本史１　動物の考古学』吉川弘文館：192-214．
9．Driesh，Angela von den（1976）A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeologycal Site. Peabody Museum Bulletin 1, Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University.
10．新美倫子　1991 「愛知県伊川津遺跡出土ニホンイノシシの年齢および死亡時期査定について」『国立歴史民俗博物館研究報告　第29集』：123-143．
11．西中川駿　2005 「熊本市二本木遺跡群（18次調査）出土のウシ、ウマの遺体」『二本木遺跡群Ⅰ　第18次調査区発掘調査報告書』熊本市教育委員会：47-50．
12．西中川駿　2007 「熊本市二本木遺跡群第13次調査区出土の動物遺体」『二本木遺跡群Ⅱ　第13次調査区発掘調査報告書』熊本市教育委員会：394-401．
13．西中川駿ほか　1991 『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』鹿児島大学農学部獣医学科．
14．西中川駿ほか　2008 「イヌの骨計測値から骨長ならびに体高の推定法」『動物考古学』25号：1-10．
15．西本豊弘　2008 「イヌと日本人」『人と動物の日本史１　動物の考古学』吉川弘文館：180-191．
16．長谷部言人　1958 「犬骨」『吉胡貝塚』文化庁：146-150．
17．福島一彦　1988 「西南日本弥生人の骨病変について」『福岡医学雑誌』79(2)：227-248．
18．藤本胖・藤原公策・田島正典編　1984 『家畜病理学各論』朝倉書店．
19．松井　章　1997 「考古学からみた動物利用」『部落開放なら』 8 ：2-31．
20．宮城県教育委員会　1986 『田柄貝塚Ⅲ　骨角牙貝製品・自然遺物編』．
21．山内忠平　1958 「犬における骨長より体高の推定法」『鹿児島大学農学部学術報告書』 7 ：125-131．

表２　二本木遺跡群出土動物遺存体一覧

	地区	遺構	層	取上げ番号	日付	分類		部位	L/R	部分	成長	破損痕跡	計測値*	備考
1	市電南上	不明	3層	No.4 V2-63	20081117	哺乳綱	ウシ	上顎歯 M3	L	歯冠	成		l:27±、b:25±、h:30以上	
2	さつま荘	G31	2層中	獣骨6	20080902	哺乳綱	ウシ	上腕骨	L	骨幹部～遠位端	成	歯痕(中)		
3	さつま荘1区	G31	2層中	獣骨12	20080903	哺乳綱	ウシ／ウマ	寛骨	R	寛骨臼の一部	成	なし		
4	さつま荘	G32	2層下～3層上	獣骨11	20080902	哺乳綱	ニホンジカ	角	L	角坐～角幹	成	なし		落角
5						哺乳綱	目不明(中～大型獣)	不明 四肢骨	?	骨幹部破片		なし		
6	さつま荘	G33	3層上	獣骨１	20080902	哺乳綱	ヒト							人骨分析へ
7	さつま荘	H31	3層上	獣骨10	20080902	哺乳綱	ヒト							人骨分析へ
8	さつま荘	H31	3層上	獣骨9	20080902	哺乳綱	ヒト							人骨分析へ
10	さつま荘2区	S008	2層下～3層上	骨14(獣骨)	20080917	哺乳綱	ウシ	橈骨	R	近位端+近位部	成	なし		
9	さつま荘3区	S008	3層上	骨11(獣骨)	20080917	哺乳綱	ウシ	脛骨	R	近位端+近位部	成	切創(外側面)	Dp:80±	
11	さつま荘1区	S008	3層	獣骨15	－	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	L	骨体～下顎枝	成(若)	切創(舌側面)		M3萌出途中
12	さつま荘3区	S008	－	獣骨16	－	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	L	骨体(P4～M3)	成			M3萌出途中
13	さつま荘3区	S008	3層	獣骨17	－	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	R	骨体(歯槽間～M2)	成			
14	さつま荘3区	S008	－	獣骨18	－	哺乳綱	ウシ	中手骨	L	近位端～近位部内側面、遠位部～遠位端前面	成	なし		骨幹部破片多数(接合できず)、本来は完全形か
15	さつま荘2区	S008	3層下	獣骨19	－	哺乳綱	ウマ	下顎骨	L	骨体中央部(P3～M3)	成	なし		舌側面を上にした出土状況
16	さつま荘3区	S008	4C層	獣骨21	20081017	哺乳綱	ウマ	脛骨	L	骨幹部	成	歯痕(小)	中央横径37±、中央前後径26±	推定体高130㎝前後
17	さつま荘3区	S008	4C	獣骨22	－	哺乳綱	ニホンジカ	肩甲骨	L	骨体片(遠位部前縁～棘)	成	なし		
18						哺乳綱	ニホンジカ	尺骨	L	近位部	成	切創		
19						哺乳綱	イノシシ類	下顎骨	R	骨体片(切歯部～P3近心)	若(1.5歳)	なし		♂、I1萌出途中、I2未萌出.
20						哺乳綱	イノシシ類	下顎骨	L	M3	成	歯冠後半部		新美(1991)のⅤ-2、田柄貝塚(1986)のⅣ-2
21	さつま荘4区	S002(木材根)上層	－	－	－	哺乳綱	ウシ／ウマ	寛骨	L	腸骨、寛骨臼など	成	不明		土塊状のまま、取出し・同定観察不能
22	さつま荘3区	－	－	骨1	200809	哺乳綱	イノシシ類	上腕骨	L	遠位部	成			
23	さつま荘3区	－	－	骨7	－	哺乳綱	ウマ	脛骨	R	遠位部+遠位端	成	歯痕(小～中)、切創(中央後面)	Bd:65.6、Dd:40±	推定骨全長324.71㎜．推定体高126.60㎝の中型馬
24	詳細不明(さつま荘or東横イン)	－	－	－	20081218	哺乳綱	ウシ	中手骨	L	近位端+近位部、前面	成	なし		
25	西部ガス1区中	S029　N30	－	－	20081216	哺乳綱	ウマ	下顎歯　I2	L	歯冠	成			ラベル記「中世の溝内出土12-13世紀」
26	西部ガス2区	S006そば	－	－	20081212	哺乳綱	ウマ	大腿骨	R	近位端+近位部	成	なし		
27	西部ガス2区	S006そば	－	骨　O-16	20081212	哺乳綱	ウシ	中足骨	L	骨幹部	成	切創(近位部後面)		
28	西部ガス2区	S006	3層	獣骨	20081217	哺乳綱	イヌ	全身一括			成	なし	別表	埋葬個体および別個体部分骨
29	ラベルなしNo.1	?	?	?	?	哺乳綱	ウマ	橈骨	L	近位端～骨幹部	成	不明		
30	ラベルなしNo.2	?	?	?	?	哺乳綱	ウマ	下顎骨	L	骨体(M1～下顎枝)		不明		M1,M2,M3あり
31	ラベルなしNo.3	?	?	?	?	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	R	骨体片(P4～M3)	成	なし		M3まで摩滅、M3歯茎線全出
32	ラベルなしNo.4	?	?	?	?	哺乳綱	ウマ	脛骨	L	遠位部～遠位端	成	切創(前面と内側面)	Bd:61.0±、Dd:38.0±、SD:37.70±	推定体高125～130㎝程度か
33						哺乳綱	イノシシ類	大腿骨	R	骨幹部	成	不明		

＊単位は㎜、l：歯冠長、 b：歯冠幅、 h：歯冠高、Dp：近位端前後径、Bd：遠位端幅、Dd：遠位端前後径、SD：骨中央部径

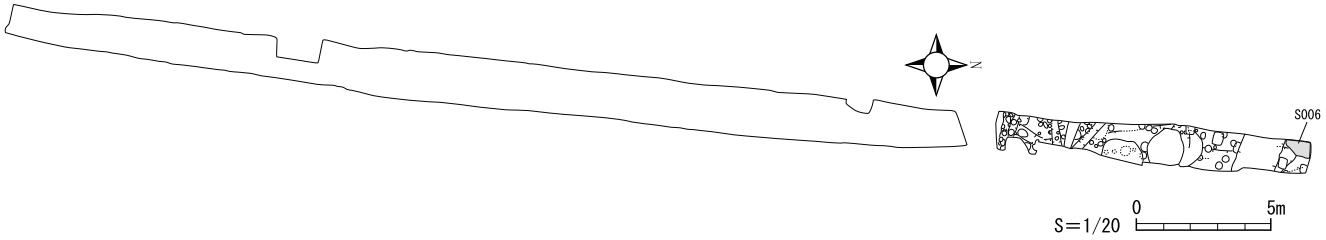


図２　西部ガス２区S006の位置

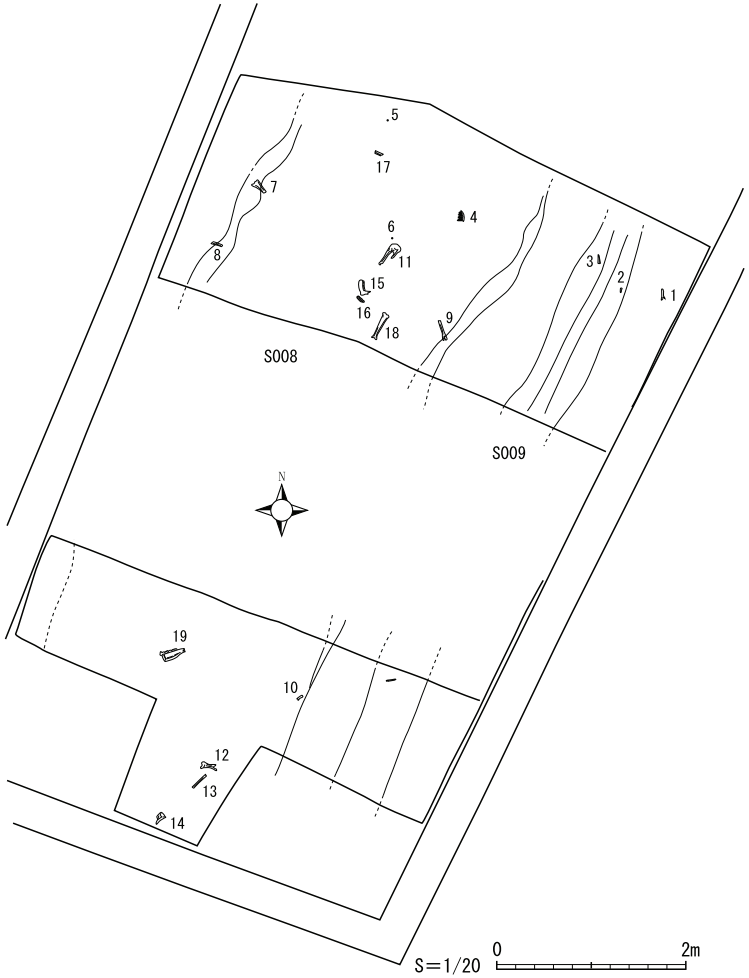


図１　さつま荘地区　動物遺存体出土状況平面図

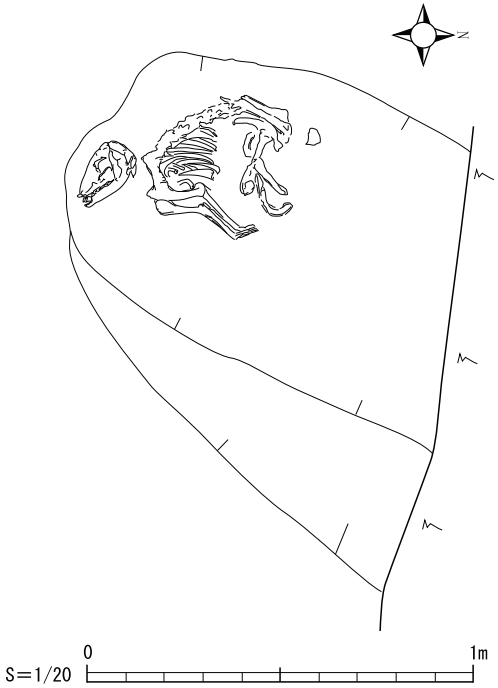


図３　S006イヌ出土状況平面図

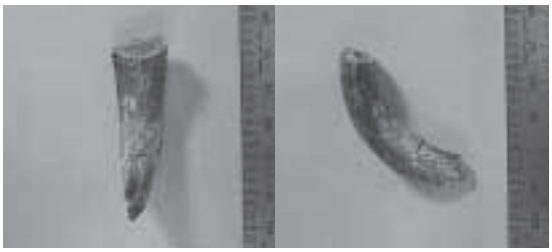
表３　S006出土埋葬イヌの骨格計測値（㎜）

計測項目と計測点		斎藤弘吉(1963)	Driesch(1976)	茂原信生(1986)	二本木遺跡群 '08 西部ガス地区2区　S006　(埋葬個体) ♀か？、成犬 古代
頭蓋骨					
頭蓋最大長	pr(prosthion)-i(inion)	1 最大頭蓋長	1)Total lengt	1 最大頭蓋長 maximum cranial Length	149.70
基底全長	pr-後頭顆最後点	6 基底頭蓋長(4)	2)Condylobasal lemgth	2 基底全長 basal Length	−
頬骨弓幅	zy(zygion)-zy	8 頬弓最大幅	30)Zygomatic breadth	3 頬骨弓幅 zygomatic Breadth	−
脳頭蓋長	n(nasion)-i	9 脳頭蓋長(1)		4 脳頭蓋長 brain case Length	−
ナシオン-バジオン長	n-ba(basion)	12 脳頭蓋長(4)	(6)Neurocraninm length		−
頭蓋幅	eu(euryon)-eu	35 頭蓋幅(1)	29)Greatest neurocranium breadth	5 頭蓋幅 cranial Breadth	−
頭蓋高	br(bregma)-ho(hormion)	152 頭蓋高(1)		6 頭蓋高 cranial Height	−
バシオン-ブレグマ高	ba-br	61 後頭孔顆間切痕より冠状縫合頂点までの距離		7 バジオン-ブレグマ高 basion-bregma Height	−
最小前頭幅	ft(フロントテンポラーレ)-ft		31)Least breadth of skull	8 最小前頭幅 minimum frontal Breadth	−
前頭骨頬骨突起端幅	ect(ectorbitale)-ect	41 両前頭頬突起端間距離	32)Frontal breadth	9 前頭骨頬骨突起端幅 frontal Breadth	−
後頭三角幅	ot(otion)-ot	144 後頭三角幅	23)Greatest mastoid breadth	10 後頭三角幅 mastoid Breadth	−
両耳幅	au(auriculare)-au	36 頭蓋幅(2)	24)Breadth dorsal to the external auditory meatus		−
最小眼窩間幅	ent(entorbitare)-ent	42 両眼窩最小距離	33)Least breadth between the orbits	11 最小眼窩間幅 minimum interorbital Breadth	−
顔長	pr-na	33 顔長(1)	8)Viscerocranium length	12 顔長 facial Length	69.45±
吻長(1)	pr-o.a.(orbitare antelius)	64 吻長(1)	12)"Snout" length	13 吻長 snout Length	63.00±
吻幅	犬歯部歯槽骨外側面間	46 吻幅(1)	36)Breadth at the canine alveoli	14 吻幅 snout Breadth	−
吻高	na-	162 吻高(1)		15 吻高 snout Height	−
鼻骨凹陥深		73 鼻骨凹陥深(18-19)		16 鼻骨凹陥深 Depth of nasal curvature	−
硬口蓋長	pr-sta(staphylion)	86 硬口蓋最大長	13a)Palatal length	17 硬口蓋長 palatal Length	−
硬口蓋幅	歯槽骨外側面間	125 硬口蓋最大幅	34)Greatest palatal breadth	18 硬口蓋最大幅 maximum palatal Breadth	(56.0±)
後基底長	sta-ba	83 後頭孔顆間切痕より硬口蓋まで			−
両眼窩幅	zt(zygomaticotemporale)-zt				−
後頭最大高	i-ba	148 後頭三角最大高	40)Height of the occipital triangle		37.70
大後頭孔幅		149 後頭孔最大幅(59-59)	27)Greatest breadth of the foramen magnum		31.00
大後頭孔高	ba-o		28)Heigth of the foramen magnum		13.45±
後頭顆間幅		92 後頭顆最大幅径(29-29)			−
鼻孔最大幅		56 鼻孔最大幅(11-11)			−
鼻骨長	n-rhi(rhinion)	50 鼻骨最大長	10)Greatest lemgth of the nasals		−
吻長(2)	pr-if(infraorbitale)	65 吻長(2)			−
眼窩橋長	if-o.a.	66 眼窩橋長			−
鼓胞最大幅		139 鼓胞最大幅(53-51)			16.50
鼓胞最大長		136 鼓胞最大長(52-47)	22)Greatest diameter of the auditory bulla		−
両鼓胞間幅		143 両鼓胞間幅(55-55)			7.00
上顎歯牙					L
P2 近遠径					7.30
P2 頬舌径					3.65
P3 近遠径				(a)14	9.80
P3 頬舌径				(a)14	4.45
P4 近遠径(内側長)				(a)15	−
P4 近遠径(外側長)			18)L	(a)16	−
P4 頬舌径			18a)GB	(a)17	−
M1 近遠径			20)L		10.95
M1 頬舌径			20)B	(a)20	13.70
M2 近遠径			21)L	(a)21	−
M2 頬舌径			21)B		8.40
上顎全歯長				(a)23 全歯列長 alveolar Length of the tooth row	−
頬歯長	I3-M2			(a)24 頬歯列長 alveolar Length of the post incisor row	−
臼歯長			15)	(a)26 臼歯列長 alveolar Length of the cheek teeth row	52.30
小臼歯長			17)	(a)25 小臼歯列長 alveolar Length of the premolar row	39.90
大臼歯長			16)	(a)27 大臼歯列長 alveolar Length of the molar row	15.35
下顎骨					L
下顎骨全長(1)	id(infra dentale)-goc(gonion caudale)	1 下顎骨全長(1)	2)Length: the angular process - Infradentale	19 下顎骨全長(1) mandibular Length-1	106.45±
下顎骨全長(3)	id-c.m.(condylion mediale)	2 下顎骨全長(2)		20 下顎骨全長(2) mandibular Length-2	105.40±
下顎骨全長(4)	id-筋突起と関節突起の間の最前点(下顎切痕の最前点)				−
下顎骨全長(5)	id-関節突起と角突起の間の最前点		3)Length from the indentation between the condyle process and the angular process - Infradentale		−

下顎枝高	gov(gonion ventrale)-cr(coronion)	7 下顎枝高(1)	18)Height of the vertical ramus	21 下顎枝高 Height of the mandibular ramus	42.65
下顎枝幅	角突起と関節突起の間の下顎枝後縁最前点から下顎枝前縁までの最短距離	11 下顎枝幅 (やや異なる)		22 下顎枝幅 Breadth of the mandibular ramus	25.00
下顎体高(1)	M2後部	16 下顎体高(2)		23 下顎体高(1) mandibular Height-1	21.10
下顎体高(2)	M1後部		19)Height of the mandiblr behind M1		−
下顎体高(3)	M1中央	17 下顎体高(3)		24 下顎体高(2) mandibular Height-2	19.95
下顎体高(4)	P4-M1間	18 下顎体高(4)		25 下顎体高(3) mandibular Height-3	19.65
下顎体高(5)	P2-P3間	20 下顎体高(6)	20)Height of the mandible between P2 and P3		−
下顎体厚	M1部分	25 下顎体厚(1)	(17)Greatest thickness of the body of jaw(below M1)	26 下顎体厚 mandibular Thickness	9.40
咬筋窩深				27 咬筋窩深 Depth of the masseter fossa	6.00
下顎歯牙					L
P1 近遠径					4.25
P1 頬舌径					3.00
P2 近遠径					6.15
P2 頬舌径					3.75
P3 近遠径					7.65
P3 頬舌径					＊4.40
P4 近遠径					9.40
P4 頬舌径					＊5.45
M1 最大長			13)L		18.50＋
M1 近心部頬舌径			13)B		7.70
M1 遠心部頬舌径					7.25
M2 近遠径			15)L		7.60＋
M2 頬舌径			15)B		6.10
M3 近遠径			16)L		−
M3 頬舌径			16)B		−
下顎全歯長				24	−
頬歯長					−
臼歯長			8)	26	58.15
小臼歯長			11)	25	29.90
大臼歯長			10)	27	29.25
肩甲骨					R
全長		1-2	HS	1 肩甲骨全長 scapula Length	(100.5＋)
上腕骨					L R
全長		1-2	GL	6 上腕骨全長 humerus Length	118.05 118.65
橈骨					L R
全長		1-2	GL	11 橈骨全長 radius Length	113.25 113.45
尺骨					L R
全長		1-2	GL	19 尺骨全長 ulna Length	130.64 −
中手骨					L Ⅰ L Ⅱ L Ⅲ L Ⅳ L Ⅴ
全長		1-2			15.40 41.20 47.10 46.30 39.65
寛骨					L R
寛骨長		1-2	GL	21 寛骨長 pelvis Length	111.45 −
大腿骨					L R
全長		1-2	GL	25 大腿骨全長 femur Length	126.50+ 127.85
脛骨					L R
全長		1-2	GL	29 脛骨全長 tibia Lemgth	123.85 123.45
踵骨					L R
全長		1-2	GL	35 踵骨全長 calcaneus Length	34.15 34.10
距骨					L R
全長		1-2	GL		20.30 20.40
中足骨					R Ⅱ R Ⅲ R Ⅳ R Ⅴ
全長		1-2	GL		43.40 49.90 51.20 45.60

表 4　S006出土埋葬イヌの推定体高（㎝）

	推定方法	
計　測　値	山内(1958)　Ⅲ式	西中川ほか（2008）　2 次回帰式
頭蓋最大長	40.25	35.92
下顎骨全長	37.74	33.86
上腕骨全長(左)	39.25	36.73
橈骨全長　(左)	37.96	37.21
尺骨全長　(左)	37.56	36.16
中手骨Ⅲ　(左)	−	36.00
中手骨Ⅳ　(左)	−	36.06
中手骨Ⅴ　(左)	−	36.44
寛骨長　　(左)	−	35.13
大腿骨長　(右)	39.42	36.75
脛骨長　　(左)	36.96	35.72
中足骨Ⅱ　(右)	−	34.71
中足骨Ⅲ　(右)	−	35.48
中足骨Ⅳ　(右)	−	35.41
頭蓋平均	*39.00*	*34.89*
四肢骨平均	*38.23*	*35.98*
全　平　均	*38.45*	*35.83*

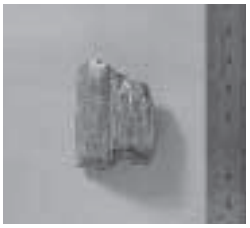


ウマ左下顎第２切歯　左：上面，右：側面
〔西部ガス１区　S029　N30〕

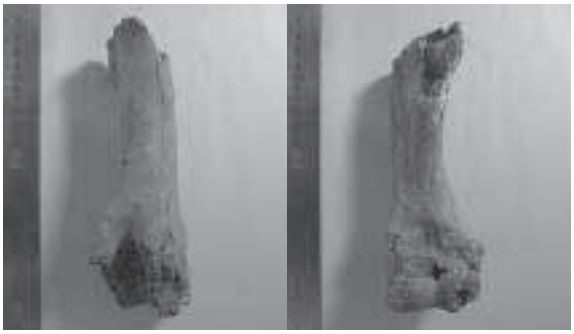
ウマ左下顎骨　頬側面〔ラベルなしNo.２〕

ウマ左脛骨　左：前面，右：後面
〔ラベルなしNo.４〕

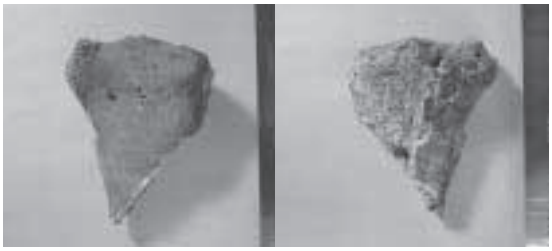
ウマ左脛骨　左：前面，右：後面
〔さつま荘３区　No.７〕



ウシ左上顎第3後臼歯
〔市電南上　No.４〕

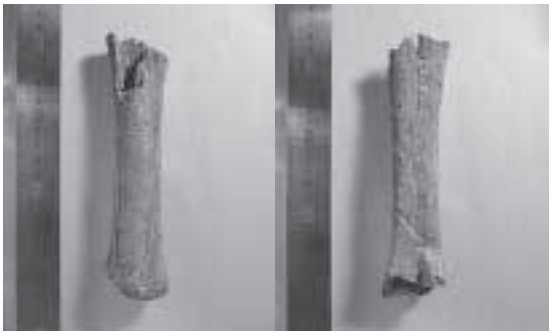


ウシ左上腕骨　左：前面，右：後面
〔さつま荘　G31　No.６〕



ウシ右橈骨　左：前面，右：後面
〔さつま荘２区　S008　No.14〕

ウシ左中手骨　前面
〔出土地不明(さつま荘or東横イン)〕

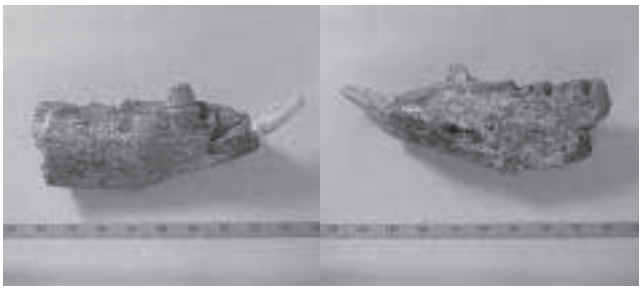


ウシ左中手骨　左：前面，右：後面
〔西部ガス２区　S006そば〕

ウシ右脛骨　左：前面，右：外側面
〔さつま荘３区　S008　No.11〕

写真図版１　二本木遺跡群出土の動物遺存体（１）　ウマ・ウシ

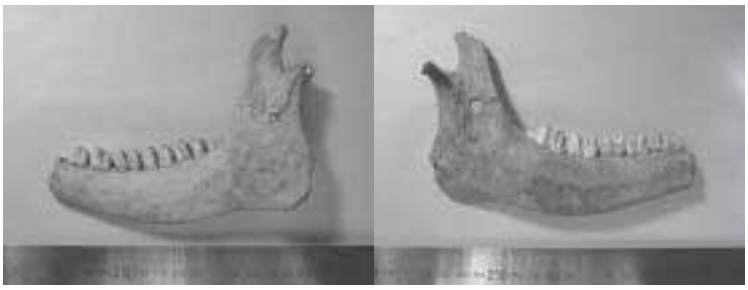
イノシシ類左下顎第 3 後臼歯
〔さつま荘 3 区　S008　№22〕



イノシシ類右下顎骨　左：頬側面，右：舌側面
〔さつま荘 3 区　№22〕

イノシシ類右大腿骨
〔ラベルなし　№ 4 〕

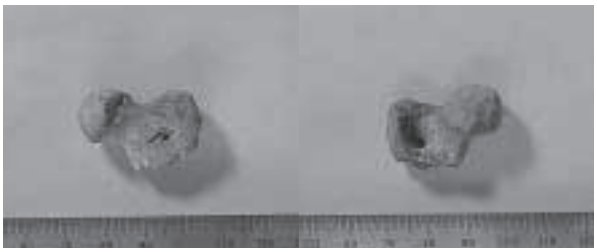
ニホンジカ　左落角
〔さつま荘　G32　№11〕



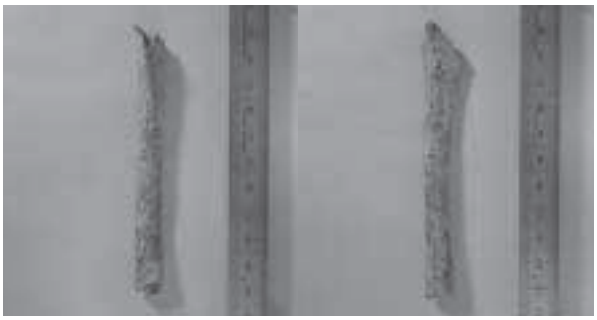
ニホンジカ左下顎骨　左：頬側面，右：舌側面
〔さつま荘 1 区　S008　№15〕

ニホンジカ左下顎骨　左：頬側面，右：舌側面
〔さつま荘 3 区　S008　№16〕

ニホンジカ左尺骨　左：内側面，右：外側面
〔さつま荘 3 区　S008　№22〕

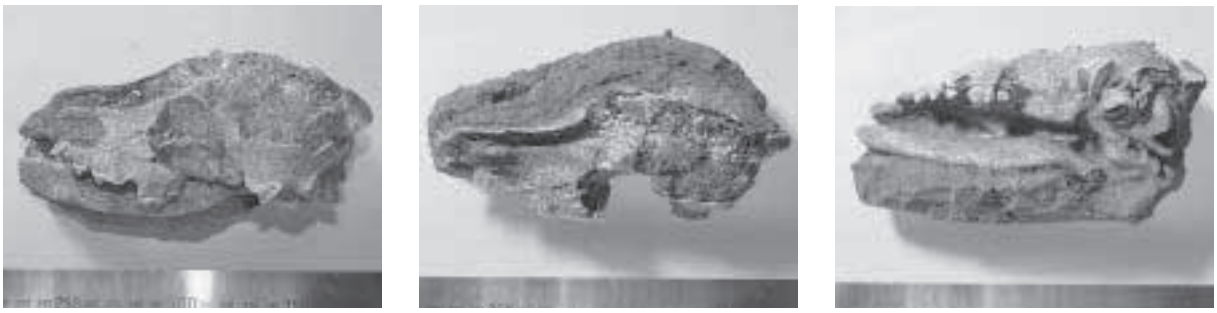


イヌ左大腿骨　近位端部　左：前面，右：後面
〔西部ガス 2 区　S006　埋葬個体とは別個体〕

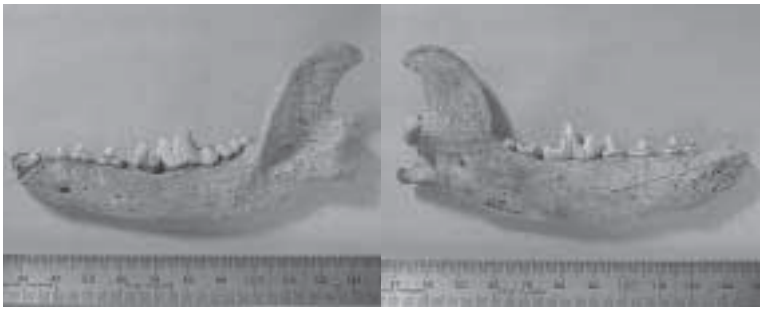


イヌ右脛骨　骨幹部　左：前面，右：外側面
〔西部ガス 2 区　S006　埋葬個体とは別個体〕

写真図版 2　二本木遺跡群出土の動物遺存体（2）　イノシシ類・ニホンジカ・イヌ

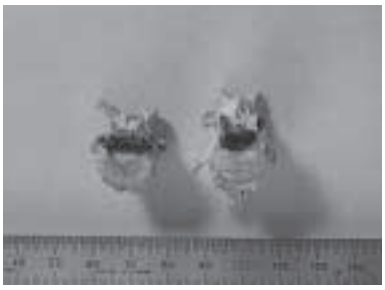


頭蓋骨　左：左側面やや上方から，中央：上面，右：下面



左下顎骨　左：頬側面，右：舌側面

頸椎　左：第1頸椎，右：第2頸椎



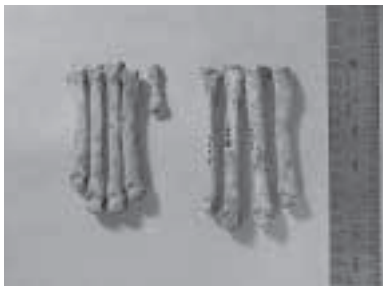
骨棘がみられる椎骨
左：第13胸椎，右：第１腰椎

寛骨　左：上面，右：下面

前肢骨　左から，左上腕骨・右上腕骨・左橈骨・右橈骨・左尺骨・右尺骨（遠位端部のみ）

後肢骨　左から，左大腿骨・右大腿骨・左脛骨・右脛骨・左腓骨（遠位端部）・右腓骨（近位端部）

左足根骨　左から，第３足根骨・中心足根骨・距骨・踵骨



右中手骨・右中足骨
左から，第５～第１中手骨，第５～第２中足骨

写真図版３　二本木遺跡群出土の動物遺存体（３）　西部ガス2区S006　埋葬イヌ

第5章　総括

第1節　遺物

【出土遺物総量】

5調査区と工事立会いの出土遺物総量は、網コンテナ（46×62×19㎝）で191箱分（東横：25、さつま：28、市電：45、ガス：48、駅前：30、立会：15）であった。そのうち、604点（東横：86、さつま：105、市電：127、ガス：138、駅前：133、立会：15）の遺物を図化し、495点（東横：85、さつま：67、市電：132、ガス：104、駅前：48、立会：59）の遺物を写真のみで紹介した。

【出土遺物の概要】

出土遺物は8世紀から9世紀の遺物が主体を占め、次いで10世紀から12世紀代の遺物が多く出土した。13世紀以降、7世紀後半や縄文時代の遺物もわずかに出土しているが、縄文時代の遺物は遺構に伴ったものではない。

ここでは出土遺物の中から特筆すべき遺物についてコメントしてみたい。

【硯】（Tab.1，Fig.1参照）

今回の調査では硯が20点出土した。おおむね各種硯の時期は、獣脚硯が7世紀後半から8世紀前葉、円面硯（圏足硯）が7世紀後半から9世紀前半、風字硯が9世紀前半からで、10世紀代には石製の硯にかわるとされている。(1)

周辺の調査区での出土数を比較してみると、官衙域に近いから多く出土するという傾向は読み取りにくいが、100㎡あたりの密度で比較するとその出土傾向が顕著に現れる。獣脚硯、風字硯や円面硯の出土数は官衙域に近い方が多い傾向にあると考えられる。

熊本市13次調査区の出土数は482点と他の調査区のそれと比較すると群を抜いており、大型掘立柱建物の規模や瓦の出土量（5,590kg）と合わせて「官衙」といわれる所以である。しかし、転用硯の出土数が426点と多く、全体の88.4%を占めており、獣脚硯・円面硯・風字硯の数は56点であった。

硯は「不動産でなく動産である」ことから遺構と比較して説得力はないが、8～9世紀の居住域から多く出土している実情を考えると居住域にも識字層がいたのではないかと考えられる。第4節の小結で述べた様に市13次調査区の1号建物に匹敵する大型掘立柱建物【市電調査区S033：3間×7間（15.7m×6.4m）】が居住域にもあったことを考慮すると官衙に関連する建物や官人の屋敷などが居住域に存在したと考えることが可能であるかもしれない。あるいは、官人以外の識字層、例えば僧とか商人？の存在を示唆するものかもしれない。

また、出土した風字硯からは「右側に朱墨、左側に黒墨」を入れて使用した痕跡が伺える。このことは周辺遺跡から出土した風字硯についても同様であり、当時の規則や習慣であったことが考えられる。

【腰帯具】（Tab.1，Fig.2参照）

今回の調査で腰帯具が7点出土した。石製丸鞆2点、石製蛇尾1点、石製巡方1点、青銅製丸鞆1点、青銅製帯金具2点である。熊本市13次調査区からは石製の丸鞆が2点出土しているだけで、周辺調査区での出土数も少ない。本調査においては、官衙域に近い市電敷地からの出土数が多い。この事実は腰帯具が官人の使用した帯の飾り具である限り、硯の項目で述べた事の裏づけを更に強くするものといえよう。

【文字資料】

文字資料は7点出土した。刻書土器が2点（「上」「大」と判読可能）、墨書土器は4点あり、1点は12世紀代の井戸（市電敷地調査区：S076）から出土した糸切り土師小皿に判読は不能の文字あるいは文様が書かれている。残りの4点は古代であるが小片で時期の決め手に欠けるが「大」と読め、「藤？勝？」「十？本？」の一部と読める。

【輸入陶磁器】

輸入陶磁器は、越州窯系青磁、白磁、初期高麗青磁、初期高麗青磁鉄絵、青白磁、龍泉窯系青磁、同安窯

Tab.1　硯・腰帯具出土数比較一覧

		県春日９次					合計	県春日８次	市13次	市34次	市18次	市31次	市41次	市50次	市39次	市40 47次	市28次	市28 32次	市32 40次
		さつま荘	市電	西部ガス	東横イン	駅前													
調査面積(㎡)		168	1,120	596	470	705	3,059	3,530	3,020	1,660	360	750	806	520	938	2,108	2,289	6,130	2,727
獣脚硯		0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
円面硯		1	4	3	0	1	9	2	44	2	0	0	1	0	0	1	0	1	2
風字硯		1	2	1	1	1	6	2	7	1	0	0	0	1	2	0	0	2	0
転用硯		3	1	0	0	1	5	20	426	21	0	0	5	9	8	9	7	0	23
合　計		5	7	4	1	3	20	25	482	24	0	0	6	10	10	10	7	3	26
出土密度/100㎡		2.98	0.63	0.67	0.21	0.43	0.65	0.71	15.96	1.44	0	0	0.74	1.92	1.07	0.47	0.31	0.05	0.95
石製	丸鞆	0	1	0	1	0	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	巡方	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	蛇尾	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青銅製	丸鞆	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	帯金具	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
合計		1	4	0	1	0	6	1	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
出土密度/100㎡		0.6	0.36	0	0.21	0	0.20	0.03	0.07	0	0	0.13	0	0	0	0	0.04	0	0

系青磁などが出土した。中でも山本信夫氏編年のC期（11世紀後半～12世紀前半）、D期（12世紀中、後）の白磁片が多く見られた。制約された時間の中で山本氏に調査指導をお願いしたが、遺構から出土した遺物を中心に見ていただくことに留めた。包含層も含めた遺跡全体で出土した遺物で分類・考察を行えば、もっと遺跡の様子がわかると思われるが、主要遺物のみを抽出して、報告することとした。

越州窯系青磁はⅠ類が73点、Ⅱ類が９点、Ⅲ類の可能性が高い合子の蓋（Ⅲ類でなければⅠ類）が１点出土した。県内の遺跡で越州窯系青磁が１点出土するだけでも珍しいことなのに、83点も出土したということはこの二本木遺跡群が如何に重要な場所であったかを物語っているといえよう。また、初期高麗青磁が５点と初期高麗青磁鉄絵が１点出土していることも特筆すべきである。特に初期高麗青磁鉄絵（西部ガスFig.23、№140）の出土例は全国的にも少なく貴重である。器種は梅瓶で、胴部下半部にあたる(2)。例として掲載した完形の遺物は韓国の莞島海底遺跡から出土した沈船の遺物を用いた。

【製塩土器】（Fig.3参照）

ワイングラス形のいわゆる天草式製塩土器片(3)は４点と少ないが、丸底のコップ形をしている古代の製塩土器片は多く出土している。中でもほぼ１個体（さつま荘跡調査区：S008古代溝出土：溝は８～12世紀と想定しているが、８世紀後半の出土遺物が主体を占める。）と約1/2個体残存（工事立会区：竪穴住居跡？内出土）の遺物は、容積の復元が可能であり、約1/5個体残存（工事立会区：竪穴住居跡？内出土）の遺物は、実測図上での形状復元が可能である。また、丸底のコップ形より口径が大きい鉢形と考えられる製塩土器の破片も出土している。

容積の復元が可能な２点について、容量の比較を行った。４はほぼ完形であるので問題ないが、５はほぼ1/2の大きさであるため、厚紙で半分の容積になるように型紙をあてた上に粘土で目張りをして水を入れ、メスシリンダーで容積を量った。２は２倍して元の大きさを復元した。

その結果、１は122cc、２は236cc（118× ２）であり、これはほぼ倍の値を示すものと考えられる。また、古代の容積について文献史学では１升＝0.4×1.8L＝720ccが定説であり、半升は360cc、小半升は240ccで120ccは小半升の半分ということになる(4)。小升は薬などの単位ということなので、それを直接塩の容積に用いることは無謀であろうが、小半升240cc（120ccが基本となった倍数か？）という文献上の容積の単位とほぼ一致する結果をみたことは興味深い。

なお、塩を実際に入れた重さ（かなりギュウギュウ詰めに入れた状態）について、１は約135g、２は約260gであった。このことから古代肥後國の製塩土器の容積は、約120ccで塩約130gの単位があり、その２倍（ダブル）の単位も存在した可能性が考えられる。１と２を比較すると、高さはほぼ同じであるが、２の直径が１㎝ほど大きく、器壁は約1/2（１は1.5㎝、２は0.8㎝）ほどの薄さである。見た目の大きさの違いはさほどないが、径や器壁の違いで実際の容積は約２倍違う。

１，２，３は、手捏ね土器であり内面には器面や器壁調整時についたと考えられる工具痕跡が、３の内面にはイネと思われる種子圧痕が確認された。しかし布目痕跡は認められず、製作工程の一端が窺える。

一方、４，５は丸底のコップ形より口径が大きい鉢形？と考えられる製塩土器である。この破片には、いずれも布目痕跡が確認され、４の外面には稲藁とイネと考えられる圧痕が明瞭に残存していた。

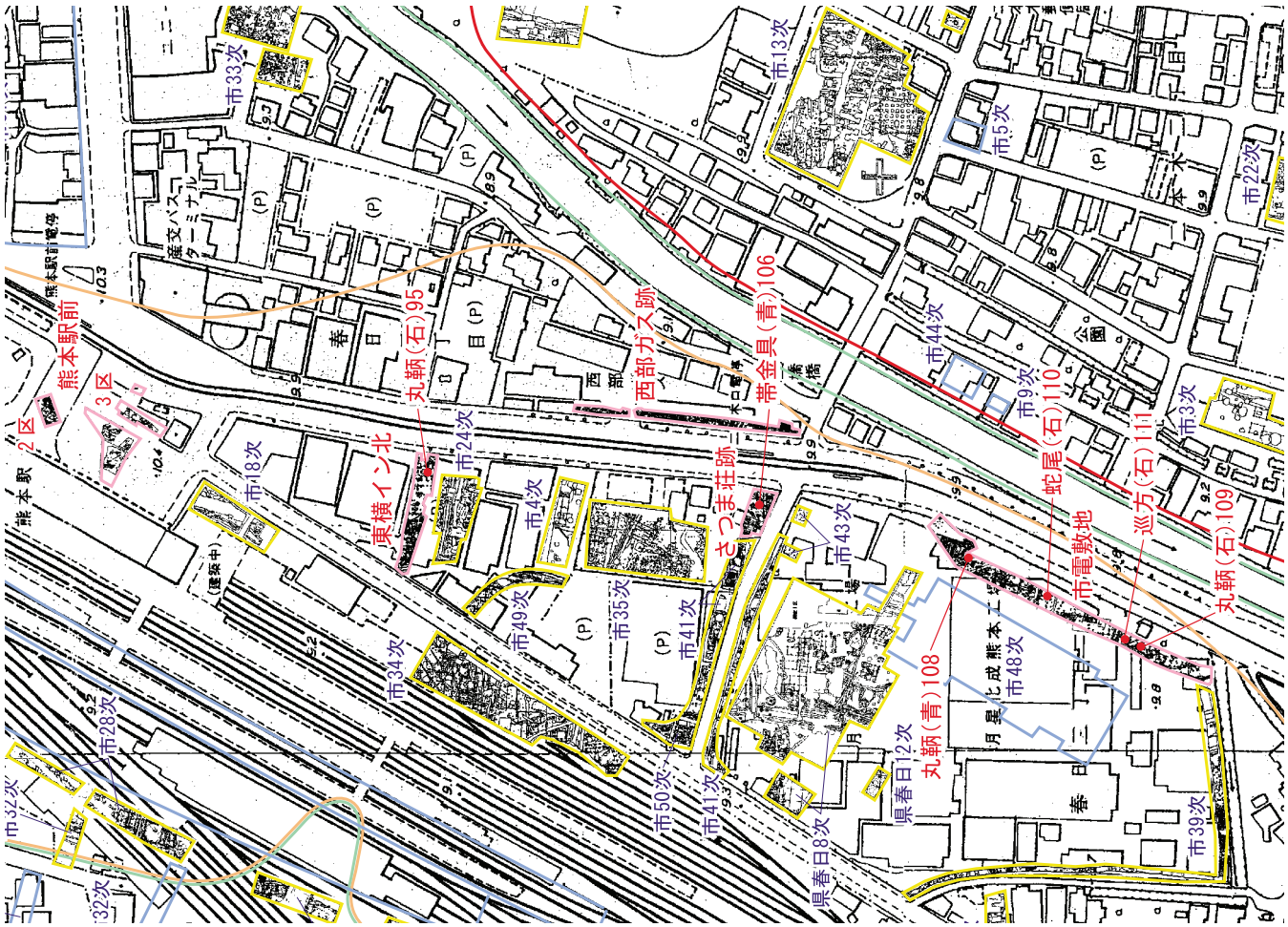


Fig.2　腰帯具出土地点と遺物番号

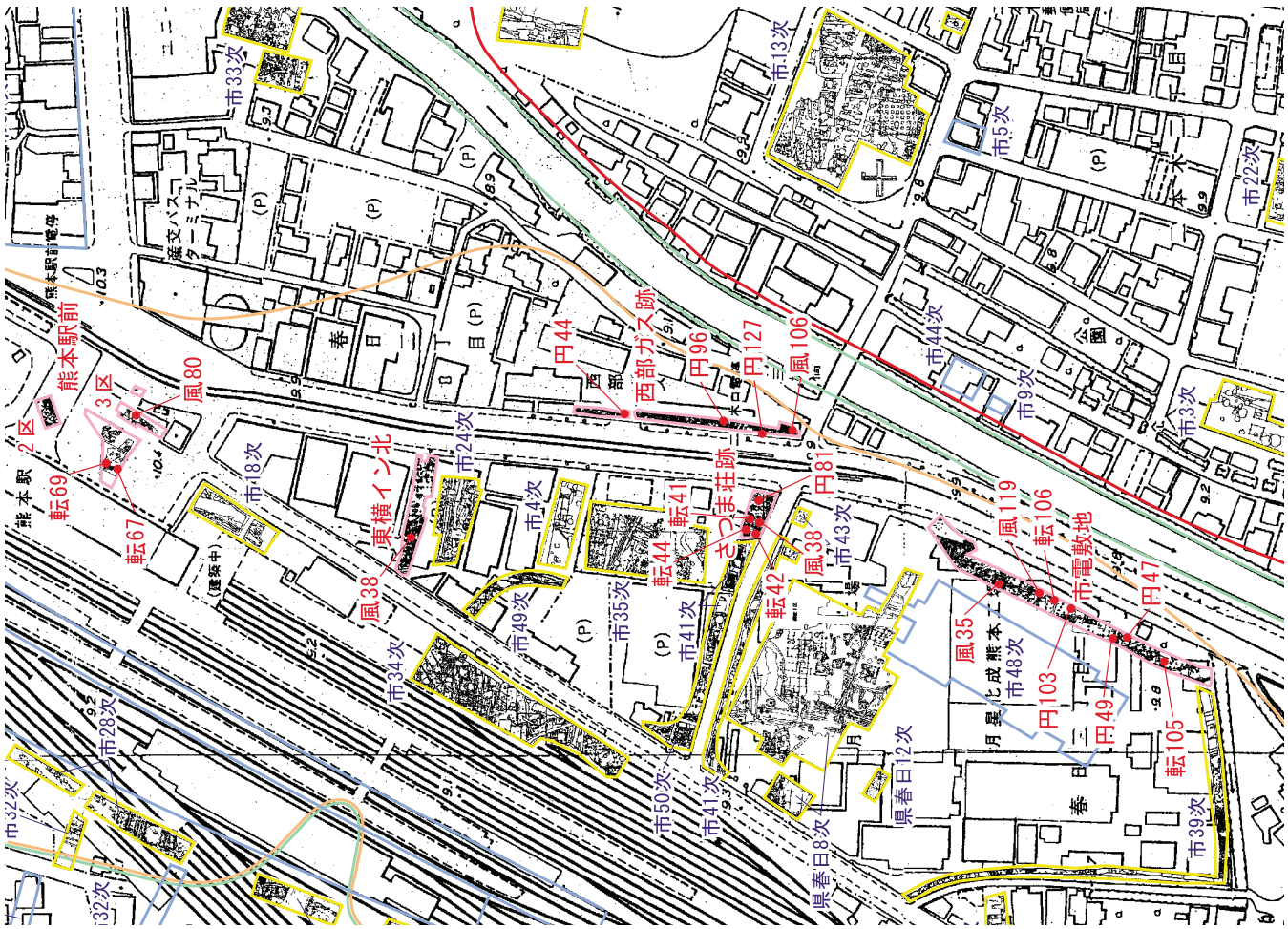


Fig.1　硯出土地点と遺物番号

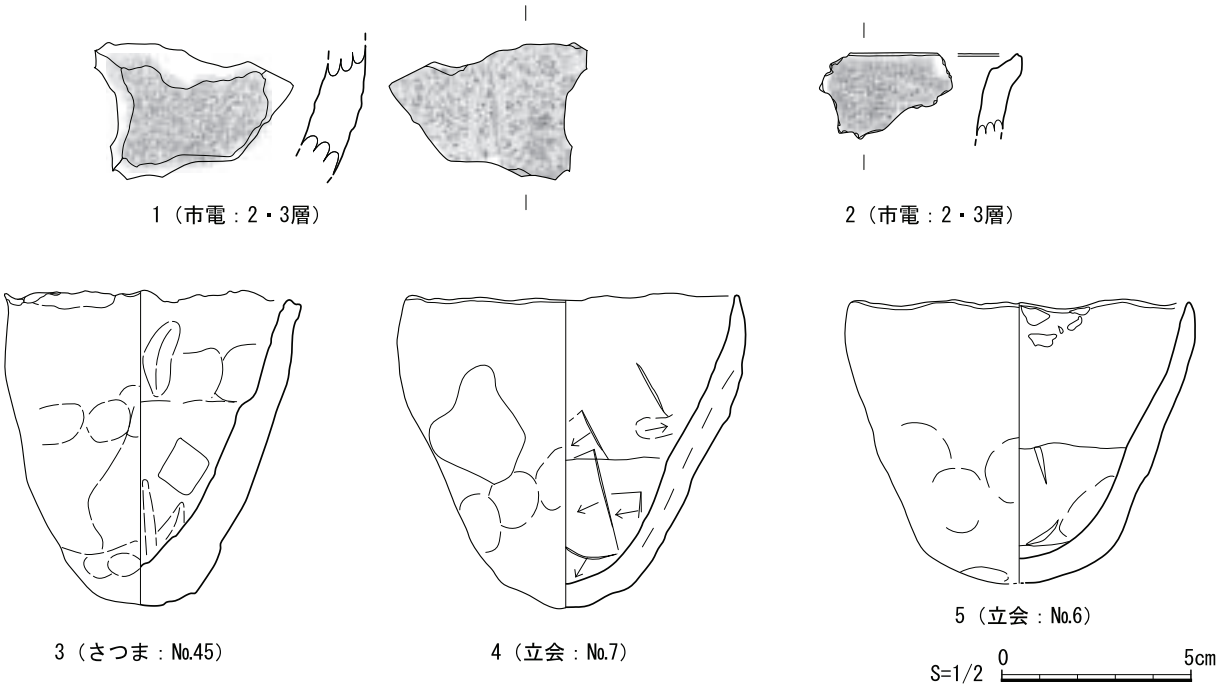


Fig.3　製塩土器実測図

【碁石と石材産地推定】

12世紀を中心とした遺構や基本土層２層・３層の包含層から白黒の碁石が多数出土している。おそらく古代から中世にかけて使用された「白色と黒色の碁石」である。

「白色」の碁石の石材は、「結晶質石灰岩」(5)であり、熊本県内では、木葉山周辺（玉名市、玉東町、和水町）や中央構造線沿い（美里町、甲佐町、八代市、氷川町、宇城市、上天草市）に広がっている。熊本県地質図によれば、木葉山周辺の結晶質石灰岩は中生代の高圧型変成岩類、三郡変成岩類（木山変成岩類）、中央構造線沿いの結晶質石灰岩は古生代の高温型変成岩類、領家帯、黒瀬川古期岩類（黒瀬川帯）に属し、「lc」という青色で表示されている。第２章のFig.1でもそれらの一部が確認できる。

「黒色」の碁石の石材は、「角閃岩」(6)であり、熊本県内では、山鹿市鹿北町や和水町三加和周辺や中央構造線沿いの美里町砥用周辺及び芦北町坪木ノ鼻（御立岬の南側）周辺に広がっている。熊本県地質図によれば、山鹿市鹿北町や和水町三加和周辺は中生代の深成岩類の変はんれい岩（三郡帯、黒瀬川古期岩類）に属し、「gb」という紫色で表示されている。中央構造線沿いは、古生代の高温型変成岩類、領家帯、黒瀬川古期岩類（黒瀬川帯）の苦鉄質火山岩類（角閃石・緑色片岩）に属し、「vg」という緑色で表示されている。

これらの碁石が当時の肥後国以外で生産された可能性もあるが、今後、各産地の試料を集めて蛍光X線分析を行うことで産地の同定が可能になるであろう。

Tab.2　貿易陶磁器出土一覧

実測・写真　写真のみ　掲載なし

区	遺構名	越州窯系青磁Ⅰ類		越州窯系青磁Ⅱ類		越州窯系青磁Ⅲ類？		白磁Ⅰ類		初期高麗青磁		初期高麗青磁鉄絵	
		個数	器種・部位	個数	器種・部位	個数	器種・部位	個数	器種・部位	個数	器種・部位	個数	器種・部位
西部ガス	S001　2層			1	椀・体								
	S002　2層	1	椀・底										
	S004　2層黒	1	椀・底										
	S009　1層	1	皿・体										
	S010　1層			1	椀・底								
	S029　2層黒	7	椀､皿･体､口､底										
	S035	1	椀・底										
	S049			1	椀・口								
	S064	1	椀×皿・底										
	P.32							1	椀・口				
	P.36	1	椀×皿・体										
	P.392	1	椀・口										
	P.666　3層	1	椀・体										
	O.N-26.27　3層	1	椀・底										
	O,P-29	1	椀・底										
	N-34　2B～3層	1	蓋・口										
	表土剥ぎ	1	椀・底									1	梅瓶・胴
	O.N-29.30	1	椀・底										
市電敷地	S002　畝1層	1	皿・体										
	S002			1	椀・底								
	S010	1	皿・体										
	S020	1	椀×皿・口										
	S023　2層							1	椀・口				
	S059	1	椀×皿・体										
	S021　2層	1	椀・口										
	P.30　2層	1	椀×皿・体										
	P.210　2層	1	皿×杯･口輪花										
	P.224　2層	1	椀×皿・体										
	P.366									1	椀Ⅰ類･口～底		
	P.416	1	椀・底										
	P.504	1	小型壺・体										
	S2-65	1	椀×皿・底										
	C-49	1	椀・体										
	2層	1	椀・口～底										
	X2-56	1	椀・底										
	A-50　2～3層	1	椀・高										
	表土剥ぎ	1	椀・底										
	畝1層	1	椀・底										
	2.3層	1	椀×皿・底										
	1.2層	1	椀×皿・体										
さつま荘	G-32	1	椀×皿・口										
	3区　2AB層	1	皿・口										
	1区　G-33　2層	1	椀・体										
	2区　F-32 2B層	1	椀・底	1	椀・底								
	2区F-32 2B下No.67			1	椀・糸切底								
	2区　F-32 西部	1	椀・底										
	S006北東ベルト			1	椀・口								
	S006南西ベルト	1	椀・体										
	S006中層一括			1	椀・体								
	S006　　5A下層									1	椀Ⅲ類・口		
	S006北ベルト3層	1	椀×皿・口										
	S007									1	椀Ⅲ類・底		
東横イン北	S001　2層			1	椀・体								
	S002　溝群	1	椀・体										
	S002							1	椀・底				
	S032	1	椀・体										
	S035	2	椀・体					1	椀・口				
	P.13	1	椀・口										
	表土剥ぎ一括	2	壺？										
	F-2　3層	2	椀・口										
	D-2　3層下	3	椀・口、体										
	K3　3層							1	椀・口				
	K3　3層							1	椀・底				
	E-2　3層	2	椀・口										
	G-2　3層	1	椀・体					1	椀・底				
	F-2　3層					1	合子蓋・体						
	H-1　そうじ	1	椀・底										
	H-2							1	椀・口				
	南表土剥ぎ　3層	1	椀・体										
	南表土剥ぎ	1	輪花皿										
	表土剥ぎ　3層	1	椀・底										
	表土剥ぎ	1	椀・口										
	表土剥ぎ　2～3層	1	椀×皿・口										
駅前	3区　B-1	1	椀・底										
	3区　B-2　3A層												
	3区　B-2　1ｂ層	1	杯・底							1	椀Ⅲ類：口		
	3区　B-1　1B層	2	椀・底							1	椀Ⅲ類：口		
立会	S-8　溝　埋土1層	1	椀・底										
	No.44　そうじ	1	椀・底										
総　計		73		9		1		8		5		1	

※同定は山本信夫氏による

第 2 節　遺構

【時期変遷と調査結果の概要】（Fig.7～8参照）

遺構時期を決定する場合、出土遺物が大きなウエイトを占めるが、遺構が存在した時期そのものを示す遺物はほとんどなく、その多くが遺構廃絶後に入り込んだ場合が多い。しかし、出土遺物の中でコンタミを除いた一番新しい遺物を見ることで廃絶後に限りなく近い時期推定は可能と考える。一つの遺構の時期が確定するとその切り合い関係にある遺構も自ずと時期が判明する。

しかし、溝などの場合、出土遺物だけで時期を判断することは危険であるため、埋土を考慮した。二本木遺跡群の埋土は、概して層でその時期把握が可能であるためである。

このように「出土遺物」「遺構埋土」「切り合い関係」を考慮して遺構の時期を推定した。

確認された古代の遺構は、調査地全域に広がる。市13次調査区で確認された「官衙建物群」が 8 世紀中葉に成立し 9 世紀代まで存続するが、今回の調査成果の中心はその時期と重なる 8 世紀後半から 9 世紀にかけての集落の居住域の状況である。その後の遺構で明確な時期が把握できるのは、10世紀後半の土壙墓である。輸入陶磁器の白磁など11世紀後半から再び遺物が多くみられるが、11世紀代の明確な遺構の検出はなく、10～12世紀前半の時期幅で捉えている溝や土坑などがある。

11世紀後半から12世紀前半の貿易陶磁器が多く出土することはこの時期の遺跡の繁栄を示すものであるが、二本木遺跡群ではこの時期から遺構が多く確認される傾向にあり、本調査区でも例外でない。特に12世紀後半以降の中世は、市電敷地の北半分からさつま荘跡を経て西部ガス跡地の調査区周辺に集中して確認された。この範囲には基本土層の 2 層が良好に残存しており、特に西部ガス跡地では2層が3時期に区分できる。溝、井戸、掘立柱建物、礎石柱建物などが確認された。

中世という時期区分については、押し出し技法が定着する11世紀中葉以降が一般的だが、今回は糸切り離し技法が多くなる12世紀後半以降とした。

14，15、16世紀の中世後期～末にかけての遺構は、土坑や溝などが西部ガス跡地を中心に確認できる。市電敷地で確認された様な畑址は、中世の包含層より上層で確認されるため、表土剥ぎの際に掘削されてしまう場合が多いので全体像がつかめないが、遺跡のかなりの範囲に広がっていると考えられる。しかも複数時期のものが存在すると考えられる。

近世は、溝や井戸など耕作に関する遺構が見られるが礎石柱建物など浅い遺構は多いとはいえない。このことは、後世の撹乱や整地などにより消滅した可能性が考えられ、深い遺構のみ残存する傾向にあるのかもしれない。

7 世紀以前については、遺物は散見できたが、遺構は確認できなかった。

【竪穴住居跡と掘立柱建物群】

8 ～ 9 世紀の竪穴住居については徐々に小型化して 9 世紀前半には終焉(7)を迎え、それに変わるように掘立柱建物が多く見られるようになる。この変化がよく窺える調査区が市電敷地と東横イン北側であり、従来言われてきた変遷と同じ結果といえる。方形でカマドが付く竪穴住居が徐々に小型化していき、 2 m未満のものもあった。しかし、 2 m前後でカマドがない小型の遺構については別の用途も考えなければならないのかもしれない。また、本柱であったと考えられるが、明確な柱跡を残すものはほとんどなかった。検出できなかった調査者の力量不足もしくは穴を掘らない別の柱構造であったのであろう。

市電敷地調査区で確認されたS033は、 7 間× 3 間（15.7m×6.4m）の大型掘立柱建物であり、熊本市13次調査区で確認された 1 号建物と同じ 7 間× 3 間の大型建物であったことは第 4 節の小結で述べたとおりである。

市13次調査区の官衙関連建物が 9 世紀前葉で終焉した後の何らかの施設である可能性が考えられる。

東横イン北側調査区では、 9 世紀後葉にS056（ 2 間× 3 間）、S064（ 2 間× 2 間の総柱）が存在し、10世紀中葉にはS060（大規模な有庇建物）やS098（柵列）が廃絶している。

12世紀～13世紀の掘立柱建物が市電調査区、さつま荘跡地で確認されている。市電敷地調査区のS080と81は、 2 間× 2 間以上の部分的に礎石を持った建替えのある建物であり、S086は、 2 間以上× 5 間以上の南東と南西側に庇を有する建物である。

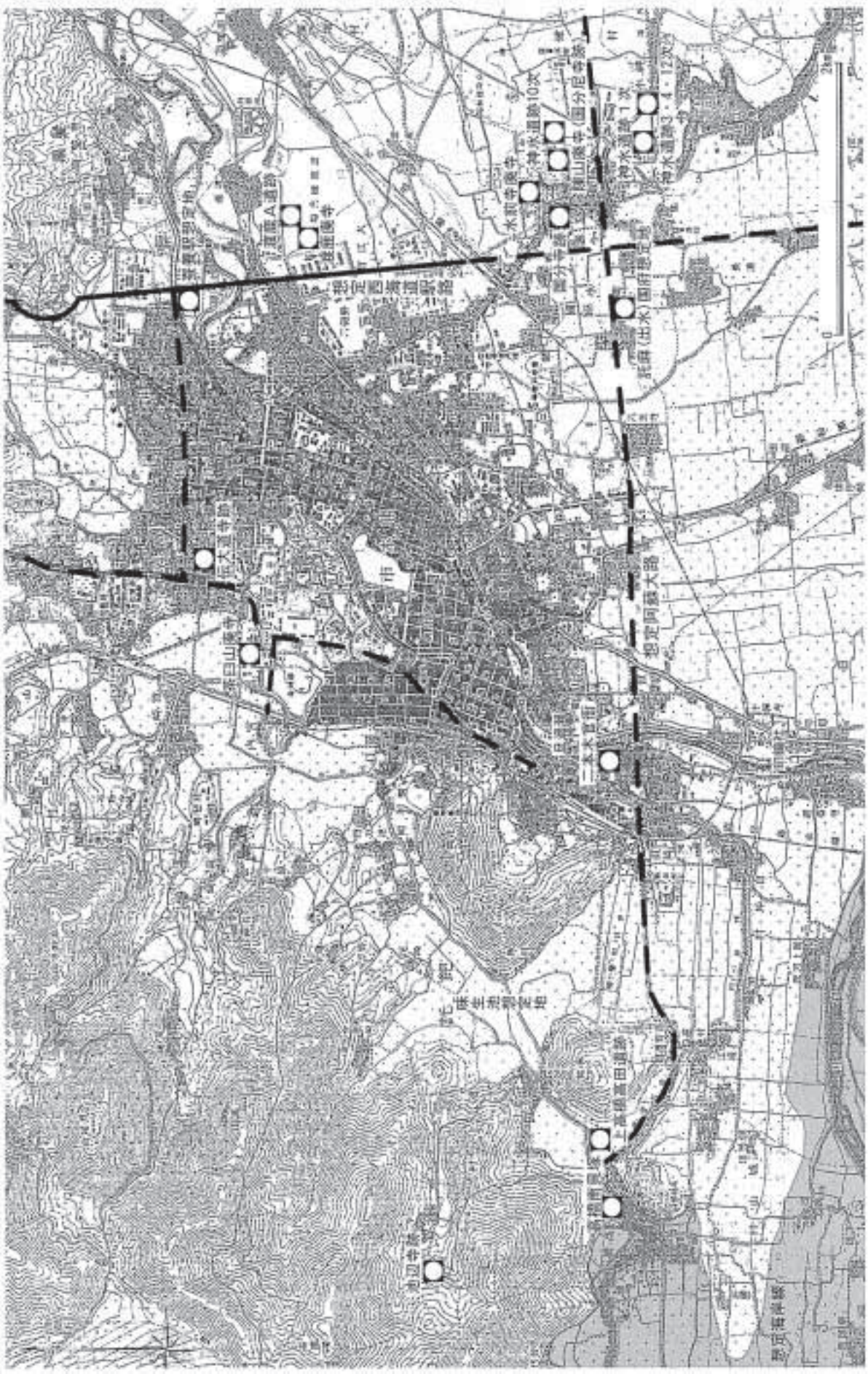


Fig.4　古代寺院・官衙配置図（網田龍生・美濃口雅朗・金田一精・林田和人・岩谷史記2007より引用）

Fig.5　熊本県管轄肥後国飽田郡春日村、田崎村、古町村、蓮台寺、上立田村（熊本市　1993）を合成して作図、改変、加筆

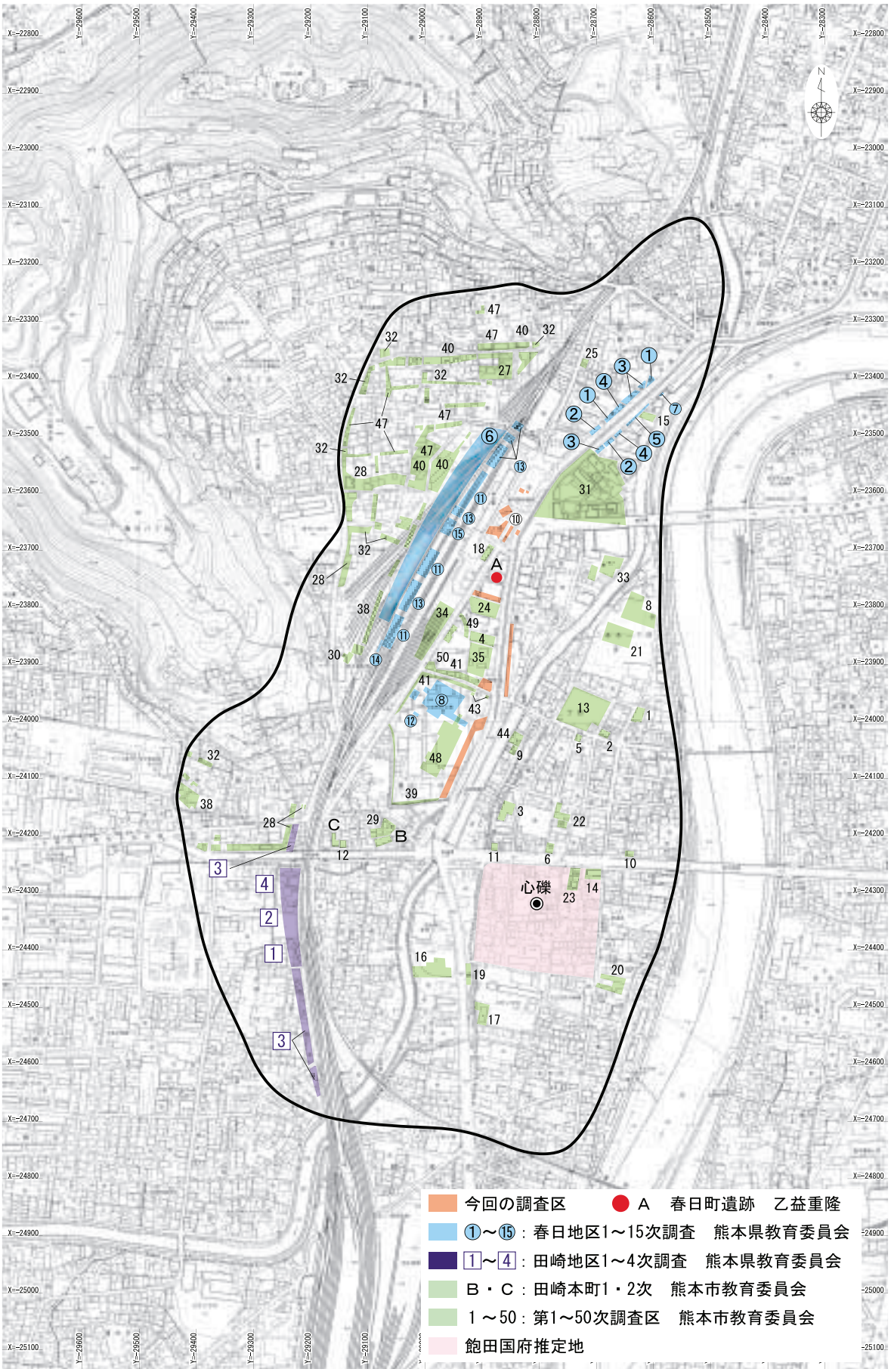


Fig.6　二本木遺跡群調査地点図（1/10,000）

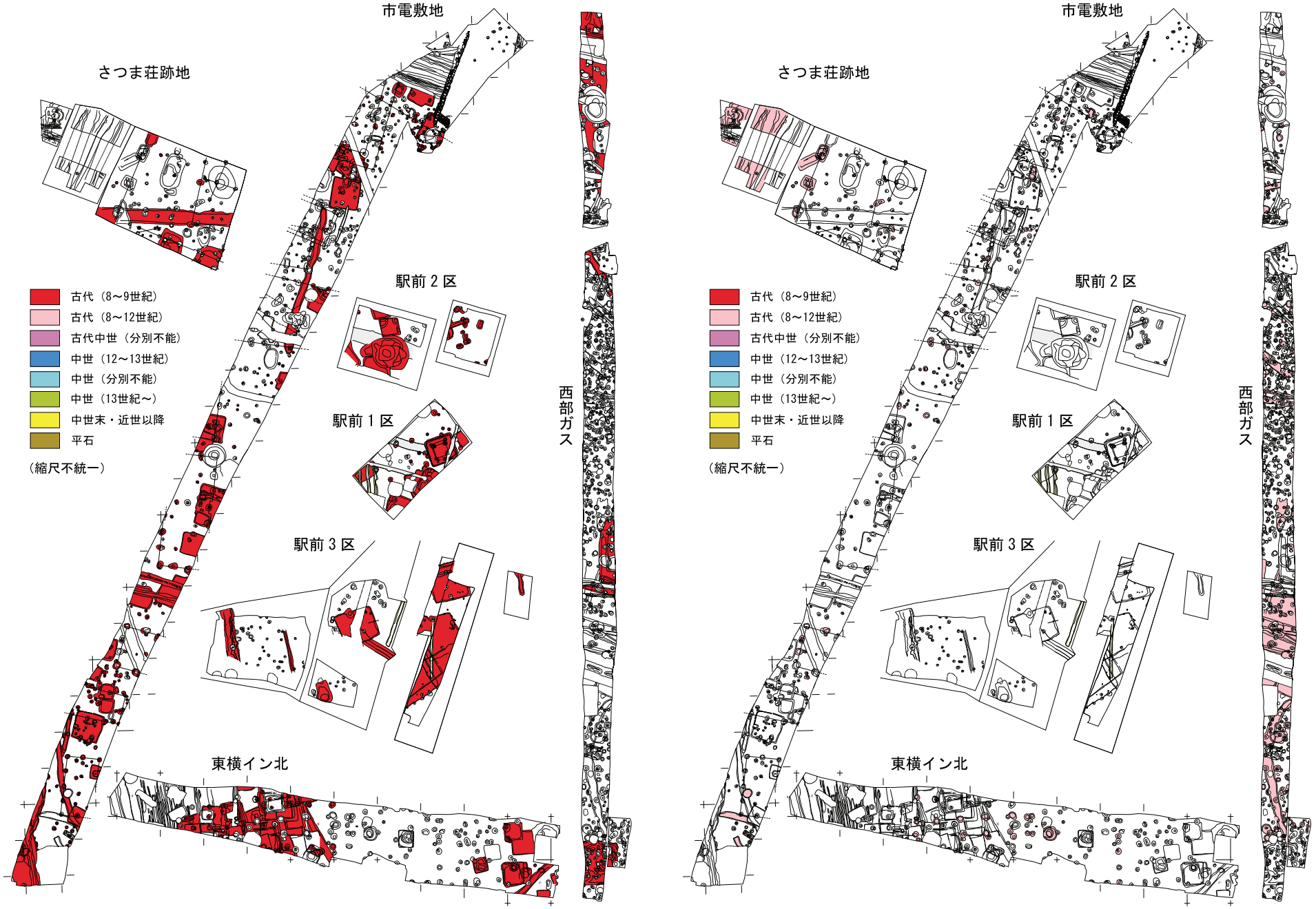

市電敷地
さつま荘跡地
駅前 2 区
駅前 1 区
駅前 3 区
東横イン北
西部ガス
古代（8～9世紀）
古代（8～12世紀）
古代中世（分別不能）
中世（12～13世紀）
中世（分別不能）
中世（13世紀～）
中世末・近世以降
平石
（縮尺不統一）

Fig.7　遺構変遷図(1)

西部ガス
市電敷地
駅前 2 区
駅前 1 区
駅前 3 区
東横イン北
さつま荘跡地
古代（8～9世紀）
古代（8～12世紀）
古代中世（分別不能）
中世（12～13世紀）
中世（分別不能）
中世（13世紀～）
中世末・近世以降
平石
（縮尺不統一）

Fig.8　遺構変遷図 (2)

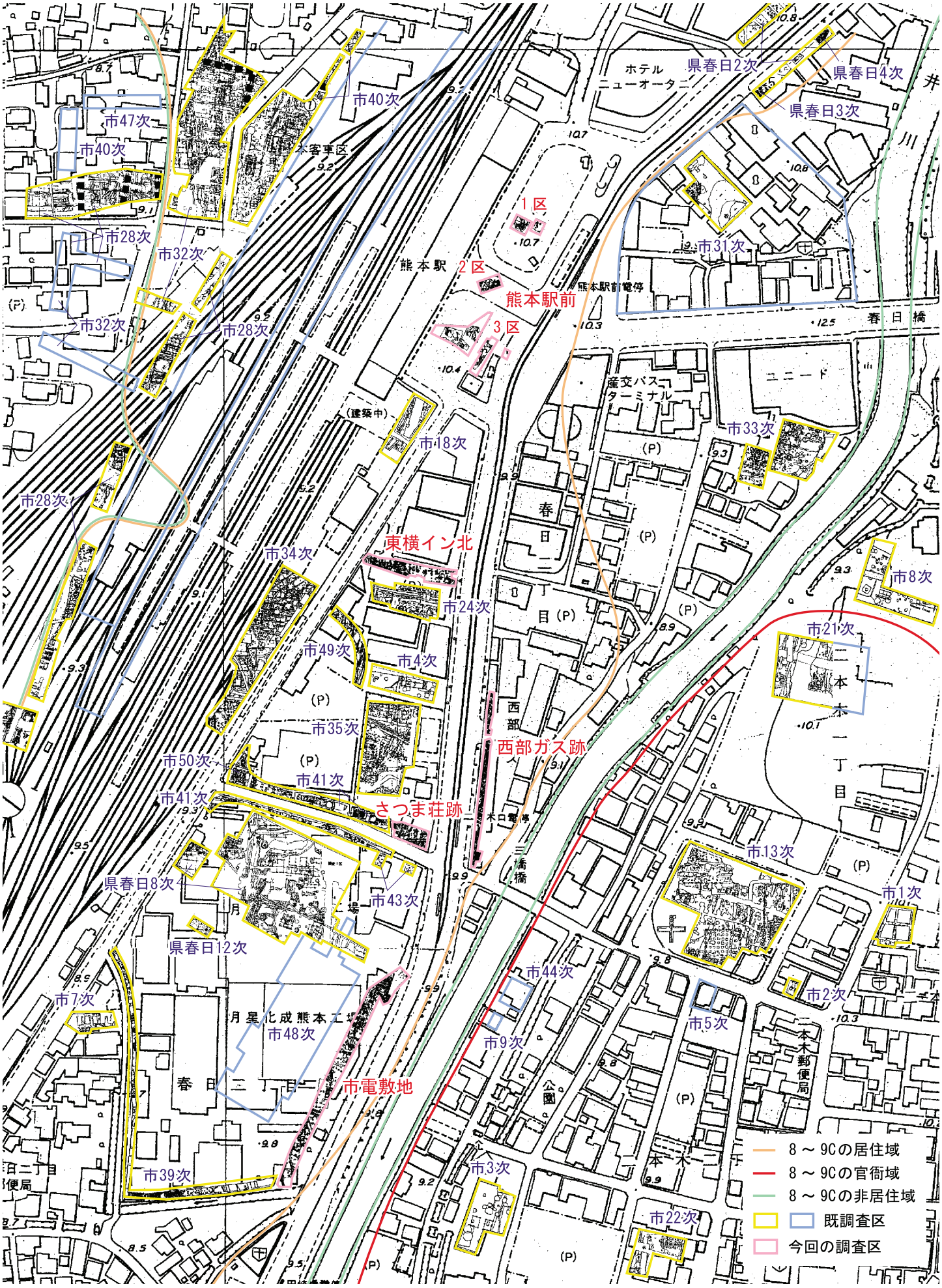


Fig.9　周辺調査区と位置図（S＝1/2,500）

13世紀以降では西部ガス跡地で礎石を持つ2間以上×5間以上の建替えのある礎石建物（S082，083）や礎石を有するピットが多く確認されている。

【墓】

今回発見された土壙墓は6基あり、10世紀後半のものが3基、埋土から中世と考えられるものが1基、時期の決め手を欠くものが2基あった。しかし、時期の決め手を欠く2基のうち、1基は屈葬であることから中世の可能性が高く、もう1基は伸展葬であり、古代の可能性を示唆する土壙墓であった(8)。

これらの土壙墓に位置を古代・中世墓分布図（山下　2011）の中に落としてみたものがFig.10である。9～11世紀の古代墓は、官衙を除き二本木遺跡群の居住域の全域に広がっており、単独で形成されることが多いようである。12世紀以降の中世墓は、官衙を含めた二本木遺跡群の全域に広がっており、4、5基が固まって形成される傾向が見られる。屋敷墓を中心に墓域が形成されるためであろうか。

第3節　分析結果の評価

【竪穴住居内カマド周辺検出の炭化種子の信憑性について】

8～9世紀の食生活の復元と遺構の時期を確定したいと考え、竪穴住居内のカマド内外に広がる焼土やカーボンを多く含んだ土から炭化種子を検出した。カマド内外の炭化種子であれば、当時の人々の食べ物であり、そこから得られる^{14}C年代は、竪穴住居の使用された時期を示すものであると思われた。

しかし、我々の期待を裏切る結果となった。第4章の^{14}C年代を見ると竪穴住居カマド内出土の炭化種子の年代が出ているがいずれの竪穴住居の年代も古いか新しい年代である。①市電（S006）→7世紀前半、②市電（S017）→11世紀前半、③西部ガス（S070）→10世紀前半、④東横イン（S068）→7世紀前半である。8C前～9C前・中の想定年代幅であるので、②③は明らかにイレギュラーである。①④も住居の大きさや出土遺物から7世紀前半までは遡ることはないと考える。

それではどうしてこのようなデータが出たのだろうか。おそらく植物の根やアリなどの動物が原因と考えられる。植物の根が枯れた穴の隙間に種子が落ち込んだり、アリなどの動物が運んだ可能性が考えられるからである。地表下から約2mであっても直径1～5㎝ほどの小さい穴が多く見られることがあり、その埋土は明らかに新しい。それらを除去せずに炭化種子の検出を行った結果だと考えられる。もしくはAMS測定器の不具合であろうか。しかし、遺構に確実に伴う炭化材の方がよい結果を生んでいる（①東横イン（S060のPit.1：炭化材）→9世紀初頭）ことから考えると前者の方が妥当であろう。

上記の理由で炭化種子の総計にもかなり後世のものが含まれていることを考慮しなければいけないが、主に竪穴住居跡のカマド周辺で検出した炭化種子の一覧表がTab.3である。

イネ、オオムギ、コムギが多くみられるが、コンタミがあることは確実であろう。しかし、市電敷地のS050（竪穴住居跡：8世紀第4四半期～9世紀第1四半期）だけは、コムギの炭化種子が48個出土していることから当時の穀物の可能性が高いと考えられる。

第4節　まとめと今後の課題

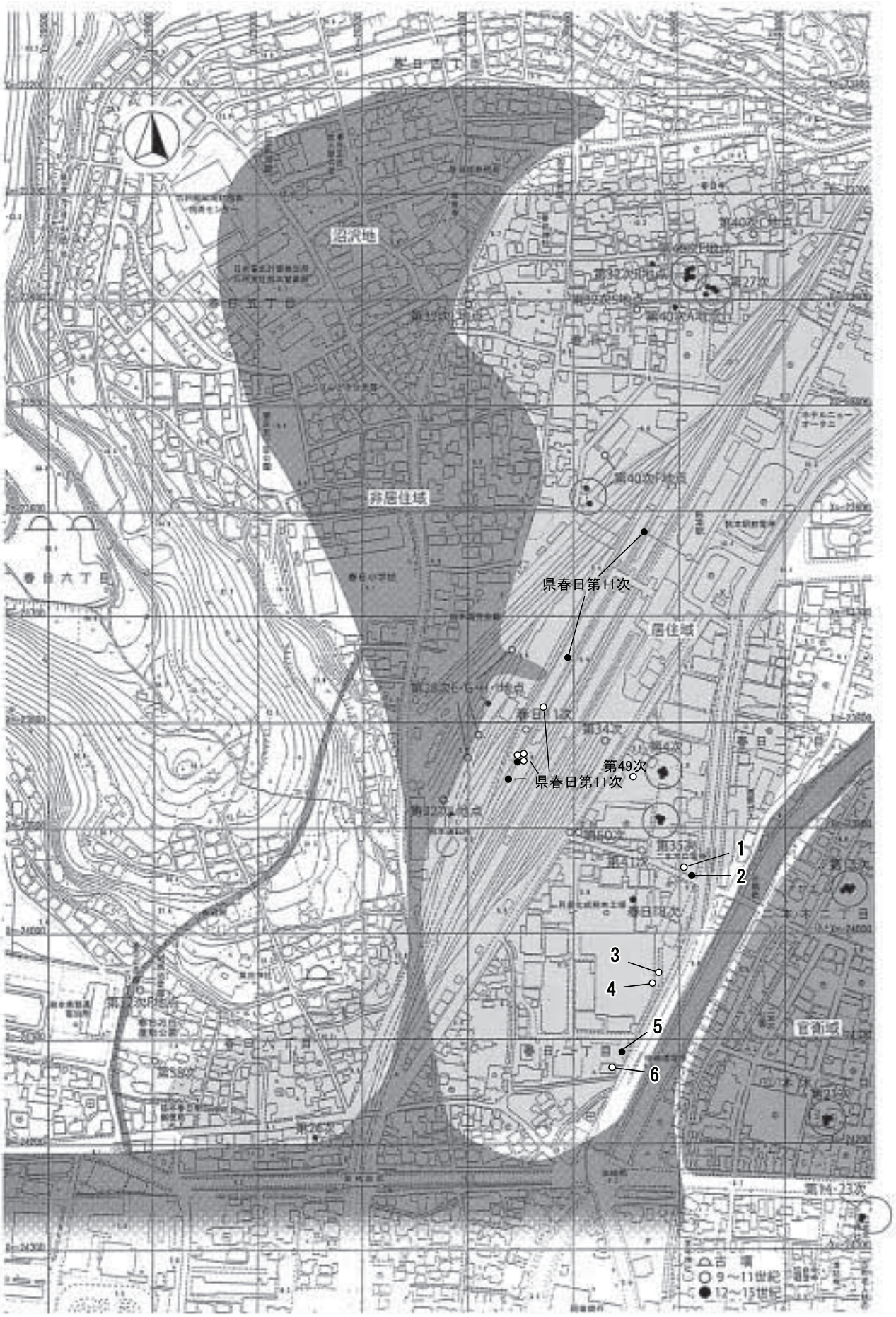
【まとめ】

二本木遺跡群の土地利用(4)の中で今回の調査地は8～9世紀の居住域にあたる。調査地は南北に約600mの直線距離の中に点在するが、官衙域に近い場所に位置する。特に市電敷地、さつま荘跡地、西部ガス跡地は熊本市第13次調査区に最も近く直線距離で約150～200mである。現在の坪井川の位置には当時も谷あるいは川があり、官衙域と居住域の間には自然地形上の境界があったことは発掘調査の結果でも明らかになっている。

今回の調査で市電敷地において3間×7間の大型掘立柱建物が確認され、硯や腰帯具が多く出土したことは、当時の官人が居住域にも足を踏み入れていた証拠と考えられ、9世紀中葉以降に居住域にも官衙に関連する建物、官人の屋敷あるいは当時の人々の集会場などの大型建物が存在した可能性が高いと考える。

【今後の課題】

新幹線開通に伴い熊本駅周辺の開発事業が行われた結果、二本木遺跡群の様子がより一層わかってきた。調査面積は遺跡全体の1/10に近いと考えられる（Fig.6参照）。特に8～9世紀の居住域の様子が判明し、8



1 S005(さつま) 3 S047(市電) 5 S004(市電)
2 S003(さつま) 4 S058(市電) 6 S005(市電)

Fig.10 調査区周辺古代・中世墓分布図 (S=1/5,000) (山下宗親2011に加筆)

Tab.3　遺構出土炭化種子内訳表　　（市電）

遺構番号と採取土の袋数	S006：2袋	S016：7袋	S017：4袋	S032：4袋	S035：10袋	S036：3袋	S038：9袋	S042：3袋	S043：6袋	S044：6袋	S048：1袋	S049：13袋	S050：6袋	S055：1袋	S060：7袋	総数
イネ	5	5	4	3	7	2	6	3	2	3		3	5	2	6	56
オオムギ	1	3	1	3	4		1	3	2	3		6	3	1	3	34
コムギ		1	0					1	1			4	48		3	58
オオムギ－コムギ			1				2		1				6			10
マメ類(アズキグループ)				2												2
ソバ												1				1
センダン												3				3
モモ											1					
マメ類					1											1
サンショウ属															1	1
アカザ科								1								1
不明種子			1						3			1	1			6
不明植物片										1						1
総数	6	9	7	8	12	2	9	8	9	7	1	18	63	3	13	175
備考												不明はマメ科？				

（西部ガス・駅前・さつま荘・東横）

遺構番号と採取土の袋数	西部ガス S070：8袋	駅前 S003：3袋	駅前 S005：5袋	駅前 S008：1袋	駅前 S009：1袋	駅前総数	さつま荘 Pit.11：1袋	東横 S006：3袋	東横 S010：5袋	東横 S027：1袋	東横 S042：1袋	東横 S047：2袋	東横 S051：2袋	東横 S067：2袋	東横 S068：3袋	東横 S080：1袋	東横 S086：1袋	東横 S108：2袋	東横総数
イネ	6	4	2	1		7			3	1			1			1			6
オオムギ	1		1	1		2			1	1	1	1			1		1		6
コムギ	1		3		1	4		1	1			1	1	3				1	8
オオムギ－コムギ	1					0			2						1				3
アワ近似値		1				1													0
モモ						0	1												0
マメ類						0			1	1									2
タデ属						0												1	1
不明種子・種実						0				2				2	1				5
総数	9	5	6	2	1	14	1	1	8	5	1	2	2	5	3	1	1	2	31

世紀後半～9世紀初頭に村落寺院が存在した事(9)なども明らかになってきた。

一方、官衙域での調査は少ないが、市13次調査の成果により8世紀中葉から9世紀初頭に国府の可能性が高い「官衙」が存在したことは確実視されている。更に市22次調査区では、調査面積は少ないながらも大型掘立柱建物が検出され、二本木遺跡群では唯一、確実にもちこまれたとされる都城系の暗文土師器が出土(10)しており、「官衙域」の確実性を示唆している。

また、12世紀以降の中世の遺構の広がりも把握され

今後、報告書が刊行された各調査区について、県と市合同で時期ごとの遺構配置図を作成し、シンポジウムを行うなど二本木遺跡群の発掘成果について議論を行い、「古代、中世の肥後國」の歴史解明を行わなければならないと考える。

【註】

(1) 網田龍生・美濃口雅朗・金田一精・林田和人・岩谷史記　2007『二本木遺跡群Ⅱ』
二本木遺跡群13次調査区発掘調査報告書　熊本市教育委員会

(2) 山本信夫氏のご教示による。

(3) 藤本貴仁氏のご教示によれば全て椀部3類に分類され、7世紀後半にあたる。二本木遺跡群出土の天草式製塩土器は現在のところ全てこの3類に属するとのこと。

(4)(10) 熊本市文化財課の網田龍生氏のご教示を受けた。

(5)(6) 熊本県文化課の藤崎正人、馬場正弘氏のご教示を受けた。その後、熊本博物館学芸員の北村直司氏に顕微鏡観察による観察をしていただき、「白色の碁石は石英や長石の可能性は残るものの結晶質石灰岩の可能性が非常に高い。確証を得るためには物理的に塩酸や蟻酸をかけて発泡すれば確認できるが、遺物であるため、非破壊のX線分析が妥当である。」との指導を受けた。

(6) 韓国文化公報部文化財管理局　1985『莞島海底遺跡（発掘報告書)』

(7) 網田龍生1997「肥後における竪穴住居の終焉」『肥後考古第10号』肥後考古学会による。

(8) 土井が浜人類学ミュージーアムの松下孝幸氏のご教示による。

(9) 原田範昭・金田一精　2008『二本木遺跡群Ⅴ』二本木遺跡群28次調査区発掘調査報告書　熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告（2）　熊本市教育委員会

引用・参考文献

川上幸義 1968 『新日本鉄道史・下』鉄道図書刊行会

韓国文化公報部文化財管理局 1985 『莞島海底遺跡（発掘報告書)』

山本信夫 1985 「日本における初期高麗青磁について」『貿易陶磁研究№5』日本貿易陶磁研究会

鈴木　喬 1987 「熊本市」『角川日本地名大辞典　43　熊本県』 角川書店

奈良国立文化財研究所 1989 『平城京展』図録 再現された奈良の都　朝日新聞大阪本社企画部

大阪市立東洋陶磁美術館 1992 『高麗青磁への誘い』開館10周年記念展　大阪市立東洋陶磁美術館

磯野雄二 1993 『御幸木部古屋敷遺跡Ⅰ』 熊本県文化財調査報告第129集　熊本県教育委員会

熊本市 1993 『新熊本市史』別編　絵図地図　上：中世、近世 下：近代､現代　新熊本市史編纂委員会

古森政次 1994 『ワクド石遺跡』 熊本県文化財調査報告第144集　熊本県教育委員会

網田龍生 1994 「肥後における回転台土師器の成立と展開」『中近世土器の基礎研究Ⅹ』
日本中世土器研究会

美濃口雅朗 1994 「熊本県における中世前期の土師器について」『中近世土器の基礎研究Ⅹ』
日本中世土器研究会

中世土器研究会編 1995 『概説中世の土器・陶磁器』 真陽社

山本信夫 1995 「中世前期の貿易陶磁器」『概説中世の土器・陶磁器』 中世土器研究会編　真陽社

熊本市埋蔵文化財調査年報 1995　第１号　昭和63年度～平成３年度　熊本市教育委員会

板楠和子・島津義昭 1996 『古代の国家形成、律令国家と肥後国』「新熊本市史」通史編
第１巻　自然・原始・古代　新熊本市史編纂委員会

大橋康二・西田宏子監修 1998 『古伊万里』 別冊太陽　日本のこころ63　平凡社

日本貨幣商共同組合 1998 『日本貨幣カタログ』

大阪市立東洋陶磁美術館 1999 『東洋陶磁の展開』 大阪市立東洋陶磁美術館　館蔵品選集

熊本市埋蔵文化財調査年報 1999　第２号　平成４年度～平成８年度　熊本市教育委員会

水野哲郎 2000 『祇園遺跡』 熊本県文化財調査報告第188集　熊本県教育委員会

山本信夫 2000 『大宰府条坊跡ⅩⅤ』 太宰府市の文化財　第49集　太宰府市教育委員会

大橋康二・家田淳一・野上建紀・中野雄二・船井向洋・東中川忠美 2000 『九州陶磁の編年』
九州近世陶磁学会10周年記念　九州近世陶磁学会

熊本市埋蔵文化財調査年報 2000　第３号　平成９年度～平成10年度　熊本市教育委員会

江戸遺跡研究会編 2001 『図説　江戸考古学研究事典』 柏書房

中島由美編集 2001 『ベストセレクション　古伊万里　そば猪口・酒器1000』 講談社

小野正敏 2001 『図解　日本の中世遺跡』 東京大学出版会

大橋康二構成 2002 『実物大　そば猪口事典』 別冊太陽　骨董をたのしむ 42　平凡社

奈良文化財研究所 朝日新聞社事業本部大阪企画事業部 2002
『飛鳥藤原京展 奈良文化財研究所創立50周年記念』 朝日新聞社

九州近世陶磁学会 2002 『国内出土の肥前陶磁』 西日本の流通をさぐる　第一・二分冊
第12回九州近世陶磁学会　資料

松本寿三郎・池上尊義 2002 「第五編　熊本城下をとりまく村々と農民の社会生活」
「第六編　熊本城下をささえる港町と交通・運輸」

『新熊本市史』通史編　第４巻　近世Ⅱ　新熊本市史編纂委員会
網田龍生 2003 「古代荒尾産須恵器と宇城産須恵器」『先史学・考古学論究Ⅳ』
考古学研究室創設30周年記念論文集　龍田考古学
熊本市埋蔵文化財調査年報 2003　第５号　平成12年度～平成13年度　熊本市教育委員会
原田範昭・美濃口雅朗 2004 『古町遺跡Ⅰ』 熊本市教育委員会
大阪市立東洋陶磁美術館 2004 『高麗青磁の誕生－初期高麗青磁とその展開－』大阪市立東洋陶磁美術館
独立行政法人文化財研究所 2004 『古代の官衙遺跡Ⅱ遺物･遺跡偏』 奈良文化財研究所
国立歴史民族博物館 2005 『東アジア中世海道 －海商･港･沈没船－』 毎日新聞社
林田和人 2005 『二本木遺跡群Ⅰ』 第18次調査区発掘報告書　熊本市教育委員会
熊本市埋蔵文化財調査年報 2005　第７号　平成15年度　熊本市教育委員会
美濃口雅朗 2006 「熊本市古町遺跡出土の陶磁器組成について」『江戸後期における庶民向け陶磁器
生産と流通　九州編』 第16回九州近世陶磁学会資料　九州近世陶磁学会
網田龍生・美濃口雅朗・金田一精・林田和人・岩谷史記 2006 『二本木遺跡群Ⅱ』
二本木遺跡群第13次調査区発掘調査報告書　熊本市教育委員会
熊本市埋蔵文化財調査年報 2006　第８号　平成16年度　熊本市教育委員会
原田範昭 2007 『二本木遺跡群Ⅲ』 二本木遺跡群第26次調査区発掘調査報告書　熊本市教育委員会
松村真紀子 2007 『二本木遺跡群Ⅳ』 二本木遺跡群第27次調査区発掘調査報告書　熊本市教育委員会
熊本市埋蔵文化財調査年報 2007 第９号　平成17年度　熊本市教育委員会
福岡市博物館 2007 『古代の博多鴻臚館とその時代』 鴻臚館跡発掘20周年記念特別展
原田範昭・金田一精 2008 『二本木遺跡群Ⅴ』二本木遺跡群第28次調査区（E～I・K・L・P地点）
発掘調査報告書 熊本市教育委員会
中里伸明 2008 『二本木遺跡群Ⅵ』 二本木遺跡群第30次調査区発掘調査報告書　熊本市教育委員会
吉田麻 2008 『二本木遺跡群Ⅶ』 二本木遺跡群第31次調査区（１区）発掘調査報告書 熊本市教育委員会
西住欣一郎、岡本真也、坂口圭太郎、宮崎敬士、帆足俊文、松村洋史 2008 『二本木遺跡群Ⅱ』
春日地区第１～５・７次調査区発掘調査 熊本文化財報告第243集　熊本県教育委員会
熊本市埋蔵文化財調査年報 2008　第10号 平成18年度　熊本市教育委員会
長谷義隆･岩崎泰頴･豊原富士夫･渡辺一徳･田中均 2008　熊本県地質図（10万分の１）（県北版･県南版･説明書）熊本県地質図編纂委員会
原田範昭・金田一精 2009 『二本木遺跡群Ⅷ』
二本木遺跡群第28次調査区、32次調査区発掘調査報告書　熊本市教育委員会
金田一精・美濃口雅朗 2009 『二本木遺跡群Ⅸ』 二本木遺跡群第34次調査区発掘調査報告書
熊本市教育委員会
岩谷史記 2009 『二本木遺跡群X』 二本木遺跡群第39次調査区発掘調査報告書　熊本市教育委員会
岩谷史記 2009 『二本木遺跡群XⅢ』 二本木遺跡群第43次調査区発掘調査報告書　熊本市教育委員会
岡本真也 2009 『御幸木部遺跡群』 熊本県文化財調査報告第233集　熊本県教育委員会
伊藤郁太郎監修 2009 『中国やきもの入門』 別冊太陽　平凡社
熊本市埋蔵文化財調査年報 2009　第11号　平成19年度　熊本市教育委員会
岩谷史記 2010 『二本木遺跡群XⅡ』 二本木遺跡群第41次調査区発掘調査報告書　熊本市教育委員会
坂田和弘 2011『二本木遺跡群Ⅲ』 春日地区第8次調査区発掘調査　熊本県文化財報告第256集
熊本県教育委員会

原田範昭 2010 『二本木遺跡群ＸⅠ』 二本木遺跡群第32次調査区（B・O地点）第40次調査区（F・G・J・L地点）発掘調査報告書　熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告（5）熊本市教育委員会
岩谷史記 2010 『二本木遺跡群ＸⅡ』 二本木遺跡群第41次調査区発掘調査報告書　熊本市教育委員会
亀田学 2011 『二本木遺跡群４』 春日地区県第12次埋蔵文化財発掘調査　熊本県文化財報告第262集　熊本県教育委員会
熊本市教育委員会 2011 『熊本市埋蔵文化財調査年報第13号 平成21年度 』 熊本市の文化財第１集
原田範昭 2011 『二本木遺跡群ＸⅤ』 二本木遺跡群第40次調査区（E・N地点）第47次調査区（E・F・J地点）発掘調査報告書　熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告（6）　熊本市教育委員会
山下宗親 2011 『二本木遺跡群ＸⅥ』 二本木遺跡群第50次調査区発掘調査報告書 都市計画道路熊本駅南線改良工事にともなう埋蔵文化財発掘調査報告（2） 熊本市教育委員会
美濃口雅朗・山下宗親 2011 『熊本城跡遺跡群　桜馬場地区発掘調査』 熊本市教育委員会

Summary of the *Nihongi* sites

1. Introduction of the site

The *Nihongi* sites (*Kasuga* town, *Kumamoto* city, *Kumamoto* Prefecture) is located on the right side of the natural embankment of the *Shirakawa* river. It is about 8～10 meters above sea level.

In this sights, it was said that there was *Akita* provincial headquarters in the ancient times (from Nara period to Heian period). Because there was the name of *Akita* provincial headquarters in the ancient book, and there were many place names after *Akita* provincial headquarters, for example 「*Kofucyu*」「*Zaicyoyashiki*」.

Until *Heisei* 15th year (AD 2003), the 13th investigation by the board of education of the *Kumamoto* City, was put into effort before construction of broadcasting station of Kumamoto Asahi. And big embedded-pillar buildings of government office from the widdle of the 8th century to the beginning of the 9th century were found, and then the possibility of *Akita* provincial headquarters has been getting higher.

2. Opportunity for investigation

Maintenance enterprise surround the *Kumamoto* station (for extention of roads, digging of irrigation canal, grounds of streetcar, foundation work of pedestrian overpass, maintenance of open space in front of the *Kumamoto* station) were decided to construc as a public enterprise of *Kumamoto* Prefecture.

So we needed to record the statement of the *Nihongi* sites as a report the before the construction under the Law for Protection of Cultural Properties, because the construction would destroy and bury the site permanently. Investigation was carried out between April 2008 and August 2009. An area of the investigation was about three thousand siz square meters of five places.

3. Result of investigation

We could find many archaeological features and artifacts from underground from 1.5meter to 2meter. *Nara* period to *Heian* period.

We found archaeological features from *Nara* period to *Heian* period (pits dwelling, embedded-pillar buildings, pit burials, wells, and ditches), and artifacts (potteries and ceramic wares, roof tiles, iron artifacts, and ceramics from Chinese and Korean Peninsula.)

Main results of this investigation were big embedded-pillar buildings like government office, many inkstones and ornaments of belt used by officials in those days, which were found in this sites, because *Akita* provincial headquarters existed in near distance.

Secondarily, we found archaeological features in *Kamakura* period (embedded-pillar buildings, pit burials, wells, and ditches), and artifacts (potteries and ceramic wares, iron artifacts and ceramics from Chinese.).

Finally, we found potteries and stone tools in Final stage of *Jomon* period, and ditches, wells, potteries, ceramic wares from *Muromati* period to *Edo* period .

あ と が き

新幹線開通に向けて熊本駅周辺の整備が慌しい中、過密な工事スケジュールに従い5箇所の調査区と工事立ち会い区に分かれた二本木遺跡群春日地区第9・10次調査が無事に終了した。

二本木遺跡群は県内でも有数の重要な遺構や遺物が多い遺跡である。白川から運ばれた砂質土が厚く堆積しており古代・中世もそれぞれ数時期にわたっていた。

今回の調査で始めて8世紀末から10世紀中頃に中国の浙江省や福建省で焼かれ、日本に渡ってきた越州系窯青磁を手にすることができた。しかも80点を超える多量である。13年間発掘調査をさせていただいて初めての出来事であった。県内各地の発掘調査において越州系窯青磁が1点でも出土することすら珍しい事なのである。この点だけをとっても如何に二本木遺跡群が重要な場所であったかを示しているといえるだろう。中国産の白磁Ⅰ類、邢窯・定窯系白磁の純白の美しさにも感動した。現代の白磁ではないかと思えるほどの透き通る様な白さであった。

古代、中世、近世期にわたる複数の時期幅に加え、遺構の切り合いも多く、土壙墓や井戸など調査記録に時間を要する遺構が多かったことは調査を難航させた。

何とか調査を終了まで辿り着くことがすることできたのは、35度を越える酷暑の中、フラフラになりながらも一緒に汗を流して下さった発掘作業員さん方のお陰である。

また、報告書作成においては1年にも満たない期間の中で完成できたのは、遺物の分類・整理、鉄器の保存処理などに心血を注いでいただいた一次整理作業員さん方、遺物実測、遺物製図、写真撮影などに関わって下さった二次整理作業員さん方、調査指導の先生方のお陰である。

特に整理嘱託さんと二次整理作業員さん方には短期間での報告書作成において今までにない苦労をおかけしたことを深くお詫びしたい。

工事のために消滅してしまった遺跡を、この報告書の中に記録として残すことができた。

関わっていただいた皆様方に心から感謝致します。

（現場作業員）

森本清子、松下義章、野田政巳、押方富江、笹木　薫、石田恭代、福岡三男、白石美枝子、西村和幸、前田日出男、前田美恵子、白石美智子、尾山隆雄、広瀬　彰、川元恵子、羅　美鳳、辰島正徳、松永和子、田尻敏子、栗崎　強、西山ひとみ、小田須磨子、原田浩子、藤井勇二、田中鳴美、林田恵子、柴田道子、関　律子、松井昭子、村上正行、松永一代、畑中儀介、岡元美子、佐野新子、西村きよ子、松崎艶子、森本喜代子、筒由香里、田上　慶、柴田　亮、田中麻里子、松崎友里、池辺寺遺跡群作業員の皆様

諸氏（順不同・敬称略）

（一次整理作業員）

田中洋子、青山玲子、平岡和子、村田昭恵、近藤広子、江島園子、大塚トシ子、小野美香、
花田美佳　諸氏　㈱九州文化財研究所（水洗、註記、接合は外部委託）　（順不同・敬称略）

（二次整理作業員）

松本裕子、府内博子、宮崎典子、手島裕子、鍋島　望、井島秀子、島川千秋、草野千鶴子
村田百合子、丸山　勉、上田佳奈子、

報　告　書　抄　録

フ　リ　ガ　ナ	ニホンギイセキグン　　ロク
書　　名	二本木遺跡群　6（春日地区第９・10次調査）
副　書　名	熊本駅周辺地域整備事業及び熊本駅帯山線・熊本駅城山線緊急地方整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻　　次	
シ　リ　ー　ズ　名	熊本県文化財調査報告
シ　リ　ー　ズ　番　号	第274号
編　著　者	岡本真也　多賀晴司
編　集　機　関	熊本県教育委員会
所　在　地	〒862－8609　熊本県熊本市水前寺６丁目18番１号
発　行　年	2012年３月23日

フリガナ 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ニホンギイセキグン 二本木遺跡群	クマモトシカスガニチョウメ 熊本市春日２丁目	4320.1	201-265	32度 47分 11秒 ～ 32度 47分 55秒	130度 41分 26秒 ～ 130度 41分 30秒	H.20.４.21 ～ H.21.８.７	3,091㎡	熊本駅周辺地域整備事業及び熊本駅帯山線・熊本駅城山線緊急地方整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特注事項
二本木 遺跡群	包蔵地	縄文時代 後期～晩期	なし	天城式土器、古閑式土器、黒曜石の剥片類	集落跡
		古代 飛鳥時代	なし	須恵器、製塩土器	
		奈良時代 ～平安時代	竪穴住居跡･溝、井戸 掘立柱建物、土壙墓 土坑	須恵器、土師器、布目瓦、越州窯系青磁、白磁、初期高麗青磁、緑釉陶器、摶、硯、石帯、銅製品、灰釉陶器、製塩土器、鉄製品、瓦、砥石、骨類	
		中世	井戸、溝、掘立柱建物 土壙墓、土坑、礎石建物 畑畦	龍泉窯系青磁、同安窯系青磁、景徳鎮窯系磁器 土師器、滑石製品、火鉢、擂り鉢、渡来銭、骨類 常滑窯陶器	
		近世	溝、井戸、土坑	肥前系陶磁器片（椀、皿、湯飲み類） 瓦、古銭（寛永通宝）類	
		近代	石垣、建物基礎	レンガ、ガラス、肥前系陶磁器片類	

（遺跡の概要）

二本木遺跡群は、白川下流右岸の微高地上（標高は約８～10m）に形成された遺跡である。熊本駅周辺地域整備事業に伴い平成20年（2008）４月～21年（2009）８月まで５箇所（面積は約3,000㎡）の発掘調査と工事立ち会いを行った。

その結果、奈良時代から平安時代の初め（８世紀後半～９世紀）を中心として、平安時代終わり（10世紀後半～12世紀前半）や鎌倉時代の初め（12世紀後～13世紀）の集落跡を発見した。

遺構は、竪穴住居跡、溝、井戸、掘立柱建物、土壙墓、土坑、畑畝跡などが検出され、その多くが８世紀後半～９世紀のものであった。熊本市調査の二本木遺跡群13次調査区で発見された官衙建物群が存在した同時期の集落跡と考えられる。また、９世紀代の大型掘立柱建物（市電調査区：S033）は官衙関連施設の可能性も考えられる。

遺物は網コンテナ大【（62×46×19）㎝】に193箱分出土した。須恵器、土師器、布目瓦、越州窯系青磁、白磁、初期高麗青磁、緑釉陶器、摶、硯、石帯、銅製品、製塩土器、鉄製品、瓦、砥石、骨類龍泉窯系青磁、同安窯系青磁、景徳鎮窯系青磁、土師器、滑石製品、火鉢、擂り鉢、渡来銭が確認された。全体的に奈良時代から平安時代までの遺物を中心に鎌倉時代の遺物が混じる状況である。特筆すべきは①役人の道具である硯や石帯が多数出土、②越州窯系青磁が多数出土、③初期高麗青磁が５点と初期高麗青磁鉄絵が１点確認されたことである。①は役人がいた官衙周辺の発掘調査であること、②③は古代から中世にかけて二本木遺跡群が九州あるいは肥後国内で特別な地域であったことの証拠であるといえよう。

熊本県文化財調査報告　第274集

二本木遺跡群(春日地区第９・10次調査)

発行年月日　平成24年３月23日

編　集
発　行　熊本県教育委員会
〒862－8609　熊本市水前寺６丁目18番１号

印　刷　白木メディア株式会社
〒862－0976　熊本市九品寺５丁目９番35号
TEL 096－362－1255

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 274 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 二本木遺跡群（春日地区第 9・10 次調査）
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日